

SHIMOKAWADASHIMOHARA

# 下川田下原遺跡

SHIMOKAWADA HIRAI

# 下川田平井遺跡

一般国道17号(沼田バイパス)改築工事  
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

1993

建設省  
群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



SHIMOKAWADASHIMOHARA

# 下川田下原遺跡

SHIMOKAWADA HIRAI

# 下川田平井遺跡

一般国道17号(沼田バイパス)改築工事  
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

1993

建設省  
群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 序

沼田バイパスは、沼田市内の交通混雑と沿道環境の改善を図るために昭和59年度に事業化された一般国道17号のバイパスです。沼田市下川田町の新鷲石橋南づめを起点とし、終点を月夜野町政所の月夜野バイパスとする4.3kmのバイパスです。

用地取得が進んだ利根川右岸の沼田市下川田町から、埋蔵文化財発掘調査が平成元年度より始まりました。発掘調査は、下川田町に所在する下川田下原遺跡、下川田平井遺跡の2遺跡が対象となり、平成元年度、平成2年度の2年間行いました。発掘調査終了後、平成3年度より調査報告書刊行のための整理作業を始めましたが、本年度、下川田下原遺跡、下川田平井遺跡の2遺跡の整理が完了し、その調査成果がまとまりましたので、ここに調査報告書を刊行することにしました。

本報告書には、利根沼田地方では始めて発見調査された古墳時代後期、平安時代の水田跡の他に、弥生時代後期、平安時代の住居跡等の貴重な遺構、遺物が報告されています。

発掘調査から報告書作成に至るまで、建設省関東地方建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会、沼田市教育委員会、地元関係者の方々から種々、ご指導、ご協力を賜りました。今回、報告書を上梓するに際し、これら関係者の皆様に衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が群馬県の歴史を解明する上で、広く活用されることを願い序とします。

平成5年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長

小寺弘之



# 例 言

1. 本書は、一般国道17号(沼田バイパス)改築工事に伴う事前調査である。

2. 遺跡所在地

下川田下原遺跡 沼田市下川田町字下原694-1、695、699、700、701、706、714、715、716、716-1他

下川田平井遺跡 沼田市下川田町字平井950-1、952、953、955-1・2、992、993、994、995、996、  
998、999、1002、1003、1005、1007-1、1009-1、1010-1、  
1010-3~5、1030、1031-1他

字五反田831、832、833、835-1、836、863、864他

3. 事業主体 建設省関東建設局高崎工事事務所

4. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 調査期間及び担当者

(1)発掘調査

下川田下原遺跡 調査期間 1988(昭和63)年7月1日~1989(平成元)年3月31日

担当課長 桜場一寿

調査担当者 飯島義雄、石北直樹、神谷佳明

下川田平井遺跡 調査期間 1989(平成元)年4月1日~1989(平成元)年12月12日

担当課長 桜場一寿

調査担当者 飯島義雄、石北直樹、神谷佳明、樋口伸男

(2)整理 整理期間 1991(平成3)年4月1日~1993(平成5)年3月31日

担当課長 能登 健

調査担当者 神谷佳明

(3)事務 常務理事 白石保三郎、邊見長雄 事務局長 松本浩一、近藤 功

管理部長 田口紀雄、佐藤 勉 調査研究部長 上原啓巳、神保脩史

庶務課 住谷 進、岩丸大作、斉藤俊一、国定 均、笠原秀樹、小林昌嗣、須田朋子、  
吉田有光、柳岡良宏、船津 茂、高橋定義

松下 登、野島のぶ江、並木綾子、今井もと子、角田みづほ、松井美智代、塩浦はるみ

6. 報告書作成関係者

編 集 神谷佳明

本文執筆 第3章1 久保誠二、第4章6(1)、第5章7(1) 原 雅信

第4章6(2)、第5章7(3) 麻生敏隆、第5章4(6) 坂口 一

第6章1 石守 晃、第7章1、2 宮崎重雄、第7章3~5 パレオ・ラボ

上記以外 神谷佳明

遺物観察表 縄文土器 原 雅信、石器 麻生敏隆、前記以外 神谷佳明

遺構写真撮影 発掘調査担当者、(空撮)有限会社 青高館

遺物写真撮影 佐藤元彦

整理補助	佐藤美代子、吉田文子、六反田達子、原島弘子、茂木範子、嶋崎しづ子 木暮芳枝、角田孝子、小菅優子、本多琴恵
機械実測	長沼久美子、佐藤美代子、尾田正子、高梨房江、千代谷和子
木器	鈴木加津枝、高橋真樹子、五十嵐由美子、小池 緑
保存処理	関 邦一、北爪健二、小材浩一
分析・委託	人骨、馬骨鑑定 群馬県立大間々高等学校教諭 宮崎重雄 石材鑑定 群馬県地質研究会 飯島静男 樹種、種子、プラント・オパール 株式会社 パレオ・ラボ 遺構図測量 トレース 株式会社 測研

- 出土遺物、図面は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。なお、下川田下原遺跡の出土遺物にはNB-1、下川田平井遺跡五反田地区出土遺物にはNB-2、下川田平井遺跡平井地区出土遺物にはNB-3の略号を記入してある。
- 発掘調査、報告書作成にあつたては、下記の諸機関、諸氏より貴重なご教示、ご指導をいただいた。記して謝意を表するしだいです。(敬称省略、順不同)  
沼田市教育委員会、月夜野町教育委員会、昭和村教育委員会、赤城村教育委員会、子持村教育委員会、久保誠二、宮崎重雄、寒川 旭、金山嘉昭、水田 稔、都丸 肇、小池雅典、宮下昌文、三宅敦気、石井克巳、地元関係者、当事業団職員諸氏
- 発掘調査にあつては、地元沼田市をはじめとし、昭和村、月夜野町、川場村、赤城村、渋川市等から多くの方々が作業に従事していただいた。ここにあらためて感謝の意を表します。

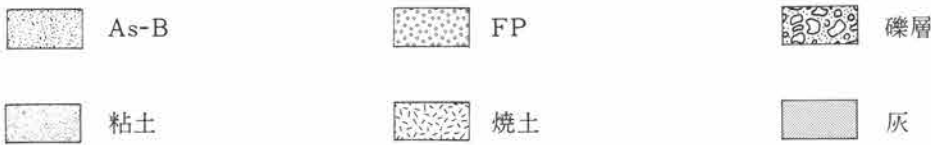


# 凡 例

1. 挿図中に使用した方位は、座標北を表している。
2. 遺構図については、下記の縮尺で掲載したが、一部縮尺の異なるものがあるので各挿図中にスケールを貼付してあるので参照されたい。

住居跡	1 : 60	住居跡のカマド、炉	1 : 30
掘立柱建物跡	1 : 80	柵列	1 : 100
土坑	1 : 40	堀、溝	1 : 100

3. 遺構図中のスクリーントーンは、下記のとおりである。



4. 遺物図は、基本的には1 : 3の縮尺で掲載したが、小型遺物は1 : 1、1 : 2、大型遺物は1 : 4、1 : 6の縮尺で掲載し1 : 3以外の縮尺についてはそのつど明記してある。
5. 遺物図中のスクリーントーンは、下記のとおりである。



6. 遺物写真は、遺物図とほぼ同じ縮尺で掲載してある。
7. 本書で使用した地形図は下記のとおりである。  
国土地理院 1 : 25,000 「沼田」、1 : 50,000 「沼田」・「追貝」  
1 : 200,000 「宇都宮」・「日光」・「長野」・「高田」  
沼田市都市計画図 1 : 2,500 「No. 8」、沼田市現況平面図 1 : 2,500 「川田地区No. 2」
8. 遺構の面積については、デジタルプランイメーターで3回計測した平均値を採用した。
9. 水田跡小区画の長軸、短軸はアゼ幅の中間からの距離である。なお、水田跡での計測については、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「同道遺跡」1983、「日高遺跡」1982等を参考にした。
10. 遺物観察表(土器)の法量は、①が口径、②が底径、③が高台径、④が器高で単位はcmである。  
遺物観察表(石器)の規模①~③の単位はcmで、④重量の単位は断りのない限りgである。
11. 遺物観察表(土器)の色調は、農林省農林水産技術会議監修、財団法人 日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帳」に拠った。

# 目 次

序  
例 言  
凡 例

## 目 次

本文・挿図・図版・表対照表

### 第1章 発掘調査の経過

1. 調査に至る経緯 ..... 3
2. 調査の経過 ..... 4  
調査日誌抄録

### 第2章 調査の方法

1. 調査の方法 ..... 6
2. 調査区の設定 ..... 7
3. 基本層序 ..... 8

### 第3章 立地と環境

1. 遺跡周辺の地形・地質 ..... 11
2. 周辺の遺跡 ..... 18

### 第4章 下川田下原遺跡の遺構・遺物 ..... 26

1. 掘立柱建物跡 ..... 27
2. 柵 列 ..... 27
3. 堀 ..... 28
4. 墓坑 ..... 35
5. 土坑 ..... 36
6. 遺構外出土遺物 ..... 53
  - (1) 縄文土器 ..... 53
  - (2) 石 器 ..... 59

### 第5章 下川田平井遺跡の遺構・遺物 ..... 72

1. 竪穴住居跡 ..... 73
  - (1) 弥生時代 ..... 73
  - (2) 古墳時代 ..... 147
  - (3) 平安時代 ..... 153
2. 土坑 ..... 193
3. 陥没・地割れ跡 ..... 200
4. 溝 ..... 207
5. 水田跡 ..... 210
  - (1) 水田跡の概要 ..... 210
  - (2) 水田域の試掘調査 ..... 210
  - (3) As-B層下水田跡 ..... 215
  - (4) IVa層下水田跡 ..... 228
  - (5) FP層下水田跡 ..... 230
  - (6) 水田面積の統計的検討 ..... 247
6. 石垣跡 ..... 263
7. 遺構外出土の遺物 ..... 264
  - (1) 縄文土器 ..... 264
  - (2) 弥生土器他 ..... 269
  - (3) 石 器 ..... 271

### 第6章 成果と問題点

1. 下川田下原遺跡の城郭跡について ..... 281
2. 下川田平井遺跡の集落跡について ..... 287
3. 下川田平井遺跡水田跡について ..... 290

### 第7章 鑑定・分析

1. 下川田下原遺跡出土の人骨 ..... 293
2. 下川田下原遺跡出土の馬骨 ..... 295
3. 下川田平井遺跡出土材の樹種同定 ..... 299
4. 下川田平井遺跡出土  
炭化材樹種同定 ..... 301
5. 下川田平井遺跡より  
出土した種実類 ..... 304
6. 下川田平井遺跡水田跡  
プラント・オパール分析 ..... 305

本文・挿図・図版・表・対照表

名 称	本		文		観察表	写 真 図 版	
	総合頁(頁)	遺構挿図(番号)	遺物挿図(番号)	表(番号)	頁	遺構(P.L)	遺物(P.L)
調査に至る経緯	3	1					
調査の経過	4～5	2					
調査の方法	6						
調査区の設定	7	3					
基本層序	8～9	4					
遺跡周辺の地形	11～17	6～7		1			
周辺遺跡	18～24	8～9		2			
下川田下原遺跡概要	26	10、付図1				1～3	
1号掘立柱建物跡	27	11				4	
1号・2号櫓列	27～28	12				5	
1号～3号堀	28～34	13～16	16		1	6～8	19
墓坑(39号土坑)	35	17	17		1	9	19
土坑	36～52	18～23、25～34	22～24、32	3	1～2	9～17	19
遺構外出土縄文土器	53～58	35	36～39			18	20～21
遺構外出土石器	59～70		40～50		2～5		22～28
下川田平井遺跡概要	72	51、付図2				29～30(全景)	
1号住居跡(弥生時代)	73～76	52	53～55		6～7	31	103
2号住居跡(弥生時代)	76～80	56～57	58～59		7～8	32	104
3号住居跡(平安時代)	153～157	139～140	141～143		44～45	52～53	129～130
4号住居跡(平安時代)	158～161	144～145	146～148		46～47	54	130～131
5号住居跡(平安時代)	162～163	149	150		47	55	131
6号住居跡(平安時代)	163～165	151～152	153		47～48	56	131
7号住居跡(弥生時代)	80～81	60				33	
8号住居跡(平安時代)	166～169	154～155	156～157		48～49	57	131～132
9号住居跡(平安時代)	170	158	159		49	58	132
10号住居跡(弥生時代)	82～88	61～63	64～67		8～12	34～35	105～107
11号住居跡(弥生時代)	89～99	68～70	71～78		13～19	36～37	107～110
12号住居跡(弥生時代)	99～111	79～81	82～90		19～26	38～39	110～116
13号住居跡(平安時代)	171～175	160～161	162～164		49～52	58～59	132～133
14号住居跡(平安時代)	176～178	165～166	167		52	60	134
15号住居跡(平安時代)	178～183	168～169	170～172		52～54	61	134～135
16号住居跡(平安時代)	183～186	173～174	175		65～55	62	135
17号住居跡(弥生時代)	112	91	92		26	36～37	117
18号住居跡(平安時代)	186～187	176	177		55	63	135
19号住居跡(平安時代)	188～190	178	179～180		55～56	64	136
22号住居跡(古墳時代)	147～150	131～132	133～134		42～43	48～49	126～127
23号住居跡(弥生時代)	113～117	93～94	95～97		27～29	40	117～118
24号住居跡(弥生時代)	117～125	98～100	101～106		29～33	41	118～121
25号住居跡(弥生時代)	126～136	107～110	111～117		33～38	42～43	121～124
26号住居跡(弥生時代)	136～140	118	119～121		38～40	44	125
27号住居跡(弥生時代)	140～141	122	123		40	45	126
28号住居跡(弥生時代)	141～143	124～125	126		41	45	126
29号住居跡(弥生時代)	144～145	127	128		41～42	46	126
31号住居跡(弥生時代)	145～146	129	130		42	47	126
32号住居跡(古墳時代)	150～152	135～136	137～138		43	50～51	127～129
33号住居跡(平安時代)	190～192	181	182		56～57	65	136
土坑	193～198	183～186	183～185、187		57～58	66～67	137
五反田1号集石	194～198	188	188		58		137
1号列石	194～199	189	189		58～59		137
陥没跡・地割れ跡	200～206	190～192、194	191、193、195、196		59～61	68	137～139
溝	207～209	197～198	198		62	69	139
水田跡概要	210					70(調査前)	
水田跡試掘調査	211～214	199～202				70	
As-B層下水田跡	215、222	203、209				71～72、78	
五反田地区	215～222	204～208	208	4	62	73～77	139
平井地区1区	222～224	210	210	5	62	79	139
平井地区3区・4区	225～227	211～213	212、214	6	63	80～82	139
IVa層下水田跡	228～229	215～216		7		83～85	

名 称	本 文				観察表 頁	写 真 図 版	
	総合頁(頁)	遺構挿図(番号)	遺物挿図(番号)	表(番号)		遺構(P.L)	遺物(P.L)
FP層下水田跡	230	217				86	
五反田地区	230～239	218～221、223～226	222	8	63	86～93	
平井地区1区	239～242	227～228	228	9	63	94～95	
平井地区2区～4区	240～246	229～233	232～234	10	63～64	96～101	139
水田の面積について	247～248	235～242					
石垣跡	263	243～244				102	
五反田地区遺構外縄文土器	264～265		245				140
平井地区遺構外縄文土器	264、266～268		246～248				140
平井地区遺構外弥生土器他	269～270		249～250		64～67		141
平井地区遺構外鉄器	271		251		67		141
五反田地区遺構外石器	264～265 271～274		252～255		67～68		142～143
平井地区遺構外石器	264～265 274～280		256～263		68～71		144～146
成果と問題点							
下川田下原遺跡の城郭跡	281～286	264～268、付図4					
下川田平井遺跡の集落跡	287～289	269～271					
下川田平井遺跡の水田跡	290～292	272					
分析・鑑定							
下川田下原遺跡の人骨	293～294	273		11			
下川田下原遺跡の馬骨	295～297			12			147～150
下川田平井遺跡出土材同定	298～299			13			151～153
下川田平井遺跡炭化材同定	300～302			14			154～156
下川田平井遺跡種実類	304						156
プラント・オーバー分析	304～309			15・16			157～158

付図1 下川田下原遺跡全体図

付図2 下川田平井遺跡As-B層下水田跡全体図

付図3 下川田平井遺跡全体図(FP層下水田跡)

付図4 下川田下原遺跡城郭跡及び周辺現況図

下川田下原遺跡  
下川田平井遺跡

(本 文)



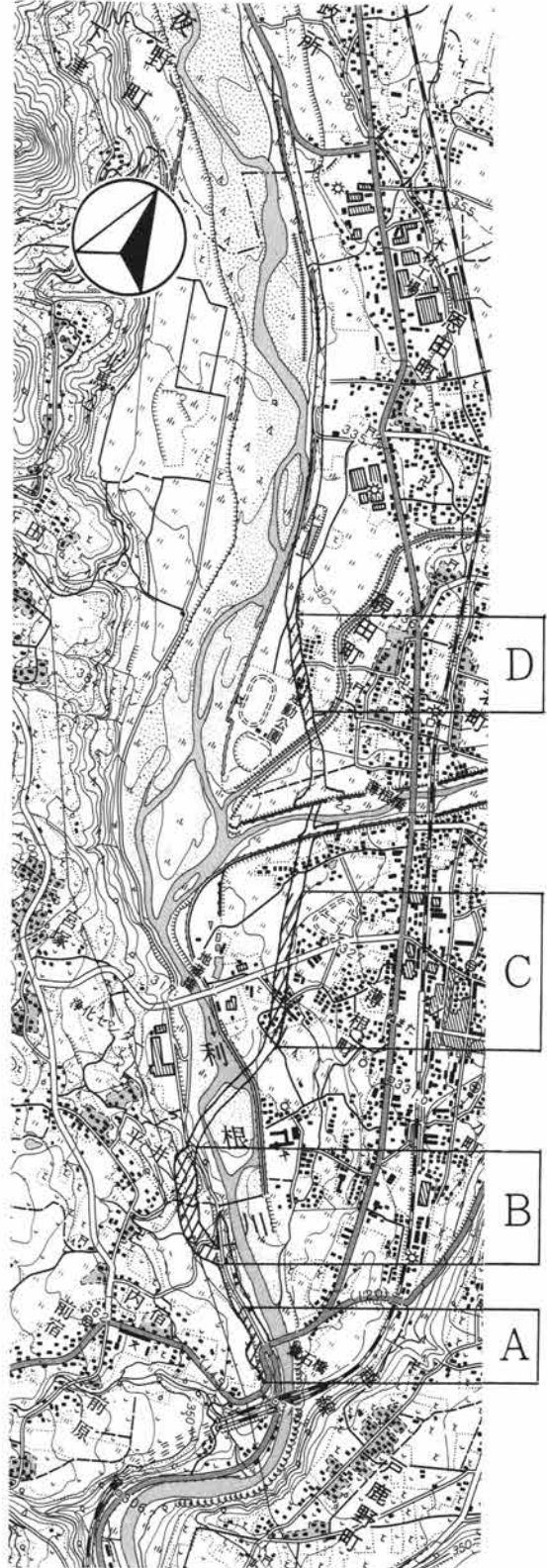
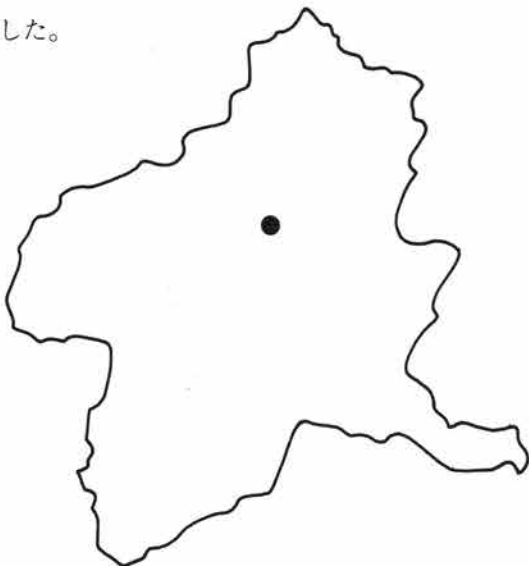
# 第1章 調査の経過

## 1. 調査に至る経緯

国道17号線は、群馬県沼田市内の交通渋滞緩和と沿道環境の改善を図るため、起点の群馬県沼田市下川田町の鷲石橋南づめから終点の群馬県月夜野町政所の月夜野バイパスとの接続部までの4.3km間で計画された。

この計画を受けて群馬県教育委員会文化財保護課では、計画路線対象地域の現地の埋蔵文化財分布調査を実施した。路線対象地域は、沼田市下川田町下原、下川田町平井、薄根町薄根・塚田、硯田町四釜甲の4カ所で遺物の散布が認められ埋蔵文化財の存在の可能性が示され、発掘調査による記録保存の処置を行う必要性が指摘された。

発掘調査は、財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団によって1988(昭和63)年より実施されることになった。実施にあたっては、A地点(下川田下原遺跡)を1988(昭和63)年度より行い、B地点(下川田平井遺跡)を次年度の1989(平成元)年に行い、C地点(薄根町薄根・塚田地区)とD地点(硯田四釜甲地区)については用地の買収が終了した後に試掘を実施して遺構の有無を確認した後に発掘調査に着手することとした。



第1図 国道17号沼田バイパス路線図(1:25,000)

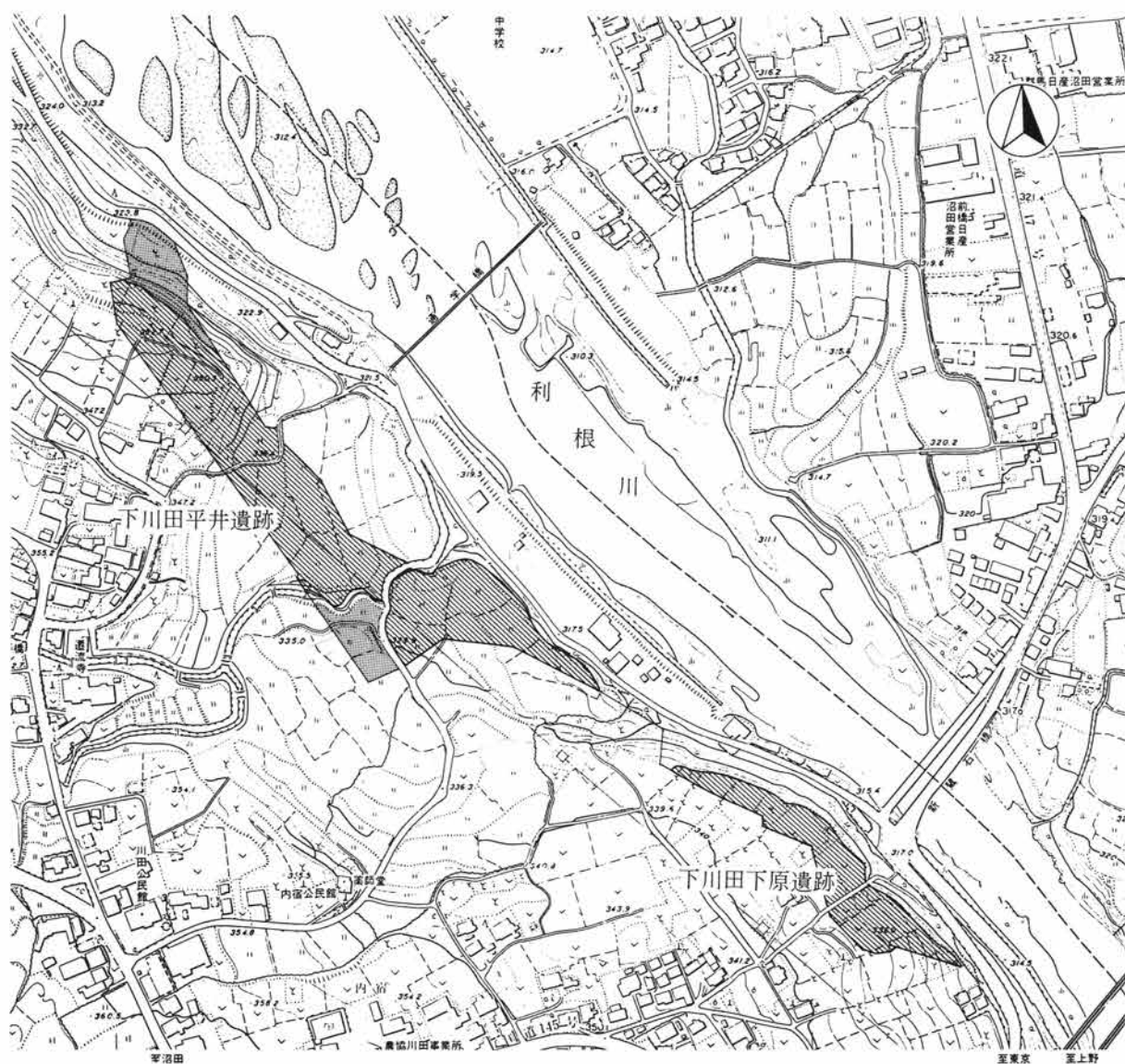
## 2. 調査の経過

下川田下原遺跡の発掘調査については、調査日誌抄録のように1988(昭和63)年7月より12月までの6カ月間で調査対象面積5,840㎡を実施した。そして下川田下原遺跡のA区埋戻しとB区の表土掘削を行っている9月中旬から10月下旬にかけて次年度に発掘調査予定の下川田平井遺跡の試掘調査を実施し、発掘調査の範囲を確定した。

下川田平井遺跡の発掘調査は、1989(平成元)年4月より12月までの8カ月間で一部未買収地200㎡を

残して19,310㎡について実施した。そして12月上旬に次年度発掘調査予定の仮称E遺跡(沼田市硯田町四釜甲)の試掘調査を実施したが、当地域では土師器、中世陶器の破片は採取できたものの遺構の確認はおこなえず、遺跡地としては認定でなかった。なお、未買収地については、1992(平成4)年7月下旬に実施した。

整理作業については、1991(平成3)年4月より、2カ年の計画で実施した。



第2図 下川田下原遺跡・下川田平井遺跡調査範囲図(1:5,000)



## 日誌抄録

## 下川田下原遺跡

1988年

- 6 発掘調査作業員募集の説明会を行う。
  - 7 発掘調査事務所の設置、調査準備。
  - 7.11 発掘調査器材搬入
  - 7.14 遺構確認面確認の試掘調査を行う。
  - 7.18 A区表土掘削開始(9.29まで)  
平行して遺構検出、1号堀掘削作業を行う。
  - 8.8 遺構掘削作業
  - 8.26 遺構平面測量
  - 9.12 県立沼田高等学校久保誠二教諭に地形・地質についてご教授を受ける。
  - 9.13 アドバルーンによる航空撮影
  - 9.14 下川田平井遺跡1区～8区試掘調査開始
  - 9.29 A区調査終了
  - 9.30 A区埋め戻し
  - 10.11 B区表土掘削開始
  - 10.24 下川田平井遺跡1区～8区試掘調査終了
  - 10.27 遺構掘削開始
  - 11.11 県立大間々高等学校宮崎重雄教諭に出土馬骨についてご教授を受ける
  - 11.17 B区アドバルーンによる航空撮影
  - 11.21 B区調査と平行して下川田平井遺跡五反田地区の試掘調査を開始
  - 12.19 下川田平井遺跡五反田地区試掘調査終了
  - 12.26 下川田下原遺跡発掘調査終了
- 1989年
- 1月～3月 下川田平井遺跡試掘調査報告書作成  
下川田下原遺跡基礎整理

## 下川田平井遺跡

1989年

- 4.5 本年度の調査開始
- 4.12 五反田地区表土掘削開始  
表土掘削と平行して浅間B軽石(As-B)層下水田跡検出作業開始
- 4.17 As-B層下水田跡より牛蹄跡検出
- 4.28 発掘調査事務所を移転
- 5.6 平井地区6区表土掘削開始
- 5.16 五反田地区As-B層下水田跡の全景をアドバルーンによる航空撮影
- 5.17 五反田地区As-B層下水田跡測量  
平井地区6区遺構検出
- 5.25 五反田地区As-B層下水田跡調査終了  
五反田地区IVa層掘削
- 5.29 平井地区4区表土掘削
- 6.1 五反田地区IVa層下水田跡検出作業開始  
平井地区7区表土掘削
- 6.3 五反田地区IVa層下水田跡全景写真撮影
- 6.5 五反田地区IVa層下水田跡測量開始
- 6.6 平井地区7区遺構検出開始
- 6.7 五反田地区IVa層下水田跡調査終了
- 6.13 五反田地区IV層掘削(FP層まで)
- 6.30 五反田地区FP層下水田跡検出開始
- 7.18 平井地区4区As-B層下水田跡検出開始
- 8.2 平井地区1～3区表土掘削
- 8.4 五反田地区FP層下水田跡の全景をアドバルーンによる航空撮影
- 8.8 五反田地区FP層・平井地区As-B層下水田跡測量開始

- 8.9 平井地区7区遺構掘削開始
- 8.12 平井地区As-B層下水田跡調査終了
- 8.25 五反田地区FP層下水田跡調査終了
- 9.9～10 遺跡現地説明会(約700名参加)
- 9.20 平井地区1区～3区As-B層下水田跡調査開始
- 10.2 五反田地区水田跡下層試掘調査
- 10.12 五反田地区調査終了
- 10.18 平井地区1区～4区As-B層下水田跡、7区の全景をアドバルーンによる航空撮影  
4区FP層下水田跡調査開始
- 10.23 2区FP層下水田跡調査開始
- 10.31 1区FP層下水田跡調査開始
- 11.4 7区遺構調査終了
- 11.15 7区ローム層下試掘調査
- 11.18 1区～4区FP層下水田跡の全景をアドバルーンによる航空撮影
- 11.20 1区～4区水田跡下試掘調査
- 11.21 5区調査開始
- 11.22 発掘調査終了  
通商産業省工業技術院近畿・中部地域地質センター 寒川旭主任研究員来跡
- 11.24 出土遺物の洗浄・注記、図面点検作業
- 11.30 硯田四釜甲地区試掘調査開始
- 12.8 出土遺物の洗浄・注記、図面点検作業終了  
硯田四釜甲地区試掘調査終了
- 12.12 遺物・図面、器材撤収

1992年

- 7.22～29 前回未買収地の発掘調査を行う。  
平安時代の竪穴住居跡1軒を調査

## 整理作業

1991年

- 4月 図面点検、遺物点検を行ない整理作業の準備を行なう  
住居跡出土遺物より接合を開始
- 6月 接合遺物の復元開始  
一部遺構図の修正作業開始
- 8月 遺物(土器)実測準備
- 9月 遺物(土器)実測  
県立大間々高等学校教諭宮崎重雄氏に出土馬骨鑑定を依頼
- 10月 遺物(土器)機械実測
- 11月 遺構図トレース委託
- 12月 機械実測図修正

1992年

- 1月 出土材、炭化材樹種同定委託
- 2月 遺物写真撮影
- 3月 遺物(土器)拓影図作成  
群馬県地質研究会飯島静男氏に出土石器の石材鑑定を依頼
- 4月 遺物(石器)実測
- 5月 県立大間々高等学校教諭宮崎重雄氏に出土人骨鑑定を依頼
- 6月 遺物図トレース
- 9月 版下作成準備
- 10月 版下作成
- 12月 印刷製本入札

## 第2章 調査の方法

### 1. 調査の方法

#### (1) 下川田下原遺跡

発掘調査にあたっては、排出土の置き場が確保できないため調査範囲を東西で二分するように通る市道を境に分割して南側調査区より行うことにした。

#### A区（市道南側調査区）

1. 遺構確認面の把握のための試掘坑調査。
2. 掘削機（バックホー）による表土、黒褐色土の掘削を行うが $\phi 0.5\sim 2$  mの転石が多く難行する。
3. 遺構確認作業、土坑、掘立柱建物跡、溝跡を検出。
4. 埋没土層堆積状況の観察用ベルトを残して遺構を掘削。  
1号堀は、幅5 m、深さ3～4 mと規模が大きく $\phi 0.5\sim 1$  mの礫が多量に含まれているため掘削機で4分の3程掘削を行う。
5. 遺構平面の測量にあたっては調査区全体を $10\times 6$  mの測量区画に分割して20分の1で行った。但し、1号堀に関しては高低差があるため測量会社（株式会社 測研）に委託して40分の1で行った。
6. 記録写真の撮影には、基本的に $6\times 7\cdot 35$ mmの白黒、35mmのリバーサルで行い、全体写真の撮影には気球、高所作業車にて行った。
7. 遺構確認面下に旧石器等の存在の有無を確認するため試掘調査を行う。

#### B区（市道北側調査区）

1. 掘削機（バックホー）による表土、黒褐色土の掘削を行うが $\phi 0.5\sim 2$  mの転石が多く難行する。北側調査区のはほぼ中央に1号堀と平行する堀（3号堀）の存在が現地地形からも想定されるため先行して調査を行う。

2～5. 調査方法は、A区と同様である。

6. BF～BP-30～40グリッドでは、縄文土器の出土が多いため包含層の調査を行う。
7. 遺構確認面下に旧石器等の存在の有無を確認するため試掘調査を行う。

#### (2) 下川田平井遺跡

下川田平井遺跡の発掘調査にあたっては、当初遺跡地と認定した範囲での遺構量把握と下川田下原遺跡と下川田平井遺跡の間の低地部分に水田跡が存在する可能性が見られるため下川田下原遺跡の発掘調査と平行して試掘調査を行った。

試掘調査の結果、五反田地区と平井地区の低地部分から浅間B軽石(A<sub>s</sub>-B)と榛名山二ツ岳軽石(FP)によって埋没した水田跡が確認された。また、平井地区の河岸段丘上からは、弥生時代から平安時代にかけての竪穴住居跡の存在が確認された。

1. 発掘調査は、五反田地区、平井地区6区・7区、平井地区1～4区、平井地区5区の順で行った。
2. 水田跡の発掘調査は、水田跡埋没層上面までを掘削機で行い埋没層を人力で掘削し、水田面・アゼの検出をした。
3. 水田跡の測量にあたっては、全体を $10\times 7$  mの測量区画に分割し40分の1の縮尺で5 cm間隔に等高線を入れた。なお、測量は、測量会社（株式会社 測研）に委託した。また、必要に応じて10分の1、20分の1の詳細図の測量を行った。
4. 各遺構の測量は、20分の1で行い、竈等必要に応じて10分の1の詳細図の測量を行った。全体図は100分の1で測量した。
5. 記録写真の撮影については、下川田下原遺跡と同様である。
6. 各遺構の調査終了後、遺構確認面下に旧石器等の有無を確認するため試掘調査を行った。

1. 調査の方法 2. 調査区の設定

2. 調査区の設定

下川田下原遺跡・下川田平井遺跡の調査区の設定は、下記によって行った。

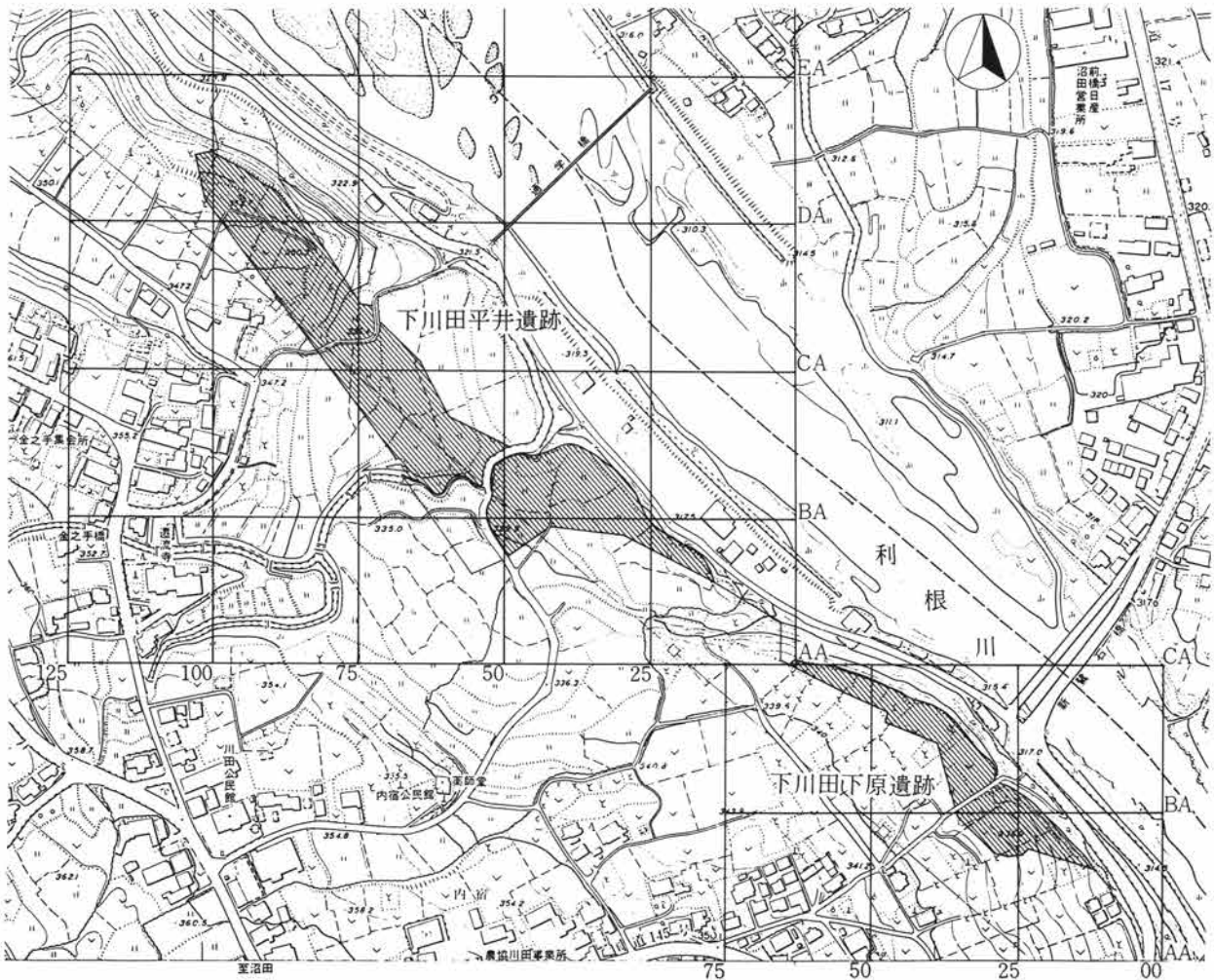
1. 調査区の設定には、群馬県を網羅している国家座標第IX系を利用して行き、グリッドがのちに国家座標と置き換えられるように設定した。
2. 調査区の最小単位は、4メートル四方とし、その設定は国家座標第IX系と同様に座標軸の第2象限にあてはめ西方向をX軸（国家座標Y軸）、北方向をY軸（国家座標X軸）とする。
3. グリッドの呼称は、基準となる点をAA-00と称し、アルファベットはY軸方向に4 m進むごとに

とにAB、AC、AD、AE、AF、92mでAX、96mでAYと後ろのアルファベットを変化させ、100mでBA、200mでCA、300mでDAと100m単位で前のアルファベットを変化させる。また、X軸方向に4 m進むごとに数字を01、02、03と無限大に変化させていき、アルファベットと数字の組み合わせにより各グリッドを呼称する。

4. 下川田下原遺跡の基準点は、国家座標第IX系（第IX系の原点は北緯36°、東経139°50'） $X = 69,900$   $Y = -70,850$ である。

下川田平井遺跡の基準点は、 $X = 70,100$ 、 $Y = -71,100$ である。

5. 方眼杭の設定は、株式会社 測研に委託した。



第3図 調査区設定図(1:5,000)

### 3. 基本層序

下川田下原遺跡、下川田平井遺跡の基本土層は、第4図の地質柱状図のとおり段丘上と河川による開析谷の部分からなり、それぞれ多少の相違がみられる。基盤層については、後述の「遺跡周辺の地形・地質」に詳しく記載されているので参照にしていたきたい。ここでは、遺構確認面までの表土部分についての記載である。

#### 下川田下原遺跡

遺跡地は、利根川の右岸河岸段丘上の緩斜面に立地し、現地表面から遺構確認面までは、20～50cmで段丘端部になるにしたがい表土の堆積が浅い。表土は、上層よりⅠの浅間B軽石(以下As-Bと略す)、榛名山二ツ岳軽石(以下FPと略す)を若干含む暗褐色土(現耕作土)が10～20cm、ⅡのAs-Bを30%以上含む黒色土を5～10cm、ⅢのFPを20～30%含む暗褐色土が10～20cm堆積しており、その下層が遺構確認面であるⅣの暗黄褐色土のローム漸移層でⅤの水性堆積ローム層、Ⅵの礫層からなる。

#### 下川田平井遺跡

谷地部分は、現地表面であるⅠの水田耕作土、ⅡのAs-Bを20%ほど含む灰褐色土、ⅢのAs-B純堆積、ⅣのAs-B層下水田跡耕作土である黒褐色土、ⅤのFPの純堆積、ⅥのFP層下水田跡耕作土、Ⅶの水性堆積ローム層、Ⅷの礫層からなる。

なお、五反田地区では、Ⅳ層の中が2層に分層でき上層は河川の氾濫で堆積したもので氾濫前までの水田跡を埋没させている。

段丘上は、下川田下原遺跡とはほぼ同様に現地表面から遺構確認面までは、20～50cmで上層よりⅠのAs-BとFPを若干含む暗褐色土(現耕作土)が10～20cm、ⅡのAs-Bを30%以上含む黒色土を5～10cm、ⅢのFPを20～30%含む暗褐色土が10～20cm堆積しており、その下層が遺構確認面であるⅣローム漸移層、Ⅴの水性堆積ローム層、Ⅵの礫層からなる。

段丘上の東崖際では、礫層より上部の堆積が少な

く場所によっては現地表面より20cmほどでローム層や礫に達してしまう部分がみられ、竪穴住居跡の確認面から床面まで10cmや2～3cmと非常に浅いものがみられ、表土が崖下に流出したと想定される。また、南側の緩斜面では、ローム層の上部に含有物がほとんどみられない黒色土が40～60cmほど堆積しており、その上にFPを多く含む黒褐色土が堆積し、竪穴住居跡などの若干窪んだところではAs-Bの5cm程度の純堆積がみられる。

段丘北側の崖下では、段丘上より崩落したと思われる土砂が厚く堆積しており、φ0.5～2mの礫が多く礫層までの掘削はできなかった。また、As-Bは、部分的ではあるが20cmほどの厚さで堆積しており、FPは35～70cmと厚く堆積している。

#### テフラ

下川田下原遺跡、下川田平井遺跡では、浅間B軽石(As-B)と榛名山二ツ岳軽石(FP)のテフラが確認されている。

As-Bは、浅間山が1108(天仁元)年に噴火した際の噴出した軽石で県内広く分布しており、県内各地でこの軽石で覆われた水田跡が検出されている。

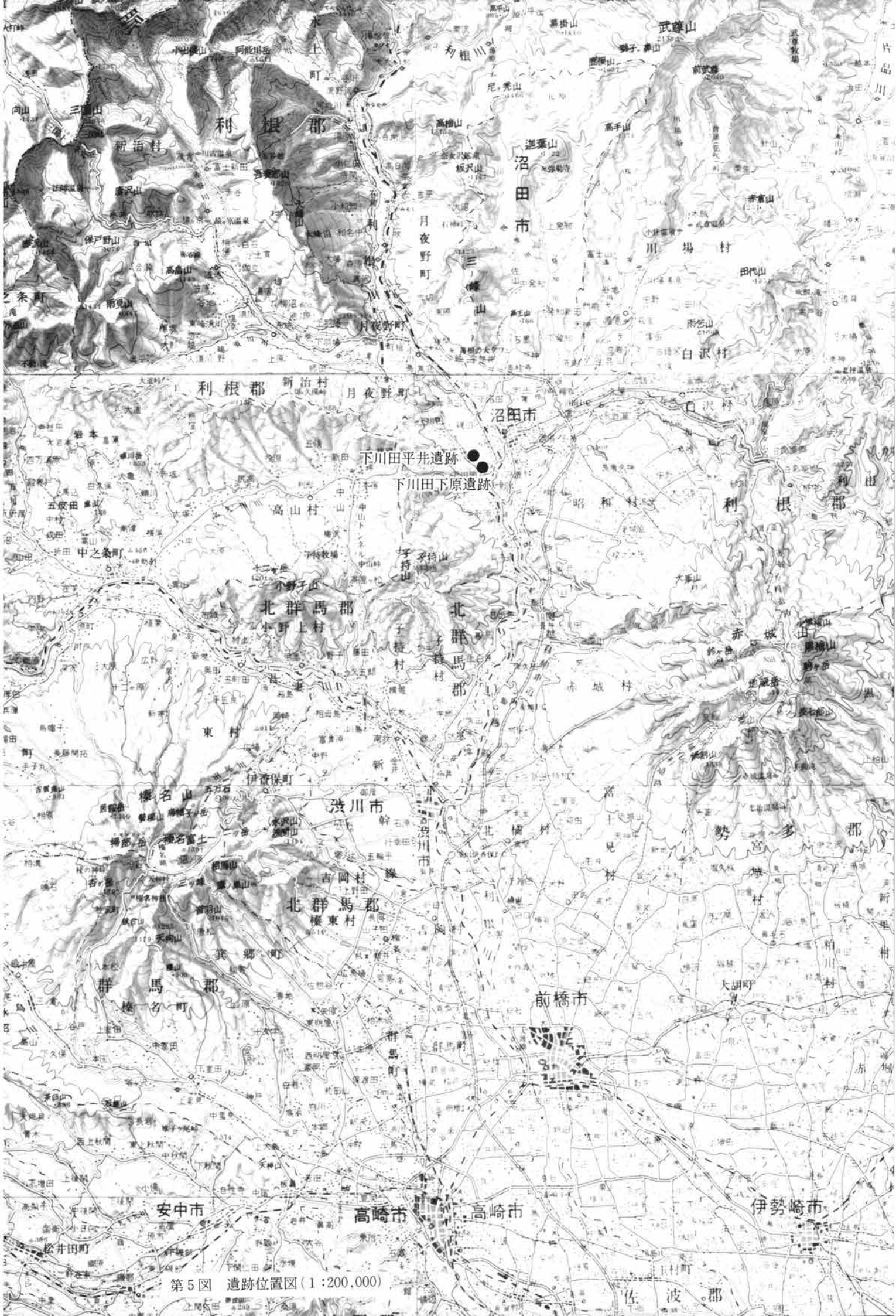
利根・沼田地方では、今まで表土に混入した状態では確認されているが、純堆積での状態で確認されたのは沼田市上久屋橋場遺跡、硯田町四釜甲地区(E遺跡)試掘調査と当遺跡だけである。

FPは、6世紀中頃榛名山二ツ岳の噴火の際に噴出した軽石で子持村黒井峰遺跡を2mほどの厚さで覆った軽石として有名である。

利根・沼田地方では、表土中に多くみられるとともに昭和村鏡石古墳、沼田市上久屋橋場遺跡、石墨遺跡等では純堆積層が確認され、沼田市日影平遺跡、月夜野町後田遺跡S J60住居跡、観音堂遺跡の古墳周溝等の埋没途中の窪みに堆積しているのが確認されている。



第4図 下川下原遺跡・下川田平井遺跡土層柱状図



第5図 遺跡位置図(1:200,000)

## 第3章 立地と環境

### 1. 遺跡周辺の地形・地質

#### 1. 地形、及び地質の概要

発掘地域一帯は、沼田盆地の西縁にあたる。今回発掘が行われた地域を含めて、下川田付近には数段の河岸段丘が発達しているほか、扇状地も形成されている。河岸段丘では、どの段丘面も利根川方向にかなりの角度で傾いており、利根川の支流、片品川・赤谷川沿いに発達している河岸段丘と比較して、傾斜も凹凸もかなり大きい。山地からの岩屑運搬があったためであろう。片品川沿いの河岸段丘を中心とした地形については新井(1962)、竹本(1984、1985)などの研究があるが、この地域については詳しくない。

地質は、第三系から完新統まで、いろいろな時代の海成層や陸成層が複雑に分布している場所である。この地域の地質研究としては、木村(1952)、新井・木崎(1953)、久保(1968)などがあるが、下川田地区については未知の部分が多い。

#### 2. 地形

この付近の河岸段丘については竹本(1985)が図に示しているが、これには利根川よりの下位の段丘が記入され、山地に近い平坦面は空白になっている。

群馬県立沼田高等学校講師 久保 誠二

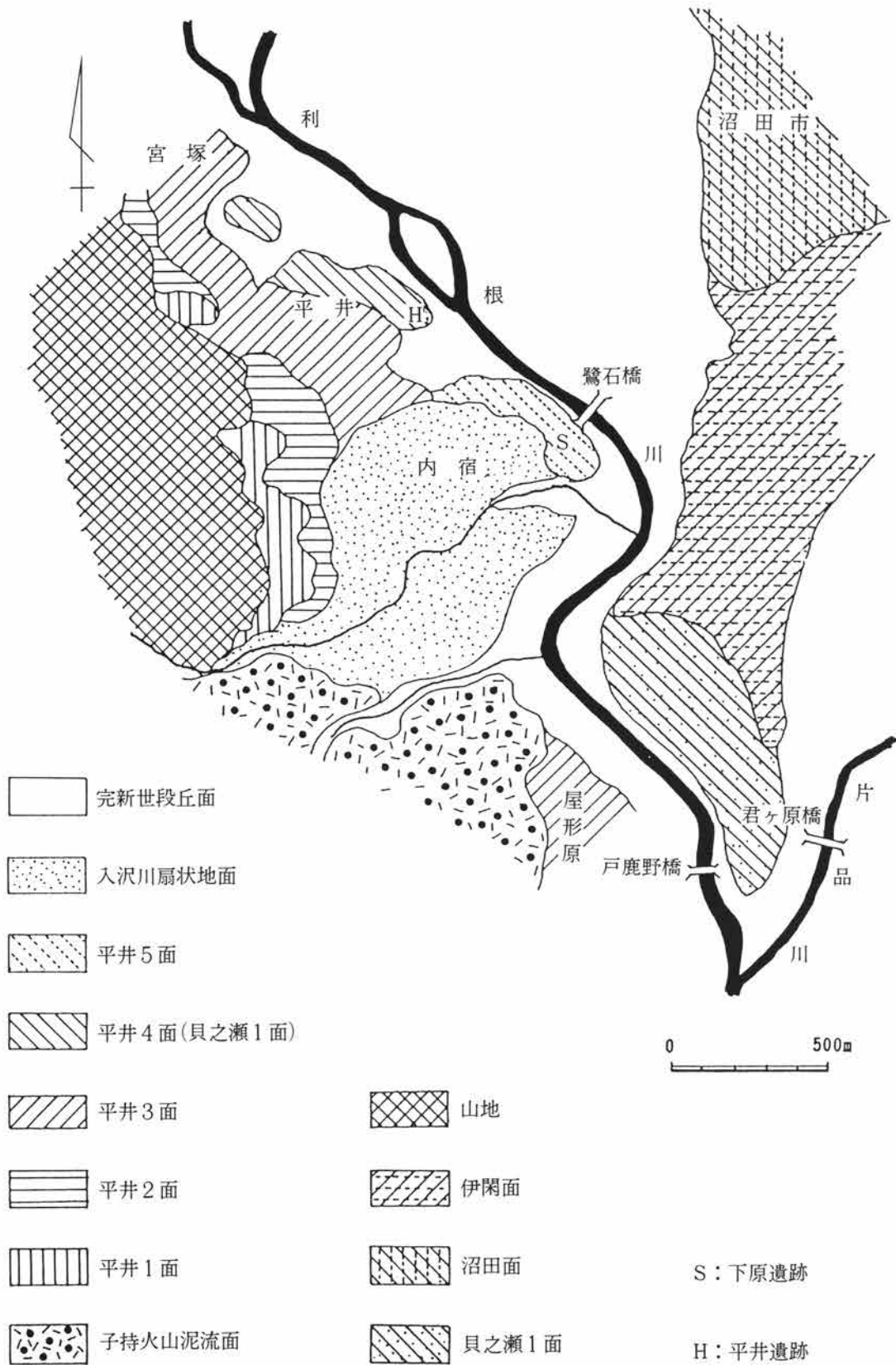
この報告では、調査地域付近の地形面を、古→新の順に子持火山泥流面・平井1面・平井2面・平井3面・平井4面・平井5面・入沢川扇状地面・完新世段丘面の8つに大別し、その分布を第6図に示した。それぞれの面の詳細は次のとおりである。なお対岸の沼田台地を中心として、3段の河岸段丘が発達しており、上位から沼田面・伊閑面・貝之瀬I面と命名されている(竹本、1984・1985)。

(1) 子持火山泥流面 子持火山の活動末期に流出した泥流による扇状地面である(久保・新井、1964)。扇状地の末端部は下川田下原遺跡の南南西約700mに達している。扇端は高度差50~80mの急傾斜の斜面をつくり、田中から屋形原にかけて続いている。表面は多くの浅い谷に刻まれているが、原面の一部は残されている。面上には上部ローム層・中部ローム層、それに数メートルの下部ローム層を堆積している。下部ローム層からみて、この面は沼田面より古い地形面である。

(2) 平井1面 滝から田中にかけて、頂上に平坦面をのせたいくつかの小丘が、利根川の流れの方向に並んでいる。平坦面の標高は、400~410mである。平坦面上には、厚さ2~3mの礫層がみられ、その下

第1表 礫岩中の礫構成(%) 1㎡から中礫100個を無作為に選んで測定した。

種類	採取場所	基底礫岩 戸鹿野	基底礫岩 下原	基底礫岩 平井	平井1面 (1)	平井1面 (2)	沼田礫層	利根川 鷲石橋
流紋岩		43	40	43	49	58	3	39
安山岩		19	24	12	17	11	95	7
花崗岩		5	1	4	3	1	1	1
閃緑岩		5	2	5				15
輝緑岩		2		3	3	1		
蛇紋岩								1
ホルンフェルス		26	33	33	28	29	1	37



第6図 下川田付近の地形面分布図



は上部ローム層と厚さ不明の粘土化した褐色ローム層をへて、先子持火山噴出物や利根熔結凝灰岩になる。礫層は、中礫を主とする亜円礫で、覆瓦構造が発達しており、明らかに河川による堆積物である。これは沖積薄層(ペニア)にあたり、礫層をのせたいくつかの小丘上の平坦面は、かつては連続した段丘面であったと推定される。これを平井1面とする。この段丘は岩石侵食面段丘である。この河岸段丘の段丘礫層堆積面は、利根川河床面からの比高が、沼田台地の沼田礫層堆積面とほぼ同じであるが、段丘礫の種類や(第1表)厚さが異なり、侵食状態から沼田面より古い地形面である可能性がある。

(3) 平井2面 平井1面の東側に分布する面で、利根熔結凝灰岩が段丘面近くまで分布しており、岩石侵食面段丘である。関東ローム層の被覆関係は不明であるが、利根川からの比高は63m±で、戸鹿野付近の伊閑面の比高とほぼ同じである。伊閑面と対比される地形面と考えられる平井1面との間には、傾斜の緩い段丘崖がみられる。

(4) 平井3面 平井の集落が乗っている面で、基盤の沼田湖成層が段丘面近くまで迫っている岩石侵食面段丘である。平井2面との間には、比高約10mの明瞭な段丘崖がある。この河岸段丘には、段丘礫層も関東ローム層も露出していない。利根川との比高は約50mで、付近にこれと対比できる面はない。

(5) 平井4面 平井の集落の東側にある小さな面で、下川田平井遺跡はこの面上にある。面上には段丘礫層はみられず、表土の下に基盤の利根熔結凝灰岩や沼田湖成層の礫岩が現れる。表土との間に上部ローム層を挟むこともある。天満宮付近では粘土化した原層が段丘面付近まで分布し、ここでは薄い段丘礫層が見られる。この段丘も岩石侵食面段丘である。平井3面とは、比高10mの段丘崖で境している。面上にみられる上部ローム層は、堆積後多少移動があったと思われるが、下部に板鼻褐色軽石層が認められる。段丘面の利根川からの比高は約40mである。戸鹿野橋北に発達する貝之瀬1面(竹本1985)に対比できる。

(6) 平井5面 下川田下原遺跡のある面である。この段丘も露頭では段丘礫層は観察されず、基盤の古期湖成層がほとんど全面に現れ、利根川に面したごく一部に沼田湖成層の礫岩がみられる。基盤と表土の間には細礫を含む二次堆積ロームが挟まれていることがある。利根川との比高は30mである。この段丘面に対比できる面は付近にはない。平井4面とは直接には接していない。段丘の西側は、入沢川による扇状地堆積物に覆われ、境界は高さ数メートルの崖になっている。

(7) 入沢川扇状地面 入沢川の運搬した堆積物が作った扇状地面である。田中付近が扇頂で北東に広がっている。小型の扇状地で扇頂から扇端まで約1.1km、この間の高度差は65mあり、比較的急な斜面をもつ扇状地である。扇状地堆積物は、平井3面、及び平井5面を覆っている。平井3面との境界は、滑らかで漸移するが、平井5面との間は高さ数メートルの急斜面となっている。

(8) 完新世段丘面 利根川の右岸側にはほとんどみられないが、左岸側には、沼田駅付近で幅約800mにわたり沖積層が堆積し、何段かの沖積段丘が発達している。

(9) 利根川左岸の河岸段丘 調査地域の対岸の利根川左岸側には、3段の河岸段丘が発達している。竹本(1984)によれば、最高位の段丘面は沼田市の市街地の面で、これを沼田面とよぶ。上部ローム層・中部ローム層、及び下部ローム層の上部が堆積している。沼田面の南側には、片品川に沿って、沼田面より1段低い伊閑面があり沼田面との間は緩い傾斜の段丘崖で結ばれている。上部ローム層と中部ローム層をのせている。貝之瀬1面は戸鹿野橋の北側に発達しており、上部ローム層を堆積している。

### 3. 地質

発掘地域周辺の地質は、グリーンタフ新第三系(原層)、未詳凝灰岩層、利根熔結凝灰岩、先子持火山泥流堆積物、古期湖成層、沼田湖成層、沼田礫層、段丘・扇状地・崖錘堆積物・現河床堆積物よりなる

(第7図)。

(1) グリーントフ新第三系 調査地域北方の赤谷川や利根川の流域には、広くグリーントフ新第三系が分布している。新井・木崎(1953)はこれらを水上層群(下部中新世)と猿ヶ京層群(中部中新世)に二分した。猿ヶ京層群は上越南部グリーントフ団研グループ(1976)によって後閑層・赤谷層・原層・合瀬沢層・大道層に分けられた。調査地域及びその周辺には、猿ヶ京層群の一部が断片的に露出している。利根川と薄根川の合流点付近の右岸側には、比較的大きな露頭がある。白色～灰白色の流紋岩質ないしは安山岩質凝灰岩よりなり、細粒緻密な部分や、多量の白色軽石を含む部分がある。構造は走向E-W、傾斜5°Sである。この凝灰岩層は、層序や岩質から猿ヶ京層群の原層に対比される。木村(1952)は凝灰岩中から次の植物及び動物化石を報告している。

*Fagus sp.*、*Quercus sp.*、*Lucina (Phacoides) borealis L.*、*Lucina cfr. pisidium DUNKER*、*Acia sp.*、*Nuculana gordonis (YOK.)*、*Dentalium complexum DALL.*

また、鷲石橋下流750m付近の凝灰岩中から *Liquidamber sp.*、*Zelkova sp.* を産出する。

宮塚付近の本層中には変質鉱物としてモンモリロナイト、ヒューランダイト、ステルバイトなどの粘土鉱物が含まれている。これらを含む凝灰岩は、かつて髪洗い粉として採掘していた。本層の一部は、下川田五反田地区や平井地区に露出している。一見沼田湖成層に似ているが、変質の状態から原層が粘土化したものである。

(2) 未詳凝灰岩層 上越線鷲石トンネル南口付近から西へ入る沢に僅かに露出している。白色で石英結晶が含まれるが有色鉱物はほとんど目立たない凝灰岩である。少量の白色軽石を含む。この凝灰岩は、調査地域の北方にあたる三峰山や大峰山の中腹以下に分布している三峰山層(糟谷・高橋、1988)の一部であろう。

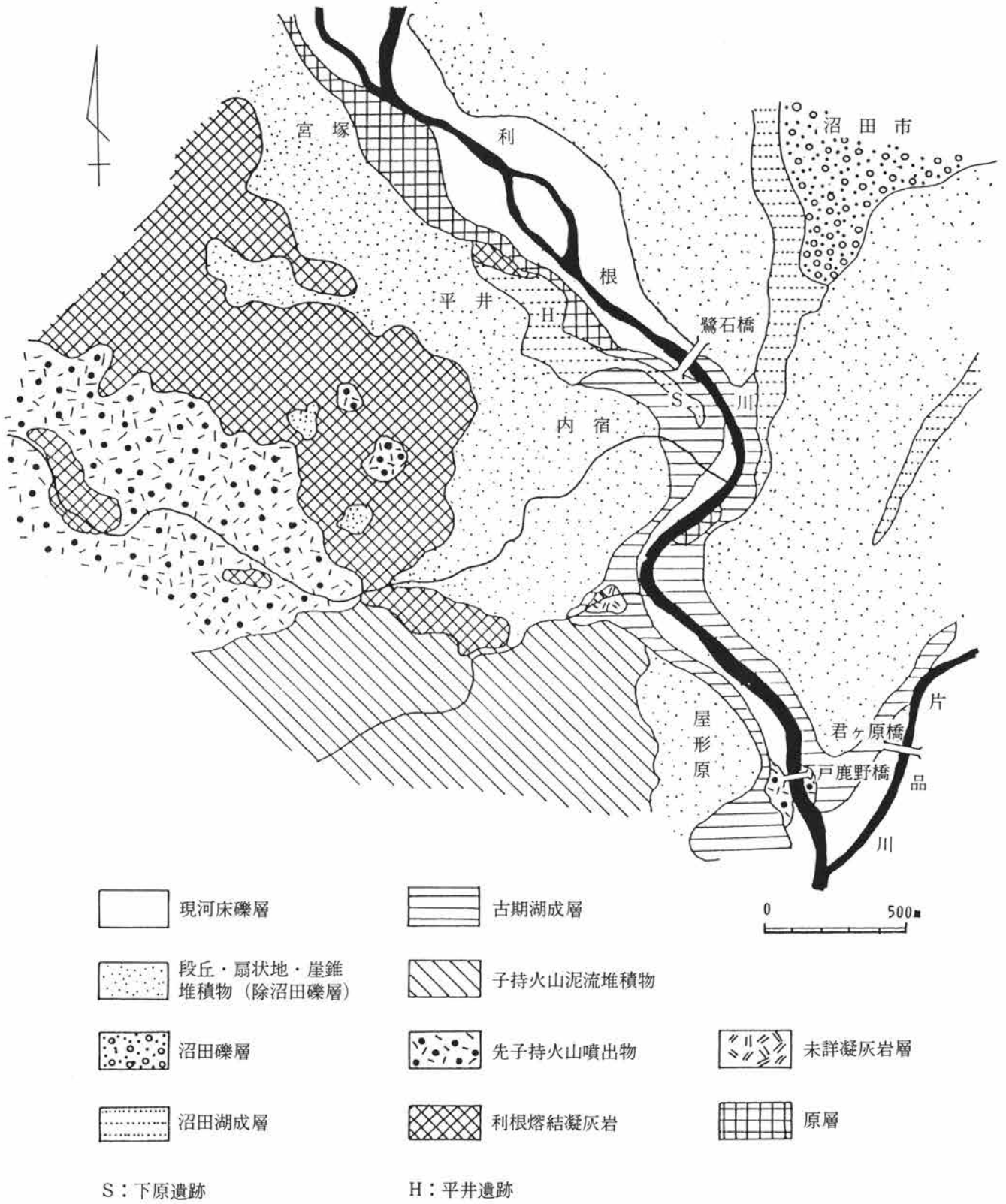
(3) 利根凝結凝灰岩 調査地域の北方の三峰山・

大峰山の山頂に近い部分や、高山村と新治村の境界にある南山の中腹部などには広く熔結凝灰岩が分布している。これを利根凝結凝灰岩という(糟谷・高橋、1988)。これは上越南部グリーントフ団研グループ(1976)の切ヶ久保熔結凝灰岩Iにあたる。淡紫色の石英安山岩質熔結凝灰岩で、高温型石英および黒雲母斑晶が顕著で少量の角閃石が認められる。この付近では、高山村と沼田市の境界をつくる山稜の下部に分布している。下川田平井遺跡の東側の段丘崖にも小規模に露出している。この場所以外にも段丘崖の所どころに小規模に露出している。鮮新世前期の噴出である(糟谷・高橋、1988)。

(4) 先子持火山噴出物 沼田市、高山村、月夜野町、新治村の境界を走る稜線を中心にして安山岩質の凝灰角礫岩や火山角礫岩、それに溶岩が分布している。一部に泥流堆積物が認められる。火山の形態はすでに失われており、火口の位置は確認できない。活動の年代も不明であるが、この火砕岩類が小峠付近で子持火山の噴出物に覆われており、子持火山以前の火山である。子持火山の下には、溶岩に富むもう一つの火山が隠されていて、古子持火山と称しているが(久保・新井、1964)、この火山との関係は不明である。発掘地域付近では、田中から今井にかけての山地に分布している。戸鹿野橋付近の利根川に露出している暗灰色の溶岩はこれに属するものであろう。発掘地域付近では、職業訓練校周辺などに小規模にみられる。

南山の山頂付近には、切ヶ久保熔結凝灰岩Iに重なる切ヶ久保熔結凝灰岩II(上越南部グリーントフ団研グループ、1976)を不整合に覆う溶岩がある。暗黒色で流れに沿って板状節理の発達した玄武岩質安山岩で、斑晶がきわめて少ない特徴的な溶岩である。この安山岩がどの火山に属するのかは不明であるが、これが礫となって、後述の古期湖成層に含まれている。現在では見られないが、古期湖成層堆積時には、比較的近くに分布していたと考えられる。

(5) 子持火山泥流堆積物 子持火山の活動末期に、大きな水蒸気爆発が起こったが、この時発生した泥



第7図 下川田付近の地質図

### 第3章 立地と環境

流の堆積物である。子持火山はこの爆発によってカルデラを形成した(久保・新井、1964)。笹尾ではこの泥流堆積物は、主として20~30cmの亜角礫よりなる。基質は火山灰質碎屑物である。礫の中にはときに2mを越えるものがある。

(6) 古期湖成層 利根川の鷺石橋から戸鹿野橋にかけてや、片品川の下流地域に分布している。利根川沿いでは固結度の悪い礫岩、砂岩、及び凝灰質泥岩よりなる。礫岩が優勢で巨礫岩が多く、礫の中には長径2mに達するものもある。分級は著しく不良で、基質は薄茶色の凝灰質砂岩である。礫岩は南ほど少なくなり礫の大きさも減少し、砂岩・泥岩を増す傾向がある。礫はすべて安山岩で、岩質は10種以上が識別される。すでに述べたように礫は、南山付近に分布している暗黒色安山岩が少量含まれるほか、大部分は子持火山泥流堆積物や先子持火山噴出物起源と考えられる。砂岩は一般に粗粒で細礫を含むことが多く、斜交葉理が発達している。泥岩は凝灰質で、鷺石橋下流400m付近の崖では、まれに破片状の植物化石を産する。層理は明瞭でない。利根川沿いに分布する本層は堆積状態から湖成層の周辺相と考えられる。片品川下流部では上流に行くにしたがって礫岩が減少し砂岩・泥岩を増す。砂岩・泥岩には湖成層特有の平行葉理が見られる。君河原橋の北東600m付近では、かつて道路工事中に平行葉理の発達した凝灰質泥岩や細粒砂岩が露出し、植物化石を産出した。

(7) 沼田湖成層 沼田盆地に広く分布する湖成層で、新井(1964)が命名した。沼田湖成層を堆積した古沼田湖は、東西約8km、南北約6.5kmの巨大な湖で、利根川を赤城火山の噴出物がせき止めてつくったと考えられている(町田、1949・新井、1962、1964)。沼田湖成層の厚さは正確には分かっていないが、少なくとも100mはあり、沼田台地周縁の崖などに露出している。一般には泥岩が優勢であるが、周辺部では礫岩が卓越する。下川田は、古沼田湖の西縁にあたり、下原や平井には基底礫岩、ないし周辺礫岩が分布している。礫岩は、中礫ないし、大礫よりな

る。現在の利根川河床礫に比較して、閃緑岩が少ない特徴がある(第1表)。遷流寺付近では礫岩が斜交葉理の発達した砂岩層、泥岩層を挟んでいる。かつてこの付近では泥岩中から二枚貝化石を産出した。下川田下原遺跡の利根川寄りの崖や、鷺石橋下流300m付近の利根川左岸の断崖では、沼田湖成層が古期湖成層を不整合に覆っている。沼田湖成層が堆積した時期について新井(1962、1969)は、第3氷期末から第3間氷期にかけてと推定している。

(8) 沼田礫層 沼田台地を覆う礫層で、白沢村岩室付近を扇頂とする扇状地として堆積した(久保、1968)。礫層の厚さは沼田台地西端で15m、東端では100mに達する。大部分が安山岩礫で少量の流紋岩、花崗岩、蛇紋岩などの礫を含んでいる(第1表)。下川田地域には分布していない。

(9) 段丘・扇状地・崖錘堆積物 更新世の段丘礫層、入沢川による扇状地堆積物、それに山地に接した地域の崖錘などである。平井1面の段丘礫層の礫種は、沼田湖成層の基底礫岩に似ているが、閃緑岩を含んでいないことが注目される。

入沢川による扇状地堆積物は、巨礫、大礫を主とした礫層である。古期湖成層の礫岩とよく似ているが、前者のほうが円磨度がやや高く、基質が砂質である。

(10) 現河床礫層 完新世に利根川の運搬した礫層である。

#### 4. 下川田下原遺跡付近の地形・地質

下川田下原遺跡はすでに述べたように、この地域では最も新しい平井5面上にあり、西側は入沢川の扇状地堆積物がせまり、東は高さ30mの段丘崖をへて利根川に接している。この河岸段丘は岩石侵食段丘で、発掘現場付近では段丘礫層は見られず、表土の下は基盤の古期湖成層となっている。ただし、利根川に面した段丘崖の上部には、沼田湖成層の基底礫岩が、古期湖成層の礫岩上に不整合に重なり、これが段丘面に現れている。古期湖成層は、礫岩、砂岩よりなる。礫岩は巨礫を主体とし亜角礫よりなる。

中には長径が2 mを越えるものもある。基質は凝灰質砂岩である。トレンチでの観察によると、礫岩は砂岩中にレンズ状に挟まれており、厚さは数10cmから3 m程度である。堆積構造から河口に近い堆積物と推定される。基盤岩類と表土の間には、所により二次堆積の関東ロームがみられる。また、表土中には厚さ数センチの二ッ岳軽石層(FP)が挟まれている。

### 5. 下川田平井遺跡付近の地形・地質

この遺跡は平井4面上にある。遺跡のある段丘には15mを越える礫層が堆積しており、段丘礫層のようにみえる。しかし、これは堆積状態や礫種(第1表)からみて、沼田湖成層の基底礫岩ないしは周辺礫岩である。遺跡の東側には段丘崖の上部に利根熔結凝灰岩の露頭がある。ここでは巨大なブロックが重なったように見えるが、利根熔結凝灰岩が柱状節理に沿って多少崩壊したもので、この岩石の崖によく見られる産状である。礫層はこれを不整合に覆っているものと考えられる。平井4面の北端の天満宮付近では、原層が段丘面を作っている。このように平井4面は、岩石侵食段丘である。沖積薄層にあたる礫層は、段丘の北端で僅かに観察されるのみである。基盤と表土の間には、堆積後多少移動したと考えられる上部ローム層が残っている所があり、下部に板鼻褐色軽石層と思われる軽石が認められる。また、表土中には二ッ岳軽石が点々と見られたり、10cm以下の層になっていたりする。表土の下底から10数cm上には、断片的、あるいは層状にスコリア質砂状の浅間Bテフラを挟んでいる。

下川田平井遺跡五反田地区は半円形の低地にある。ここでは粘土化した原層上に、水田によると思われる粘土質土壌が重なり、その上に約140cmの黒色表土がのっている。黒色表土も砂質であったり、砂礫層を挟んだり、粘土質であったりして、岩相の変化に富む。黒色表土の下底から30cmほどの所に厚さ20cmの二ッ岳軽石を、その上30cmに厚さ5~10cmの浅間Bテフラに属するスコリア質砂層を挟んでい

る。

### 6. まとめ

下川田下原遺跡には平井5面上に、平井遺跡は平井4面上にある遺跡である。このうち、平井4面は貝之瀬1面に対比される。いずれも岩石侵食段丘で、表土や関東ローム層の下には基盤が直接に現れている。表土中には二ッ岳軽石層、浅間Bテフラが残されていることがある。五反田遺跡は利根川河床に近く、基盤の原層が現れている。ここの原層は粘土化しており、これが風化した土壌が水田耕作に適した一つの理由であろう。

#### 参考文献

- 新井房夫・木崎喜雄(1953)上越地方谷川岳南部のグリーンタフ新第3系について(その1)、藤本教授還暦記念論文集、213-219。  
 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年、群馬大学教育学部紀要、自然科学、10、1-79。  
 新井房夫(1964)沼田湖成層とくに形成機構と古気候について、地質学雑誌、70、410。  
 新井房夫(1969)北関東の第四系、地学団体研究会専報、15、161-171。  
 木村達明(1952)岩室累層の地質学的研究(1)、地質学雑誌、58、685、457-468。  
 久保誠二・新井房夫(1964)子持火山の地質、群馬大学教育学部紀要、自然科学編、12、9-30。  
 久保誠二(1968)群馬県沼田盆地に分布する礫層及び湖成層とその堆積構造、地質学雑誌、74、11、499-509。  
 竹本弘幸(1984)片品川流域の河岸段丘、日本地理学会予稿集、25、64-65。  
 竹本弘幸(1985)中棚遺跡、関越自動車道地域埋蔵文化財発掘調査報告書(KC-VI)、8-13、群馬県昭和村教育委員会・群馬県教育委員会、日本道路公団。  
 町田 貞(1949)沼田台地における湖水の形成について、地理学評論、22、54-59。

## 2. 周辺の遺跡

利根・沼田地方では、10数年前まで古墳や数カ所の竪穴住居跡の発掘調査が行われただけであったが上越新幹線、関越自動車道や圃場整備等に伴う発掘調査が行われ、旧石器時代から中世にかけての遺跡が見つかった。

下川田下原遺跡・下川田平井遺跡の位置する沼田盆地の周辺遺跡の各時代ごとの概要は、次のとおりである。

### 旧石器時代

関越自動車道に伴う発掘調査によって沼田盆地周辺で9遺跡が確認されている。南より、長井坂城跡遺跡、戸神諏訪遺跡、後田遺跡、三峰神社裏遺跡、善上遺跡、大友館址遺跡、小竹A遺跡、小竹B遺跡、大竹遺跡があり、赤城山麓の長井坂城跡遺跡と戸神山麓の戸神諏訪遺跡を除くと三峰山西南麓にしている。後田遺跡、戸神諏訪遺跡では、A T (始良・丹沢バミス)が混入する層から石器が出土しており、南関東Ⅶ層に比定されている。また、下川田下原遺跡の西約3 kmの下川田町入沢から黒曜石の尖頭器が出土していることが知られている。

### 縄文時代

早期は、水上町乾田遺跡からの隆起線文が最も古く、中棚遺跡、石墨遺跡から押型文、撚糸文、条痕文土器が出土しているほかは利根・沼田地方での類例は少ない。

前期は、発見された遺跡数も多く糸井宮前遺跡や中棚遺跡、後田遺跡で集落跡が調査され、下川田平井遺跡の西約1 kmの滝遺跡や石墨遺跡、奈良原遺跡、門前橋詰遺跡でも住居跡が調査されている。このほか利根・沼田地方では、月夜野町前中原遺跡、三後沢遺跡、城平遺跡等で住居跡が調査されている。

中期は、滝遺跡、寺入遺跡、寺谷遺跡で住居跡が調査されている。寺入遺跡は、大木8 a 式土器がみられ東北地方との交流が指摘されている。

後期は、寺入遺跡で住居跡が1軒調査されているほか、月夜野町深沢遺跡で配石遺構が調査されてい

るだけである。

### 弥生時代

中期では、八束脛洞窟遺跡、寺谷遺跡等が見られる。寺谷遺跡で住居跡が調査され、また川場村立岩より大型壺が出土している。この壺は、北陸から東北南部の「山草荷式土器」である。八束脛洞窟遺跡は、焼骨や穿孔されたヒトの指骨や歯が多量に出土しており岩陰再葬墓とされている。糸井宮前遺跡より遠賀川系の土器片が出土しており注目される。

後期になると下川田平井遺跡を初めとして日影平遺跡や戸神諏訪遺跡、石墨遺跡、鎌倉遺跡などの多くの遺跡が見つかった。なかでも日影平遺跡や観音堂遺跡では環濠集落跡の調査がされている。

### 古墳時代

利根・沼田地方の古墳は、1935年の県内一斉調査によって刊行された「上毛古墳総覧」によれば、445基の古墳が確認されており、そのほとんどが沼田盆地に存在している。古墳の立地は、河川の合流地点付近の河岸段丘の段丘端、段丘崖によった所や山麓斜が段丘に移行する所に構築されている。これらの古墳は、すべて小規模の円墳で横穴石室である。古墳の構築年代は、森下・川額古墳群のうち軍原に所在するものから5世紀代の石製模造品が出土している他、同古墳群の鏡石古墳、高野原遺跡、三峰神社裏遺跡M-1号墳、観音堂遺跡などがF P 降下前の6世紀前半代である他は、大部分の古墳は6世紀後半から7世紀後半にかけてのものである。また、古墳時代前期では、石墨遺跡で円形周溝墓、沢口遺跡で方形周溝墓が調査されている。

集落跡では、前期は戸神諏訪遺跡、石墨遺跡、高野原遺跡、奈良原遺跡、糸井宮前遺跡で調査されている。

中期の竪穴住居跡は、寺谷遺跡で3軒調査されている他は調査例が見られない。

後期は、後田遺跡、師遺跡、沢口遺跡、師西部遺跡群などの三峰山西麓に集中して調査例があるほか

は石墨遺跡で11軒、糸井宮前遺跡で8軒、下川田平井遺跡で2軒と古墳群周辺の発掘調査でも確認された数量が少ない。

#### 奈良時代

律令体制のもとでの利根・沼田地方は、「利根(止弥)郡」が設置され、渭田・呉桃・男信・笠科の4郷が置かれ、沼田は「渭田」にあたと想定されている。郡衙については、昭和村森下に「御門」の小字があることからこの地に想定されているが、明確ではない。この時代の遺跡・遺構は、古墳時代後期や平安時代に比べて数少なく、戸神諏訪遺跡、石墨遺跡、町田小沢遺跡、大釜遺跡、後田遺跡などで若干の住居跡が調査されているだけであるが、町田小沢遺跡の住居跡から奈良三彩小壺が出土しておりこの地域の遺跡・遺構の在り方とともに注目される。

#### 平安時代

縄文時代前期と同様に広範囲に遺跡が見られるが、その大部分は竪穴住居跡である。そうした中でも戸神諏訪遺跡では、寺院跡が調査されている。寺院跡は、80m四方を溝で区画した中をさらに20m四方の小区画にお堂を建てた単堂のものであるが、出土した土器に「宮田寺」の墨書があり寺院名のわかるものである。

#### 中世

中世以降では、沼田城をはじめとして多くの城館址の存在が知られている。そうした中で月夜野町大友館址遺跡では、15～16世紀の館跡で主屋と想定される建物のほか、自然石を配し、湧水を利用した池が造られている。この池は鑑賞するだけでなく石はだを流れ落ちる水音を耳にするためのものとされている。南約2kmの沢口遺跡でも館跡が調査されている。また、同地区の利根川の右岸の名胡桃には豊臣秀吉が後北条氏を攻撃する切掛となった名胡桃城が位置し、城平遺跡として「馬出」部分が調査されている。

#### 近隣の遺跡

下川田下原遺跡・下川田平井遺跡の近隣の調査遺

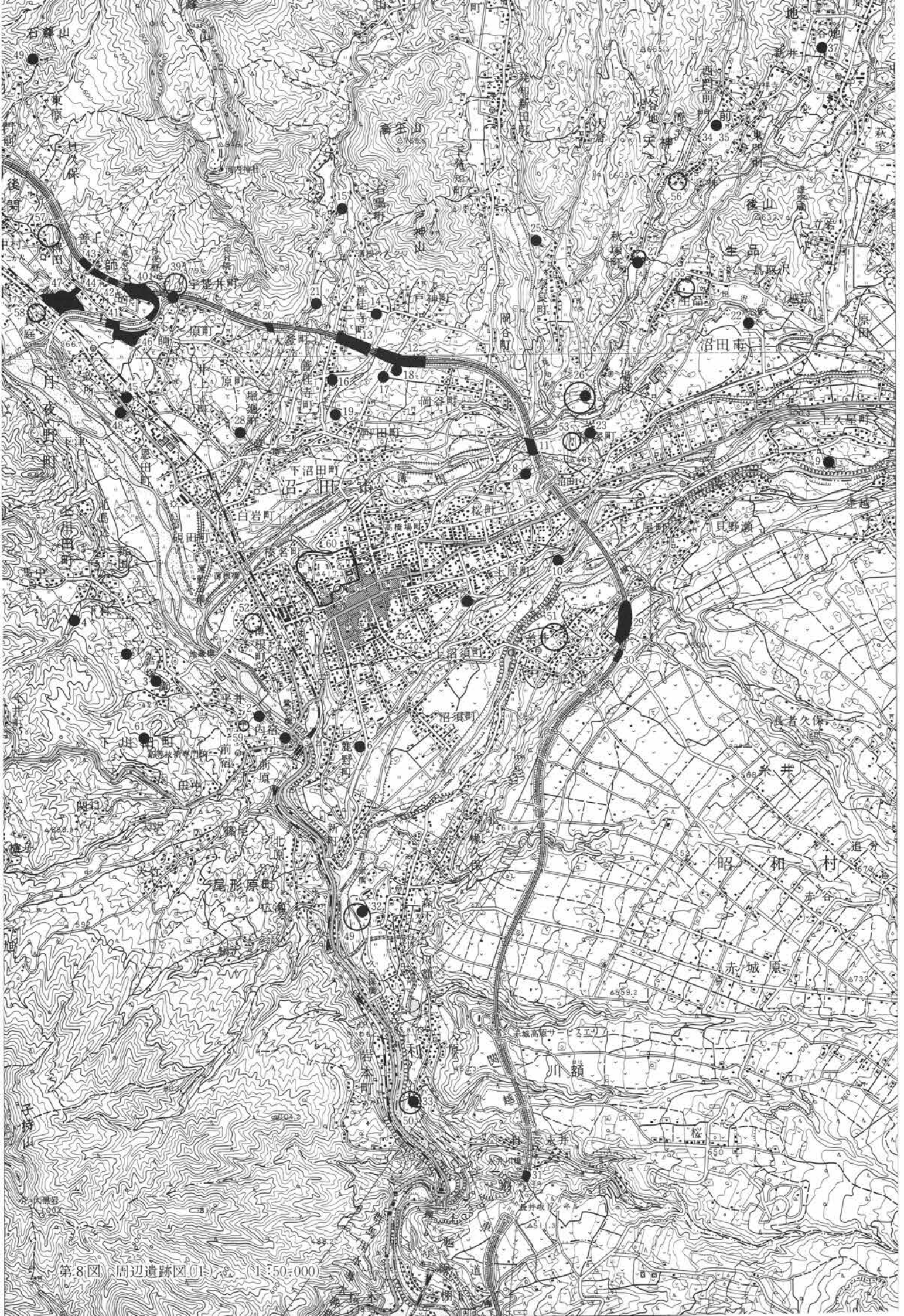
跡としては、下川田平井遺跡の西1kmに位置する滝遺跡がある。滝遺跡は、縄文時代の前期黒浜式期、中期阿玉台式期の住居跡各1軒と陥し穴7基、土坑17基と平安時代の斜面を削平整地して建てた掘立柱建物跡2棟が調査され報告されている。北西1.5kmに位置する背戸田遺跡では、縄文時代前期の住居跡と平安時代の掘立柱建物跡が調査されている。また、北西2kmに位置する赤坂・上原遺跡では、弥生時代後期樽期の住居跡と平安時代の掘立柱建物跡が調査されている。

遺物の散布状態や現状の地形から下川田下原遺跡の西0.4kmの地点には、川田城址の存在が知られている。また、川田神社周辺では、縄文時代前期の土器片や土師器、須恵器片の散布が見られることから縄文時代、古墳時代～平安時代の集落跡の散在が推定される。

下川田下原遺跡は、遺跡地の東端部分の調査が実施されただけであるが、調査での縄文土器の出土状態や調査地以外で弥生土器片、土師器・須恵器片が採取されることから調査区西側には縄文時代～平安時代にかけての集落跡の存在が想定される。また、調査区西30mには径8mの小円墳が存在している。

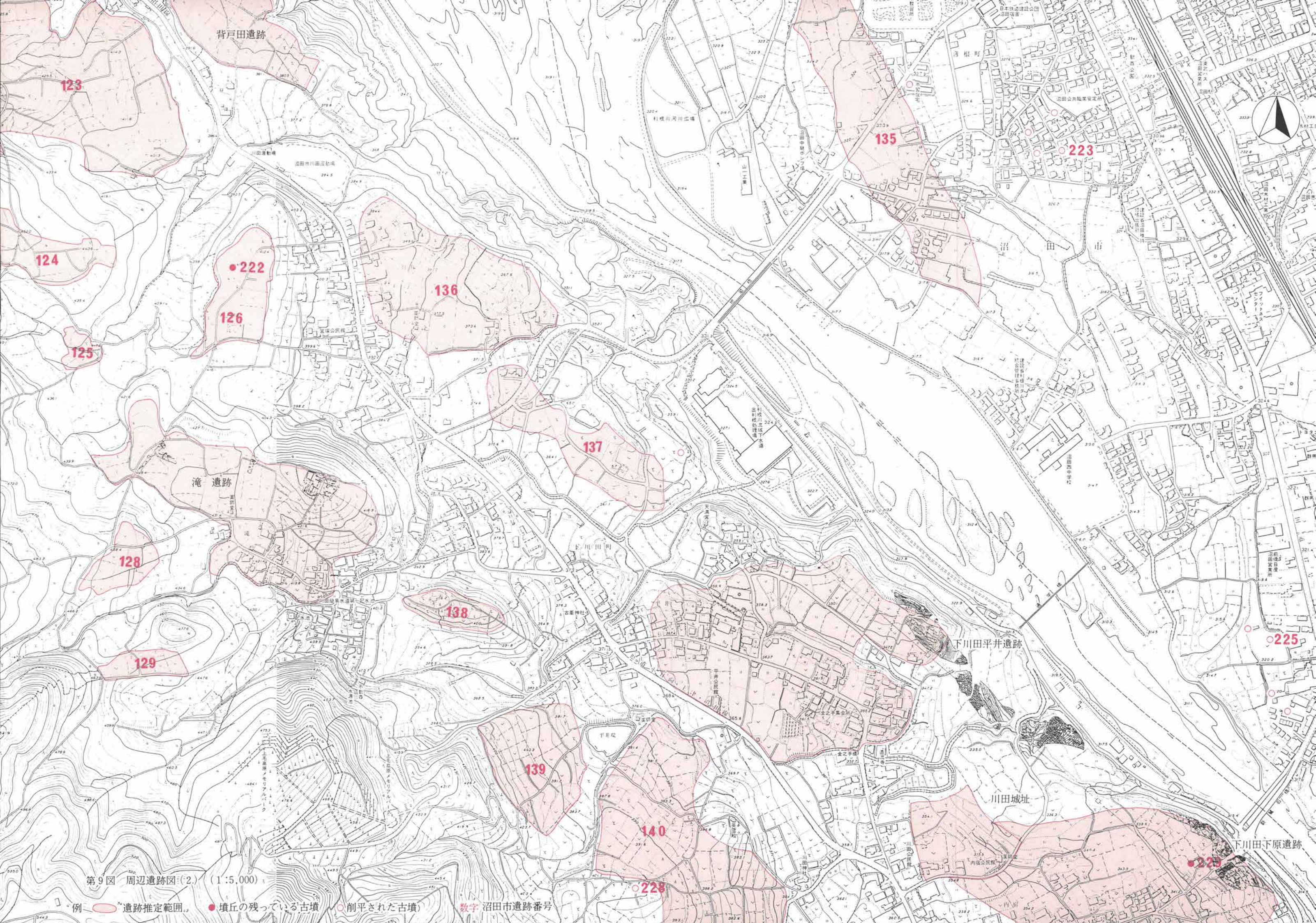
下川田平井遺跡7区の西側の現在の集落が存在している地点では縄文土器片、弥生土器片、土師器・須恵器片が多く採取されることから縄文時代～平安時代の集落跡の存在がここでも想定される。

なお、下川田地区では、集落跡の調査や遺物の散布状態から糸井宮前遺跡、戸神諏訪遺跡、後田遺跡等のような住居跡が密集するような大規模集落跡が存在する可能性は少ないようである。



第8図 周辺遺跡図(01) 1:50,000





背戸田遺跡

123

135

223

124

●222

136

126

125

137

滝遺跡

128

138

129

○225

下川田平井遺跡

139

140

川田城址

下川田下原遺跡

●228

第9図 周辺遺跡図(2) (1:5,000)

例 ○ 遺跡推定範囲 ● 墳丘の残っている古墳 ○ 削平された古墳

数字 沼田市遺跡番号



第2表 周辺発掘調査遺跡

No.	遺跡名 (所在地)	遺跡の概要	文献
1	下川田下原遺跡 (沼田市下川田町)	本報告書参照	
2	下川田平井遺跡 (沼田市下川田町)	本報告書参照	
3	滝遺跡 (沼田市下川田町)	縄文時代 前期中期竪穴住居跡各1軒、陥し穴7基、土坑13基 平安時代 掘立柱建物跡2棟(削平整地)	「沼田西部地区遺跡群Ⅰ」 沼田市教育委員会 1991
4	赤坂上原遺跡 (沼田市上川田町)	縄文時代 陥し穴、土坑、弥生時代 後期櫛期竪穴住居跡 平安時代 竪穴住居跡、大溝	「年報8」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
5	背戸田遺跡 (沼田市上川田町)	縄文時代 竪穴住居跡、土坑、弥生時代 後期竪穴住居跡 平安時代 竪穴住居跡、掘立柱建物跡	「年報9」・「年報10」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 90・91
6	日影平遺跡 (沼田市戸鹿野)	弥生時代 後期櫛期環濠集落跡	「年報6」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
7	下原遺跡 (沼田市東原町)	縄文時代 陥し穴	「年報」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
8	鎌倉台遺跡 (沼田市高橋場町)	縄文時代 前期～中期陥し穴3基、土坑14基	「鎌倉台遺跡」 沼田市埋蔵文化財発掘調査団 1990
9	上久屋橋場遺跡 (沼田市上久屋)	弥生時代 後期竪穴住居跡2軒、溝(方形周溝墓?)	「上久屋橋場遺跡」 沼田市教育委員会 1989
10	追墓古墳 (沼田市上沼須)	古墳時代 円墳、自然石乱石積両袖式石室	「追墓古墳(旧利南村第8号古墳)」 沼田市教育委員会 1989
11	鎌倉遺跡 (沼田市岡谷町)	弥生時代 後期櫛期竪穴住居跡9軒、土坑	「師遺跡・鎌倉遺跡」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
12	戸神諏訪遺跡 (沼田市町田町)	旧石器時代 石器8点、縄文時代 陥し穴、弥生時代 後期竪穴住居跡70軒、平安時代 竪穴住居跡93軒、掘立柱建物跡35棟、寺院跡1基、 「宮田寺」墨書土器出土	「戸神諏訪遺跡」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990
13	石墨遺跡 (沼田市石墨町)	縄文時代 早期陥し穴9基、前期竪穴住居跡1軒、弥生時代 後期竪穴住居跡6軒、土壙墓6基、古墳時代 前期11軒、後期11軒、奈良時代 竪穴住居跡1軒、平安時代 竪穴住居跡48軒、小鍛冶2基	「石墨遺跡」 沼田市教育委員会 1985
14	戸神吉田遺跡 (沼田市戸神町)	弥生時代 後期竪穴住居跡2軒、古墳時代 前期竪穴住居跡1軒	「戸神吉田遺跡」 沼田市教育委員会 1988
15	寺入遺跡 (沼田市石墨町)	縄文時代 中期竪穴住居跡16軒、後期竪穴住居跡1軒、土坑25基、配石遺構1基	「寺入遺跡」 沼田市教育委員会 1987
16	町田小沢遺跡 (沼田市町田町)	弥生時代 後期竪穴住居跡3軒、平安時代 竪穴住居跡13軒、掘立柱建物跡1棟、竪穴住居跡より奈良三彩小壺出土	「町田小沢遺跡」 沼田市埋蔵文化財発掘調査団 1991
17	土塔原遺跡 (沼田市町田町)	戸神諏訪遺跡南側、弥生時代 土坑、古墳時代 竪穴住居跡、平安時代 竪穴住居跡、寺院跡(戸神諏訪遺跡で検出されたものの南半)	「年報9」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990
18	北部工業団地遺跡 (沼田市町田町)	戸神諏訪遺跡南側、土塔原遺跡西側 弥生時代 竪穴住居跡、方形周溝墓、平安時代 竪穴住居跡群	「年報9」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990
19	十二原遺跡 (沼田市町田町)	縄文時代 竪穴住居跡2軒、土坑、弥生時代 後期竪穴住居跡2軒 古墳時代 後期竪穴住居跡5軒、奈良・平安時代 竪穴住居跡45軒掘立柱建物跡3棟	「年報10」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
20	大釜遺跡 (沼田市大釜町他)	奈良・平安時代 竪穴住居跡29軒	「大釜遺跡・金山古墳群」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
21	大釜漏1号墳 (沼田市大釜町)	古墳時代 円墳1基、山寄せ式自然石乱石積無袖型石室	「大釜漏1号古墳」 沼田市教育委員会 1982
22	高野原遺跡 (沼田市横塚町)	弥生時代 後期竪穴住居跡2軒、古墳時代 前期竪穴住居跡4軒 平安時代 墓坑4基	「門前橋詰・舂海戸・高野原遺跡」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
23	清水遺跡 (沼田市横塚町)	古墳時代 前期竪穴住居跡1軒	「年報1」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
24	奈良田向遺跡 (沼田市奈良町)	弥生時代 後期竪穴住居跡3軒、平安時代 竪穴住居跡13軒	「奈良地区遺跡群(奈良田向遺跡)」 沼田市教育委員会 1990
25	奈良原遺跡 (沼田市奈良町)	縄文時代 前期竪穴住居跡8軒、弥生時代 後期竪穴住居跡7軒 平安時代 竪穴住居跡2軒、中世 堀、墓坑群	「奈良地区遺跡群(奈良原遺跡)」 沼田市教育委員会 1992
26	奈良古墳群 (沼田市奈良町)	古墳時代 6世紀後半～8世紀初頭の古墳群、円墳	「群馬県史 資料編3」 群馬県史編纂室 1981
27	秋塚古墳群 (沼田市秋塚町)	古墳時代 6世紀後半以後の古墳群、円墳8基	「秋塚古墳群Ⅰ」 沼田市教育委員会 1991
28	諏訪平遺跡 (沼田市井戸上町)	弥生時代 集落跡	

第3章 立地と環境

No.	遺跡名 (所在地)	遺跡の概要	文献
29	糸井宮前遺跡 (昭和村糸井)	縄文時代 前期竪穴住居跡95軒、土坑323基、古墳時代 前期竪穴住居跡37軒、後期竪穴住居跡8軒、平安時代 竪穴住居跡26軒	「糸井宮前Ⅰ・Ⅱ」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 85・86
30	中棚遺跡 (昭和村川額)	縄文時代 早期土坑10基、前期竪穴住居跡26軒、土坑152基、弥生時代 竪穴住居跡5軒、土坑1基、平安時代 竪穴住居跡28軒	「中棚遺跡—長井坂城遺跡—」 昭和村教育委員会 1985
31	長井坂遺跡 (昭和村永井)	旧石器時代 集中出土地点2地点、中世 城跡(空堀、帯曲輪)	「中棚遺跡—長井坂城遺跡—」 昭和村教育委員会 1985
32	久呂保中学校裏古墳 (昭和村川額)	古墳時代 円墳、両袖型石室	「群馬県史 資料編3」 群馬県史編纂室
33	鏡石古墳 (昭和村川額)	古墳時代 円墳、F Pで覆われている。	「鏡石古墳」 群馬県教育委員会 1975
34	門前橋詰遺跡 (川場村門前)	縄文時代 前期竪穴住居跡1軒、弥生時代 後期竪穴住居跡1軒	「門前橋詰・舩海戸・高野原遺跡」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
35	舩海戸遺跡 (川場村門前)	弥生時代 後期竪穴住居跡1軒、古墳時代 前期竪穴住居跡1軒 平安時代 竪穴住居跡1軒	「門前橋詰・舩海戸・高野原遺跡」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
36	内手遺跡 (川場村萩室)	縄文時代 陥し穴、土坑	「内手遺跡」 川場村教育委員会 1980
37	大友館跡 (川場村谷地)	中世 館跡(堀、土塁)	「大友館跡」 川場村教育委員会 1983
38	寺谷遺跡 (白沢村下古語父)	縄文時代 中期竪穴住居跡4軒、炉跡4基、埋甕2基、土坑14基 弥生時代 後期竪穴住居跡2軒、古墳時代 中期竪穴住居跡3軒、祭祀跡1基、後期竪穴住居跡1軒、平安時代 竪穴住居跡1軒	「寺谷遺跡(図版編)」 白沢村教育委員会 1980
39	金山古墳群 (月夜野町師)	古墳時代 円墳4基、山寄せ式無袖型石室3基、山寄せ式両袖型石室1基	「大釜遺跡・金山古墳群」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
40	後田遺跡 (月夜野町師)	旧石器時代 石器集中出土地点47地点4,499点、縄文時代 前期竪穴住居跡9軒、古墳時代 後期竪穴住居跡246軒、奈良時代 竪穴住居跡36軒、平安時代 24軒、中世 掘立柱建物跡、井戸等	「後田遺跡Ⅰ・Ⅱ」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 88・89
41	師遺跡 (月夜野町師)	古墳時代 後期竪穴住居跡87軒、奈良・平安時代4軒	「師遺跡・鎌倉遺跡」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
42	三峰神社裏遺跡 (月夜野町師)	縄文時代 前期竪穴住居跡13軒、土坑91基、古墳時代 円墳1基、竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟	「三峰神社裏遺跡・大友館址遺跡」 月夜野町教育委員会 1986
43	大友館址遺跡 (月夜野町師)	旧石器時代 石器集中出土地点、縄文時代 竪穴住居跡3軒、土坑 平安時代 竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡5棟、土坑5基、中世 館跡(堀、池、掘立柱建物跡、小鍛冶等)	「三峰神社裏遺跡・大友館址遺跡」 月夜野町教育委員会 1986
44	善上遺跡 (月夜野町師)	旧石器時代 石器集中出土地点12地点933点、縄文時代 竪穴住居跡15軒、土坑286基、古墳時代 円墳2基自然石乱積無袖型石室、後期竪穴住居跡1軒、中世 竪穴遺構1基	「善上遺跡」 月夜野町教育委員会 1986
45	観音堂遺跡 (月夜野町政所)	弥生時代 後期竪穴住居跡35軒、方形周溝墓、環濠、古墳時代 1基 F P降下前構築、平安時代 竪穴住居跡6軒	「町内遺跡Ⅰ」 月夜野町教育委員会 1991
46	沢口遺跡 (月夜野町政所)	弥生時代 集落跡、古墳時代 集落跡、方形周溝墓、古墳、平安時代 集落跡、製鉄跡、中世 館跡	「年報9」 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990
47	師西部地区遺跡群 (月夜野町師)	弥生時代 竪穴住居跡7軒、古墳～平安時代 竪穴住居跡108軒 掘立柱建物跡3棟、方形周溝墓5基	
48	京塚古墳 (月夜野町師)	古墳時代 円墳両袖型石室	「群馬県史 資料編3」 群馬県史編纂室 1981
49	八東経洞窟遺跡 (月夜野町)	弥生時代 中期墓跡(穿孔した人指骨・歯出土)	「群馬県史 資料編2」 群馬県史編纂室 1986
50	森下古墳群	(昭和村川額)	
51	川額古墳群	(昭和村川額)	
52	糸井古墳群	(昭和村糸井)	
53	塚田古墳群	(沼田市戸鹿野)	
54	愛宕山古墳群	(沼田市横塚町)	
55	生品古墳群	(川場村生品)	
56	天神古墳群	(川場村生品)	
57	碑田古墳群	(月夜野町後閑)	
58	政所・真庭古墳群	(月夜野町政所)	
59	川田城址	(沼田市下川田町)	
60	沼田城址	(沼田市西倉内町)	
61	旧石器出土地点	(沼田市下川田町) 黒曜石製尖頭器	県立歴史博物館所蔵

# 下川田下原遺跡

## 第4章 下川田下原遺跡の遺構・遺物

### 概要

当遺跡からは、掘立柱建物跡1棟、柵列跡2列、堀跡3条、墓坑1基、土坑72基と縄文時代の包含層より土器・石器が検出、出土している。

掘立柱建物跡、柵列跡、堀跡、墓坑は、中世のものであるが、出土遺物が少なく明確な時期については不明である。また、堀跡、柵列跡は、中世城館跡の一画であると推定される。

土坑は、72基が検出されたが遺物の出土したものは4基だけで出土した遺物はすべて縄文土器であったが、他の土坑も埋土、形態から縄文時代のものが大部分である。



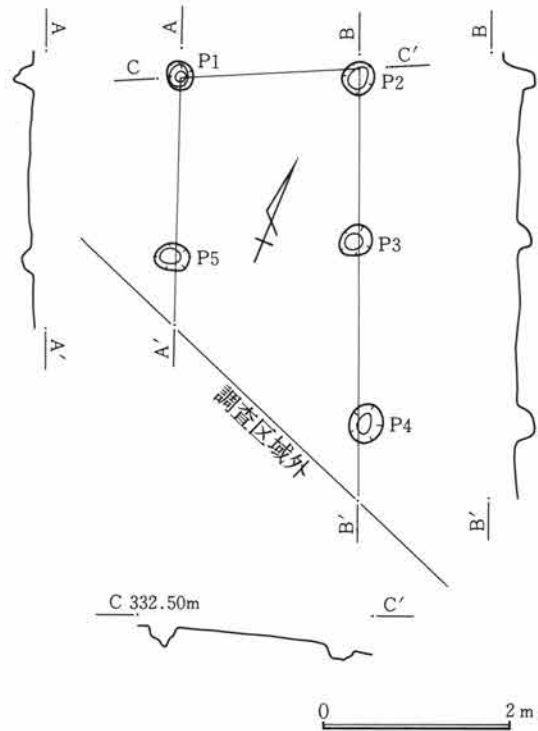
第10図 下川田下原遺跡全体図

調査風景

## 1. 掘立柱建物跡

### 1号掘立柱建物跡

AP～AQ-13～14グリッドに位置し、南西角の柱穴は調査区外にのびる。規模は調査区内では3.68×1.88mで桁行2間、梁行1間で床面積は推定で6.92㎡を測る。主軸方向は、N-21°-Wである。柱間距離はP1～2が1.88m、P2～3が1.75m、P3～4が1.94m、P5～1が1.90mである。柱穴の形態は円形または楕円形を呈し、規模はP1が径27cm、深度18cm、P2が径35×24cm、深度14cm、P3が径40×30cm、深度16cm、P4が径42×34cm、深度22cm、P6が径36×30cm、深度10cmで、各柱穴から柱痕は確認されなかった。



第11図 1号掘立柱建物跡

## 2. 柵列

当遺跡からは、柵列が2列検出されたが、1号堀と3号堀と平行するような位置に設置され、柱穴埋没土も1号・3号堀と同様な浅間B軽石（As-B）を多く含む黒色土であることから1号・3号堀と同一な時期のものと推定される。1号柵列と2号柵列は、柱穴の規模や柱間距離、方向に若干の差が見られるため区分したが、用途としては堀に囲まれた空間をほぼ中間で二分に区画する目的は同一のものであったと想定される。

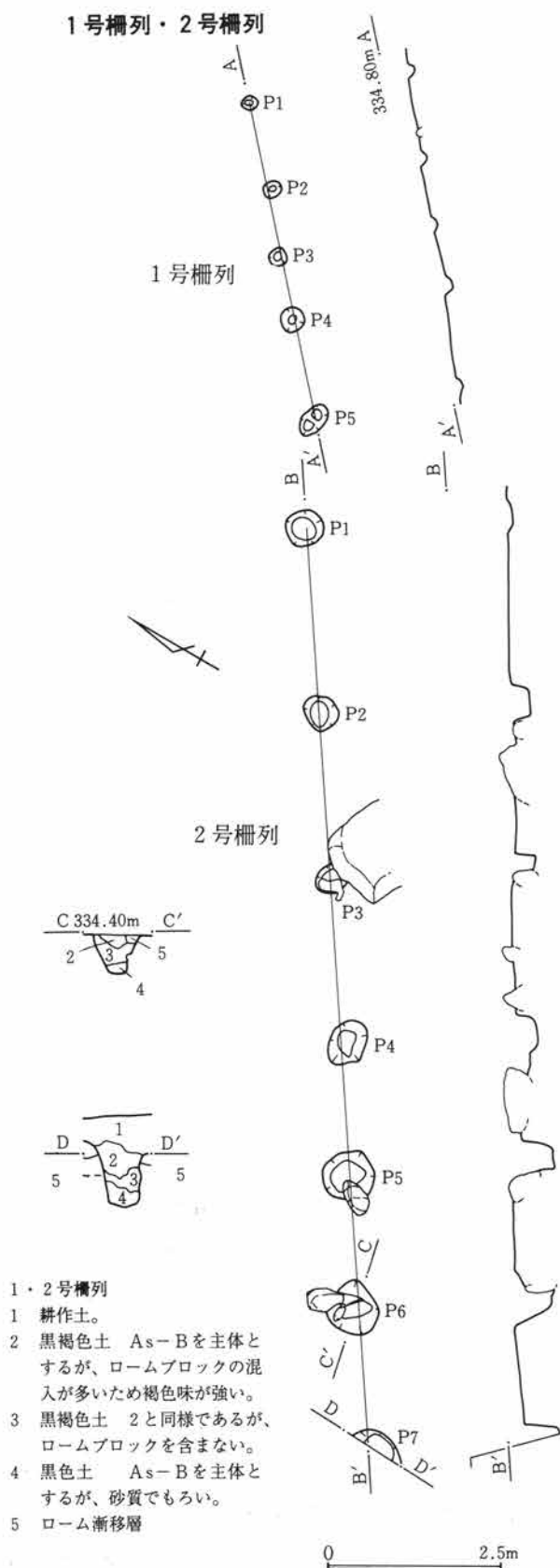
### 1号柵列

BJ-32～BK-32グリッドに位置し、柱穴は5本検出され、全長は4.60mで、方位はN-51°-Eである。柱間距離はP1～2が1.28m、P2～3が0.96m、P3～4が0.94m、P4～5が1.47mを測る。柱穴の規模はP1が径23×20cm、深度13cm、P

2が径28×23cm、深度12cm、P3が径30×25cm、深度10cm、P4が径34×34cm、深度14cm、P5が径40×32cm、深度18cmである。

### 2号柵列

BH-37～BJ-33グリッドに位置するが、当柵列はP7の半分は調査区外に存在し、全体も西側調査区外にのびる可能性が高い。柱穴は7本検出され、調査区内の全長は13.17mで、方位はN-56°-Eである。柱間距離はP1～2が2.63m、P2～3が2.80m、P3～4が2.86m、P4～5が1.87m、P5～6が1.93m、P6～7が2.08mを測る。柱穴の規模はP1が径55×46cm、深度29cm、P2が径50×46cm、深度29cm、P3が径40×35cm、深度33cm、P4が径70×54cm、深度44cm、P5が径74×70cm、深度40cm、P6が径77×72cm、深度55cm、P7が80×(25+α)cm、深度52cmである。



第12図 1号・2号柵列

### 3. 堀

当遺跡では、第10図のように平行する2条の堀、1号堀・3号堀と1号堀の南側に「コ」の字状堀の2号堀の3条の堀が検出された。1号堀と3号堀は規模も同様でその走行もほぼ平行して位置し、埋没土もAs-Bを多量に含む黒色土で埋没している点などから同時期に存在したと想定される。1号堀・3号堀は、現地形においても20~50cmの段差をもち調査区外においてもその存在が確認される。また、2号堀はその形態から城郭に設置された「馬出」遺構と想定され、これら3条の堀は城郭跡の一部であると想定される。

#### 1号堀

当堀は、現地表面でも南側が30~50cmの比高差をもつ段がみられる。この段は東は利根川にのぞむ段丘面まで達する約20mほどと、西は調査区を二分する市道に沿って約40mほど確認が可能で全長約90mほどになると推定される。調査区内ではAU~BB-27~34グリッドに位置する。堀の走行はN-50°-Eの方向である。調査をおこなった全長は27.50mで幅は西側に比べ東側がやや広く5.20~6.50m、底部幅は1.10~1.70mである。深度は2.75~3.00mである。底部面は西から東へ現地表と同様な傾斜をもつ。断面形態は薬研堀状を呈する。埋没土は数層に分層が可能であるが各層ともAs-Bを多量に含む黒褐色土でφ20~100cmほどの礫を多量に含んでおり、西側より流れ込んだ多量の土砂により短時間に大部分が埋没したような状態である。また、幅6m、深度3mもの堀を掘削したのであるから当然その排土で土塁等を構築したと想定されるが堀の内部や周辺では確認されなかった。

なお、遺物の出土は皆無であった。

#### 3号堀

当堀は、1号堀と同様に現地表面でも南側が30~50cmの比高差をもつ段がみられる。西は現在の地境



にそって約45mほど確認が可能で全長約60m以上になると推定される。調査区内ではBN～BR-40～44グリッドに位置する。堀の走行は1号堀と同様にN-50°-Eの方向である。調査をおこなった長さは14.50mで、幅はほぼ6.00m、底部幅は0.90～2.00mである。深度は2.50～3.00mである。底部面は西から東へ現地表と同様な傾斜をもつ。断面形態は薬研堀状を呈する。このように規模、形態はほぼ1号堀と同様である。

埋没土は数層に分層が可能であるが1号堀と同様にAs-Bを多量に含む黒褐色土でφ20～200cmほどの礫を多量に含んでおり、埋没の状態も1号堀と同様に西側より短期間に流されてきた土砂により大部分が埋没したような状態である。

出土遺物は底部より「熙寧元寶」が1枚出土している他、調査区東端の中位より馬骨2体が検出された。この馬骨は堀が完全に埋没していない状態の時に投棄されたものと推定される。

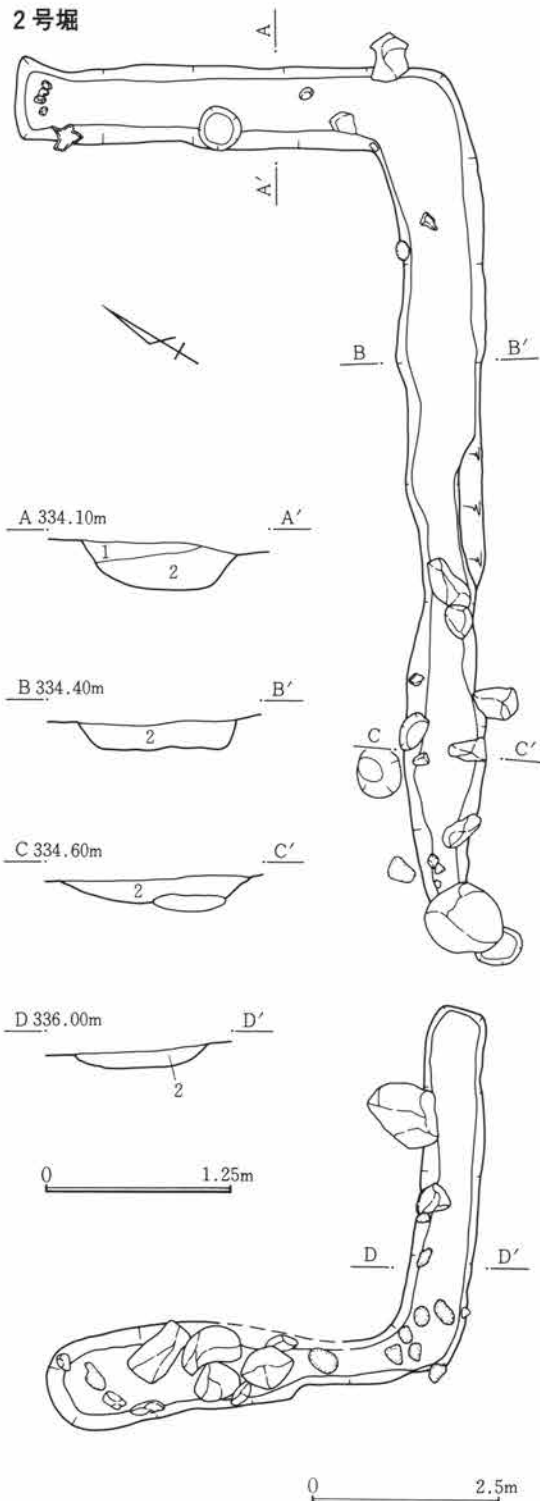
### 2号堀

AU～AY-26～30グリッド、1号堀の南側に位置する。平面形態は「コ」の字状を呈し、中間に1カ所0.7mほどの分断する部分がみられる。規模は全長25.80m、幅は最小0.73m、最大1.15mである。深度は最小0.10m、最大0.32mである。

埋没土は1号堀と同様なAs-Bを多量に含む黒褐色土で埋没している。

遺物の出土は見られなかった。

当堀は1号堀との位置関係やその平面形態から前述のように1号堀と3号堀に囲まれた城館跡の「馬出」に相当すると考えられる。



### 2号堀

- 1 暗褐色土 As-Bを5%含む。
- 2 黒褐色土 砂質土、As-Bを20%とFPを5%含む。

第13図 2号堀



第14図 3号堀 馬骨出土状態



1号堀

- 1 黒褐色土 粒子粗く粘性がなく、FP、小礫を多く含む。
- 2 黒褐色土 粒子粗く粘性がなく、FP、小礫、ローム粒を僅かに含む。
- 3 黒褐色土 粒子粗く粘性がなく、FP、小礫、黄褐色ロームブロックを僅かに含む。
- 4 黒褐色土 粒子細かく粘性が弱く、FP、小礫を僅かに含む。
- 5 黒褐色土 粒子粗く粘性がなく、As-Bを混入した黄褐色ロームブロックを多く含む。
- 6 黒褐色土 粒子粗く粘性がなく、FP、小礫を僅かに、黒色砂質土層（5に対応か）を含む。
- 7 黒褐色土 粒子細かく粘性が弱く、FP、小礫、大礫を僅かに含む。
- 8 黒褐色土 粒子粗く砂質で粘性がなく、FP、小礫を僅かに含む。
- 9 暗褐色土 粒子粗く砂質で粘性がなく、ローム粒、大礫を多く含む。

- 10 黒褐色土 粒子粗く砂質で粘性がなく、大礫を多く含む。
- 11 黒褐色土 粒子粗く砂質で粘性がなく、FP、小礫を僅かに含む。
- 12 褐色土 粒子粗く砂質で粘性がなく、ローム崩落土主体、小礫を含む。
- 13 12に同様。
- 14 10・11に同様。
- 15 暗褐色土 粒子細かく粘性が弱く、黒褐色土ブロックを多く含む。
- 16 褐色土 粒子細かく粘性が弱く、ローム漸移層の流れ込み。
- 17 黄褐色土 ローム漸移層。
- 18 黒色土 黒色砂、φ7~8cmの礫を多く含む。

第15図 1号堀





- 3号堀
- |            |                                      |
|------------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色土     | 粒子粗く粘性がなく、F P、小礫を多く含む。               |
| 2 暗褐色土     | 粒子粗く粘性がなく、As-B粒、F P、小礫を多く含む。         |
| 3 暗褐色土     | 粒子粗く粘性がなく、F P、小礫、褐色土ブロックを含む。         |
| 4 黒褐色土     | 粒子粗く砂質で粘性がなく、As-B粒、F P、小礫を含む。        |
| 5 黒褐色土     | 粒子粗く粘性がなく、F P、小礫、褐色土大ブロックを含む。        |
| 6 黒褐色土     | 粒子粗く粘性がなく、As-B粒、F P、小礫、褐色土ブロックを多く含む。 |
| 7 暗褐色土     | 粒子粗く粘性がなく、F P、小礫を含む。                 |
| 8 黒褐色土     | 粒子粗く粘性がなく、As-Bを多く含む。                 |
| 9 黒褐色土     | 粒子粗く粘性がなく、F P、小礫を含む。                 |
| 10 にぶい黄褐色土 | 粒子粗く粘性が弱く、F P、小礫を僅かに含む。              |
| 11 暗褐色土    | 粒子やや粗く粘性がなく、F P、小礫を僅かに含む。            |

第16図 3号堀



4. 墓坑

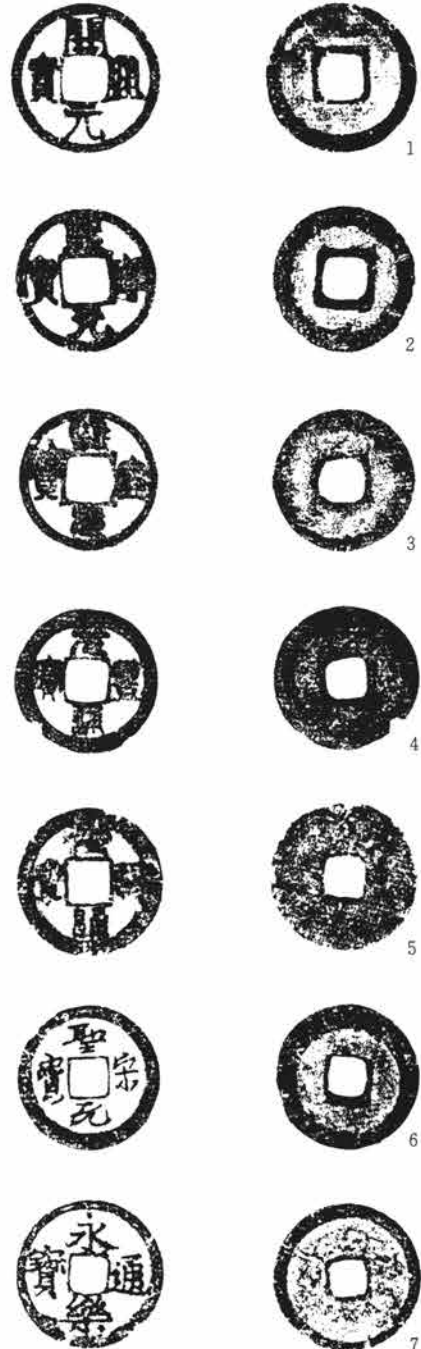
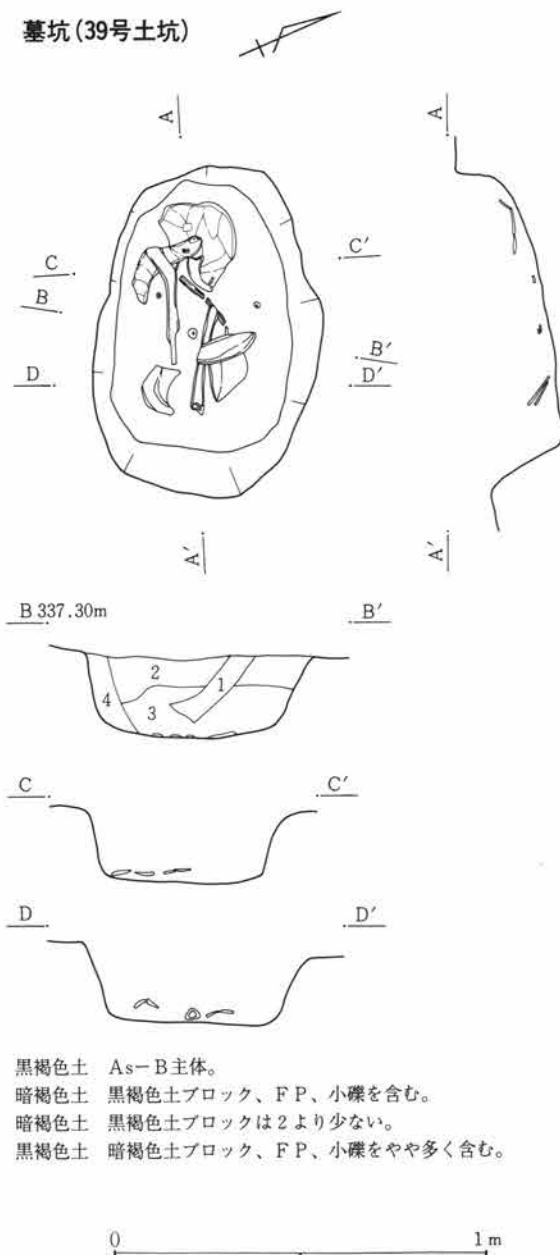
39号土坑

BS-50グリッドに位置し、形態は多少北側の辺が短いもののほぼ長方形を呈す。規模は長径0.87m、短径0.59m、深度0.24mで底面はほぼ平坦である。

埋葬の状態は頭部を西側にして足を胴まで折り曲げ腕で抱え込むようにして顔を北へ向けて横臥せの

状態で埋葬されている。足元の上部より円礫が2点出土しているほか、胴部の両側より渡来銭がやや分散ぎみに7枚出土しており、渡来銭の内訳は開元通寶1枚、熙寧元寶2枚、元豐通寶1枚、元祐通寶1枚、聖宋通寶1枚、永樂通寶1枚である。

墓坑(39号土坑)



第17図 墓坑(39号土坑)

錢貨スケール(%)

5. 土坑

当遺跡からは、第3表のように71基の土坑が検出された。遺物の出土したものは28号、29号、32号、69号の4基だけであるが出土遺物はみな縄文土器である。また、15号、41号土坑の埋土中に多量のAs-Bを含むことから古代末から中世、また、40号、43号、46号土坑は埋土中に多くのFPを含むことから古代に比定される。その他の土坑については、時期の比定はできなかった。

32号土坑

一辺5mから5.5mの小竪穴状のものである。底面は多少の凹凸がみられ、北西部分がさらに10cmほど低い。壁面は明確な立ち上がりはみられず緩やかな傾斜をもつ。出土遺物には縄文後期加曾利B式の破片がみられる。

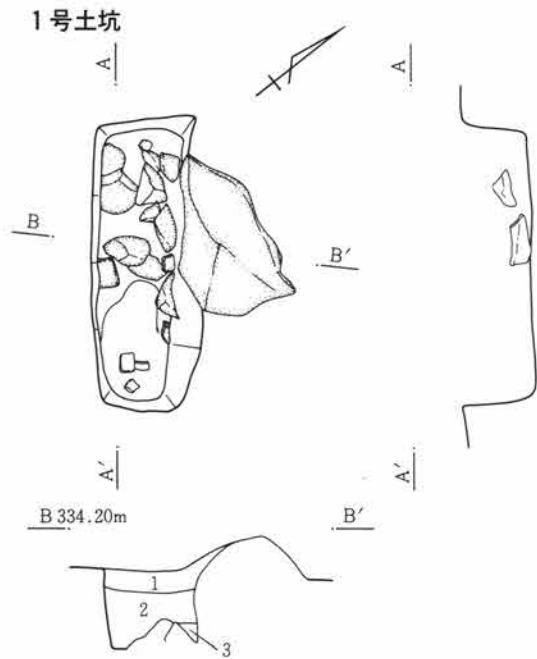
69号土坑

土坑上面に安山岩質のφ5~20cmの円礫を多量に集めており、礫の一部には焼成を受けたものもみられる。出土遺物には縄文早期三戸式の破片がみられる。

第3表 下川田下原遺跡土坑表

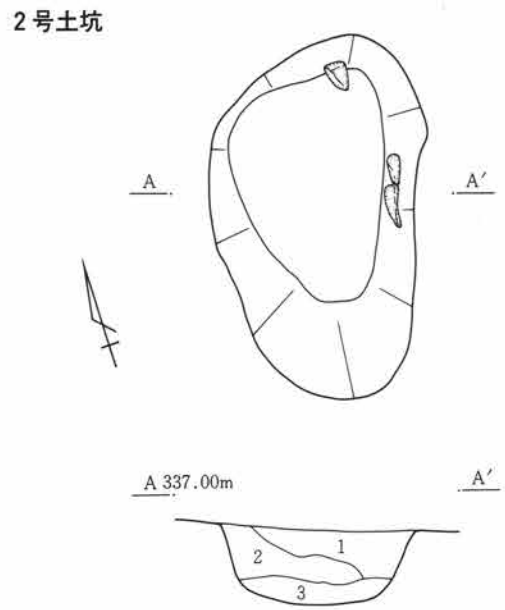
土坑 No.	位置	形態	規模 (m)			重複関係	土坑 No.	位置	形態	規模 (m)			重複関係
			長径	短径	深度					長径	短径	深度	
1	AW-21	長方形	1.55	0.50	0.66		41	BL-41	楕円形	5.15	(3.5)	0.415	42土坑←
2	AX-21	楕円形	1.80	1.10	0.40		42	BM-37	隅円台形	(3.65)	(2.86)	0.38	41土坑→
3	AX-21	不整形	1.45	1.26	0.36		43	BL-35	隅円長方形	4.15	2.65	0.55	
4	AW-22	隅円長方形	1.45	0.96	0.26		44	BM-34	台形	2.66	2.06	0.41	
5	AX-21	円形	1.43	1.24	0.26		45	BL-33	円形	0.85	0.75	0.67	
6	AS-22	円形	1.45	1.20	0.30		46	BM-34	方形	1.90	1.75	0.47	
7	AT-22	方形	0.95	0.53	0.33		47	BL-33	方形	1.33	1.18	0.67	
8	AS-21	不整形	1.28	0.65	0.10		48	BK-33	方形	1.27	1.25	0.43	
9	AR-22	円形	1.16	1.10	0.18		49	BK-34	隅円方形	1.00	0.75	0.43	
10	AS-27	楕円形	1.32	0.92	0.35		50	BJ-31	方形	2.80	2.30	0.82	77土坑→
11	AS-27	台形	1.23	1.17	0.25		51	BJ-30	長方形	1.55	0.80	0.40	
12	AU-25	楕円形	1.10	0.75	0.23		52	BM-38	楕円形	0.93	0.57	0.28	
13	AU-30	楕円形	0.95	0.75	0.14		53	BL-36	円形	1.94	1.20	0.53	
14	AV-31	楕円形	1.25	1.05	0.20		54	BK-36	楕円形	1.00	0.67	0.46	
15	AW-27	不整形	1.17	0.97	0.20		55	BK-35	楕円形	1.02	0.60	0.39	
16	欠番						56	BA-36	不整形	2.20	1.30	0.40	
17	AT-29	楕円形	0.96	0.64	0.25		57	BE-35	円形	1.05	0.95	0.29	
18	AT-29	楕円形	1.03	0.41	0.20		58	欠番					
19	欠番						59	BJ-30	長方形	1.44	1.10	0.34	79土坑←
20	欠番						60	欠番					
21	欠番						61	BI-32	楕円形	1.12	(0.70)	0.25	
22	欠番						62	BF-34	楕円形	1.28	0.95	0.54	
23	AU-29	楕円形	2.14	1.47	0.23		63	BJ-31	楕円形	1.45	1.07	0.54	
24	AV-23	楕円形	(1.15)	1.03	0.52		64	BO-35	長方形	2.10	0.95	0.36	櫛列←
25	AR-27	楕円形	2.02	1.30	0.28		65	BK-35	隅円長方形	1.13	0.73	0.38	
26	AR-28	長方形	1.20	0.60	0.41		66	BL-35	楕円形	1.32	0.90	0.75	
27	AT-25	不整形	1.60	1.28	0.25		67	BK-35	楕円形	0.92	0.74	0.35	
28	AV-27	台形	0.88	0.80	0.25		68	BJ-35	方形	0.60	0.58	0.37	
29	AS-26	楕円形	(3.60)	(1.90)	0.79		69	BN-40	不整形	1.10	1.02	0.44	
30	AV-27	長方形	1.98	1.07	0.22	31土坑←	70	BL-36	円形	0.36	0.44	0.37	71土坑←
31	AV-26	長方形	1.10	0.98	0.25	30土坑→	71	BL-36	楕円形	0.70	0.77	0.21	70→、72←
32	AR-25	隅円長方形	6.98	6.26	0.62		72	BL-36	方形	0.63	0.60	0.58	71土坑→
33	AT-27	長方形	0.94	0.78	0.23		73	BK-35	隅円長方形	0.60	0.57	0.65	
34	AX-34	円形	1.50	1.30	0.49		74	BK-36	楕円形	0.53	0.40	0.40	
35	AX-26	楕円形	(1.45)	(0.80)	0.30		75	BO-39	台形	(4.05)	(3.60)	0.91	
36	AY-26	楕円形	1.35	0.83	0.35		76	BS-46	楕円形	1.23	1.10	0.53	
37	BT-49	楕円形	1.22	0.84	0.60		77	BK-31	楕円形	2.30	(1.02)	0.55	50土坑←
38	BU-50	楕円形	0.77	0.48	0.34		78	BM-36	長方形	1.03	(1.04)	0.53	櫛列←
39	墓坑						79	BI-30	溝状	(4.00)	0.70	0.83	59土坑→
40	BO-41	楕円形	1.70	1.30	0.41								





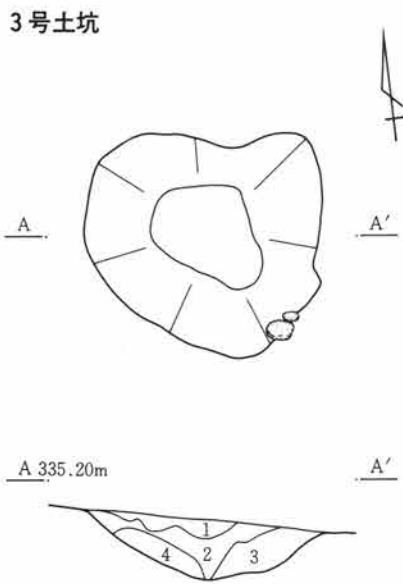
1号土坑

- 1 黒褐色土 多くのFP、小礫とローム粒を含む。
- 2 暗褐色土 多くのFP、小礫とローム粒を含む。
- 3 黒褐色土 1に類似。



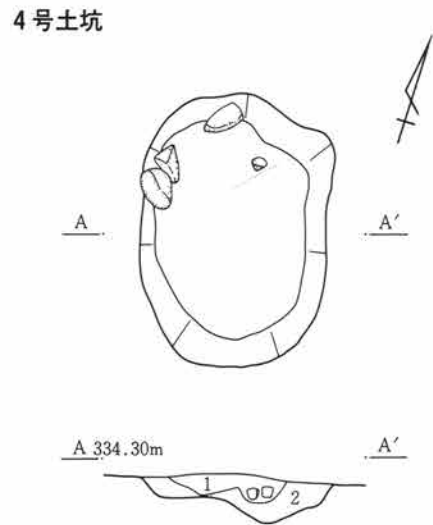
2号土坑

- 1 暗褐色土 黒褐色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 1に類似。
- 3 暗褐色土 1に類似。



3号土坑

- 1 暗褐色土 黒褐色土ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 黒褐色土ブロックを多く含む。
- 3 黒褐色土 暗褐色土ブロックを僅かに含む。
- 4 暗褐色土 黒褐色土ブロックを僅かに含む。

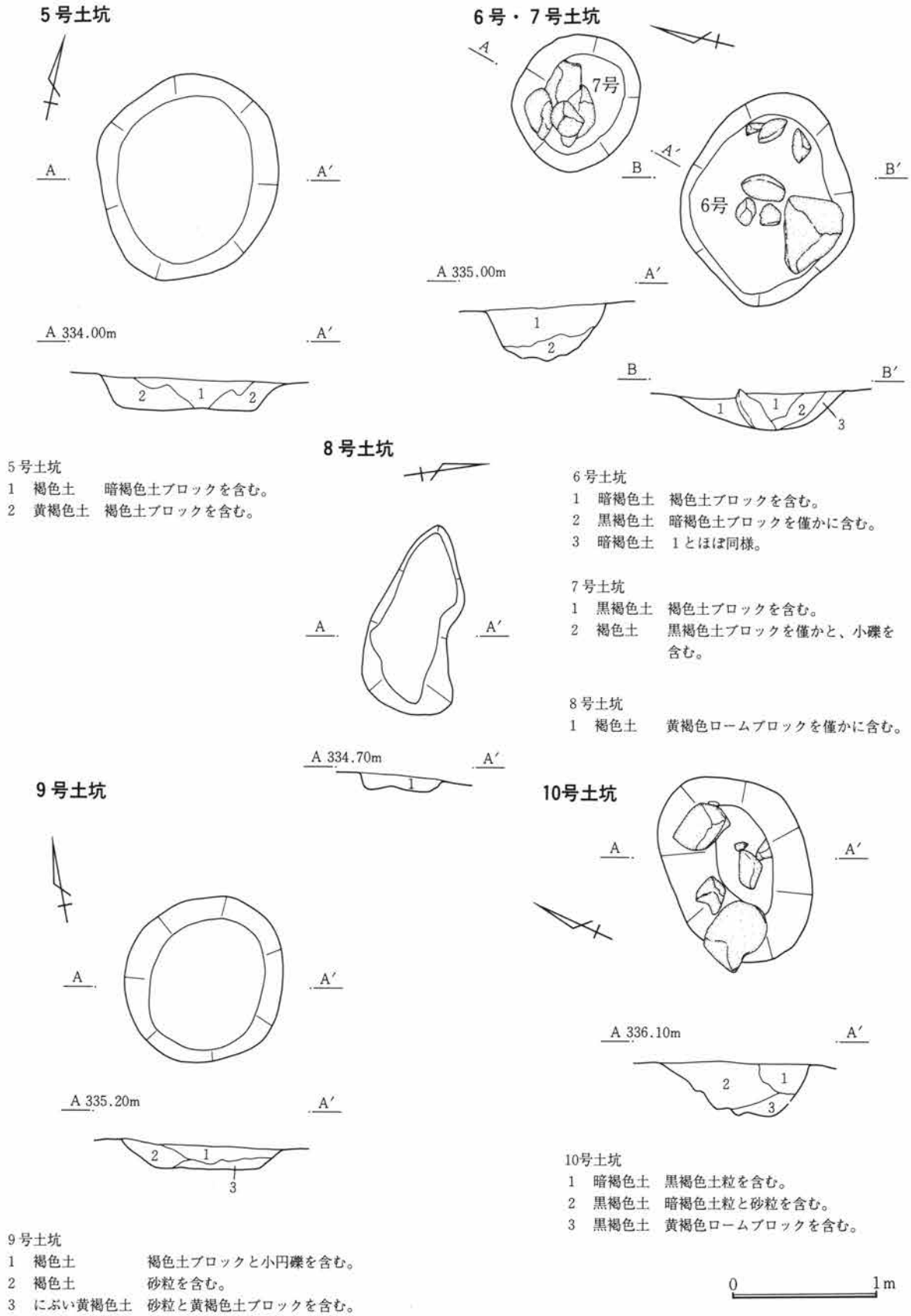


4号土坑

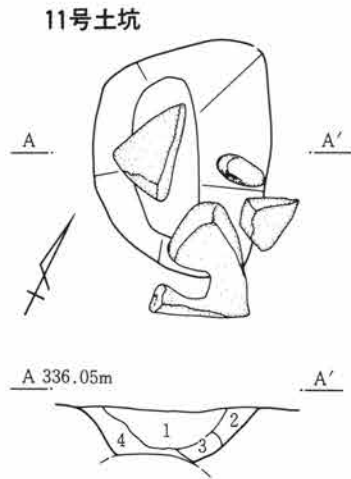
- 1 暗褐色土 炭化物および、褐色土ブロックを含む。
- 2 褐色土 黄褐色土ブロックを含む。



第18図 1号～4号土坑

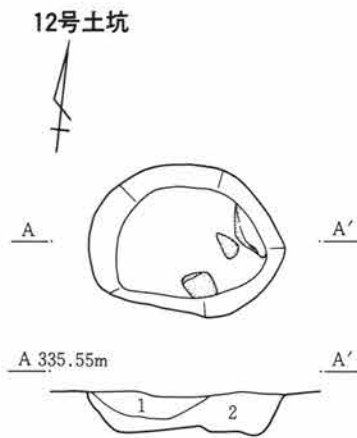


第19図 5号～10号土坑



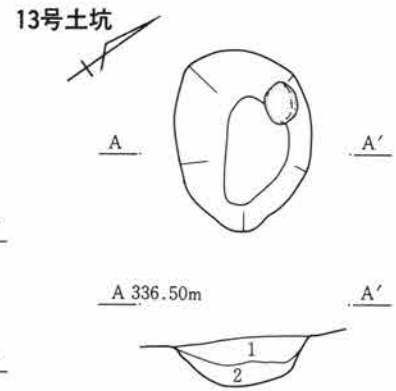
11号土坑

- 1 黒褐色土 黄褐色ローム粒を含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色ローム粒を多く含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色ロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色ロームブロック含む。



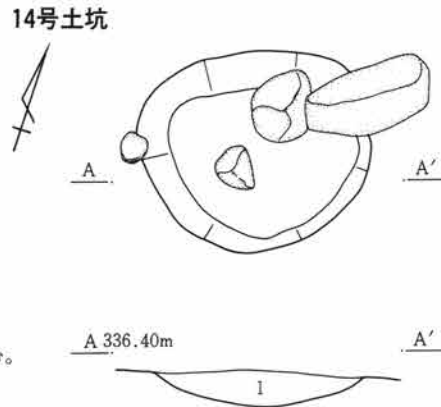
12号土坑

- 1 暗褐色土 小礫を含む。
- 2 暗褐色土 小礫と褐色土ブロックを含む。



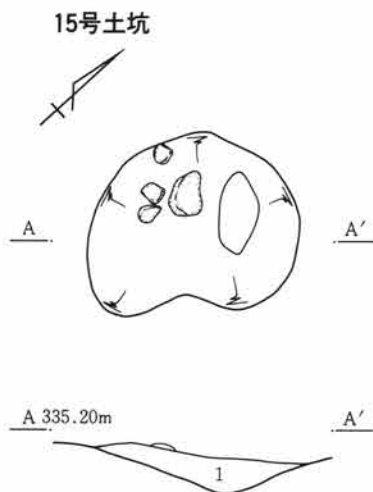
13号土坑

- 1 暗褐色土 黒褐色土ブロックを含む。
- 2 褐色土 小礫を含む。



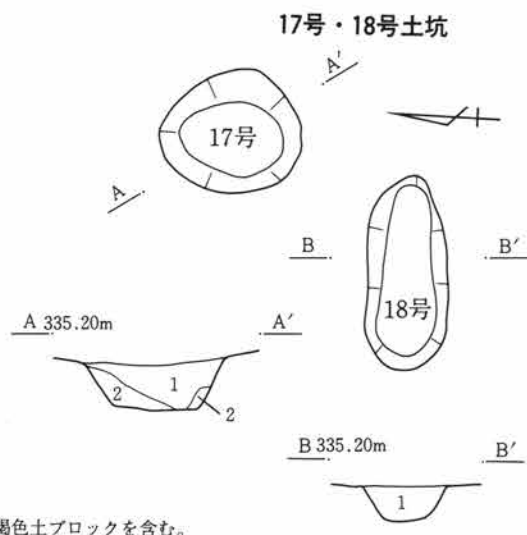
14号土坑

- 1 黒褐色土 褐色土ブロックと小礫を含む。



15号土坑

- 1 黒褐色土 As-B、FP、小礫を含む。



17号土坑

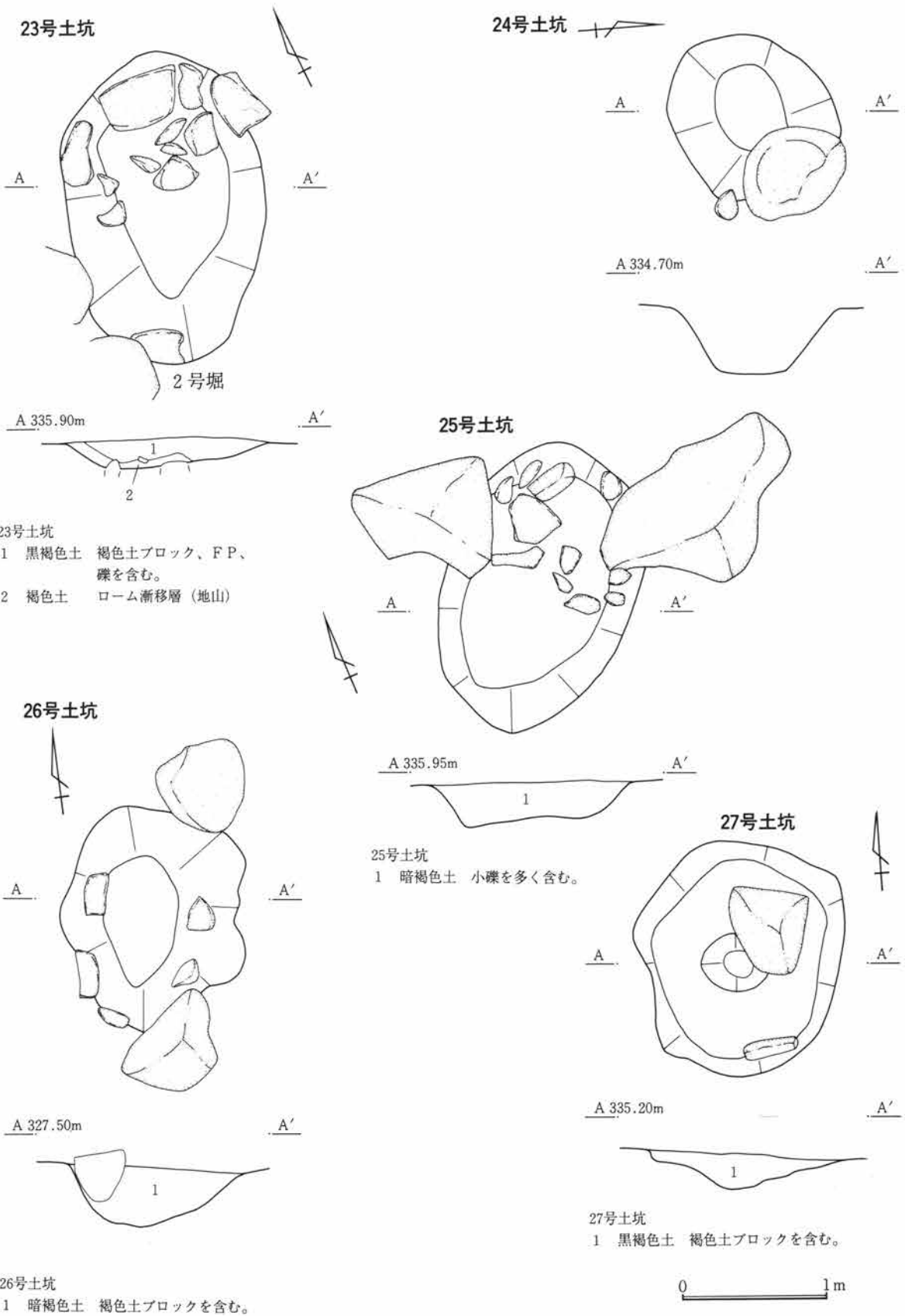
- 1 黒褐色土 褐色土ブロックを含む。
- 2 褐色土

18号土坑

- 1 黒褐色土 褐色土ブロックを含む。

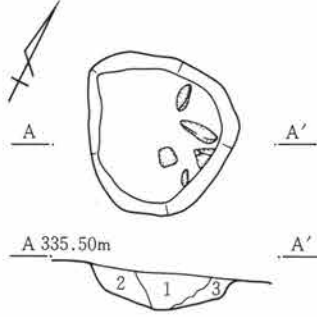


第20図 11号～15号・17号・18号土坑



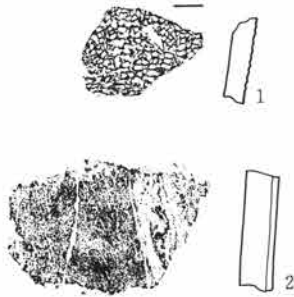
第21図 23号～27号土坑

28号土坑

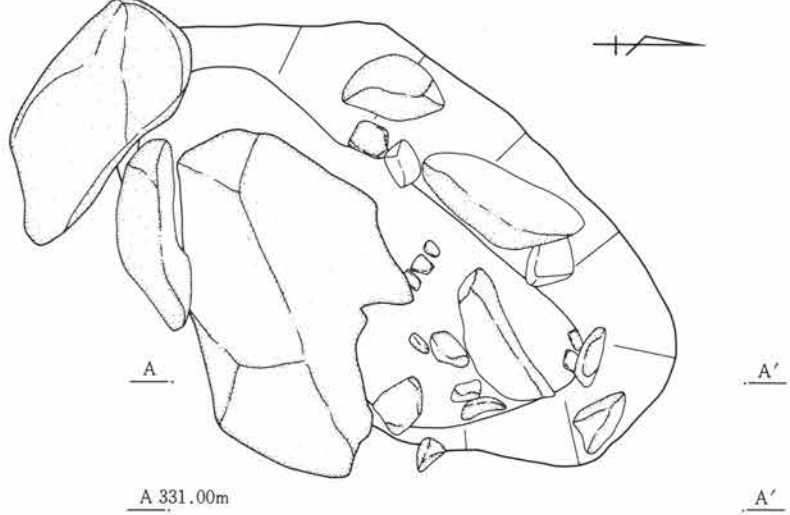


28号土坑

- 1 暗褐色土 ロームの小ブロックを若干含む。
- 2 暗褐色土 ロームの小ブロックを多く含む、やや黄色味を帯びる。
- 3 暗褐色土 2に類似、上面にφ2~3cmの亜角礫、FPを多量に含む。

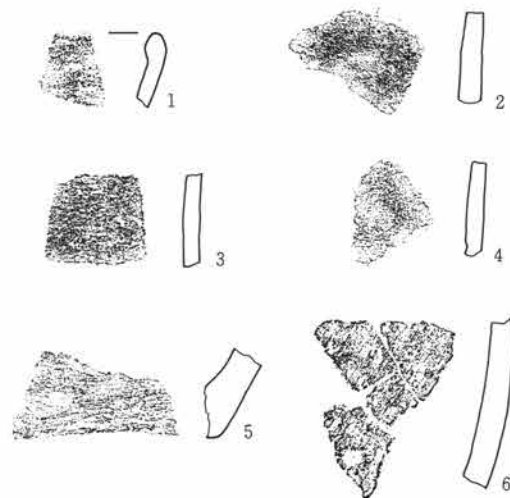


29号土坑



29号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、橙色粒を若干と炭化物を含む。
- 2 暗褐色土 ローム土をしみ状に含む。
- 3 褐色土 ローム土をしみ状に含む。



30号・31号土坑

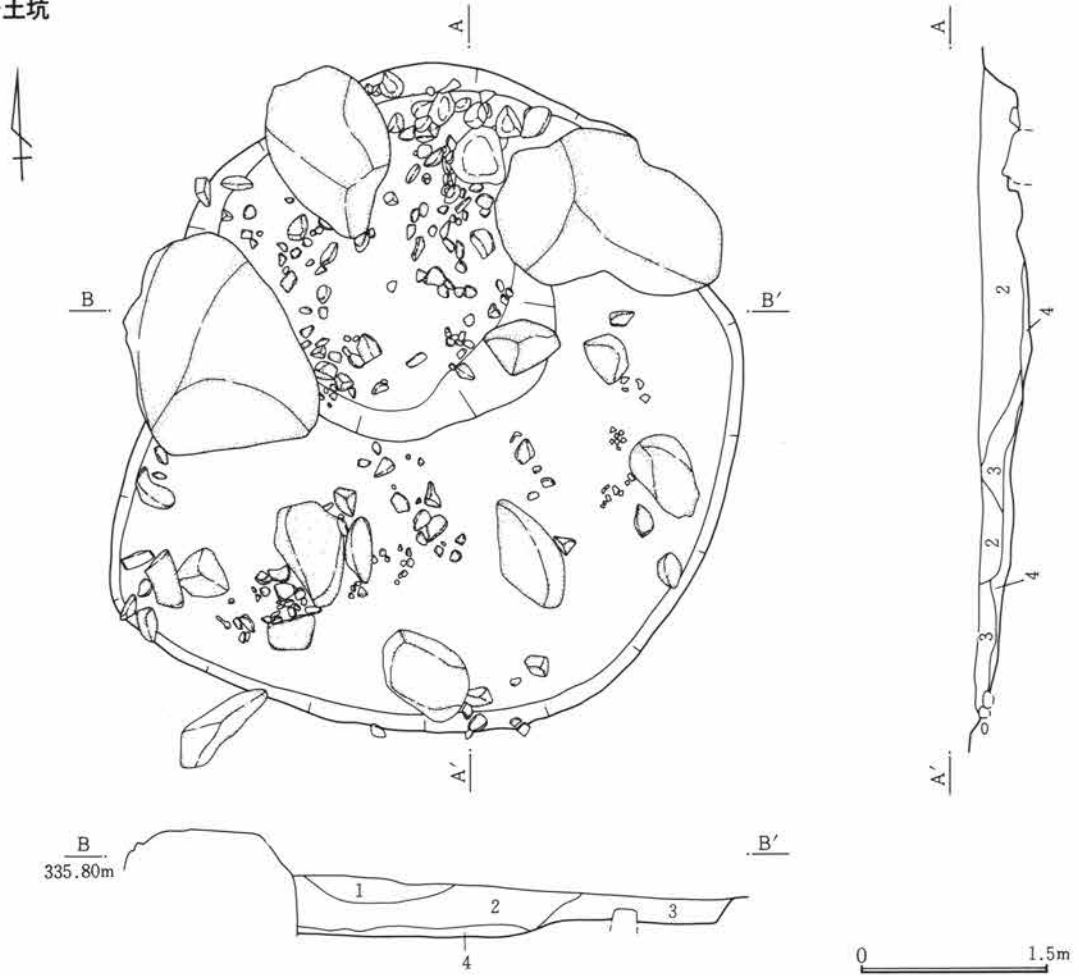


30・31号土坑

- 1 暗褐色土 橙色粒、ローム粒を若干含む。
- 2 にぶい黄褐色土 ローム土の小ブロックを少し含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒を若干と上部にφ2~3cmの角礫を多く含む。
- 4 黒褐色土 3に類似。
- 5 黄褐色土 ローム土を多量に含む。

第22図 28号~31号土坑

32号土坑

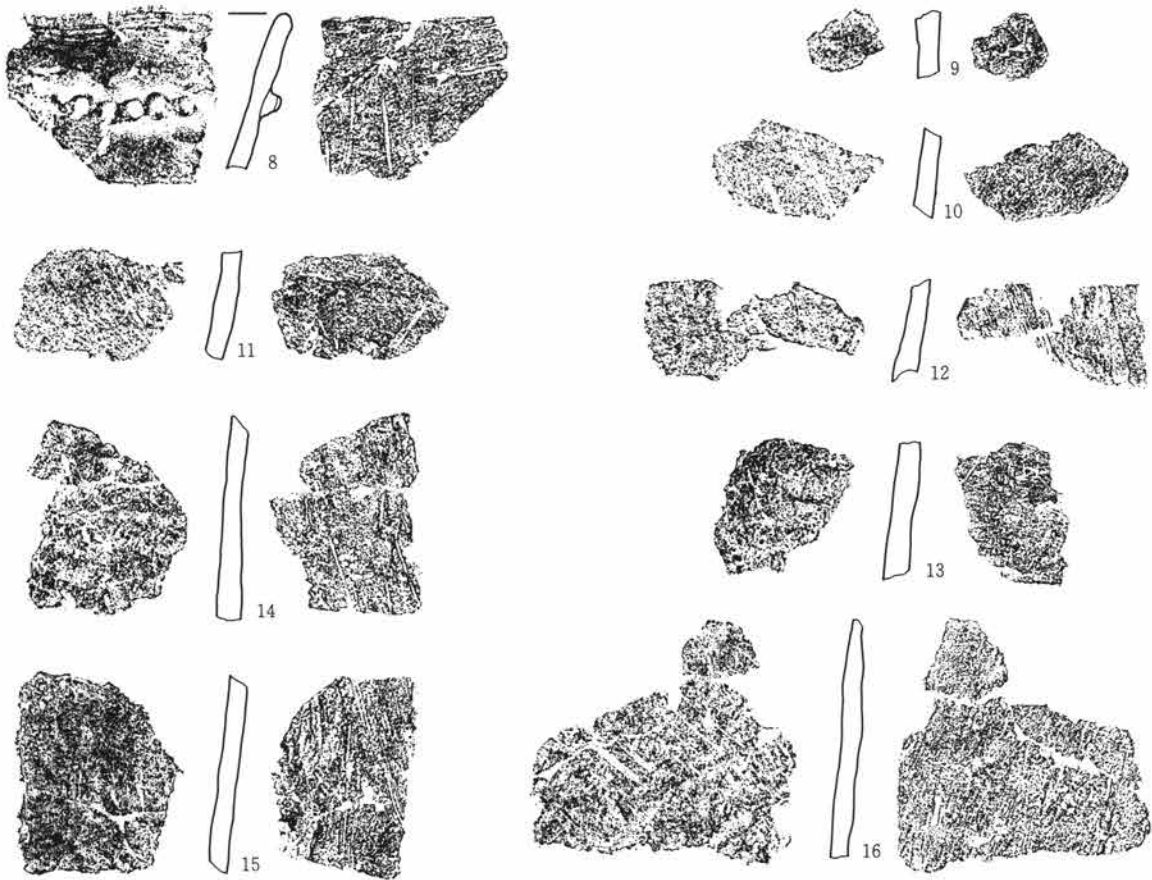


32号土坑

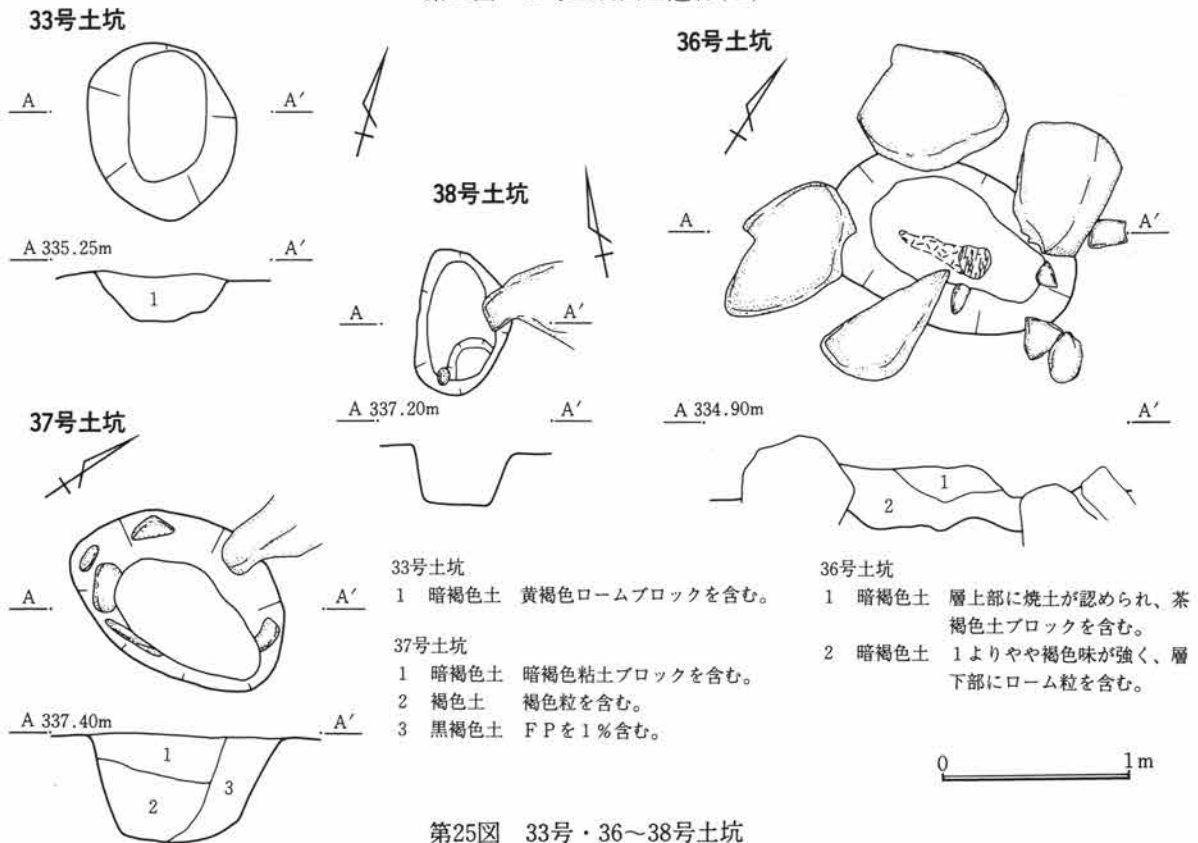
- 1 褐色土 淡黄褐色土（ローム土）をブロック状に若干含む。
- 2 褐色土 ローム土の小ブロックを少し含む。
- 3 褐色土 ローム粒、FPを若干含む。（2層より淡い色調を呈す）
- 4 黄褐色土 ロームの崩落土。



第23図 32号土坑・出土遺物(1)

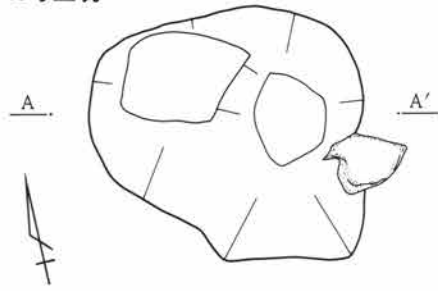


第24図 32号土坑出土遺物(2)



第25図 33号・36~38号土坑

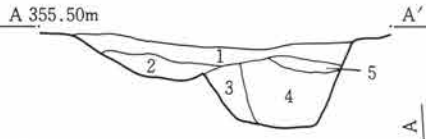
40号土坑



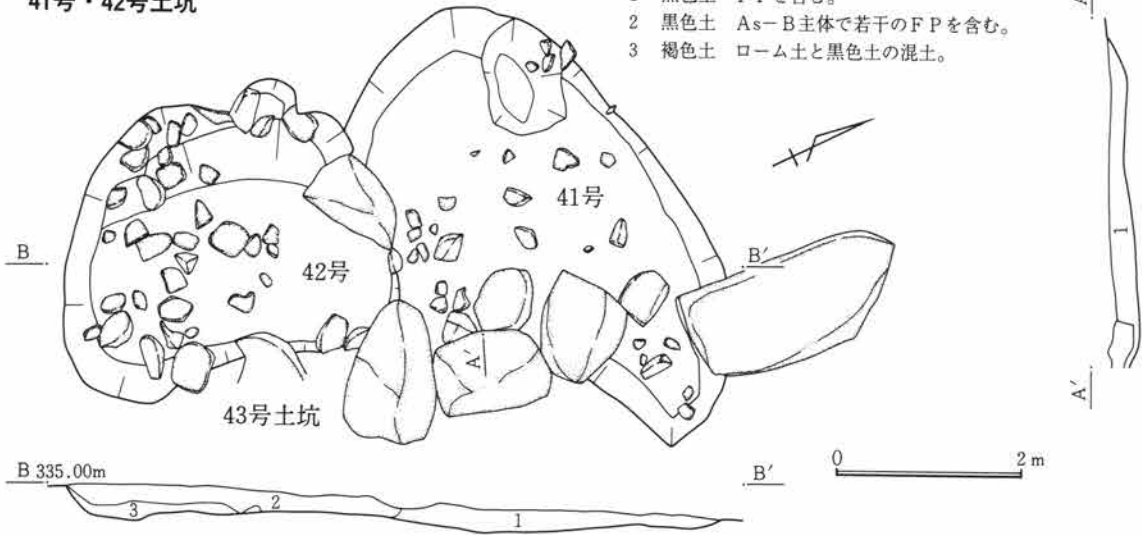
40号土坑

- 1 暗褐色土 φ5~30mmのFP、褐色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 φ3~5mmのFP、褐色土粒を含む。
- 3 褐色土 ロームブロック・ローム粒を含む。
- 4 暗褐色土 φ1~2mmのFP、ローム粒を含む。
- 5 黄褐色ロームブロック土。

0 1m



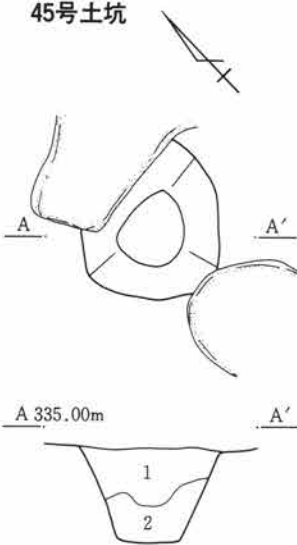
41号・42号土坑



41、42号土坑

- 1 黒色土 FPを含む。
- 2 黒色土 As-B主体で若干のFPを含む。
- 3 褐色土 ローム土と黒色土の混土。

45号土坑

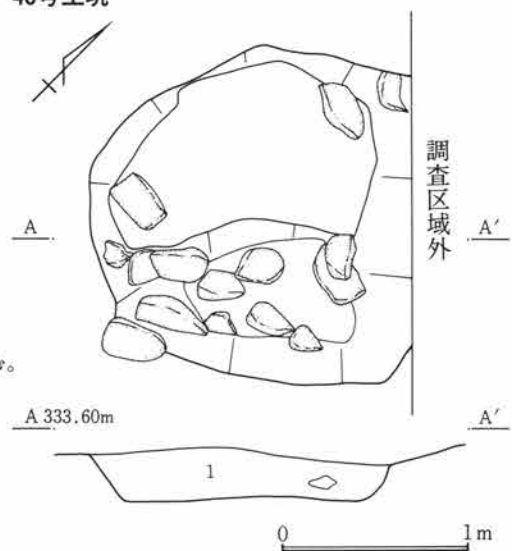


45号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、FP細粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒の混入が多い。

A 335.00m

46号土坑



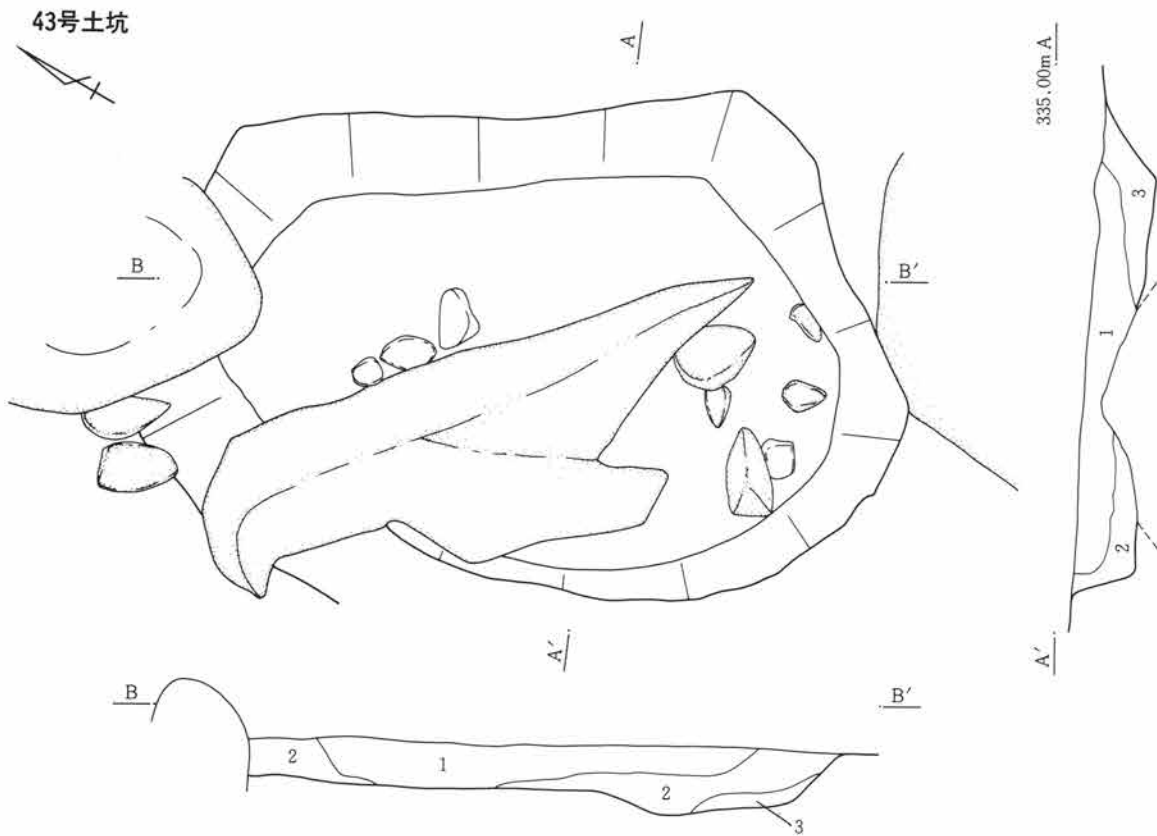
46号土坑

- 1 黒色土 FPを多量に含む。

A 333.60m

第26図 40号~42号・45号・46号土坑

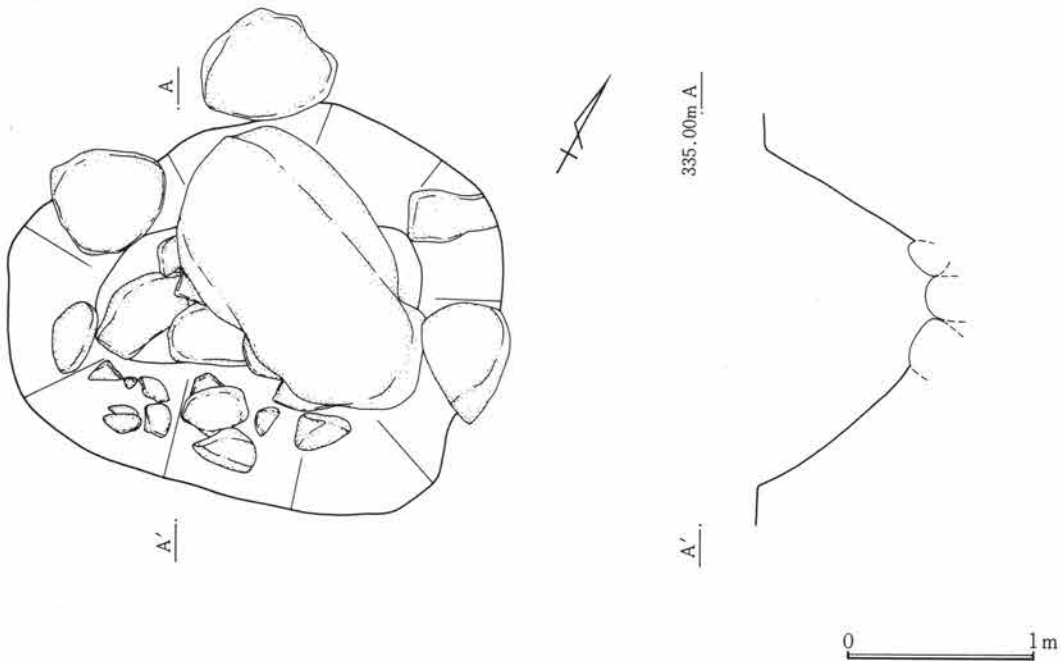




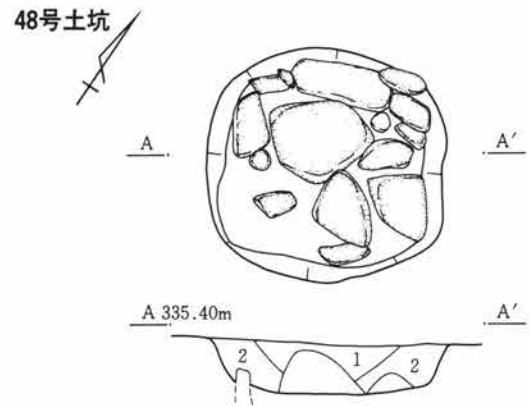
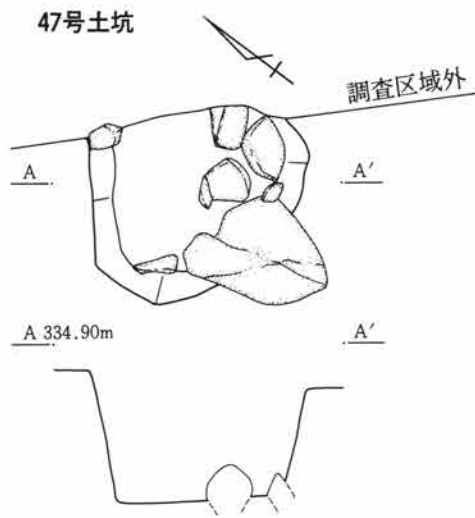
43号土坑

- 1 黒色土 FPを多量に含む。
- 2 黒色土 1に比べFPの量は少なく、粒も細かい。
- 3 褐色土 FP細粒を若干含み、ローム土を混入する。

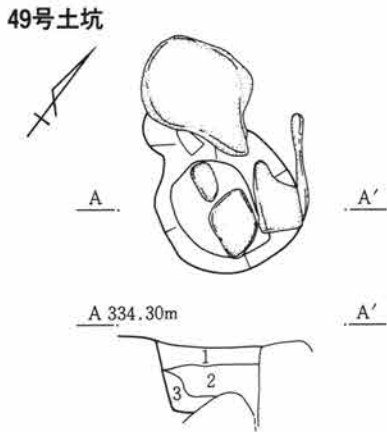
44号土坑



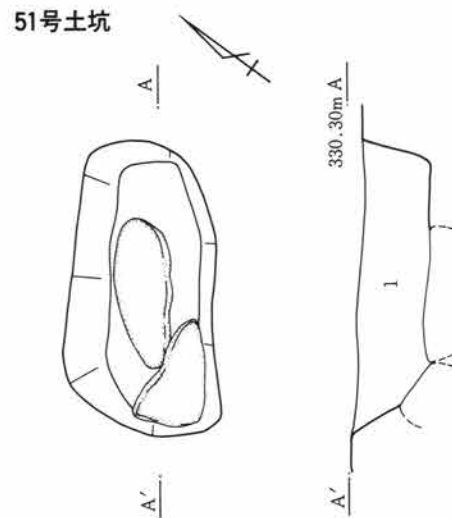
第27図 43号・44号土坑



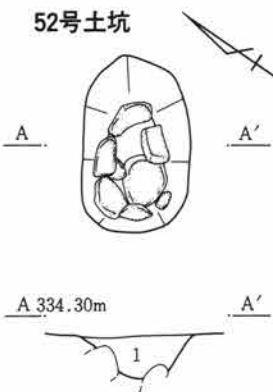
- 48号土坑
- 1 暗褐色土 FP細粒を少量含む。
  - 2 褐色土 ローム粒を少量含む。



- 49号土坑
- 1 黒色土 FPを含む。
  - 2 暗褐色土 FP細粒、ローム粒を若干含む。
  - 3 暗褐色土 2に類似、2よりローム土を多く含む。

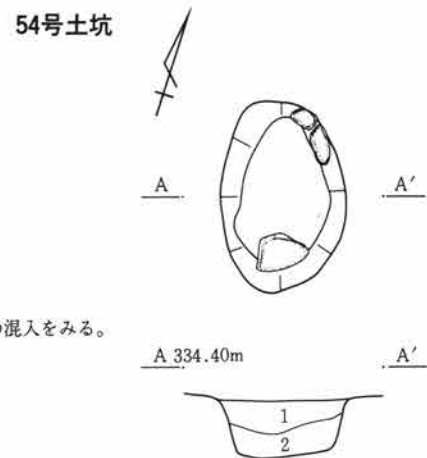


- 51号土坑
- 1 ローム土と黒色土が互層となって、縞状に埋められている。下部に木の朽ちたものが認められる。



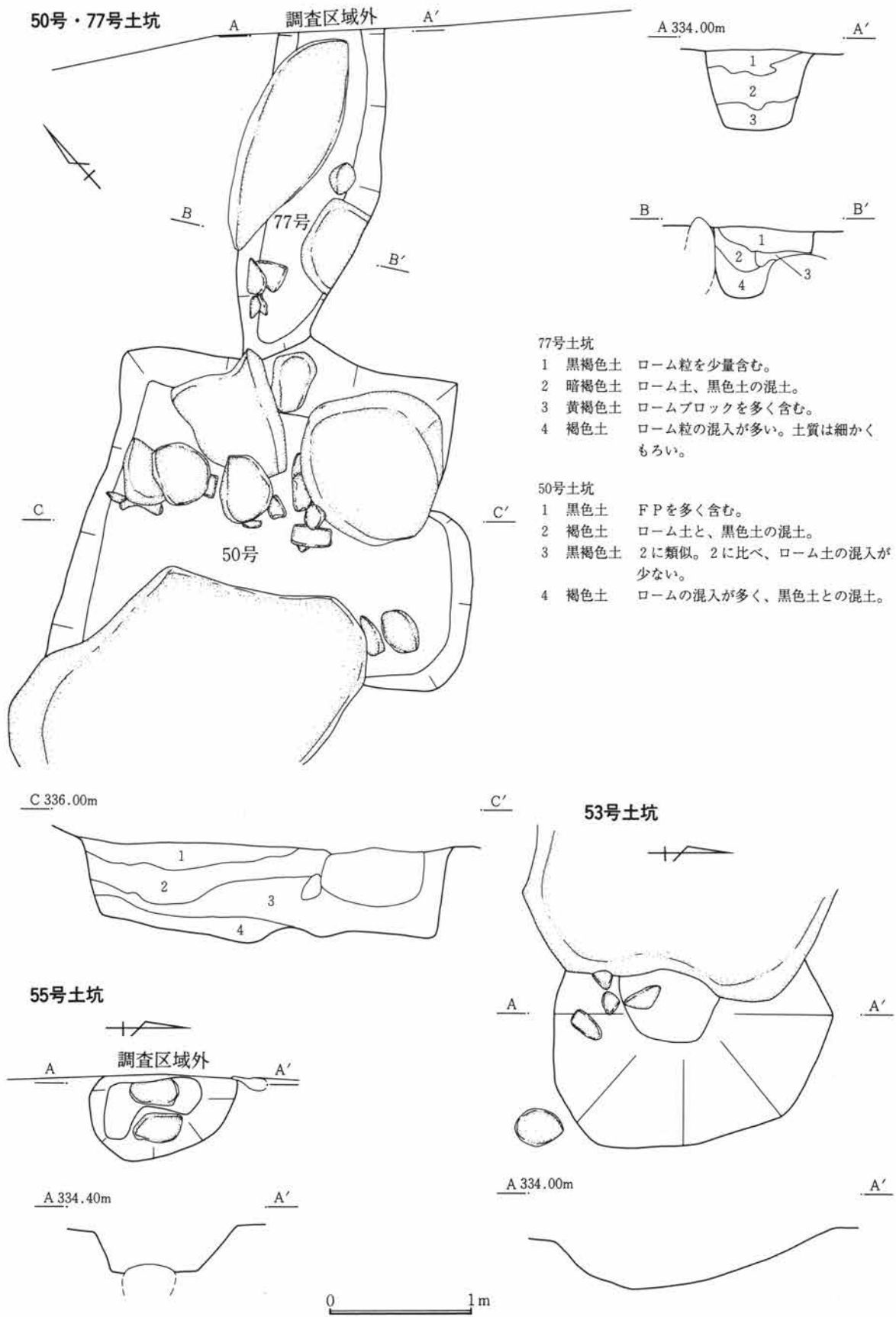
- 52号土坑
- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。

- 54号土坑
- 1 黒褐色土 FP、As-Bを若干含む。
  - 2 暗褐色土 FP微粒を少量含む。ローム粒の混入をみる。



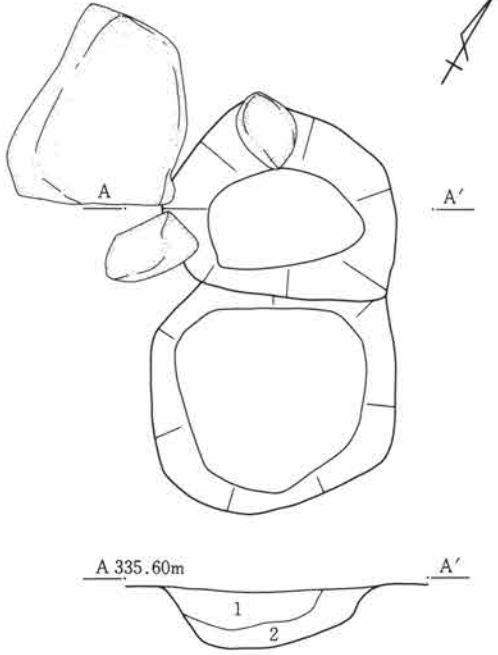
0 1 m

第28図 47号～49号・51号・52号・54号土坑



第29図 50号・77号・53号・55号土坑

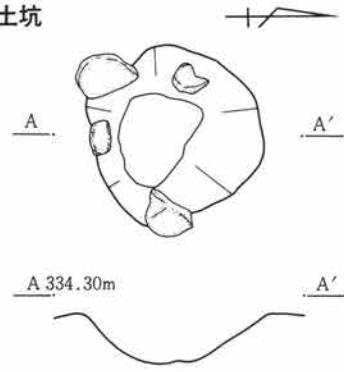
56号土坑



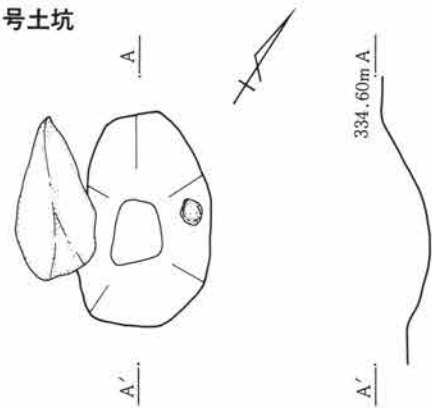
56号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を多く含む。
- 2 黒色土 やや粘性あり、1と同様で下部に小礫を含む。

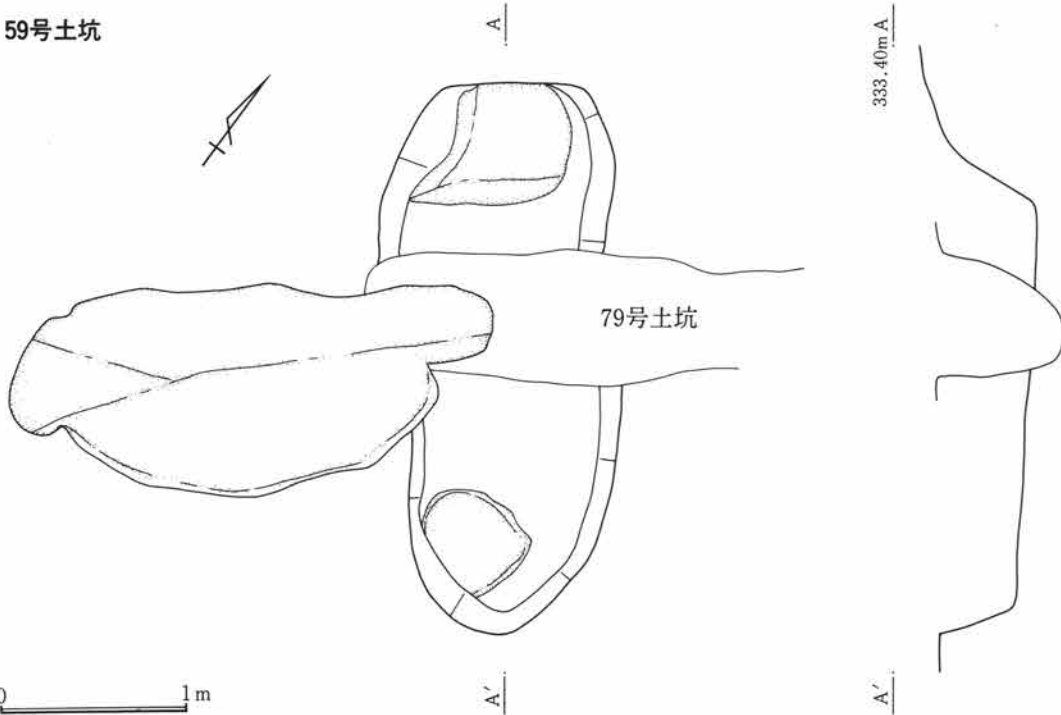
57号土坑



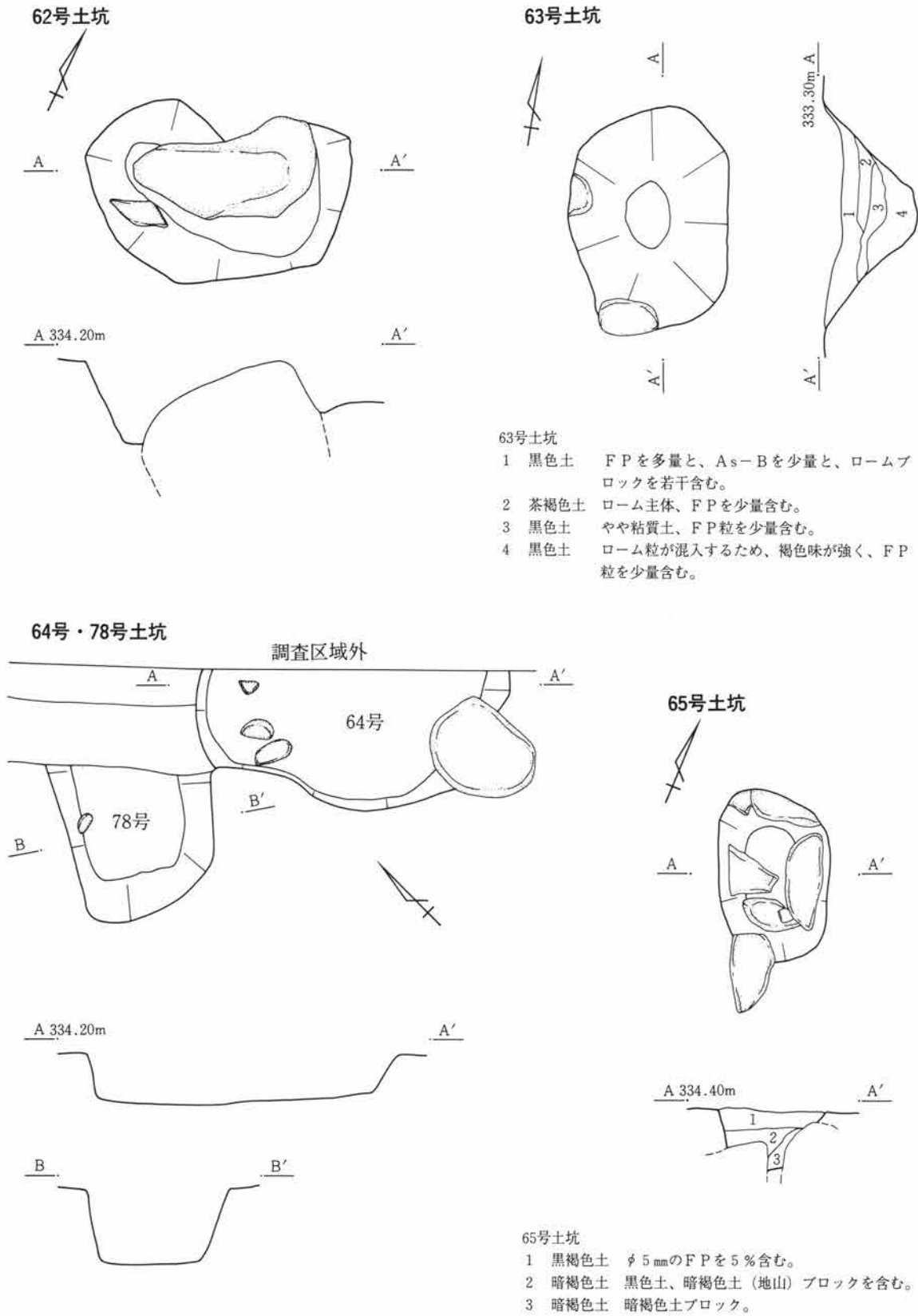
61号土坑



59号土坑

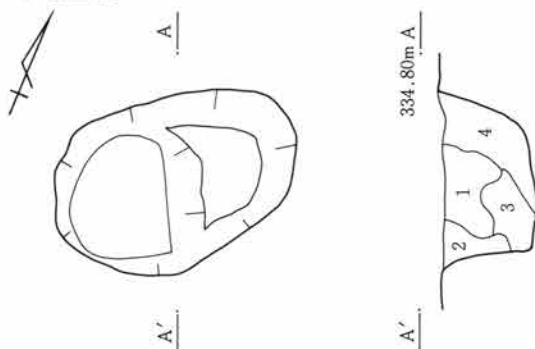


第30図 56号・57号・59号・61号土坑



第31図 62号～67号・78号土坑

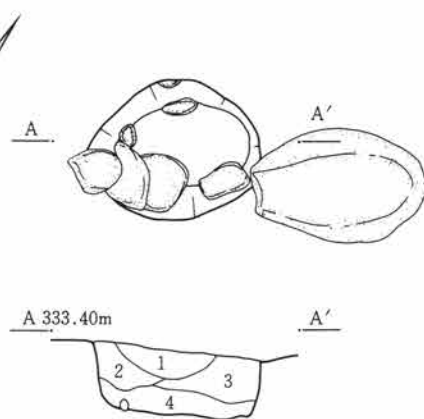
66号土坑



66号土坑

- 1 黒褐色土  $\phi$  5~10mmのFP、 $\phi$  5mmのロームブロックを1%含む。
- 2 黒褐色土  $\phi$  2~5mmのFPを1%、 $\phi$  10~50mmのFPを30%含む。
- 3 暗黄灰色土  $\phi$  2~5mmのFPを1%、ローム粒を50%含む。
- 4 黄褐色土 ロームブロック。

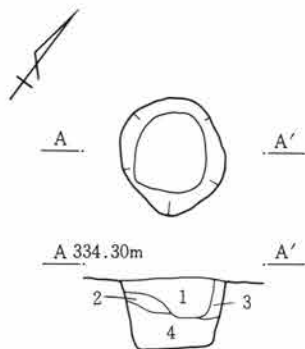
67号土坑



67号土坑

- 1 黒褐色土 黄褐色ローム小ブロックを僅か含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色ローム小ブロックを多く含む。
- 3 褐色土 褐色土ブロックを含む。
- 4 褐色土 黄褐色ロームブロック、暗褐色土ブロックを含む。

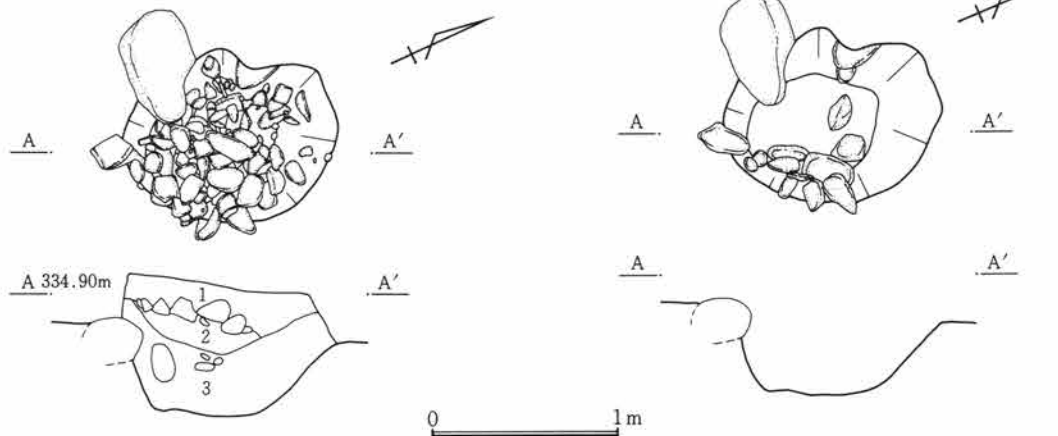
68号土坑



68号土坑

- 1 黒色土 FP細粒を少量、ローム粒を若干含む。
- 2 黒褐色土
- 3 黄褐色土 壁の崩落土。
- 4 褐色土 ロームブロック・ローム粒を多く含む。

69号土坑



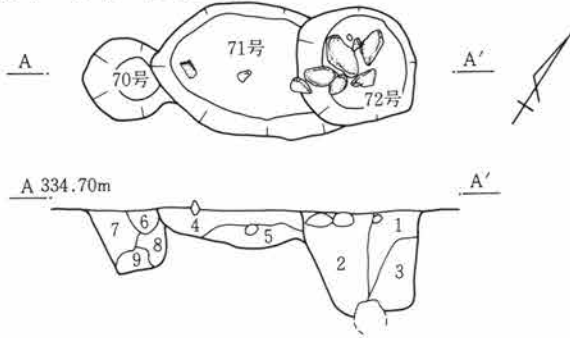
69号土坑

- 1 黒褐色土 黄褐色土ブロックを含む。大小の円礫（火熱を受けているか）を含む。
- 2 黒褐色土
- 3 黒褐色土 ローム二次堆積土（地山）。



第32図 66号~69号土坑

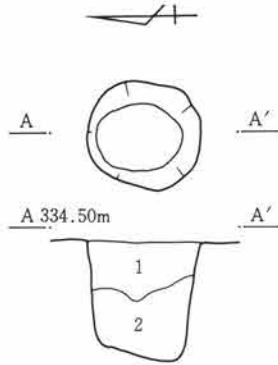
70号・71号・72号土坑



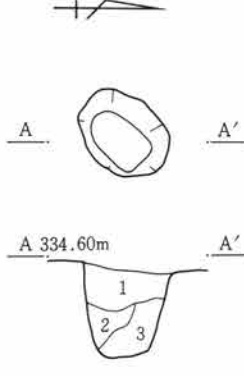
70・71・72号土坑

- 1 黒色土 ロームブロック、F P 細粒を含む。
- 2 明褐色土 ローム粒を多量とF P 粗粒を若干含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 F P 微粒を含む。
- 5 黒色土 ローム粒を若干と、 $\phi 30\sim 40\text{mm}$ のF P を含む。
- 6 明褐色土 ローム主体、 $\phi 40\text{mm}$ のF P を含む。
- 7 黒褐色土 F P 微粒を若干と、ロームブロック若干含む。
- 8 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 9 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

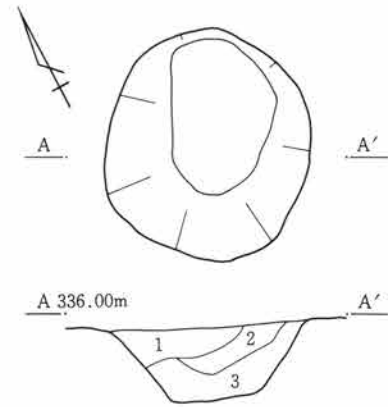
73号土坑



74号土坑



76号土坑



73号土坑

- 1 黒褐色土 やや粘質があり、ロームブロック、F P を含む。
- 2 黒色土 F P 粗粒を多く含む。

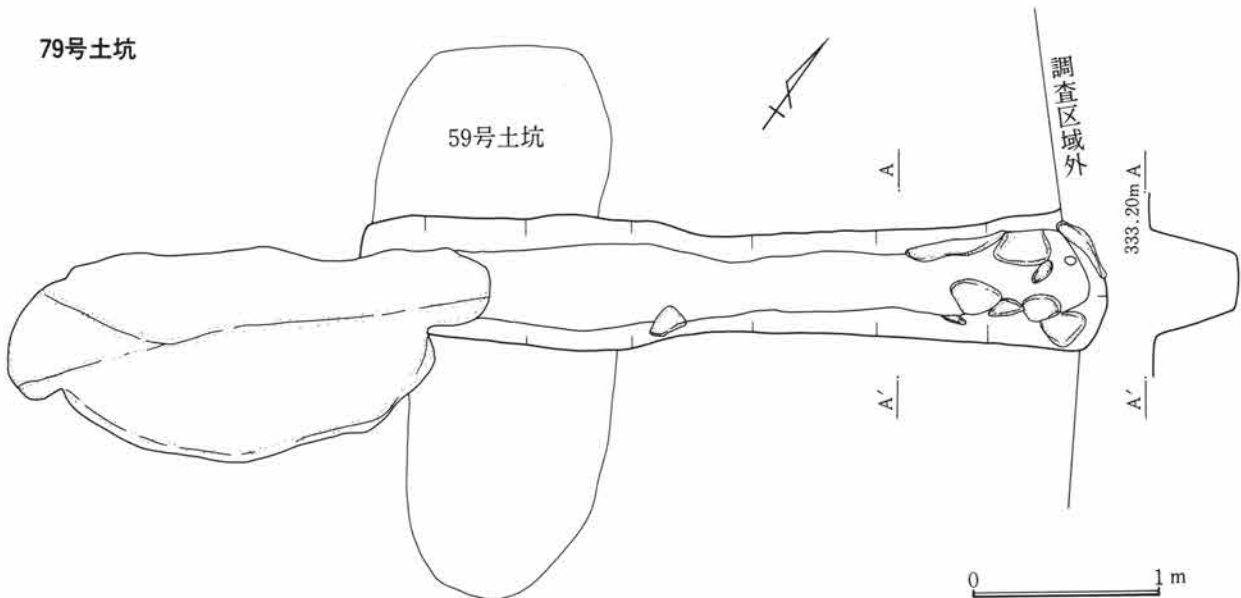
74号土坑

- 1 黒色土 F P 粗粒を少量含む。
- 2 黒褐色土 F P 粗粒を少量、ロームブロックを多く含む。
- 3 黒色土 F P 粗粒を若干含む、1より黒色味が強い。

76号土坑

- 1 暗褐色土 褐色粘土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土  $\phi 5\sim 15\text{mm}$ のF P、褐色土粒を含む。
- 3 暗褐色土 褐色粘土粒を含み、やや粘性あり。

79号土坑



第33図 70号～74号・76号・79号土坑

75号土坑



75号土坑

- |           |  |
|-----------|--|
| 1 黒色土     | φ 2~3mmのAs-Bよりなる。                          |
| 2 オリーブ黒色土 | φ 10~70mmのやや黄色味をおびたFPを50%以上、1のAs-B、灰色砂を含む。 |
| 3 黒褐色土    | φ 2~5mmの白色軽石粒を1%含み、やや粘性がある。                |
| 4 暗褐色土    | φ 1mmの白色軽石粒を1%、炭化物、φ 30mmのFPを僅か含み、やや粘性ある。  |
| 5 暗褐色土    | 4に類似、4より粘性がある。                             |
| 6 にぶい黄褐色土 | ローム粒、φ 30mmのFPを僅かに含む。                      |
| 7 明黄褐色土   | 黒色ブロックを含む。                                 |

0 1m

第34図 75号土坑



## 6 遺構外出土遺物

## (1) 縄文土器

包含層から出土した土器を一括して報告する。時期的にみると早期・前期・中期・後期にわたる各型式が認められるが、層位的所見は得られておらず現在状況を示していた。また、平面的分布からみても時期的な集中化、偏在傾向は看取されていない。さらに、出土土器はいずれも小破片であり完形もしくは器形復原できる資料は存在していない。同時に接合資料も少なく大半は単一破片が占めている。時期別の出土量では前期が主体であり次に中期、後期および早期が続く。

## 燃糸文系土器(第36図1)

胴部の小破片。施される燃糸文は単軸絡条体I a類で、Rがやや密に巻かれる。器表面は整形良好で平滑面を形成するが燃糸文の施文は浅く不明瞭なものとなっている。器内面は剝落が著しい。胎土は緻密な感をもち、砂粒のほか輝石粒が目立つ。

## 条痕文系土器(第37図10)

深鉢形土器の口縁部片。器内外面に条痕文が加えられるが、外面は縦位、内面は横位の施文方位となる。口唇部は内傾きみであり端部にはわずかに面をもつ。水平口縁とみられるが、成形はやや粗くは不規則な形状を示す。胎土には砂粒、石英粒のほかわずかに繊維を含んでいる。少量のため器面にはほとんど露出していない。

## 花積下層式土器(第37図11・12・13)

いずれも胎土中に繊維を含む縄文施文の胴部片であり、前期前半に位置付けられる。小片のため所属型式が確定しにくいだが、尖底を呈するとみられる破片(13)もふくまれることから前期初頭花積下層式土器ととらえておきたい。11は0段3条のRLおよびLR横位により羽状縄文を構成する。結束は行われない。含まれる繊維量は多く器内外面にもその痕跡が明瞭に認められる。12は器表の剝落が著しく縄文の種別も不明瞭であるが、1段R横位と観察できる。内面には炭化物の付着が認められる。13は0段3条

のRL, LRが認められ、条が縦走することからみて尖底土器の胴下半部と考えられる。繊維量は少なく、整形も良好である。

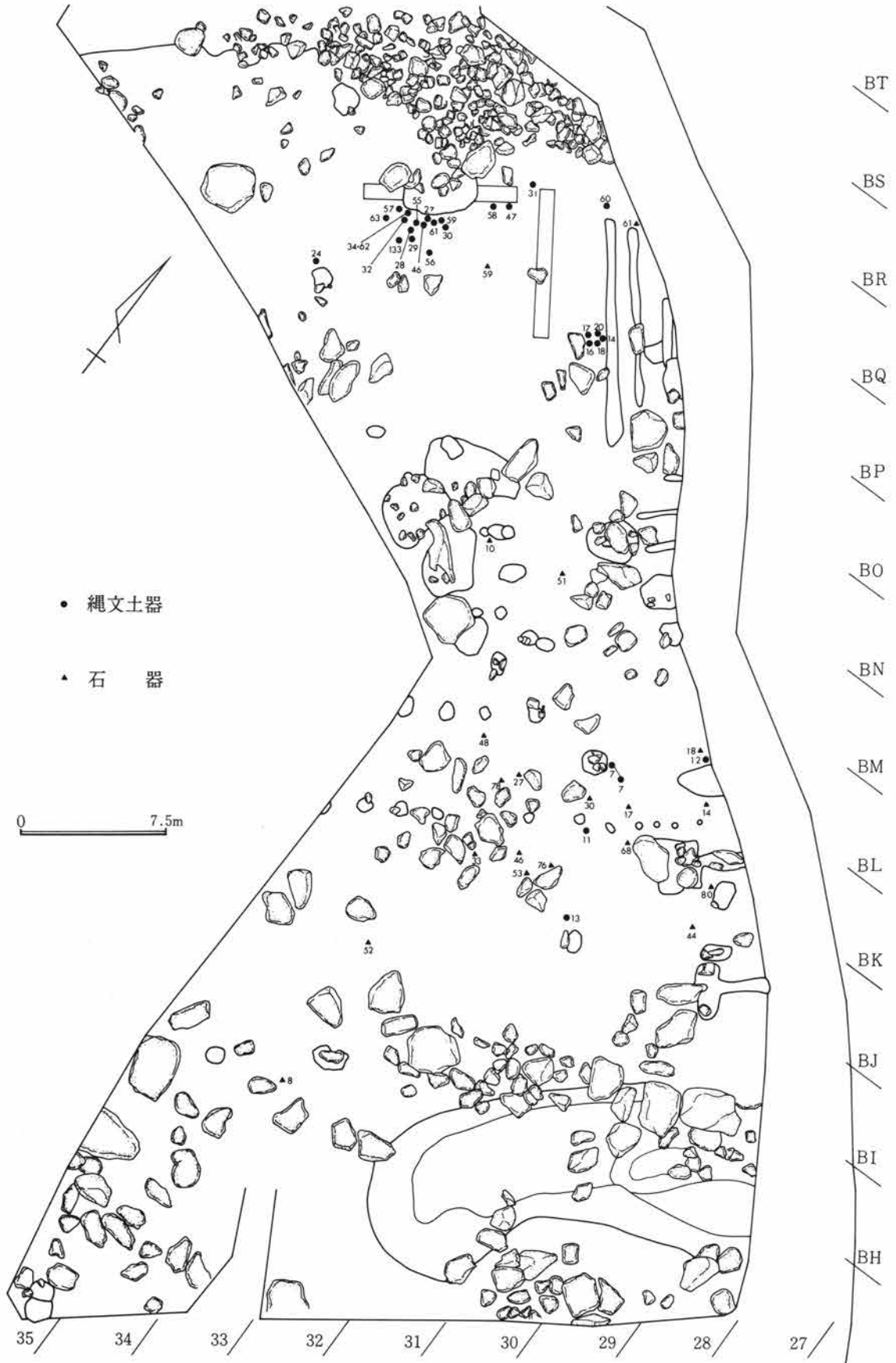
## 諸磯b式土器(第37図14~50、第38図51~71)

前期後半諸磯b式土器を一括する。平行線文系土器(第37図14~23、第38図68)と浮線文系土器(第36図3、第37図24~58、第38図51~71)が含まれる。

14~16は外反口縁にくの字状に内曲する口唇部をもつ口縁部である。いずれも波頂部を欠くものの波状口縁を呈するものとみられる。平行線は幅4ミリ程度で横走し、縄文はRL横位が施される。条間隔がやや粗く不規則である。胎土中には径2ミリ前後の砂礫が多く含まれるが、整形は良好である。17~22・24は胴部片であり、17・18・20には条間隔のやや粗いRL横位が認められる。19・22は平行線が密接して施され、縄文は認められない。23は粗雑な平行線文が施される底部片である。縄文はRL横位であるが平行線文同様施文は粗雑である。さらに平行線文、縄文は施文順序が相前後し一定せず、平行線文を施した後に縄文を加える部分も認められる。

浮線文系土器もいずれも小片であり器形をはじめ文様構成についても把握できる資料に乏しい。個々についてみると浮線文は横走、弧状および斜行状など文様構成の部分が破片ごとに認められる程度である。この中には同一個体が含まれる可能性もあるが、接合関係をもたない破片については文様ごとに報告しておきたい。なお、浮線文上に縄文をもつ例は認められない。

24・25は口縁部片。小片であるが内曲する波状口縁の端部とみられる。24は口唇部が内傾し、25は平坦面をもつ。両者とも浮線文が大半剝落している。26は3条単位の浮線文間に∞状浮線文が加えられる。横位の浮線文上には矢羽根状刻み目が付されるが、∞状浮線文上は無文である。器面にはLR横位が認められる。∞状浮線文をもつものは他に35、37、47、51、58、67がある。すべて∞状浮線文上には刻



第35図 B区 包含層出土遺物分布図

み目は加えられない。

27～34、39～44、48、49、52、54～56、62～66、69～73は横走する浮線文が認められる破片である。浮線文上にはヘラ状工具により矢羽根状刻み目が加えられ、器面にはLR横位が観察できる。縄文は浮線文貼付により磨り消される部分が多く、また原体も硬質繊維を用いているためか条間隔が広く、節の傾斜が大きいことが特徴的である。浮線文は扁平で貼付も丁寧な例が多い。

36、38、45、46、50、53、57、59～61は弧状および斜行する浮線文をもつ破片である。これは横走浮線文とともに文様構成されるものであり口縁部もしくは胴上半部片が主として含まれる。浮線文上には横走浮線文と同様の刻み目が加えられ、器面には不明瞭ながらLR横位が観察できる。38の内面には炭化物の付着がみられる。

加曾利B1式土器(第36図5～9、第39図136)

量的には少ない。隆線文の施される口縁部片5、6および無文の胴部片7～9がある。整形は良好で平滑面を形成するが、内面については図示するようにヘラ削り状の整形痕が明瞭に認められる。なお6～9は同一個体と観察される。136は底面に網代痕をもつ底部片である。内面に6～9に類似する整形痕が認められることから、これについても同一個体

の可能性が高いとみられる。

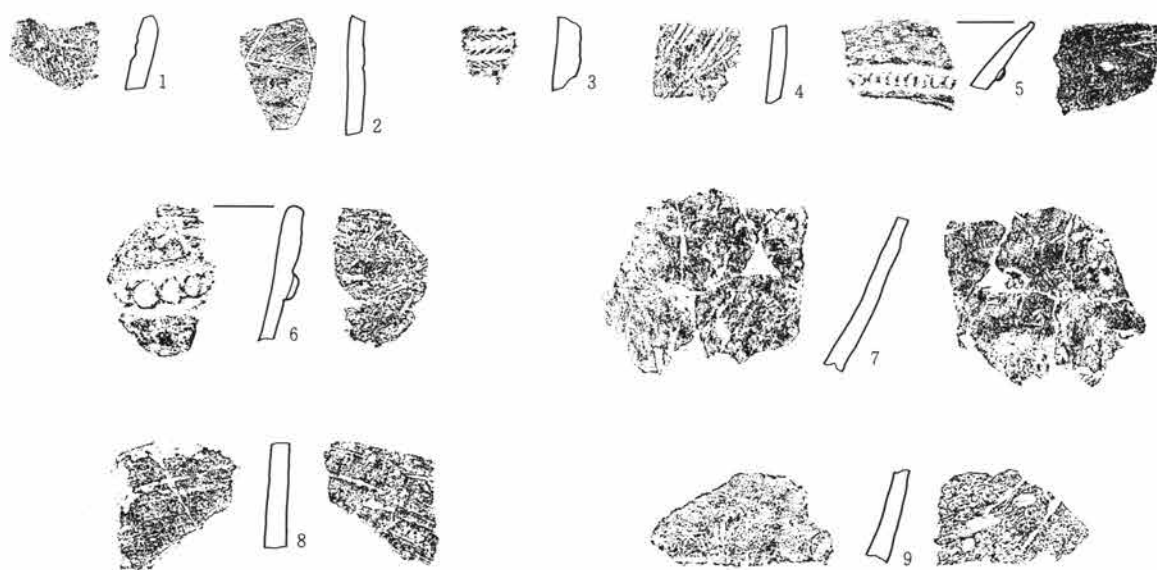
加曾利B2式土器(第38図74～98、第39図99～136)

この中には縄文施文部片(74～118)、無文部片(119～126・135)、文様部片(127～134)が含まれる。以下、この種別ごとに概要を説明していく。

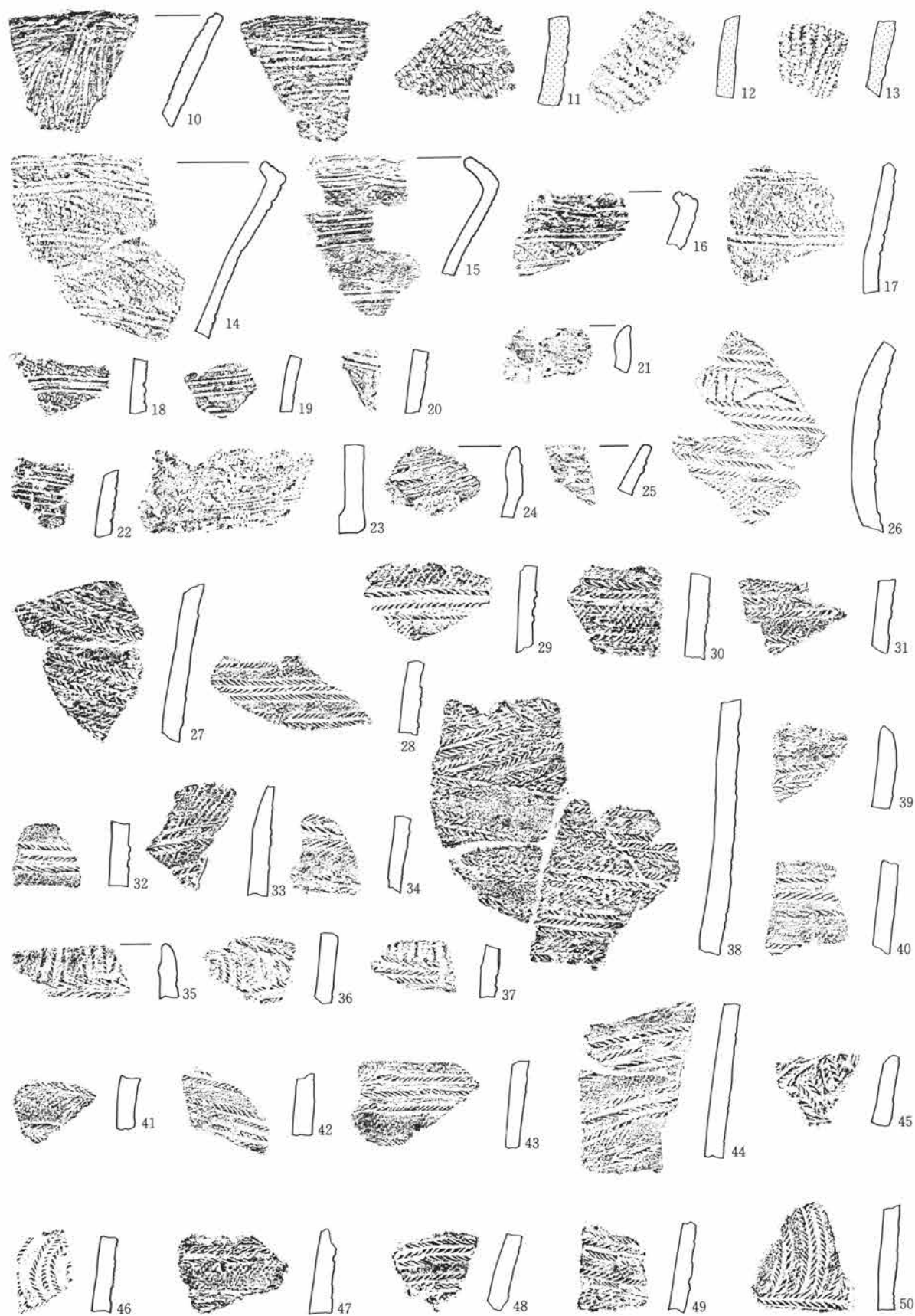
縄文施文部片(74～118)、口縁部および胴部の小片を主とし底部については認められない。口縁部資料は74～79である。74・78は山形状の波状口縁をもち、接合はしないものの同一個体とみられる。縄文は76が0段多条LRで他例はRL、施文方位は横位である。80～118は胴部資料である。同一個体と観察される破片もみられるが接合資料は乏しい。施される縄文はRL横位がほとんどを占めるが、110・111にはLR横位が用いられている。胎土は砂粒、輝石粒が含まれ、焼成、整形とも良好であり平滑面を形成する。色調は赤褐色、燈褐色を示す。

無文部片(119～126・135)いずれも胴部片であり直線的な形状を示す。胎土は砂粒、輝石粒を含み、整形は丁寧で内外面とも平滑面を形成する。

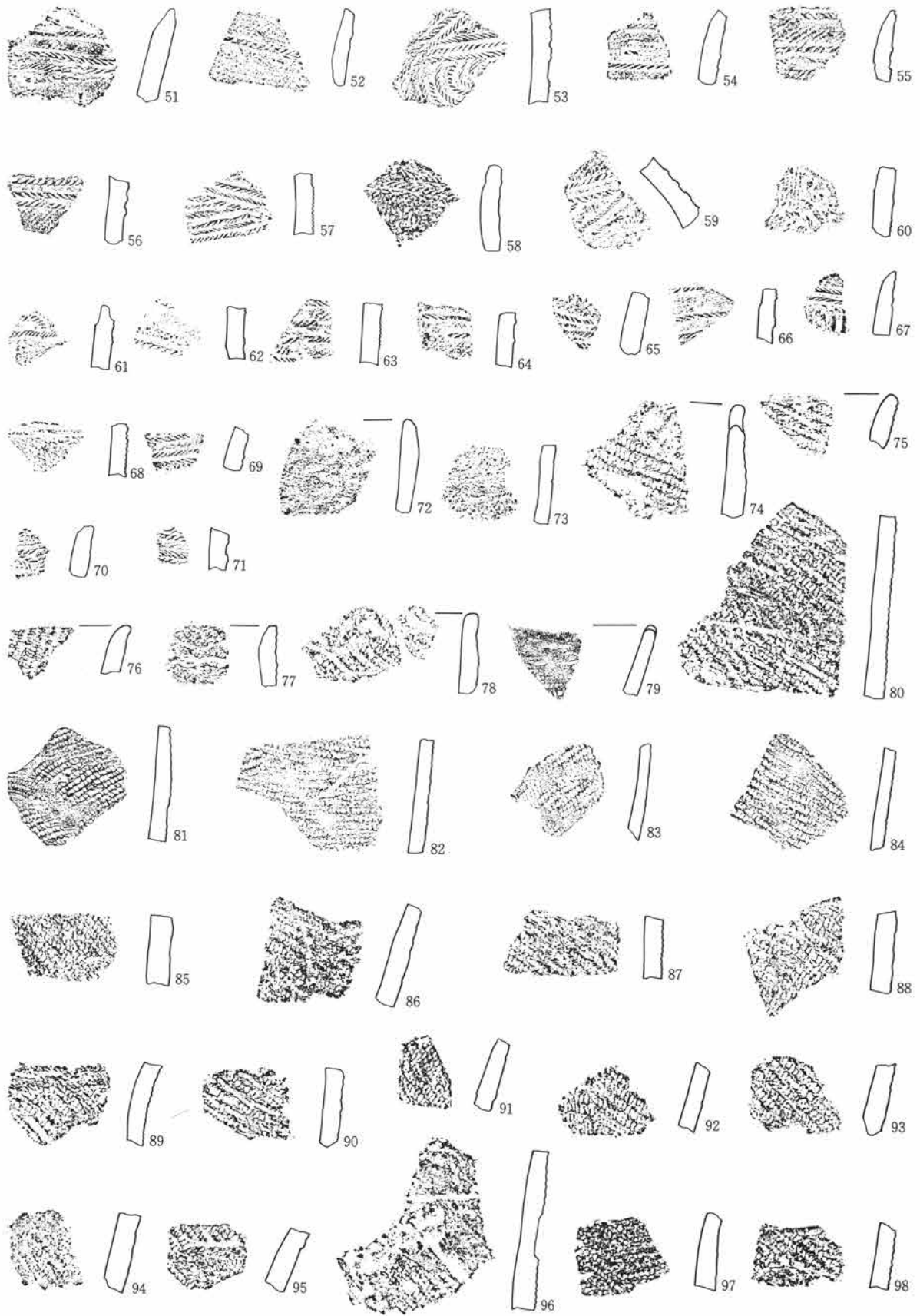
文様部片(127～134)134は口唇が短く内折する口縁部で刻み目をもつ2条の隆線文間にはミガキが加えられ、沈線下にはRL横位が施される。133と同一個体とみられる。他例は沈線による区画文が認められる。



第36図 遺構外出土遺物縄文土器(1)

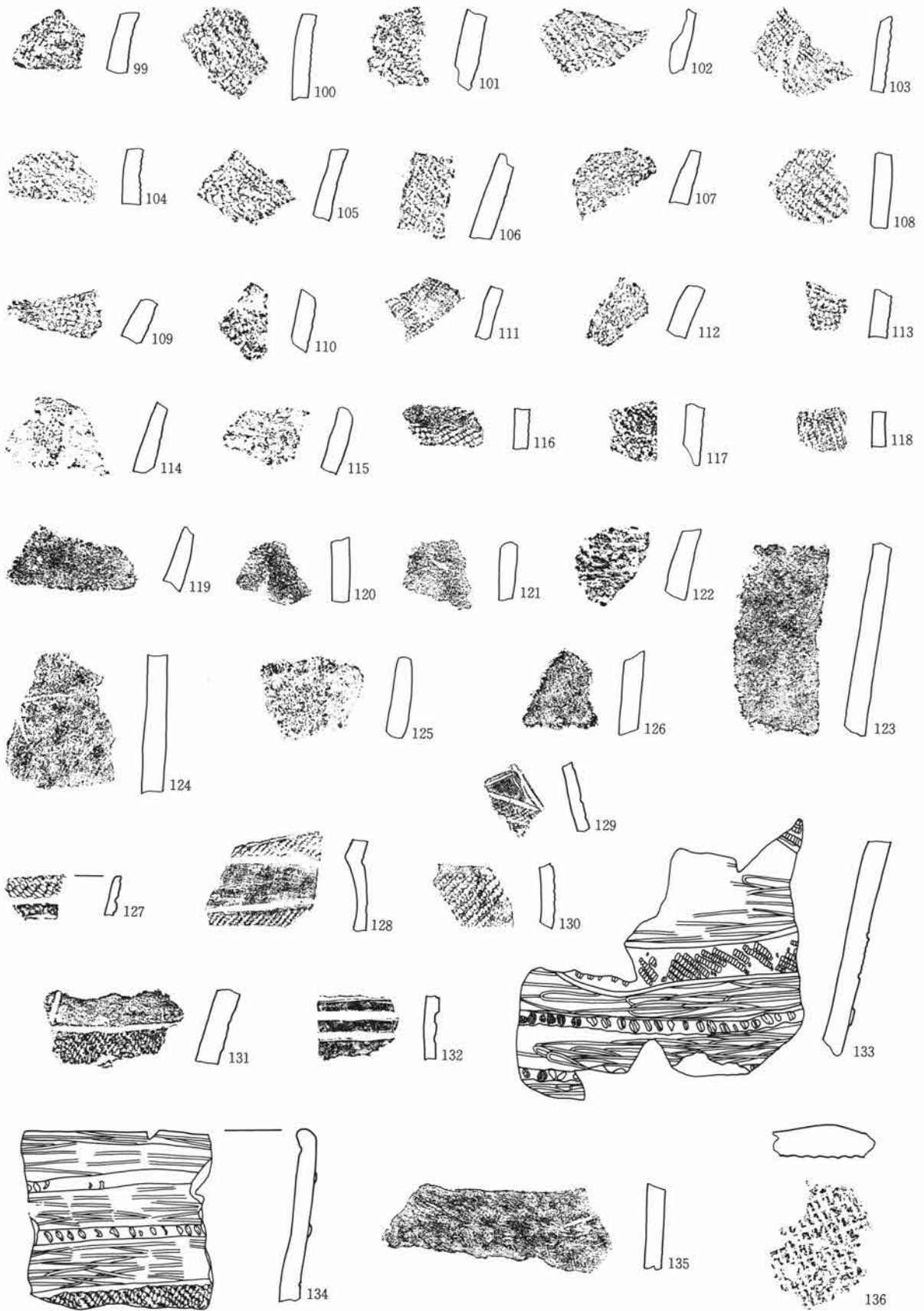


第37図 遺構外出土遺物縄文土器(2)



第38図 遺構外出土遺物縄文土器(3)

第4章 下川田下原遺跡の遺構・遺物



第39図 遺構外出土遺物縄文土器(4)

## (2) 石 器

下川田下原遺跡から抽出された石器は、その器種などからいくつかの特徴が認められる。

まず、すべてが遺構外からの出土であることから、確実な年代は押さえにくいものの、土器の多くが縄文時代前期の諸磯式土器の段階であることから、この時期に対比が可能である。

石器の種類としては、打製石斧、石匙、削器、石核、敲石、加工痕ある剥片、使用痕のある剥片などがあげられるが、打製石鏃がまったく認められないのも特徴のひとつである。

打製石斧では、その量の多さと、大きさや形態の違いが顕著である。特に、短冊形や撥形で小型の形状の資料が多くみられるとともに、大型の資料も数点認められる。さらに、刃部部分を欠損している資料も数多く認められる。

また、分銅形で中央部の抉れが特異な形態を呈する打製石斧が数点認められる。これらについては、利根郡月夜野町梨の木平遺跡から出土している一群に非常に類似している。(群馬県教育委員会 1977) この一群は、群馬県内の弥生時代の「石鏃」と呼称される資料のなかにおいても特異な形態であったが、梨の木平遺跡の概報では出土層位や分布範囲から、弥生時代の所産とされていたために、かつて筆者もそのまま利用して論述していた。(麻生 1990)

だが、第41図-14の資料などの存在からみても、弥生時代の石器というよりも、むしろ縄文時代の所産と考えられるのではなかろうか。

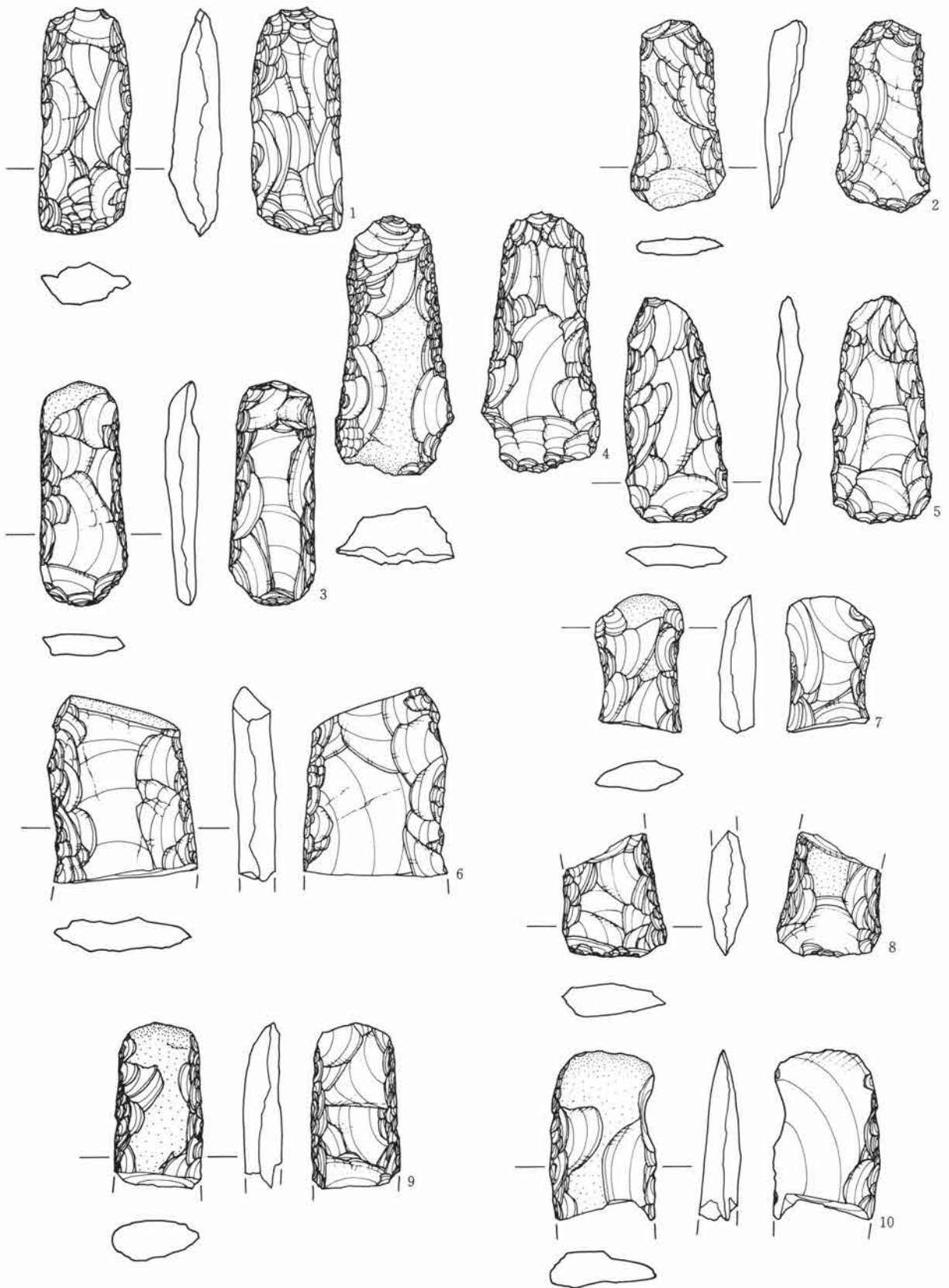
本遺跡と下川田平井遺跡でも、石器に利用される石材は、黒曜石など多種多様ではあるものの、主体を占めるのは黒色頁岩と黒色安山岩である。これらは、在地系統の石材であり、利根・沼田地区を含む利根川流域で最も利用される石材である。

その原産地は、黒色頁岩が利根川の支流である赤谷川上流域の三国峠周辺から猿ヶ京にかけて広がる第三紀中新世の赤谷累層から産出する岩石であり、黒色安山岩が利根川上流域の武尊山東麓から北麓にかけて産出する岩石である。(中東・飯島 1984)

両者は利根川や赤谷川の現在の川床、あるいは利根川と赤谷川により形成された河岸段丘を構成する礫層の中からも確認されており、沼田盆地で比較的簡単に入手することができる石材である。つまり、それぞれの河川が合流する月夜野町小川島地域から約4 km下流に所在する本遺跡でも同様に入手しやすい石材であると言える。(麻生 1992)

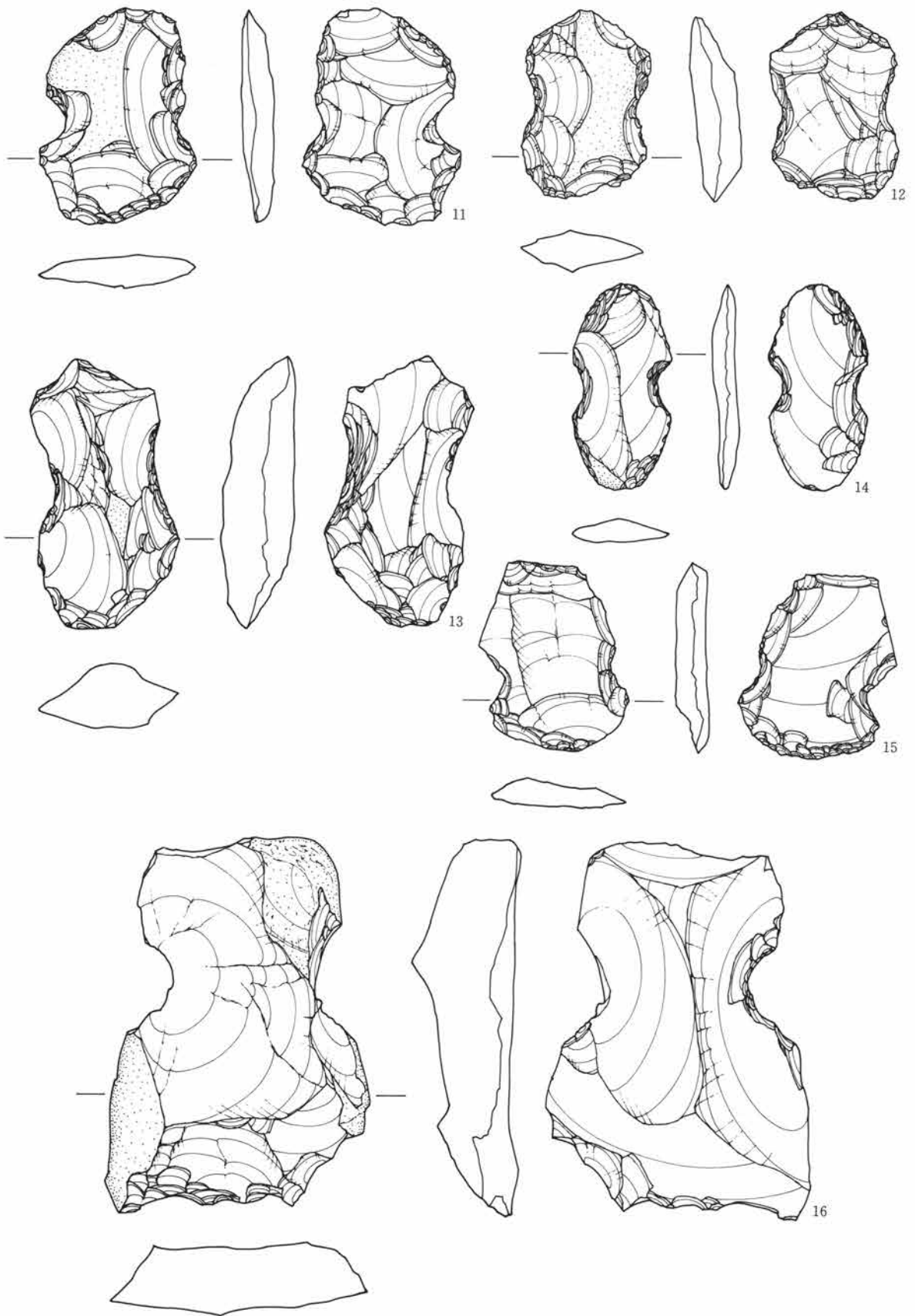
## 参考文献

- 麻生敏隆 「弥生時代の石製農具—石鏃と石庖丁—」 『研究紀要』第7号 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990  
 麻生敏隆 「後田遺跡の再検討—石材と遺物分布からみた人間と物の移動—」 『人間・遺跡・遺物—わが考古学論集2—』 発掘者談話会 1992  
 群馬県教育委員会 『梨の木平遺跡概報』 1977  
 中東耕志・飯島静男 「群馬県における旧石器・縄文時代の石器石材—黒色安山岩と黒色頁岩—」 『年報』第5号 群馬県立歴史博物館 1984  
 沼田市教育委員会 『石鏃遺跡』 1987

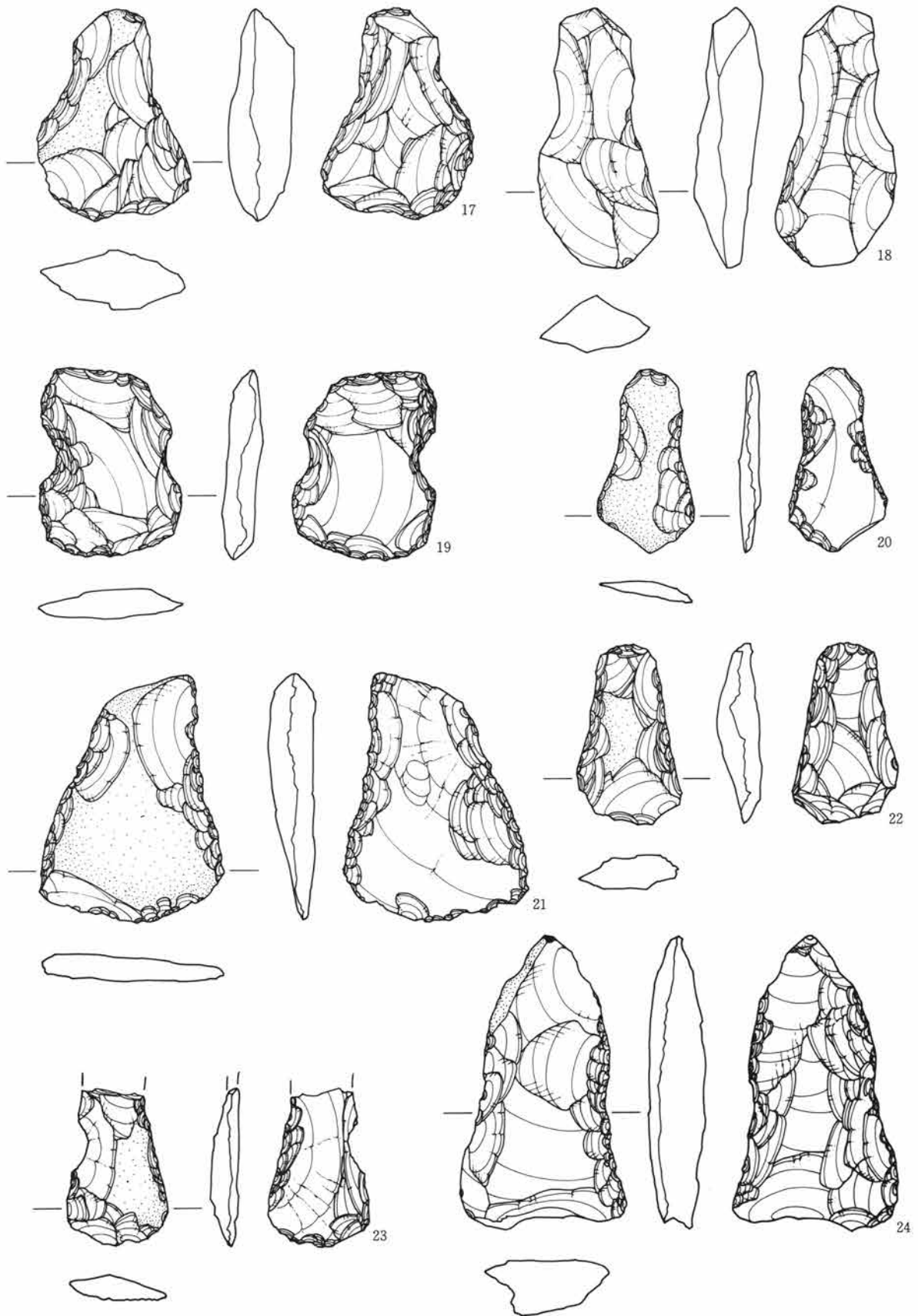


第40図 遺構外出土遺物石器(1)

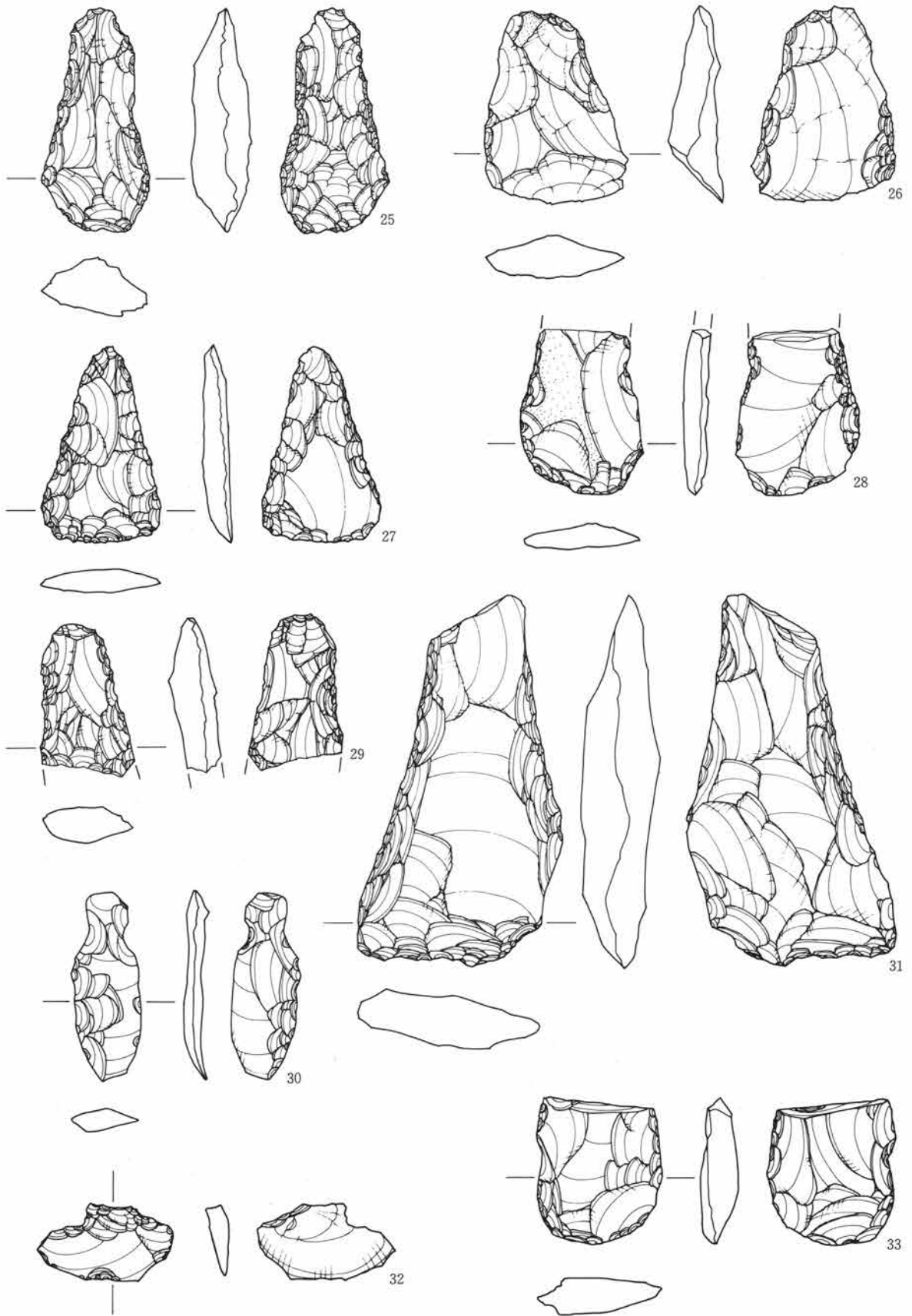




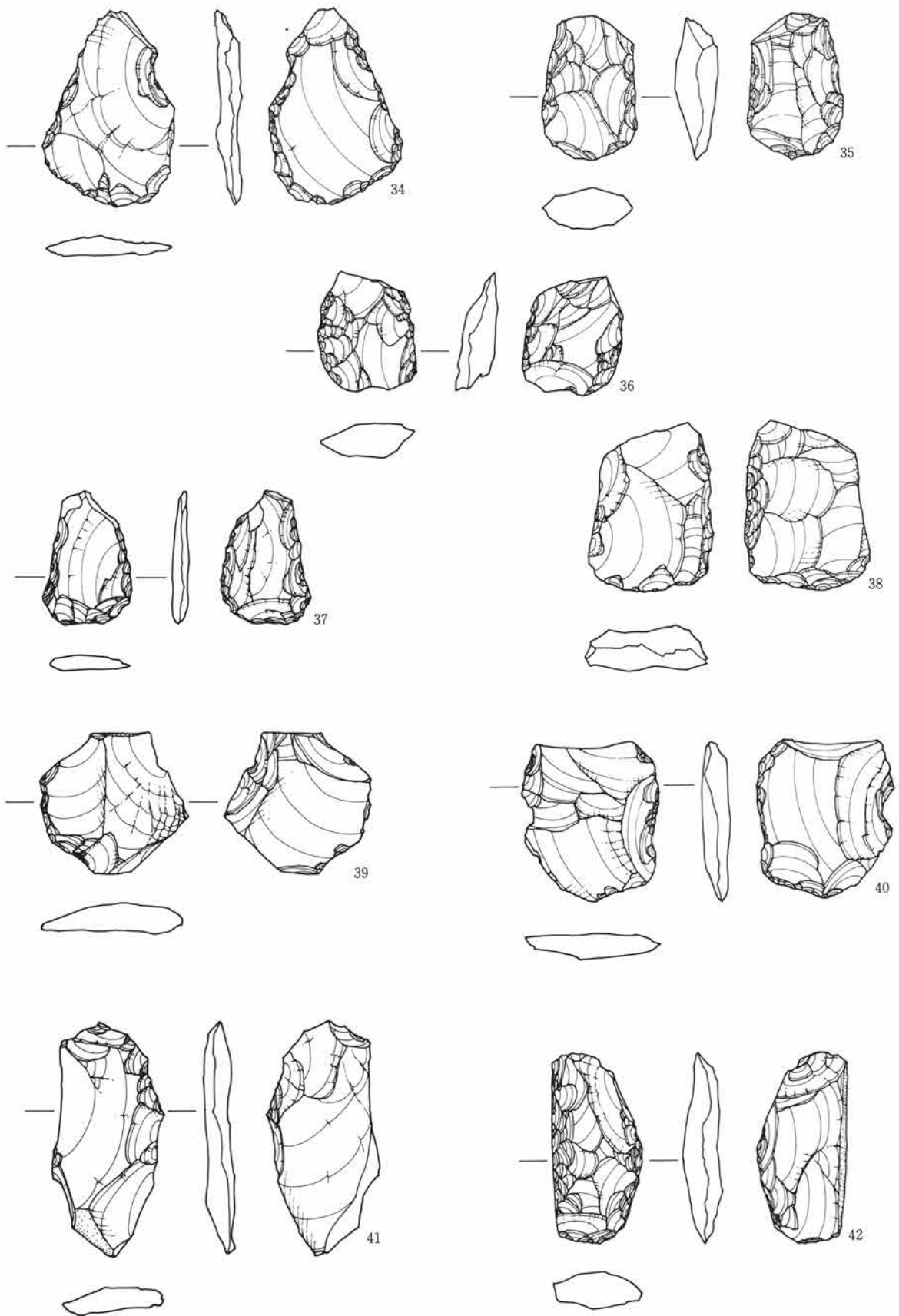
第41図 遺構外出土遺物石器(2)



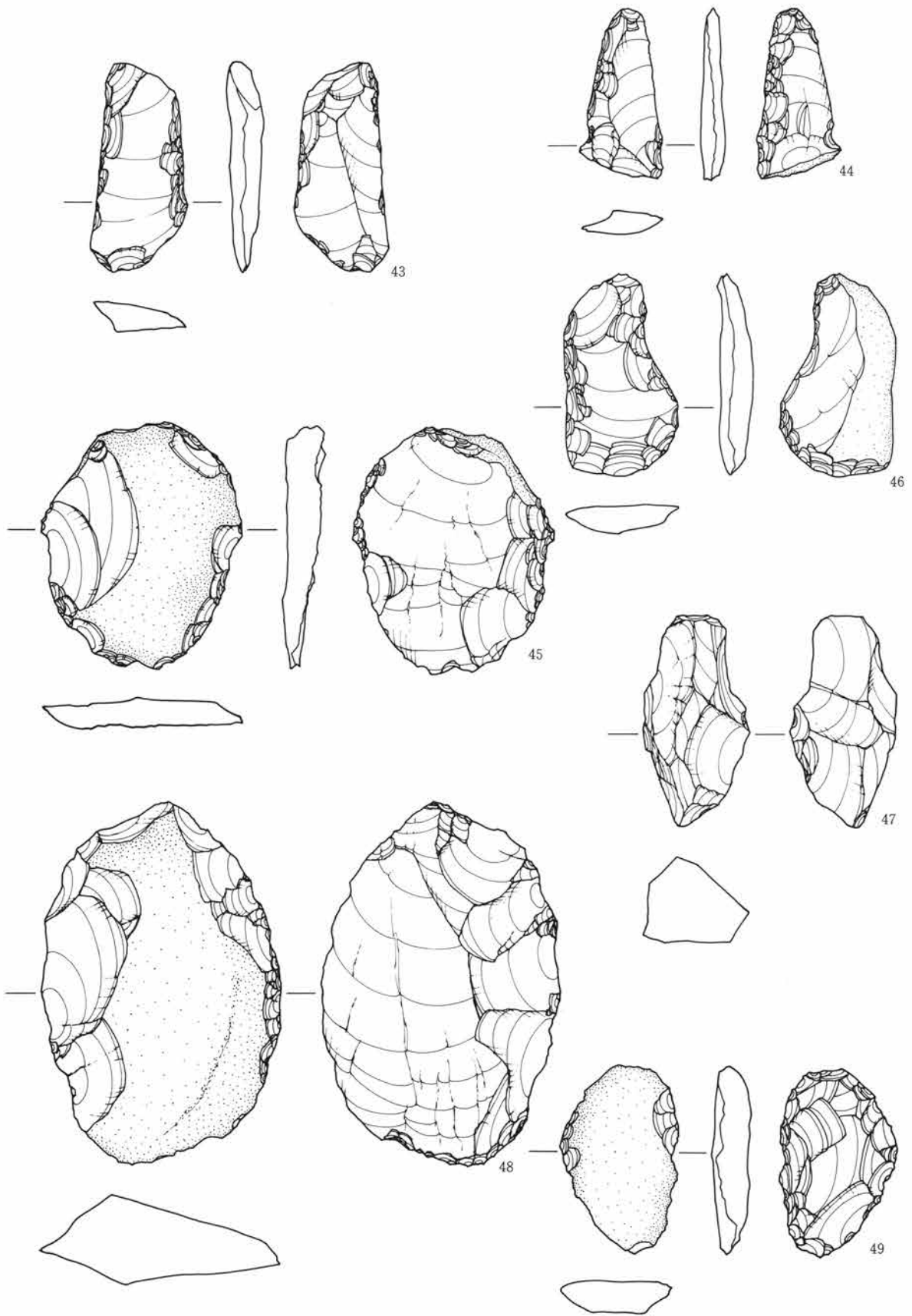
第42図 遺構外出土遺物石器(3)



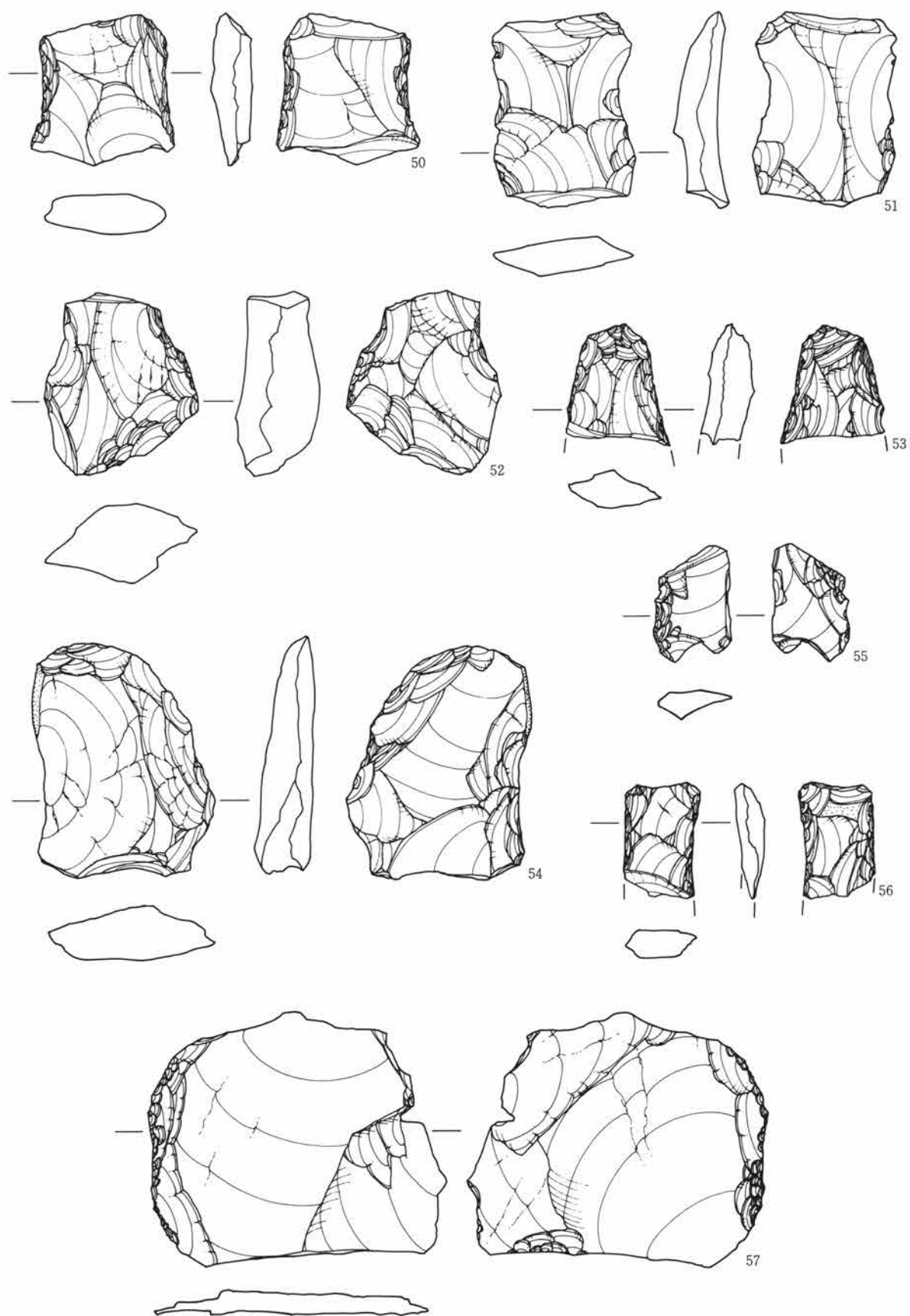
第43図 遺構外出土遺物石器(4)



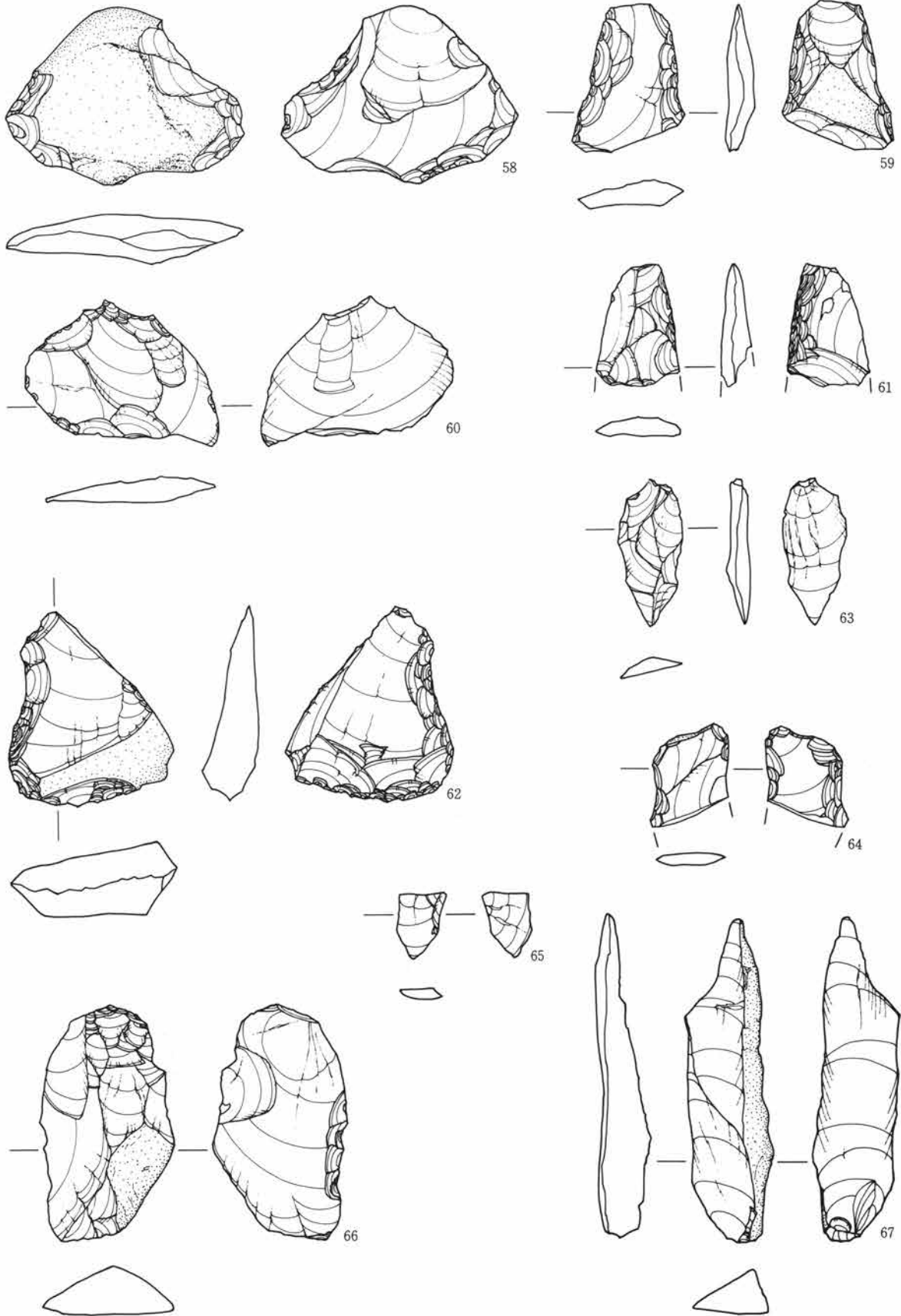
第44図 遺構外出土遺物石器(5)



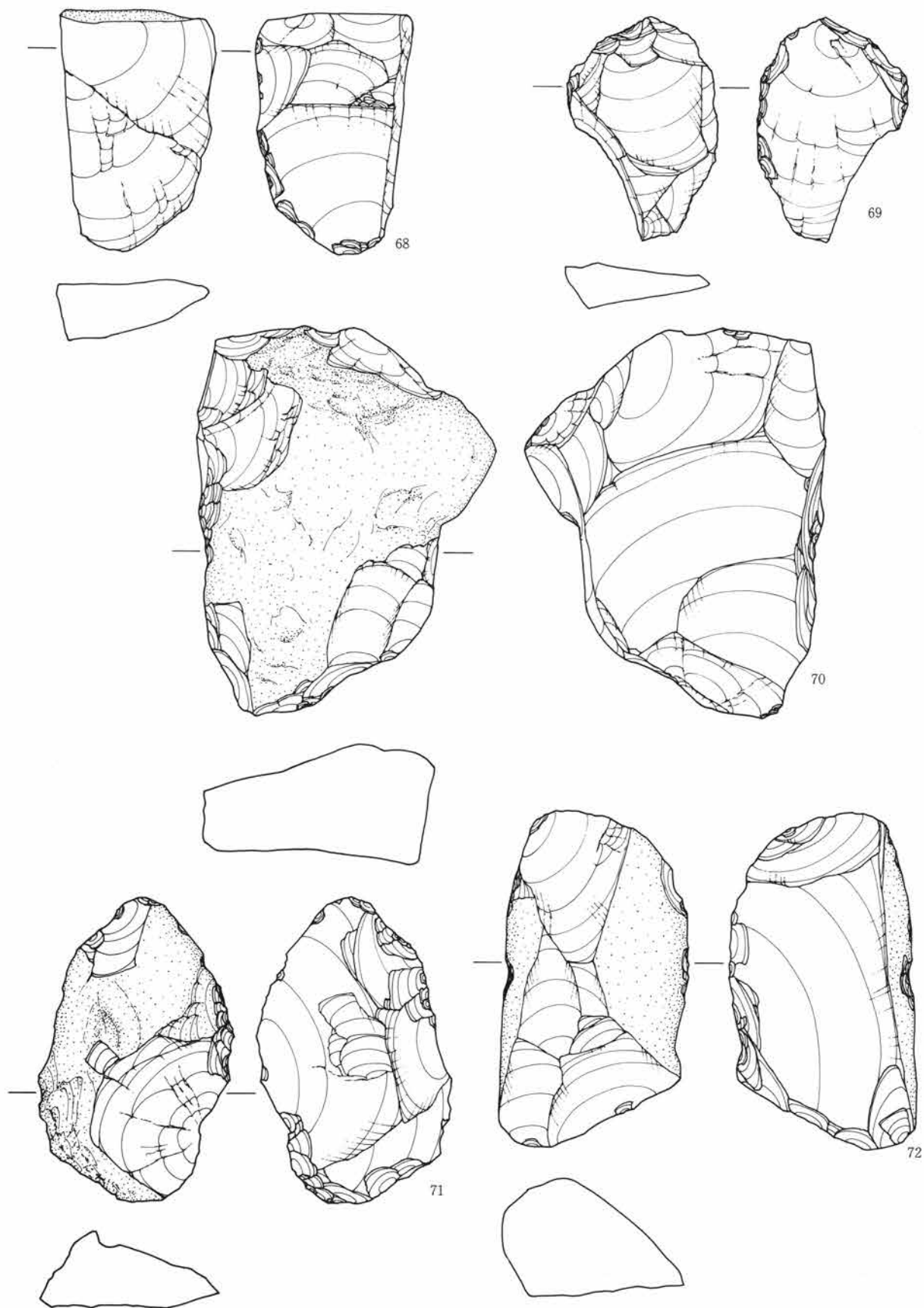
第45図 遺構外出土遺物石器(6)



第46図 遺構外出土遺物石器(7)

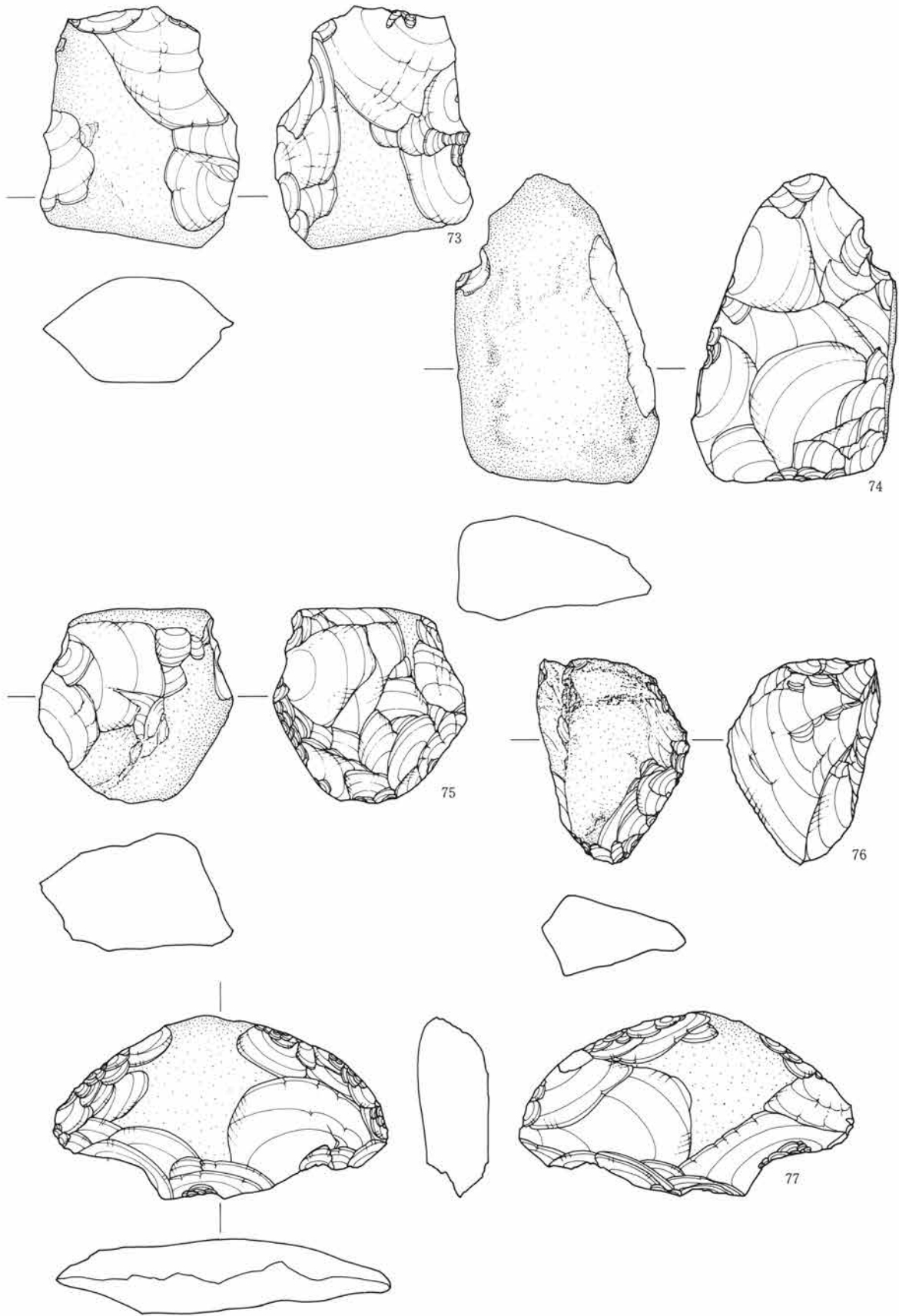


第47図 遺構外出土遺物石器(8)

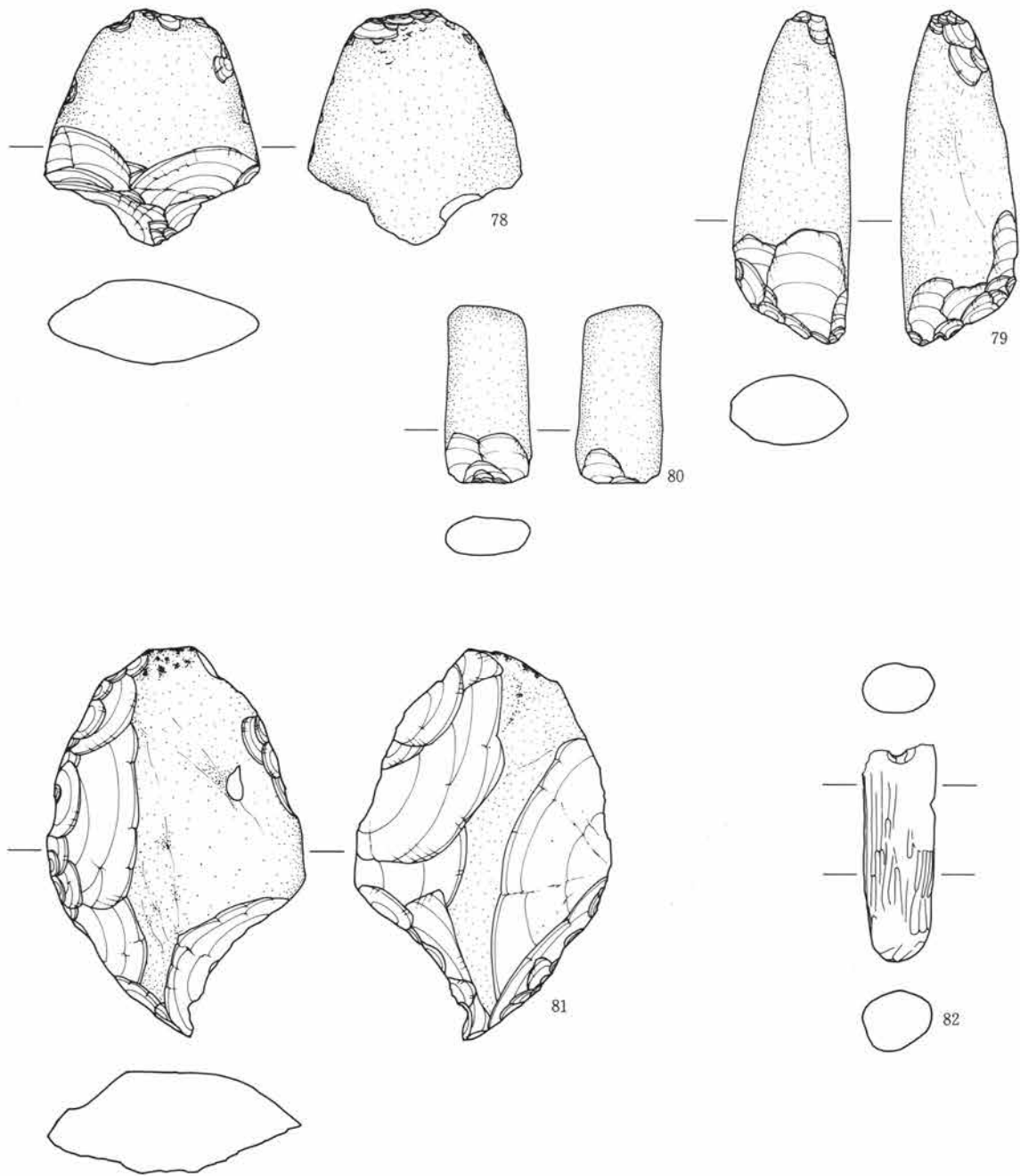


第48図 遺構外出土遺物石器(9)





第49図 遺構外出土遺物石器(10)



第50図 遺構外出土遺物石器(11)

# 下川田平井遺跡

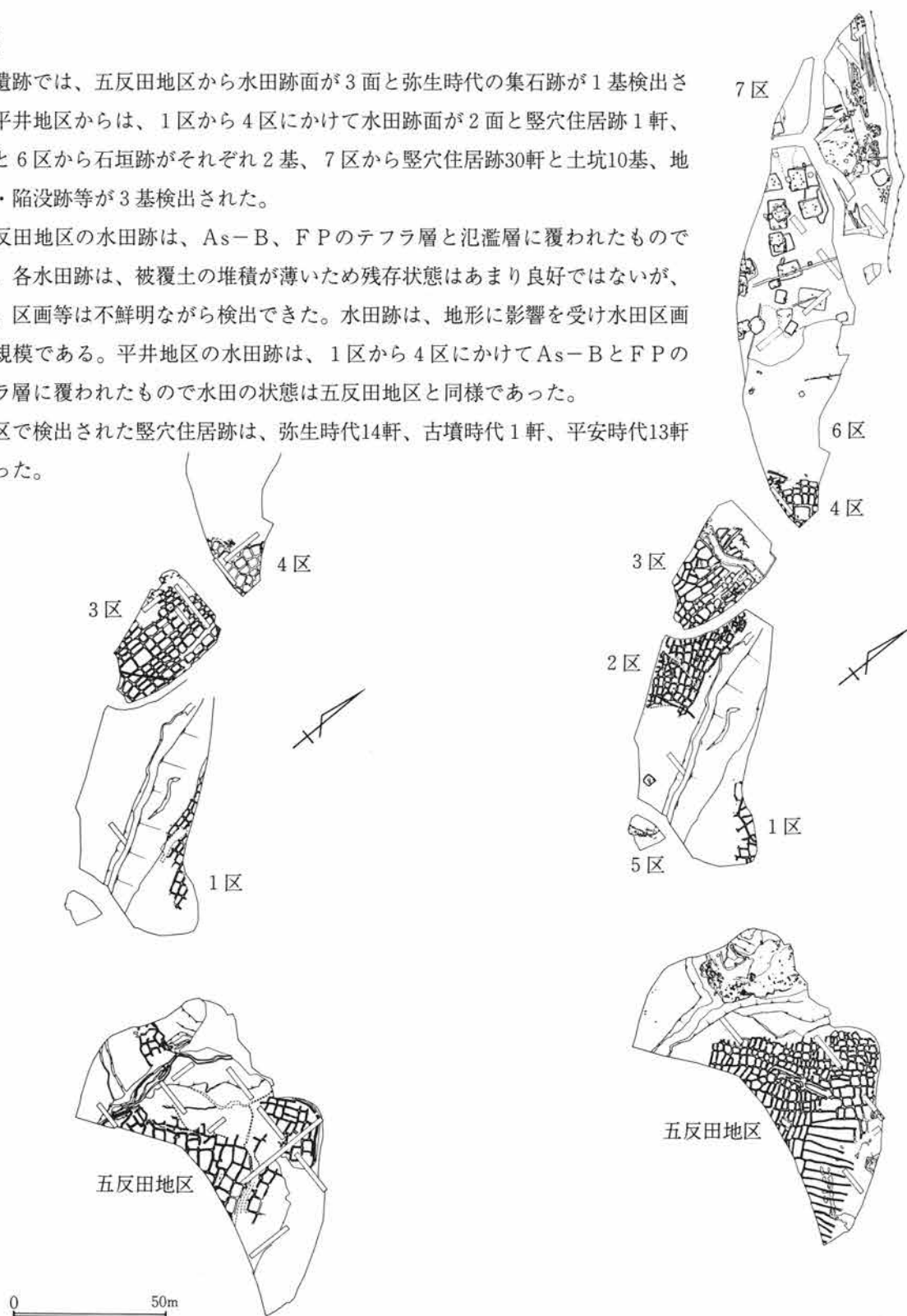
## 第5章 下川田平井遺跡の遺構・遺物

### 概要

当遺跡では、五反田地区から水田跡面が3面と弥生時代の集石跡が1基検出され、平井地区からは、1区から4区にかけて水田跡面が2面と竪穴住居跡1軒、5区と6区から石垣跡がそれぞれ2基、7区から竪穴住居跡30軒と土坑10基、地割れ・陥没跡等が3基検出された。

五反田地区の水田跡は、As-B、FPのテフラ層と氾濫層に覆われたものである。各水田跡は、被覆土の堆積が薄いため残存状態はあまり良好ではないが、アゼ、区画等は不鮮明ながら検出できた。水田跡は、地形に影響を受け水田区画も小規模である。平井地区の水田跡は、1区から4区にかけてAs-BとFPのテフラ層に覆われたもので水田の状態は五反田地区と同様であった。

7区で検出された竪穴住居跡は、弥生時代14軒、古墳時代1軒、平安時代13軒であった。



第51図 As-B層下水田跡(左)、下川田平井遺跡FP層下水田・集落跡(右)全体図

1. 竪穴住居跡

(1) 弥生時代

1号住居跡

位置 DA~DB-89~90グリッド

重複 単独

形態 北東角と南東角は丸みをもつがほぼ長方形を呈す。 方位 N-8°-E

規模 5.06×4.60m 面積 21.20m<sup>2</sup>

壁 東壁は確認面で床面が検出されており壁の状態は不明であるが、北壁104°、南壁122°、西壁148°の傾斜をもち、壁高は4~30cmである。

炉 確認されなかった。

内部施設 住居内では6カ所の落ち込みが確認されたが、柱穴、貯蔵穴、周溝に断定できるものはみられなかった。

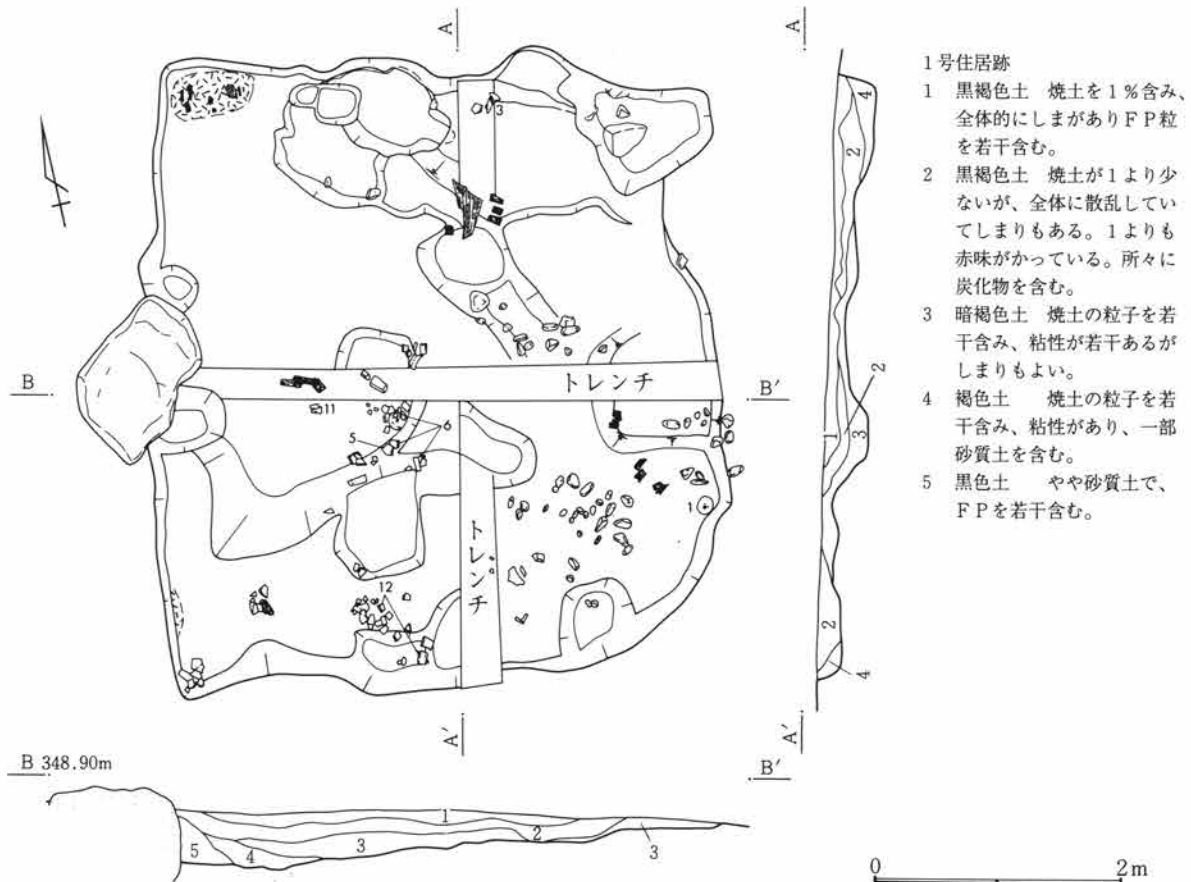
床 床面は全体的に硬化面がみられるが大きく波をうったような歪みがみられる。

掘り方 ローム面をそのまま踏み固めて床面としていたため掘り方はみられない。

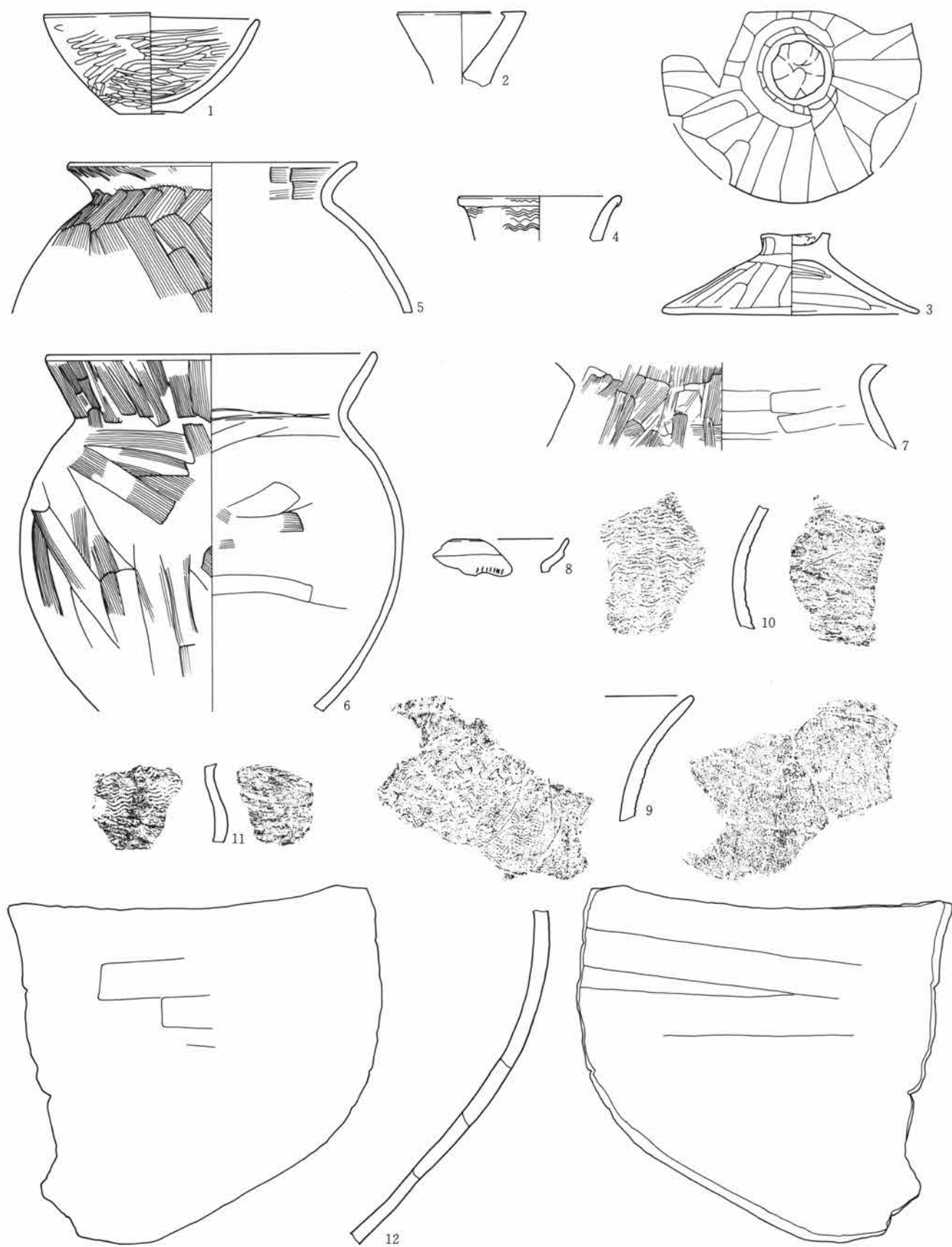
埋没状況 土層断面の観察より自然の埋没と想定される。

遺物出土状態 当住居からは弥生土器172点、石器27点が出土している。出土土器のうち約70%は甕・壺でそのうち6点に赤色塗彩が施されている。

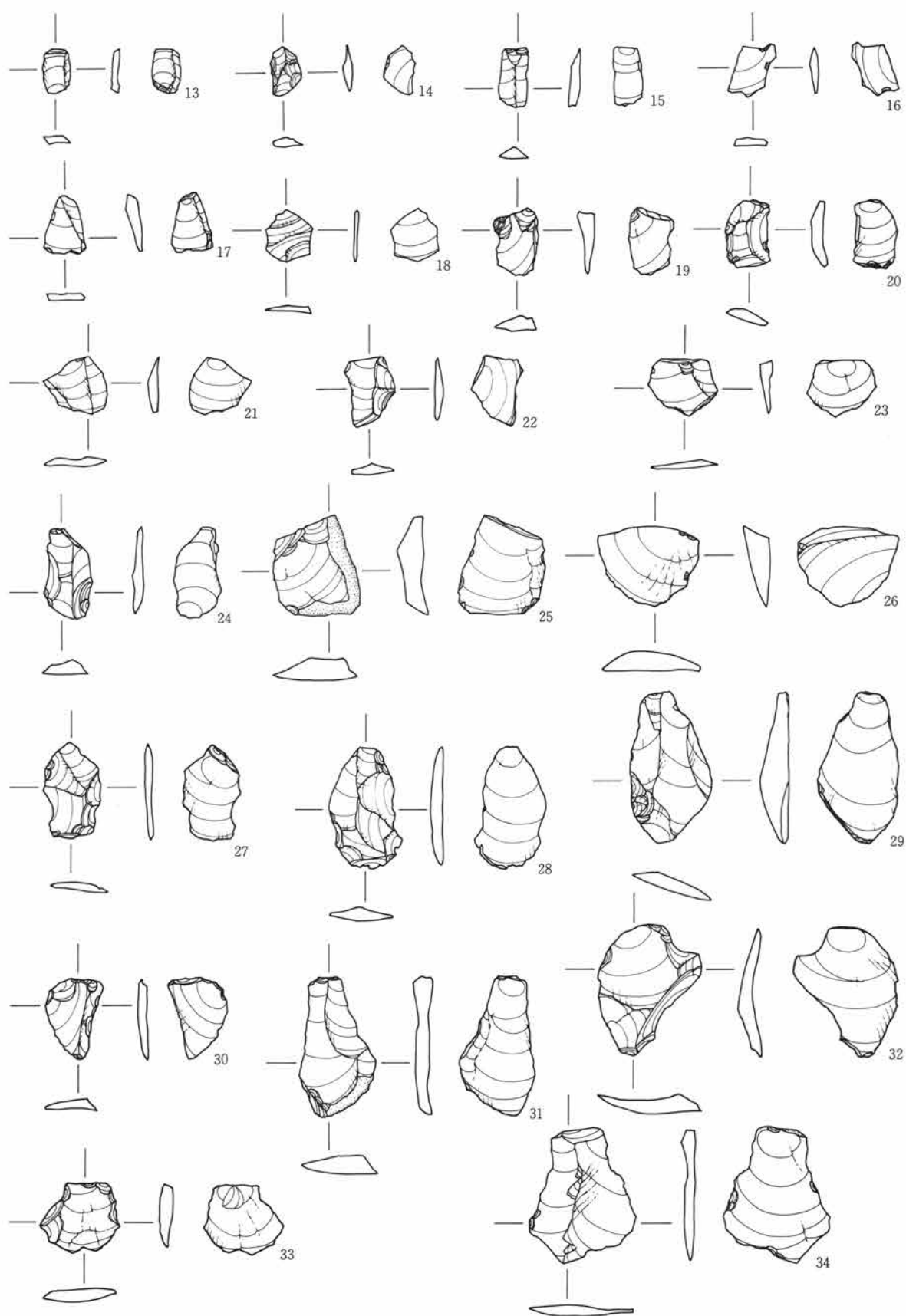
当住居跡が位置する部分は台地全体の中でも一段と段差がつき低くなっている。また、段の下では数箇所地割れの痕跡がみられ過去において地滑りが起こったと想定される。当住居跡の床面もその影響で歪みを受けたと考えられる。



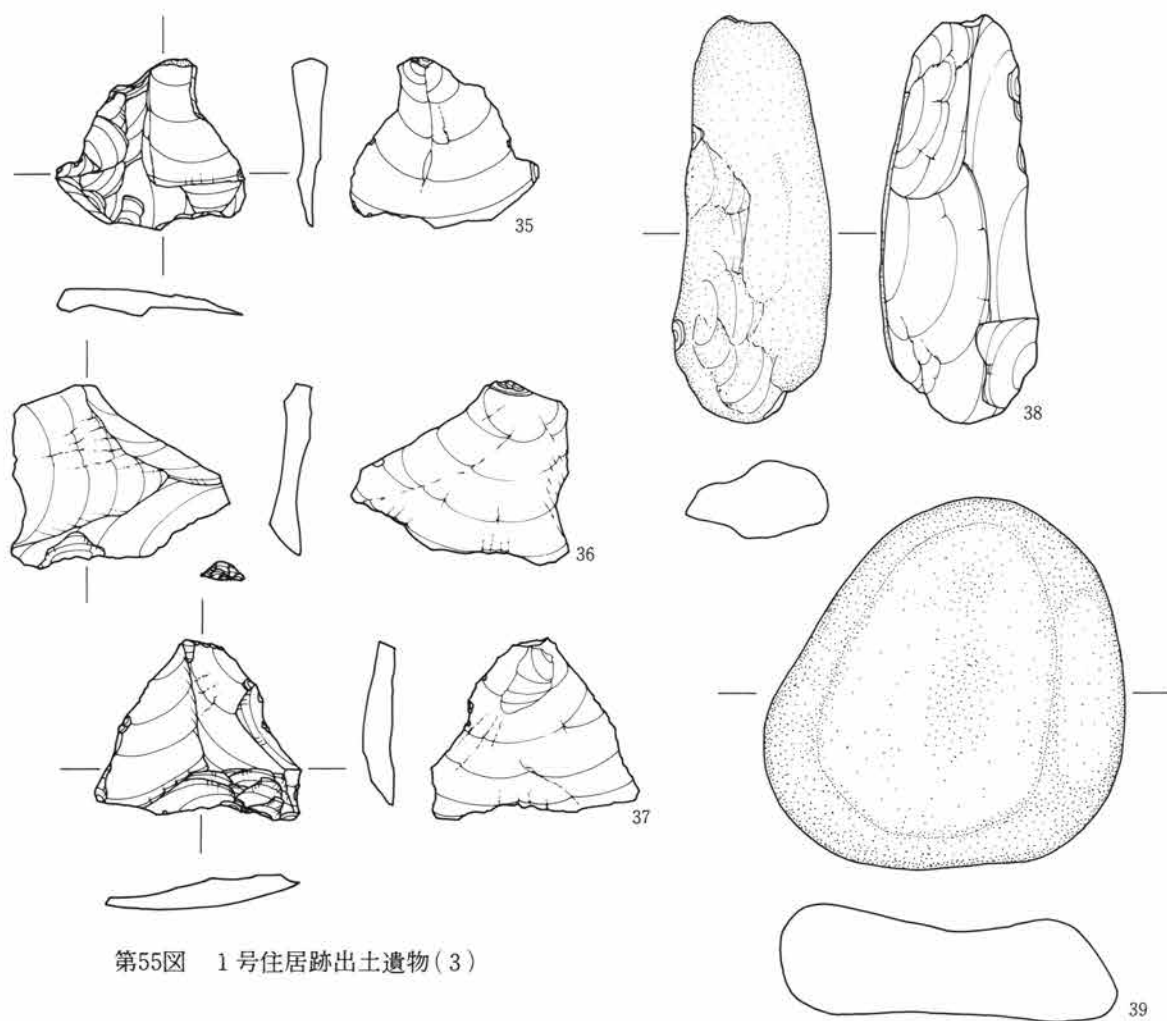
第52図 1号住居跡使用面



第53図 1号住居跡出土遺物(1)



第54图 1号住居跡出土遺物(2)



第55図 1号住居跡出土遺物(3)

## 2号住居跡

位置 CQ～CS-84～86グリッド

重複 単独

形態 長方形 方位 N-45°-E

規模 9.00×6.50m 面積 55.22㎡

壁 壁高が4～23cmと浅いため壁の傾斜については不明瞭である。

炉 調査の中では検出されなかったが、他の住居跡の様相からトレンチ内に存在したと想定される。

内部施設 柱穴は、調査の中では4本検出されたが、この他にトレンチ内に2本存在したと想定される。P1は33×32×10cm、P2は50×30×28cm、P4は50×33×20cm、P6は41×40×20cmである。柱間距離はP1～P2が3.10m、P2～P3が推定で2.96m、P3～P4が2.70m、P4～P5が推定で

2.80m、P5～P6が推定で3.20mである。貯蔵穴、周溝は検出されなかった。

床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で硬化面が見られる。

掘り方 中央部の一部は地山をそのまま床面にしてはいるが、周辺部では床面から2～10cmほど掘り込まれている。床下土坑等の施設は見られなかったが、北壁ぎわにピット状の落ち込みが2カ所見られ、西側に位置するものは半楕円形を呈し、径1.64×0.54m、深度0.28m、東側に位置するものは楕円形を呈し、径1.30×0.60m、深度0.33mである。

埋没状況 現地表面から確認面まで15～20cmで確認面から床面までも4～23cmと非常に浅く、5号・6号住居跡同様に表土～住居上位の堆積土の大部分が





2号住居跡

溝 黒褐色土、現代耕作土、ローム粒・ロームブロックを20%含む。

1 暗褐色土 焼土粒5%、ローム粒3%、炭化物を含む。

2 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物粒を各1%含む。

3 黒褐色土 焼土粒1%と炭化物粒3%を含む。

4 黒褐色土 焼土粒1%と炭化物粒3%を含む。

5 にぶい黄褐色土  $\phi$  2~3cmのロームブロックを10%、焼土粒1%含む。

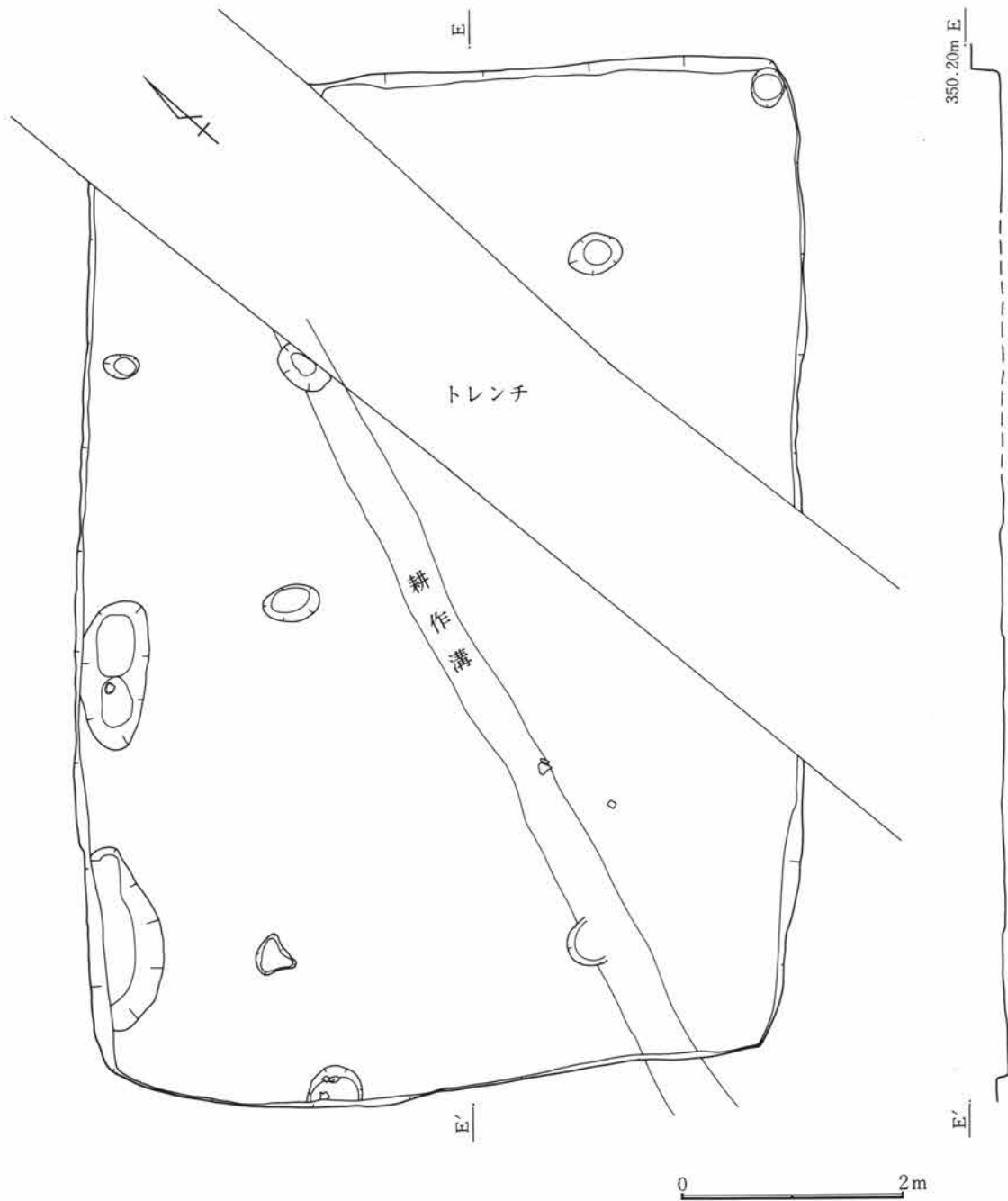
6 にぶい黄褐色土  $\phi$  2~3cmのロームブロックを10%含む。

7 暗赤褐色土 焼土粒を20%と炭化物を3%含む。

8 暗赤褐色土 焼土粒を30%以上含む。

9 黄褐色土 一部に焼土や暗褐色土を含む。特に貼床をほどこしたとみられる部分はない。

第56図 2号住居跡使用面



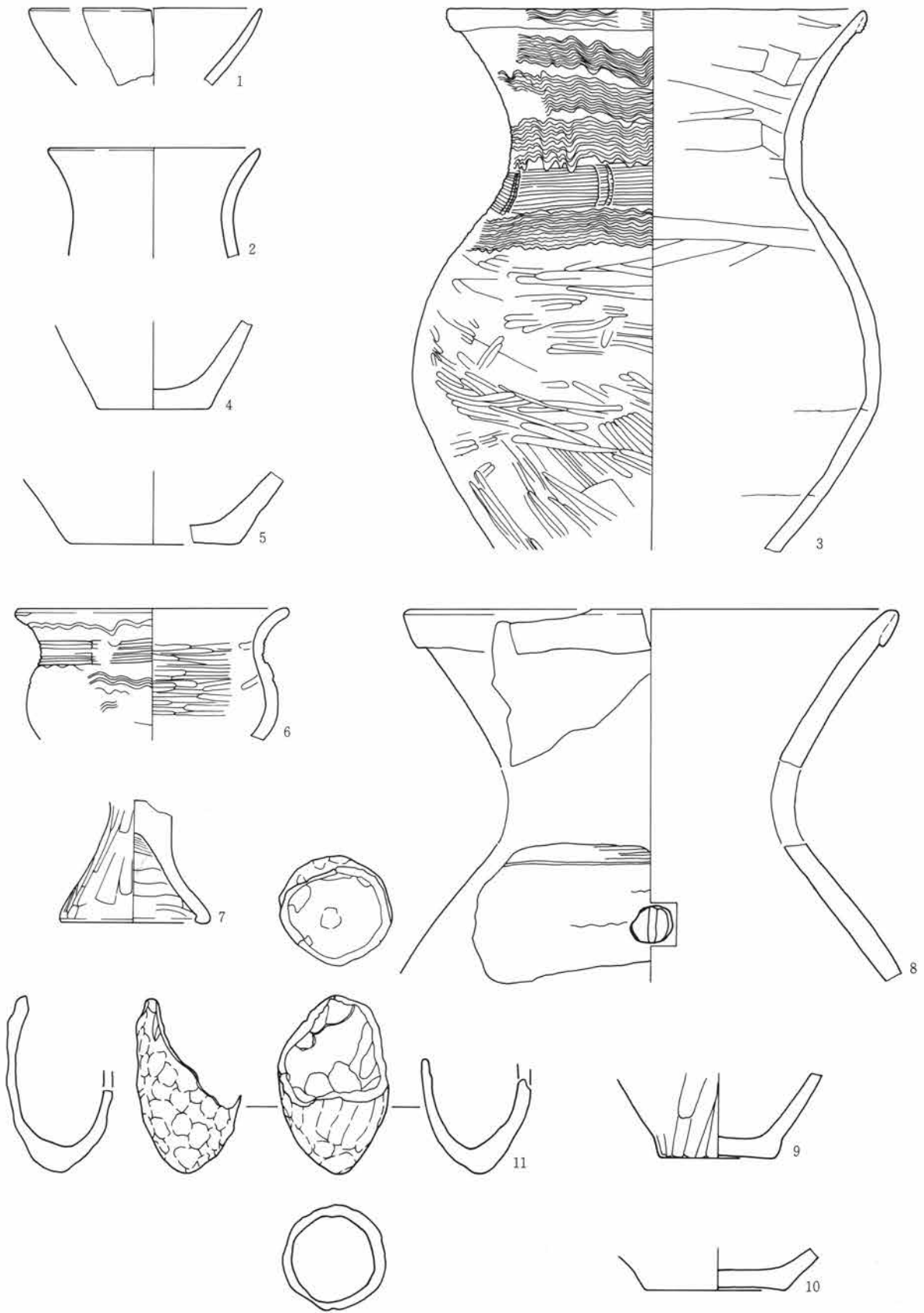
第57図 2号住居跡掘り方

崖下に流出していると思われる、住居埋没状況については不明である。

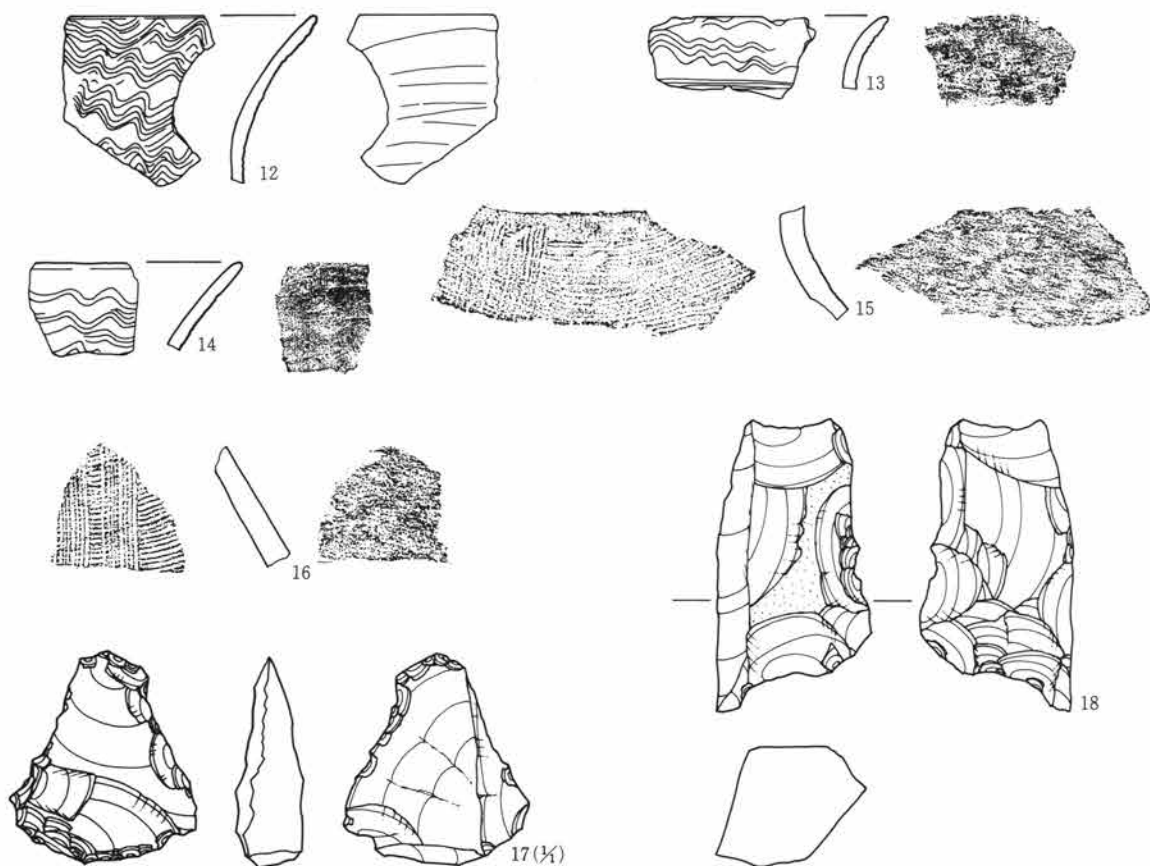
遺物出土状況 当住居跡からは、139点の弥生土器と2点の石器が出土しており、その出土は住居西側よりやや多く見られた。土器は甕・壺が90%を占め、残りが鉢、高杯である。赤色塗彩が施されているものは甕1点、高杯4点みられる。出土位置の明かなものは、3・15の壺が床面より、8の甕と12の

壺が柱穴より、6・14の甕と11の手づくね土器が床下よりの出土である。また、他の遺物も住居埋土下位からの出土である。

当住居跡は、全体的に焼土・炭火材が多量に検出され火災を受けているが、炭火材の残存状態はあまり良好ではなく住居部材について復元できるものは見られなかったが、樹種についてはクリ・ケヤキが確認されている。



第58图 2号住居跡出土遺物(1)



第59図 2号住居跡出土遺物(2)

### 7号住居跡

位置 CQ~CP-85~86グリッド

重複 6号住居跡(平安時代)当住居跡が前出

形態 南半分は表土・住居埋土とともに床面の一部も崖下に流出しているため不明確ではあるが方形または長方形を呈すると推定される。

方位 N-62°-W

規模 5.02×(4.4+α)m 面積 測定不能

壁 一部は確認面ですでに床面に達していたり床面下であったりし、残存部分でも床面から4cm前後と非常に浅いため壁の状態については不明である。

炉 P2とP3を結んだ線よりやや外側に位置する。形態はほぼ円形を呈し、規模は径50×46cmで浅い窪みが見られ、閃緑岩と粗粒安山岩の細長い円礫の半切したものが据えられている。

内部施設 柱穴は4本検出されたが、床面の段階でP1、P2の2本がそして掘り方の段階でP3、P

4が検出された。それぞれの規模はP1が34×28×28cm、P2が42×38×32cm、P3が39×36×25cm、P4が18×14×13cmである。貯蔵穴、周溝は検出されなかった。

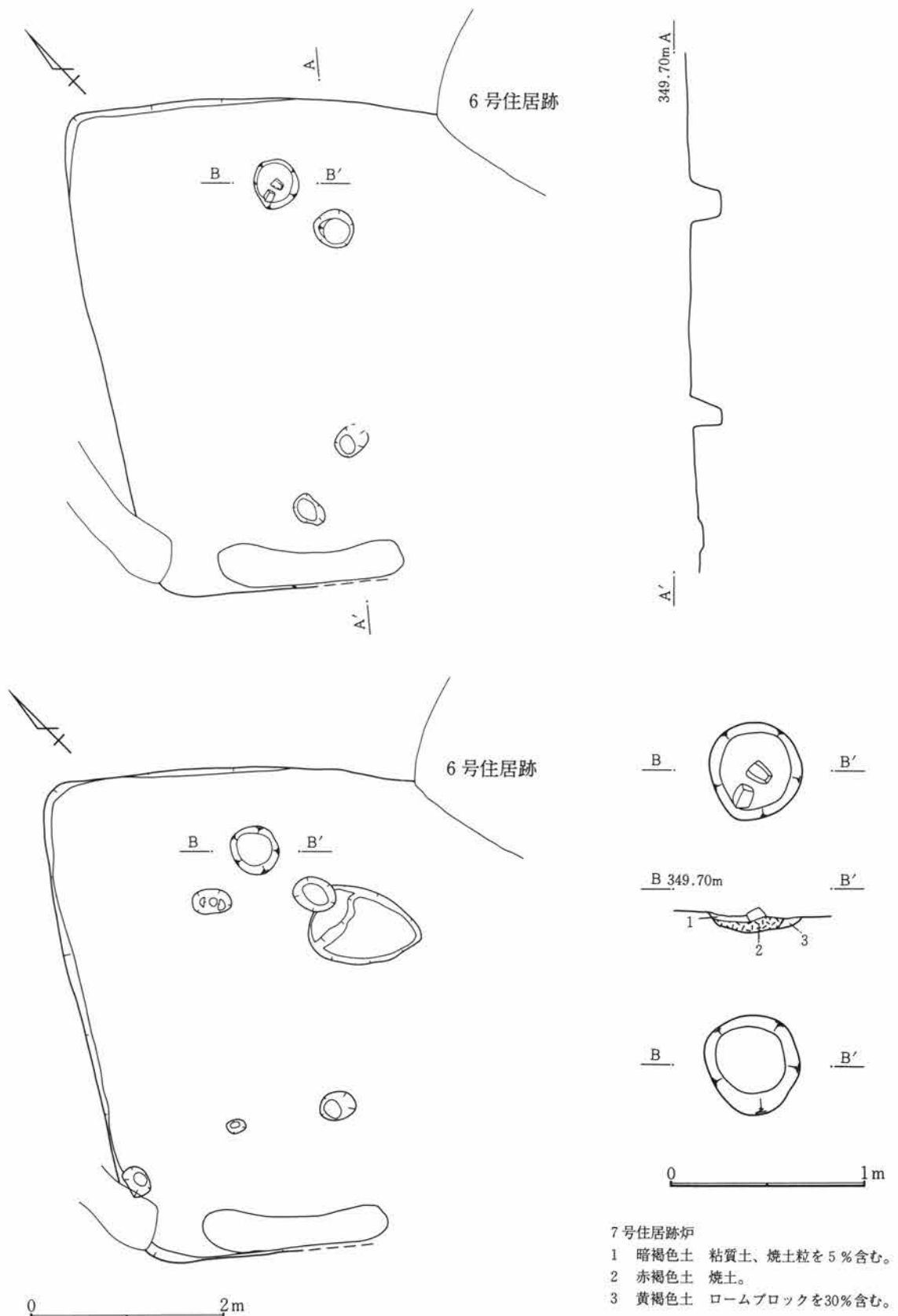
床 大部分が地山を踏み固めて床面としており、多少の凹凸はあるがほぼ平坦で柱穴間の内部及びその周辺に硬化面が見られる。

掘り方 地山を床面としているため掘り方は見られないが、P2と重なるように浅い土坑状の落ち込みが検出された。形態は楕円形で規模は径116×74cm、深度10cmと浅いもので出土遺物等は見られなかった。

埋没状況 埋没土がほとんど残っていないため不明である。

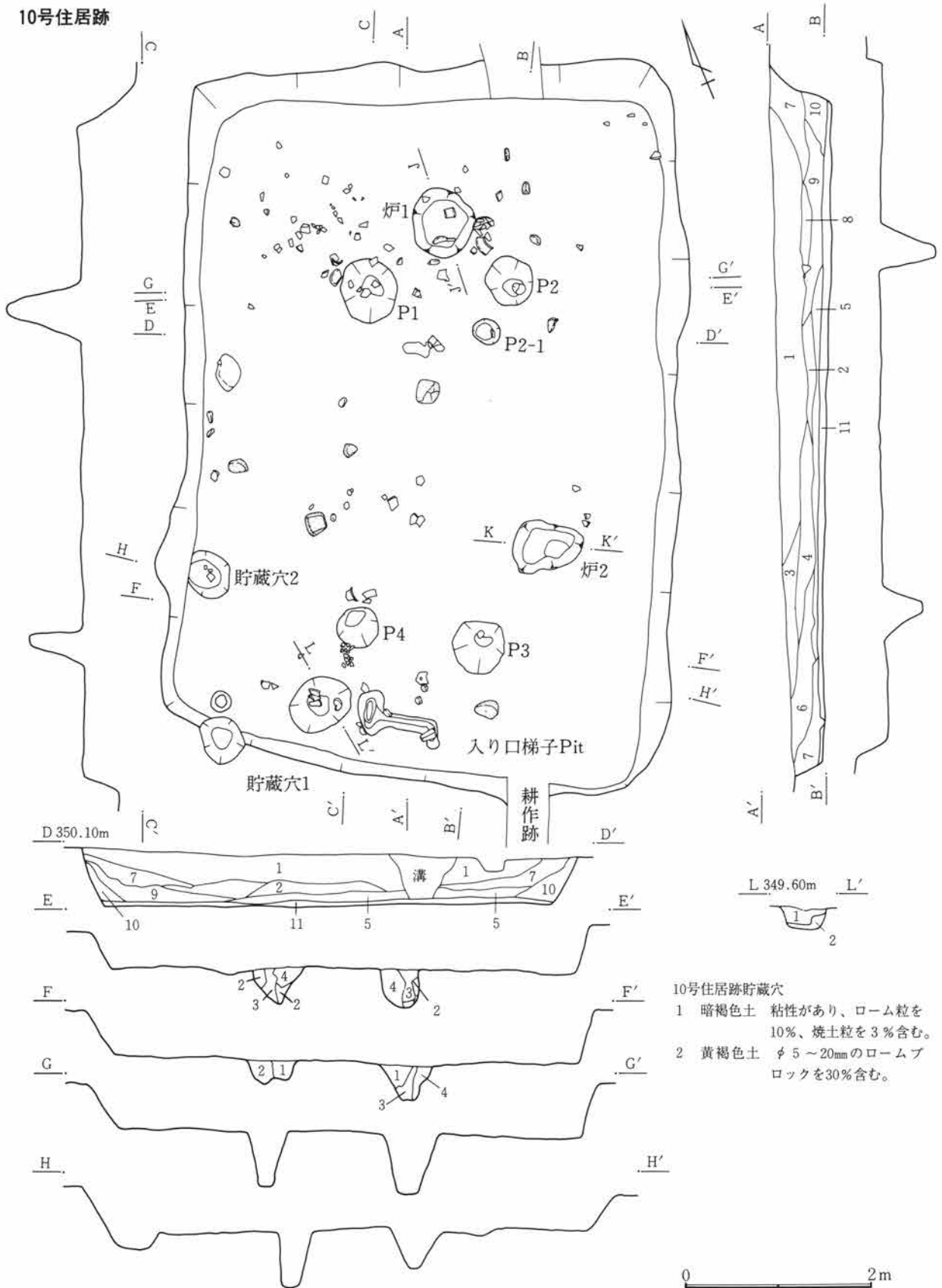
遺物出土状況 当住居跡からは、甕2点、鉢1点の出土があったが、小破片のため実測は不能であった。

1. 竪穴住居跡

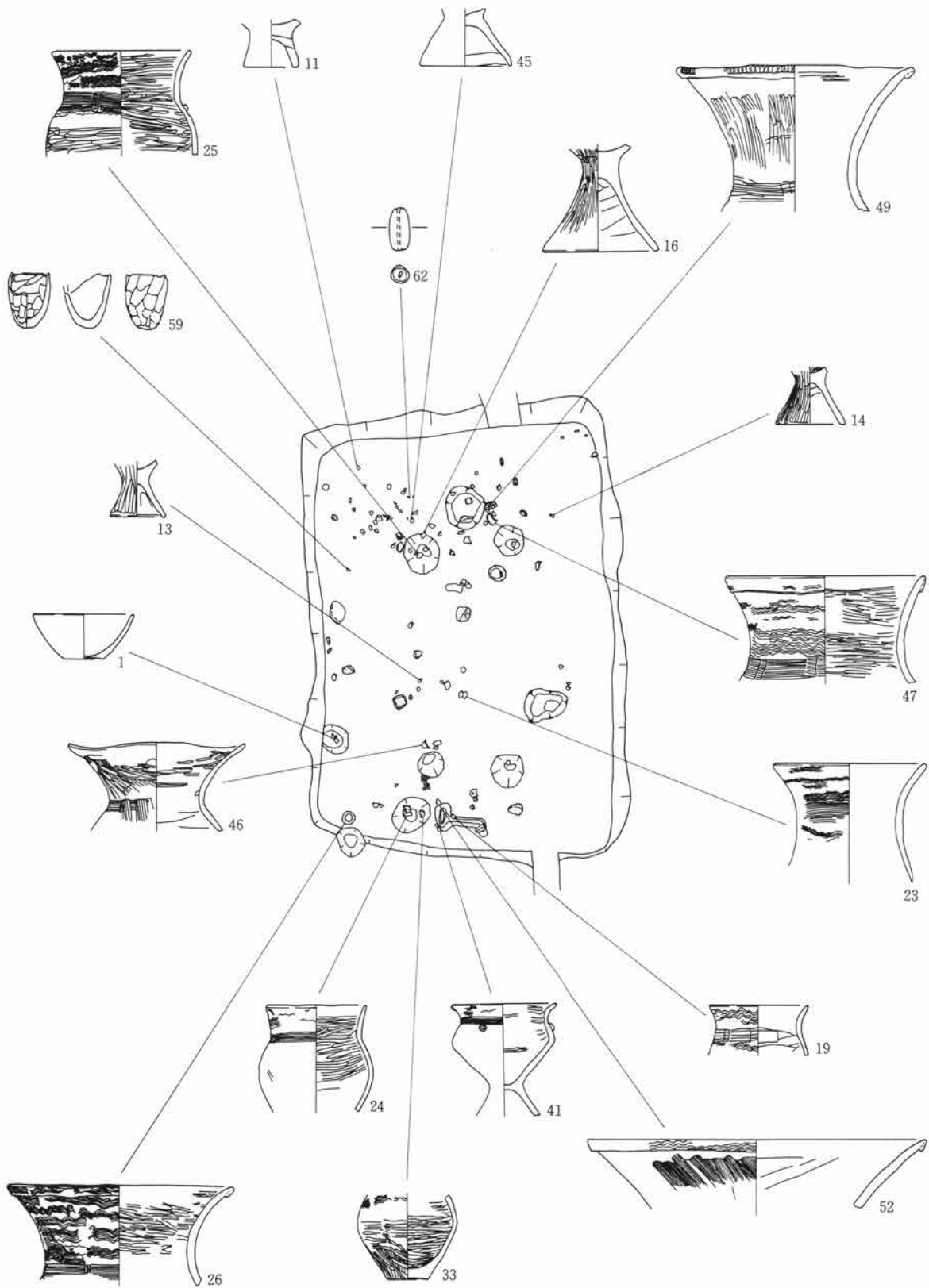


第60図 7号住居跡使用面・掘り方・炉

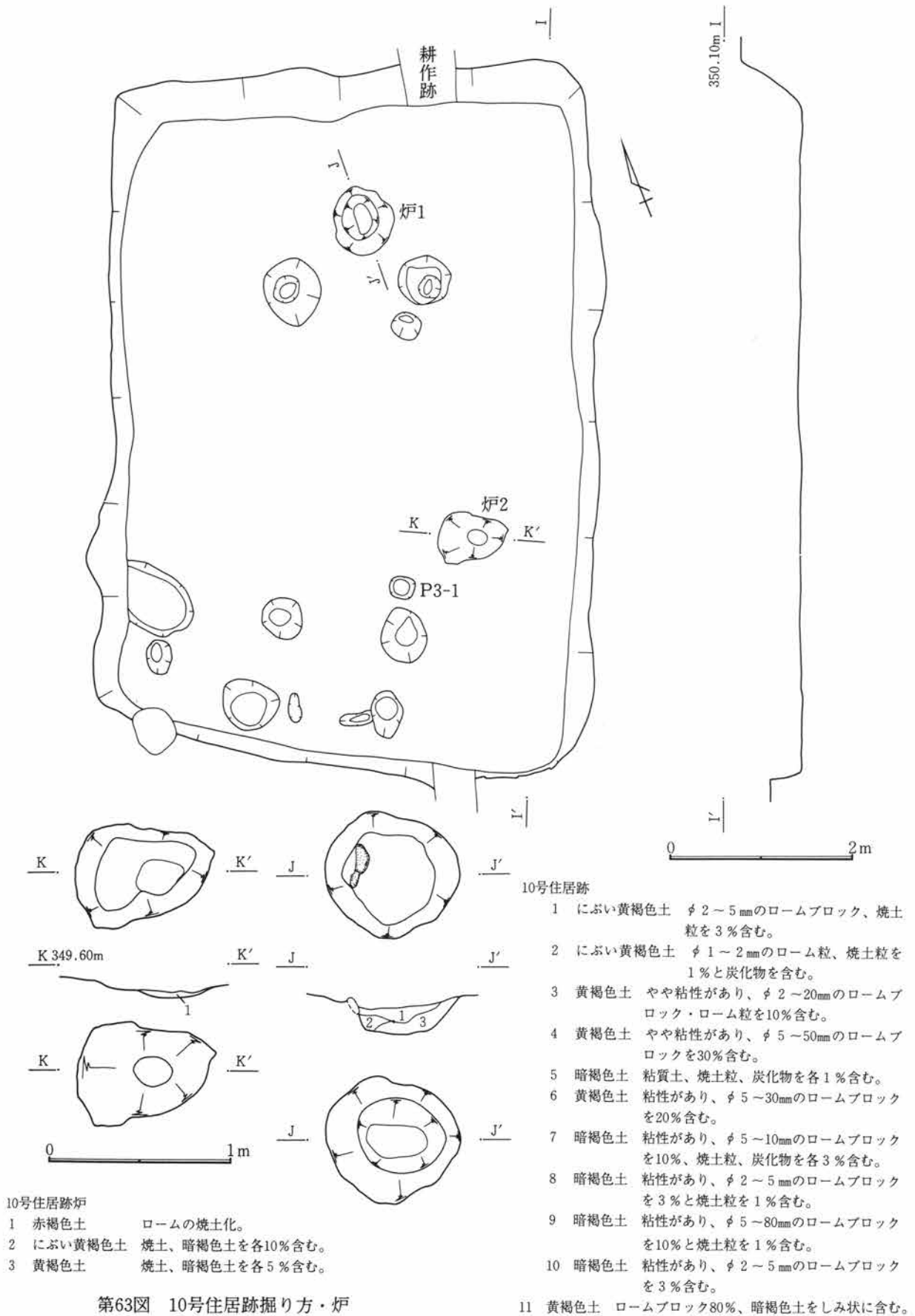
10号住居跡



第61図 10号住居跡使用面・貯蔵穴



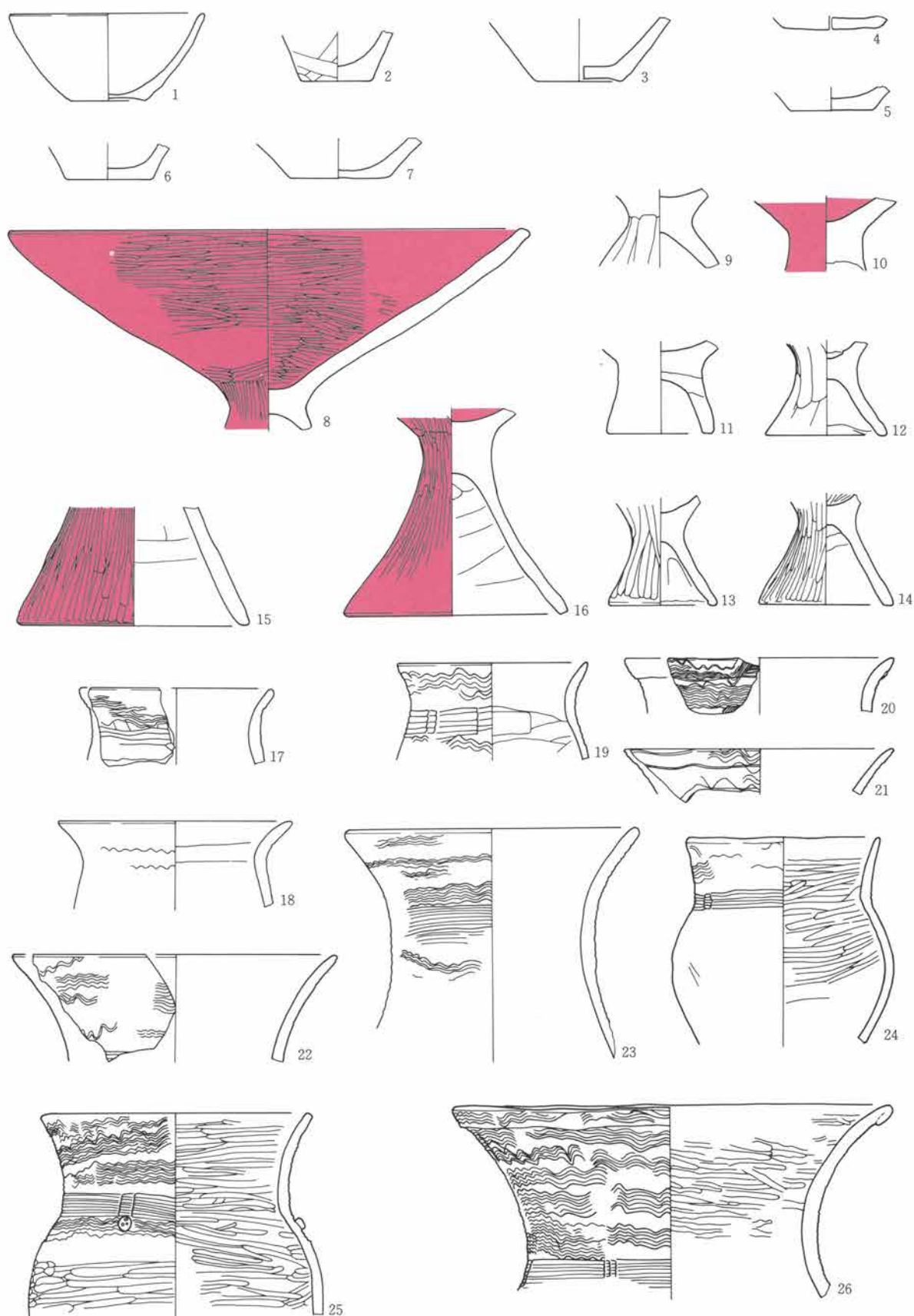
第62図 10号住居跡出土遺物分布図



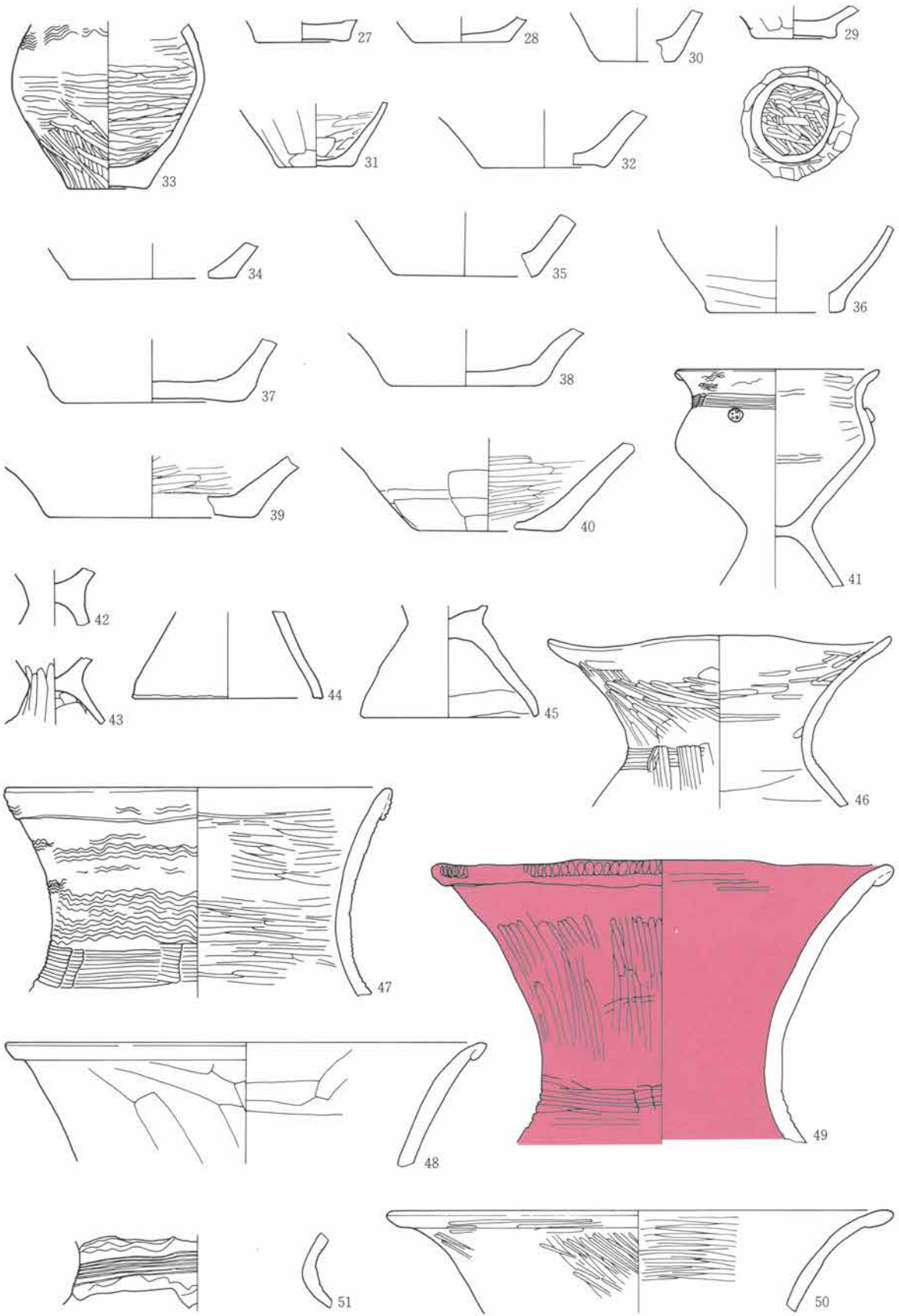
第63図 10号住居跡掘り方・炉



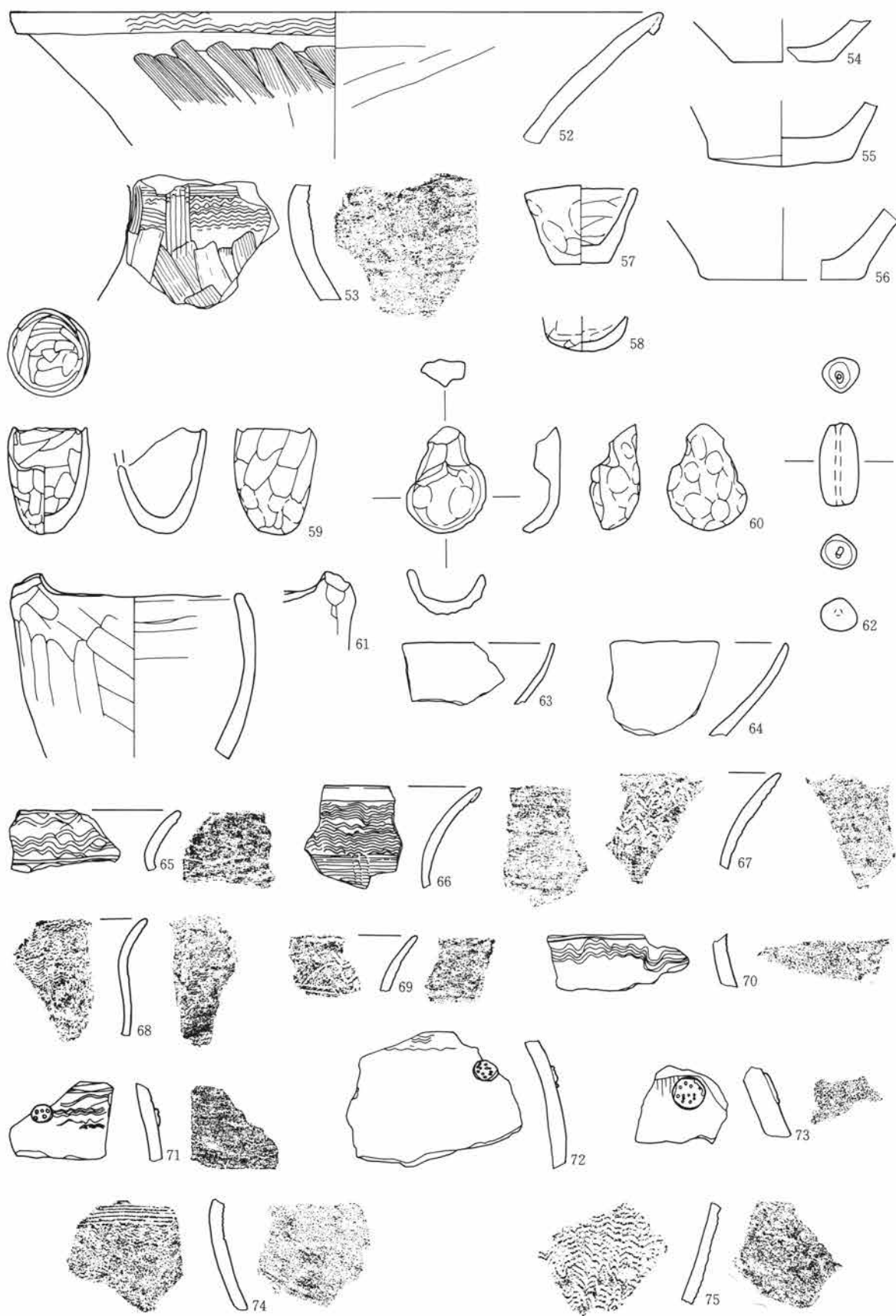
1. 竖穴住居跡



第64图 10号住居跡出土遺物(1)



第65図 10号住居跡出土遺物(2)



第66图 10号住居跡出土遺物(3)

位置 CQ～CS-87～89グリッド

重複 8号土坑 当住居跡が後出

形態 東壁(7.72m)に比べて西壁(6.50m)が1.22m短い台形を呈す。

方位 N-26°-E

規模 7.72×5.56m 面積 39.37m<sup>2</sup>

壁 やや外傾し、97°～119°の傾斜をもち、壁高は(南壁)26～(北壁)61cmである。

炉 2カ所で検出され、炉1はP1とP2を結んだ線の外側に位置し、形態は円形を呈し、規模は径73×68cmで細長い円礫を据えてある。炉2はP2とP3を結んだ線の外側でP3よりに位置し、形態はやや歪んだ楕円形を呈し、規模は径78×53cmである。炉1は炉2に比べて火床面の焼土化が著しく使用頻度が多かったようである。

内部施設 柱穴は4本検出され、やや南よりに配列され、P2には南側とP3の北側に補助柱穴が見られる。規模はP1が70×60×63cm、P2が54×52×58cm、P3が56×54×41cm、P4が44×42×55cmである。補助柱穴は、P2が32×26×32cm、P3が28

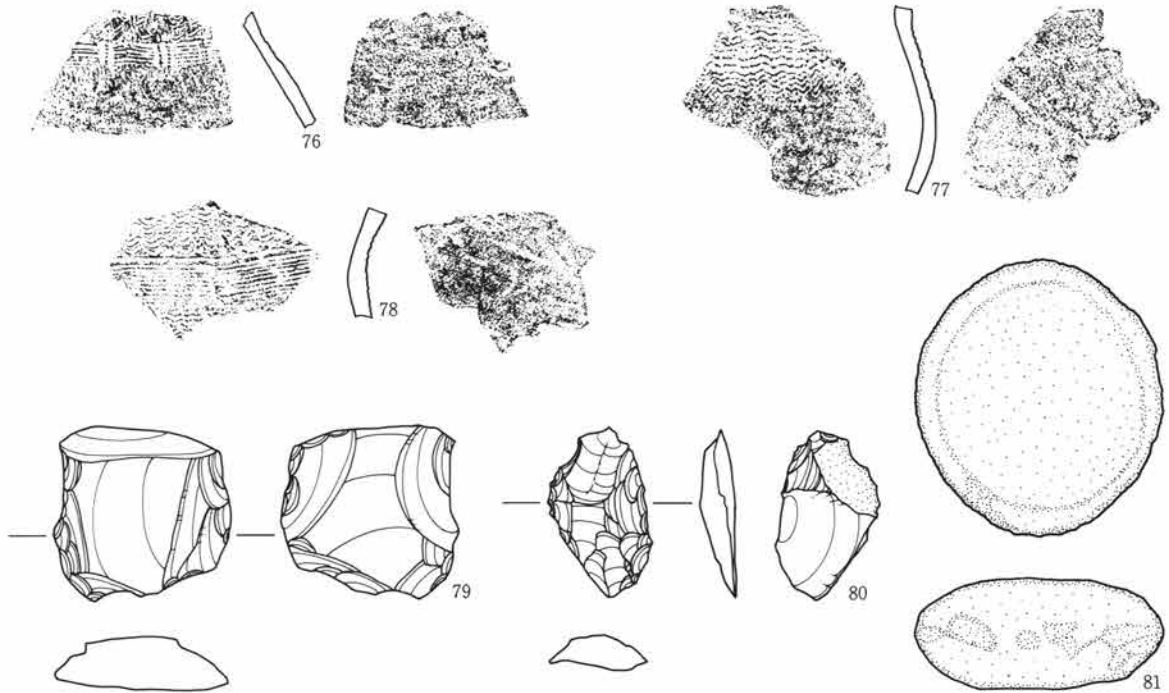
×22×15cmである。貯蔵穴は住居西南部の壁際より2カ所検出され、貯蔵穴1は楕円形で70×54×30cm、貯蔵穴2は楕円形で56×42×17cmである。また、南壁中央には2本の小ピットとそれを結ぶ細い溝が見られ、入口の梯子跡と推定される。

床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で柱穴間の内部及びその周辺に硬化面が見られる。

掘り方 床面から10cmほど掘り込まれているが、ほぼ平坦で床下土坑等の落ち込みは見られない。

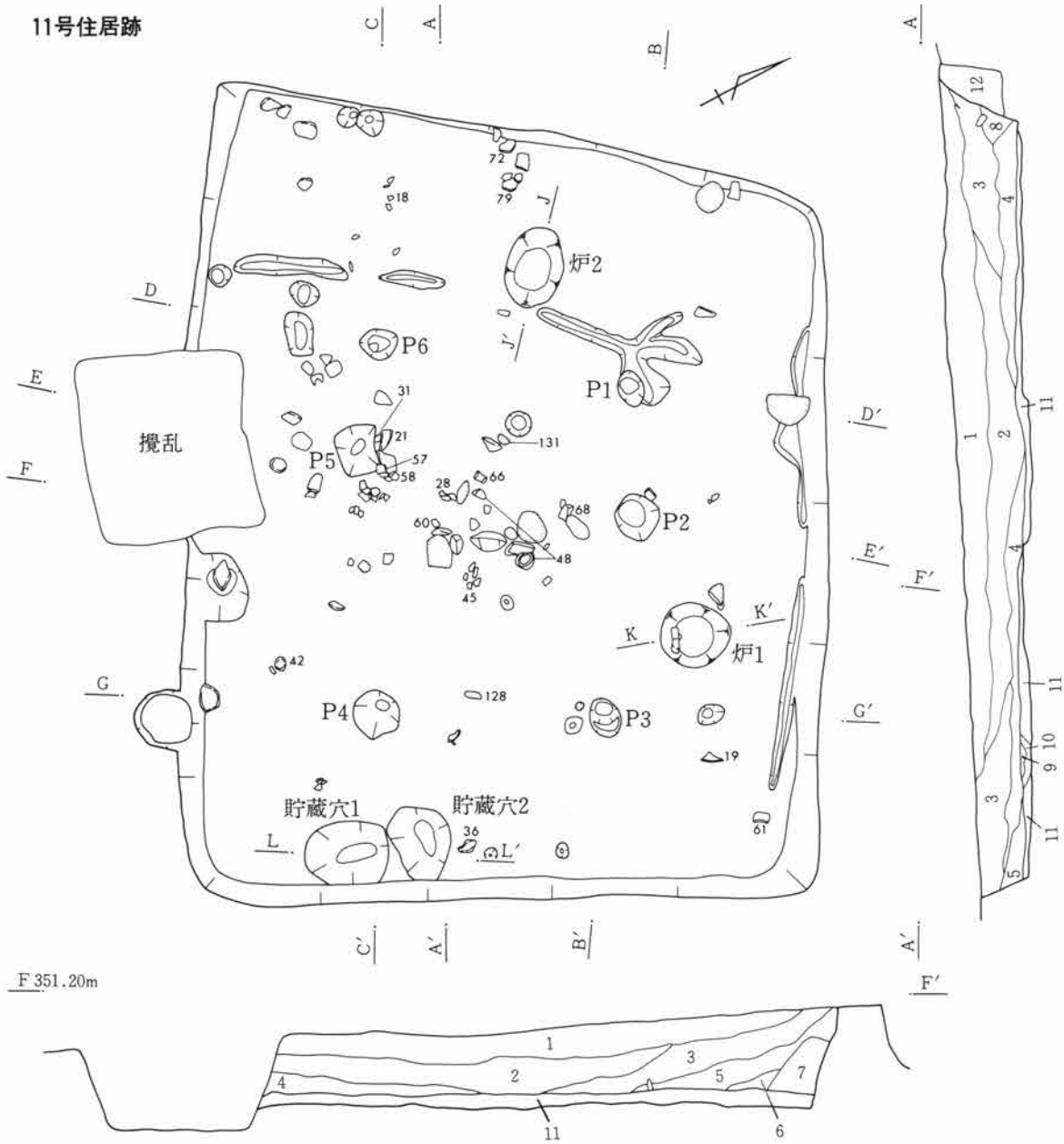
埋没状況 住居周辺よりほぼ均一に土砂が流入し、レンズ状の堆積が観察された。

遺物出土状態 当住居跡からは、923点の土器と3点の石器が出土しており、その出土はP1・2、炉1の周辺とP3・4の周辺に集中している。土器のうち甕が圧倒的な割合を占め、残りが壺、鉢、高杯である。赤色塗彩が施されているものは甕・壺に27点、鉢1点、高杯2点みられる。出土位置の明かなものは床面より29の小型甕、48の壺、64の鉢の甕、11の台付甕、柱穴のうちP2より10の高杯、71の甕、P3より77の甕、P4より31・39の甕がある。



第67図 10号住居跡出土遺物(4)

11号住居跡



11号住居跡

- 1 暗褐色土 粘性があり、ローム粒、焼土ブロック、炭化物を各1%含む。
- 2 暗褐色土 粘性があり、ローム粒・ロームブロックを5%と、焼土ブロック、炭化物を各1%含む。
- 3 暗褐色土 粘性があり、ローム粒・ロームブロックを3~5%含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックを5%と、焼土粒を微量含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックを10%含む。
- 6 黄褐色土 ロームブロックを50%含む。
- 7 黒褐色土 ロームブロックを10%含む。
- 8 黄褐色土 ロームブロックを30%含む。
- 9 暗褐色土 ロームブロックを10%含む。
- 10 黄褐色土 ロームブロックを30%と炭化物を5%含む。
- 11 黄褐色土 ロームブロック。
- 12 黄褐色土 ロームブロック。

L 350.50m

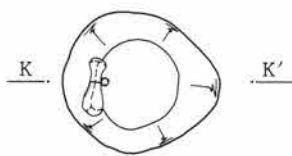
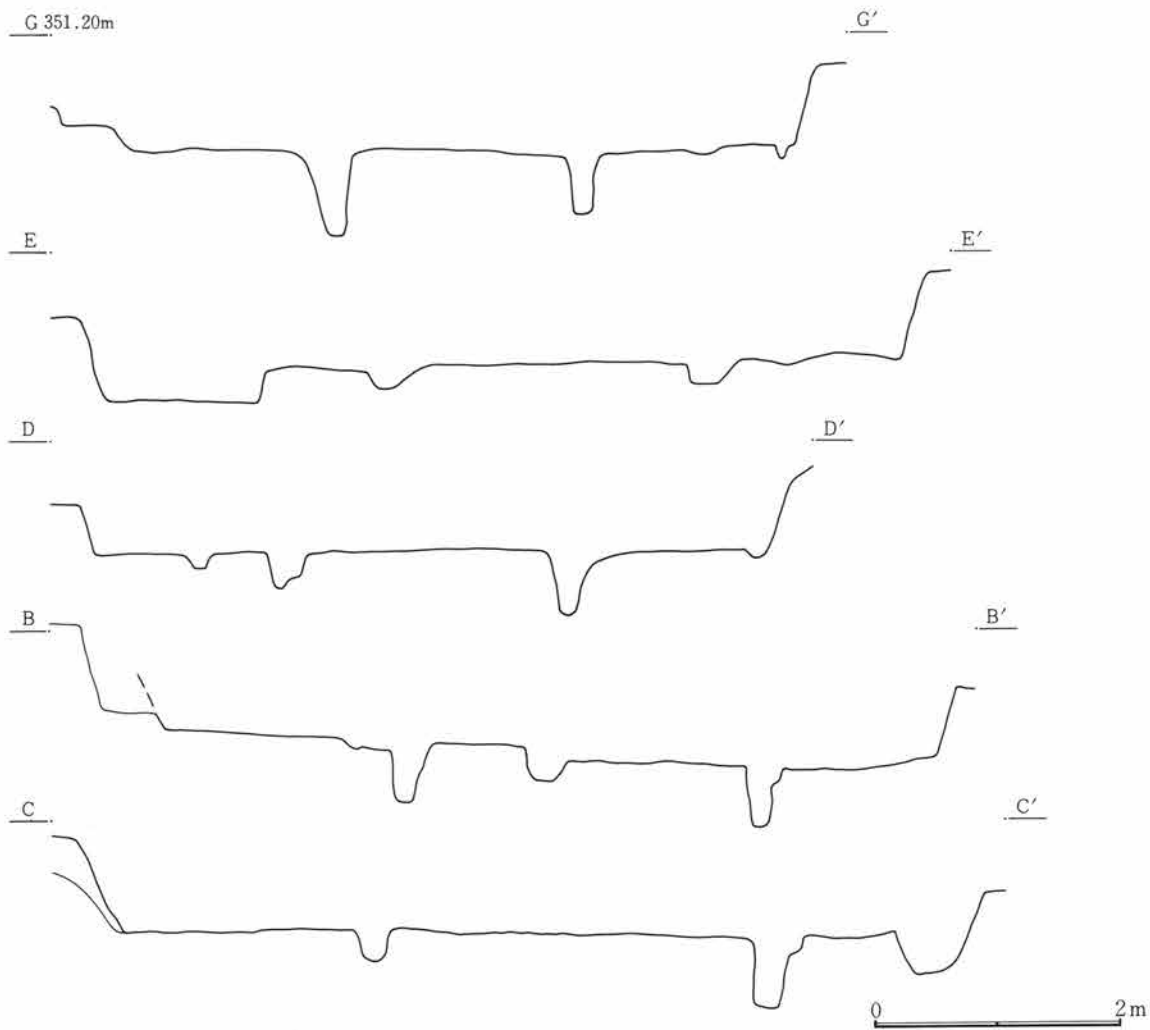


0 2m

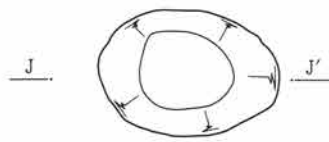
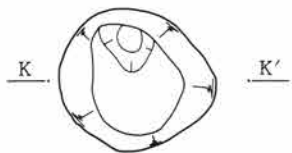
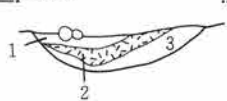
第68図 11号住居跡使用面

第5章 下川田平井遺跡の遺構・遺物

G 351.20m



K 350.40m

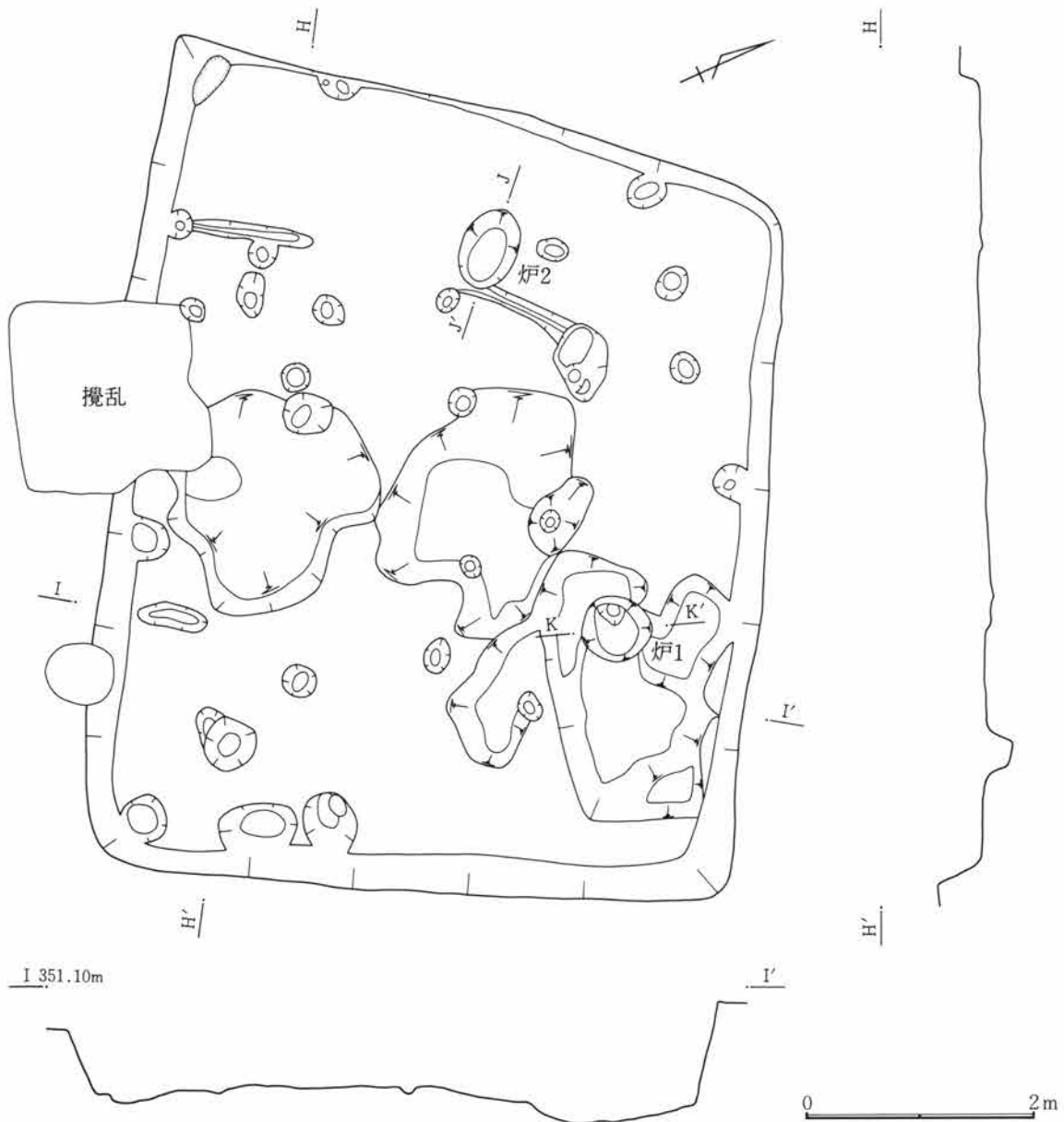


11号住居跡炉

- 1 暗褐色土 ロームの小ブロックと焼土ブロックを30%含む。
- 2 赤褐色土 焼土。
- 3 にぶい黄褐色土 ローム主体、焼土粒5%を含む。

0 1m

第69図 11号住居跡エレベーション・炉



第70図 11号住居跡掘り方

位置 CV～CS-92～94グリッド  
 重複 17号住居跡(弥生時代)、9号土坑(縄文時代)  
 当住居跡が後出  
 形態 南壁(7.12m)に比べて北壁(6.02m)が1.02m  
 短い台形状を呈す。  
 方位 N-61°-W  
 規模 6.80×5.72m 面積 37.23㎡  
 壁 やや外傾し、103～120°の傾斜をもち、壁高  
 は38～70cmである。  
 炉 2カ所で検出され、炉1はP2とP3を結ん

だ線の北側に位置し、形態はほぼ円形を呈し、規模  
 は径63×58cmで細長い円礫を据えてある。炉2はP  
 1とP6を結んだ線の西側に位置し、形態は楕円形  
 を呈し、規模は径72×50cmで浅い窪みをもつ。炉2  
 は、当住居が拡張されてから設けられたものである。  
 内部施設 柱穴は6本検出されたが、住居構築当初  
 はP2～5の4本によって建てられ、拡張後にP  
 1・6が増やされたか、P2がP1にP5がP6に  
 移動されたと想定される。規模はP1が32×22×  
 52cm、P2が42×40×19cm、P3が34×26×49cm、

P 4 が44×40×56cm、P 5 が50×46×23cm、P 6 は32×28×30cmである。貯蔵穴は東壁ぎわの東南角よりに2個並んで検出され、貯蔵穴1は形態が楕円形を呈し、規模が径70×48cm、深度54cm、貯蔵穴2は形態が楕円形を呈し、規模が径76×54cm、深度34cmである。周溝は北壁ぎわと住居西よりで部分的に検出され、幅15～16cm、深度5～6cmである。周溝は住居が拡張された後は機能していたかどうかは疑問である。

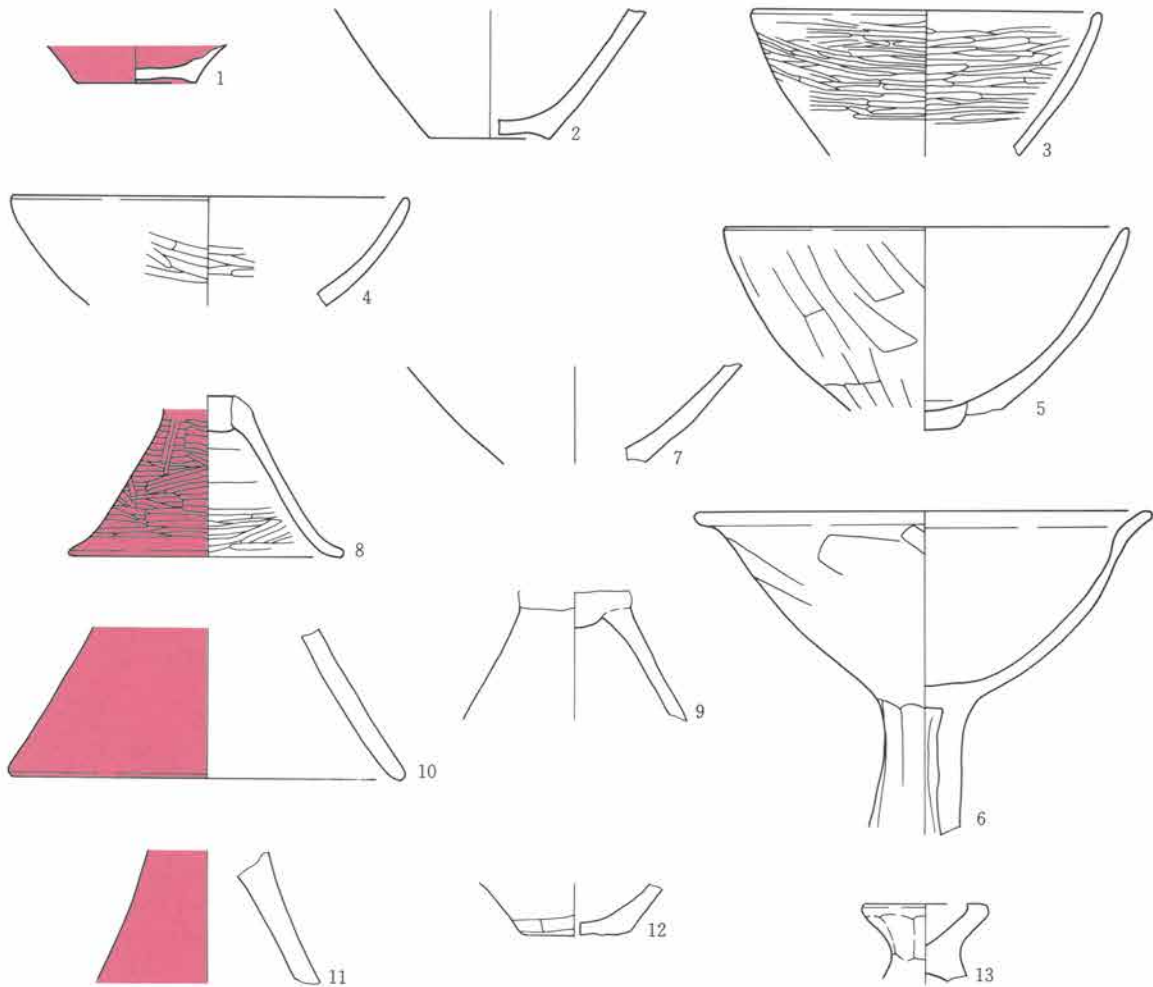
床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で柱穴間の内部及びその周辺に硬化面が見られる。

掘り方 中央部分に床面より8～26cmの浅い土坑状の落ち込みが5個連なって見られるが埋設物等は出土していない。また、落ち込みの両側は床面より2～10cm程掘り込まれているがほぼ平坦である。

埋没状態 住居周辺よりほぼ均一に土砂が流入し、レンズ状の堆積が観察された。

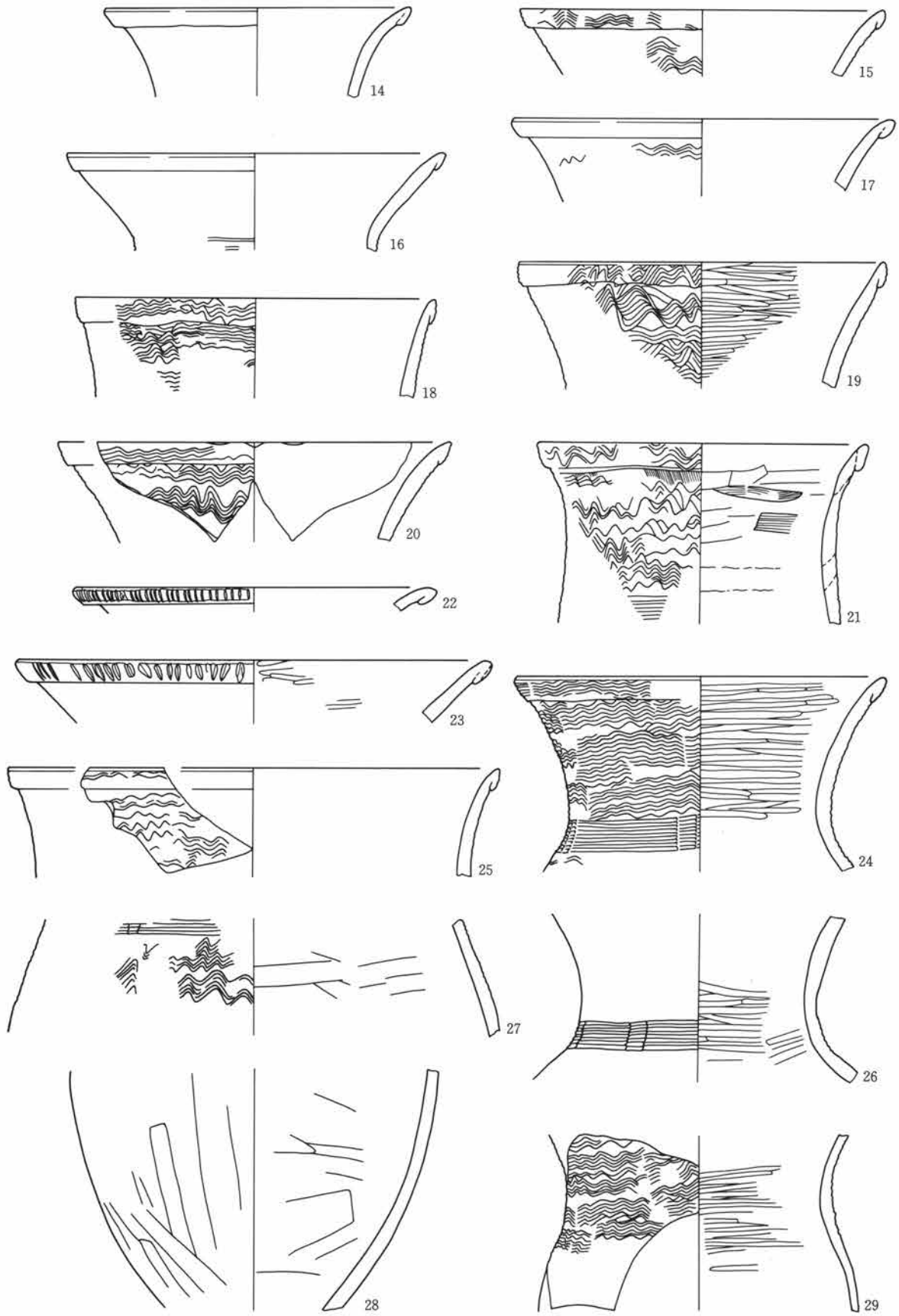
遺物出土状態 当住居跡からは、2,756点の土器と13点の石器と多くの礫が出土している。土器のうち90%は甕・壺が占めている。出土土器のうち赤色塗彩が施されているものは甕160点、壺16点、鉢16点、高杯4点みられる。遺物の出土は住居中央部より礫と土器が割合まとまって出土している他は、住居全域の埋土中位から下位にかけて散漫な出土である。当住居跡と供伴が明らかなものは床面より出土した18・19・21の甕と61の台付甕がある。

当住居跡は、西壁より約1.4mの所に周溝が見られ、その周溝と炉2が重複していることなどから拡張が行われたと推定される。

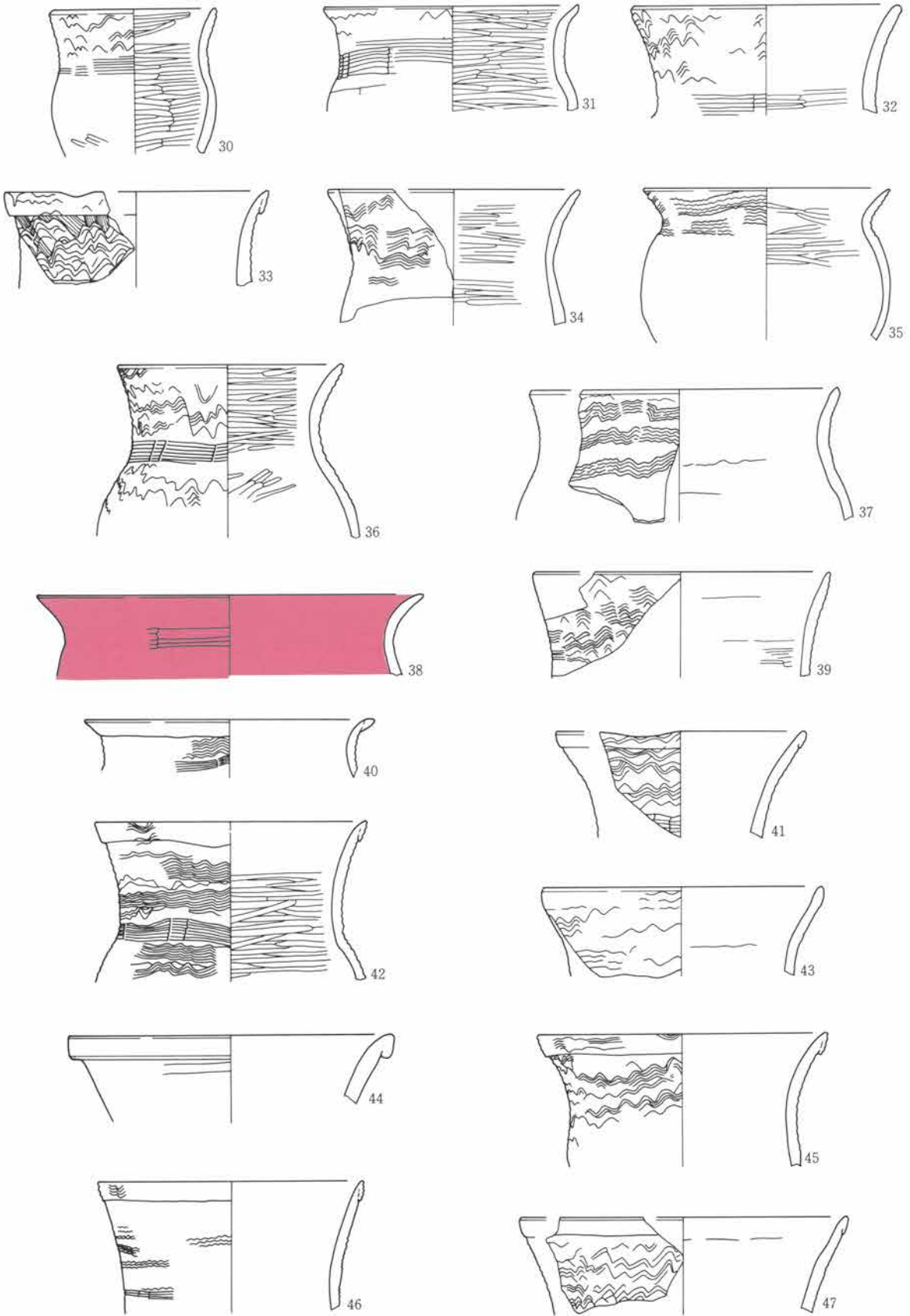


第71図 11号住居跡出土遺物(1)



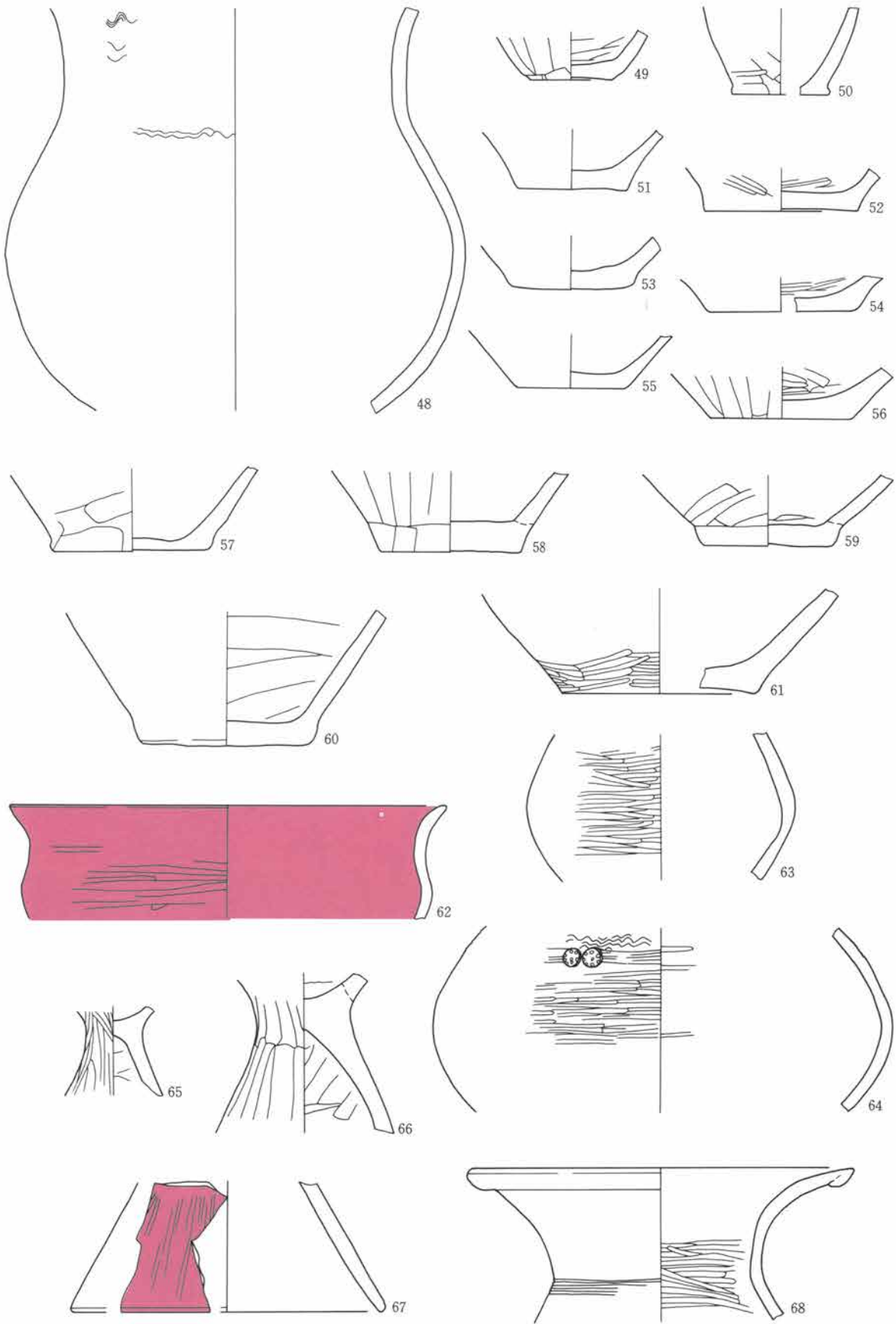


第72图 11号住居跡出土遺物(2)

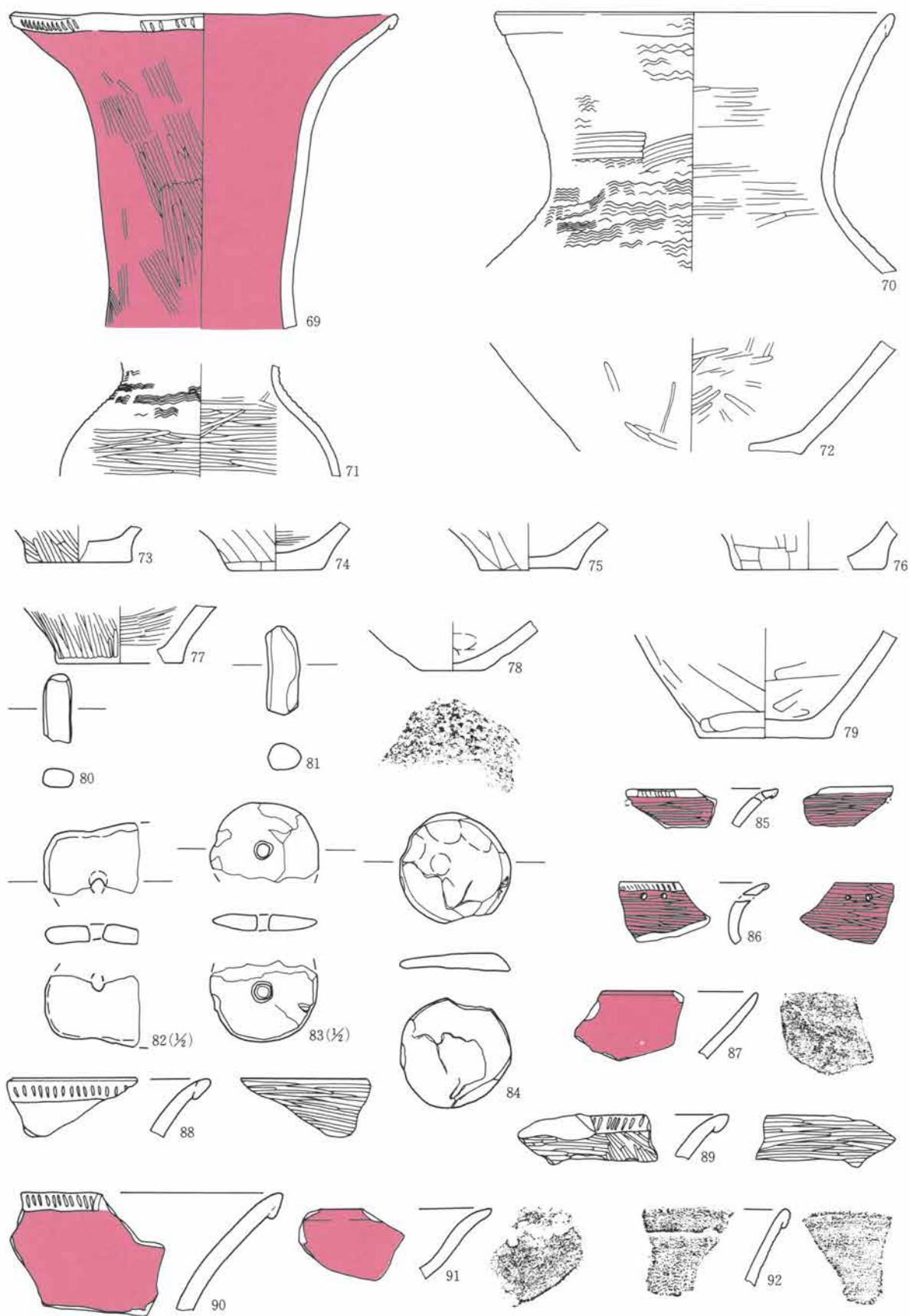


第73図 11号住居跡出土遺物(3)

1. 竖穴住居跡

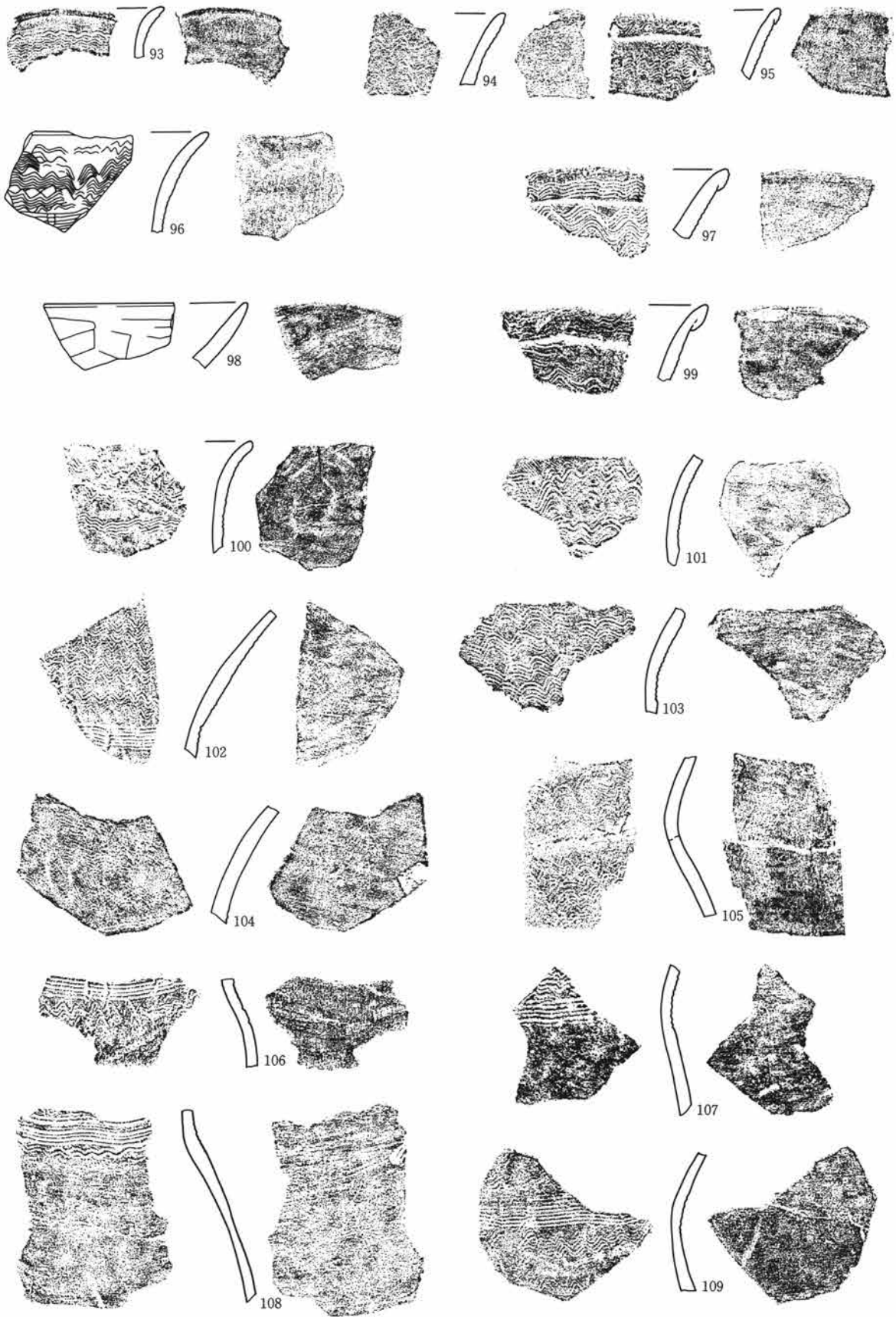


第74图 11号住居跡出土遺物(4)

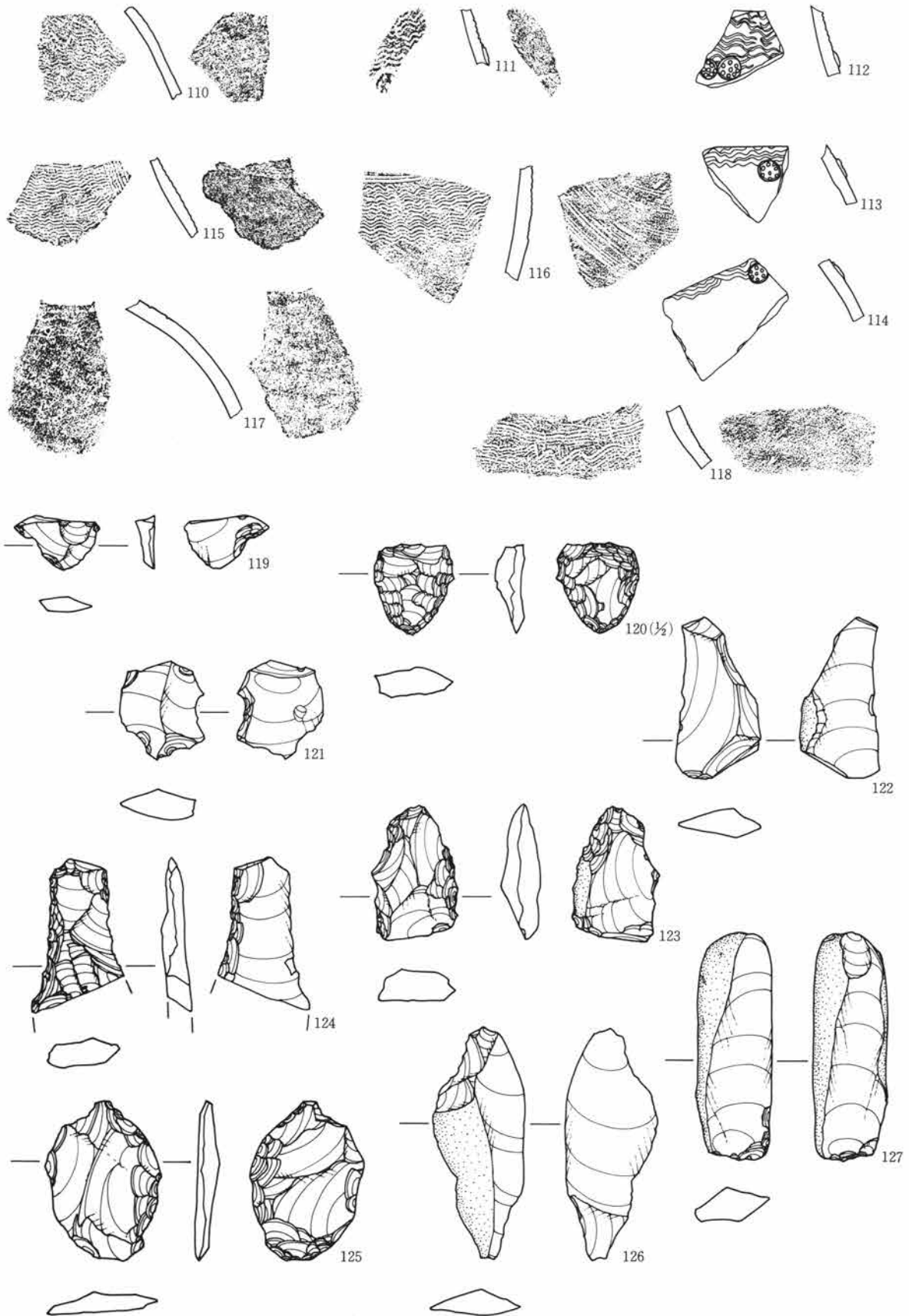


第75図 11号住居跡出土遺物(5)

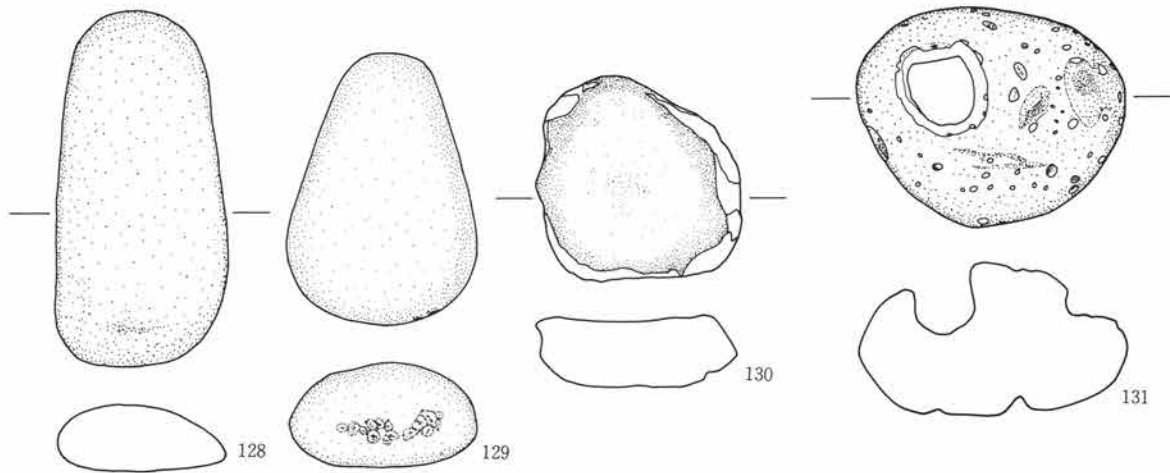
1. 竖穴住居跡



第76图 11号住居跡出土遺物(6)



第77図 11号住居跡出土遺物(7)



第78図 11号住居跡出土遺物(8)

## 12号住居跡

位置 CU～CV-90～92グリッド

重複 9号土坑(縄文時代)当住居跡が後出

形態 長方形 方位 N-5°-E

規模 6.90×6.14m 面積 40.09m<sup>2</sup>

壁 やや外傾し、122～132°の傾斜をもち、壁高は50～90cmである。

炉 P1とP2を結んだ線より若干北側に位置する。形態は楕円形を呈し、規模は78×65cmで南側に細長い磔を2個据えてある。

内部施設 柱穴は4本検出され、住居形態と同様な長方形に配置されている。規模はP1が28×20×63cm、P2が42×34×79cm、P3が65×52×68cm、P4が34×30×56cmで柱間距離はP1～2が1.70m、P2～3が2.80m、P3～4が1.70m、P4～1が2.78mを測る。貯蔵穴は南壁ぎわの中央よりやや西よりに位置し、形態は楕円形を呈し、規模は径66×22cm、深度68cmである。貯蔵穴には、10の壺が出土しているが上部からで、住居廃棄後に貯蔵穴に転落したと想定される。周溝は北西角と北壁の東側の極一部でしか検出されなかった。規模は幅5cm、深度5cmである。また、南壁中央には2本の小ピットが見られ、入口の梯子跡と推定される。

床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で柱穴間の内部

及びその周辺に硬化面が見られる。

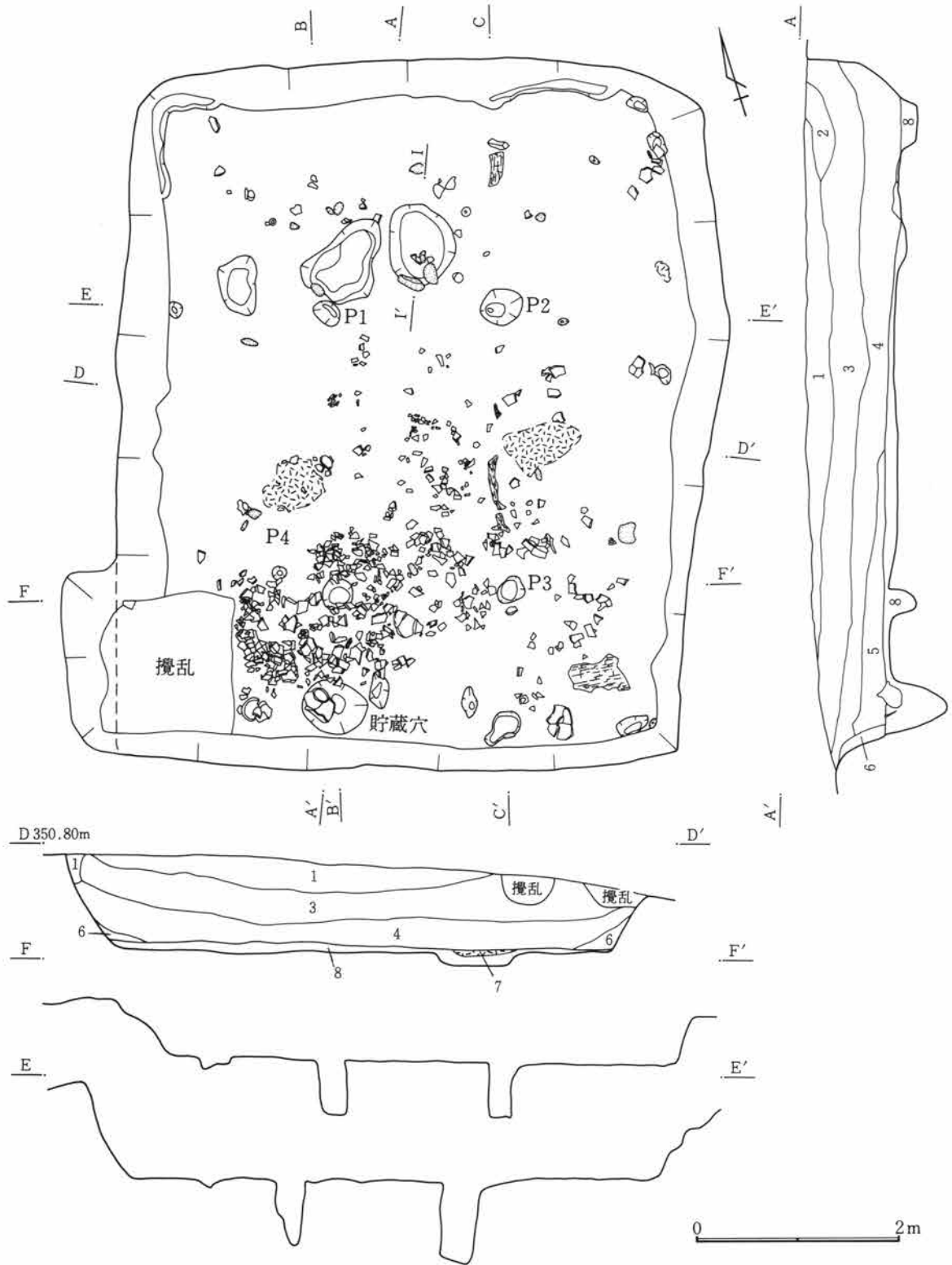
掘り方 床面から2～11cm程掘り込まれており、南・北壁ぎわに12～26cmの土坑、溝状の落ち込みがみられるが、床下土坑等の施設は見られなかった。埋没状態 住居周辺よりほぼ均一に土砂が流入し、レンズ状の堆積が観察された。

遺物出土状態 当住居跡からは、弥生土器4,276点と石器34点が出土しているが、大部分は甕・壺である。赤色塗彩が施されているものは壺に65点、鉢に3点、高杯に176点みられる。出土遺物の大部分は住居南側に集中しており壺・甕などは南西角にまとめて置いてあったと想定される。また、土器の大部分は床面からの出土である。

当住居跡は東側で炭火材が出土しており一部火災を受けたと想定され、樹種はクリ・ケヤキが確認されている。



12号住居跡調査風景

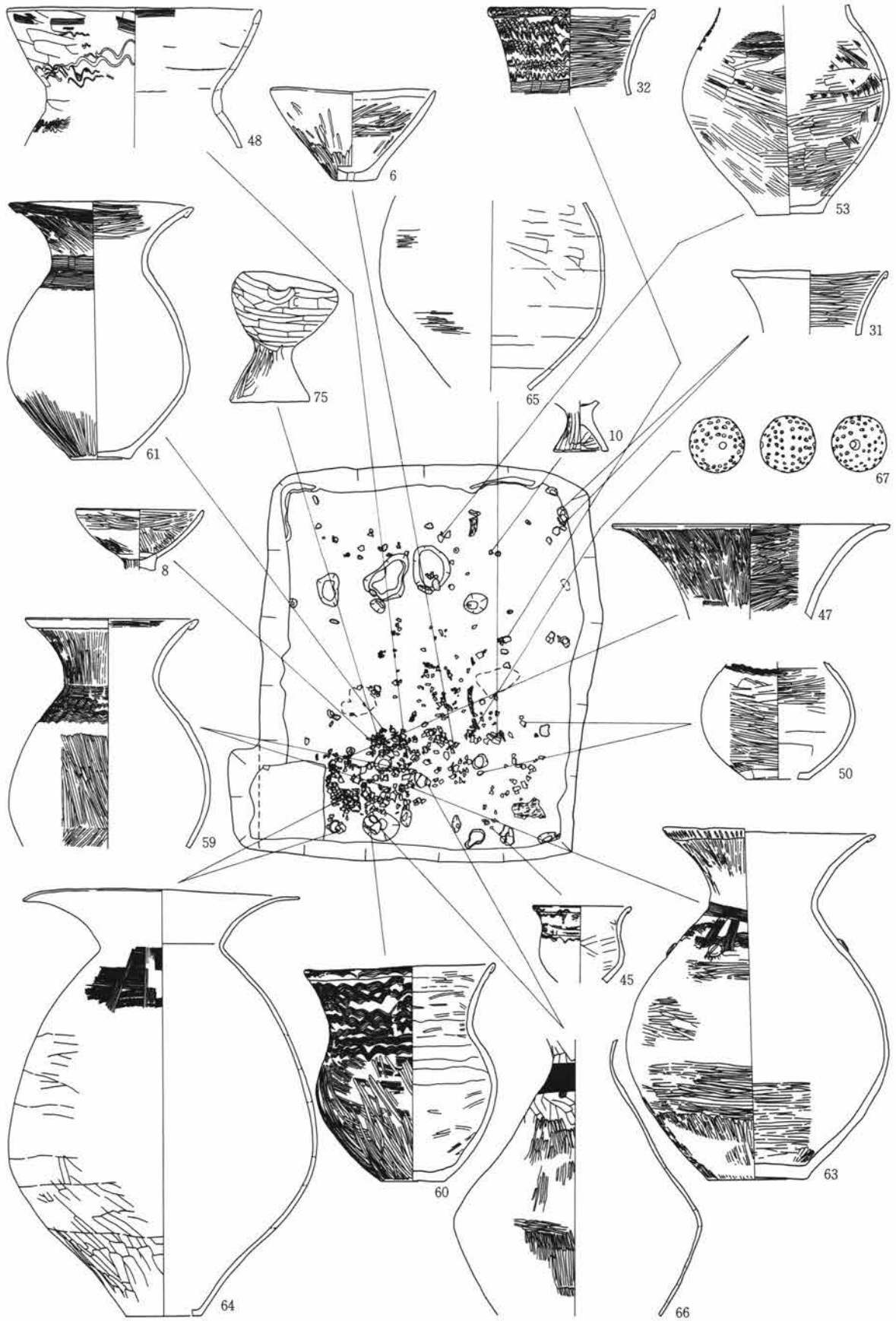


12号住居跡

- |        |                       |           |                      |
|--------|-----------------------|-----------|----------------------|
| 1 黒褐色土 | φ10~30mm FPを70~80%含む。 | 5 暗褐色土    | 3、4と同様、3、4より暗い色調を呈す。 |
| 2 黒褐色土 | φ5~10mmのFPを3%含む。      | 6 黄褐色土    | ロームブロックを30~50%含む。    |
| 3 暗褐色土 | 粘性あり、焼土粒、炭化物を各1%含む。   | 7 赤褐色土    | 焼土。                  |
| 4 暗褐色土 | 3と同様、3より若干暗い色調を呈す。    | 8 にぶい黄褐色土 | ロームブロックを50%含む。       |

第79図 12号住居跡使用面

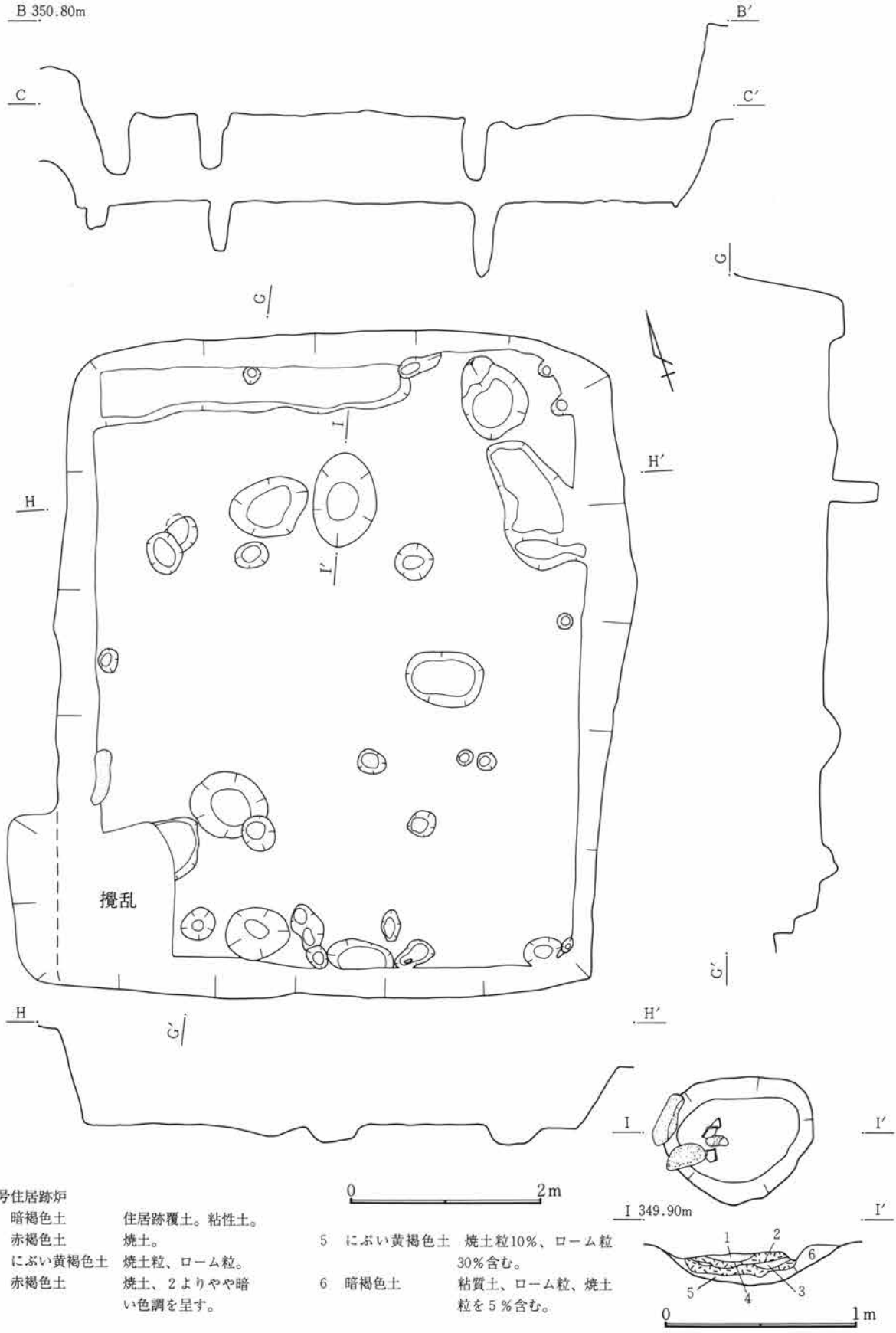




第80图 12号住居跡出土遺物分布图

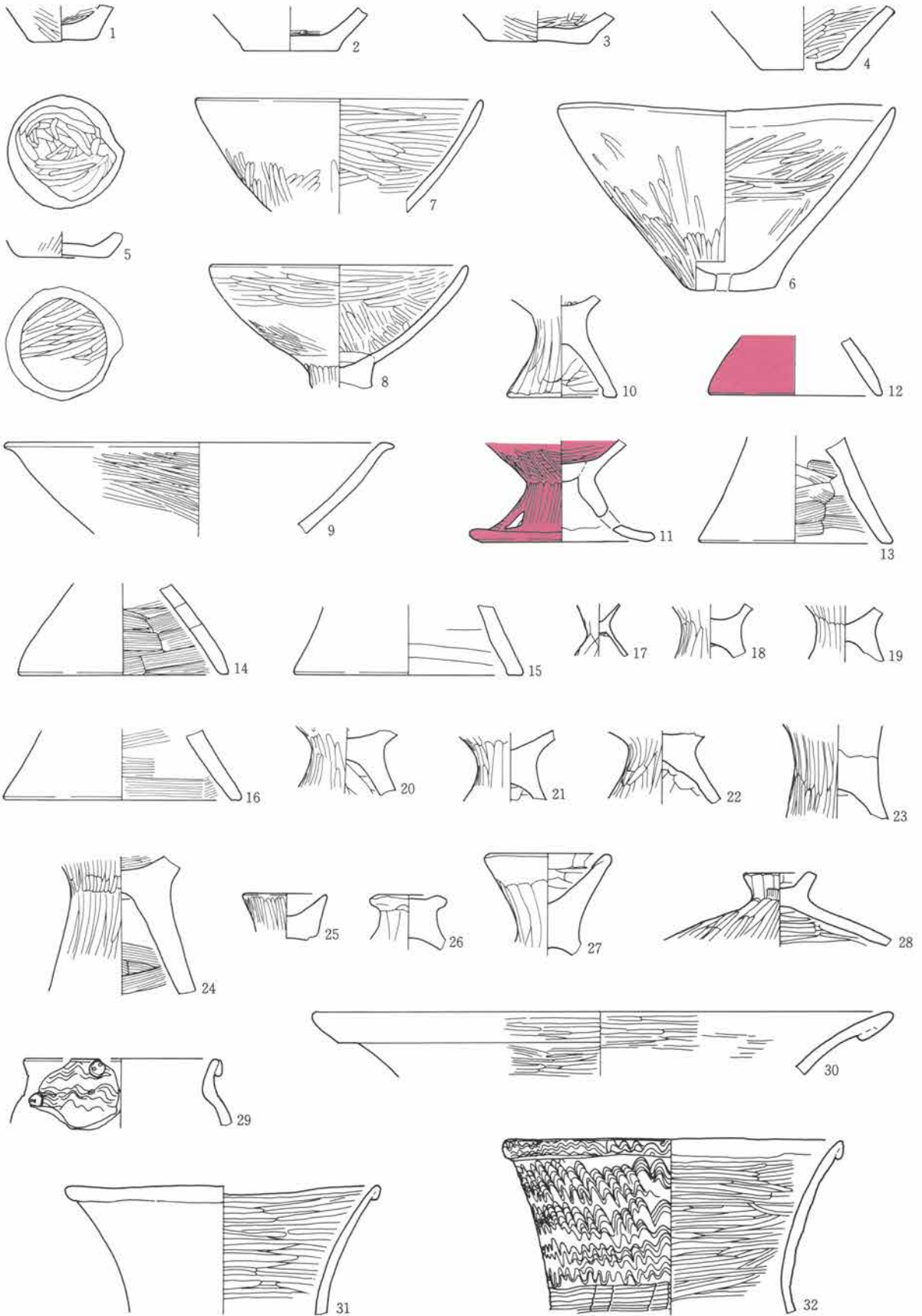
第5章 下川田平井遺跡の遺構・遺物

B 350.80m

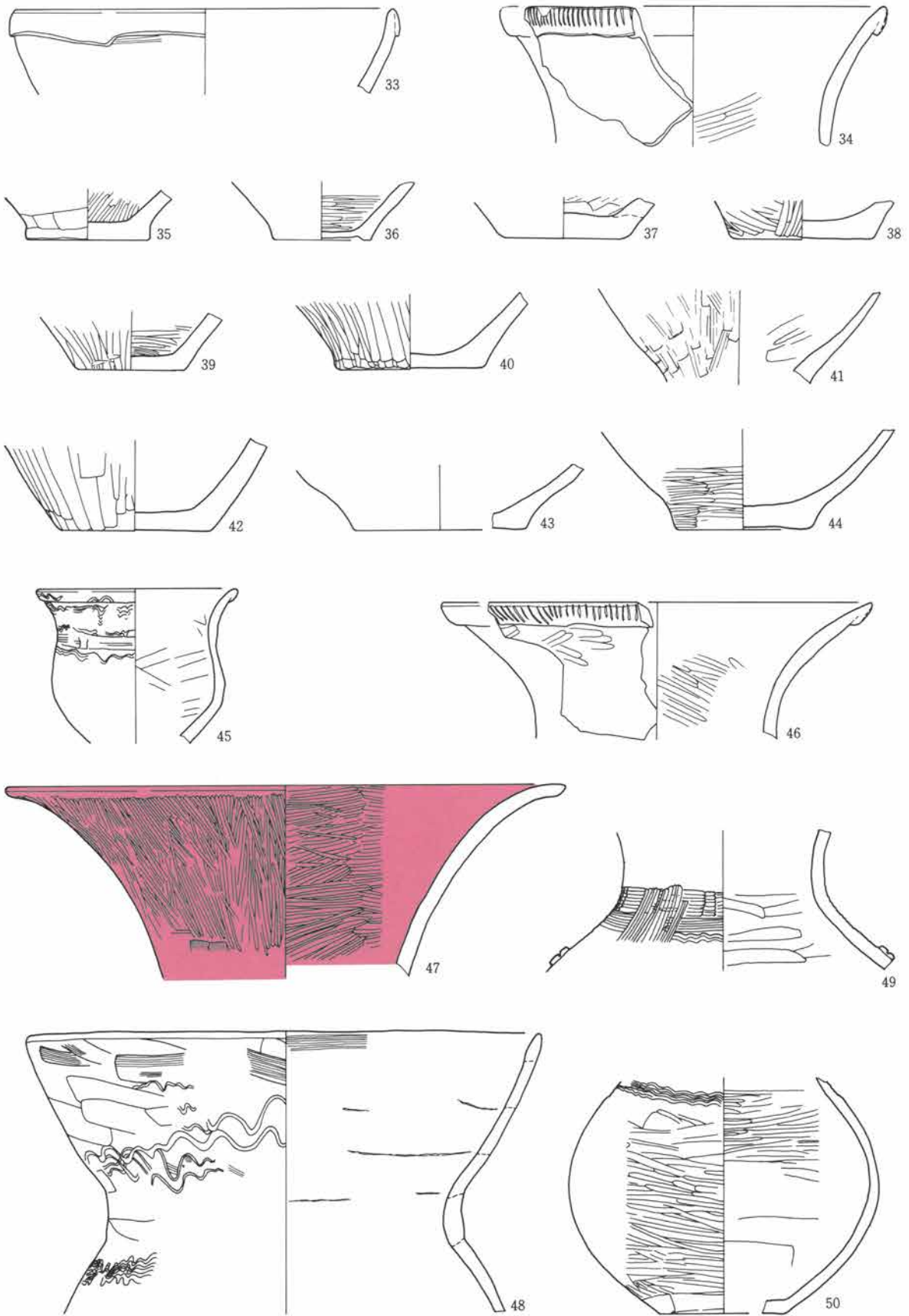


第81図 12号住居跡掘り方・炉

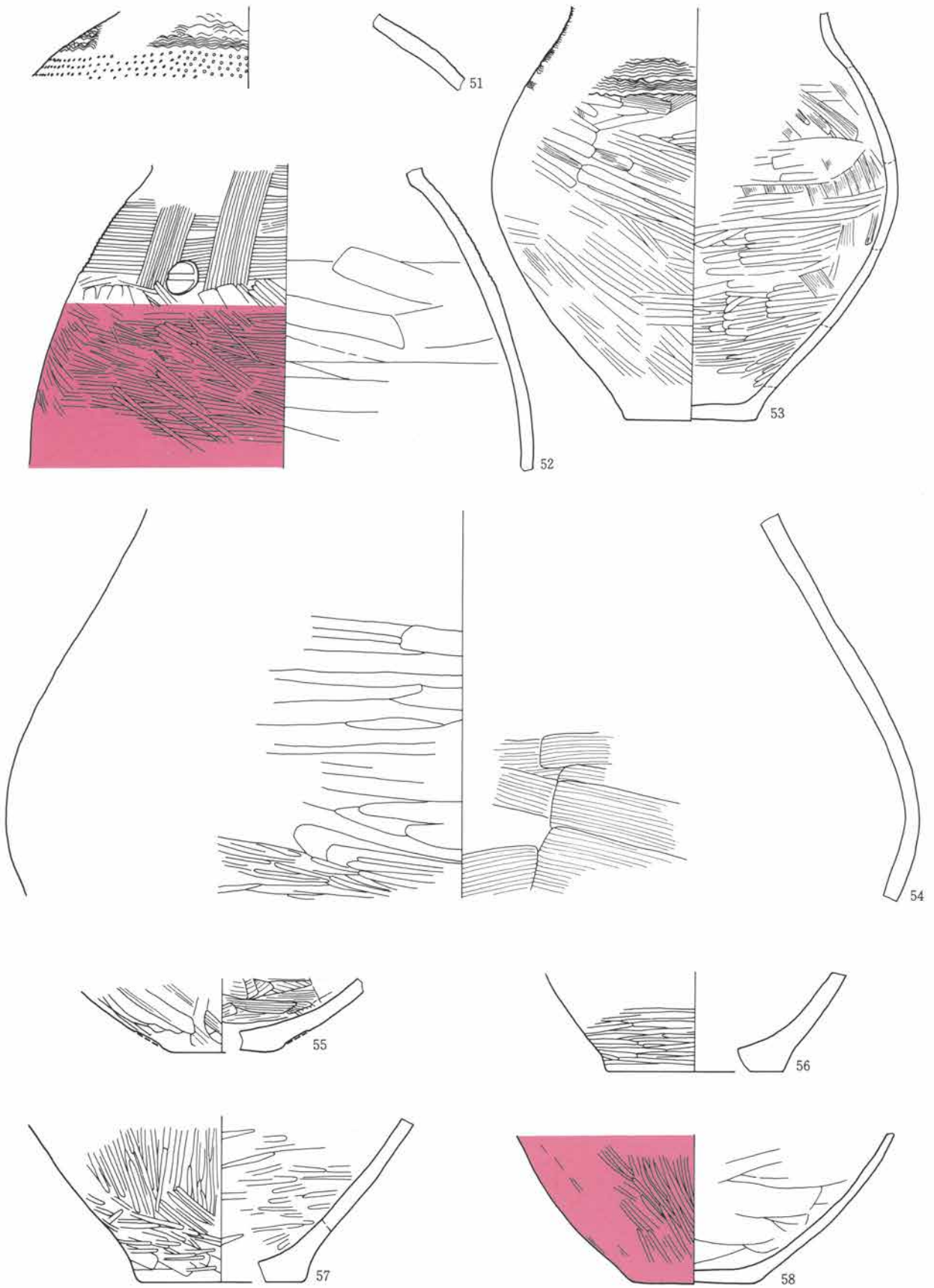
1. 竖穴住居跡



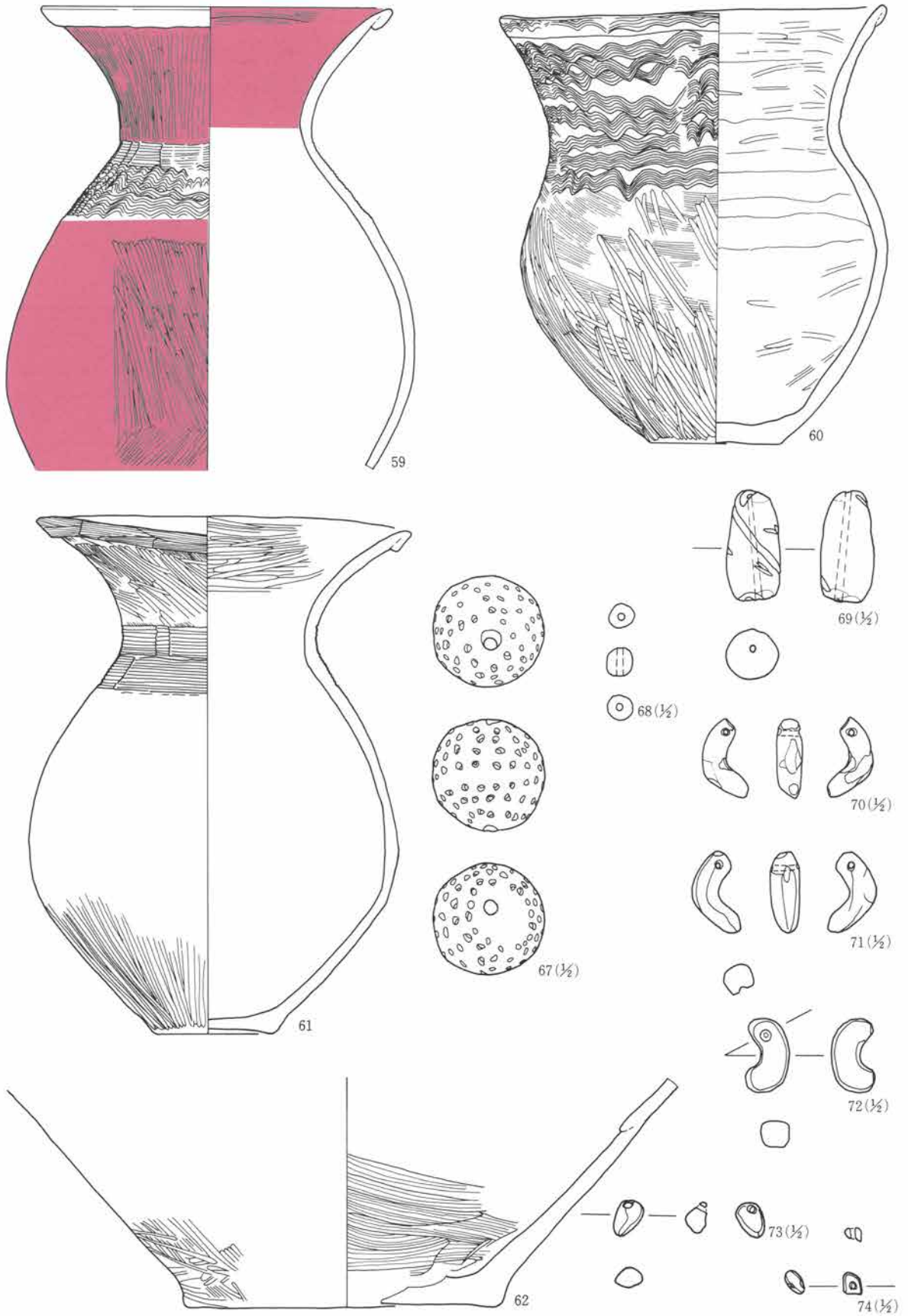
第82图 12号住居跡出土遺物(1)



第83図 12号住居跡出土遺物(2)

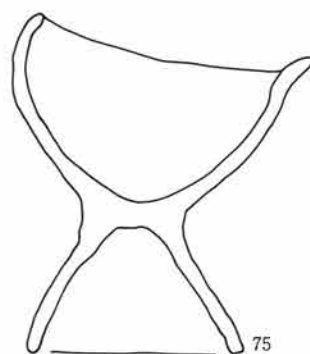
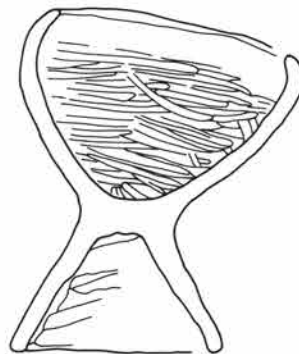
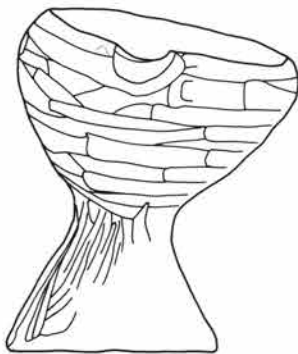
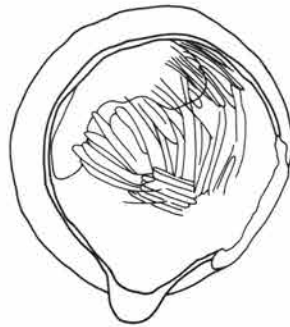
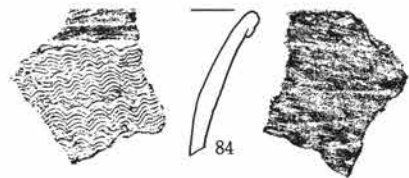
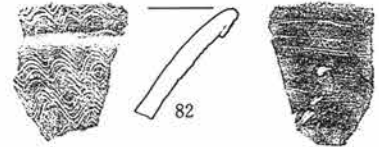
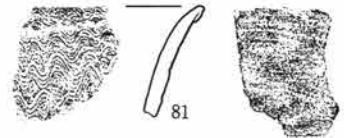
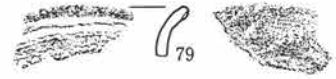
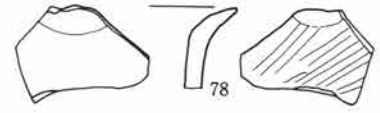
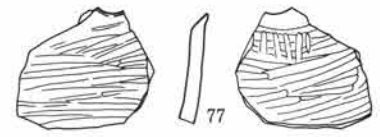
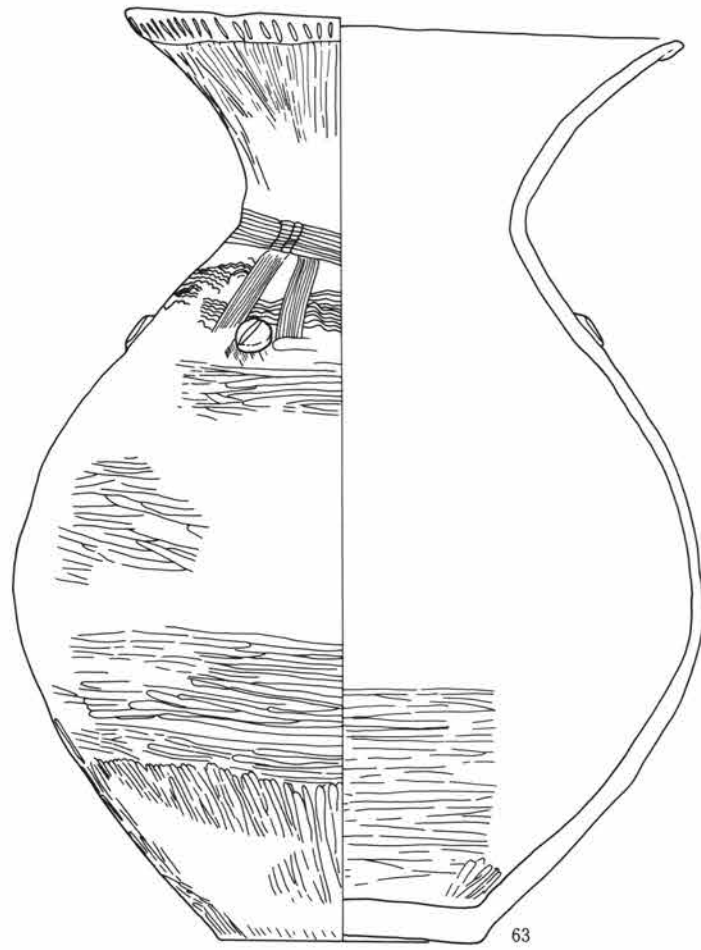


第84图 12号住居跡出土遺物(3)

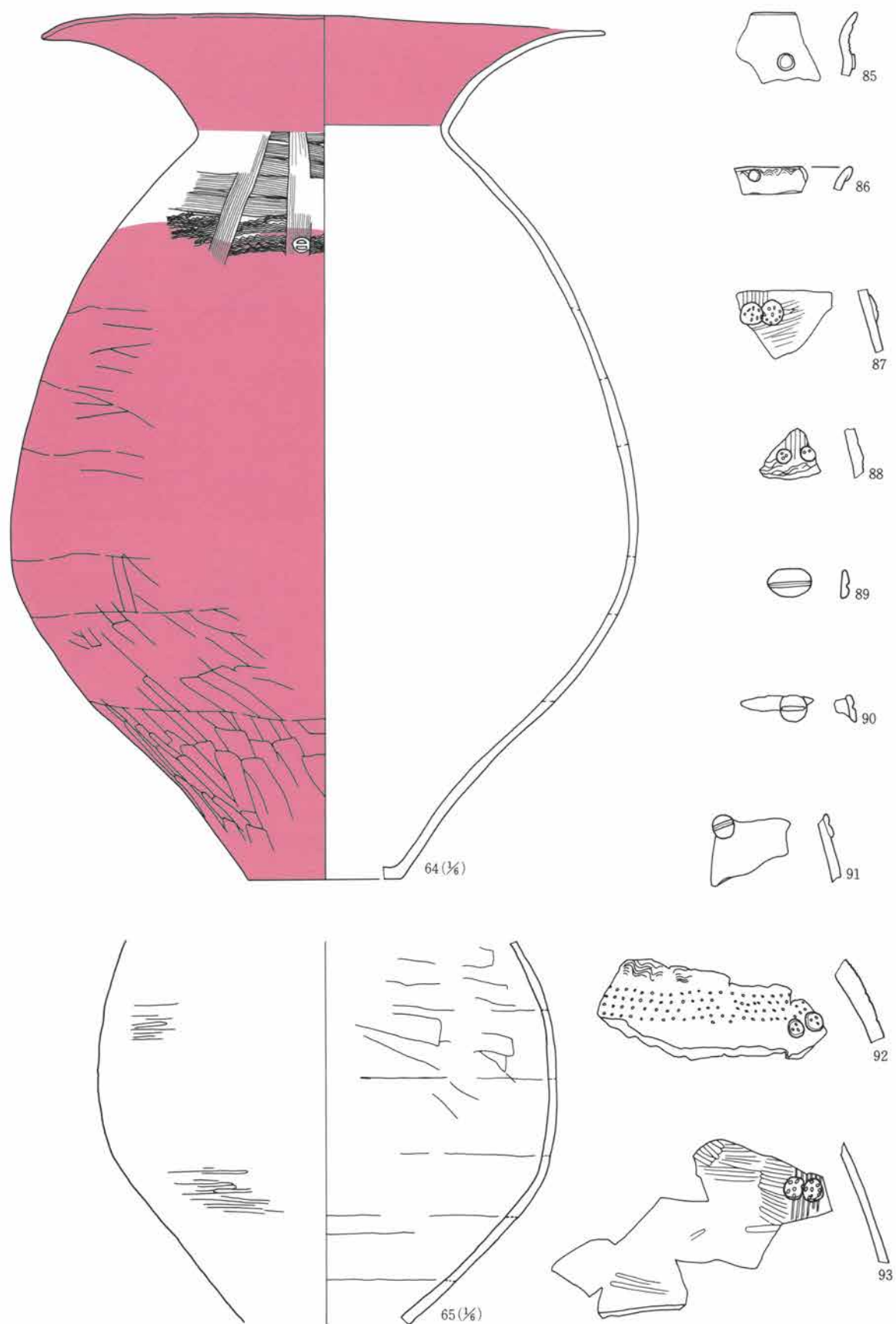


第85図 12号住居跡出土遺物(4)

1. 竖穴住居跡



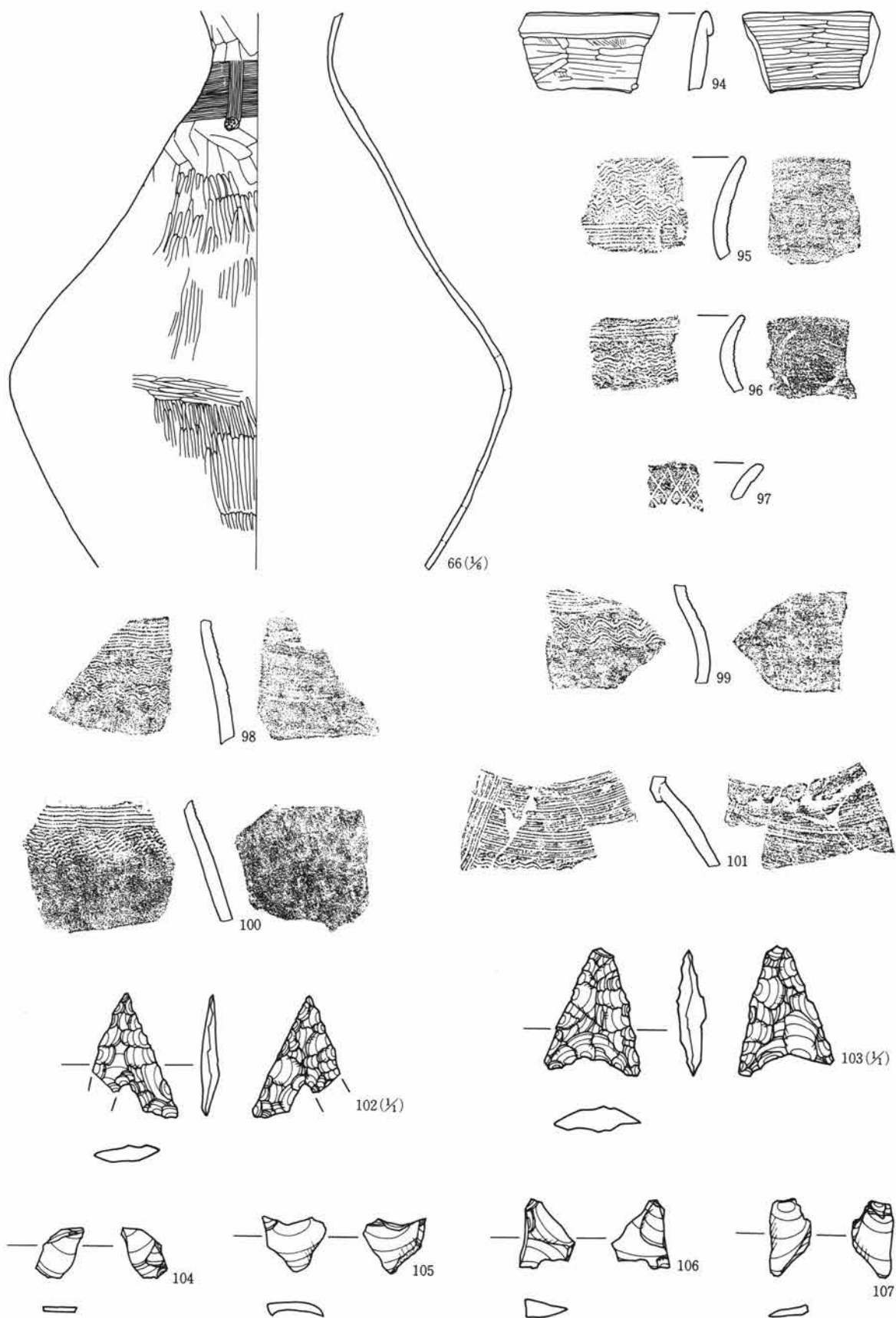
第86图 12号住居跡出土遺物(5)



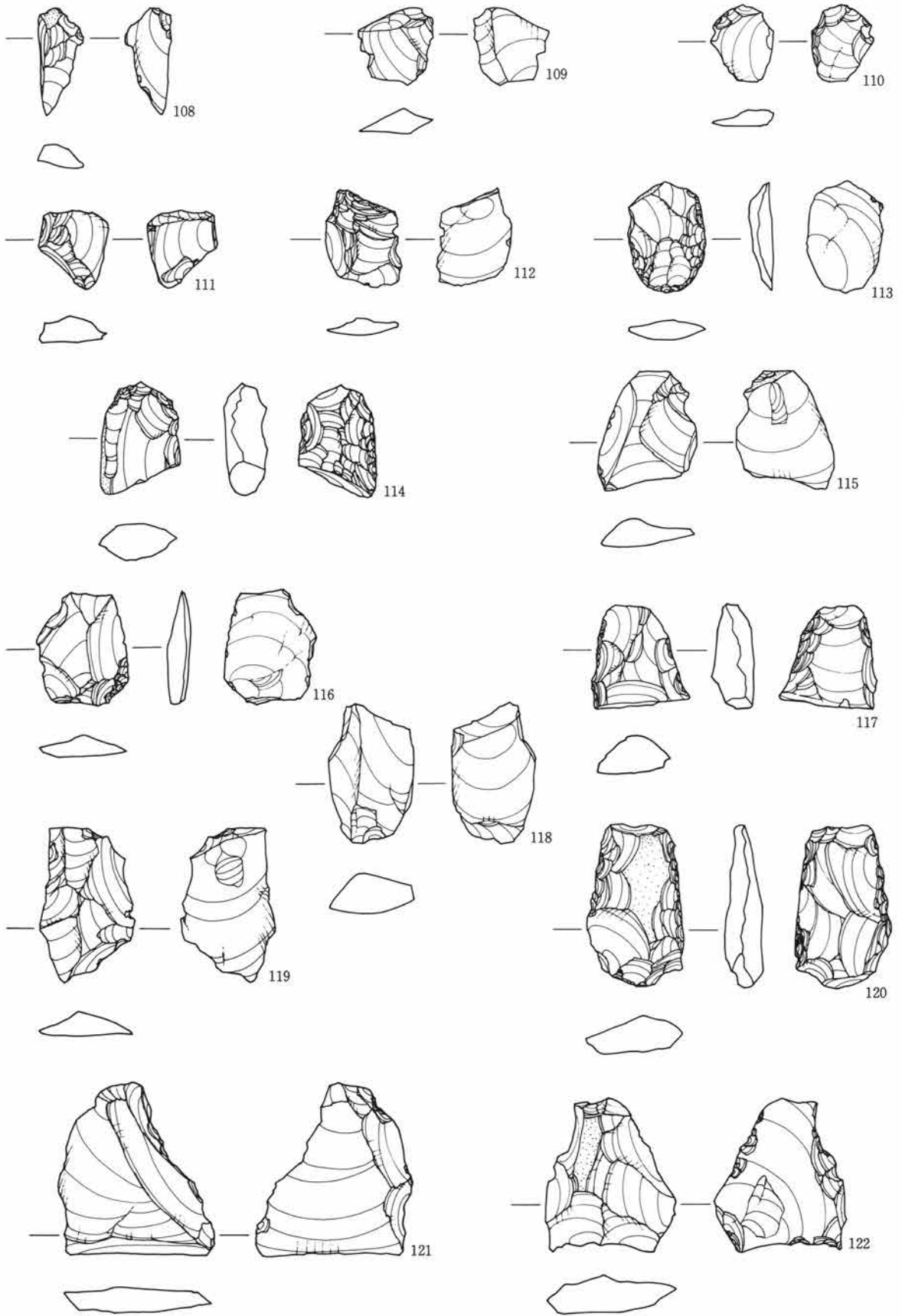
第87図 12号住居跡出土遺物(6)



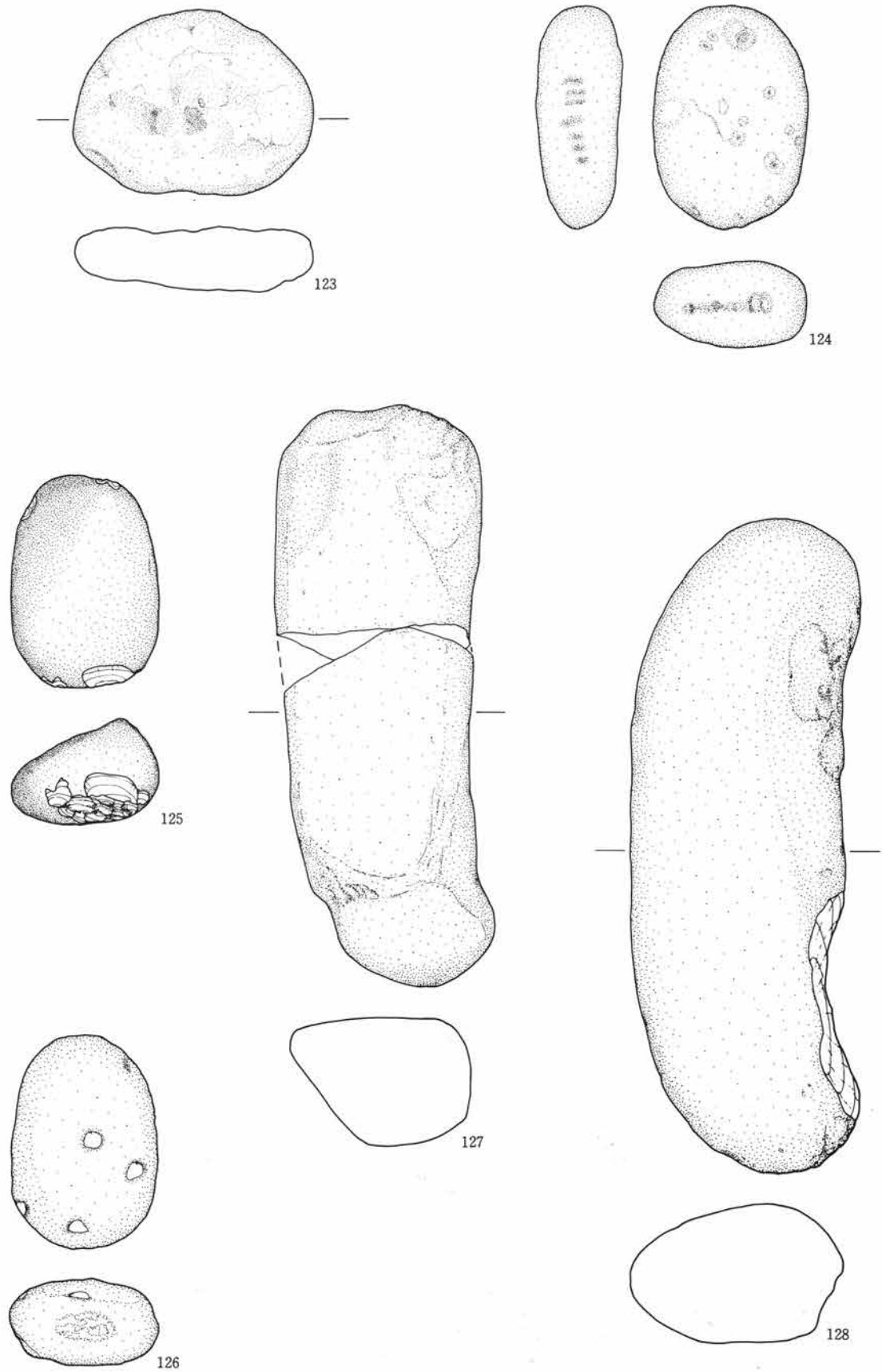
1. 竖穴住居跡



第88图 12号住居跡出土遺物(7)



第89図 12号住居跡出土遺物(8)



第90図 12号住居跡出土遺物(9)

17号住居跡

位置 CW~CX-93~94グリッド

重複 7号土坑(縄文時代)当住居跡が後出

11号住居跡(弥生時代)当住居跡が前出

形態 大部分が11号住居跡と重複しており残存部分は極僅かのため不明であるが、西壁は中程で若干の膨らみをもつ。

方位 N-56°-W

規模 西壁全長 5.72m 面積 測定不能

壁 西壁は中位で傾斜が変わり、下位が101°、上位が148°の傾斜をもち、壁高は52cmである。

炉 残存部分では検出されなかった。

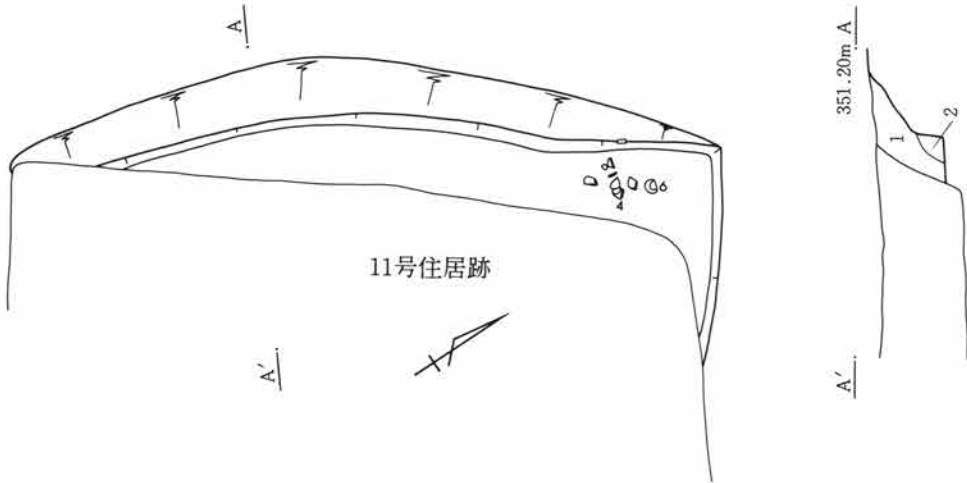
内部施設 柱穴、貯蔵穴、周溝等は残存部分では検出されなかった。

床 残存部分では硬化面は見られなかった。

掘り方 残存部分では見られなかった。

埋没状態 残存部分が少ないため不鮮明であるが自然堆積である。

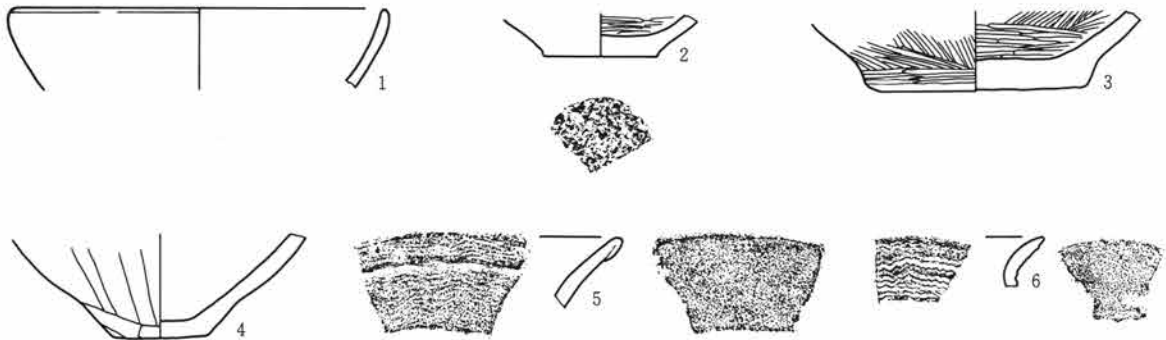
遺物出土状態 当住居跡からは弥生土器50点が出土しているがすべて甕である。また、その出土は北西角にやや集中しているがすべて住居下位からである。



17号住居跡

- 1 暗褐色土 ロームブロックを10%含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロックを30%と炭化物を5%含む。

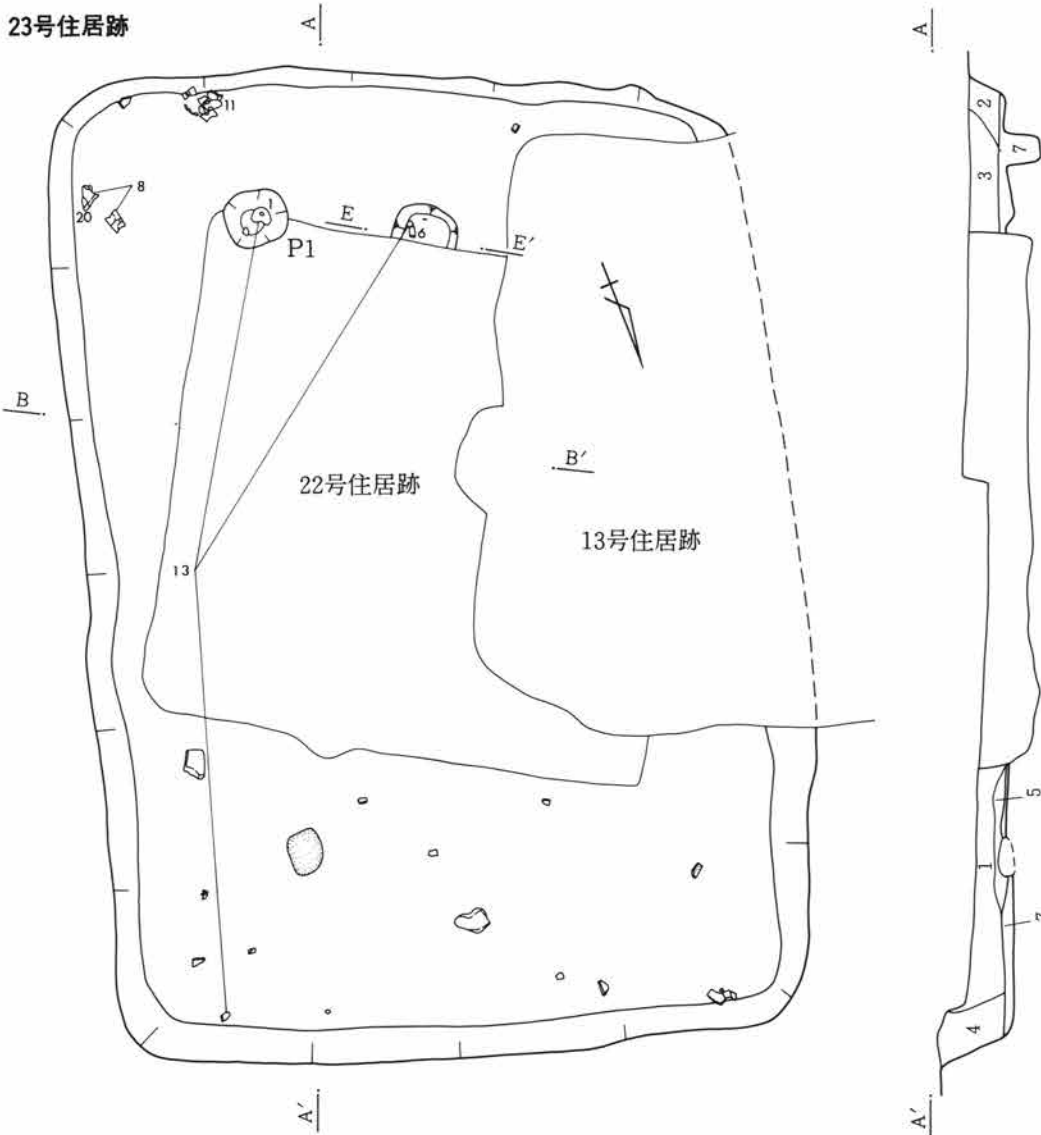
第91図 17号住居跡使用面



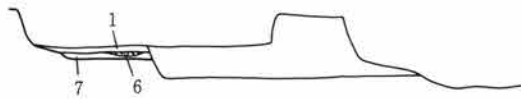
第92図 17号住居跡出土遺物

1. 竖穴住居跡

23号住居跡



B 350.20m



B'



23号住居跡

- 1 にぶい黄褐色土 ローム粒と焼土粒、炭化物を1~2%含む。
- 2 にぶい黄褐色土 ローム粒30%、焼土粒、炭化物を1~2%含む。
- 3 暗褐色土 やや粘性があり、焼土、炭化物を10%含む。
- 4 暗褐色土 やや粘性があり、6に類似、ローム粒を2~3%含む。
- 5 にぶい黄褐色土 貼床土、ロームブロックを40%含む。
- 6 赤褐色土 焼土。
- 7 にぶい黄褐色土 貼床土、ロームブロック、白色粘土ブロックの混土。

E 349.70m



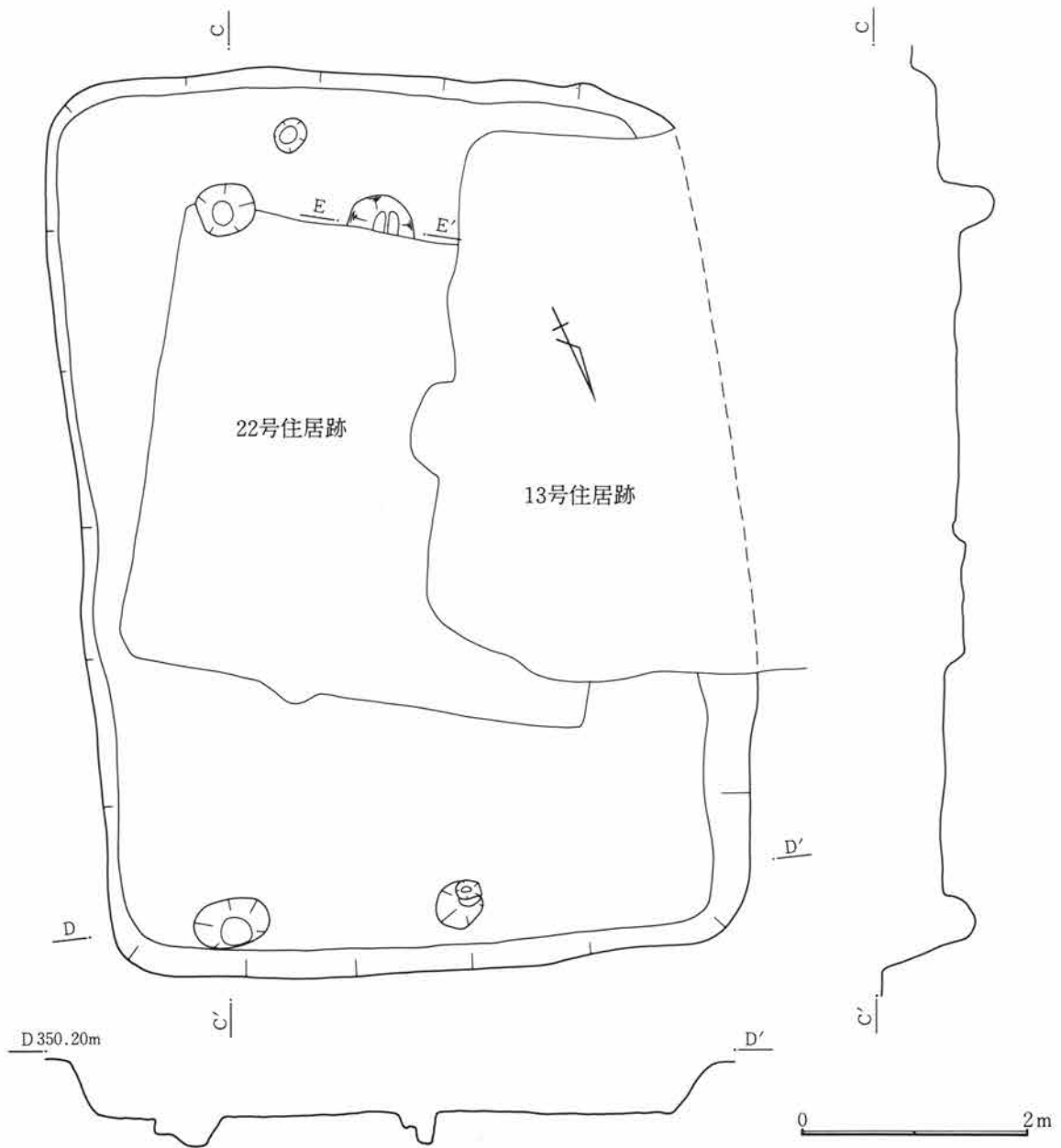
23号住居跡炉

- 1 赤色土 焼土。
- 2 赤褐色土 焼土。

0 1m

0 2m

第93図 23号住居跡使用面・炉



第94図 23号住居跡掘り方

位置 CR～CT-89～91グリッド

重複 13号住居跡(平安時代)、22号住居跡(古墳時代)当住居跡が前出

形態 西壁が若干膨らみをもち、南西角が丸みをもつが、ほぼ長方形を呈す。

方位 N-161°-W

規模 7.92×2.98m 面積 43.51㎡

壁 やや外傾し、113～114°の傾斜をもち、壁高は22～52cmである。

炉 住居南よりで南壁より0.92mに位置する。北半分は22号住居跡を重複するため残存しない。形態は丸みをもった方形を呈し、規模は径52×(28+α)cmで東よりに細長い円礫を据えてある。

内部施設 柱穴は炉東側より1本検出されただけで他の柱穴は13号・22号住居跡の部分に存在すると想定される。P1の規模は50×44×48cmである。その他、貯蔵穴、周溝は検出されなかった。

床 住居中央部分は13号・22号住居跡と重複する

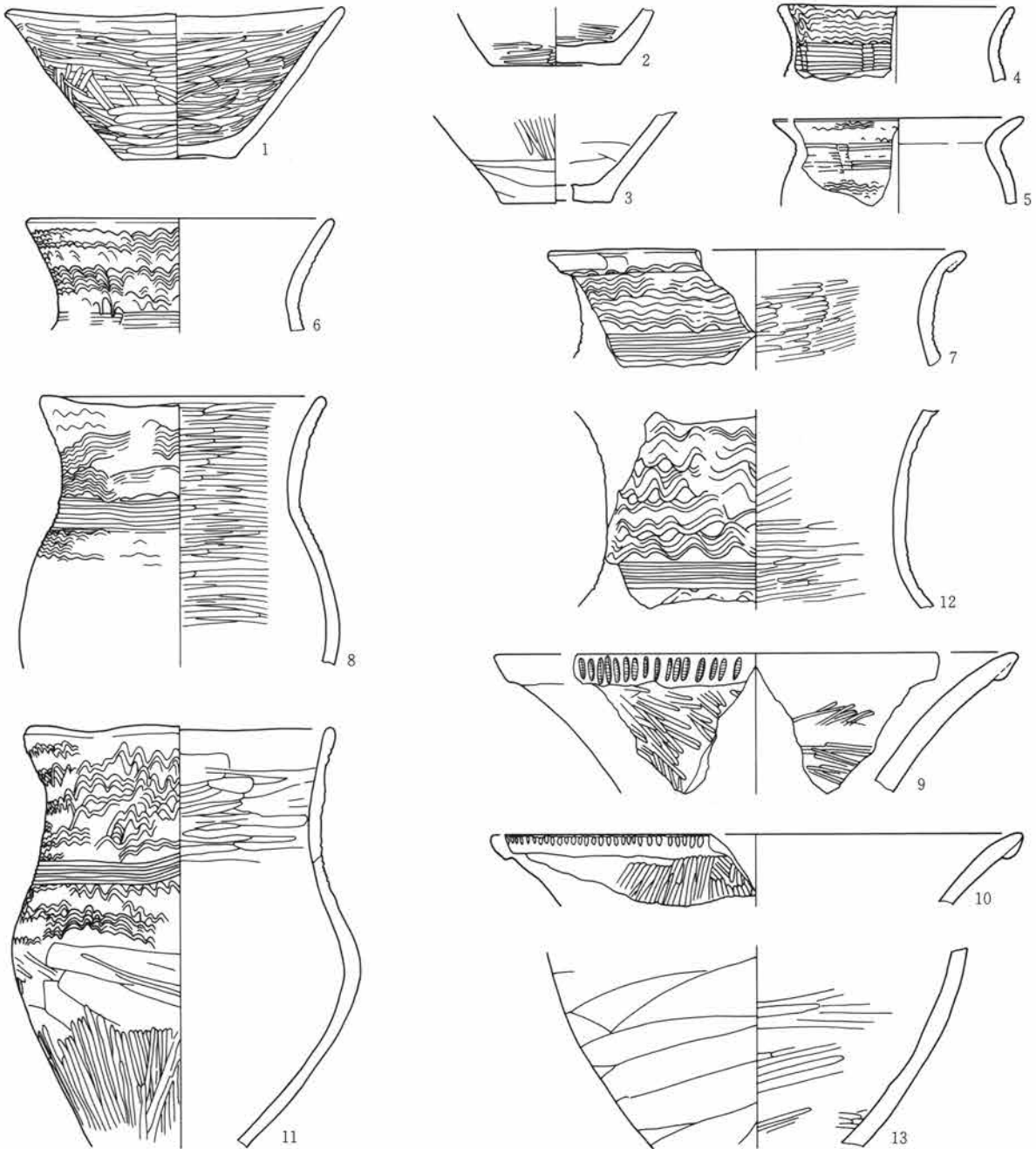
ため残存しないが、炉の周辺や北側の部分では硬化面が見られる。

掘り方 床面から6~14cm程掘り込まれ、掘り込み面は多少の凹凸はみられるがほぼ平坦で、北壁ぎわにピット状の落ち込みが2カ所見られるだけである。

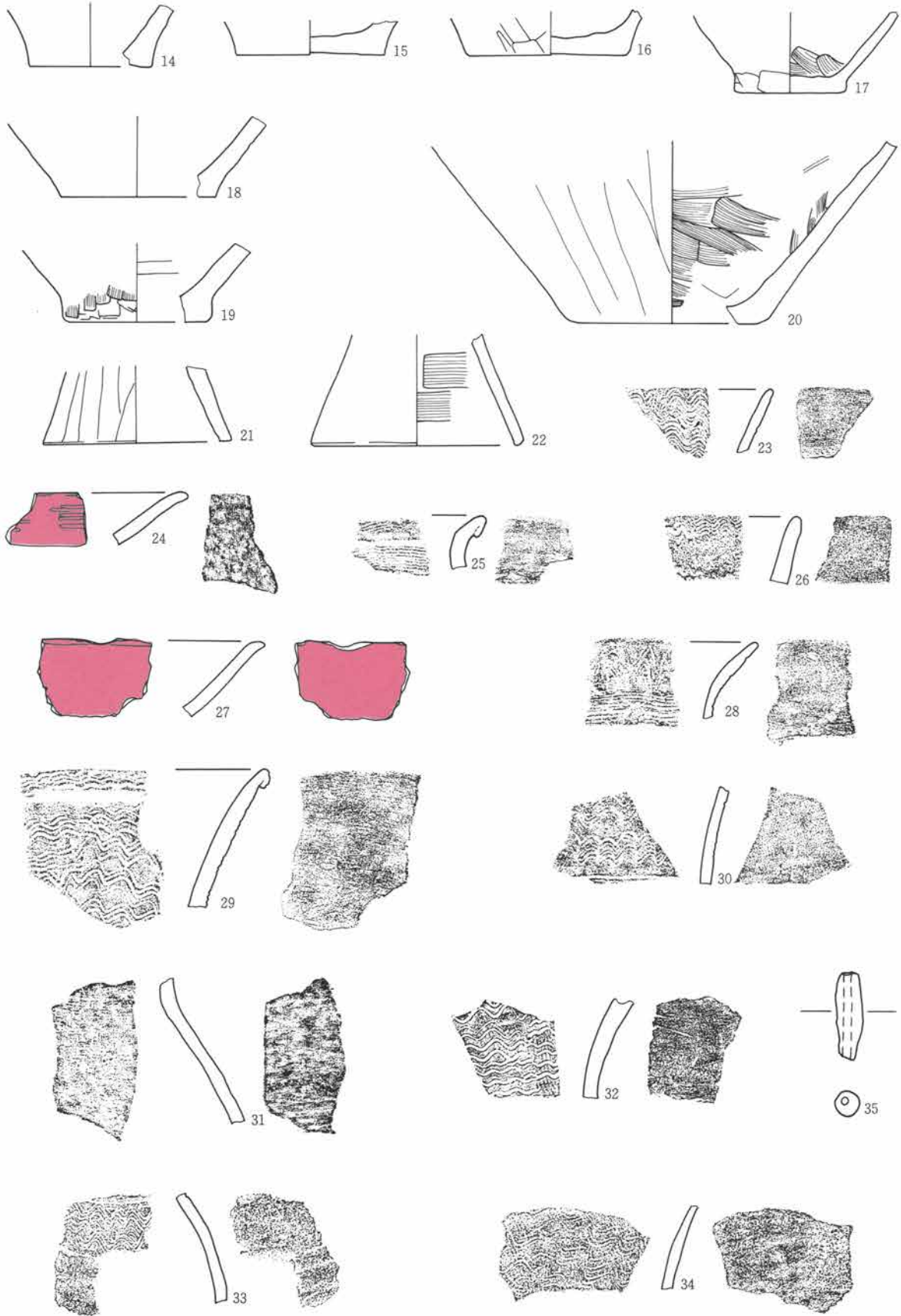
埋没状態 中央部に13号・22号住居跡と重複しているため不明確であるが残存部分より自然堆積である

と想定される。

遺物出土状態 住居中央部が残存しないため他の住居跡に比べて遺物量は少なく261点の土器と5点の石器が出土しているだけである。土器のうち大多数は甕・壺で他に高杯が33点である。また、赤色塗彩されているものは壺に2点、高杯に14点見られる。出土位置の明らかなものに床面から6~8・11・13の甕、柱穴から2の鉢、掘り方から33の甕がある。



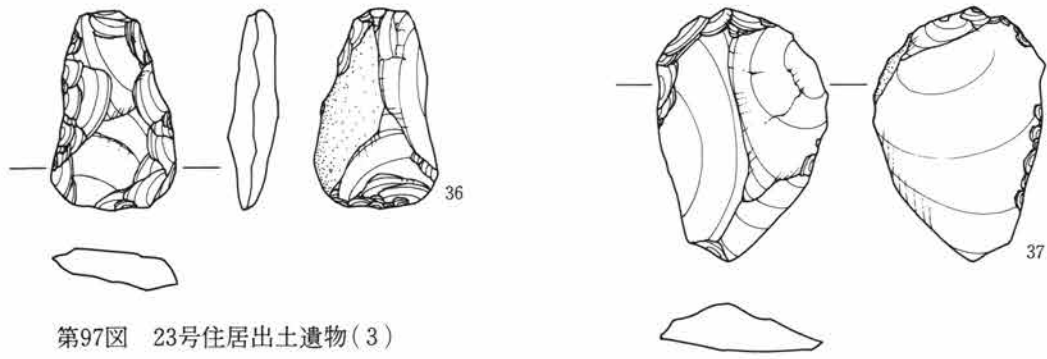
第95図 23号住居跡出土遺物(1)



第96図 23号住居出土遺物(2)

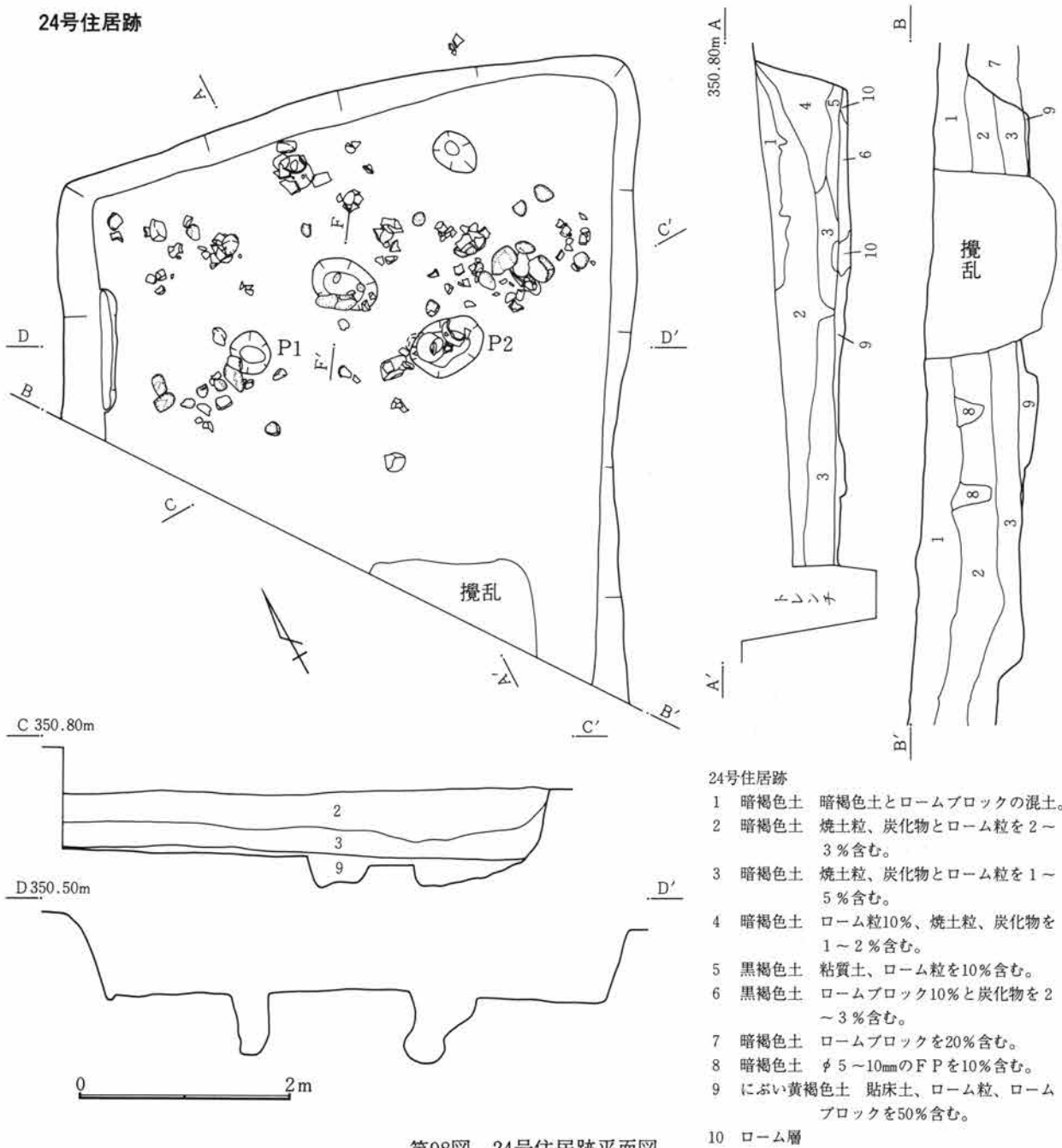


1. 竪穴住居跡

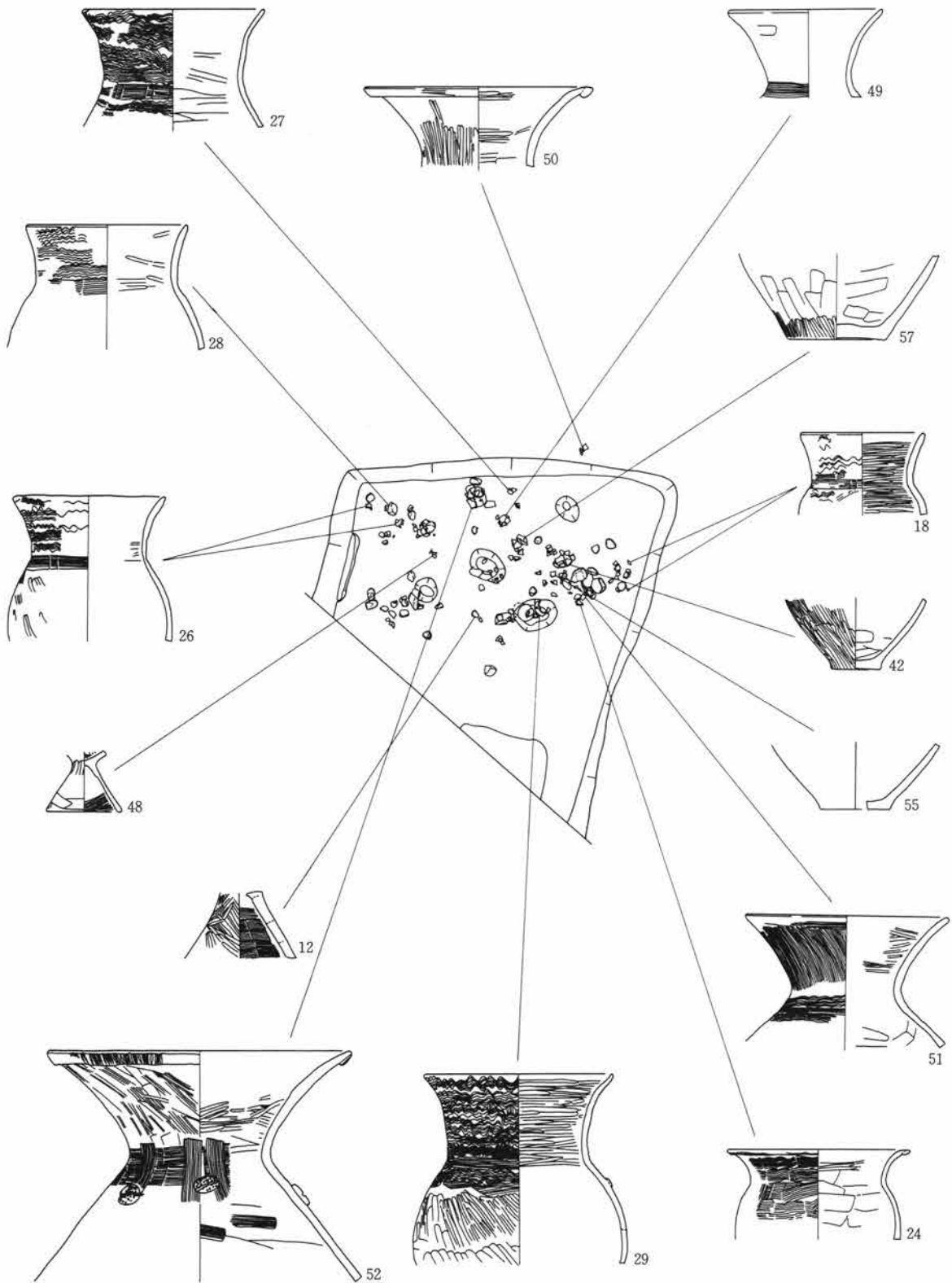


第97図 23号住居出土遺物(3)

24号住居跡

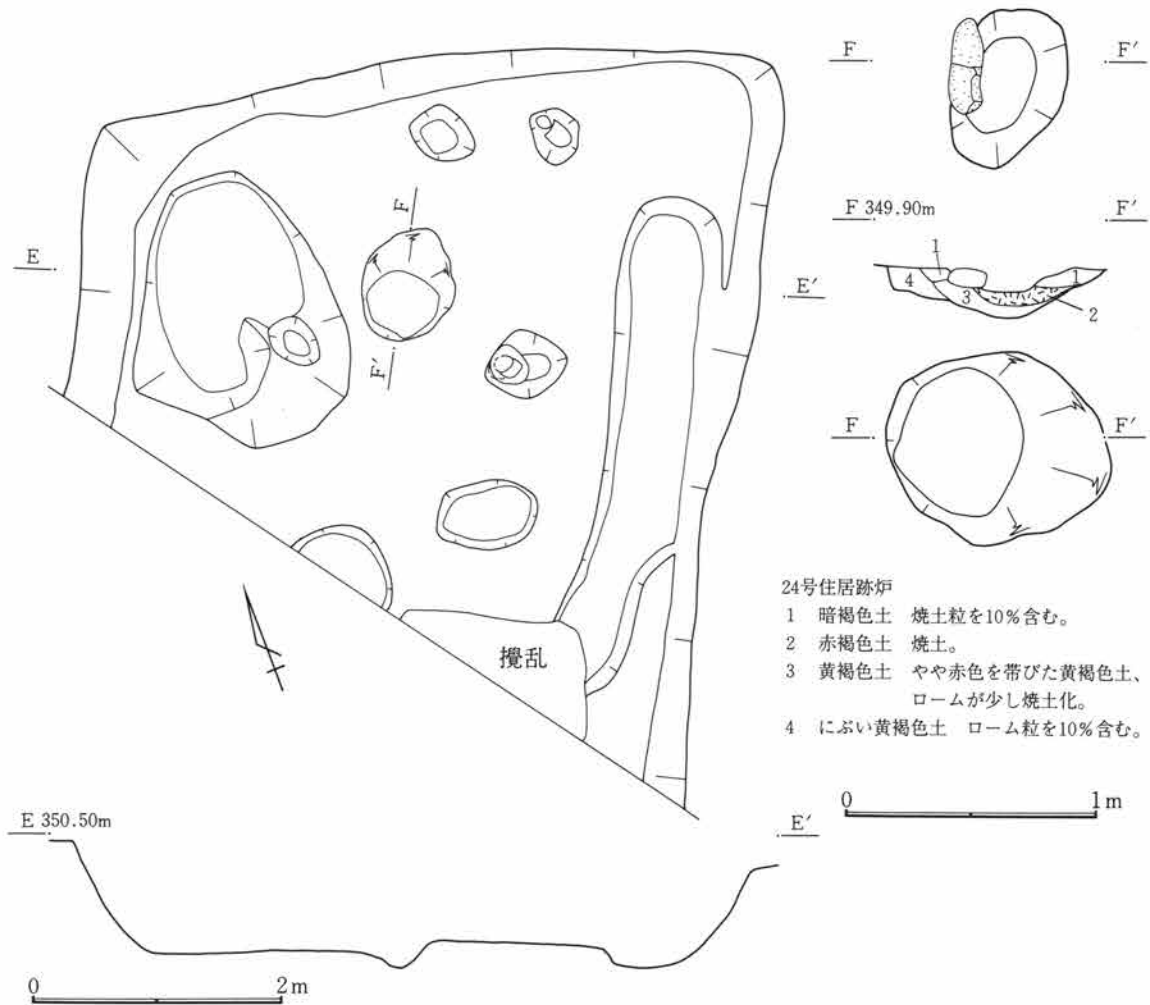


第98図 24号住居跡平面図



第99図 24号住居跡出土遺物分布図

1. 竪穴住居跡



第100図 24号住居跡掘り方・炉

位置 CT～CV-94～95グリッド

重複 単独

形態 3分の1程度は調査区外に延びるため全貌は不明であるが、北東角75°、北西角105°を示すことから台形状を呈すると想定される。

方位 N-30°-E

規模  $(4.36 + \alpha) \times 5.48\text{m}$  面積 22.82 $\text{m}^2$

壁 やや外傾し、104～114°の傾斜をもち、壁高は54～80cmである。

炉 P1とP2を結んだ線の外(北)側に位置し、形態は楕円形を呈し、規模は径66×40cmで南側に細長い円盤を据えてある。

内部施設 調査区内では柱穴は2本検出され、規模はP1が $40 \times 38 \times 60\text{cm}$ 、P2が $70 \times 50 \times 68\text{cm}$ で、柱

穴間距離は1.80mである。貯蔵穴は調査区内では検出されなかった。周溝は西壁下の極一部で全長1.10m、幅10cm、深度5cmである。

床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で柱穴間の内部及びその周辺に硬化面が見られる。

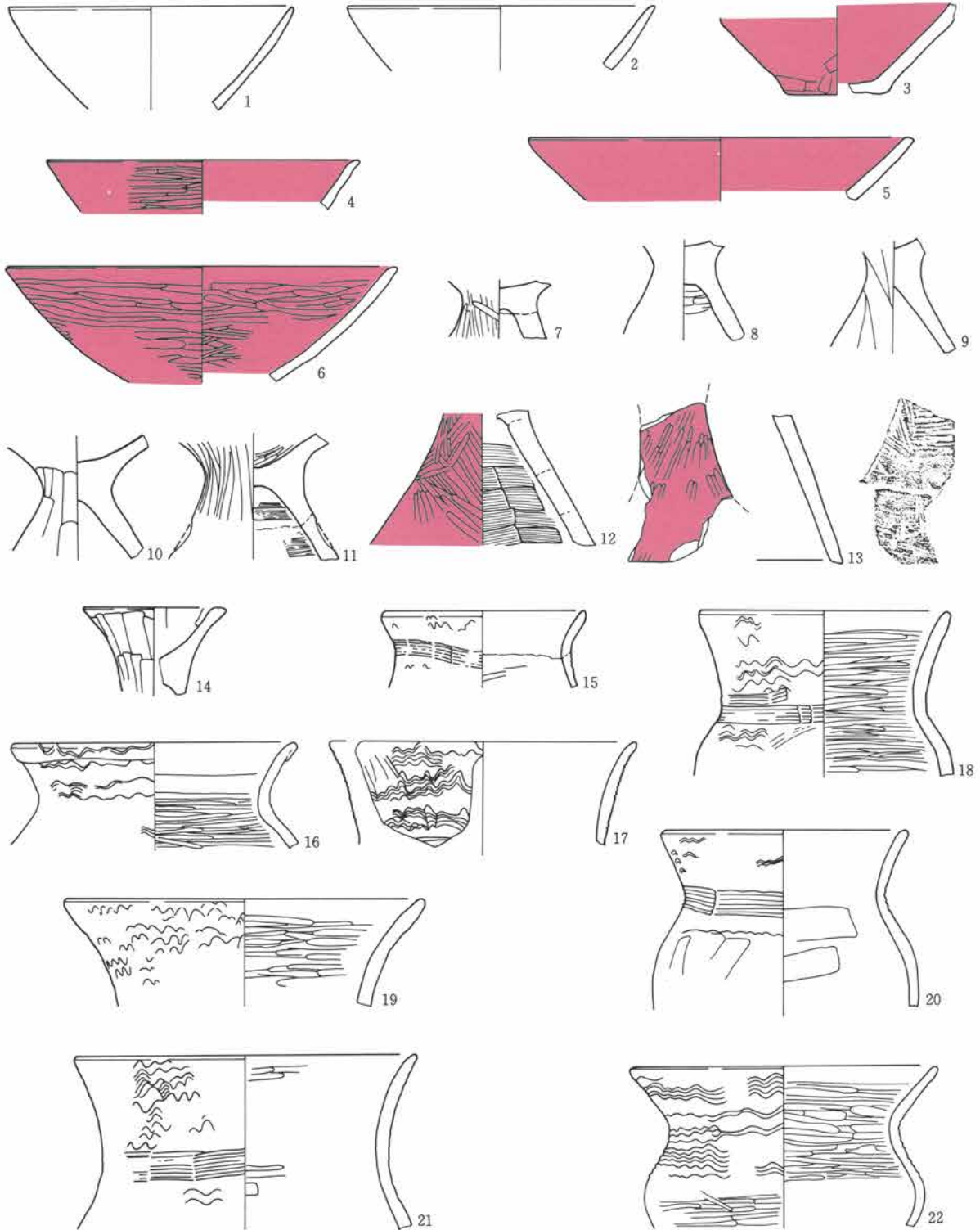
掘り方 床面から5～13cm程掘り込まれており、土坑状の落ち込みが5カ所みられた。落ち込みの規模は1が $92 \times (43 + \alpha) \times 10\text{cm}$ 、2が $218 \times 178 \times 21\text{cm}$ 、3が $57 \times 41 \times 42\text{cm}$ 、4が $83 \times 54 \times 5\text{cm}$ 、5が $406 \times 90 \times 22\text{cm}$ であるが、落ち込み内部に埋設物等は見られなかった。

埋没状況 住居南側が残存していないため詳細は不明であるが、台地の傾斜と同様に北側より多くの土砂が流入しているようであり、土層断面の観察では

自然堆積である。

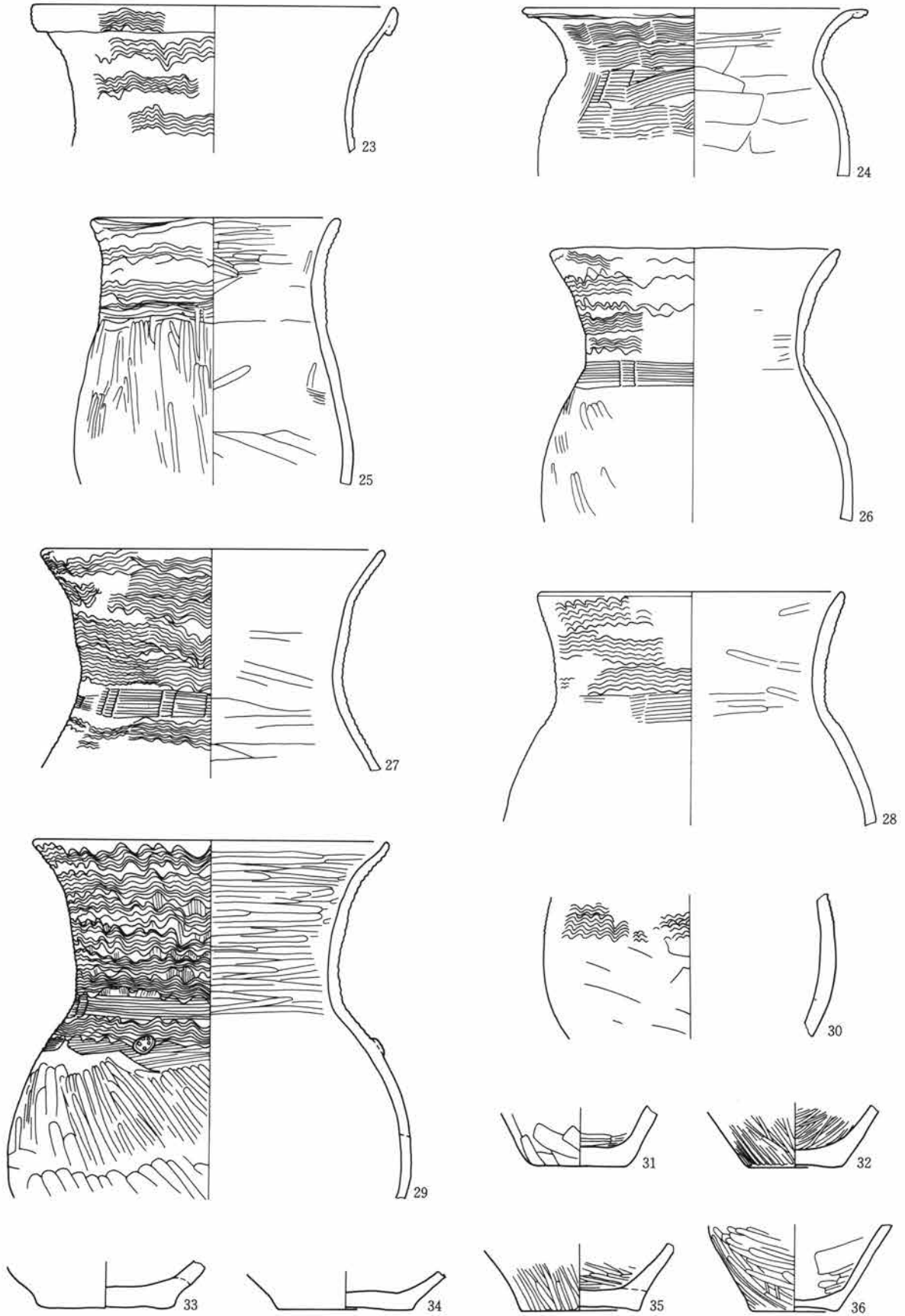
遺物出土状態 当住居跡からは弥生土器705点、石器25点が出土しているが、土器のうち大部分は甕・壺である。赤色塗彩が施されているものは甕21点、

壺10点、鉢1点、高杯21点がみられる。出土位置の明らかなものに18・55・62の甕が床面より出土している。

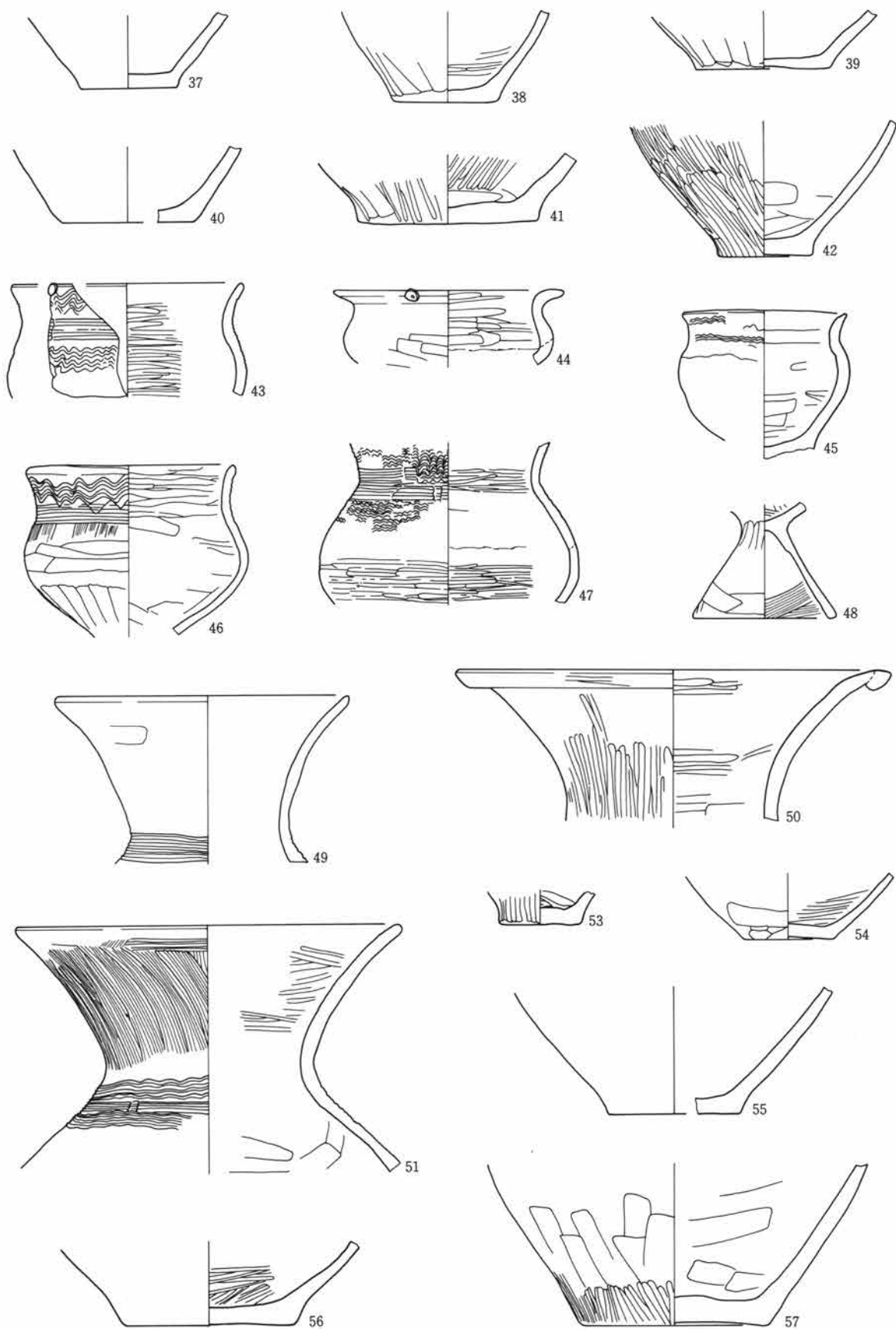


第101図 24号住居跡出土遺物(1)

1. 竖穴住居跡

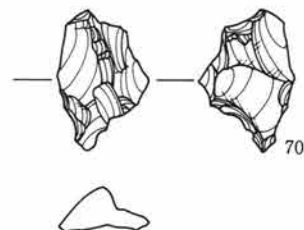
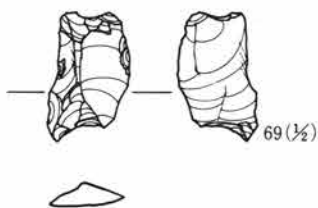
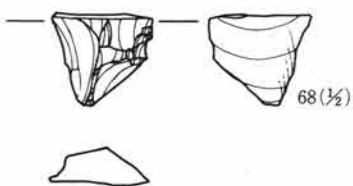
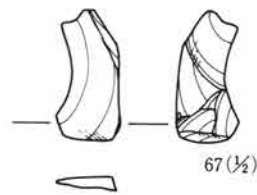
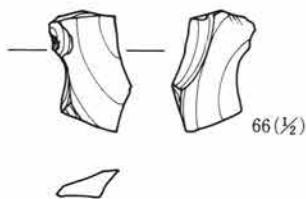
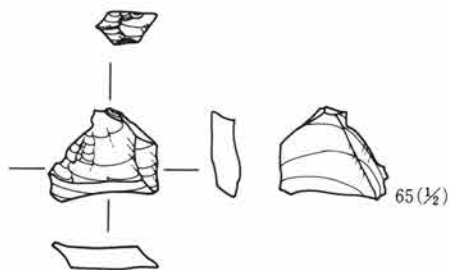
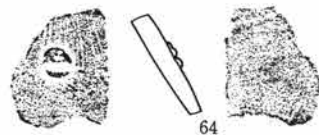
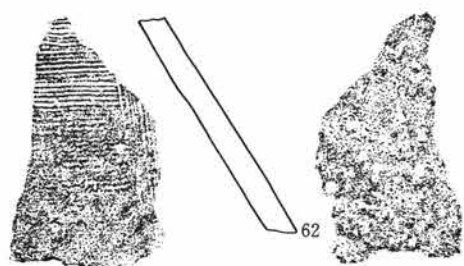
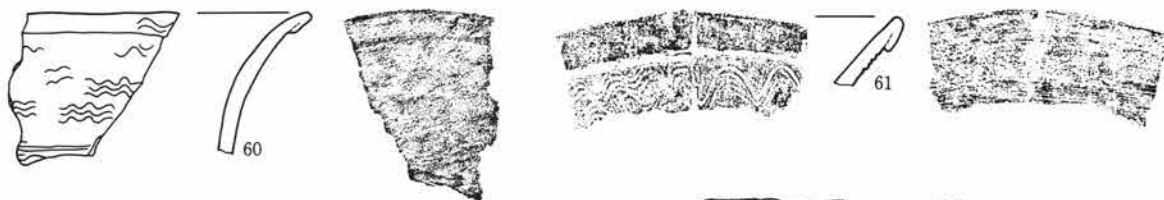
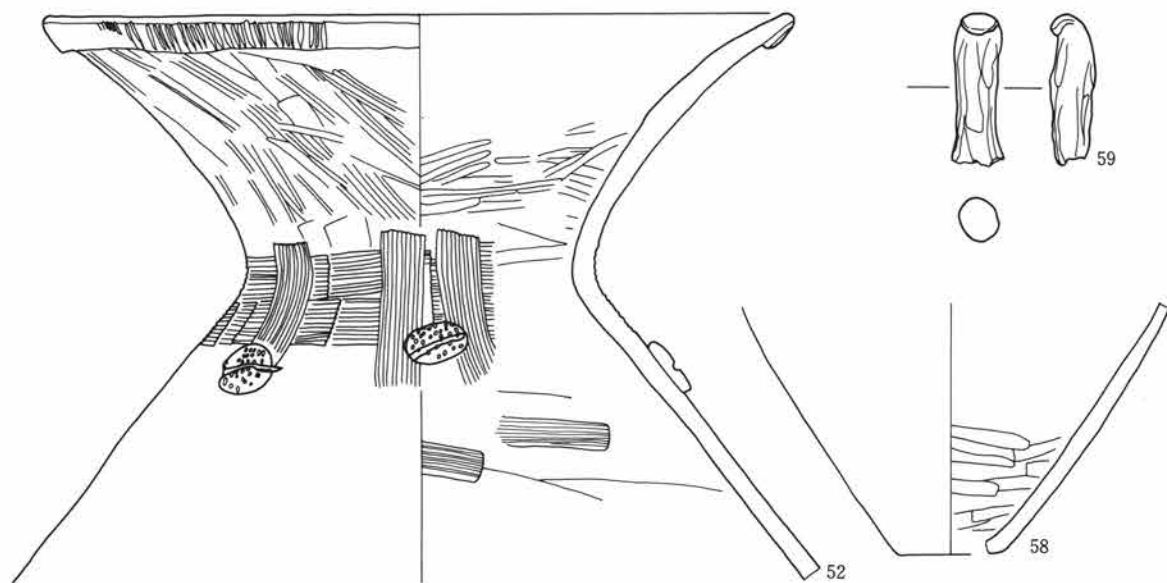


第102図 24号住居跡出土遺物(2)

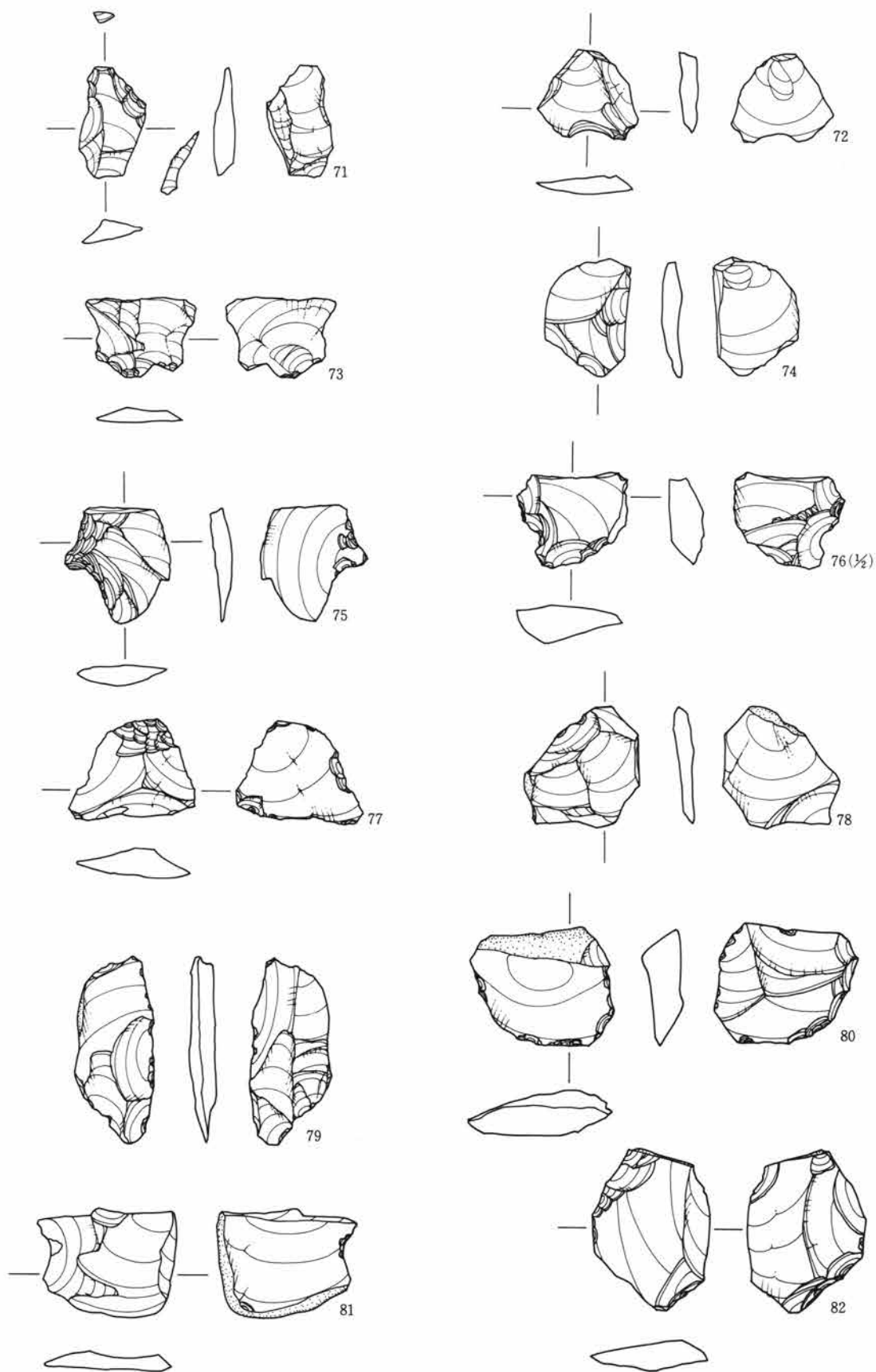


第103図 24号住居跡出土遺物(3)

1. 竖穴住居跡

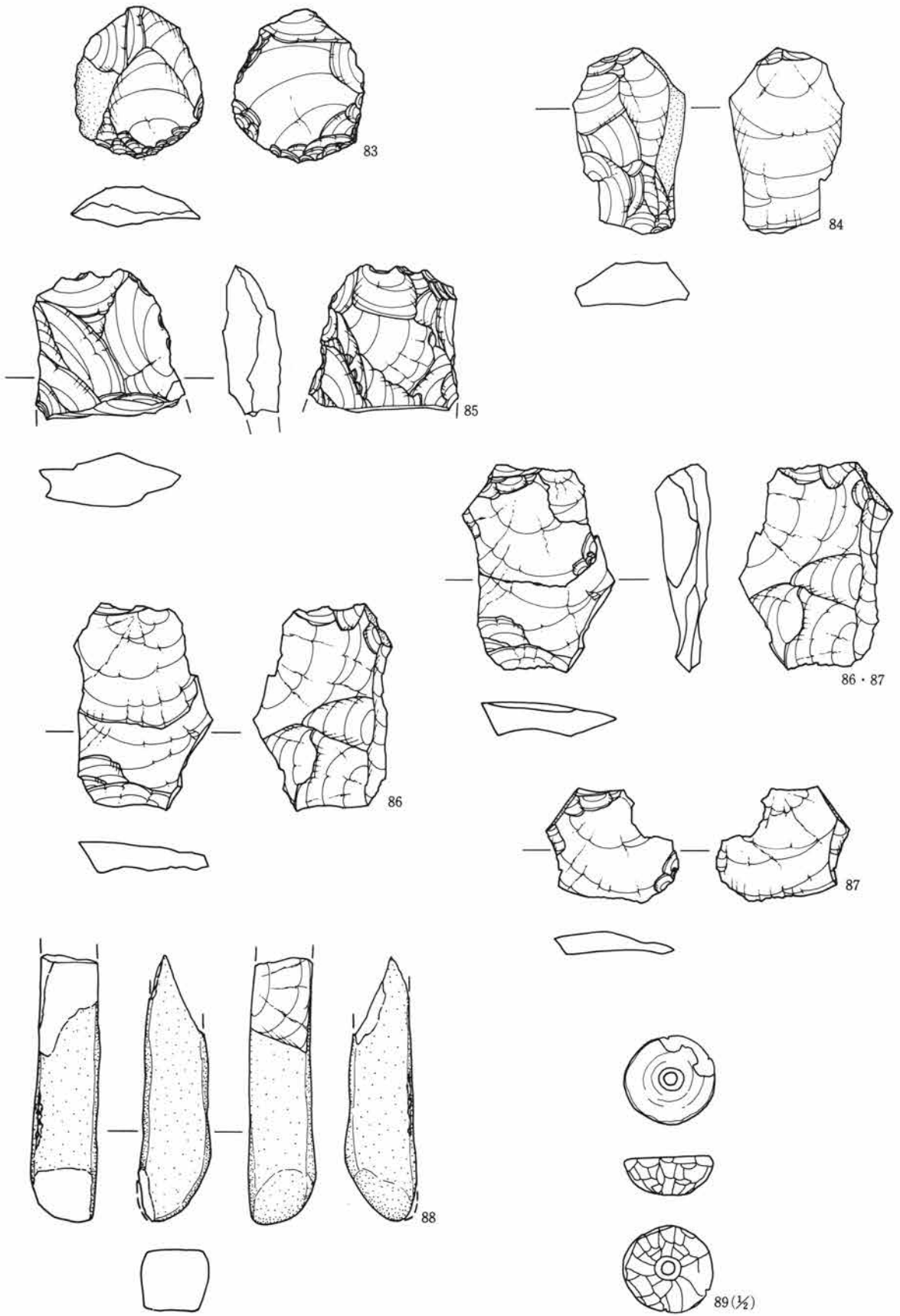


第104图 24号住居跡出土遺物(4)



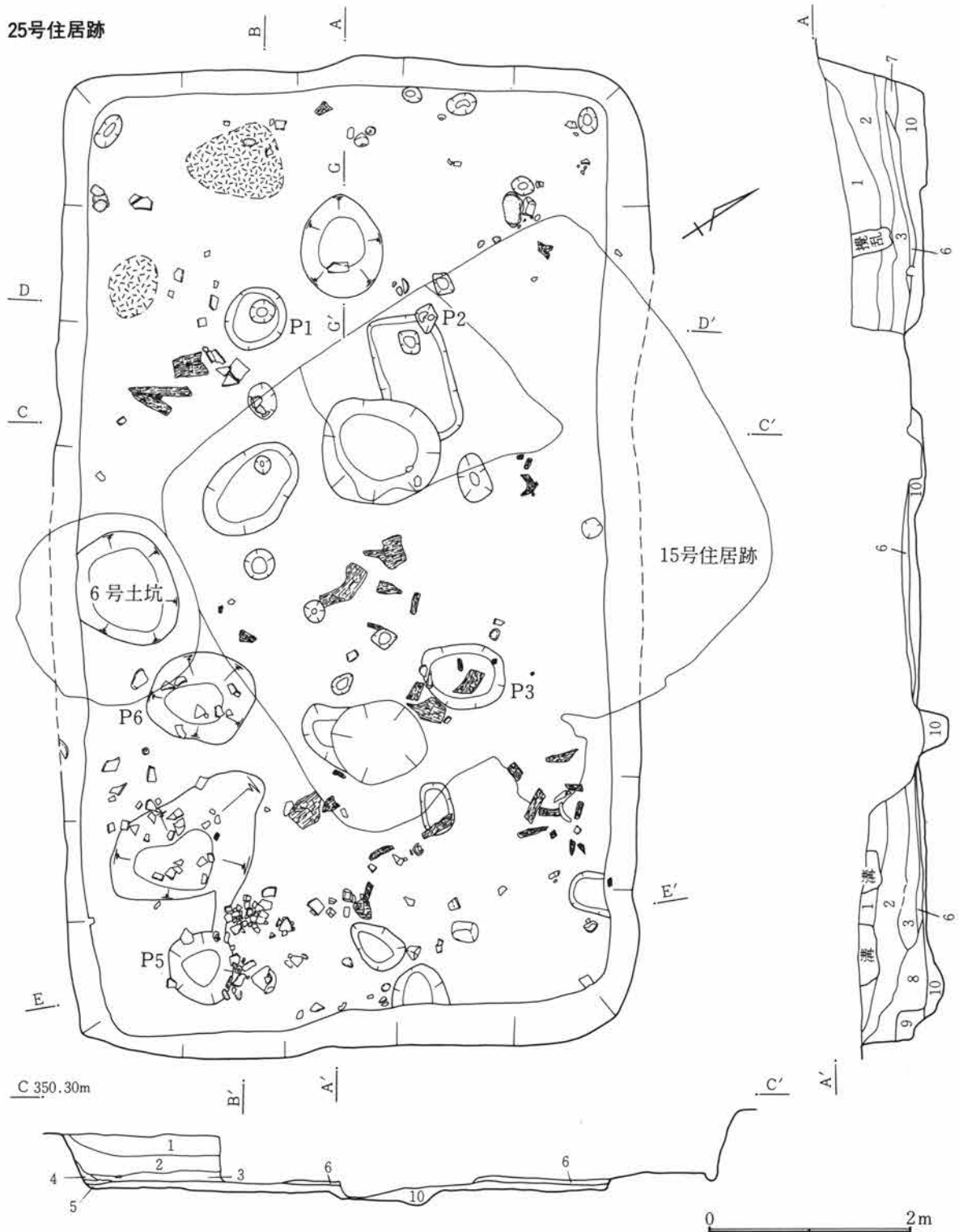
第105図 24号住居跡出土遺物(5)





第106図 24号住居跡出土遺物(6)

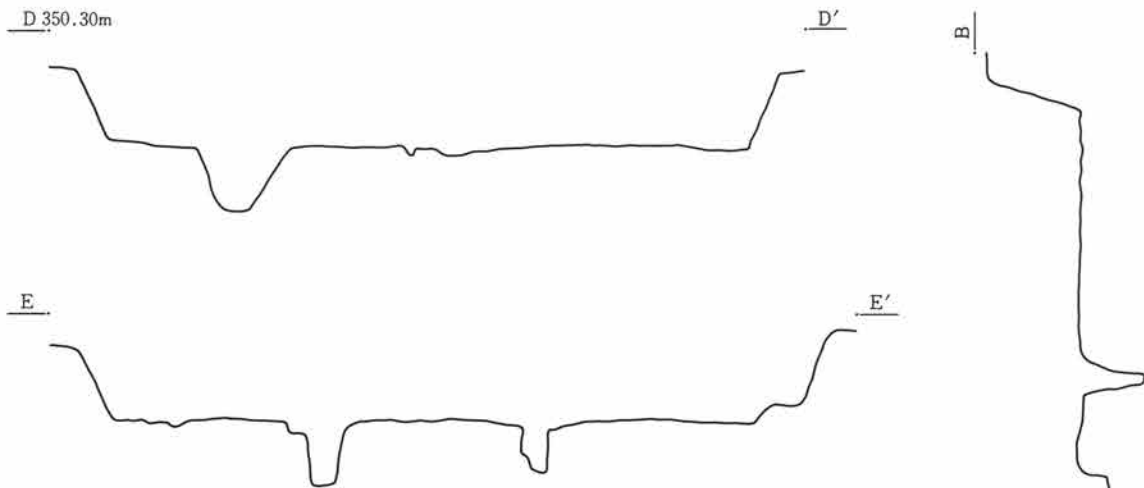
25号住居跡



25号住居跡

- |   |  |
|---|--|
| 1 暗褐色土 焼土粒、炭化物2~3%含む。                     | 6 暗褐色土 粘質土、焼土と炭化物10%含む。                  |
| 2 暗褐色土 粘質土、炭化物を5%、焼土粒1%含む。                | 7 暗褐色土 粘質土、焼土20%、炭化物5%含む。                |
| 3 暗褐色土 粘質土、炭化物20~30%、焼土粒3%を含む。            | 8 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒30~40%とφ5cmの炭化物10%含む。 |
| 4 におい黄褐色土 炭化物5%、ローム粒5%を含む。                | 9 におい黄褐色土 ロームブロック・ローム粒20%と、炭化物を3%含む。     |
| 5 におい黄褐色土 炭化物2~3%、ローム粒5%、ロームブロック10~20%含む。 | 10 におい黄褐色土 貼床土、ロームブロック50%含み、硬くしまっている。    |

第107図 25号住居跡使用面



第108図 25号住居跡エレベーション

位置 CS～CU-91～93グリッド

重複 15号住居跡、6号土坑(平安時代)当住居跡が前出、10号土坑(縄文時代)当住居跡が後出

形態 長方形 方位 N-58°-W

規模 9.78×5.90m 面積 58.12m<sup>2</sup>

壁 東壁は95°とほぼ垂直であるが、他の壁はやや外傾し、傾斜は107～114°である。壁高は56～70cmである。

炉 P1とP2を結んだ線の外(西)側に位置し、形態は楕円形を呈し、規模は106×75cmである。

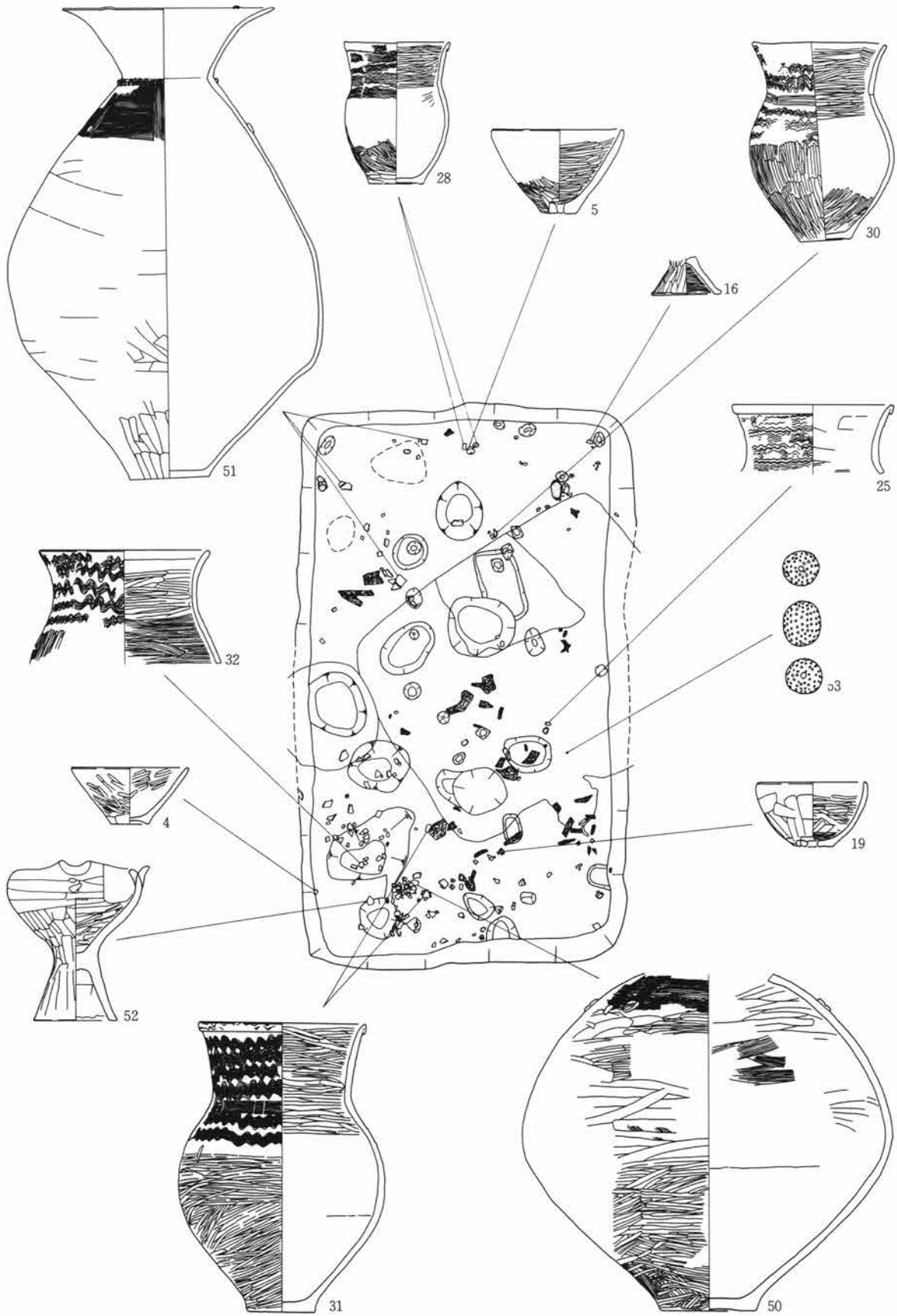
内部施設 住居内には大小数本のピット等が検出されたが、柱穴と断定できるものは2本が検出されただけであるが、掘り方面では柱穴と想定されるピットも数本みられる。規模はP1が24×22×52cm、P2が28×22×20cmで柱間距離は1.66mである。また、壁ぎわから径20～30cm、深度20～30cmの小ピットが検出され、補助的なものと想定される。貯蔵穴は南東角に位置し、形態はほぼ円形を呈し、規模は径72×68cm、深度52cmである。周溝は検出されなかった。床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で柱穴間の内部及びその周辺に硬化面が見られる。

掘り方 掘り方面は床面より10cm前後であるが、10個の長方形、楕円形、不整形で10～30cmの落ち込みがみられるが埋設物等は出土していない。

埋没状況 中央付近で15号住居跡、6号土坑と重複するため詳細は不明であるが、住居周辺よりほぼ均一に流入した土砂がレンズ状に堆積しており自然埋没と考えられる。

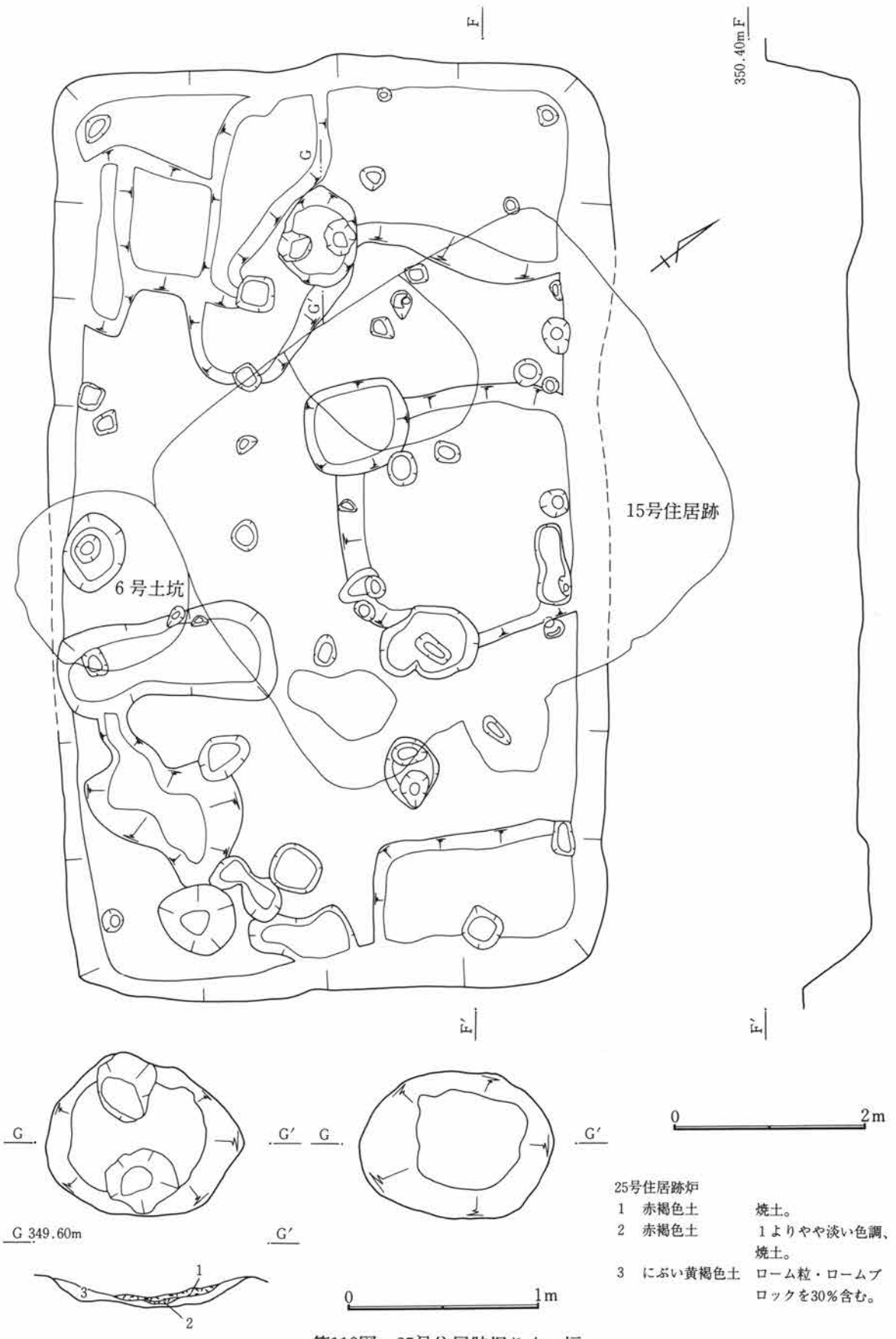
遺物出土状態 当住居跡からは弥生土器1,203点と石器26点が出土しているが、土器のうち90%ほどは甕・壺である。高杯の大部分は赤色塗彩が施されている。出土位置の明らかなものに27・33の甕、46の台付甕、43・48の壺、10・13の高杯が床面より、71の甕が柱穴P2より出土している。

当住居跡は炭火材・焼土が多量にみられ火災を受けたと想定され、一部にはφ5～7cmの炭火材もみられ柱材の一部だと思われる。樹種はクリ・ケヤキが確認されている。



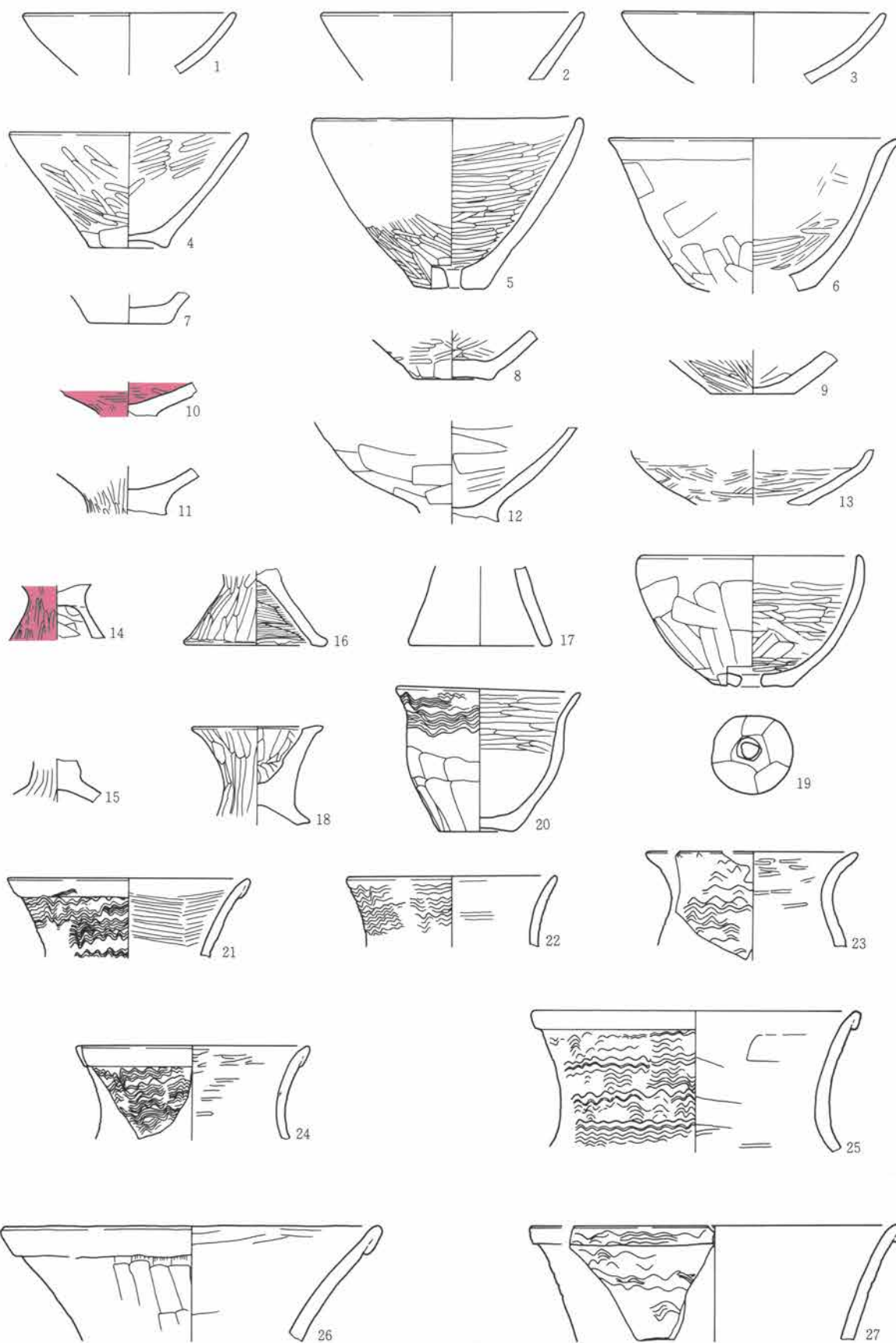
第109図 25号住居出土遺物分布図

1. 竪穴住居跡

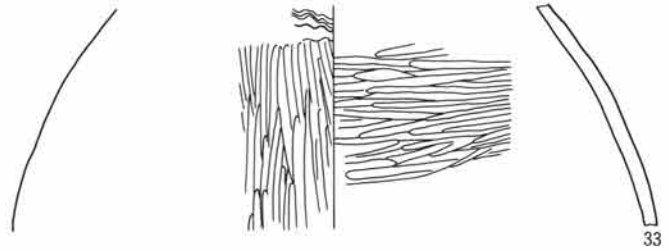
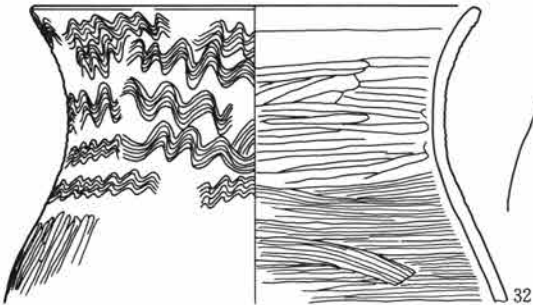
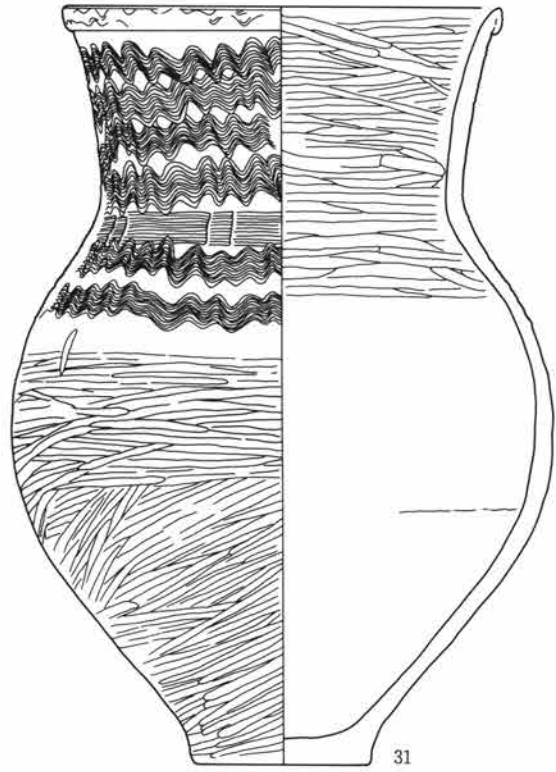
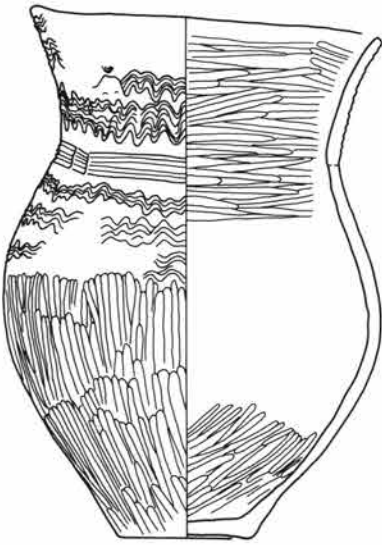
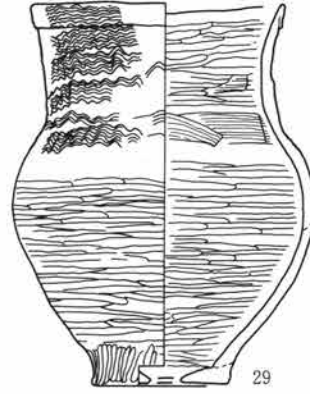
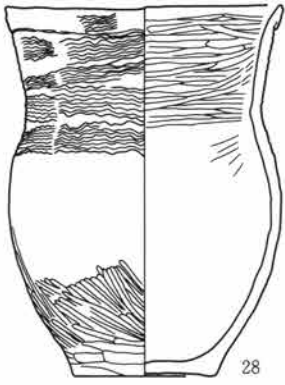


第110図 25号住居跡掘り方・炉

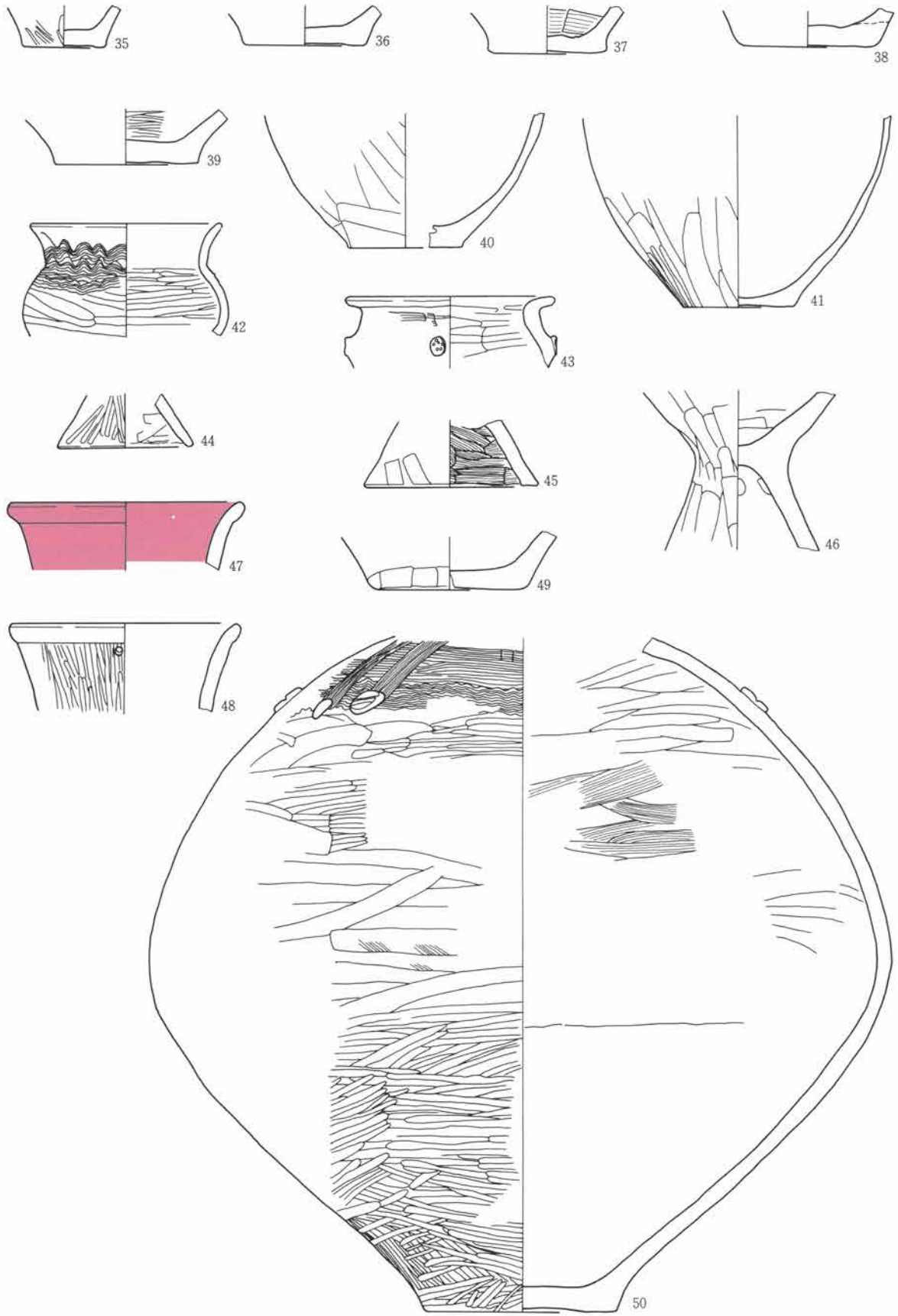
第5章 下川田平井遺跡の遺構・遺物



第111図 25号住居跡出土遺物(1)



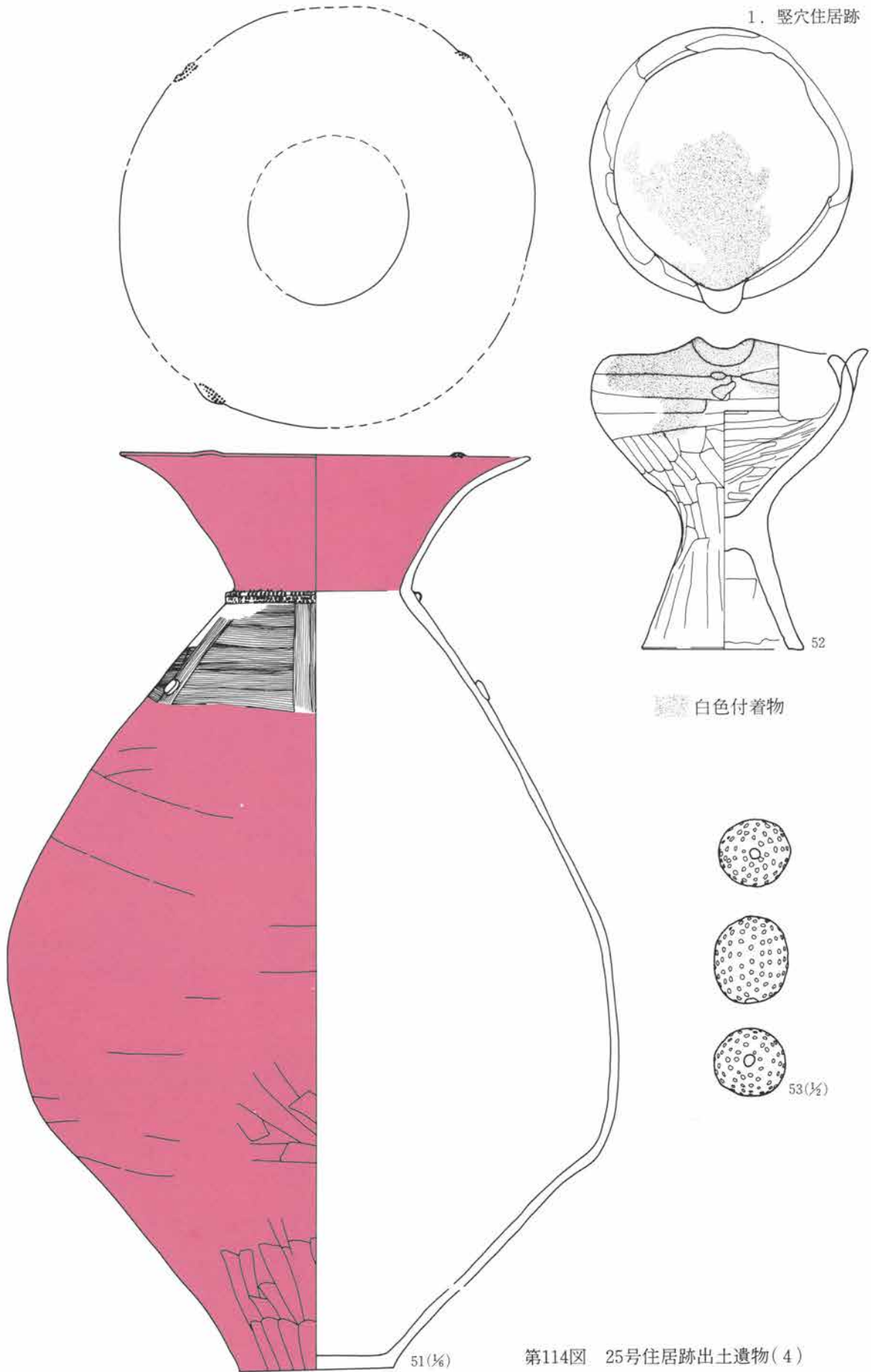
第112図 25号住居跡出土遺物(2)



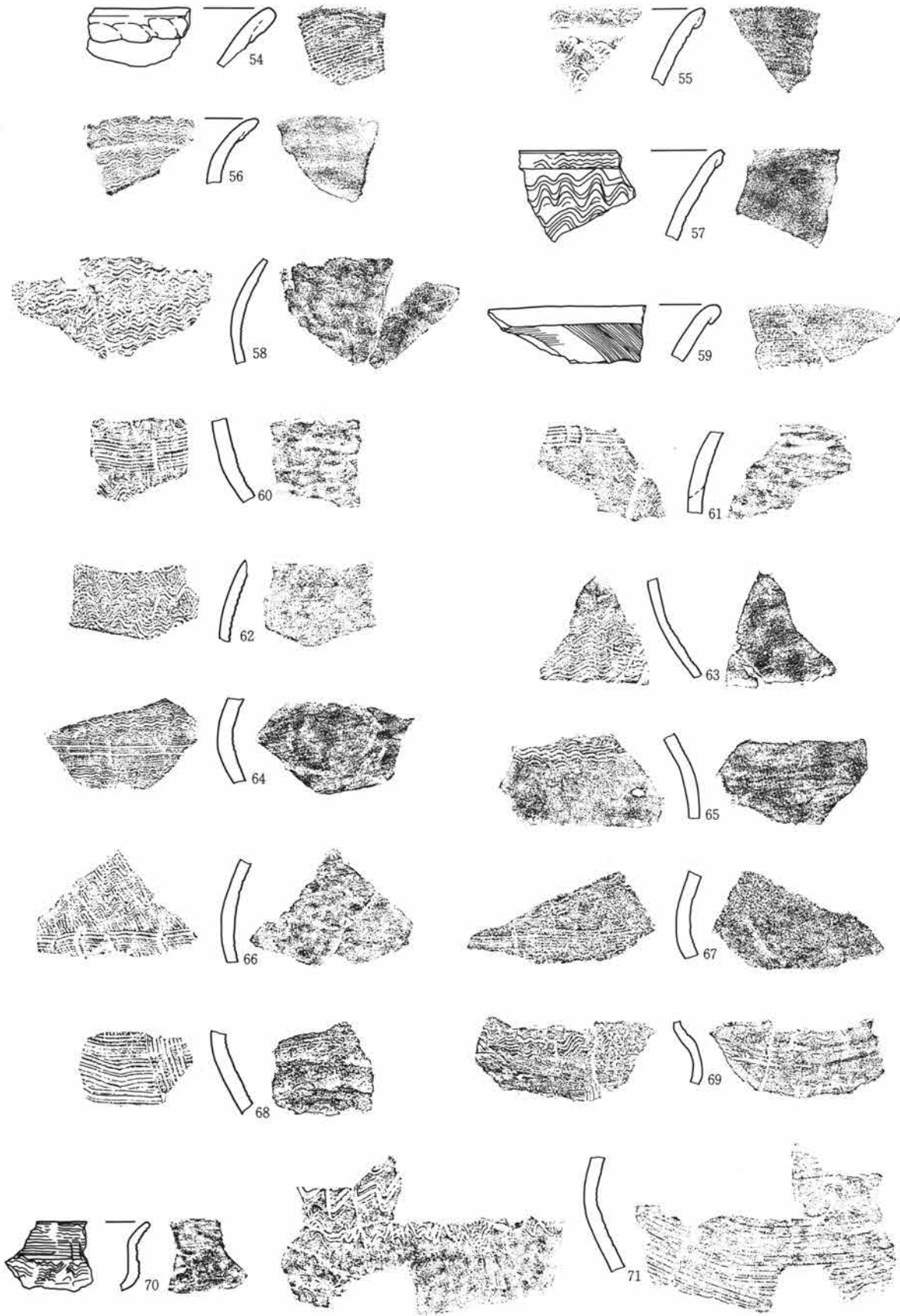
第113図 25号住居跡出土遺物(3)



1. 竖穴住居跡

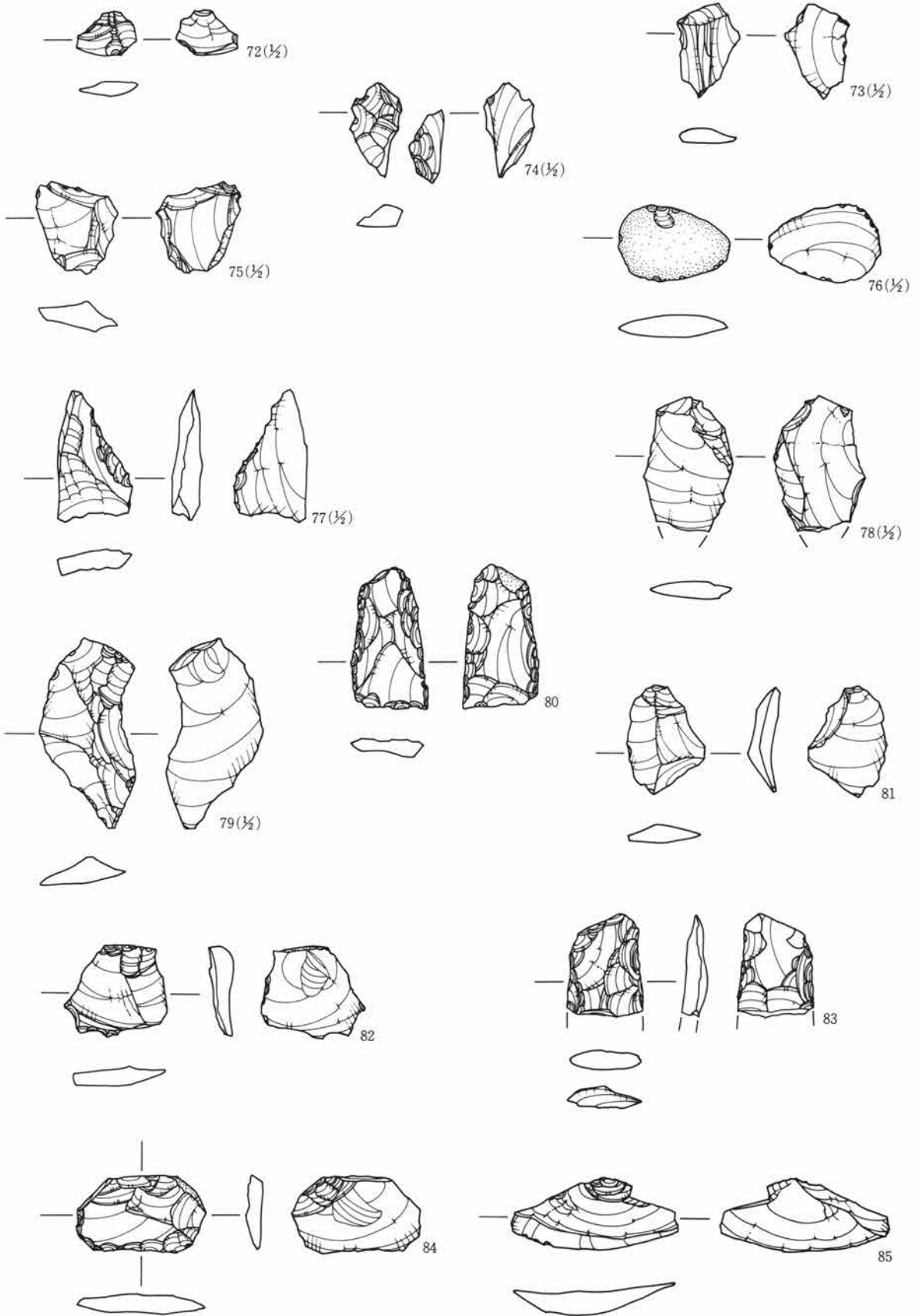


第114图 25号住居跡出土遺物(4)

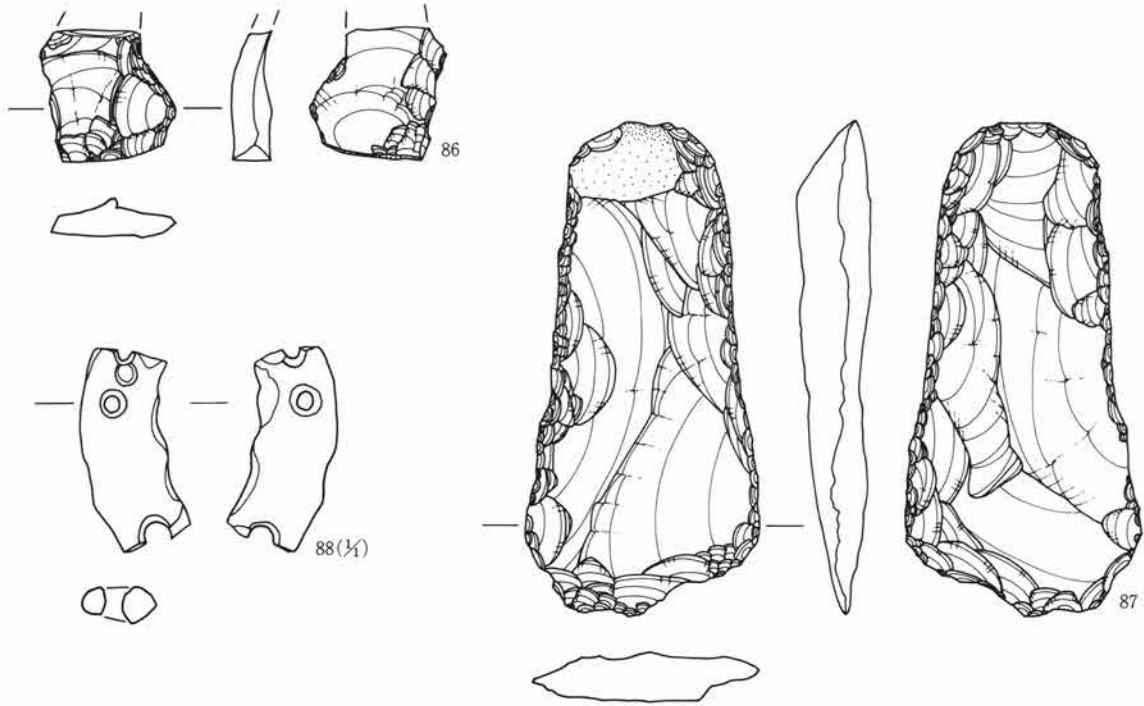


第115図 25号住居跡出土遺物(5)

1. 竖穴住居跡



第116图 25号住居跡出土遺物(6)



第117図 25号住居跡出土遺物(7)

### 26号住居跡

位置 CN-CO-89~90グリッド

重複 18・19号住居跡(平安時代)当住居が前出

28号住居跡(弥生時代)当住居が後出

形態 住居の3分の2ほどは調査区外にのびるため全貌は不明であるが調査部分より長方形を呈すると想定される。 方位 N-35°-E

規模  $(2.9 + \alpha) \times 5.2\text{m}$  面積  $(13.47\text{m}^2)$

壁 東壁は125°、西壁は114°とやや外傾し、壁高は60~64cmである。

炉 P1とP2を結んだ線より外側に位置する。

規模は68×57cmで南側に細長い円礫を据えてある。

内部施設 柱穴は調査区内では2本検出され、当住居は4本の柱穴をもっていたと想定される。規模はP1が70×68×50cm、底部径23×18cm、P2が74×62×40cm、底部径が13×10cmでP1~2の柱間距離は1.64mである。このほか北東角、北西角に小ピットが見られ、それぞれ規模が35×27×12cm、26×23×42cmであり主柱穴の補助的なものであったと考えられる。貯蔵穴は調査区内では検出されなかった。

周溝は東・西壁下で検出され規模は幅20~22cm、深度17~25cmである。

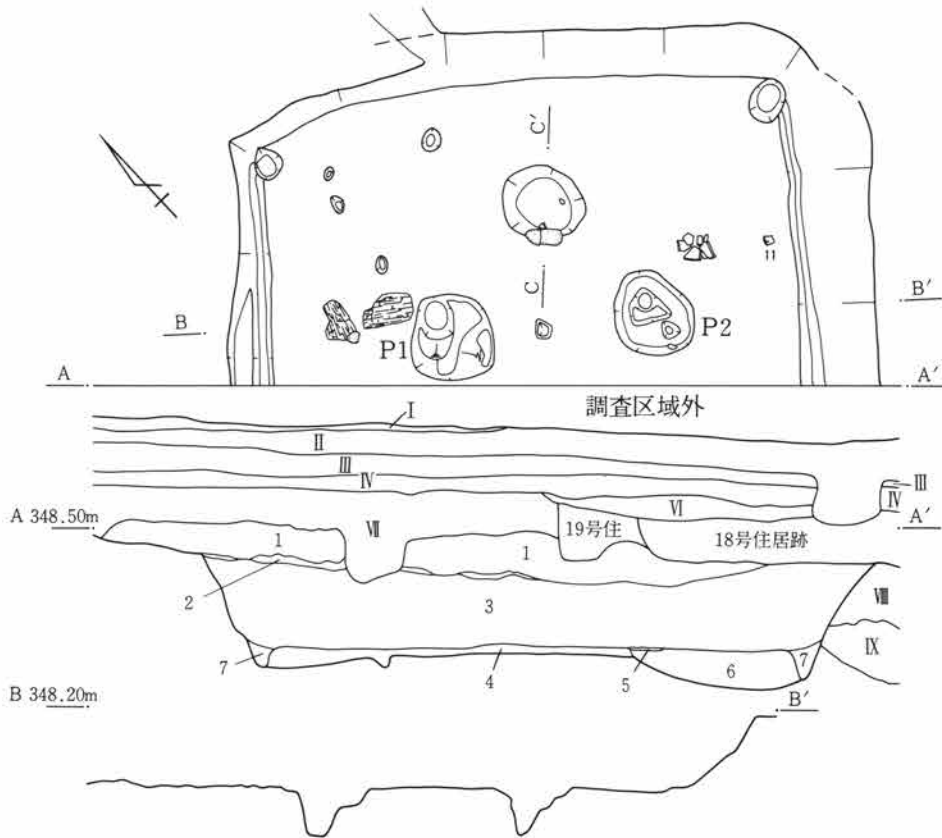
床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で柱穴間の内部及びその周辺に硬化面が見られる。

掘り方 床面より20cm前後掘り込まれており、東壁中央付近ではさらに10cmほどのおちこみが見られるが、床下土坑等の施設は見られない。

埋没状況 住居内埋土は暗褐色土だけあることから短期間に埋没したものと考えられる。

遺物出土状態 当住居跡からは弥生土器241点、石器22点が出土しているが、弥生土器のうち甕・壺が約90%を占め、残りは高杯で22点でそのうち20点が赤色塗彩が施されている。これら出土遺物のうち12の甕が床面、11の甕が炉よりの出土である。

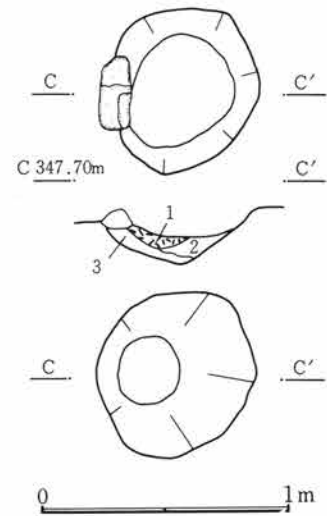
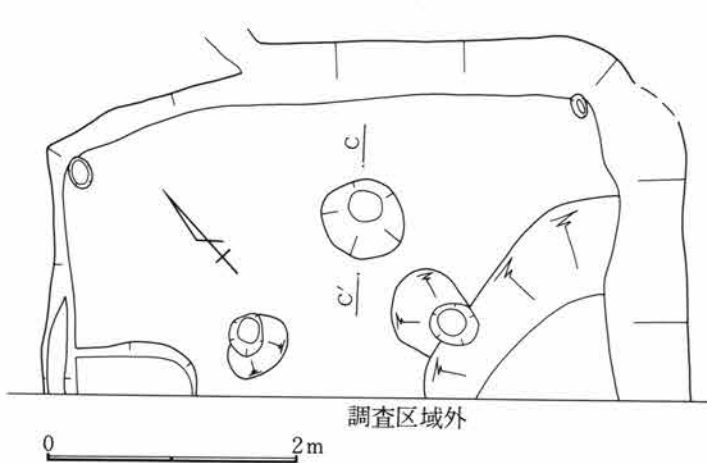
1. 竪穴住居跡



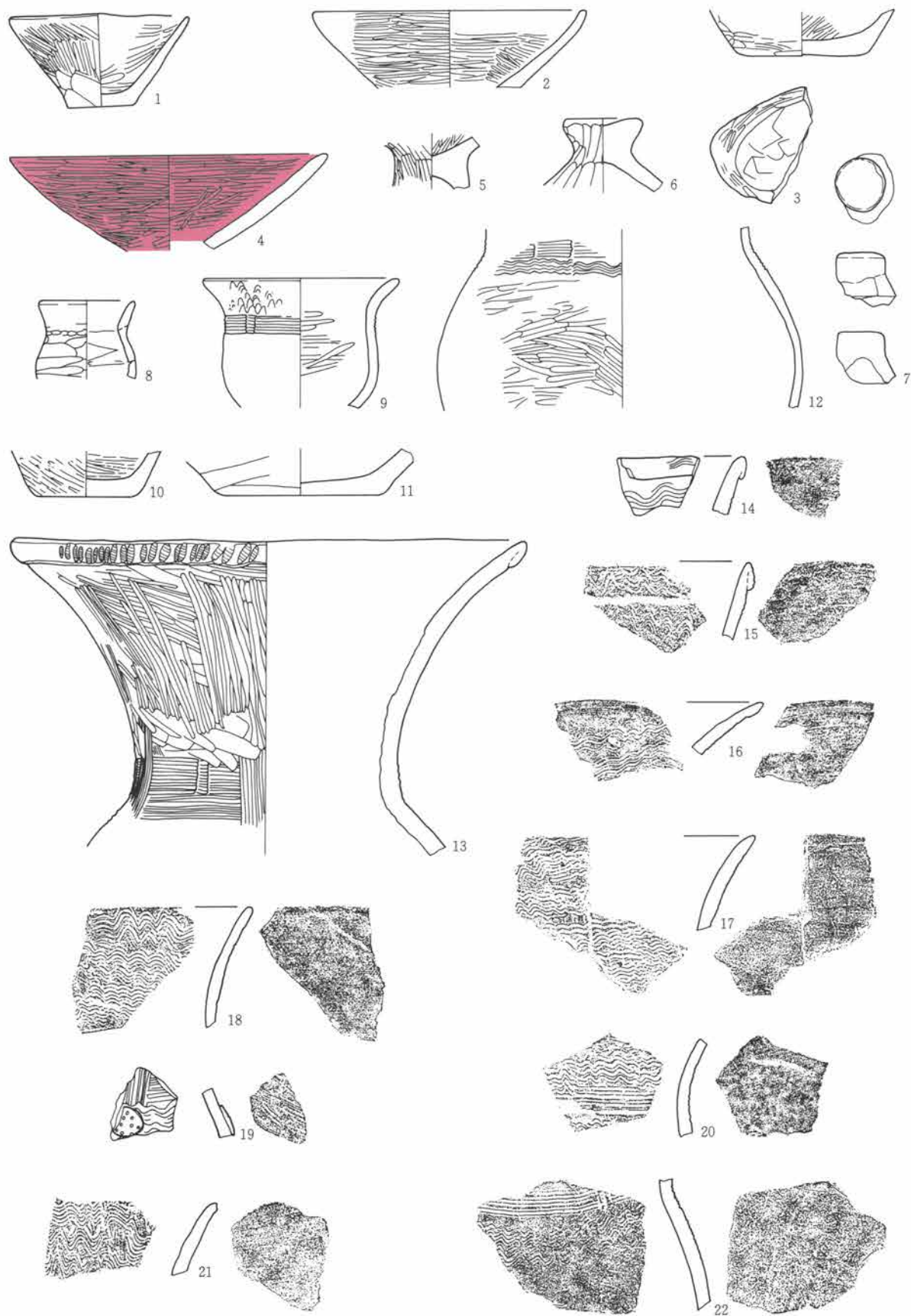
26号住居跡

- I
- II 暗褐色土 耕作土、 $\phi$  5~10mmのFP 2~3%とAs-Bを5%含む。西側ではFPを5%と含有物が多い。
- III 黒褐色土  $\phi$  5mmのFPを5%とAs-Bを20%含む。
- IV 黒色土 As-Bの二次堆積。
- VI 黒褐色土  $\phi$  10~20mmのFPを10~20%と、As-Bを10%含む。
- VII 黒褐色土  $\phi$  10~50mmのFPを20~40%含む。
- VIII 黒褐色土 粘性土、ローム粒を1~2%含む。部分的にFPも含まれる。また、下部に移行するにしたがって色調が濃くなる。
- IX におい黄色土 ローム漸移土。
- X 黄色土 ローム土、しみ状に黒色土がみられる。

- 1 暗褐色土 粘性があり、 $\phi$  1~2mmのFPを1%と $\phi$  2~5mmのローム粒を3%と炭化物1%を含む。
  - 2 暗褐色土 粘性があり、ローム土を10~20%含む。
  - 3 暗褐色土 粘性があり、ローム粒を5%と、炭化物3%、焼土粒1%を含む。
  - 4 黄褐色土 貼床土、ローム土。
  - 5 黄褐色土 ローム土を薄く貼っている。
  - 6 黒褐色土 ロームブロックを30%含む。
  - 7 黒褐色土 ロームブロックを10~20%含む。
- 26号住居跡炉
- 1 赤褐色土 焼土。
  - 2 暗褐色土 焼土粒、ロームブロックを含む。
  - 3 暗黄褐色土 ロームブロックを30%含む。

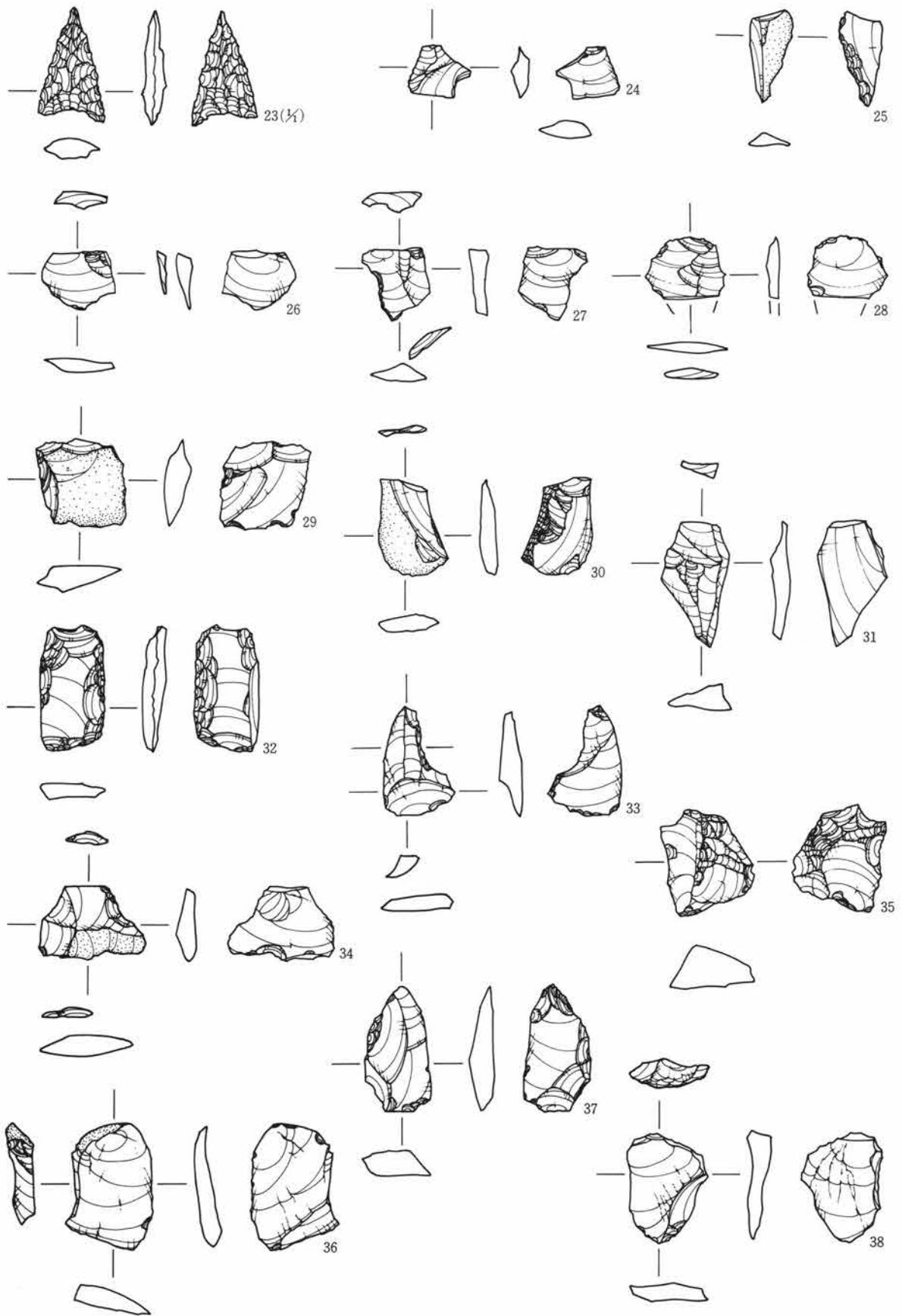


第118図 26号住居跡使用面・掘り方・炉

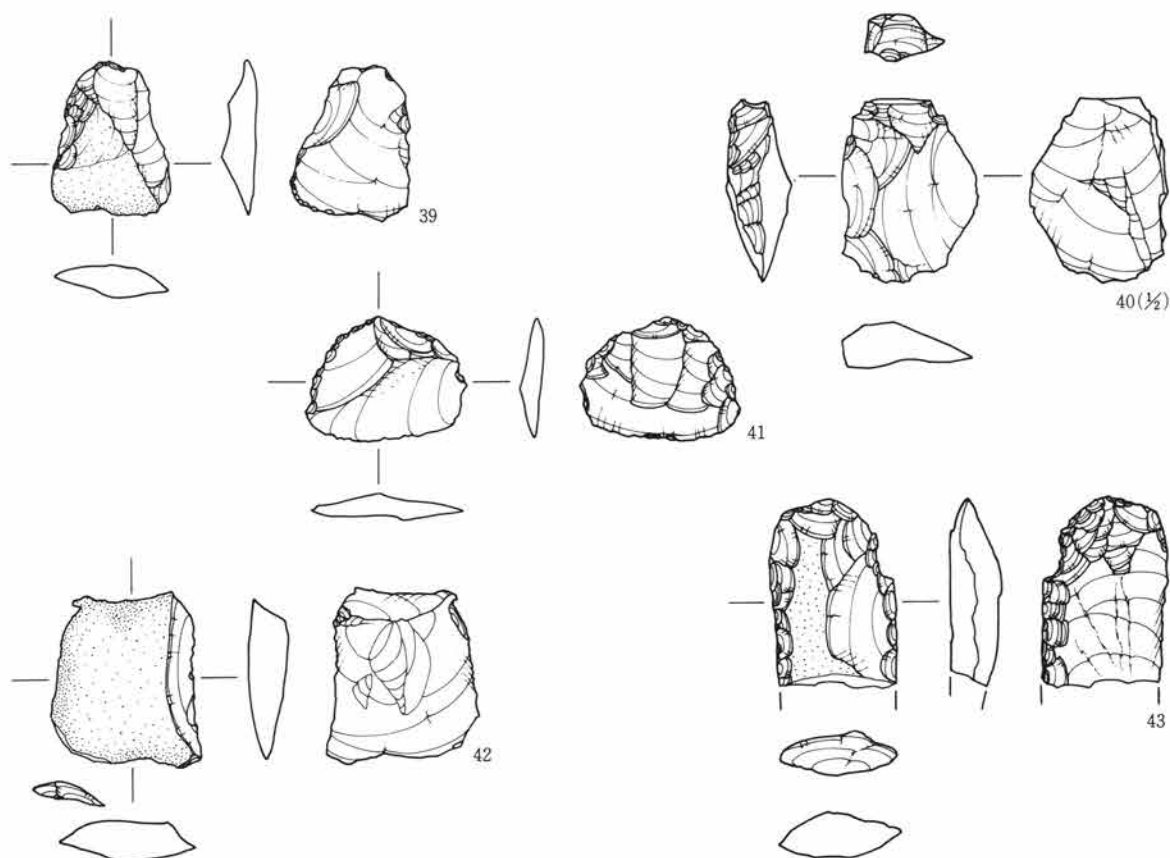


第119図 26号住居跡出土遺物(1)

1. 竖穴住居跡



第120图 26号住居跡出土遺物(2)



第121図 26号住居出土遺物(3)

27号住居跡

位置 CO~CP-90~91グリッド

重複 3号・16号住居跡(平安時代)、26号・29号住居跡、13号土坑(弥生時代)当住居跡が前出、28号住居跡(弥生時代)当住居跡が後出

形態 住居の大部分は調査区外にのび、西側は29号住居跡、北東角は13号土坑と重複しているため全貌は不明である。方位 N-29°-E?

規模 計測不能 面積 計測不能

壁 南側土層断面より東壁が126°の傾斜をもち壁高80cmであることが観察される。

炉 調査区内では検出されなかった。

内部施設 柱穴・貯蔵穴・周溝は調査区内では検出されなかった。

床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で硬化面が見られる。

掘り方 床面より5~12cmほど掘り込まれている

が、床下土坑等の施設は見られない。

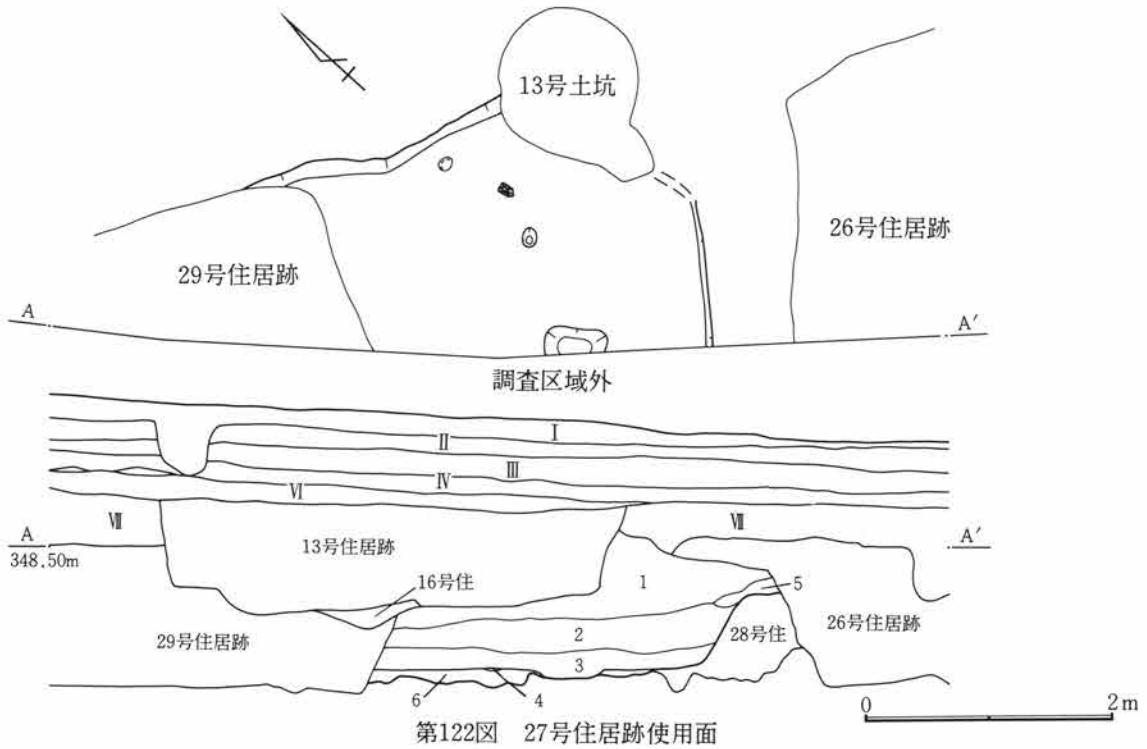
埋没状況 土層断面よりレンズ状の堆積が観察され、自然による埋没である。

遺物出土状態 当住居跡からは弥生土器90点が出土しているが、すべて甕・壺でありそのうち10点は赤色塗彩が施されている。



調査風景



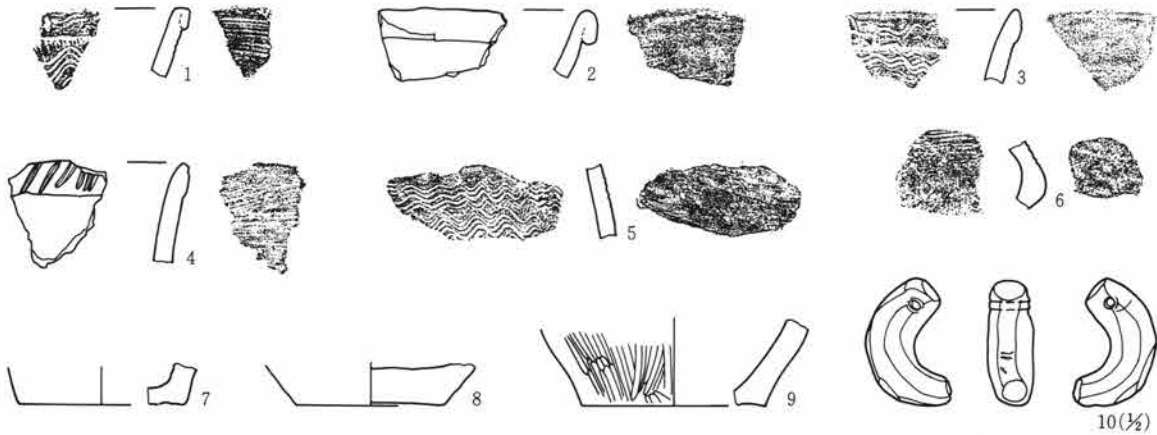


第122図 27号住居跡使用面

27号住居跡

- 1 黒褐色土 VII層に類似、焼土、炭化物を2~3%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似、ローム粒を2~3%含む。
- 3 黒褐色土 VII層に類似、2に類似。

- 4 黒褐色土 26号住居-11と同様か、ロームブロック20%含む。
- 5 黄褐色土 貼床土、ローム土。
- 6 黒褐色土 ローム粒、ブロックを20%含む。



第123図 27号住居跡出土遺物

28号住居跡

位置 CO~CP-90~91グリッド

重複 3号・16号住居跡(平安時代)、26号・27号・

29号住居跡、13号土坑(弥生時代)当住居跡が前出

形態 住居の大部分が他住居との重複と一部調査区外にのびるため形態は不鮮明であるが、残存部分よ

りほぼ長方形を呈すると想定される。

方位 N-16°-E

規模 計測不能 面積 計測不能

壁 やや外傾し120°前後の傾斜をもち、壁高は100~112cmである。

第5章 下川田平井遺跡の遺構・遺物

炉 調査区内では検出されなかった。

内部施設 調査区内では検出されなかった。

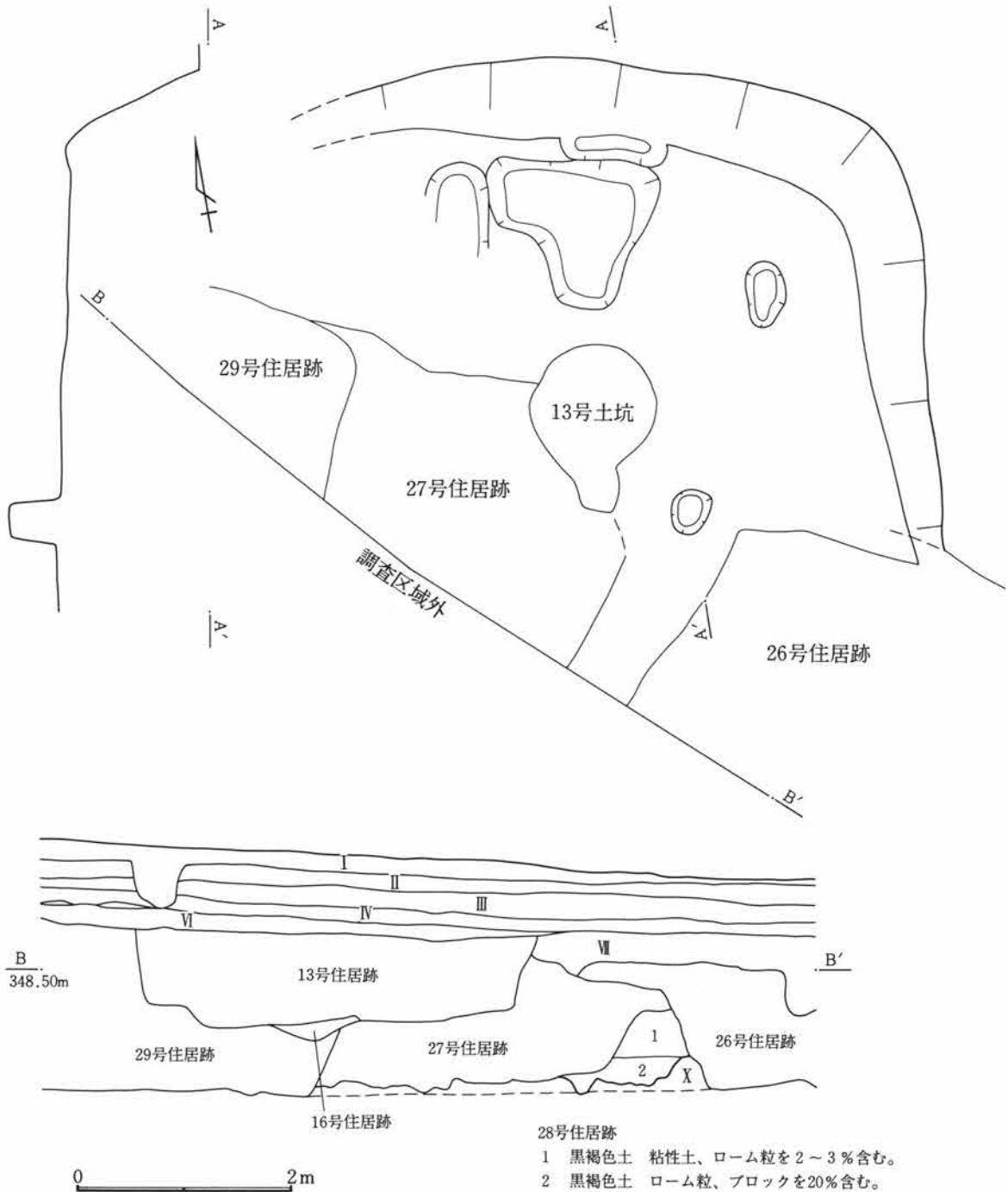
床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で硬化面が見られる。

掘り方 床面より10～22cmほど掘り込まれており、8～22cmの落ち込みが3カ所みられるが、床下土坑

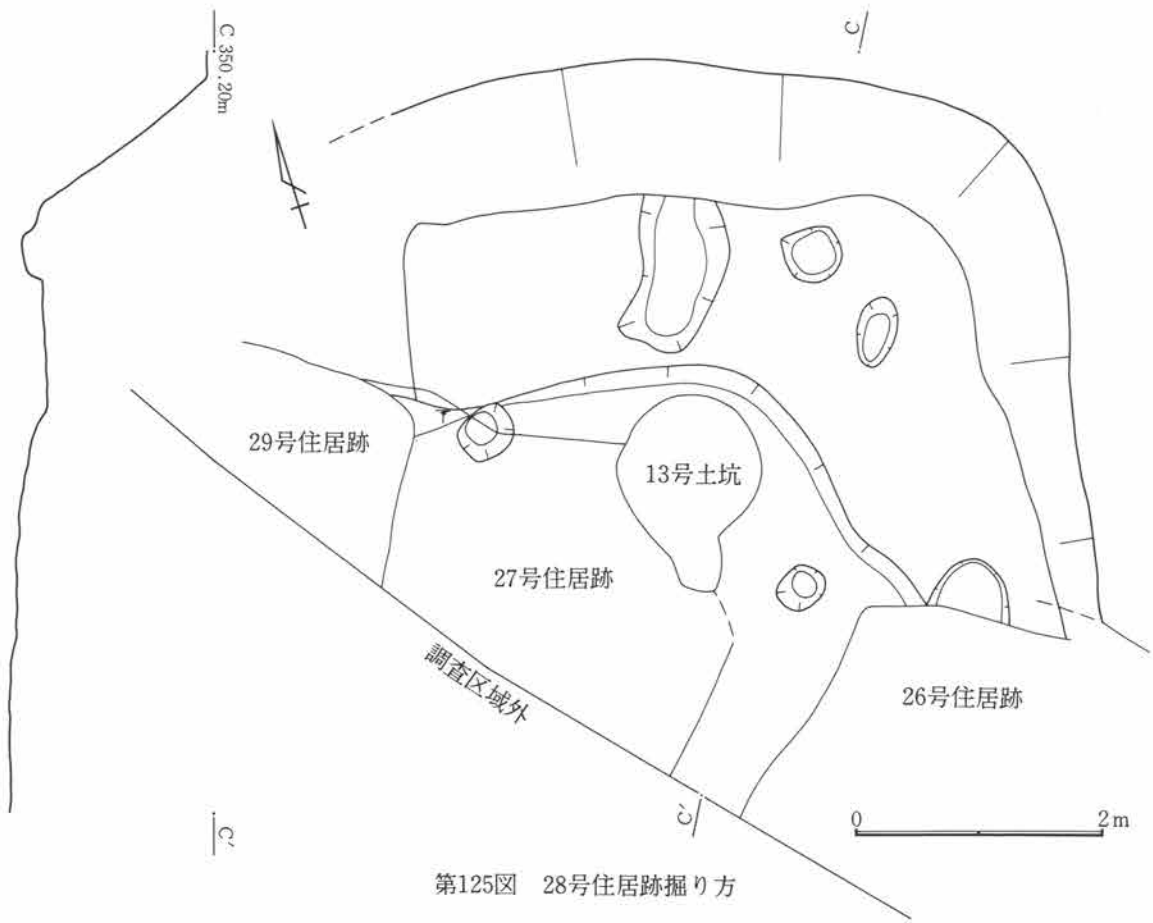
等の施設は検出されなかった。

埋没状況 黒褐色土により短期間に埋没したようである。

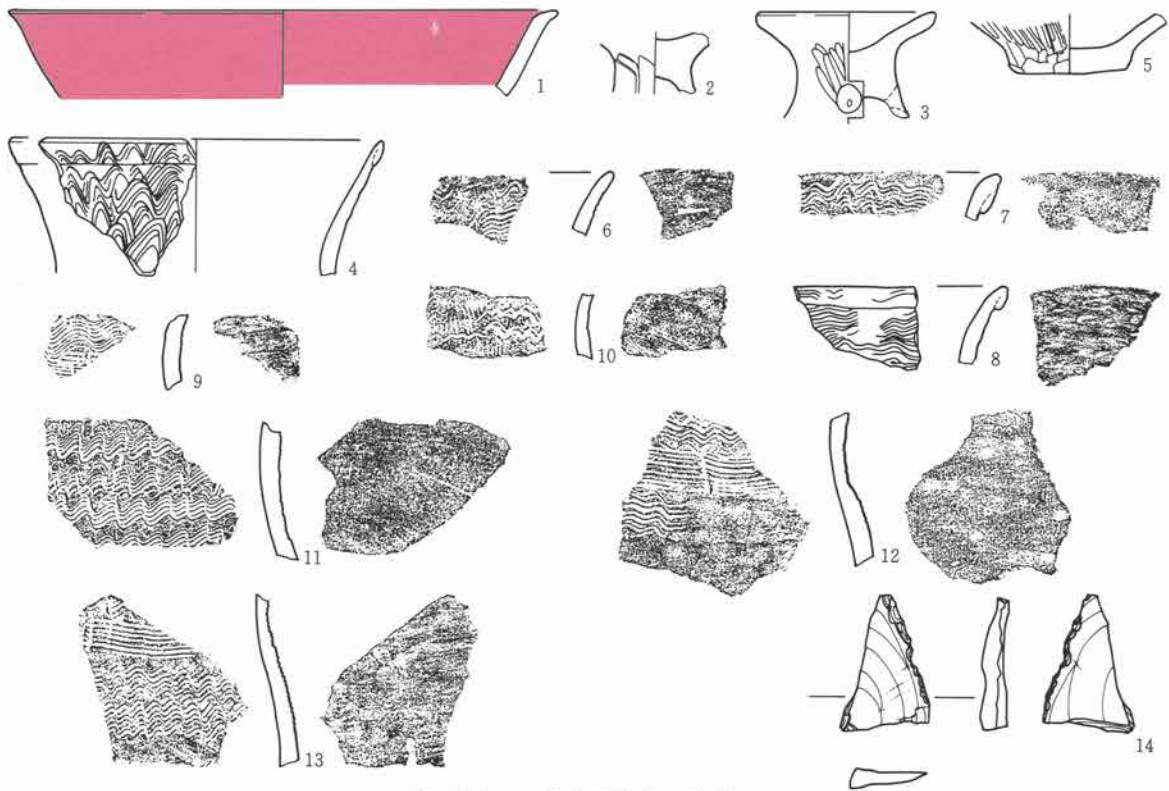
遺物出土状態 当住居跡からは弥生土器172点が出土しているが、すべて甕・壺でありそのうち2点は赤色塗彩が施されている。



第124図 28号住居跡使用面

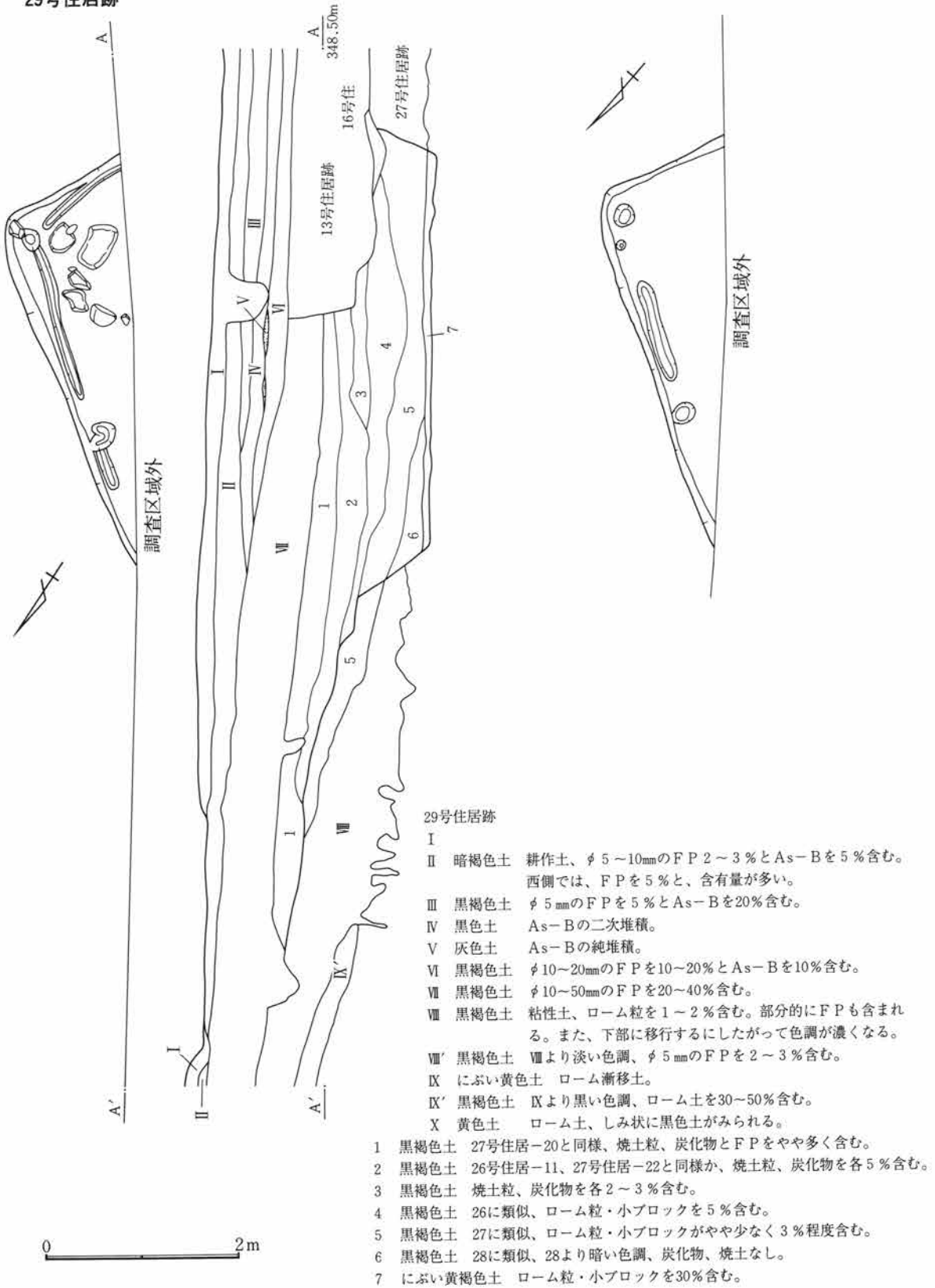


第125図 28号住居跡掘り方



第126図 28号住居跡出土遺物

29号住居跡



第127図 29号住居跡使用面・掘り方

## 1. 竪穴住居跡

位置 CO～CP-91～92グリッド  
 重複 3号・16号住居跡(平安時代)当住居跡が前出  
 27号・28号住居跡(弥生時代)当住居跡が後出  
 形態 大部分が調査区外にのびるため全貌は不明であるがほぼ長方形を呈すると想定される。  
 方位 N-57°-E  
 規模 計測不能 面積 計測不能  
 壁 やや外傾し112°～126°の傾斜をもち、壁高は44～56cmである。  
 炉 調査区内では検出されなかった。  
 内部施設 柱穴は北壁下で小ピットが2本検出され、規模はP1が30×24×17cm、P2が26×20×28cmで支柱穴にたいする補助的なものと考えられ

る。貯蔵穴は調査区内では検出されなかった。周溝は壁下で途切れながら検出され、規模は幅10～12cm、深度3～5cmである。  
 床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で硬化面が見られる。  
 掘り方 床面より5～10cmほど掘り込まれているが、掘り込み面はほぼ平坦である。  
 埋没状況土層 断面よりレンズ状の堆積が観察され、自然による埋没である。  
 遺物出土状態 当住居跡からは弥生土器13点が出土しているが、すべて甕・壺でありそのうち1点は赤色塗彩が施されている。

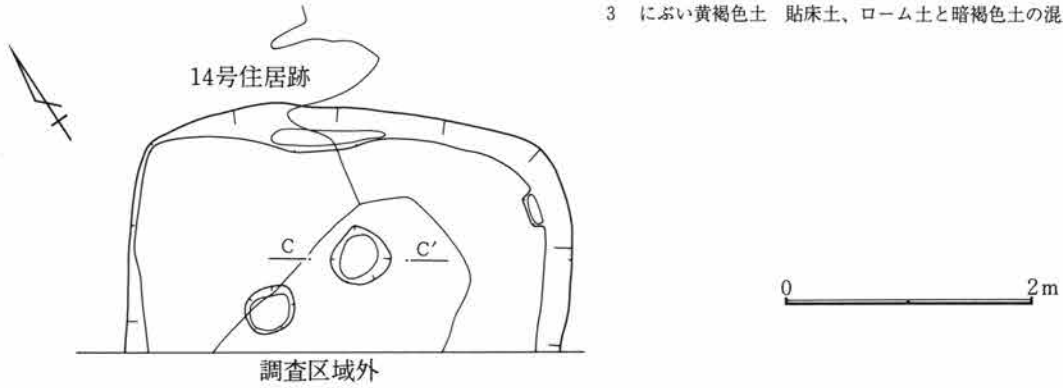
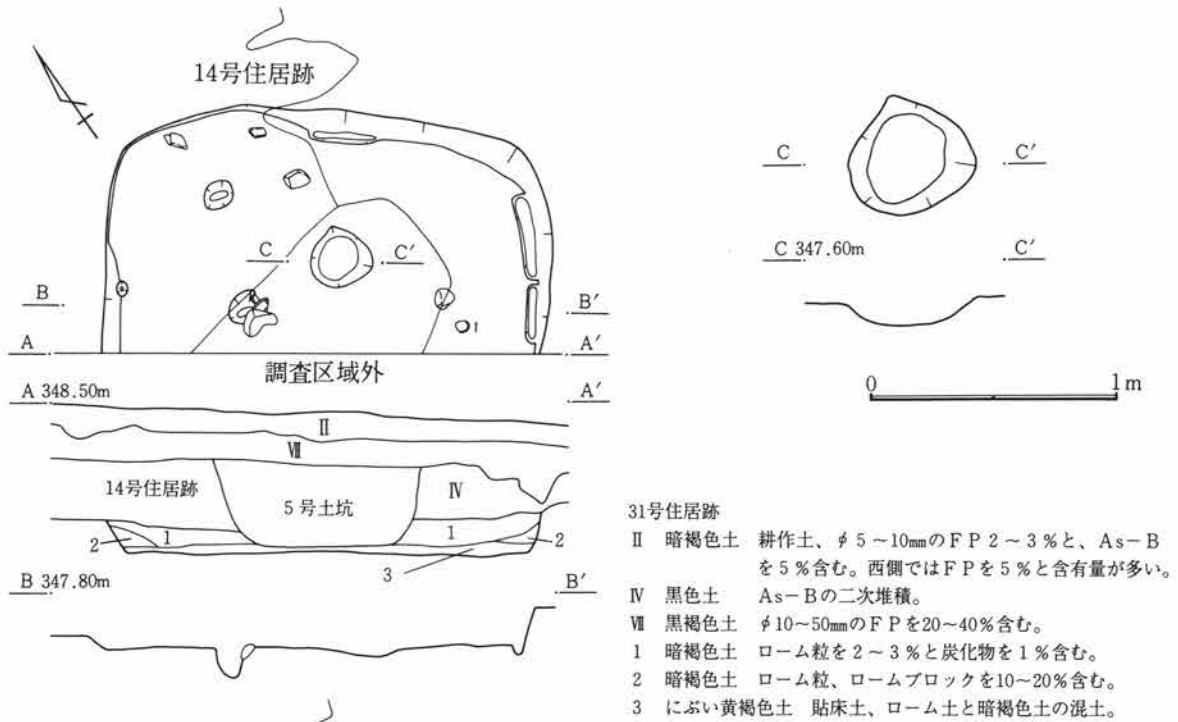


第128図 29号住居跡出土遺物

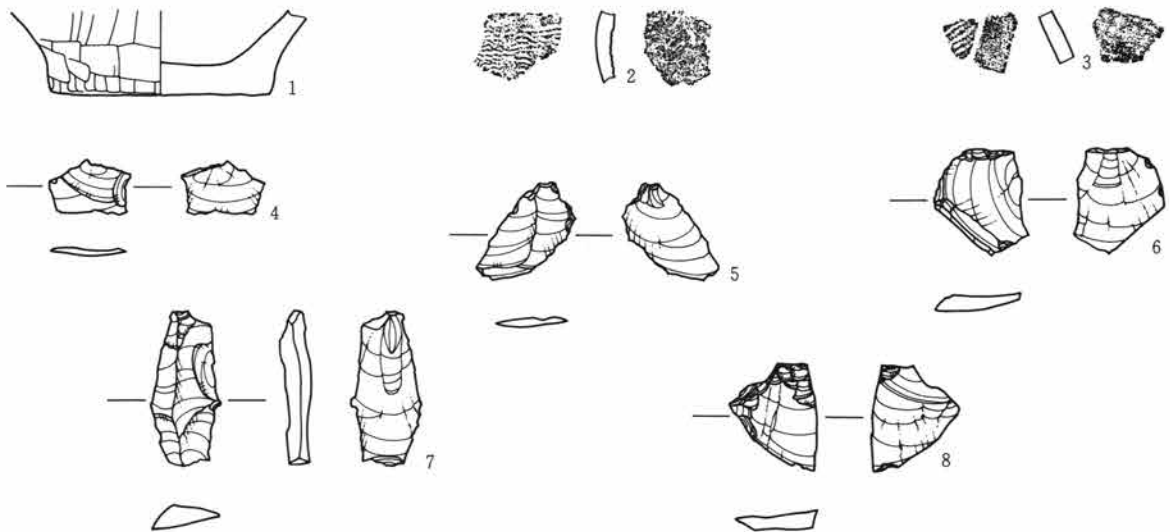
## 31号住居跡

位置 CK～CL-86～87グリッド  
 重複 14号住居跡、5号土坑(平安時代)当住居跡が前出  
 形態 住居の3分の2ほどは調査区外にのびるため全貌は不鮮明であるがほぼ長方形を呈すると想定される。 方位 N-35°-E  
 規模 (2.00+α)×3.60m 面積 (6.49m<sup>2</sup>)  
 壁 東壁は105～107°と垂直に近いが、西壁は126～134°と外傾し、壁高は26～30cmである。  
 炉 北壁よりの東壁と西壁間のほぼ中央に位置する。形態はほぼ円形で、規模は径50×46cmである。  
 内部施設 柱穴は調査区内では1本検出されただけであるが、P1は規模が28×22×22cmで脇に2個の

円礫が据えられている。貯蔵穴は調査区内では検出されなかった。周溝は北壁のほぼ中央付近で0.5mと東壁下で途切れ途切れではあるが検出され、規模は幅10～15cm、深度4～8cmである。  
 床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で硬化面が見られる。  
 掘り方 床面から10～15cmほど掘り込まれているが床下土坑、落ち込み等は見られない。  
 埋没状況 上位で14号住居跡と重複するため埋没土の状況については不明瞭であるがほぼ自然に埋没したようである。  
 遺物出土状態 出土した遺物は弥生土器が3点と石器が5点だけで、1の甕が床面、7の石器が床下から出土している。



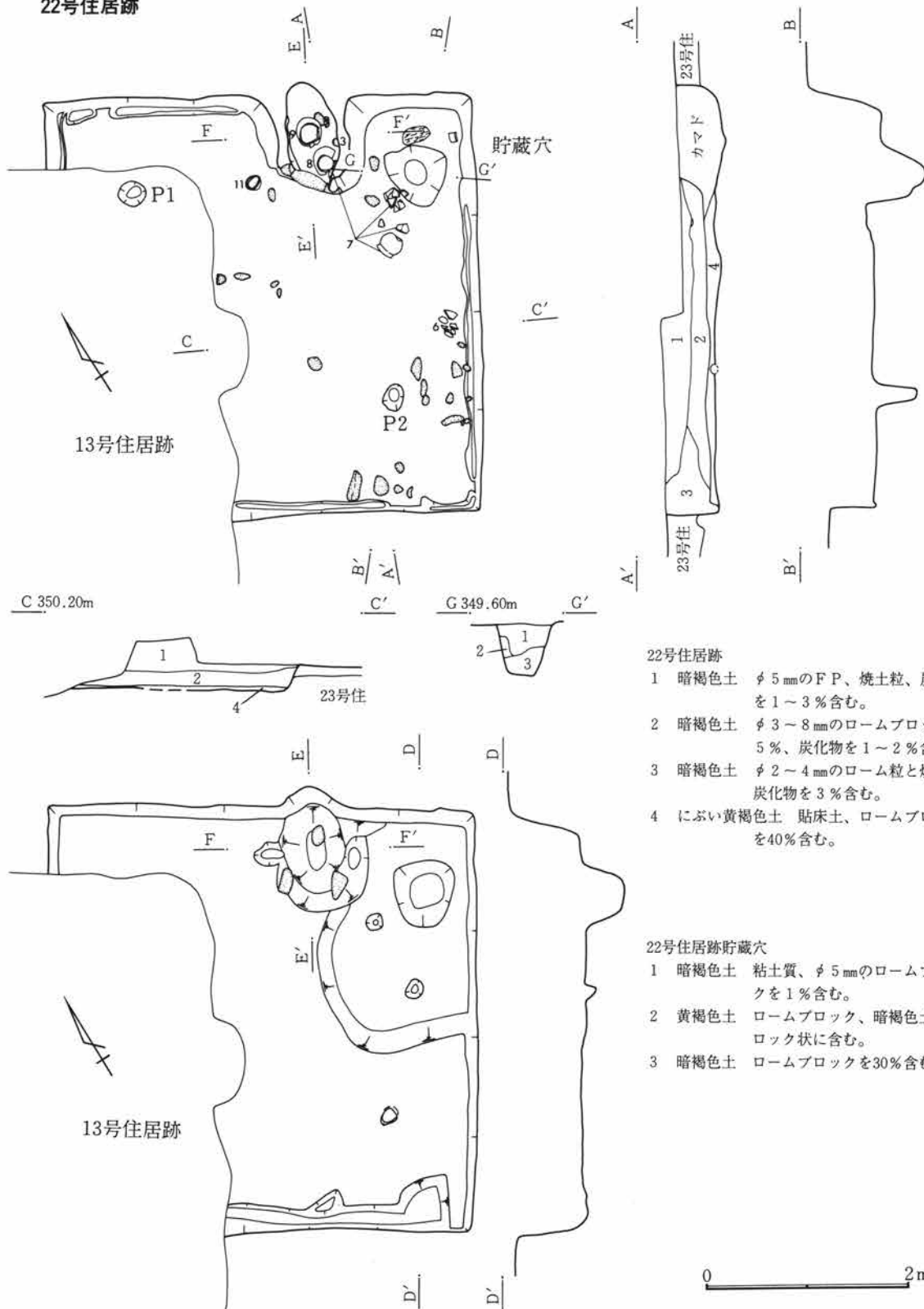
第129図 31号住居跡使用面・掘り方・炉



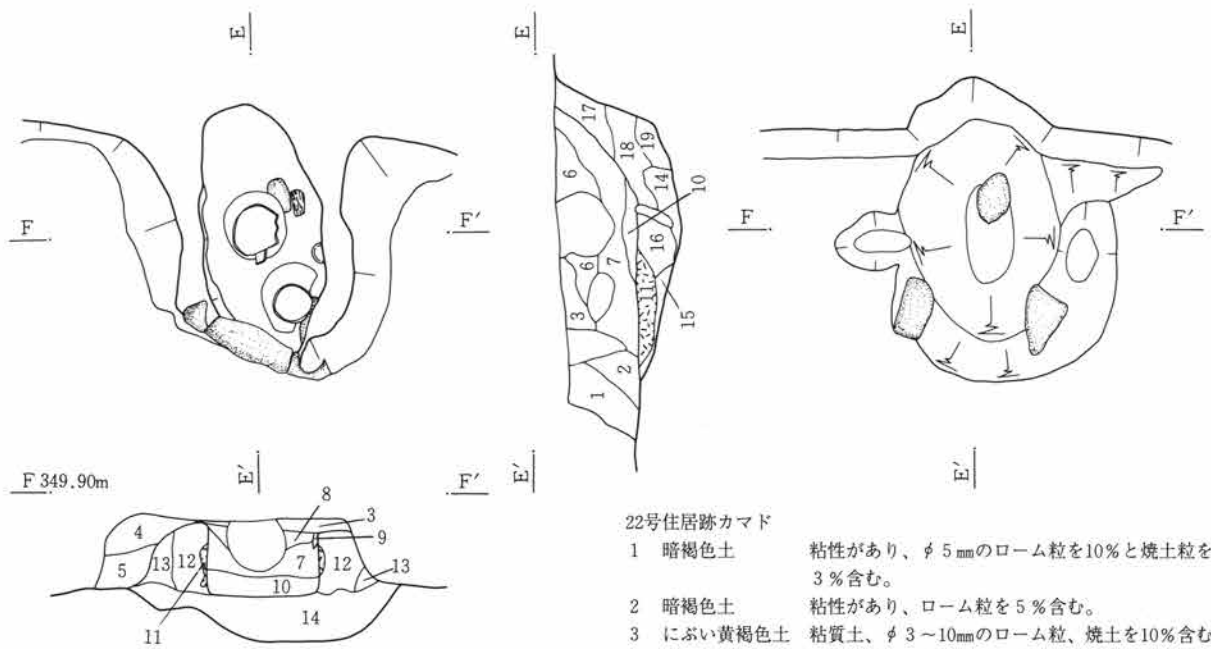
第130図 31号住居跡出土遺物

(2) 古墳時代

22号住居跡



第131図 22号住居跡使用面・掘り方・貯蔵穴



第132図 22号住居跡カマド

位置 CR～CS-89～91グリッド

重複 13号住居跡（平安時代）当住居跡が前出

23号住居跡（弥生時代）当住居跡が後出

形態 正方形 方位 N-57°-E

規模 4.21×4.06m 面積 推定16.92m<sup>2</sup>

壁 ほぼ垂直で壁高は43～63cmである。

竈 北壁の中央より東側、南東角より1.64mに位置する。規模は1.20×1.07m、燃焼部幅は0.48m、煙道は屋外の確認面より上位にのびるのか検出できなかった。袖幅は左が31cm、右が42cmである。構築にあたっては焚口に磔を立ててその上に長い磔を渡して焚口の天井部を補強し、袖は黄褐色粘土で作られている。また、竈には7・9の土師器甕が掛けられたまま廃棄されている。

内部施設 柱穴は2本検出され、住居の北西角と南東角を結ぶ対角線上に位置し、P1は径28×24cm、深度30cm、P2は径26×20cm、深度45cmで、柱間距離は3.24mである。貯蔵穴は北東隅に位置し、形態は角の丸い三角形状を呈し、規模は径64×54cm、深度56cmである。周溝は北壁の竈東側と東壁の貯蔵穴部分以外の壁直下で検出され、幅5～11cm、深度3cmである。

22号住居跡カマド

- |            |                                 |
|------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色土     | 粘性があり、φ5mmのローム粒を10%と焼土粒を3%含む。   |
| 2 暗褐色土     | 粘性があり、ローム粒を5%含む。                |
| 3 にぶい黄褐色土  | 粘質土、φ3～10mmのローム粒、焼土を10%含む。      |
| 4 にぶい黄褐色土  | 粘性あり、φ5mmのローム粒、焼土を10%含む。        |
| 5 にぶい黄褐色土  | 4に類似、4より淡い色調を呈す。                |
| 6 にぶい黄褐色土  | 粘土質、ロームブロックと白色粘土ブロックを30%と焼土を含む。 |
| 7 暗褐色土     | 焼土を30～40%含む。                    |
| 8 にぶい黄褐色土  | 6に類似。                           |
| 9 暗褐色土     | ロームブロックを10～20%含む。               |
| 10 黒色土     | 灰、炭化物。                          |
| 11 赤褐色土    | 焼土。                             |
| 12 黄褐色粘土   | 焼土と白色粘土ブロックを10%含む。              |
| 13 暗褐色土    | 炭化物、焼土粒とローム粒を含む。                |
| 14 にぶい黄褐色土 | ローム粒を30%含む。                     |
| 15 黄褐色土    | ローム土。                           |
| 16 暗褐色土    | ローム粒、焼土粒を2～3%含む。                |
| 17 暗褐色土    | 粘質土、焼土、ローム粒10%含む。               |
| 18 黄褐色土    | ロームブロック50%と暗褐色土の混土。             |
| 19 黄褐色土    | ロームブロック80%と暗褐色土の混土。             |

0 1m

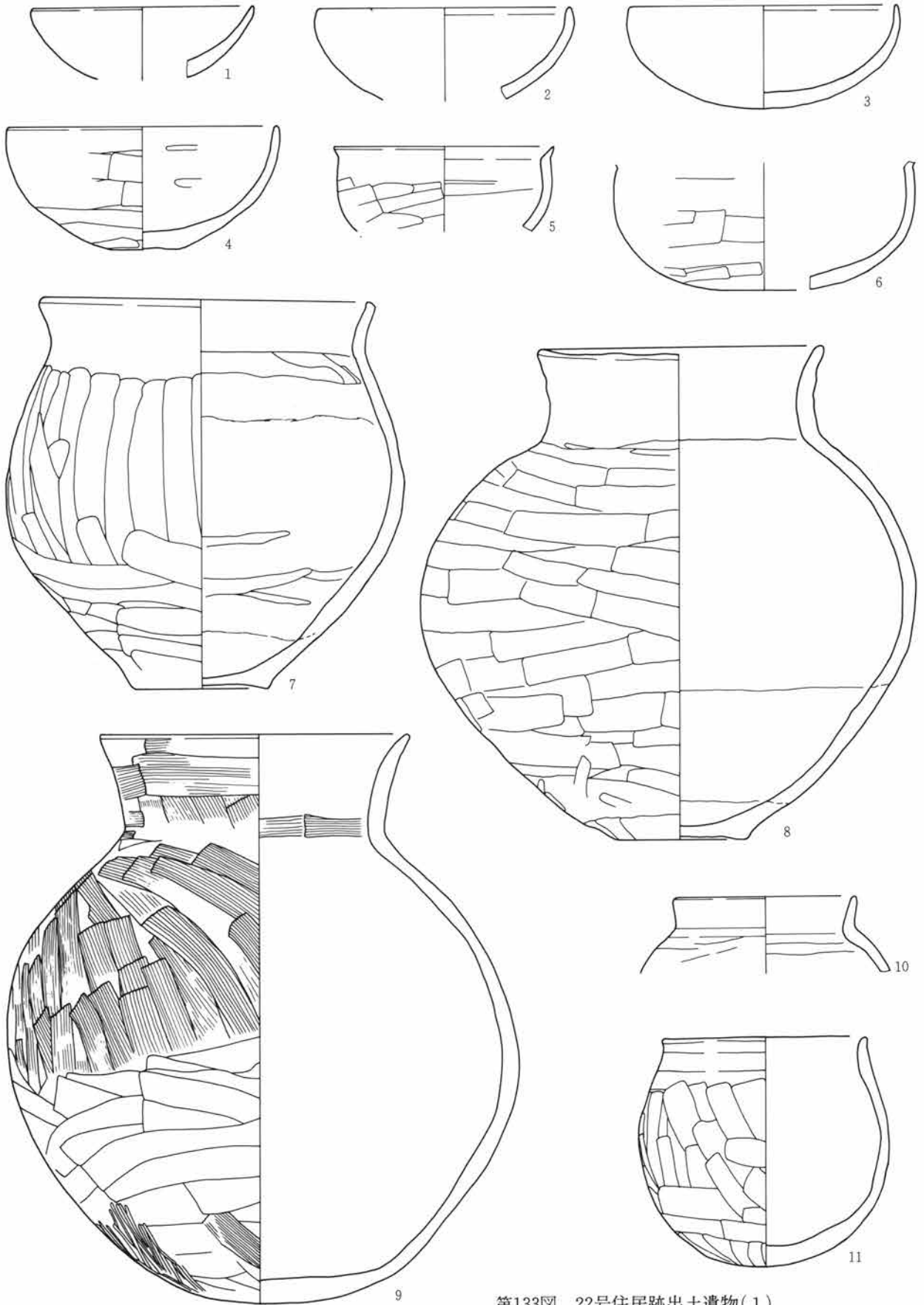
床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で硬化面が見られる。

掘り方 床面から4～12cmほど掘りこまれており、床下土坑等の施設は見られないが、貯蔵穴周辺は周りより5～7cmほど深く掘りこまれている。

遺物出土状態 土器の出土量は13号住居跡に3分の1ほど壊されているためかあまり多くない。出土位置の確実な遺物としては床面より出土した5の土師器碗、6の鉢、貯蔵穴より出土した10・11の土師器小型甕、竈より出土した1～4の土師器杯、7～9の土師器甕が見られる。



1. 竖穴住居跡



第133图 22号住居跡出土遺物(1)



第134図 22号住居跡出土遺物(2)

32号住居跡

位置 BH～BI-63～64グリッド

重複 単独

形態 隅円方形を呈するが、北壁が3.32mに対して南壁は3.00mと短い。

方位 N-4°-E

規模 3.34×3.30m 面積 9.28m<sup>2</sup>

壁 やや外傾し109～127°の傾斜をもち、壁高は28～34cmである。

炉 住居のほぼ中央に位置し、形態は楕円形を呈し、規模は0.9×0.73mで浅い掘り込みがみられる。

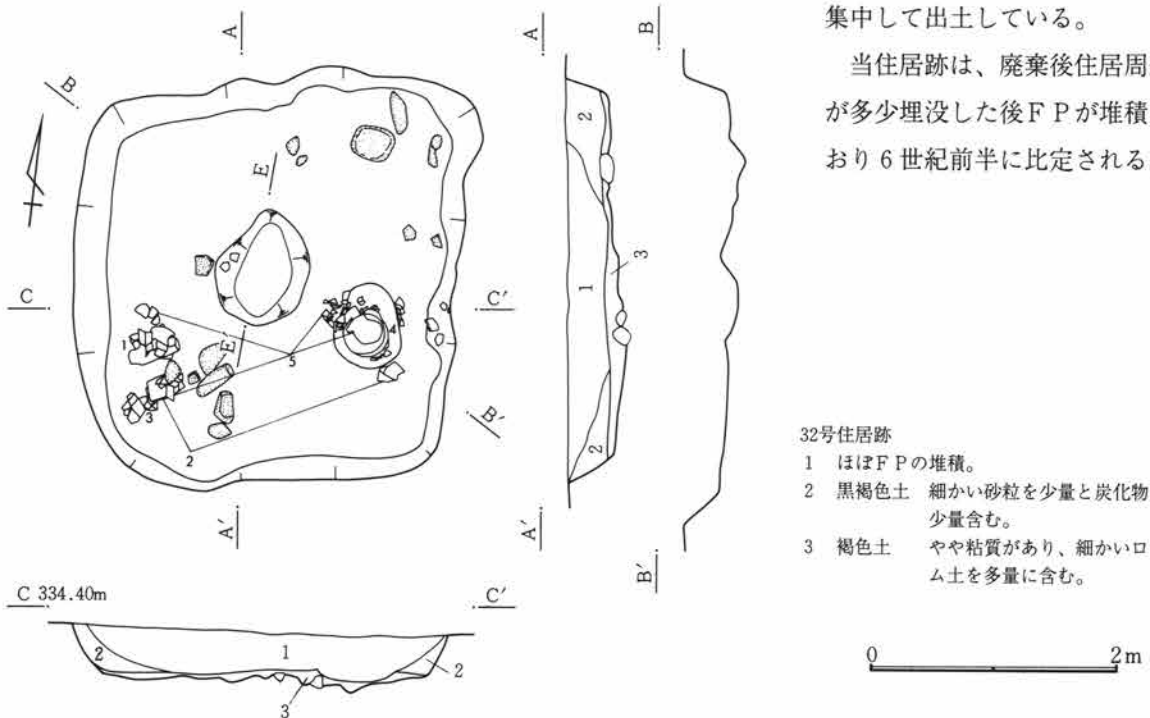
内部施設 柱穴、貯蔵穴、周溝等の施設は検出されなかったが、炉の東側より4の土師器甕を浅い土坑状に掘り窪めて設置している。

床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で中央に硬化面が見られる。

掘り方 床面より3～13cmほど掘りこまれており、床下土坑等の施設は見られないが、炉の東側は4～10cmほどの高さで段をもつ。

遺物出土状態 出土した土器は土師器甕だけで出土位置も炉東側に1点が住居南西部に2～5点が集中している。また、炉南側と住居北西部に径20～70cmの礫が4～5点集中して出土している。

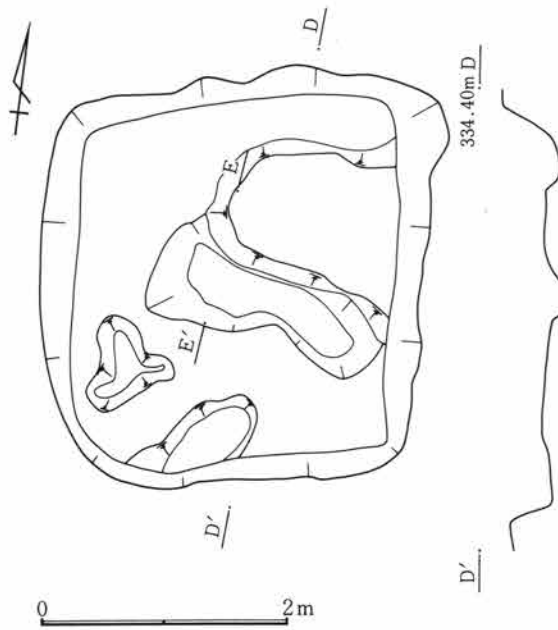
当住居跡は、廃棄後住居周辺部が多少埋没した後F Pが堆積しており6世紀前半に比定される。



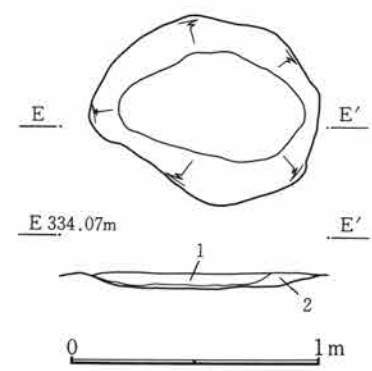
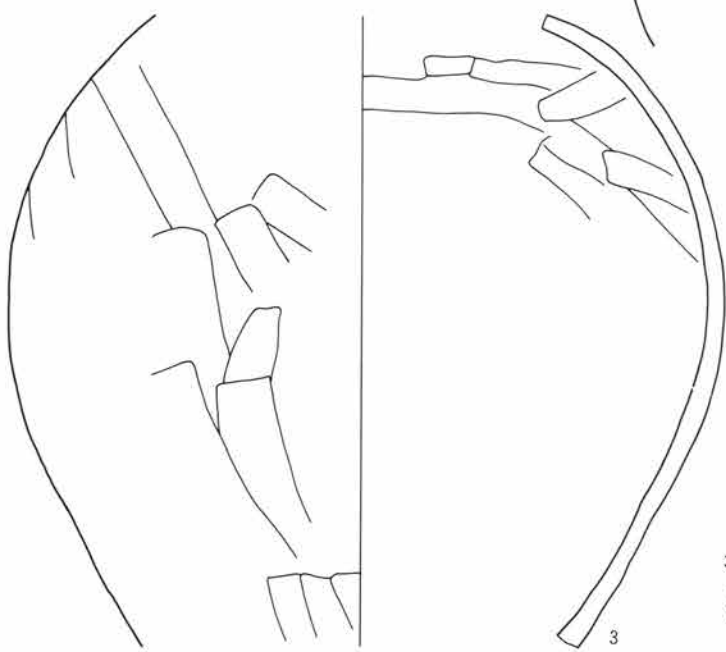
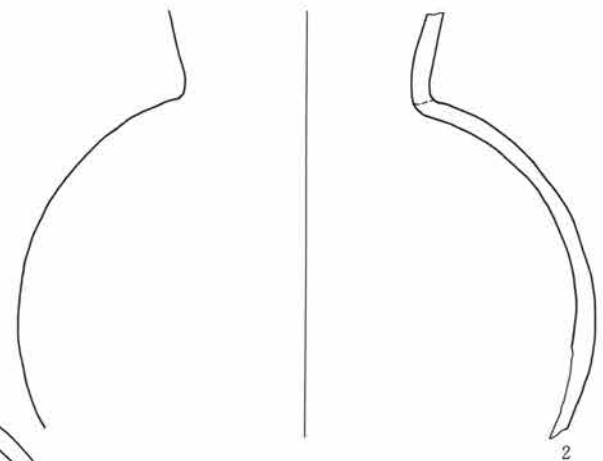
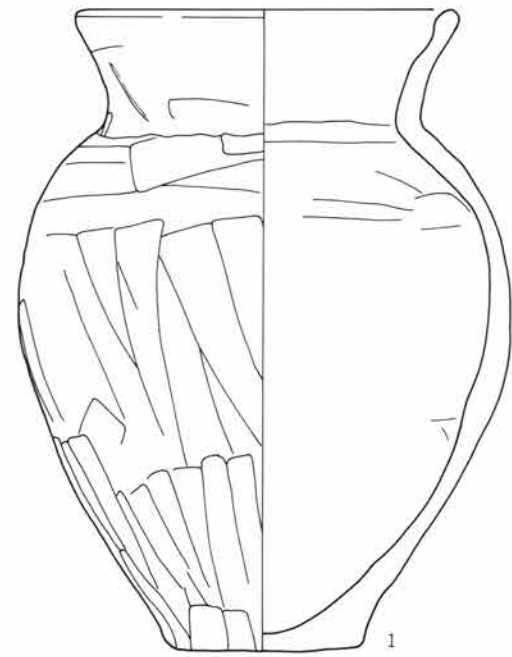
32号住居跡

- 1 ほぼF Pの堆積。
- 2 黒褐色土 細かい砂粒を少量と炭化物を少量含む。
- 3 褐色土 やや粘質があり、細かいローム土を多量に含む。

第135図 32号住居跡使用面

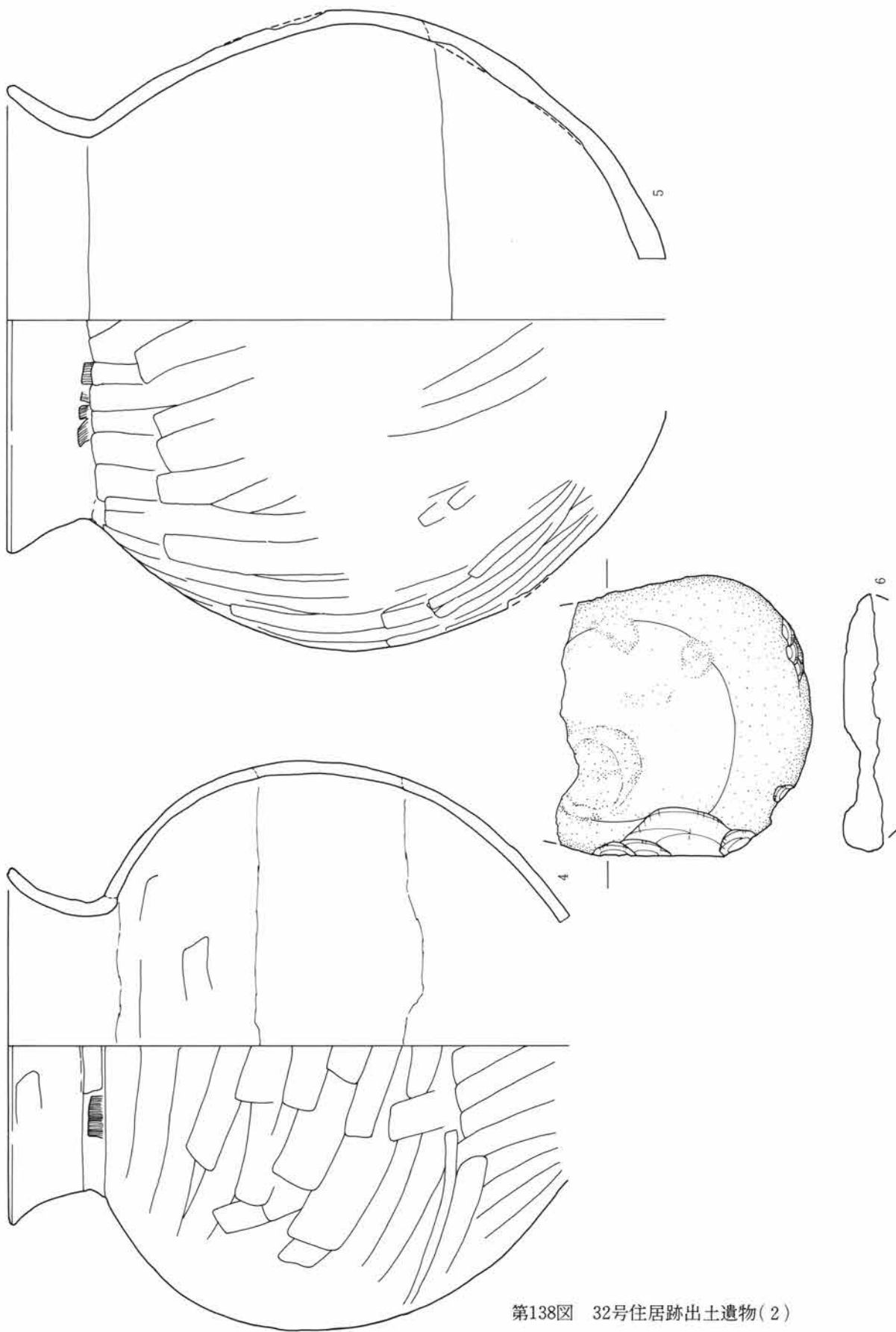


第136図 32号住居跡掘り方



32号住居跡炉  
 1 褐色土 焼土を30%、炭化物を2~3%含む。  
 2 灰褐色土 微量の炭化物を含む。

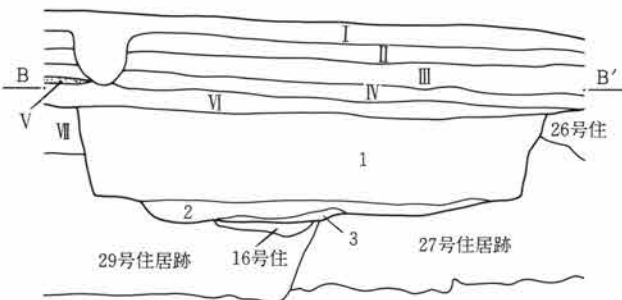
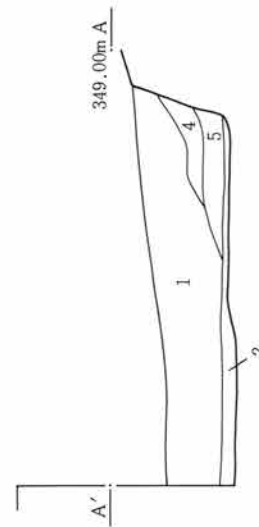
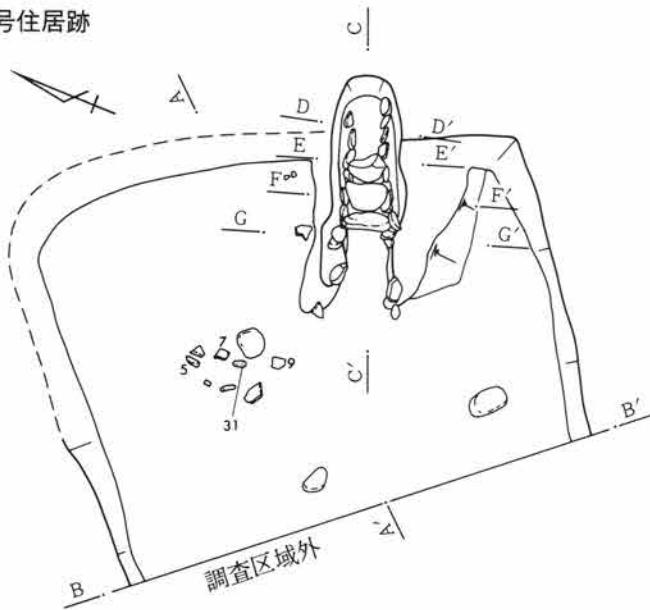
第137図 32号住居跡炉・出土遺物(1)



第138図 32号住居跡出土遺物(2)

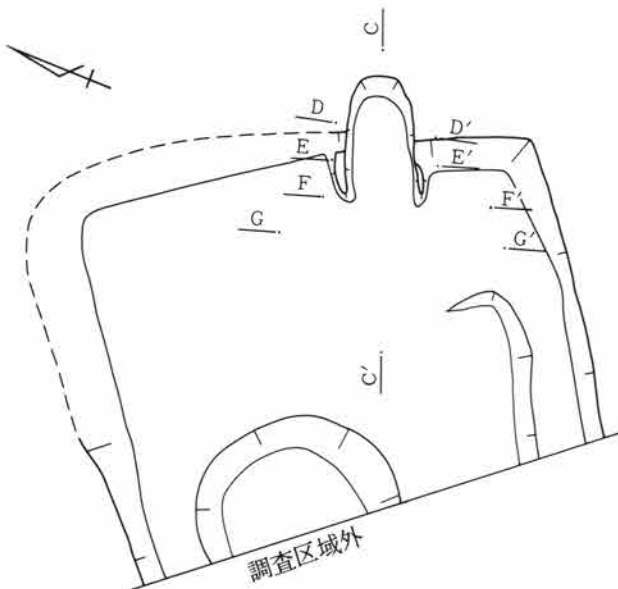
(3) 平安時代

3号住居跡



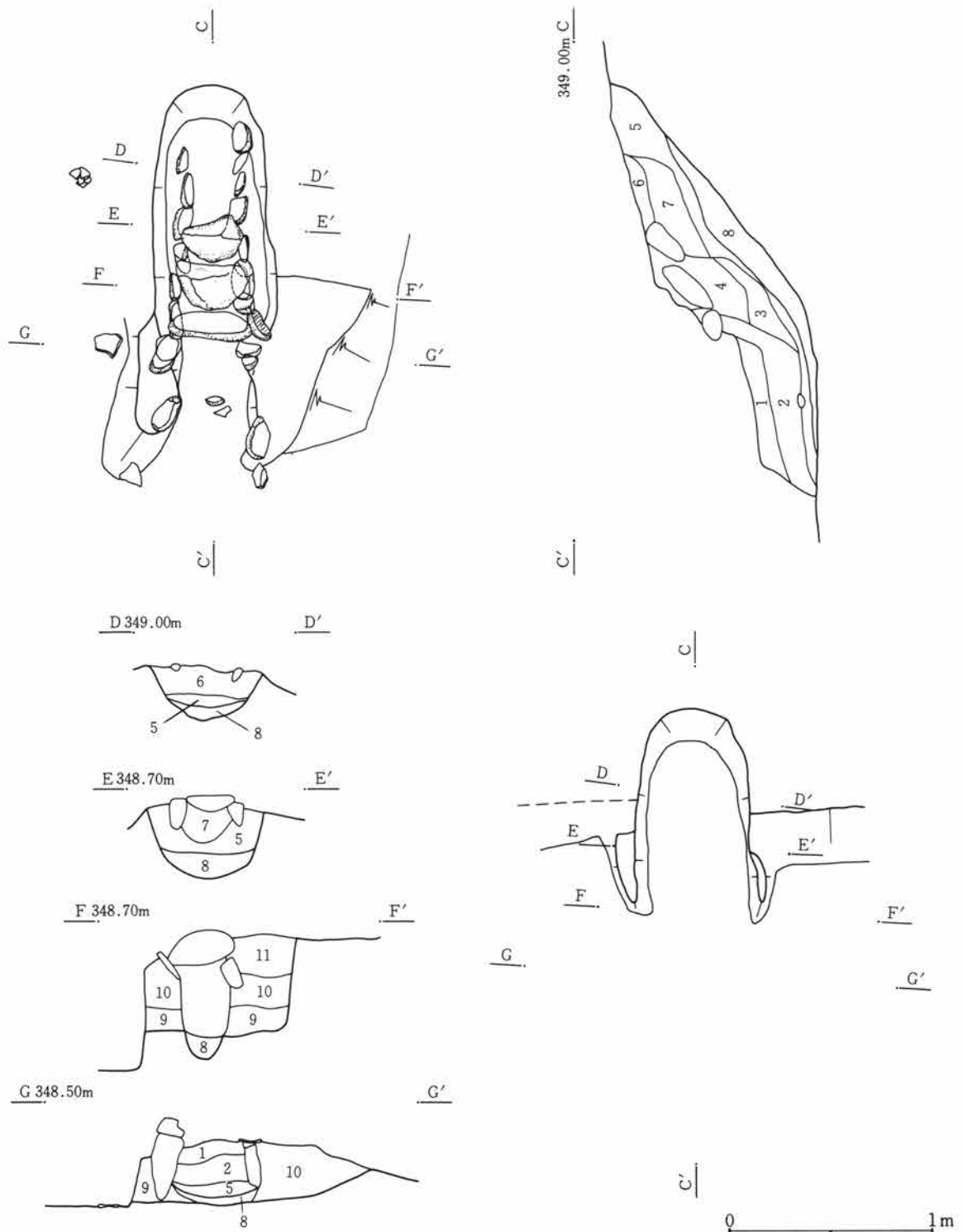
3号住居跡

- I
- II 暗褐色土 耕作土、 $\phi$  5~10mmのFP 2~3%とAs-Bを5%含む。西側ではFPを5%と含有量が多い。
- III 黒褐色土  $\phi$  5mmのFPを5%と、As-Bを20%含む。
- IV 黒褐色土 As-Bの二次堆積。
- V 灰色土 As-Bの純堆積。
- VI 黒褐色土  $\phi$  10~20mmのFPを10~20%含む、As-Bを10%含む。
- VII 黒褐色土  $\phi$  10~50mmのFPを20~40%含む。
- 1 暗褐色土  $\phi$  5~30mmのFPを30%含む。
- 2 暗褐色土 粘質土、 $\phi$  5~30mmのFPを10%含む。
- 3 暗褐色土 粘質土、 $\phi$  5mmのFPを2~3%含む。
- 4 黒褐色土  $\phi$  5~20mmのFPを10%と炭化物を含む。
- 5 黒褐色土 粘質土、 $\phi$  5~30mmのFP 5~10%とロームブロック3%含む。



0 2m

第139図 3号住居跡使用面・掘り方



3号住居跡カマド

- |   |   |
|---|---|
| <p>1 白色粘土</p> <p>2 暗褐色土 焼土粒、FP細粒を含む。</p> <p>3 暗褐色土 焼土を20%含む。</p> <p>4 暗褐色土 弱い粘性をもち、FPを3%含む。</p> <p>5 暗褐色土 4に比べ粘質が強く、焼土粒を30%含む。</p> <p>6 黒褐色土 FP、焼土を各3%含む。土質は粗くばさつく。</p> | <p>7 黒褐色土 FP細粒を3%と焼土、炭化物を各5%含む。</p> <p>8 黒褐色土 やや粘質をもつ。FP、炭化物、焼土を各5%含む。</p> <p>9 暗褐色土 粘質土、焼土、FPを各10%含む。</p> <p>10 黒褐色土 焼土粒、ローム粒を3%含み、FP粗粒を1%含む。</p> <p>11 黒褐色土 FPの量が4に比べて僅かに少なく、焼土が若干多くなる。</p> |
|---|---|

第140図 3号住居跡カマド

位置 CO～CP-90～91グリッド 住居跡の4分の1は調査区外に位置する。

重複 16号住居跡(平安時代)、27～29号住居跡(弥生時代)、3号土坑(時期不祥) 当住居跡が後出

形態 やや歪んだ長方形 方位 N-30°-E

規模 4.10×(3.30+α) m

面積 調査区内 12.21m<sup>2</sup>

壁 やや外傾し、101～110°の傾斜をもち、壁高は66～70cmである。

竈 東壁の南よりに位置し、南東角より1.20mである。規模は0.91×0.70m、燃烧部幅0.30m、煙道全長0.60m、袖は割合と残存状態が良好で左袖幅が0.18m、右袖幅が0.37mである。構築にあたっては焚口と袖部の中程から煙道にかけて径10～20cmの偏平な円磔を立てて並べその上に長径20cm大の細長い円磔をのせて天井部の補強を行い、それを白色粘土

で覆っている。

内部施設 調査区内では、柱穴・貯蔵穴・周溝等の施設は検出されなかった。

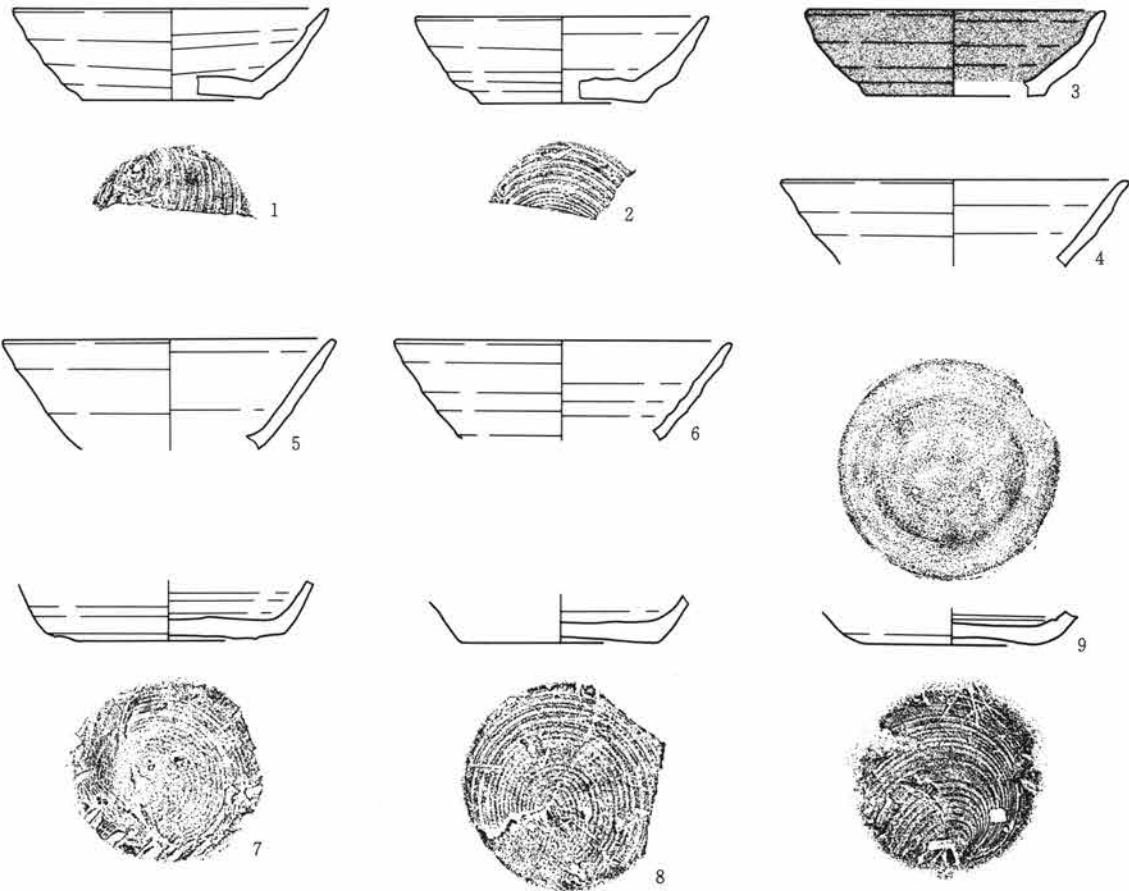
床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で中央に硬化面が見られる。

掘り方 北壁直下は幅30～40cmで地山をそのまま床面にしており掘り方は見られない。他の部分では床面より4～16cmほど掘り込まれているが、床下土坑等の施設は見られない。

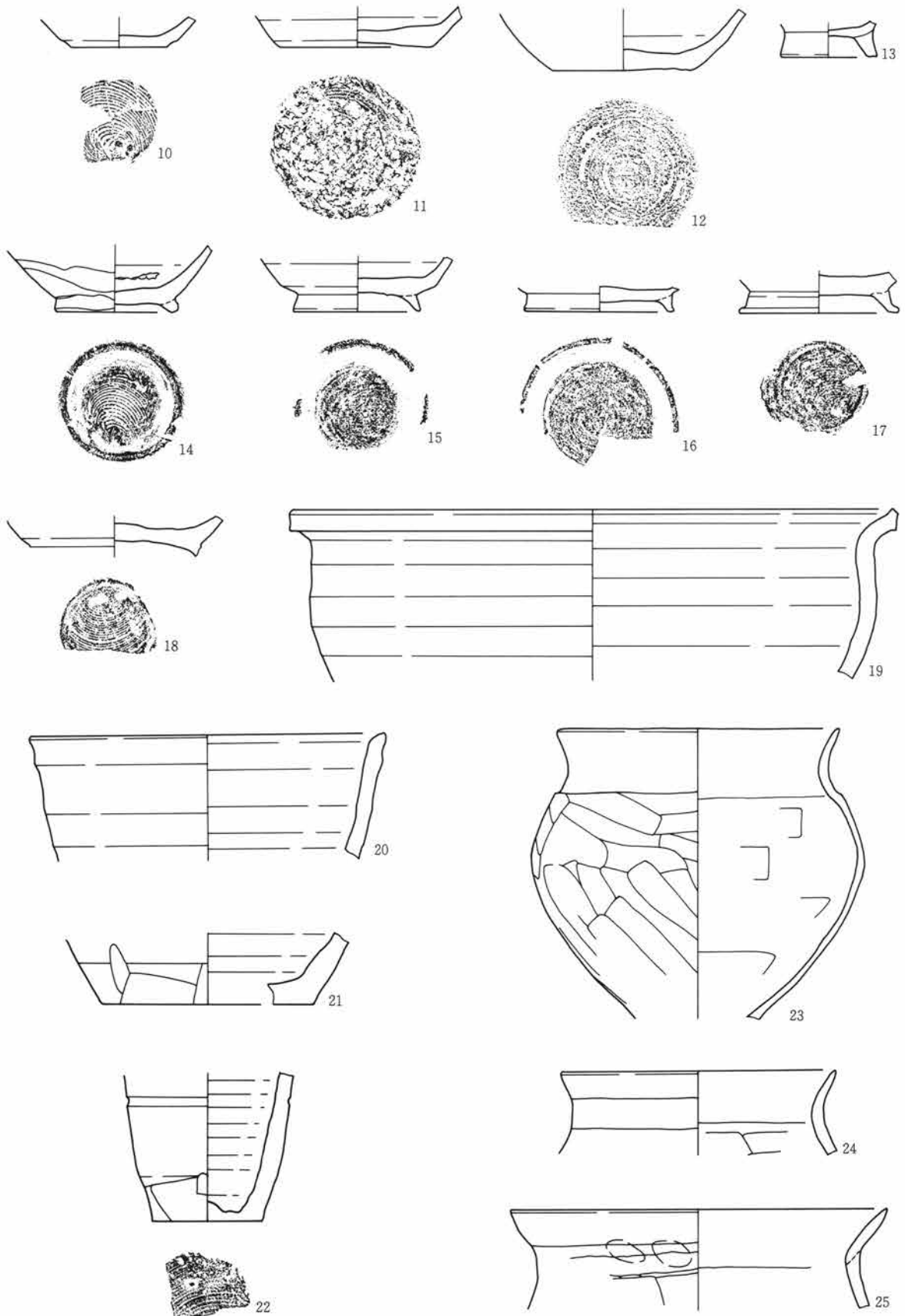
埋没状況 東壁ぎわが若干埋まった後、FP混入の黒色土によって短期間に埋没している。

遺物出土状態 当住居跡からは須恵器杯・碗、土師器甕等の土器が割合と多く出土しているが出土位置は遺構確認面および住居上位からである。

出土遺物等から当住居跡の年代は、9世紀前半に比定される。

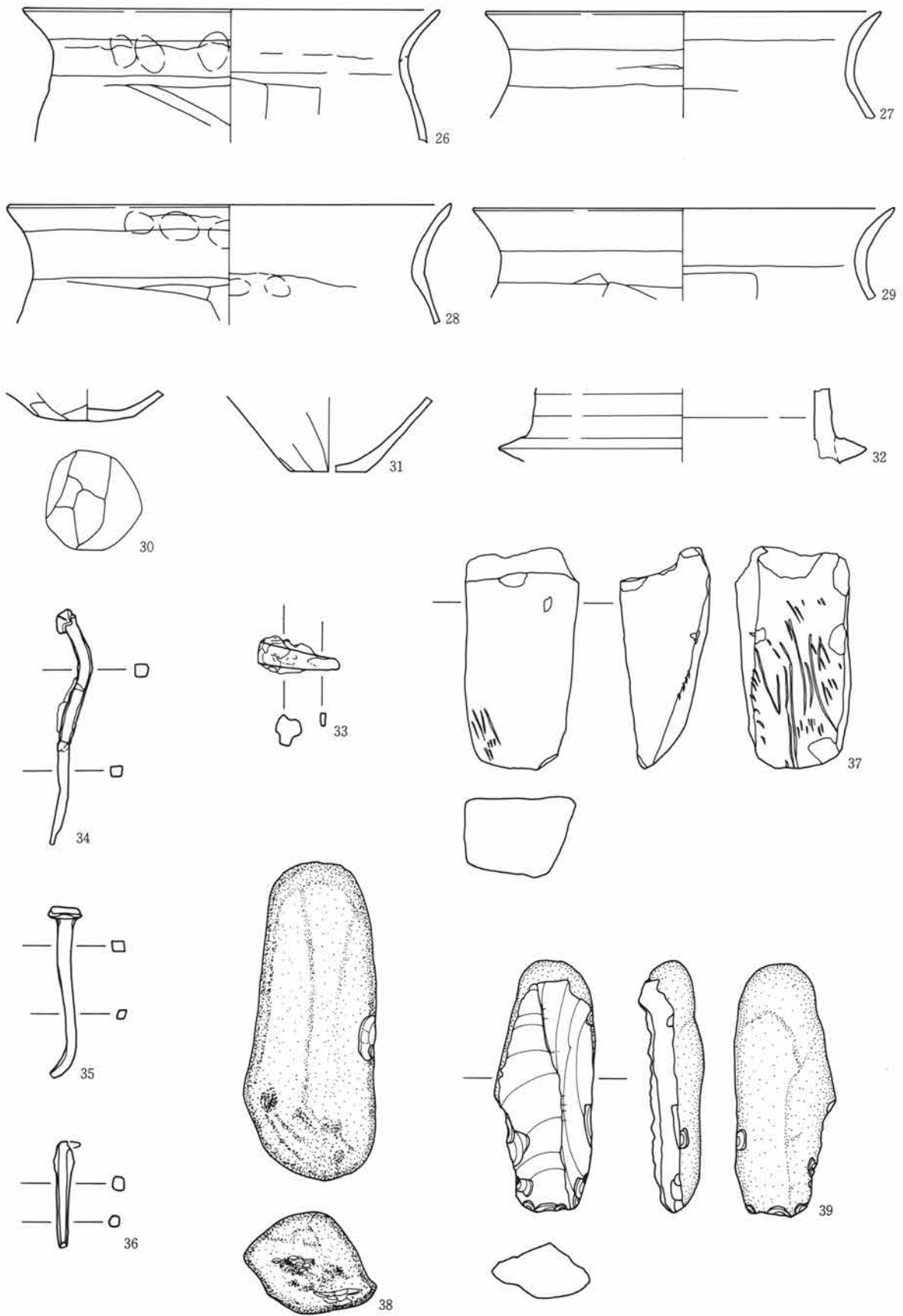


第141図 3号住居跡出土遺物(1)



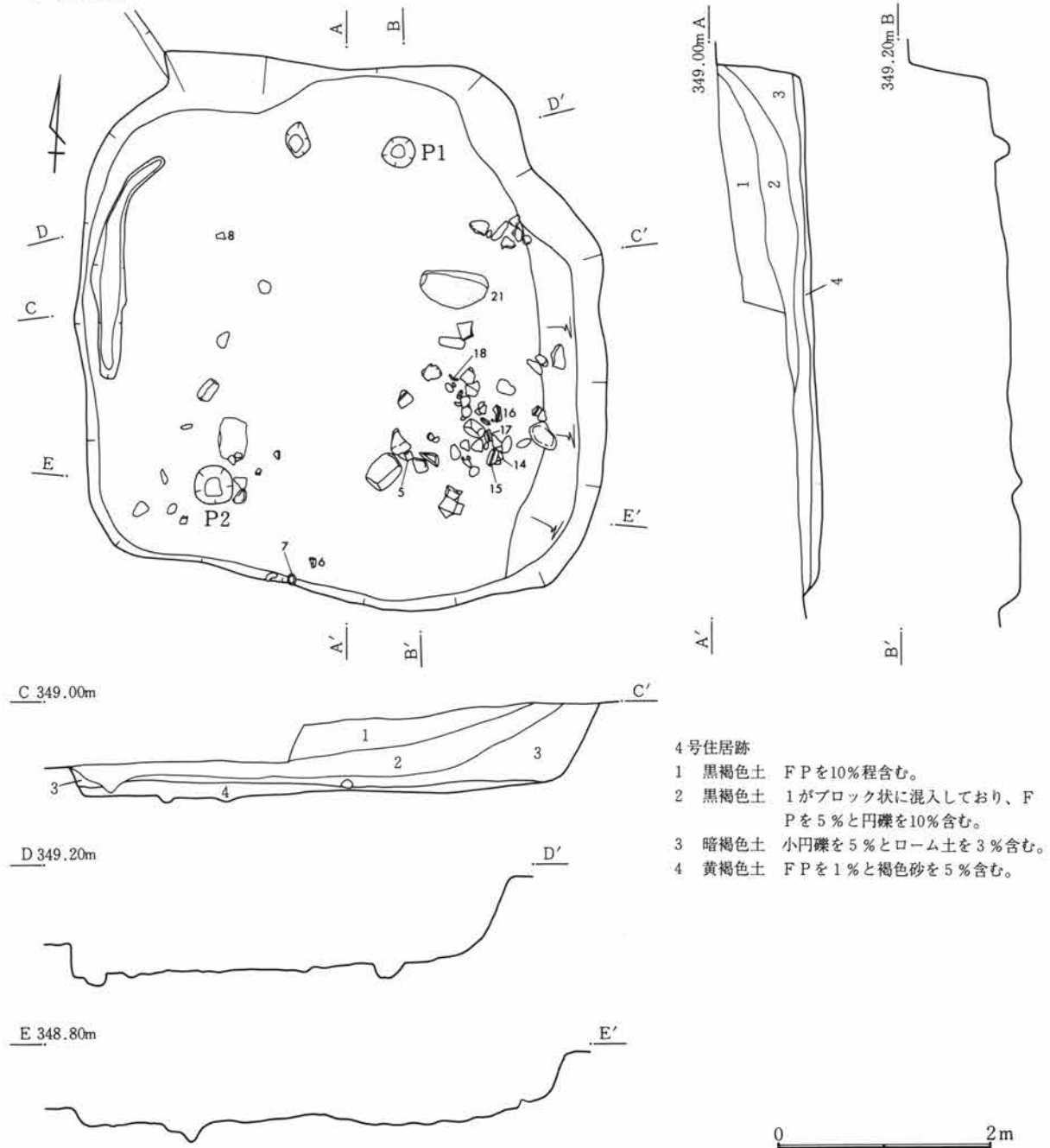
第142図 3号住居跡出土遺物(2)





第143图 3号住居跡出土遺物(3)

4号住居跡



第144図 4号住居跡使用面

位置 CL~CN-86~87グリッド

重複 14号住居跡(平安時代)当住居跡が後出である。

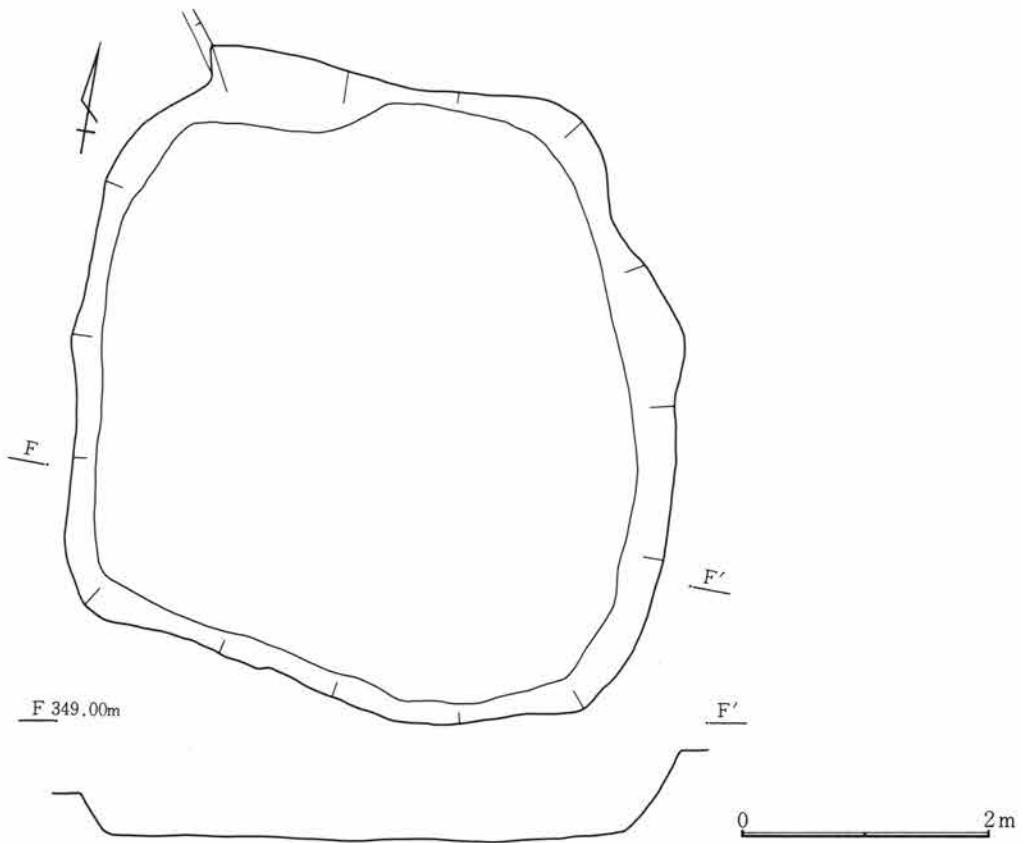
形態 北東角が欠けているが、隅円正方形に近い。

方位 N-90°-E

規模 5.01×4.90m 面積 21.54m<sup>2</sup>

壁 北・西壁はほぼ垂直であるが東壁は120°と外傾し、壁高は70cmである。南壁は確認面から床面までが10cmと浅く不明確である。

竈 構築されなかったようであるが、東南角の壁中位が焼土化し、東南角周辺に礫や土器が集中して出土している。



第145図 4号住居跡掘り方

内部施設 柱穴は北東部、南西部に各1本ずつ検出され、P1が $30 \times 29 \times 14$ cm、P2が $40 \times 38 \times 9$ cmで柱間距離は3.60mを測る。貯蔵穴は検出されなかった。周溝は西壁ぎわの北側半分で全長1.05m、幅13cm、深度8cmが検出された。

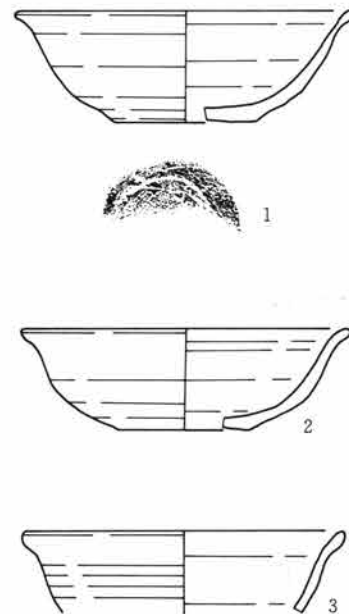
床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で中央に硬化面が見られる。

掘り方 床面からは4~20cmほど掘り込まれており、礫層まで達している。

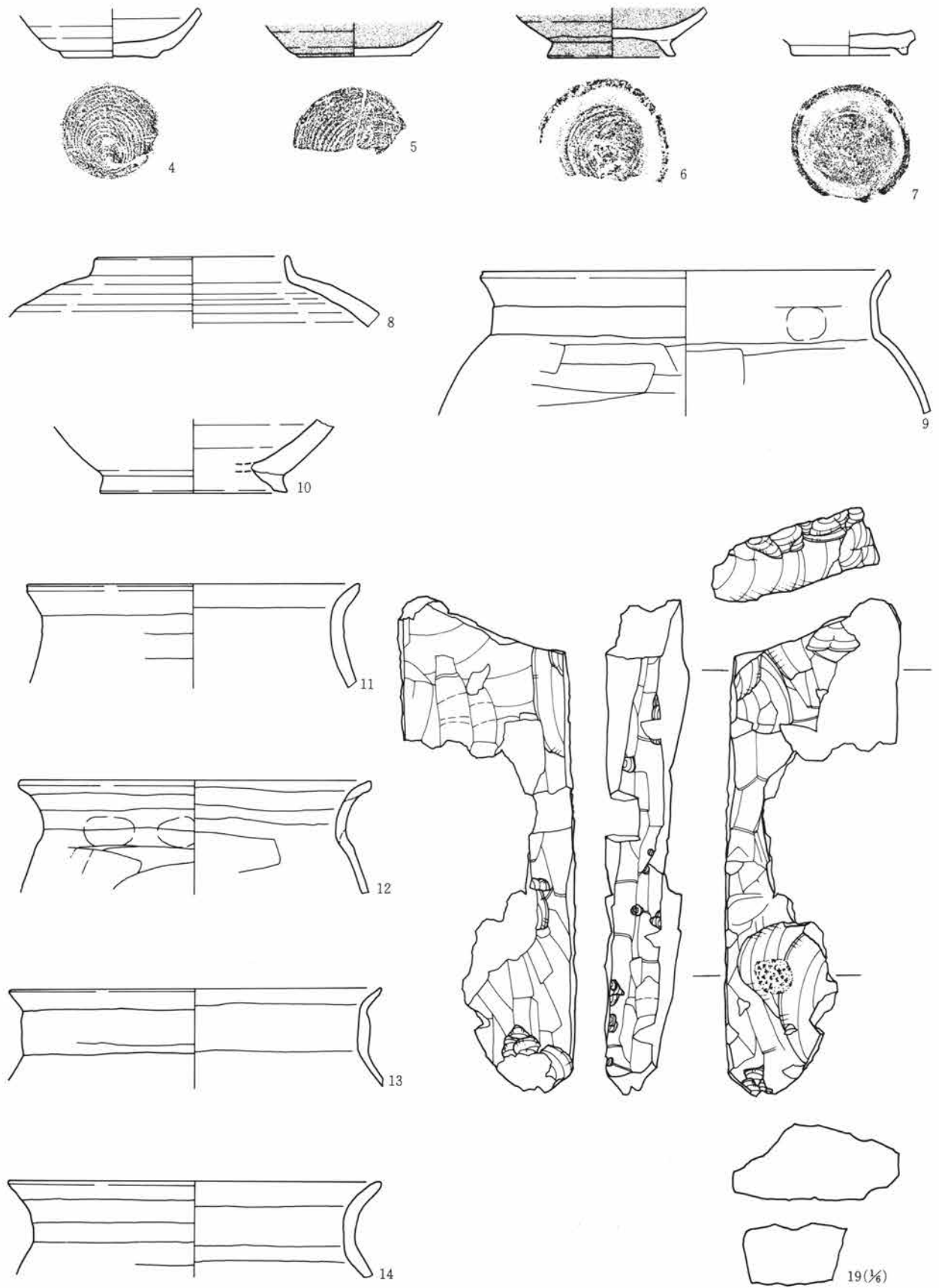
埋没状況 台地の傾斜と同じように北東側から埋没している。

遺物出土状態 須恵器杯・椀・瓶類・羽釜、土師器甕の出土が見られ、6・7の須恵器椀が床面からの出土である。また、21の礫は1カ所の面に使用痕がみられ作業台等に使用されたものと推察される。他の遺物は覆土下位からの出土である。

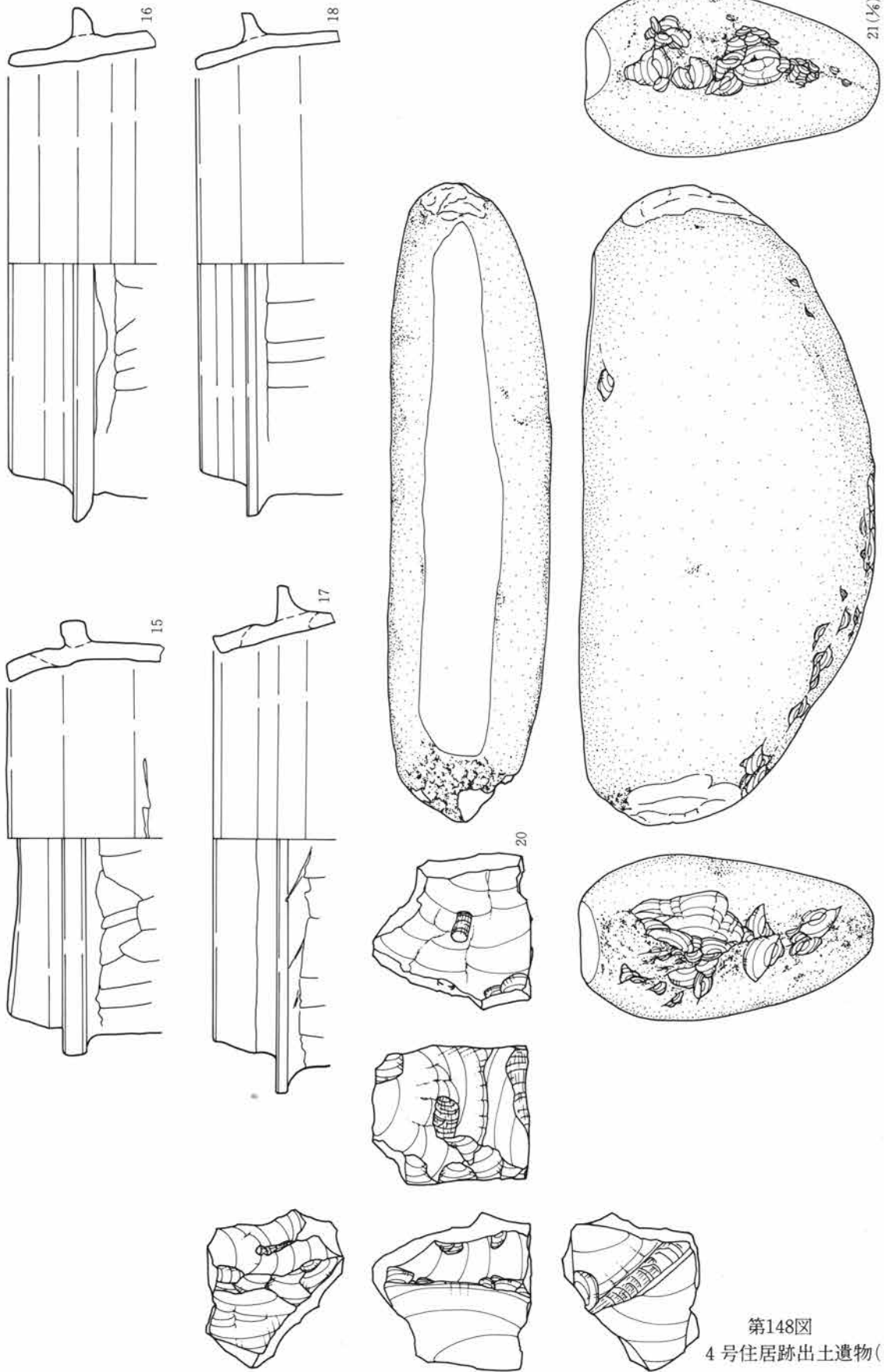
出土遺物から当住居跡の年代は、10世紀前半に比定される。



第146図 4号住居跡出土遺物(1)



第147図 4号住居跡出土遺物(2)



第148図  
4号住居跡出土遺物(3)

5号住居跡

位置 CL～CS-82～83グリッド

重複 単独

形態 東南角が崩落のため欠けているがほぼ長方形を呈す。

方位 N-115°-E

規模 3.70×2.70m 面積 9.31㎡

壁 確認面から床面まで3～10cmと浅いため壁の状態は不明確である。

竈 住居構築当初より設置されなかったようである。

内部施設 柱穴、貯蔵穴、周溝は検出されなかった。

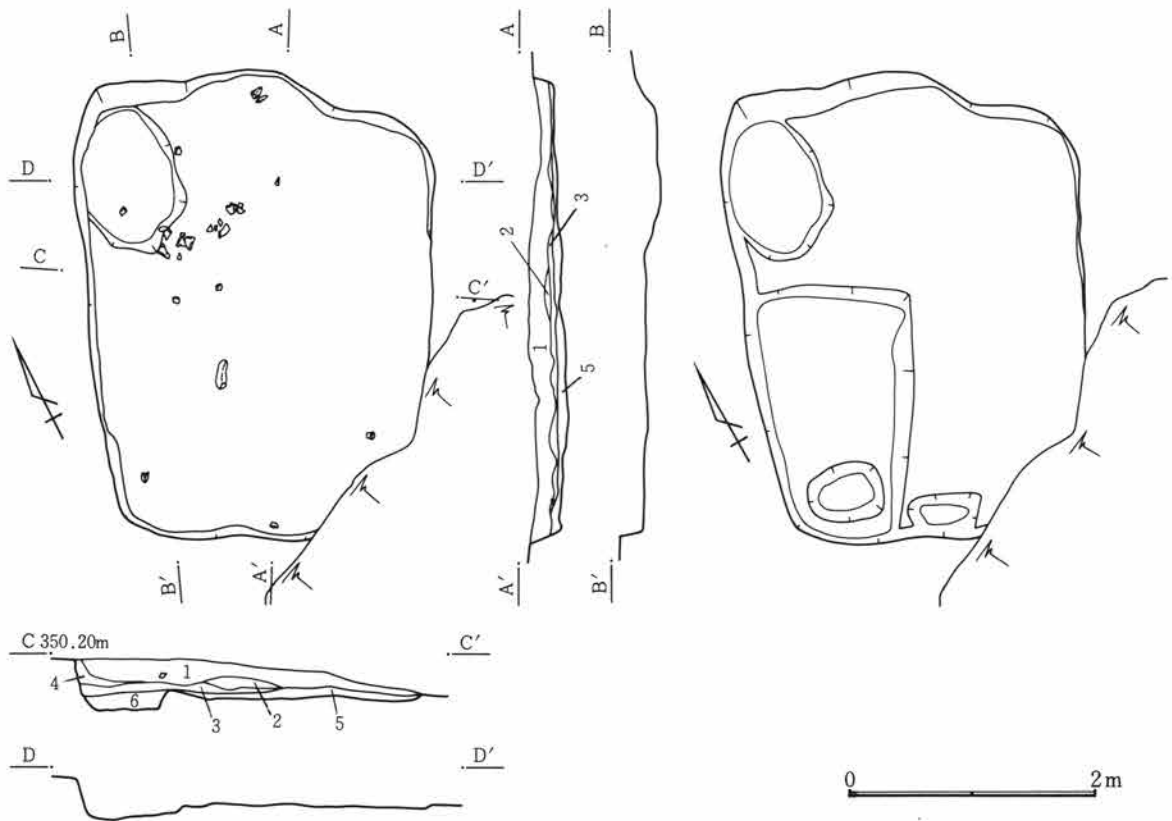
北西角で楕円形を呈し径118×82cm、深度16cmの土坑状の落ち込みが見られる。

床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で中央に硬化面が見られる。

掘り方 床面から2～14cmほど掘り込まれており、礫層まで達している。なお、住居南西部分は他の部分より10～20cmほど深く掘り込まれている。

埋没状況 表土の一部が崖下に崩落しているのか確認面から床面までが浅く埋没状況は、不鮮明である。

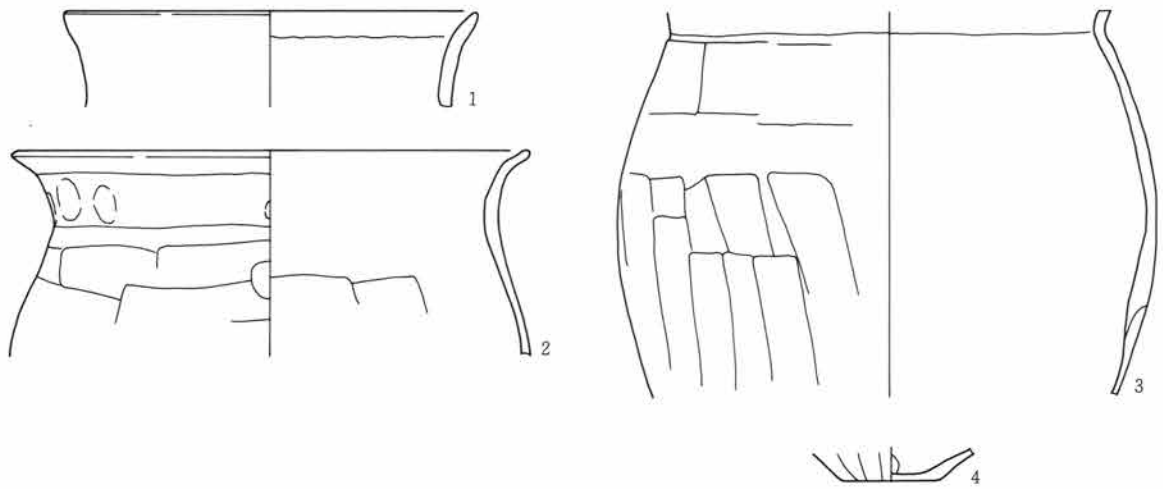
遺物出土状態 須恵器杯、土師器甕が少量出土しているだけであるが、1～3の土師器甕が床面からの出土である。



5号住居跡

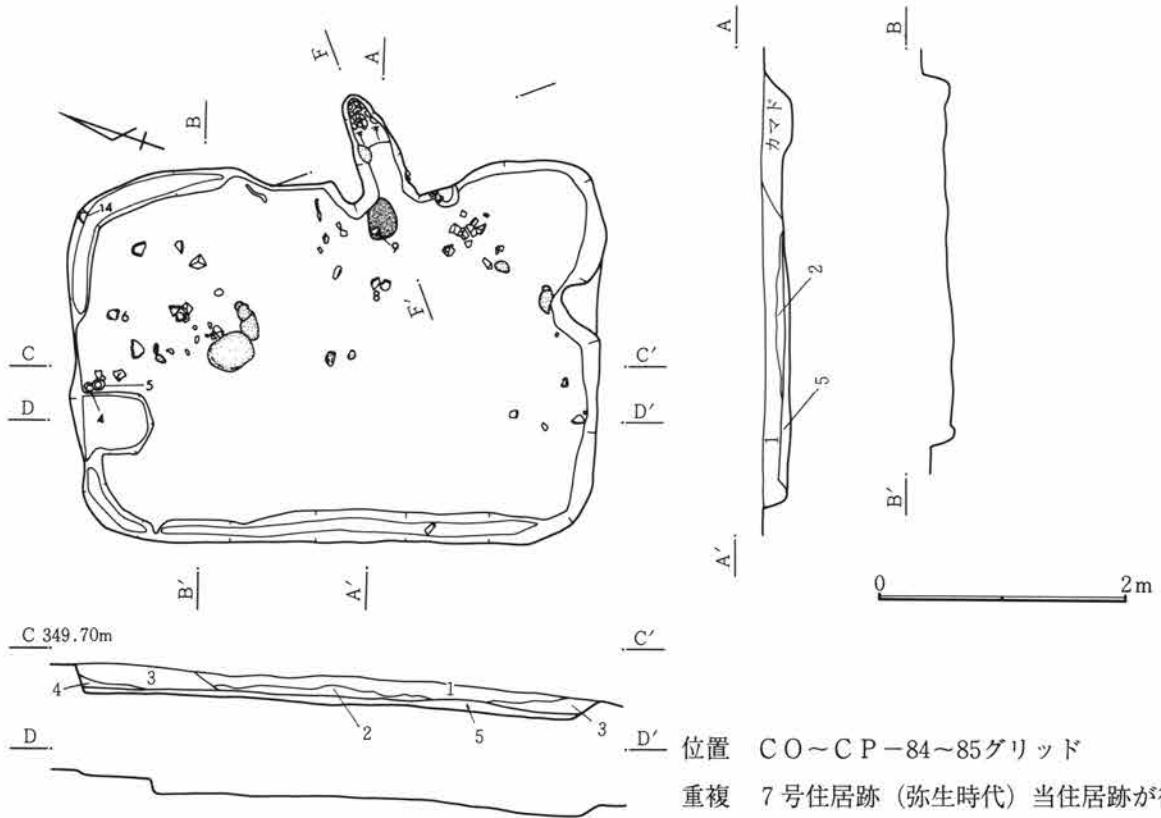
- 1 暗褐色土 φ 2～10mmのFPを30%含む。
- 2 暗褐色土 1に類似、1より粘性あり。
- 3 暗褐色土 FPを3%含む。
- 4 黄褐色土 FPを1%と褐色砂を5%含む。
- 5 褐色砂礫土 φ 3～5cmの円礫、褐色砂を各10%含む。
- 6 暗褐色土 φ 1～2cmの円礫を3%、褐色砂を5%含む。

第149図 5号住居跡使用面・掘り方



第150図 5号住居跡出土遺物

6号住居跡



6号住居跡

- 1 褐色土 φ 2~15mmのFPを5%、焼土粒を1%含む。
- 2 暗褐色土 φ 2~5mmのFPを1%含む。
- 3 褐色土 φ 5~20mmのFPを10%含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック、焼土粒、炭化物を各3%含む。
- 5 褐色砂 φ 1~2cmの円礫を10~20%含む。

第151図 6号住居跡使用面

位置 CO~CP-84~85グリッド

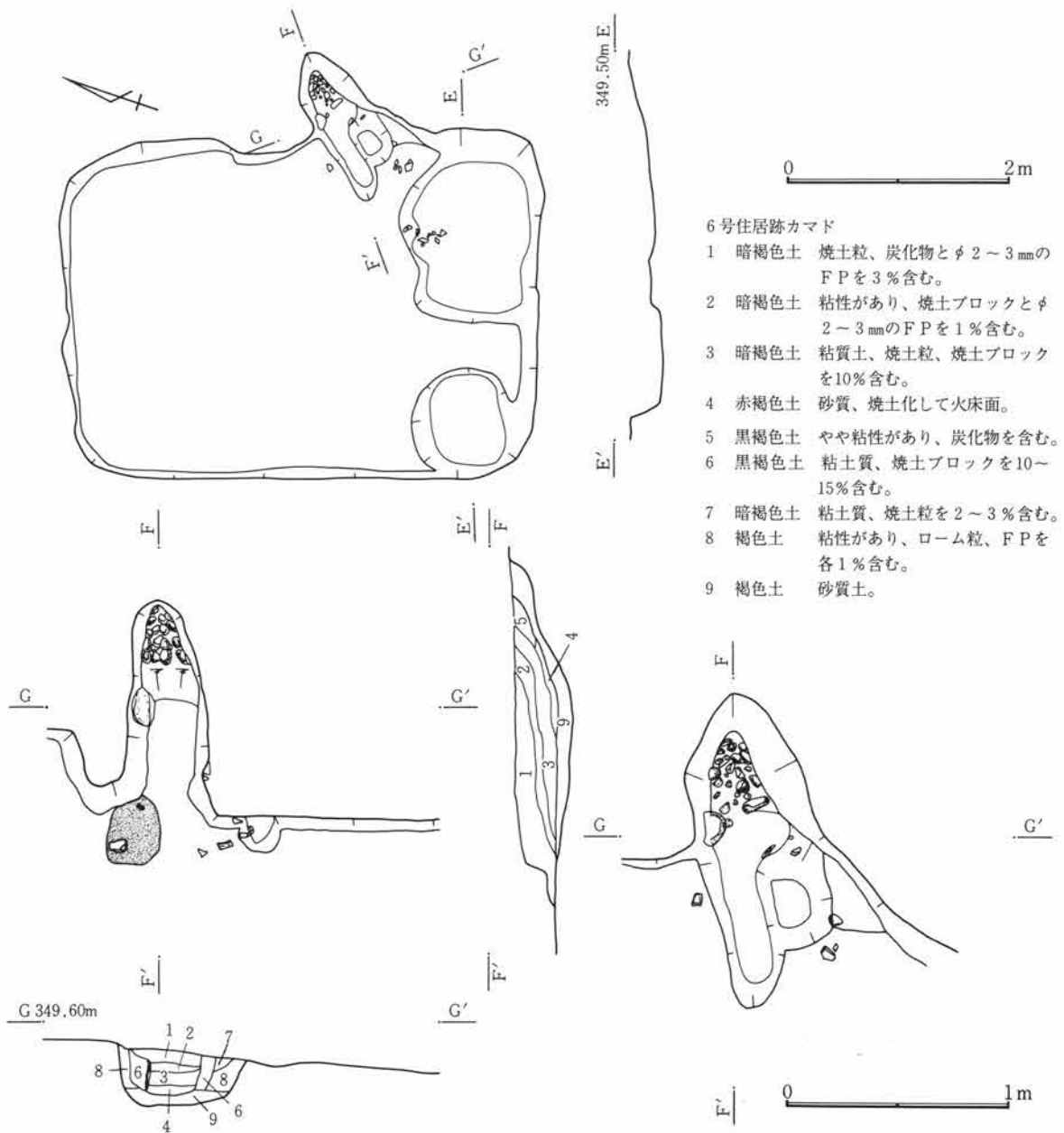
重複 7号住居跡(弥生時代)当住居跡が後出

形態 やや角が丸い長方形 方位 N-70°-E

規模 4.20×3.04m 面積 12.06㎡

壁 やや外傾し、107~112°の傾斜をもち、壁高は12~20cmである。

竈 東壁の中央よりやや南よりに位置し、残存状態はあまり良好ではない。規模は102×70cmで、燃烧部幅50cm、煙道全長45cm、袖幅は左が28cmで右側



第152図 6号住居跡掘り方・カマド

は痕跡が残存する程度である。

内部施設 柱穴、貯蔵穴は検出されなかったが、周溝は北東角部分と西壁下で検出され、規模は幅15~17cm、深度4~8cmである。その他、北壁に50×55cm、南壁に60×40cmほどの小突出が見られる。

床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で中央に硬化面が見られる。

掘り方 床面から1~7cmほど掘り込まれており、東南角と西南角に土坑状の浅い掘り込みが見られる。

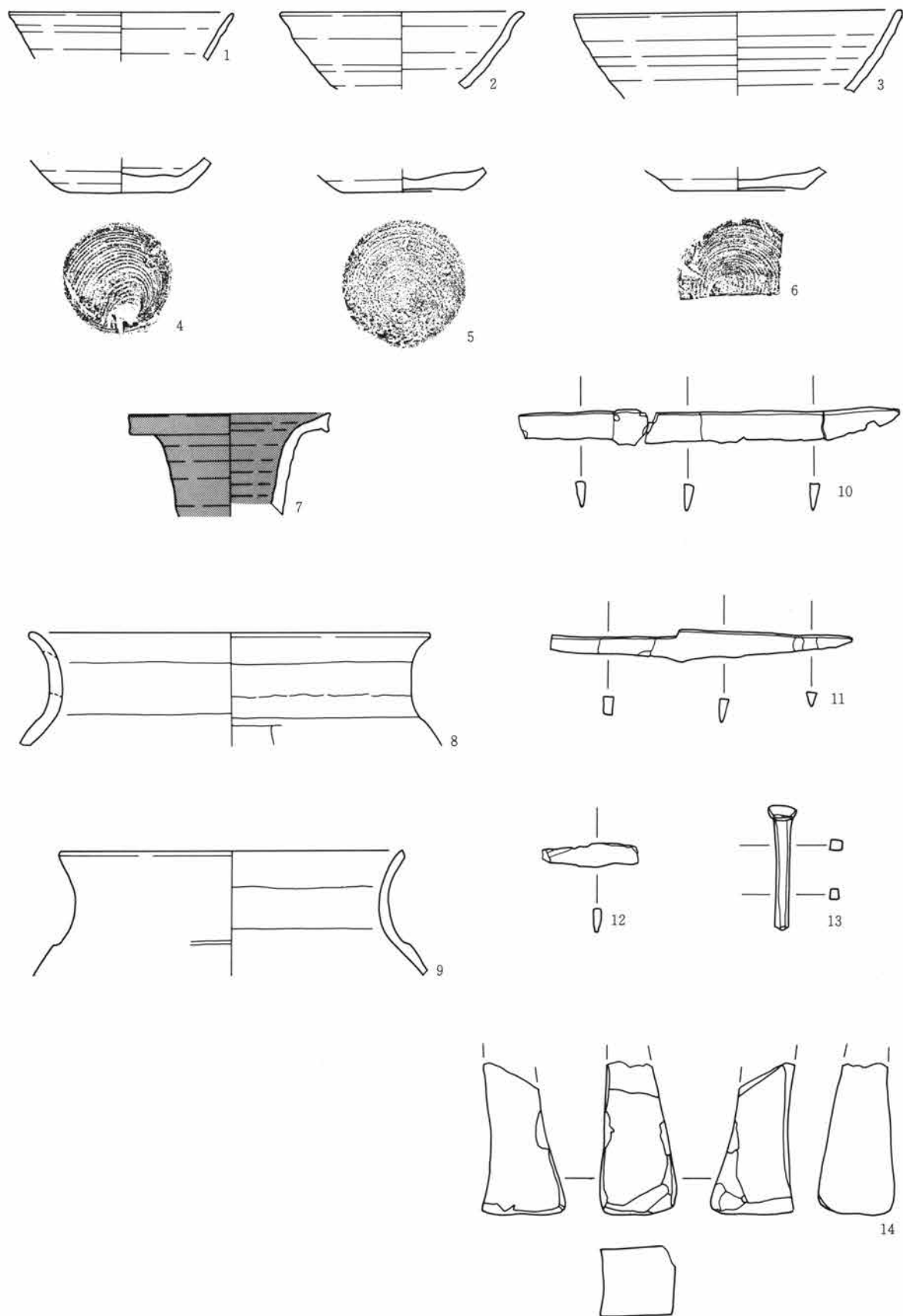
埋没状況 確認面から床面までが浅いため、埋没状況は不鮮明である。

出土遺物状態 須恵器杯、土師器甕、鉄器が少量出土してただけであるが、8の土師器甕が床面から、9の土師器甕が床下からの出土で他は床面よりやや上からの出土である。また竈左側から刀子、鎌の出土が見られる。

出土遺物から当住居跡の年代は、9世紀後半に比定される。

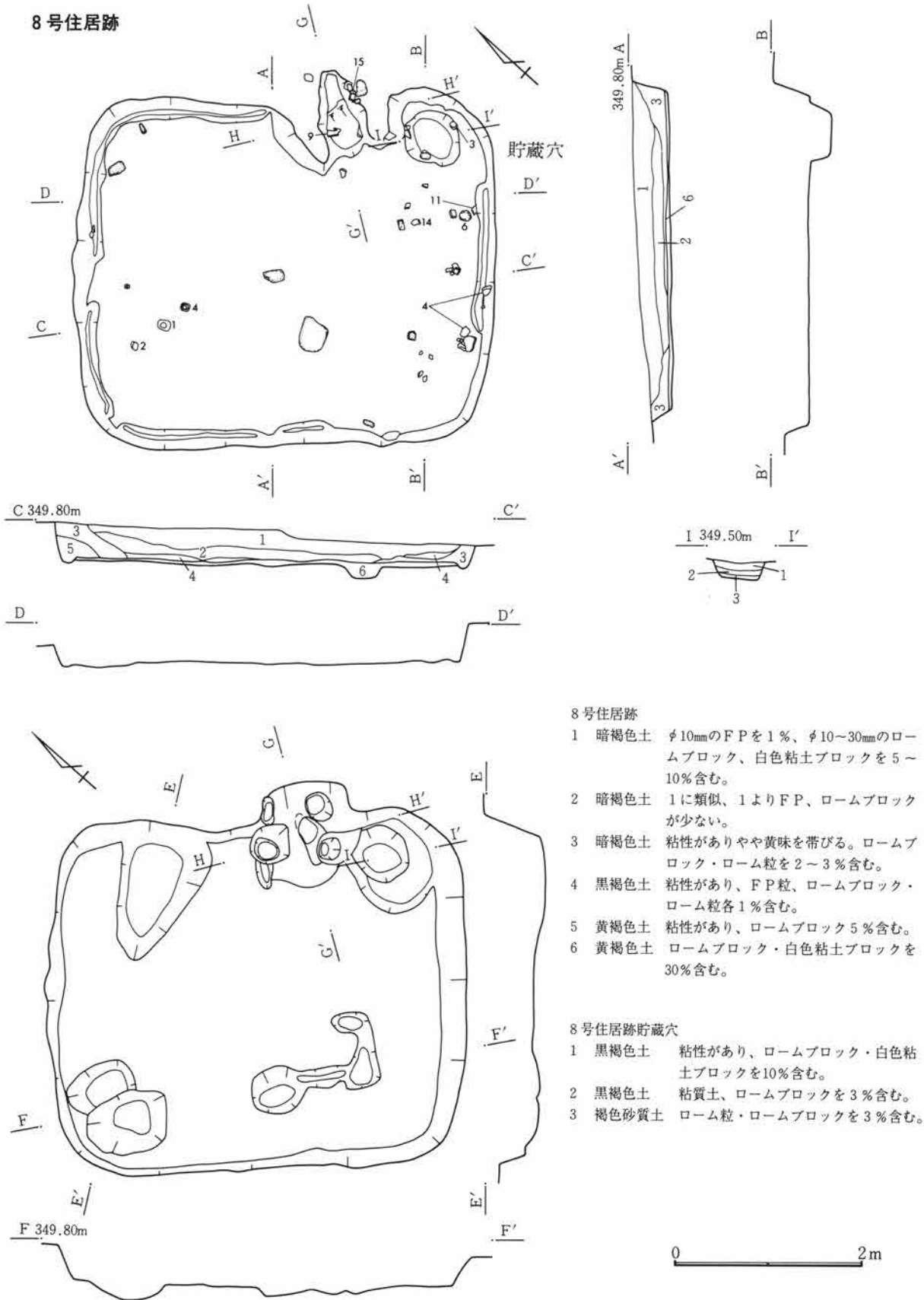


1. 竖穴住居跡



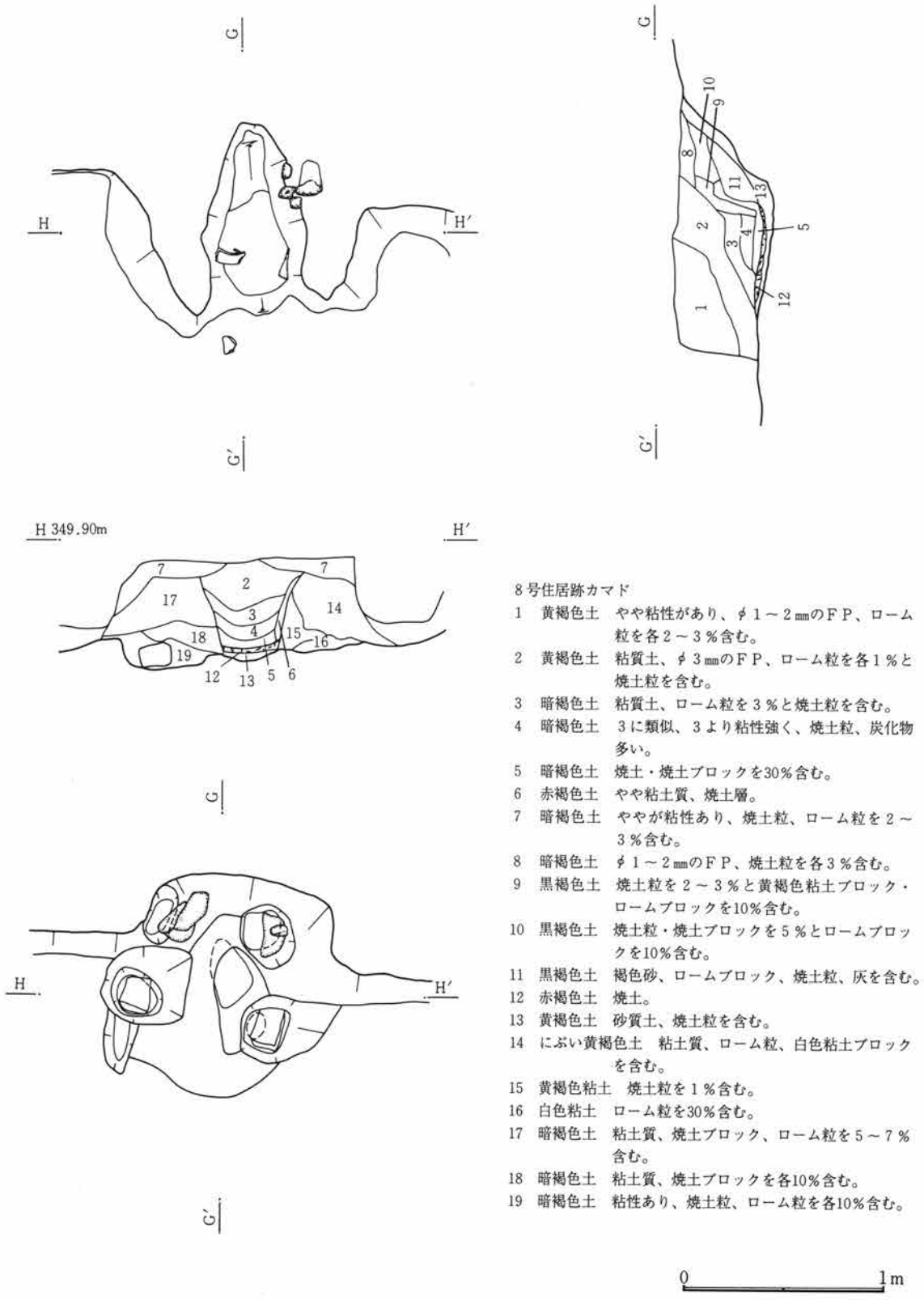
第153图 6号住居跡出土遺物

8号住居跡

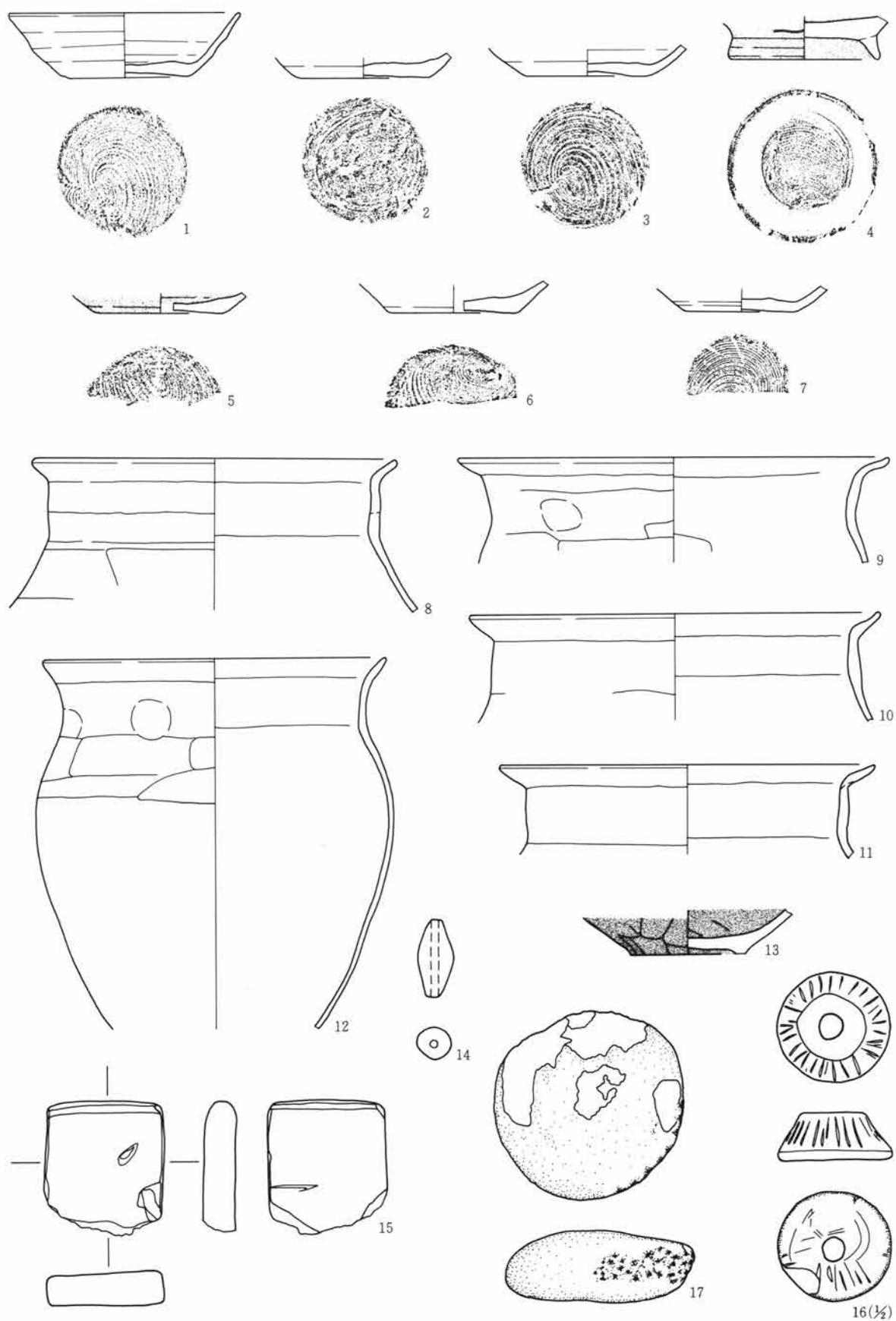


第154図 8号住居跡使用面・掘り方

1. 竪穴住居跡



第155図 8号住居跡カマド



第156図 8号住居跡出土遺物(1)

1. 竪穴住居跡

位置 C O～C Q-86～87グリッド  
 重複 7号住居跡(弥生時代) 当住居跡が後出  
 形態 長方形を呈すが角は4隅ともやや丸みをもつ。  
 方位 N-40°-W  
 規模 4.44×3.27m 面積 15.13m<sup>2</sup>  
 壁 やや外傾し、106°～123°の傾斜をもち、壁高は20～34cmである。  
 竈 東壁の中央よりやや南より、東南角より1.50mに位置し、残存状態は良好で、規模は1.07×1.4mで、燃烧部幅が0.61m、煙道全長0.41m、袖幅は左が0.5m、右が0.42mである。構築状態は、両袖に15cm角の方形の切り石(未固結凝灰岩)を使用し、甕をかける部分に礫を使用して補強している。  
 内部施設 柱穴は、検出されなかったが、貯蔵穴は住居東南隅、カマドの南に位置し、長径62cm×短径60cm×深度20cmである。周溝は、各壁下にみられる

が全周はしない、規模は幅9～17cm、深度2～6cmである。

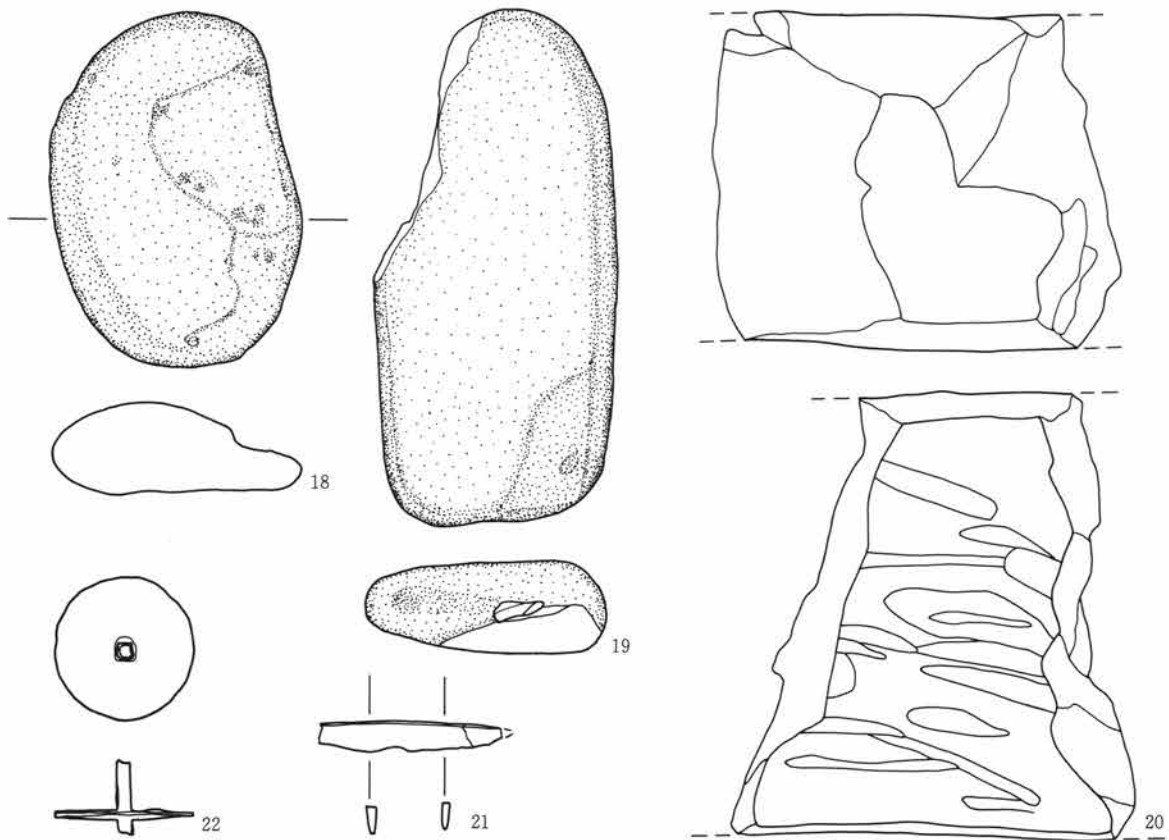
床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で中央に硬化面が見られる。

掘り方 床面からは1～6cmと浅く6基の床下土坑状の落ち込みをもつが、埋設物等の遺物の出土は見られない。

埋設状況 台地の傾斜と同様に北西側から主に埋没している。

遺物の出土状態 須恵器杯・碗、土師器甕、石製品、鉄器の出土が見られるが、1・2の須恵器杯、12の土師器甕、14の土錘が床面より、9の土師器甕と15の砥石が竈より、3の須恵器杯、10の土師器甕が貯蔵穴より出土し、床面よりやや上であるが石製の紡錘車が出土している。

出土遺物から当住居跡の年代は、9世紀前半に比定される。



第157図 8号住居跡出土遺物(2)

9号住居跡

当住居跡は、構築途中にて廃棄されたもので床面、柱穴等の施設はまったく確認されず、掘り方面も北側で南から北にかけて8°の傾斜をもつ。

位置 CP～CQ-88～89グリッド

重複 単独

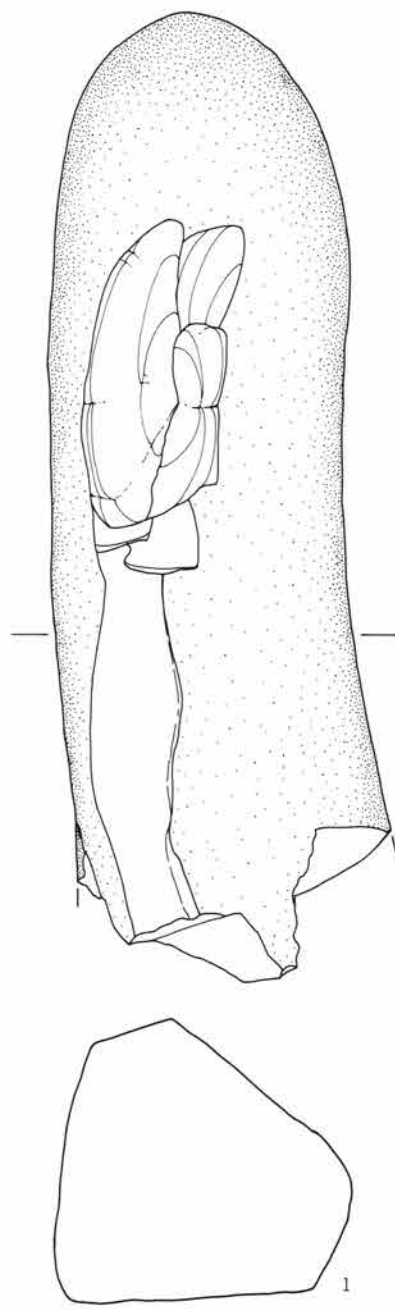
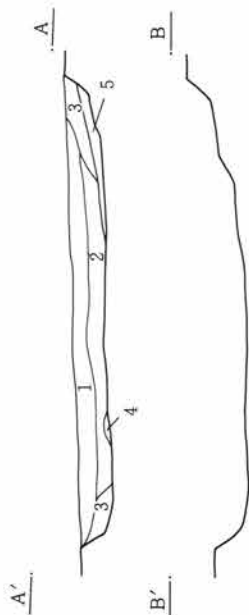
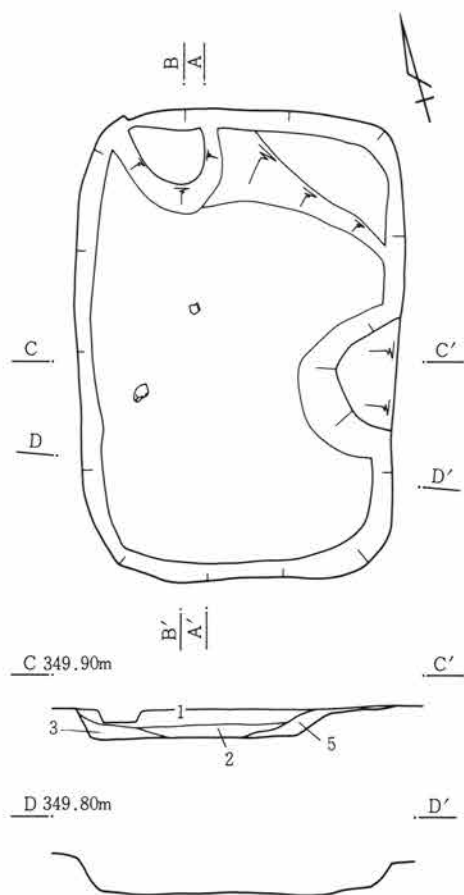
形態 隅円長方形

方位 N-108°-E 面積 9.14m<sup>2</sup>

規模 3.72×2.64m 壁 外傾し117～128°の傾斜をもち、壁高は20～28cmである。

竈 存在しないが、東壁の中央よりやや南に竈を構築しようとしたのか1.14×0.78mの範囲を掘り残してある。

遺物出土状態 土師器甕胴部片と円礫が各1点ずつ出土しただけである。



第159図 9号住居跡出土遺物

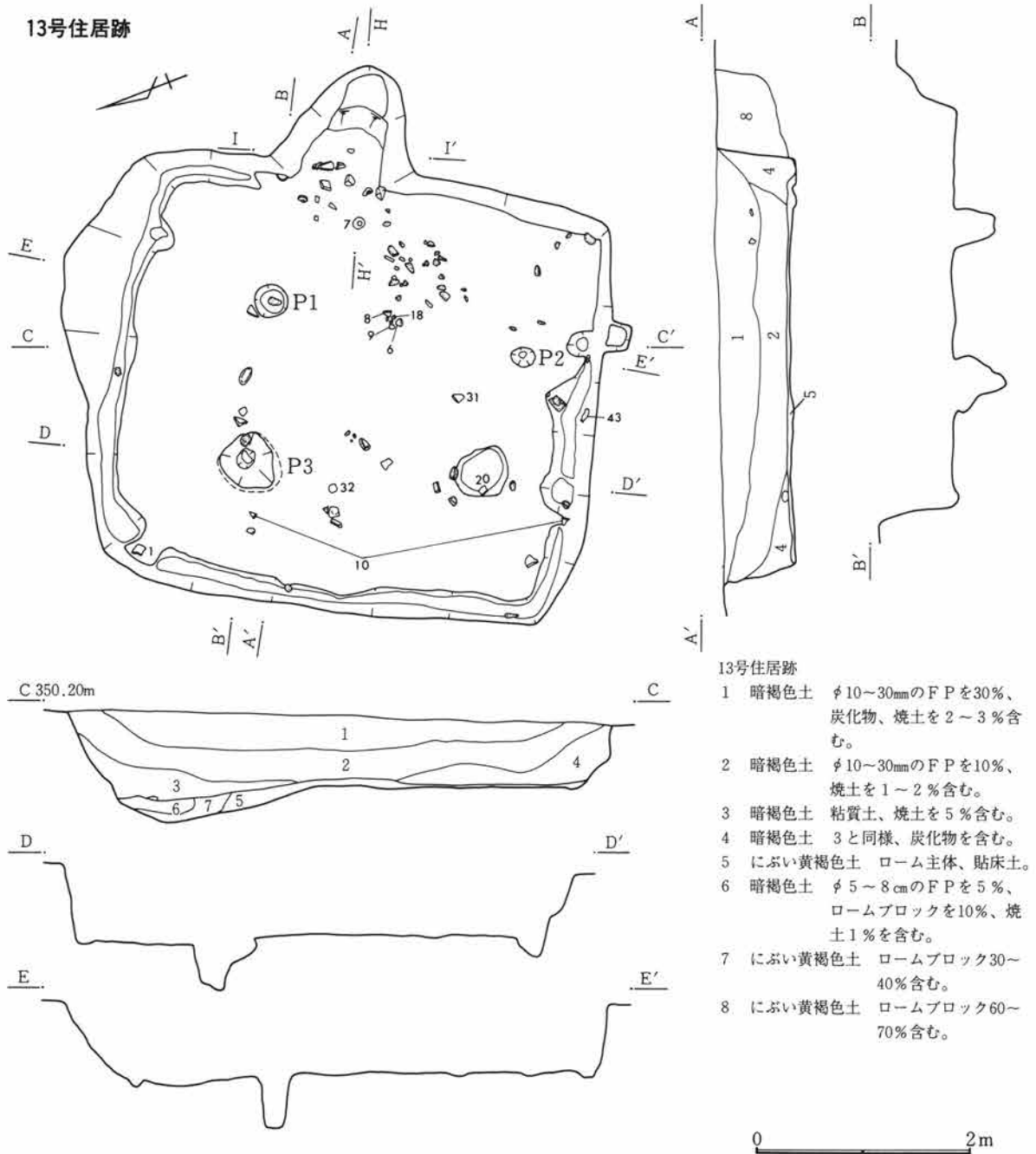
9号住居跡

- 1 暗褐色土 やや粘性があり、φ5～10mmのロームブロックを1%含む。
- 2 暗褐色土 粘性があり、φ10～50mmのロームブロックを10%、φ5mmのFPを1%含む。
- 3 暗褐色土 粘性があり、φ10～50mm大のロームブロックを10%含む。
- 4 黄褐色土 ロームブロックが主体、ブロックの間に暗褐色土を含む。
- 5 暗褐色土 粘質土、φ1～2mmのFP粒を1%含む。

0 2m

第158図 9号住居跡使用面

1. 竪穴住居跡

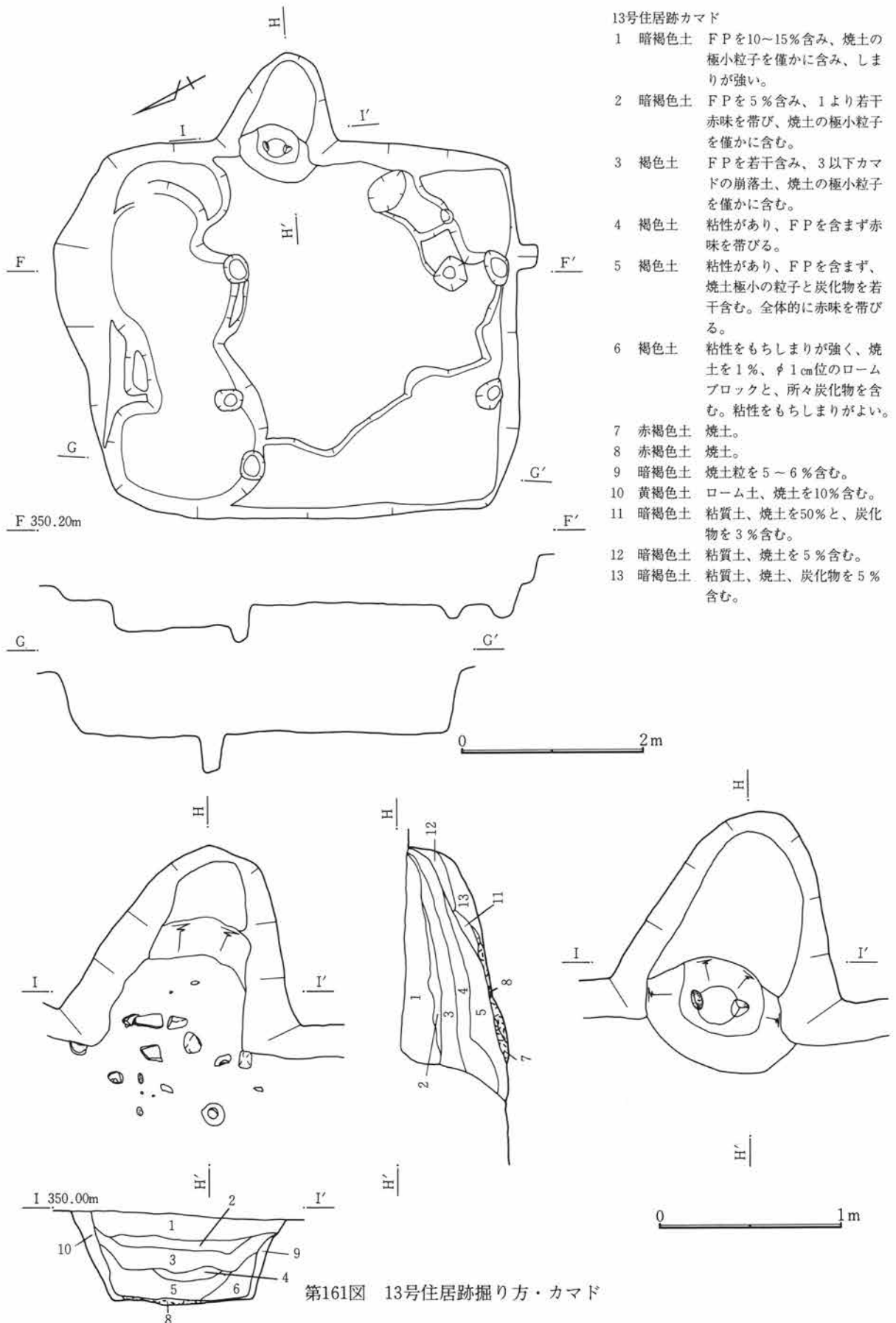


第160図 13号住居跡使用面

位置 CR~CS-90~91グリッド  
 重複 22号住居跡（古墳時代）、23号住居跡（弥生時代）当住居跡が後出。  
 形態 長方形、北壁の一部がやや膨らむ。  
 方位 N-120°-E  
 規模 4.60×4.00m 面積 19.32m<sup>2</sup>  
 壁 南・東・西壁は垂直に近く、97°~103°の傾斜で壁高は50~70cmあるが、北壁の西半分は98°

傾斜であるが、東半分は122°と外傾し、壁高は74cmである。

竈 東壁の中央よりやや北より、東北角より2.00mに位置し、残存状態はあまり良好ではなく天井部は痕跡もみられない。規模は1.23×1.30mで燃烧部幅が0.85m、煙道全長は0.4mである。袖は燃烧部が屋外にのびるため燃烧部の壁をそのまま利用しているようである。





1. 竪穴住居跡

内部施設 柱穴は3本検出され、P1が $32 \times 30 \times 41$ cm、P2が $22 \times 16 \times 12$ cm、P3が $50 \times 44 \times 40$ cm、西南部分には柱穴の代わりに $45 \times 30 \times 12$ cm大の円形で偏平の石英閃緑岩を礎石として用いている。柱間距離はP1～P2が2.40m、P2～礎石が1.16cm、礎石～P3が1.20cm、P3～P1が1.40mを測る。貯蔵穴は検出されなかった。周溝は東壁竈左側から部分的に途切れる所は見られるものの南壁中央よりやや東よりまで検出され、規模は幅12～16cm、深度6～10cmである。

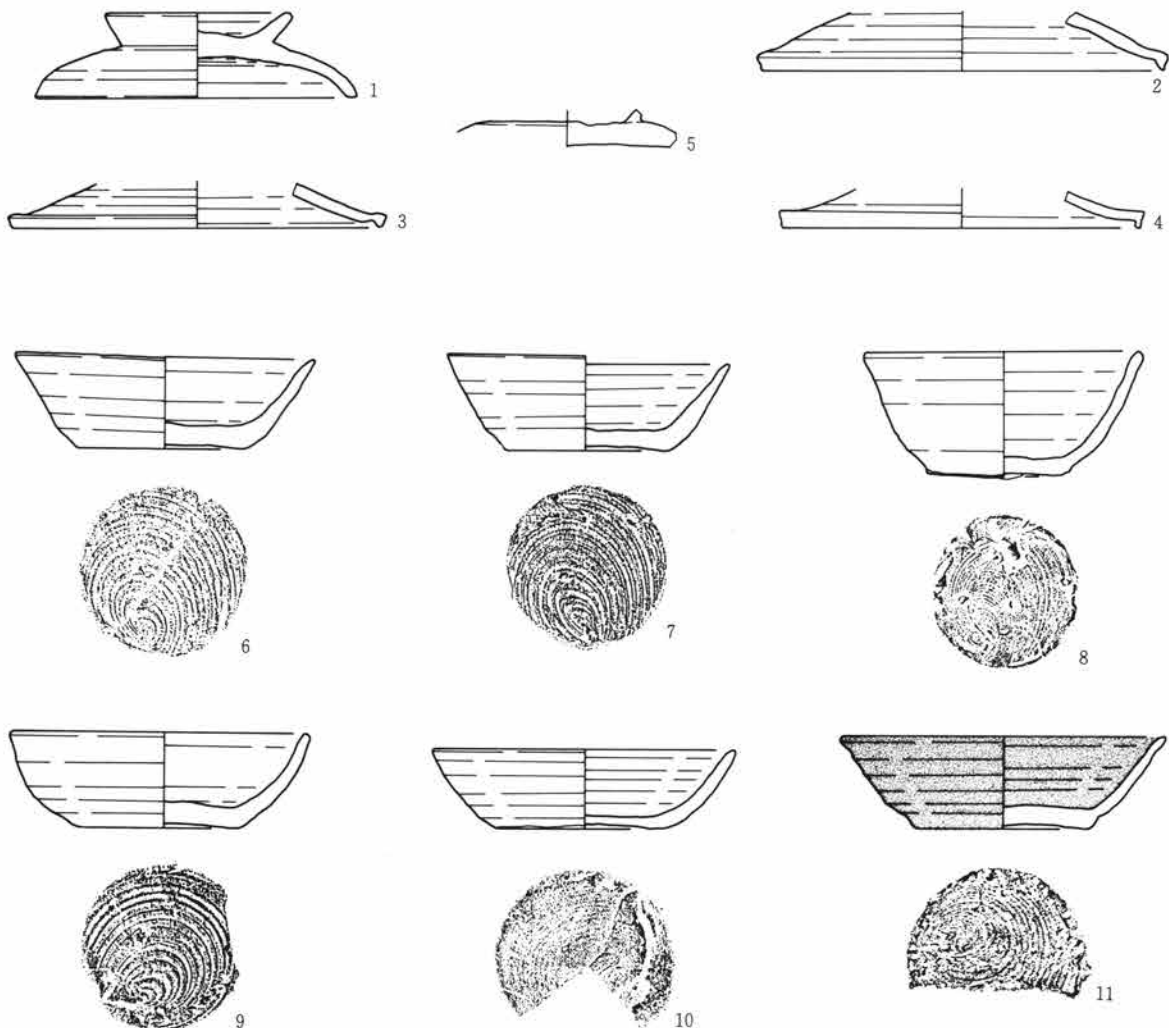
床 北壁側がやや窪んでいるが他の所はほぼ平坦で硬化面が見られる。

掘り方 中央部分は2～5cmと浅い掘り込みであるが、北壁側3分の1、西壁側4分の1と東南角が中央より8～24cm掘り込まれているが床下土坑のような施設は検出されなかった。

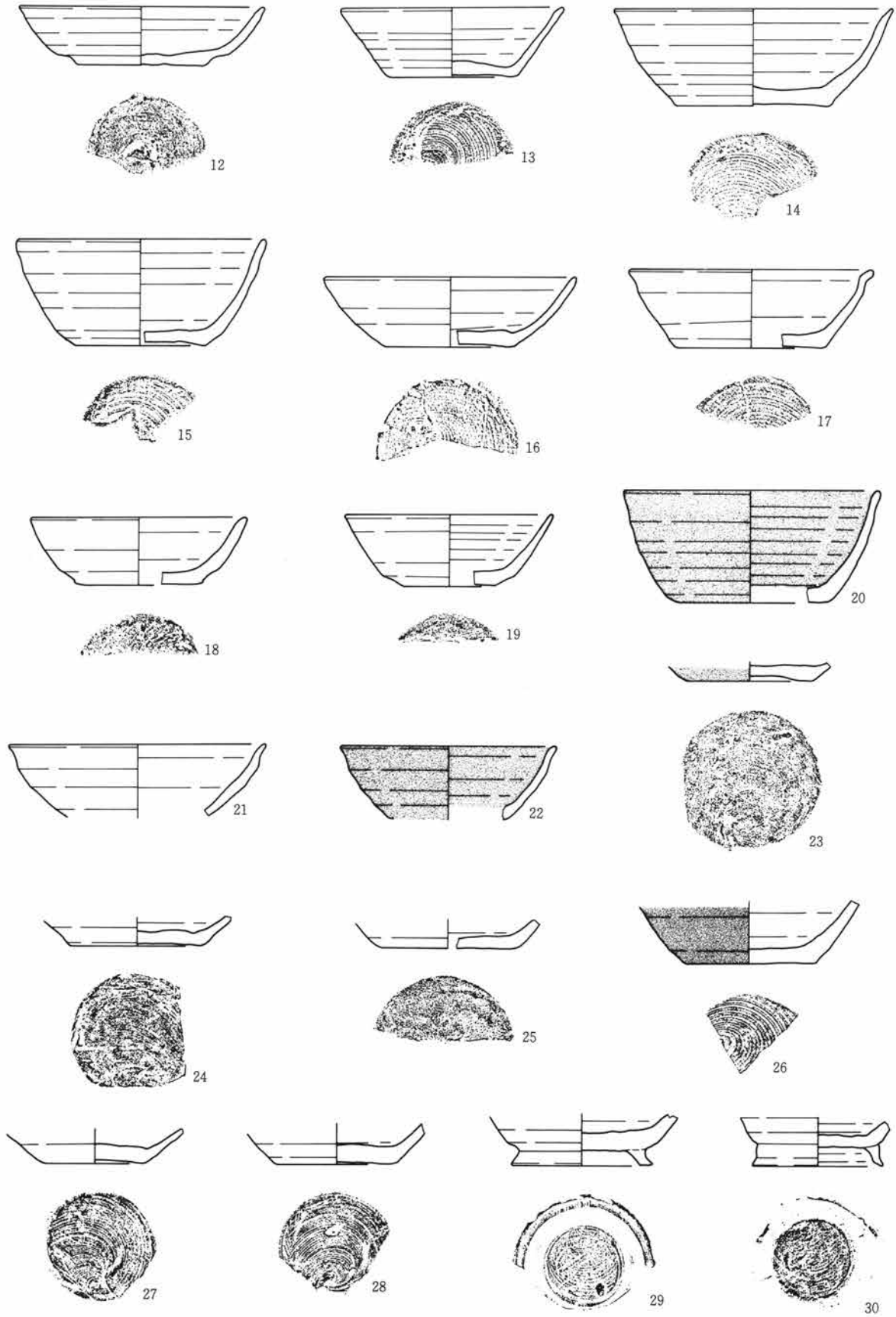
埋没状況 台地の傾斜と同様に北西側より主に埋没している。

遺物出土状態 1の須恵器蓋が床面より、4の須恵器蓋、7の須恵器杯が竈内、16・21の須恵器杯と34・39の土師器甕が床下より出土している。他は覆土中位からの出土である。

出土遺物から当住居跡の年代は、9世紀前半に比定される。

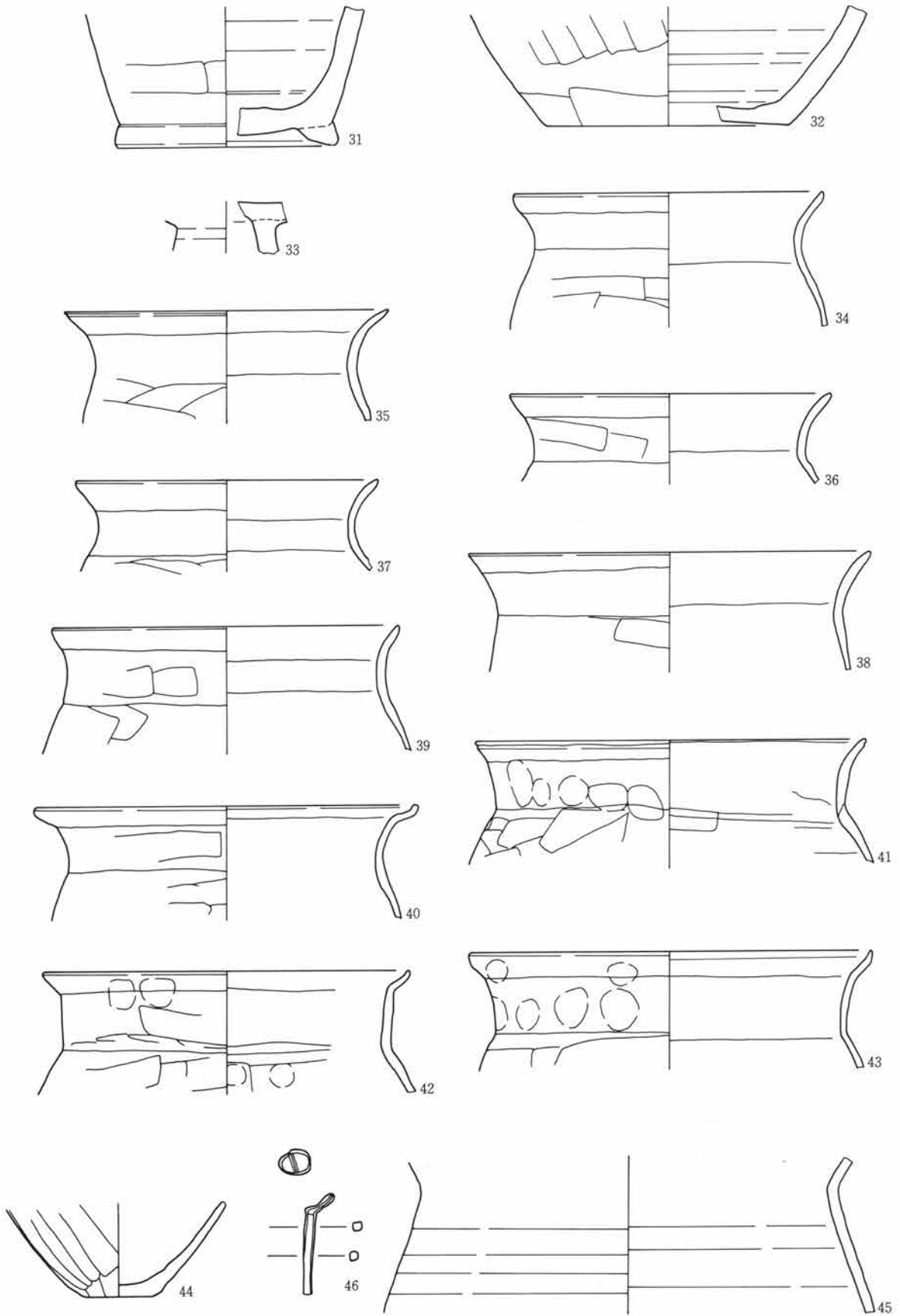


第162図 13号住居跡出土遺物(1)



第163図 13号住居跡出土遺物(2)

1. 竖穴住居跡



第164图 13号住居跡出土遺物(3)

14号住居跡

位置 CK～CM-86～87グリッド

重複 4号住居跡、5号土坑（平安時代）、当住居跡が前出、31号住居跡（弥生時代）当住居跡が後出。

形態 南側4分の1ほどが調査区外のため詳細は不明であるが長方形を呈すると想定される。

規模  $(4.52 + a) \times 3.72\text{m}$

面積 調査区内 16.09 $\text{m}^2$

壁 北壁はほぼ垂直であるが東・西壁は110～112°と外傾する。壁高は36～44cmである。

竈 東壁のほぼ中央付近に位置し、残存状態は袖部の残りは良いが、天井部は崩落・流出している。

規模は1.05×1.08mで燃焼部幅0.68m、煙道全長0.37m、袖幅は左が0.18m、右が0.42mである。構築状態は袖の基部に15～20cm大の礫を使用して補強をおこない、燃焼部の甕を掛ける部分には20cm大の

楕円形の礫を2個立てて支脚として使用している。

内部施設 柱穴、貯蔵穴、周溝等は、調査区内では検出されなかった。

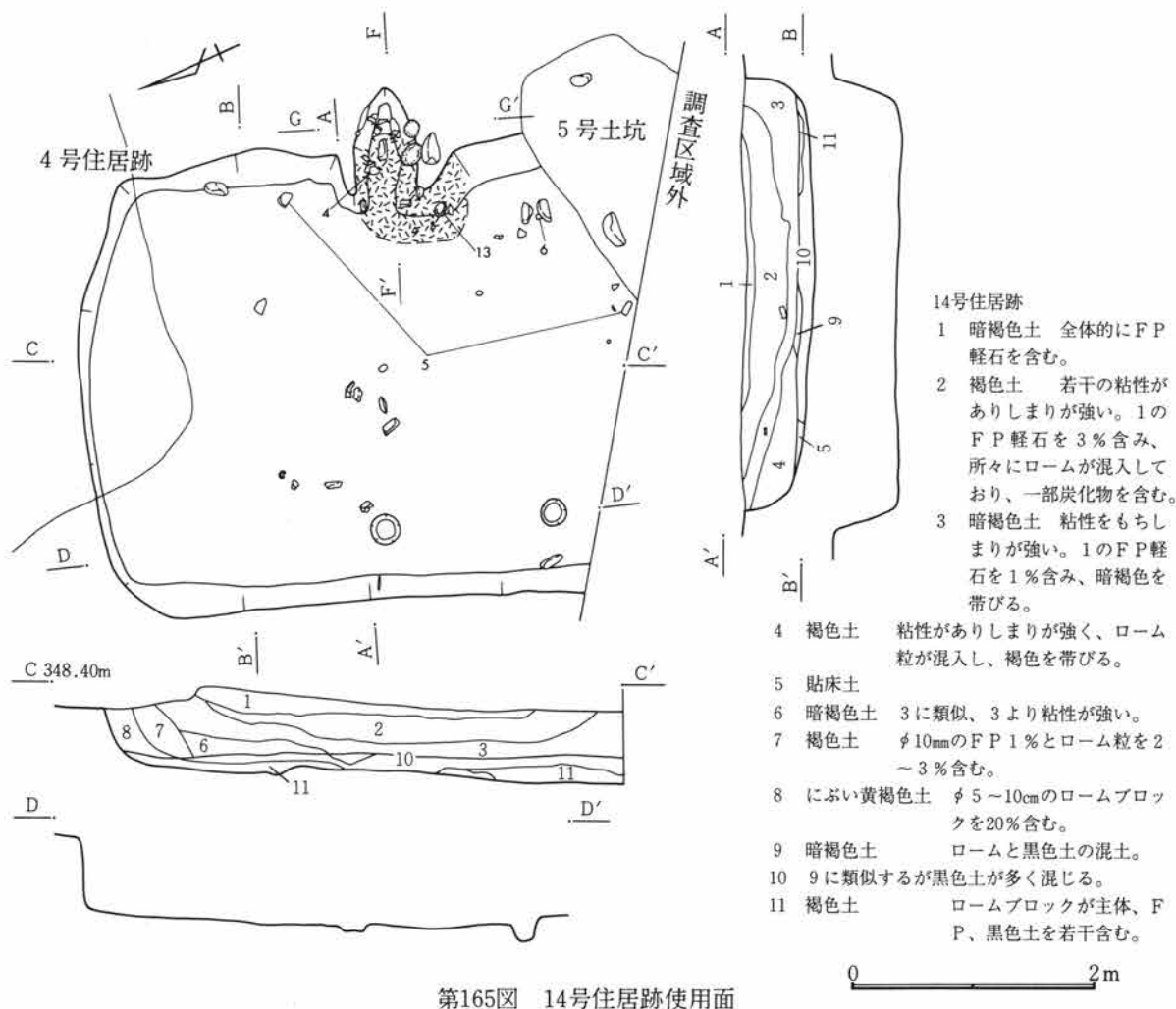
床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で中央に硬化面が見られる。

掘り方 床面より6～23cmほど掘り込まれて、北壁ぎわよりに径1.70×1.36m、深度17cm、径1.10×0.92m、深度8cmと径1.31×1.03m、深度22cmの土坑状の落ち込みが検出されたが、遺物等の出土は見られなかった。

埋没状況 各壁ぎわよりほぼ均等にレンズ状に埋没している。

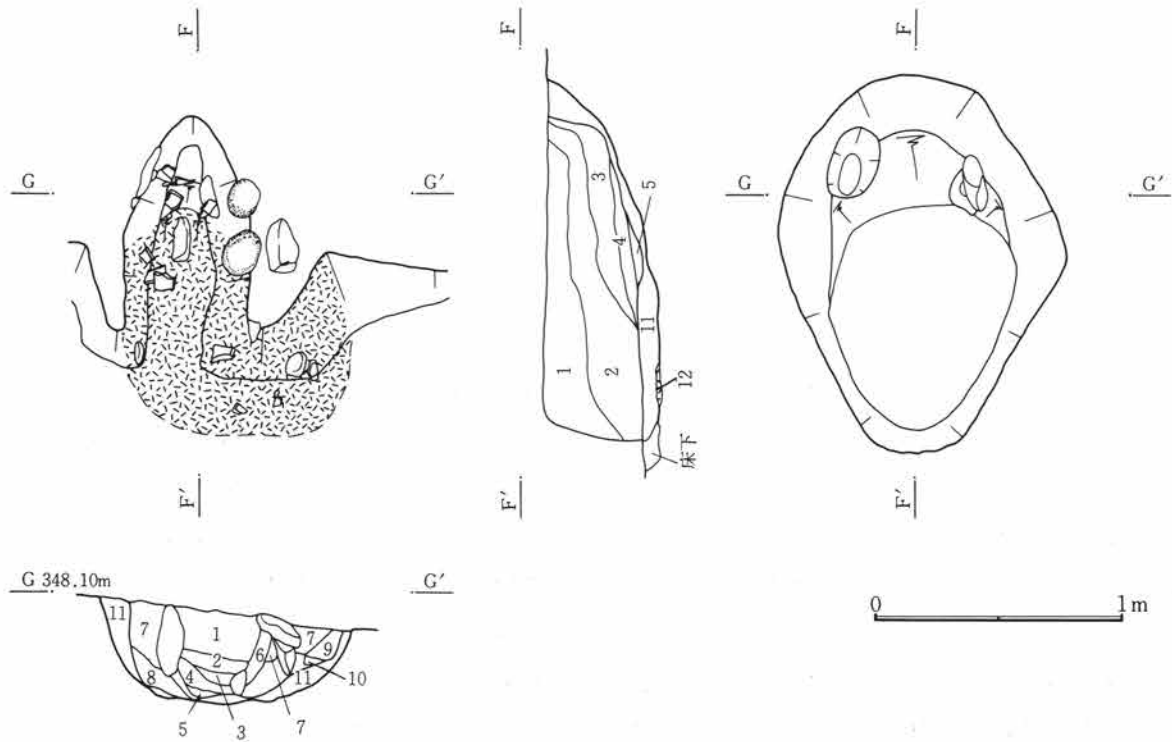
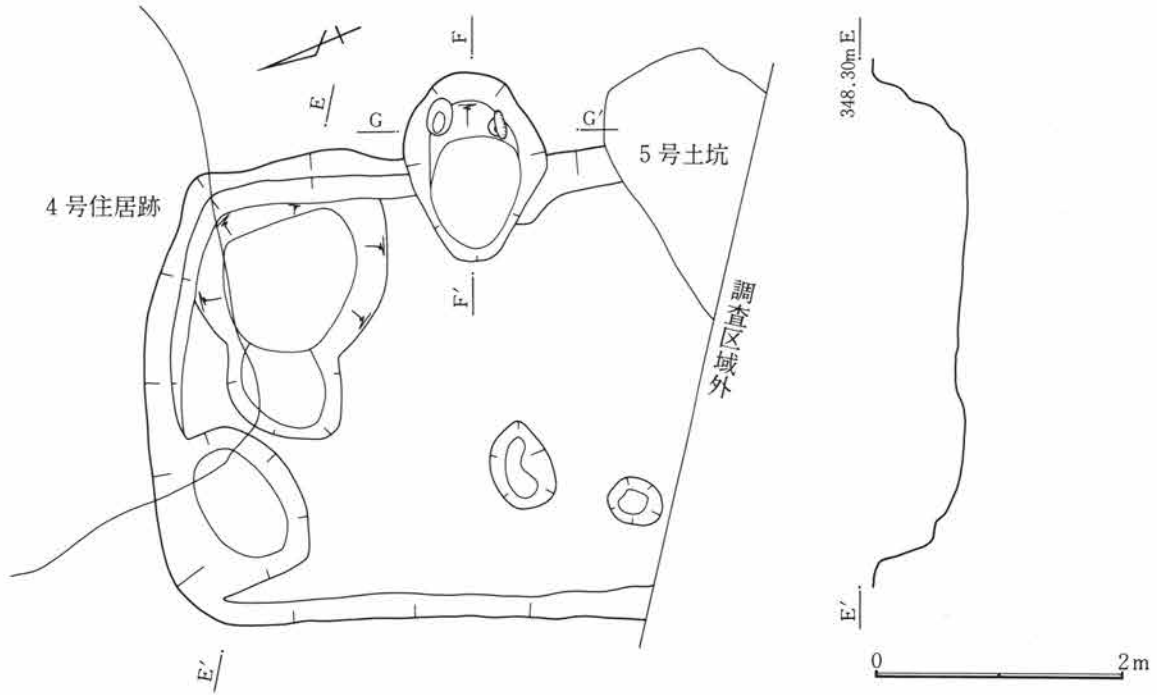
遺物出土状態 5の土師器甕が床面より、6の土師器甕が竈より出土している。

出土遺物から当住居跡の年代は、9世紀前半に比定される。



第165図 14号住居跡使用面

1. 竪穴住居跡

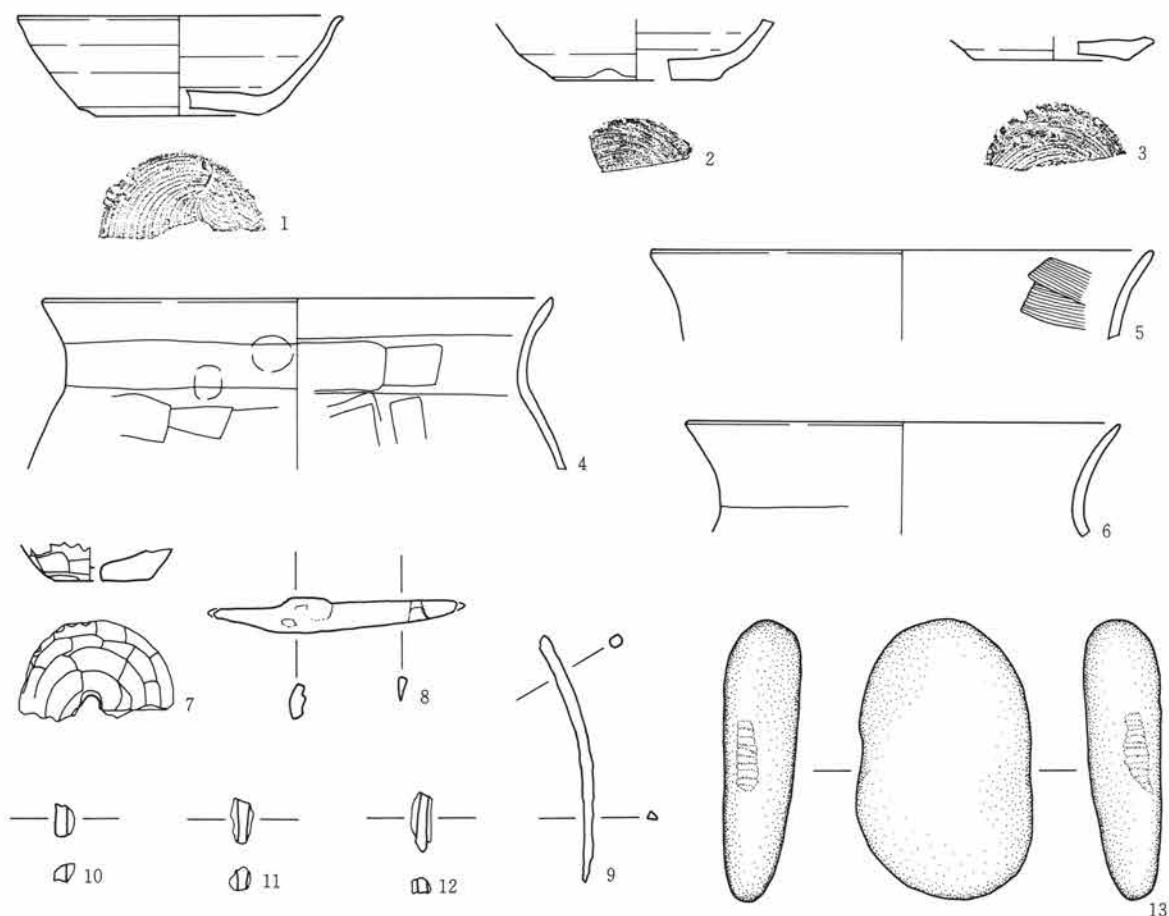


14号住居跡カマド

- 1 におい黄褐色土 粘質土、 $\phi$  5mmのFP、ロームブロックを各3%と焼土を含む。
- 2 におい黄褐色土 1に類似、1より粘土質、焼土が多い。
- 3 赤褐色土 焼土を多量に含む。
- 4 黒褐色土 焼土と灰を多量にと炭化物を含む。
- 5 黄褐色土 焼土粒、灰を若干、ロームブロックを20%含む。

- 6 におい黄褐色土 ローム粒、焼土粒を各5-6%含む。
- 7 におい黄褐色土 ローム粒を2-3%含む。
- 8 におい黄褐色土 ローム粒を10%含む。
- 9 におい黄褐色土 ローム粒を5-6%含む。
- 10 暗褐色土  $\phi$  5mmのFPを1%含む。
- 11 におい黄褐色土 灰とローム土の互層。
- 12 赤褐色土 焼土粒。

第166図 14号住居跡掘り方・カマド



第167図 14号住居跡出土遺物

### 15号住居跡

位置 CT～CU-91～93グリッド

重複 25号住居跡（弥生時代）当住居跡が後出

6号土坑 当住居跡が前出

形態 長方形を呈す。

方位 N-99°-E 面積 22.94㎡

規模 5.50×4.50m 壁 やや外傾し、102～115°の傾斜をもつ。壁高は34～72cmである。

竈 東壁の中央よりやや南に位置し、残存状態はあまり良好ではない。規模は1.17×1.23mで、燃烧部幅0.80m、煙道全長0.36m、袖は壁内には僅かしか構築されていないが、幅は左が0.25m、右が0.47mである。構築状態は壁内にはほとんど造られず、壁外を掘り込んで燃烧部、甕掛け穴を設けているようである。

内部施設 柱穴は中央よりやや東よりから2本検出

され、P 1は径34×32cm、深度43cm、P 2は径40×28cm、深度48cmで柱間距離は2.30mである。貯蔵穴は東南角に位置し、形態は楕円形、規模は径54×46cm、深度36cmである。周溝は東壁下の北東角から1.6mと北壁下、西壁下の北西角より0.7mのところまで検出され、規模は幅8～12cm、深度2～5cmである。床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で中央に硬化面が見られる。

掘り方 床面から2～10cmと浅く、北壁ぎわと南西隅に土坑状の落ち込みが見られた。落ち込みの深度は6～20cmと浅めで床下土坑として埋納した痕跡は見られなかった。

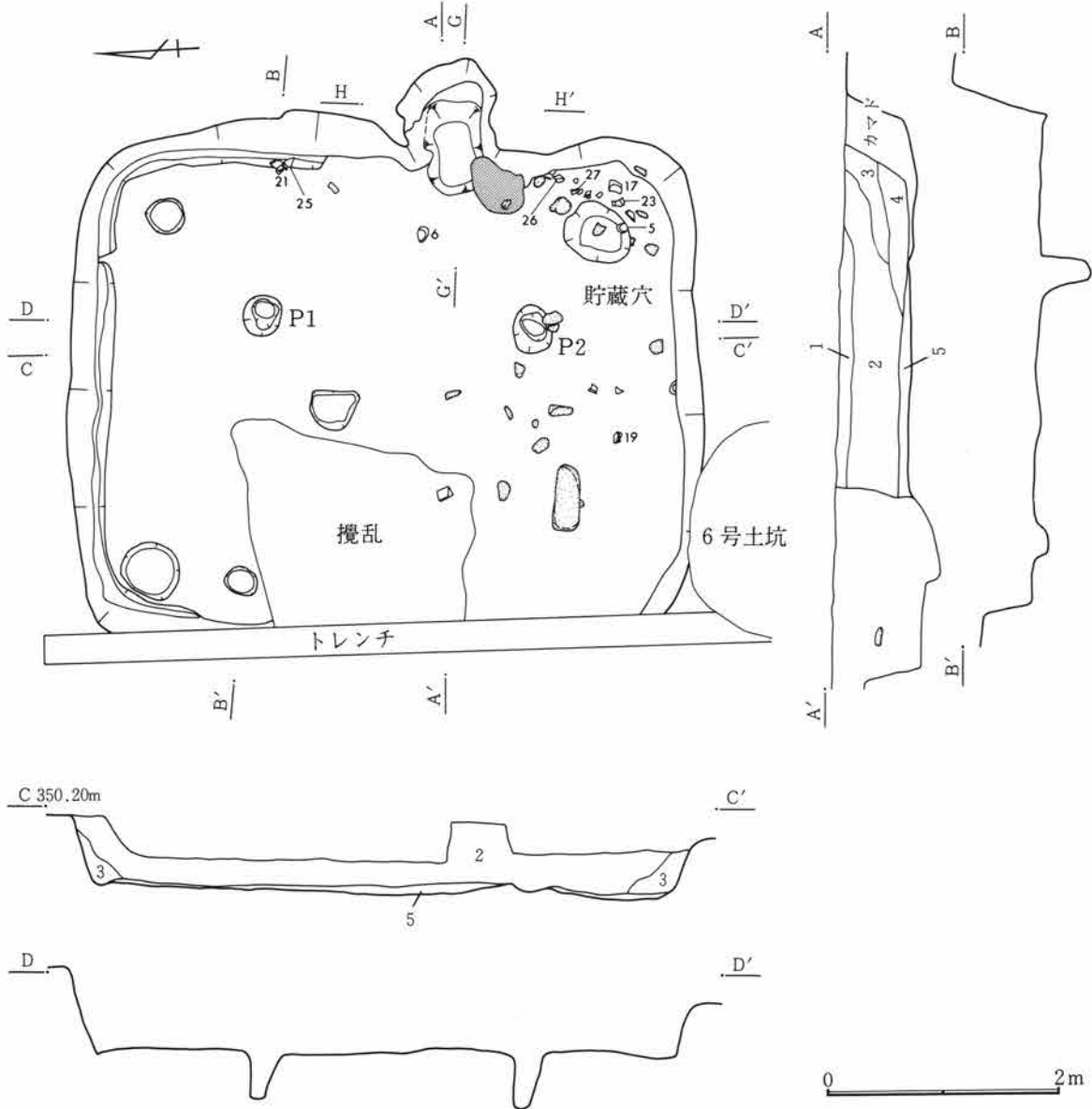
埋没状況 西壁中央部に攪乱があり不鮮明であるが、壁ぎわが若干埋没した後、黒褐色土で短期間に埋没している。

1. 竪穴住居跡

遺物出土状態 27の土師器甕、19の須恵器椀が床面、11の須恵器杯が掘り方から出土している。また、南西部分に50×27×22cm大の礫が床面にくいこむように置かれており、4号住居跡のもののように顕著な

使用痕は見られないが作業台と想定される。他の遺物は覆土中位～下位にかけての出土である。

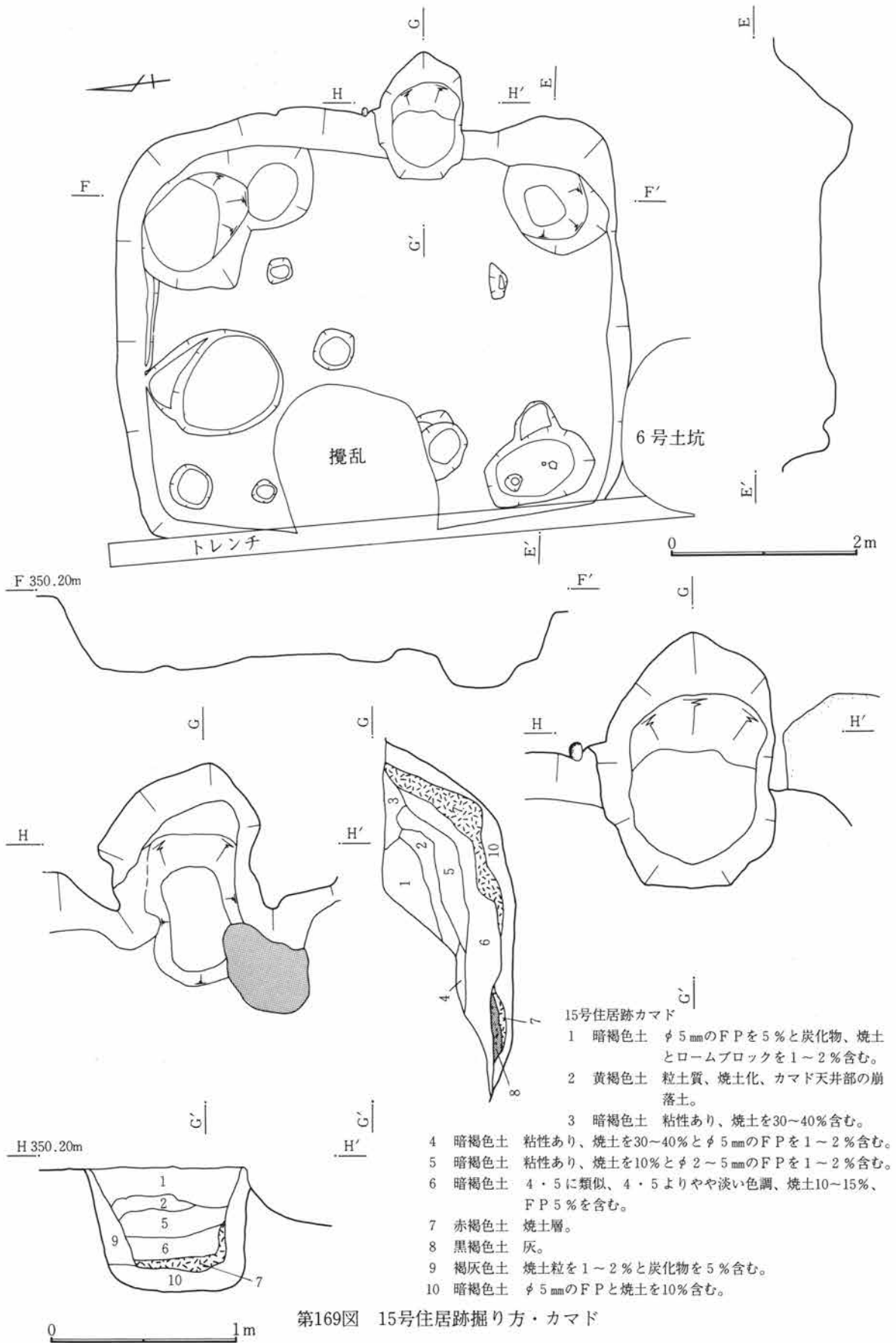
出土遺物から当住居跡の年代は、9世紀前半に比定される。



15号住居跡

- 1 黒褐色土 F Pを多量に含む。
- 2 黒褐色土 1と同様であるが、F Pの混入が圧倒的に多い。
- 3 黒褐色土 やや粘質土、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 4 暗褐色土 カマドの崩壊土と思われる。焼土、炭化物、ローム粒が多く含まれ、F P粗粒も少量ではあるが床面付近にみられる。
- 5 暗褐色土 粘質土、φ 5mmのF Pを1%と若干の焼土粒、炭化物を含む。

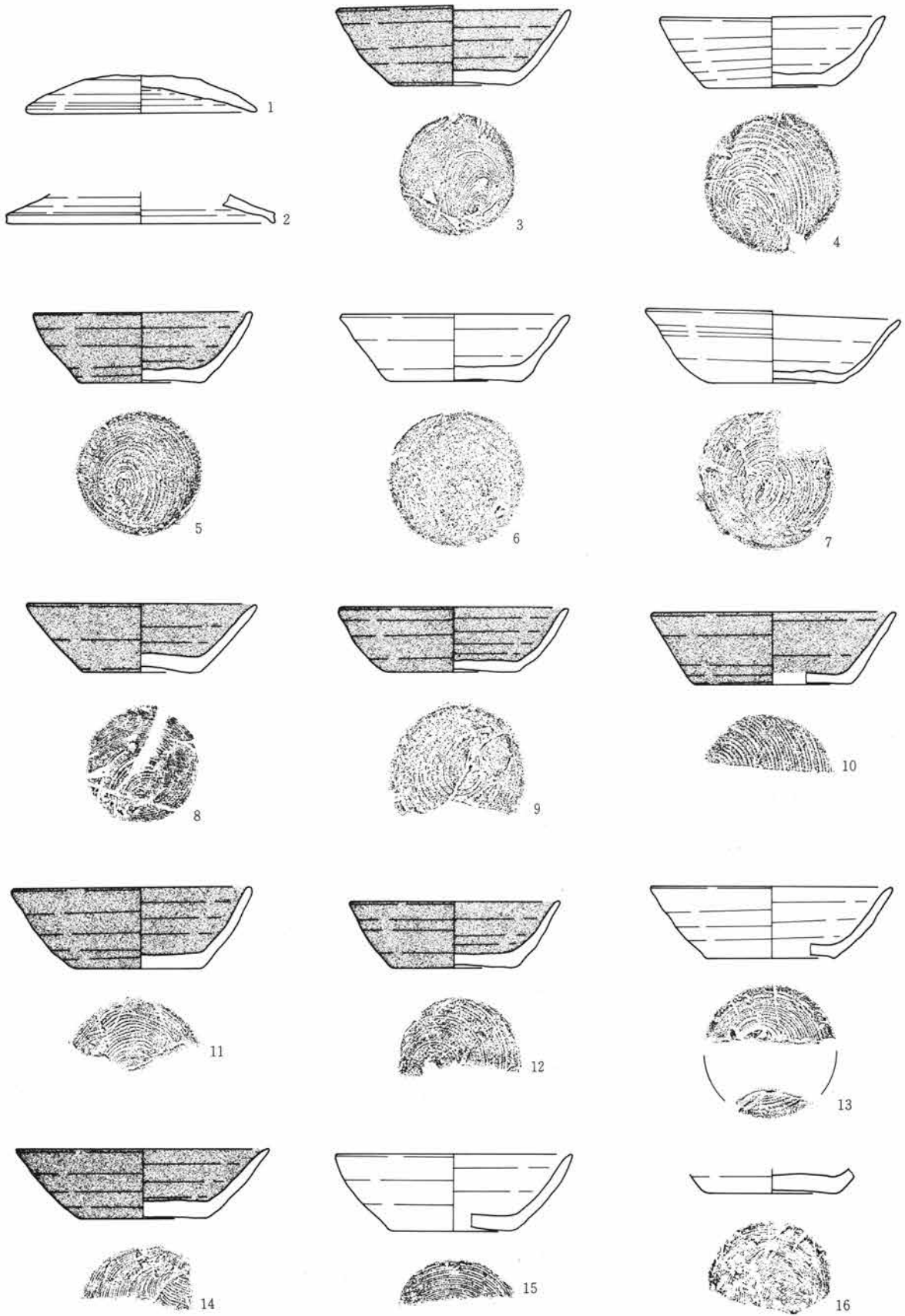
第168図 15号住居跡使用面



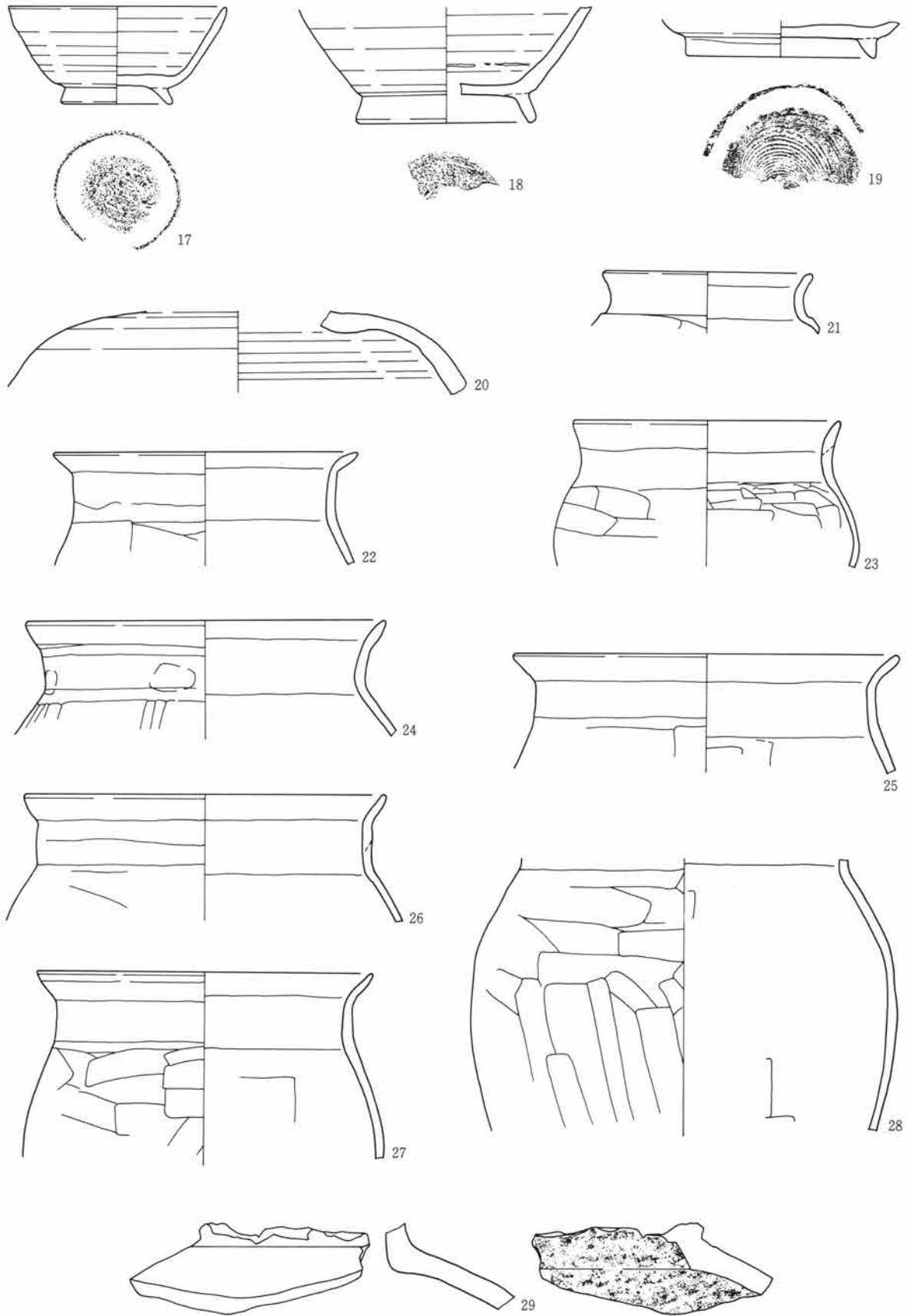
第169図 15号住居跡掘り方・カマド



1. 竖穴住居跡

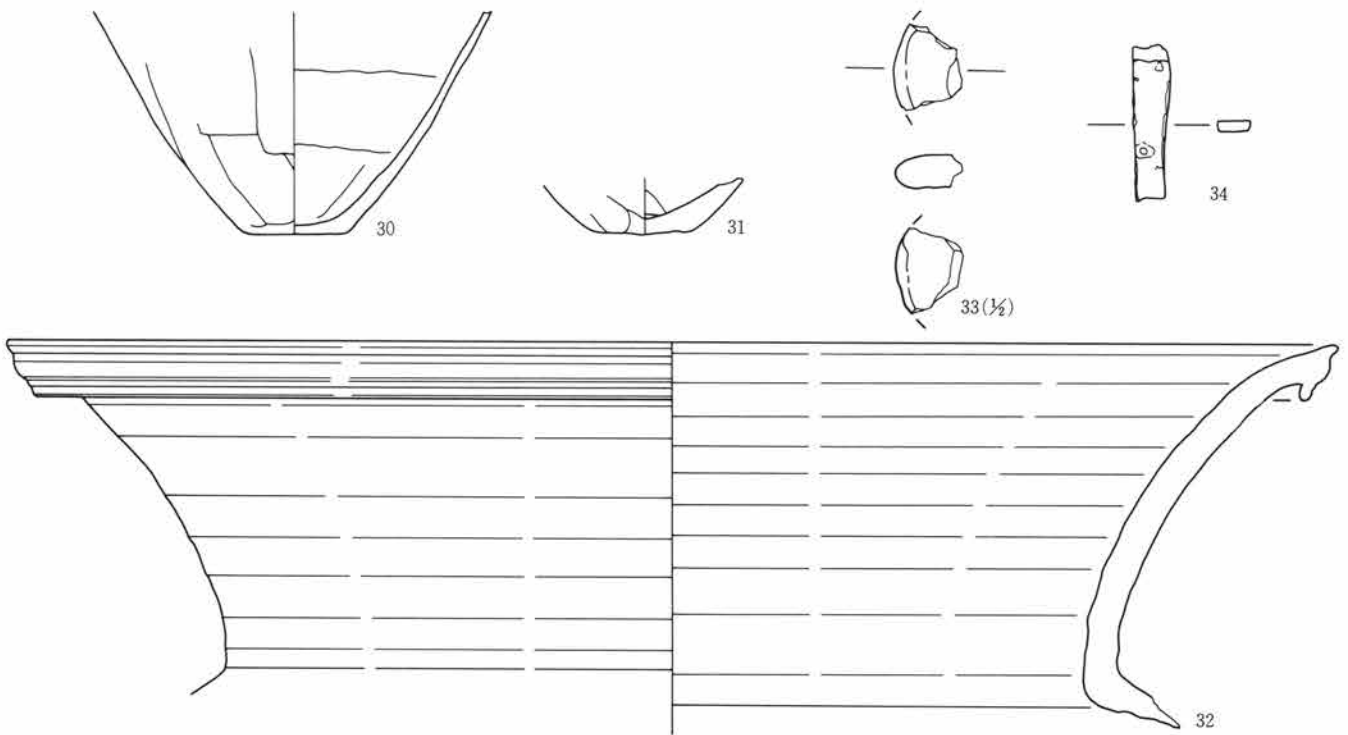


第170图 15号住居跡出土遺物(1)



第171図 15号住居跡出土遺物(2)

1. 竪穴住居跡



第172図 15号住居跡出土遺物(3)

16号住居跡

位置 CO～CP-90～91グリッド

重複 3号住居跡(平安時代)当住居跡が前出  
27号住居跡、28号住居跡、29号住居跡、13号土坑  
(弥生時代)当住居跡が後出

形態 東南角と北西角はやや丸みをもつ長方形

方位 N-105°-E

規模 4.14×3.88m

面積 3号住居跡により南・西壁の大部分が消滅し、南西角が調査区外にのびるが、推定で15.79㎡を測る。

壁 やや外傾しており壁の傾斜は101～104°で、壁高は80～118cmである。

竈 東壁の南よりに位置し、残存状態は3号住居跡と重複するため袖は全く残存せず良好ではない。規模は1.70×1.00mで、燃焼部幅は0.98m、煙道全長は0.54mである。

内部構造 柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東角に位置し形態が楕円形で東西に浅い中段をもつ、

規模が径0.90×0.52m、深度0.65mである。周溝は北半分の壁下で規模が幅20～28cm、深度6～16cmである。

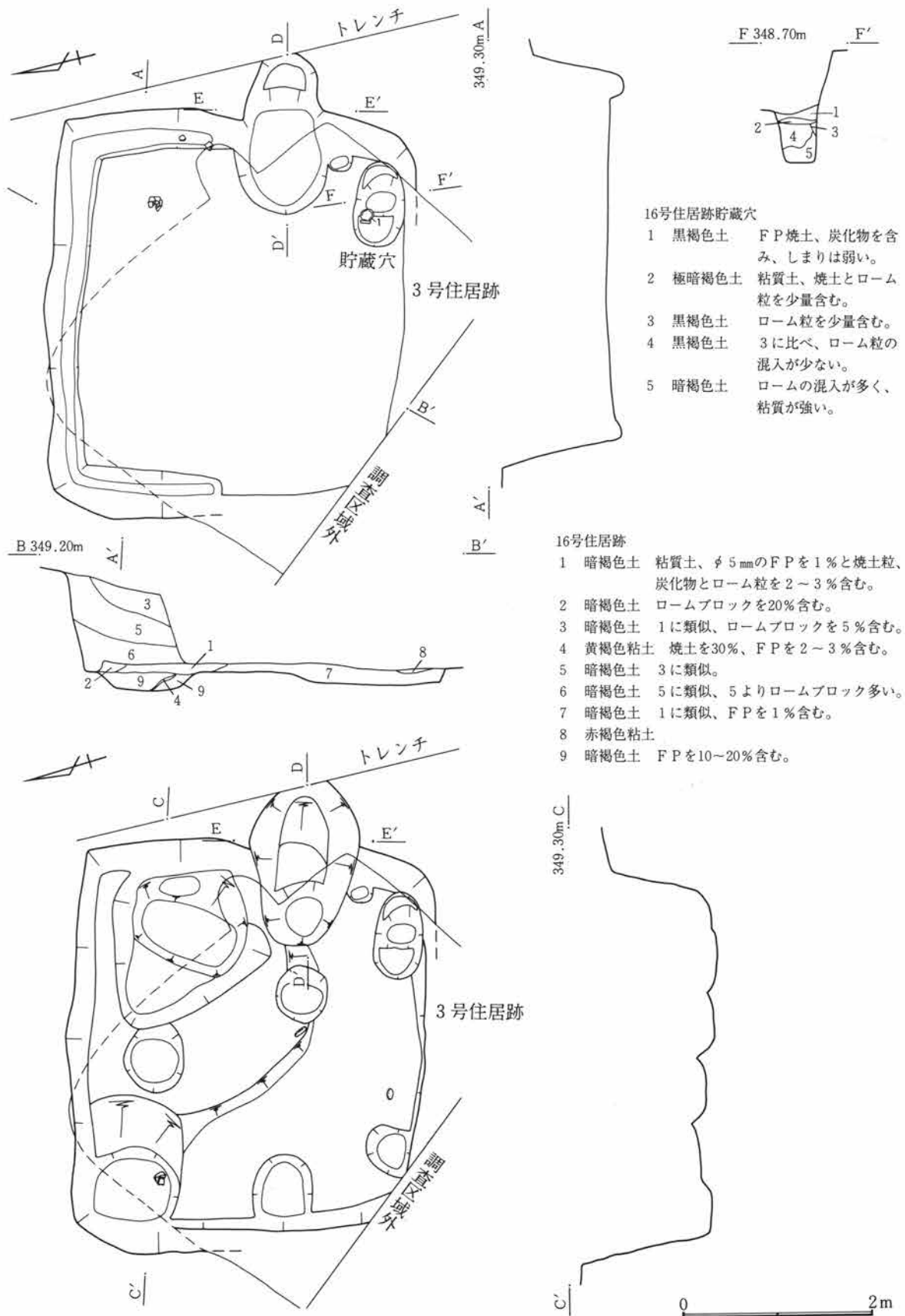
床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で中央に硬化面が見られる。

掘り方 床面から8～19cmで7カ所に土坑状の落ち込みをもつがみな深度が12～19cmと浅く床下の埋納施設であるとは想定できない。

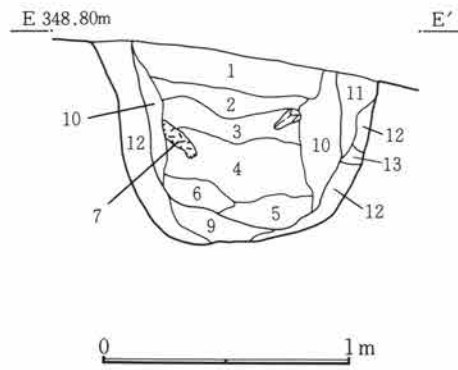
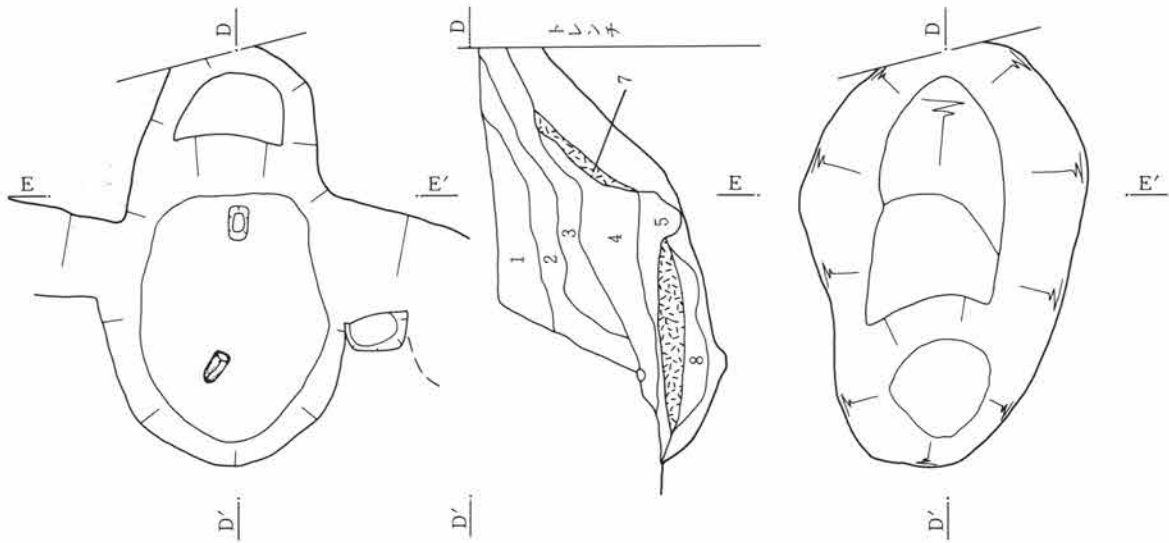
埋没状況 3号住居跡と重複しており不明確である。

遺物出土状態 5の須恵器碗が竈より、1の須恵器杯が貯蔵穴からの出土である。

出土遺物から当住居跡の年代は、8世紀末に比定される。



第173図 16号住居跡使用面・掘り方・貯蔵穴



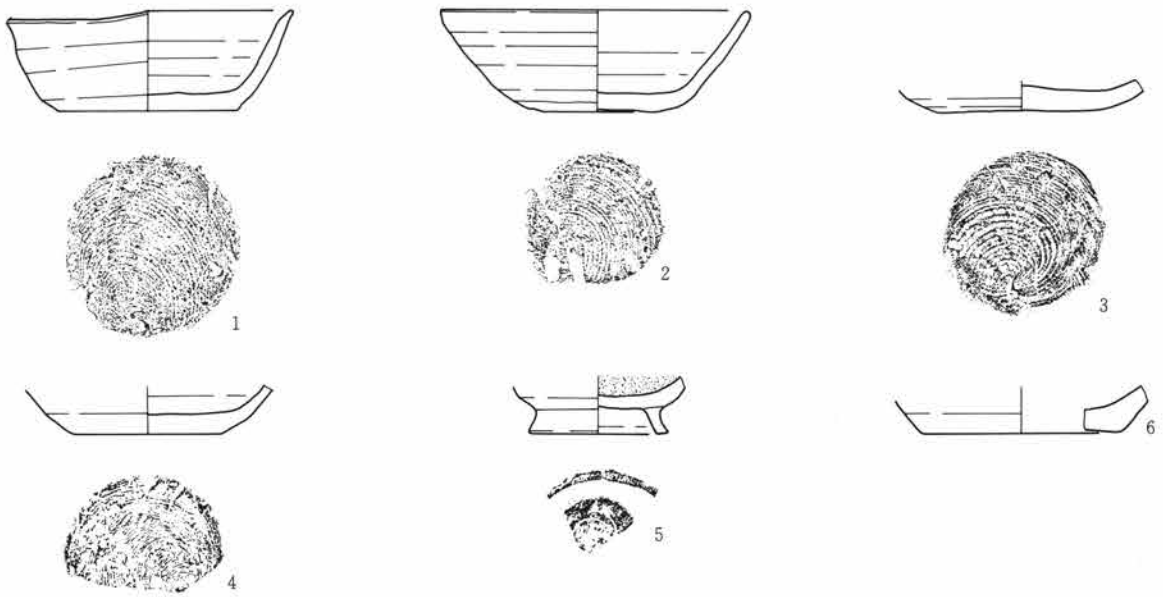
16号住居跡カマド

- 1 黒褐色土 FPを多く含み、固くしまる。また、焼土、炭化物を少量ではあるが層全体に混入する。
- 2 黒褐色土 FPを僅かと、焼土、炭化物を多く含み、若干の粘質をもつ。
- 3 暗褐色土 FP粗粒を少量と、また、極少量の白色粘土ブロックを含む。
- 4 黒褐色土 FP細粒を含む。
- 5 黒褐色土 灰を多く含む。
- 6 極赤褐色土 焼土を多量と灰、炭化物を少量含む。
- 7 焼土層
- 8 淡褐色土 やや焼土化した砂質土。
- 9 黒褐色土 焼土化していない8をブロック状に含む。
- 10 淡褐色土 8と同様。
- 11 褐色土 若干の焼土とローム粒を含む。
- 12 褐色土 11に類似、11よりローム粒が多い。
- 13 褐色土 11、12に類似、焼土を10~20%含む。

第174図 16号住居跡カマド

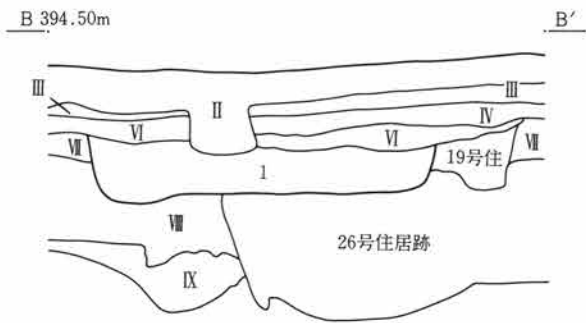
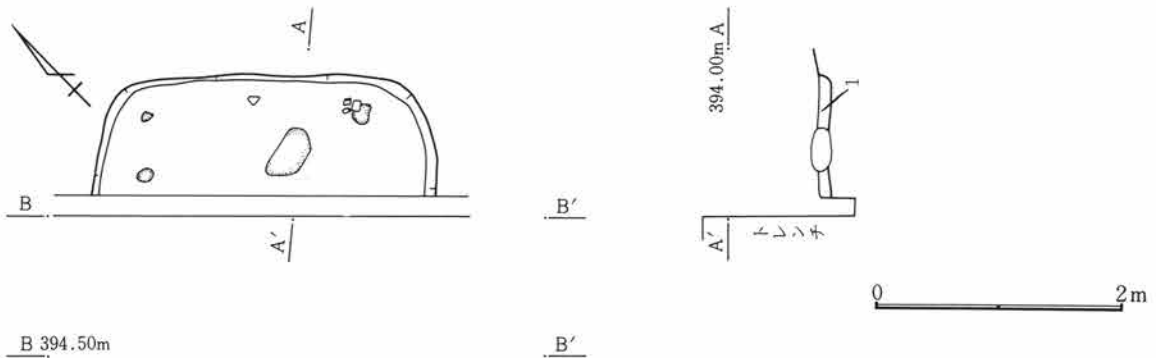


3号住・16号住居跡調査風景



第175図 16号住居跡出土遺物

18号住居跡



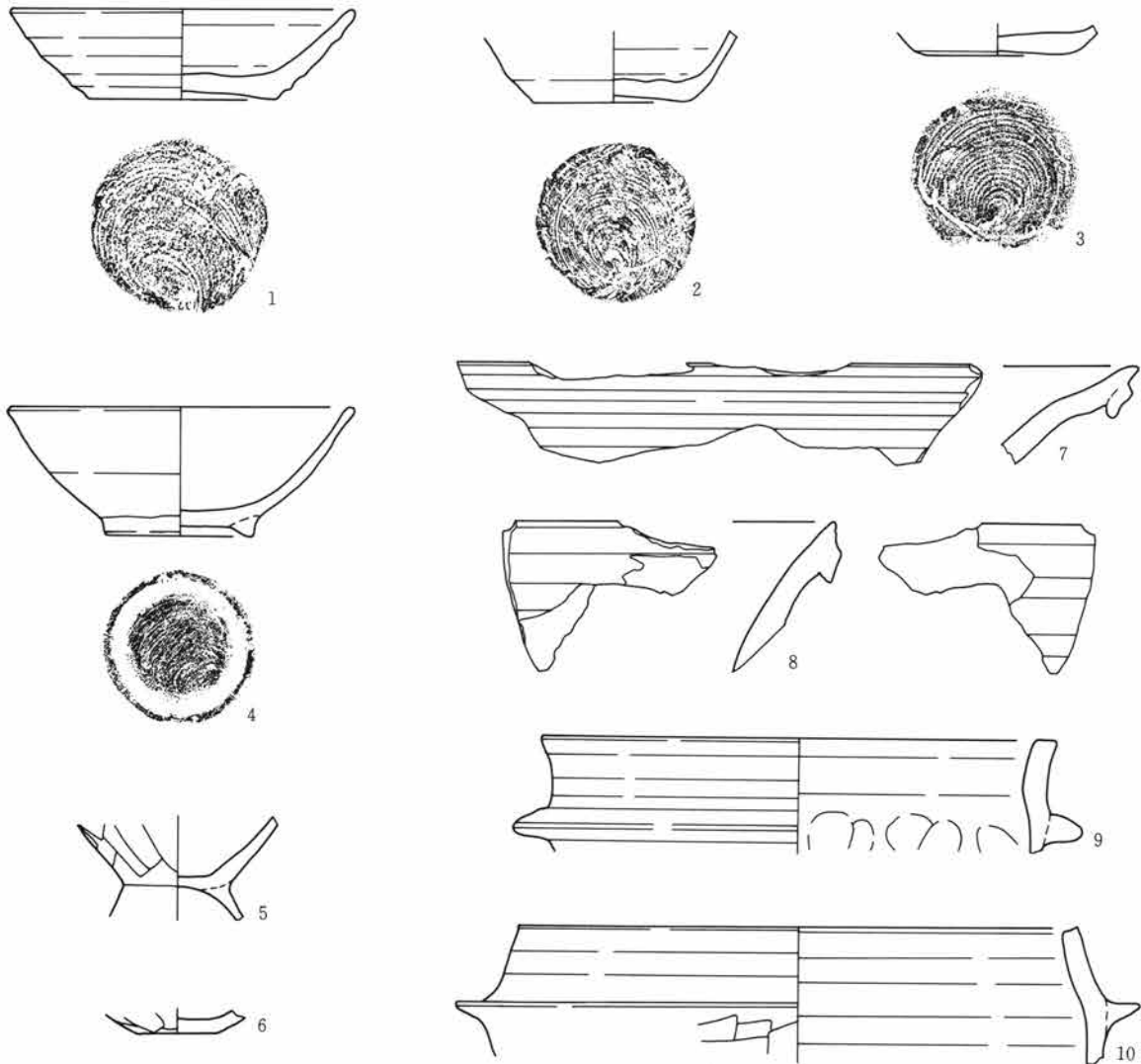
18号住居跡

- I 暗褐色土 表土
- II 暗褐色土 耕作土、 $\phi$  5~10mmのFP 2~3%とAs-Bを5%含む。西側ではFPを5%と含有量がやや多い。
- III 黒褐色土  $\phi$  5mmのFPを5%とAs-Bを20%含む。
- IV 黒褐色土 As-Bの二次堆積。
- V 灰色土 As-Bの純堆積。
- VI 黒褐色土  $\phi$  10~20mmのFPを10~20%とAs-Bを10%含む。
- VII 黒褐色土  $\phi$  10~50mmのFPを20~40%含む。
- VIII 黒褐色土 粘性土、ローム粒を1~2%含む。部分的にFPも含まれる。また、下部に移行するに従って色調が濃くなる。
- IX にぶい黄色土 ローム漸移土。
- X 黄色土 ローム土、しみ状に黒色土がみられる。
- 1 黒褐色土 VII層の流入土。

第176図 18号住居跡使用面

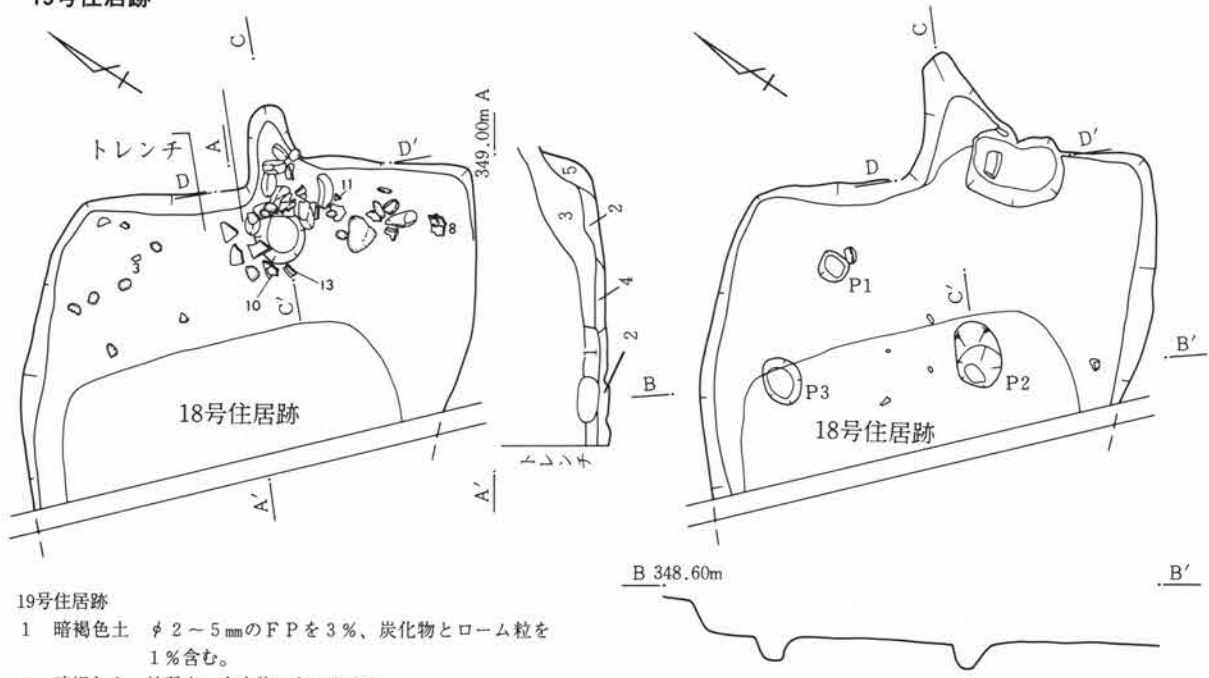
位置 CN-89~90グリッド  
 重複 19号住居跡（平安時代）、26号住居跡（弥生時代）当住居跡が後出  
 形態 隅円長方形を呈すると想定される。  
 方位 N-47°-W  
 規模 2.78×(0.98+α) m  
 面積 4分の3ほどは調査区外のため算出ができない。  
 壁 やや外傾しており108~111°の傾斜をもち、壁高は土層断面で28cmと50cmである。  
 竈 調査区内では検出されなかった。  
 内部施設 調査区内では検出されなかった。  
 床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で硬化面が見ら

れる。  
 掘り方 張床等は見られない。  
 埋没状況 FP混入の黒褐色土で短期間に埋没している。  
 遺物出土状態 土器は、土師器・須恵器の小片が数点出土しただけで実測可能な遺物は10点であった。また、床面からは4号・15号住居跡でみられたような礫の出土が見られた。  
 出土遺物からは、当住居跡の年代は、想定できないが当住居跡と重複している19号住居跡が10世紀前半に比定されることから当住居跡の年代はそれより後出のものと想定される。



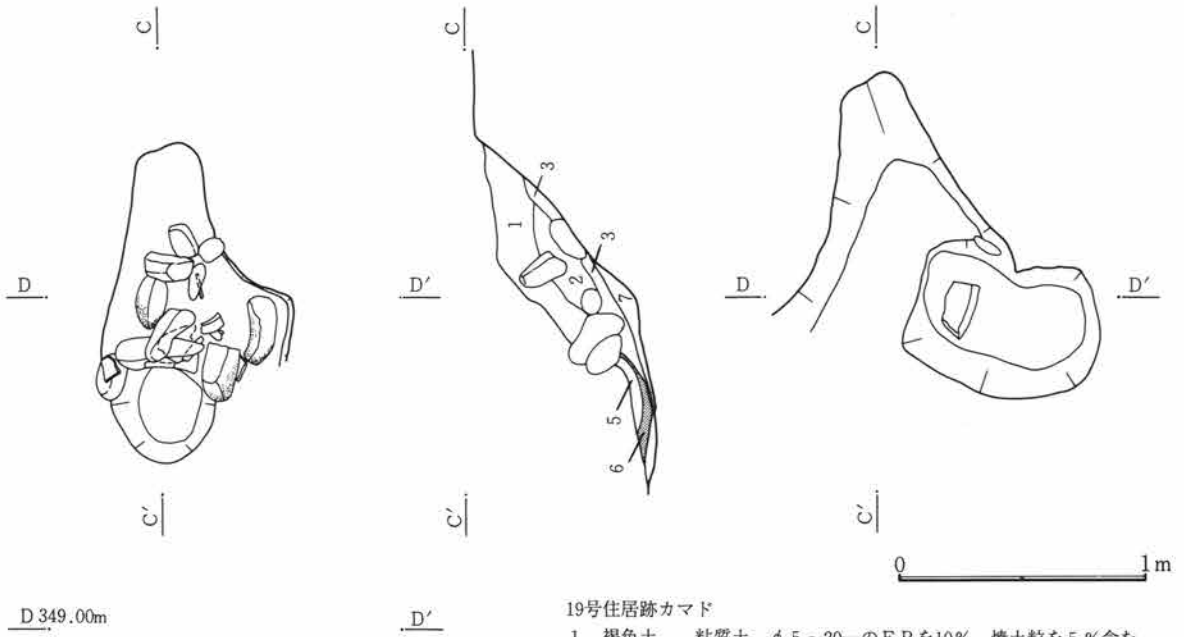
第177図 18号住居跡出土遺物

19号住居跡



19号住居跡

- 1 暗褐色土  $\phi$  2~5mmのFPを3%、炭化物とローム粒を1%含む。
- 2 暗褐色土 粘質土、含有物ほとんどなし。
- 3 暗褐色土  $\phi$  5~30mmのFPを10%と焼土粒を1~2%含む。
- 4 暗褐色土 粘質土、 $\phi$  5~10mmのFPを1%含む。
- 5 暗褐色土 粘質土、炭化物を1%含む。



19号住居跡カマド

- 1 褐色土 粘質土、 $\phi$  5~20mmのFPを10%、焼土粒を5%含む。
- 2 暗褐色土  $\phi$  5mmのFPを5%と、焼土粒を2~3%含む。
- 3 にぶい黄褐色土 黄褐色粘土ブロック、焼土を10~15%と、 $\phi$  5mmのFPを2%含む。
- 4 暗褐色土 粘質土、焼土粒、 $\phi$  5mmのFP、炭化物を各2~3%含む。
- 5 暗褐色土 4に類似、ロームブロックを含む。
- 6 黒色土 灰。
- 7 暗褐色土 粘質土、焼土粒、炭化物を3%含む。

第178図 19号住居跡使用面・掘り方・カマド



1. 竪穴住居跡

位置 CN-89~90グリッド  
 重複 18号住居跡（平安時代）当住居跡が前出  
 26号住居跡（弥生時代）当住居跡が後出  
 形態 四角形を呈すると想定されるが、北東角は108°とやや開きぎみで北壁は膨らみをもつ。  
 方位 N-39°-E  
 規模 (2.2+α)×3.46m  
 面積 調査区内で8.33㎡  
 壁 やや外傾しており、114~115°の傾斜をもち、壁高は30~58cmである。  
 竈 東壁のほぼ中央に位置し、残存状態はあまり良好ではないが、規模は1.26×0.82mで、燃烧部幅が0.44m、煙道全長が0.84m、袖は燃烧部が屋外にのびるため存在しない。構築にあたっては燃烧部奥の両側に礫を立ててその上にも礫をのせて天井部の補強を行っている。

内部施設 柱穴は床面では検出されなかったが、床下の調査時に2本検出され、P1は径40×30cm、深度21cm、P2は35×31cm、深度27cmで柱間距離は1.50mである。貯蔵穴、周溝等は、調査区内では検出されなかった。

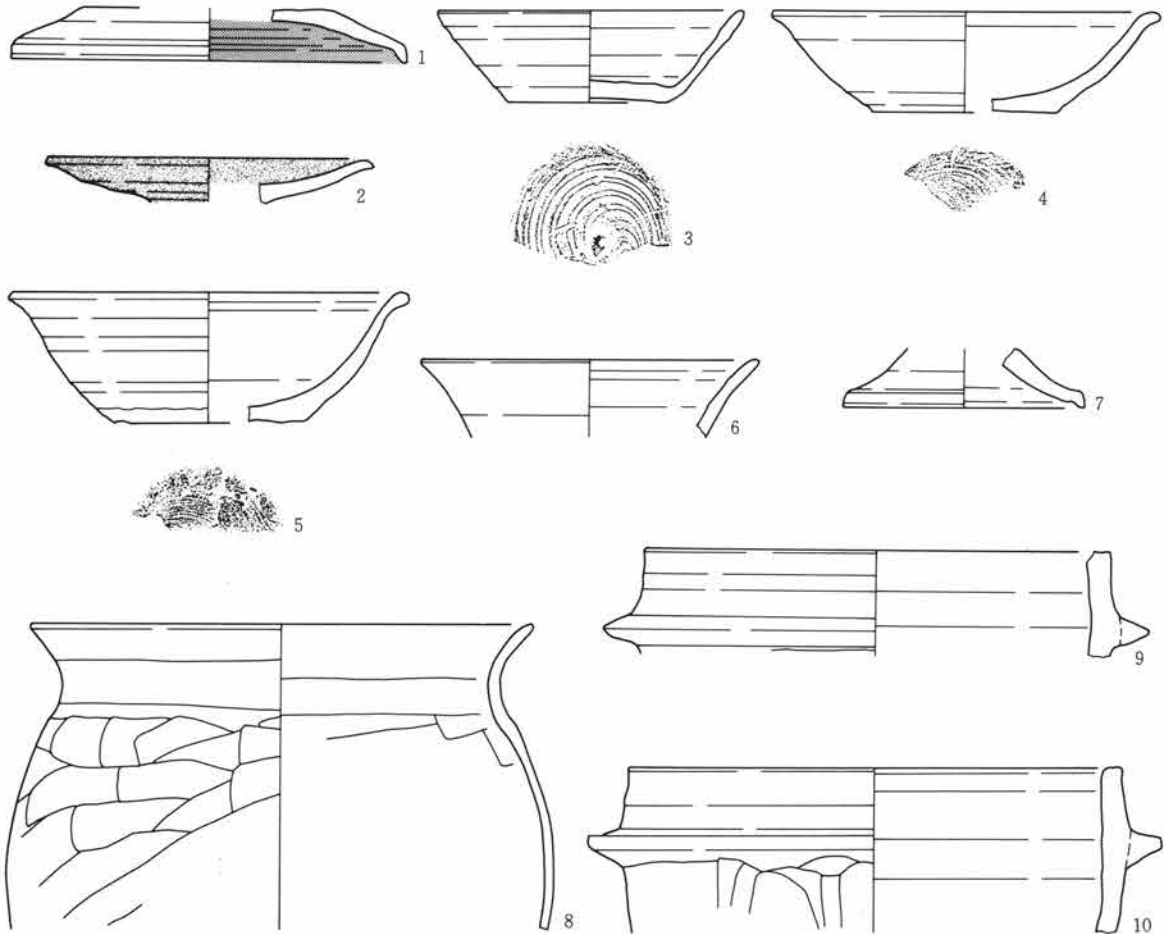
床 多少の凹凸はあるがほぼ平坦で中央に硬化面が見られる。

掘り方 床面より2~12cmほどの深さでほぼ平坦であった。

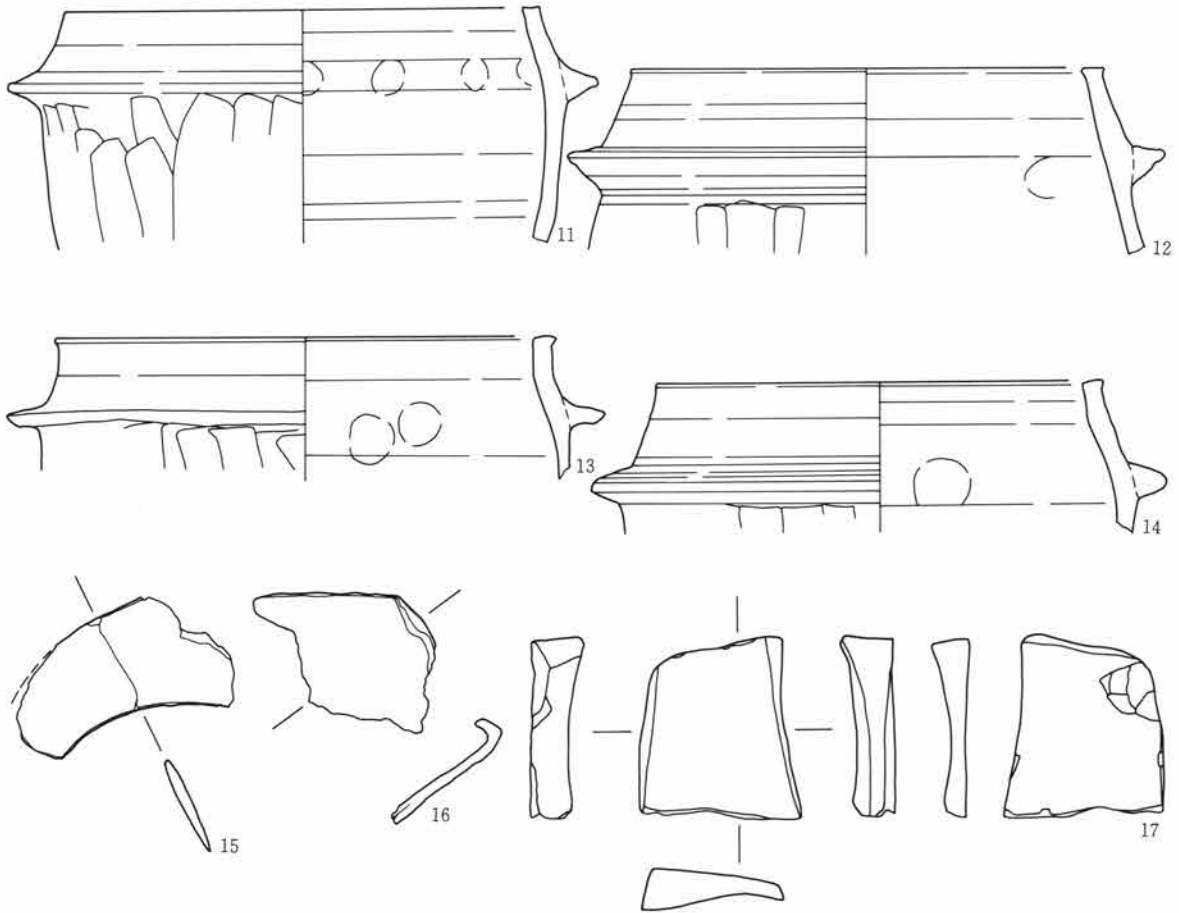
埋没状況 FP混入の黒褐色土で短期間に埋没している。

遺物出土状態 5の須恵器杯、9・10の須恵器羽釜が竈から、4の須恵器杯、11・12・14の須恵器羽釜、17の砥石が床下から出土している。

出土遺物から当住居跡の年代は10世紀前半に比定される。



第179図 19号住居跡出土遺物(1)



第180図 19号住居跡出土遺物(2)

33号住居跡

位置 CW～CV-96～97グリッド

重複 単独

形態 住居の3分の1ほどは調査区外にのびるため全貌は不明であるが、やや角に丸みをもつほぼ長方形を呈す。

方位 N-24°-E

規模  $(4.30 + \alpha) \times 3.69\text{m}$

面積 調査区内で12.90㎡

壁 壁高が7～10cmと全体的に浅いため壁の状態は不明確である。

竈 東壁のほぼ中央に位置し、規模は1.30×1.70m、燃焼部幅0.88mで煙道は確認されなかった。袖は左側が僅かに残存する程度であるが、ロームを掘り残し礫を補強に使用して構築され幅は0.45mである。天井部は土層断面で僅かに確認される程度であるが、火床面は焼土が厚く見られた。

内部施設 柱穴、貯蔵穴、周溝等は、調査区内では検出されなかった。

床 大部分はロームをそのまま踏み固めて床面としているが、住居南側はローム層が落ち込みその上に黒色土が堆積しているためにローム土を薄く敷き詰め踏み固めている。

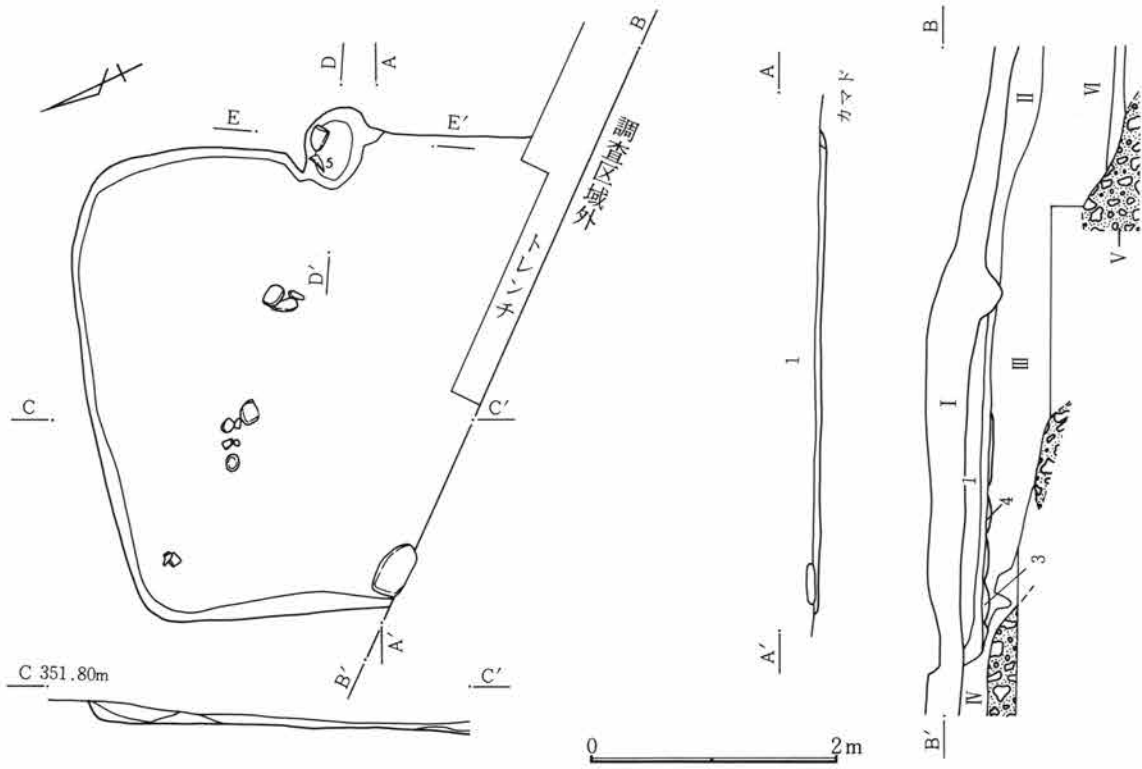
掘り方 大部分はロームをそのまま床面としているため掘り方は存在しない。また、貼床の見られる部分でも貼床下で掘り方は見られない。

埋没状況 確認面から床面までが浅いため不明確である。

遺物出土状態 竈から1・2の須恵器、5・6・8の土師器甕が出土し、他は床面より須恵器甕片と円礫が出土している程度である。

出土遺物から当住居跡の年代は、9世紀前半に比定される。

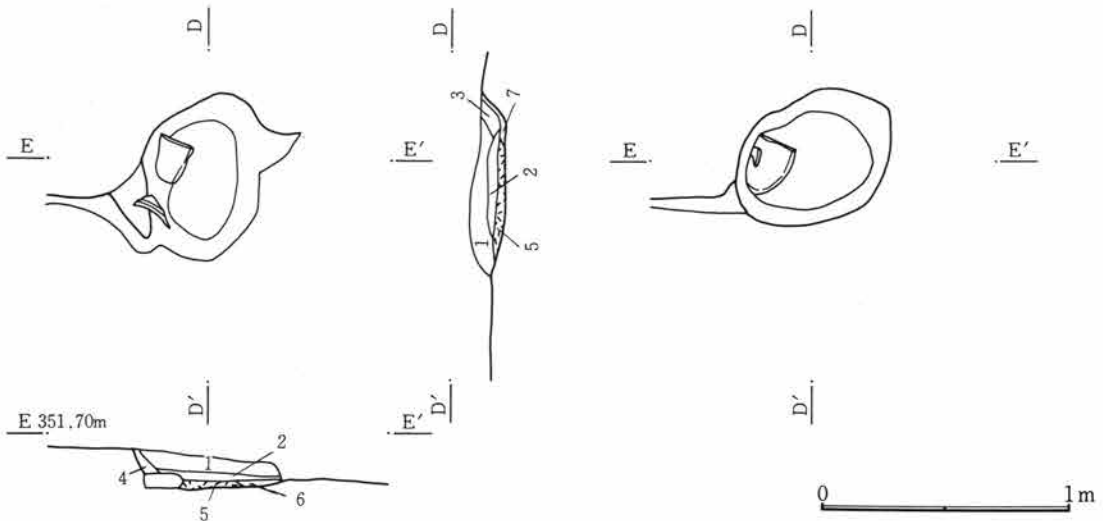
1. 竖穴住居跡



33号住居跡

- I 暗褐色土 表土、 $\phi$  3~10mmのFPを2~3%と $\phi$  2~3cmの円礫を1%含む。
- II 暗褐色土  $\phi$  1~3mmのFPを1%含む。粘質土。
- III 黒褐色土 含有物はほとんどなし。下位にロームをしみ状に含む。
- IV 黄褐色土 水成ローム。
- V 礫層  $\phi$  2~30cmの円礫。

- 1 黒褐色土  $\phi$  3~10mmのFPを10%含む。
- 2 黒褐色土 粘質土、 $\phi$  2~4mmのFPを3~5%含む。
- 3 黒褐色土 粘質土、 $\phi$  5~10mmのFPを10%含む。
- 4 黒褐色土 粘土質、5~10mmのFPを10%と焼土ブロック、炭化物を含む。

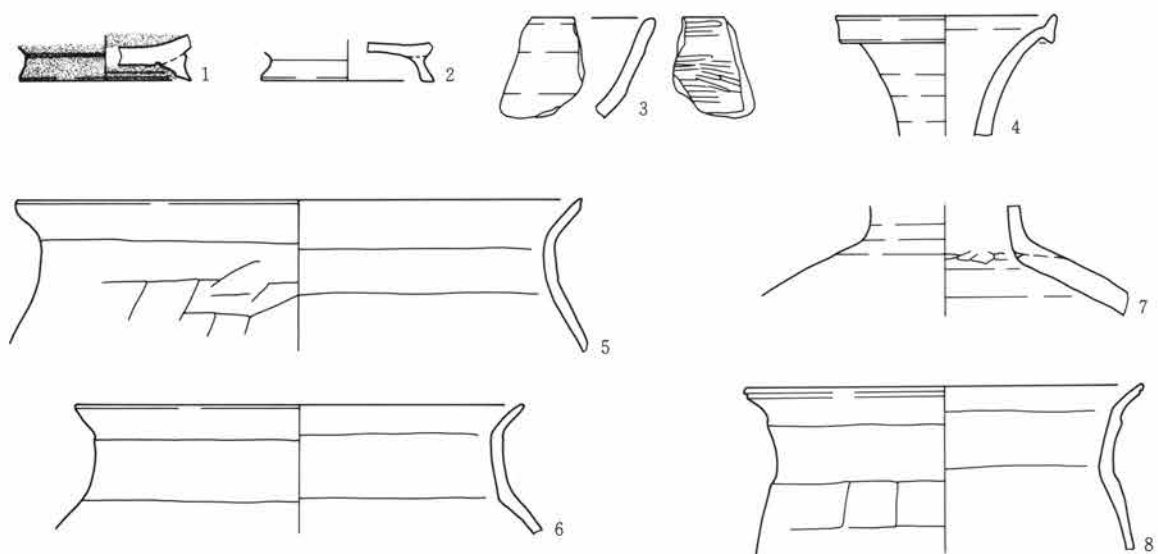


33号住居跡カマド

- 1 暗褐色土 粘土質、 $\phi$  5~10mmのFPを10%と焼土、焼土ブロックを30%含む。天井部の上か?
- 2 暗褐色土 粘質土、焼土・焼土ブロックを20~30%含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒を10%含む。
- 4 黒褐色土 黄褐色粘土ブロックを30%含む。
- 5 赤褐色土 焼土。
- 6 黒褐色土 焼土粒を5%とローム粒を5%含む。
- 7 暗褐色土 焼土粒を5%とローム粒を10%含む。

第181図 33号住居跡使用面・カマド

第5章 下川田平井遺跡の遺構・遺物



第182図 33号住居跡出土遺物



33号住居跡調査風景

## 2. 土坑・集石・列石

## 1号土坑

DE-91グリッドに位置し、形態は楕円形を呈し、中段にテラスをもつ。規模は長径1.05m、短径0.75m、深度1.17mである。出土遺物はみられなかったが、埋没土上位には、浅間B軽石(As-B)が多量に含まれていることから当土坑は平安時代に想定される。

## 2号土坑

DE-92グリッドに位置し、形態はほぼ方形を呈す。規模は長径0.95m、短径0.80m、深度0.87mである。出土遺物はみられなかったが、埋没土に浅間B軽石(As-B)、FPの混入がみられないことから当土坑は弥生時代以前と想定される。

## 4号土坑

DO-91グリッドに位置し、形態はほぼ円形を呈す。規模は長径0.65m、短径0.58mほどの円筒形で深度0.73m、底面はほぼ平坦である。出土遺物は底部より角礫が1点出土しただけであった。当土坑は埋没土から弥生時代以前のものであると想定される。

## 5号土坑

CL-87グリッドに位置し、当土坑の4分の1ほどは調査区外にのびるため全貌は不明確である。14号住居跡(平安時代)、31号住居跡(弥生時代)と重複するが当土坑が後出である。形態は長方形を呈し、規模は長径(2.04m +  $\alpha$ )、短径1.28m、深度0.58mである。当土坑からは弥生土器片、土師器甕片、須恵器杯片の出土がみられるが当土坑掘削時に重複する住居跡から混入したものと思われる。当土坑は平安時代中頃以後のものである。

## 6号土坑

CS-92グリッドに位置し、15号住居跡(平安時代)、25号住居跡(弥生時代)、10号土坑と重複するが当土坑が後出である。形態は隅円長方形を呈し、規模は長径1.76m、短径1.54m、深度0.72mである。出土遺物は弥生土器が若干みられるが重複する25号住居跡に供伴するものである。当土坑は重複関係や

埋没土の状況から平安時代中頃以後に想定される。

## 7号土坑

CY-94グリッドに位置し、17号住居跡(弥生時代)と重複しているが、当土坑が前出である。形態は楕円形を呈し、規模は長径約3.00m、短径1.82m、深度0.71mで底面に $\phi$ 5~8cmの小孔が数個みられ、当土坑は縄文時代の陥し穴である。

## 8号土坑

CT-93グリッドに位置し、10号住居跡(弥生時代)と重複しているが、当土坑が前出である。形態は楕円形を呈し、規模は長径2.05m、短径1.26m、深度0.66mで土坑中央に49×36×20cmの円礫が立てるように据えてある。当土坑は重複関係や埋没土から弥生時代より以前のものである。

## 9号土坑

CW~CY-90~94グリッドに位置し、11号・12号住居跡(弥生時代)と重複するが当土坑の方が前出である。形態は不整形を呈し、規模は長径17.60m、短径6.24m、深度1.17mである。当土坑の埋没土は、上位~中位にかけて黒褐色土で下位は暗黄褐色土であったため、壁面は明瞭であったが、底面については不明瞭であった。当土坑からは、縄文土器(前期諸磯式期)や石器の出土がみられる。

## 10号土坑

CT-93グリッドに位置し、25号住居跡(平安時代)、6号土坑と重複するが当土坑が前出である。形態は隅円長方形を呈し、規模は長径2.5m、短径1.28m、深度0.66mである。出土遺物は全くみられなかったが、重複関係や埋没土から弥生時代以前のものであると想定される。

## 11号土坑

CT-88グリッドに位置する。形態・規模は円形を呈し、径1.35mほどの円筒形で深度0.68mで、底面はほぼ平坦である。出土遺物は全くみられなかったが、埋没土から弥生時代以前のものであると想定される。

## 13号土坑

CT-91グリッドに位置し、27号・28号住居跡(弥

生時代)と重複するが当土坑が後出である。形態は不整形を呈し、規模は長径1.53m、短径1.14m、深度0.44mである。出土遺物は全くみられなかったが、重複関係や埋没土から弥生時代のものであると想定される。

五反田地区1号集石

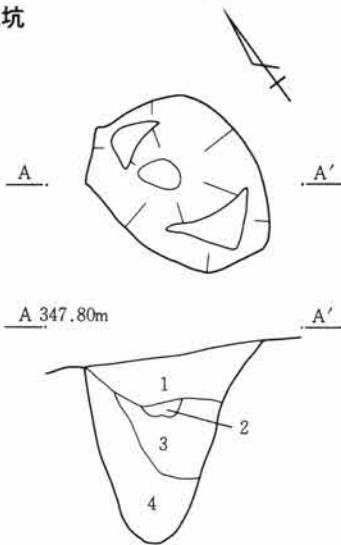
BF-40グリッド、水田跡が検出された平坦面から埋没沢に移行する傾斜地に位置する。約2.00×1.20mの範囲に径3～40cm大の円礫を129点集めており、その中心部には弥生土器を置いていたようで

ある。また、集石の下には掘り込みは確認されなかった。

1号列石

CP-91グリッド、台地南側の傾斜地への移行する部分に位置し、表土層下の浅間B軽石(As-B)を多量に含む黒色土層下位よりほぼ1列に配した状態で検出された。検出された礫は35点で円礫が中心である。その石材は石英閃緑岩、安山岩、流紋岩、輝緑岩、ひん岩、砂岩など多種に及んでいる。また、礫の中には石器も3点見られた。

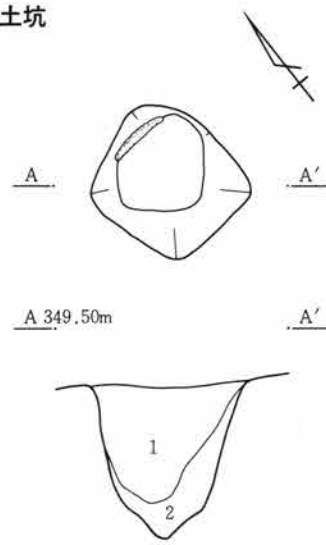
1号土坑



1号土坑

- 1 黒色土 As-Bが主体を占める。
- 2 におい黄褐色土 若干の粘性があり、As-Bを20%含む。
- 3 黒色土 1と同様、φ5mmの橙色粒子を1%含む。
- 4 褐色土 粘性があり、ローム粒を5%含む。1号地割れ埋土。

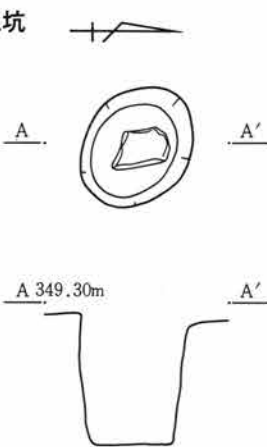
2号土坑



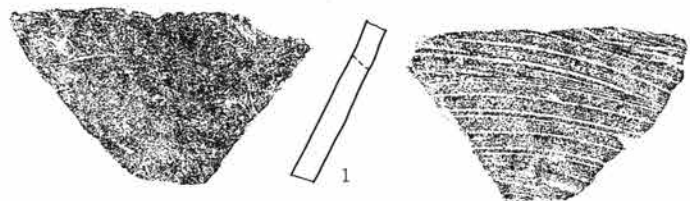
2号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒子を10%ふくむ。
- 2 黄褐色土 ローム土の崩壊によるもの。

4号土坑

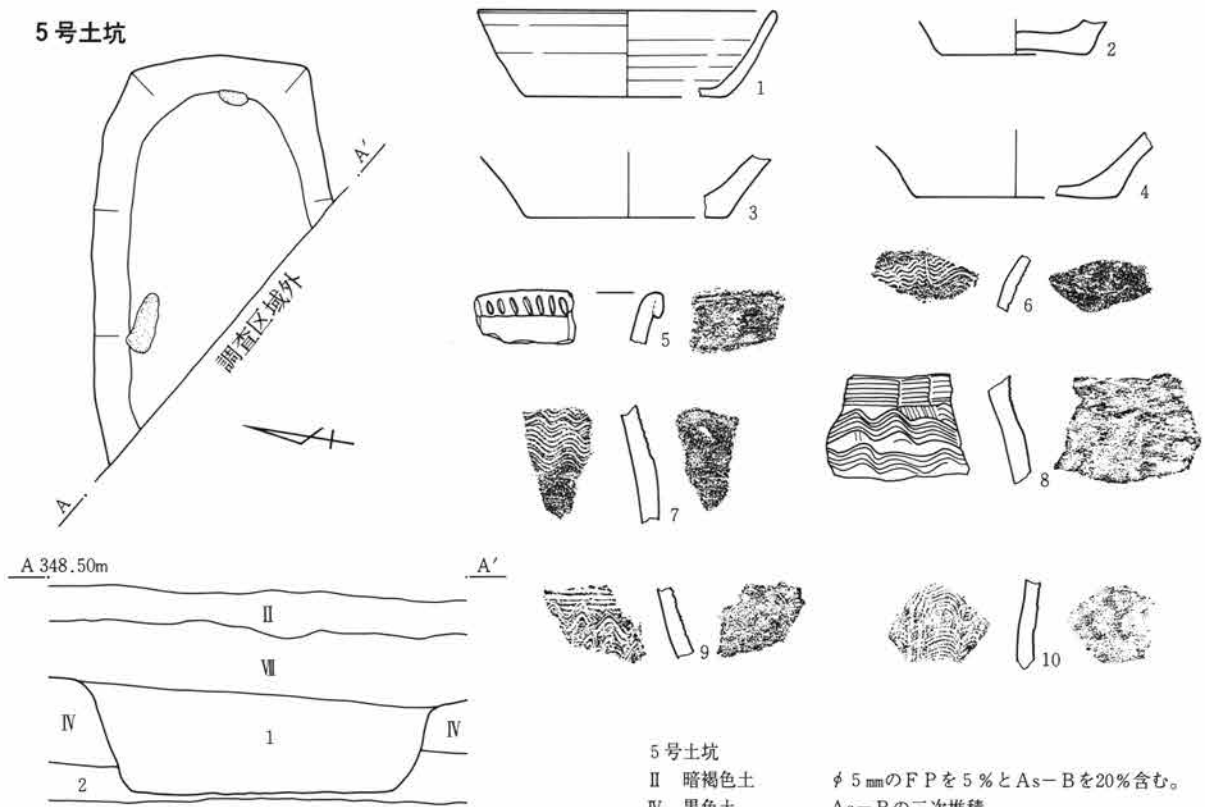


0 1m



第183図 1号・2号・4号土坑

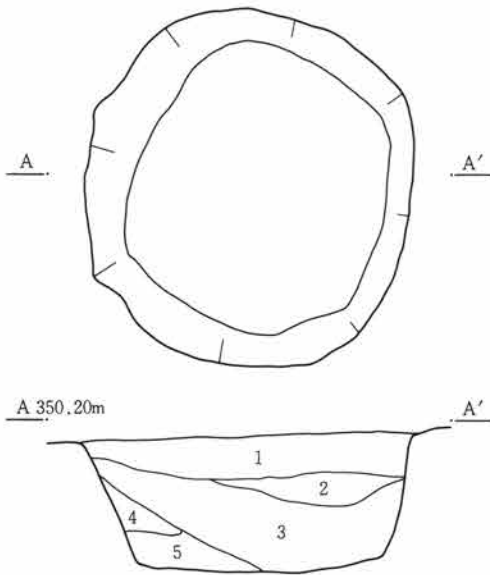
5号土坑



5号土坑

- II 暗褐色土  $\phi$  5mmのFPを5%とAs-Bを20%含む。
- IV 黒色土 As-Bの二次堆積。
- VI 黒褐色土  $\phi$  10~50mmのFPを20~40%含む。
- 1 VIと同様。
- 2 にぶい黄褐色土 ローム土と暗褐色土の混土、張床土、31号住居。

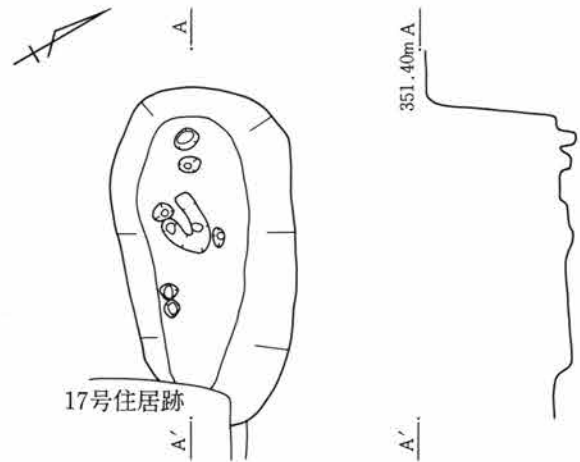
6号土坑



6号土坑

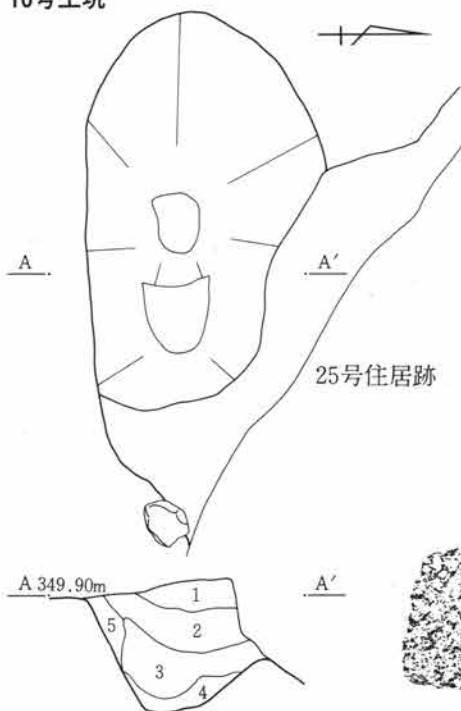
- 1 黒褐色土 FPを多量に含む。
- 2 赤褐色土 焼土層、FP細粒、褐色粘質土が混入する。
- 3 黒色土 As-Bを多量とFP細粒を含む。
- 4 黒褐色土 粘質があり、FP細粒を若干含む。
- 5 黒色土 3と類似するが、FPの混入が多い。

7号土坑



第184図 5号~7号土坑

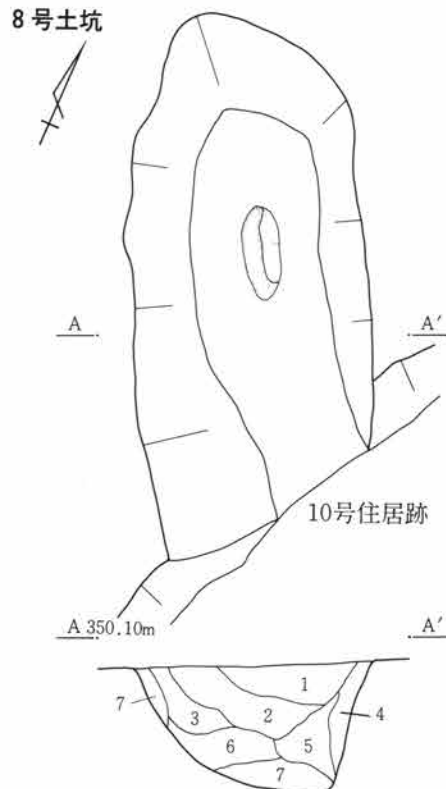
10号土坑



10号土坑

- 1 黒色土 粘土質、 $\phi$  2~3mmの白色軽石粒を1~2%含む。
- 2 黒色土 1に類似、1より軽石粒が少ない。
- 3 黒色土 1・2に類似、軽石粒なし、ローム粒を3~4%含む。
- 4 黒色土 ローム粒を5%と黒色砂を5%含む。
- 5 にぶい黄褐色土 ローム粒・ロームブロックを10%含む。

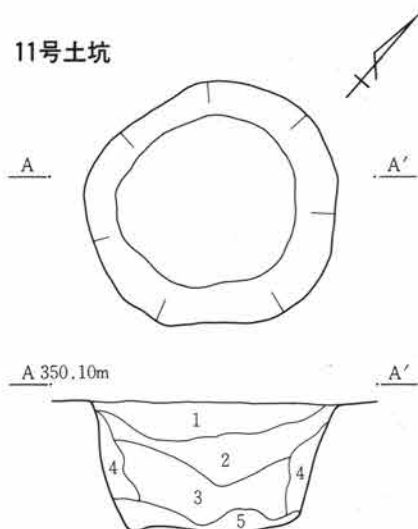
8号土坑



8号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・ローム小ブロックを5%含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒2~3%、炭化物1%を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒・ローム小ブロックを5%含む。
- 4 黄褐色土 ローム粒・ロームブロックを20%含む。
- 5 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックを10%含む。
- 6 にぶい黄褐色土 ローム粒・ロームブロックを30%含む。
- 7 黄褐色土 ローム主体、黒褐色土をしみ状に含む。

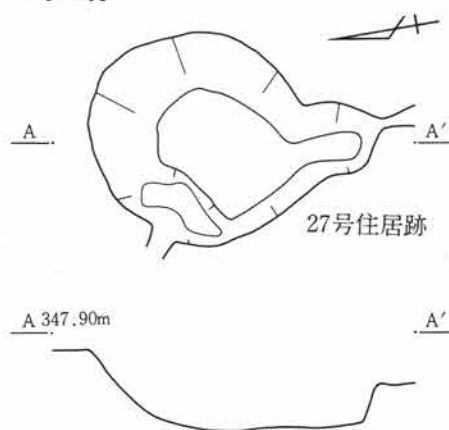
11号土坑



11号土坑

- 1 暗褐色土  $\phi$  1~2mmの白色軽石粒、橙色粒を1%含む。
- 2 暗褐色土 1に類似、橙色粒を2~3%含む。
- 3 暗褐色土 1・2に類似、ローム粒・ローム小ブロックを5%含む。
- 4 にぶい黄褐色土 ローム粒・ロームブロックを10~20%含む。
- 5 にぶい黄褐色土 4より黄色味の強いローム粒・ロームブロックを20%含む。

13号土坑

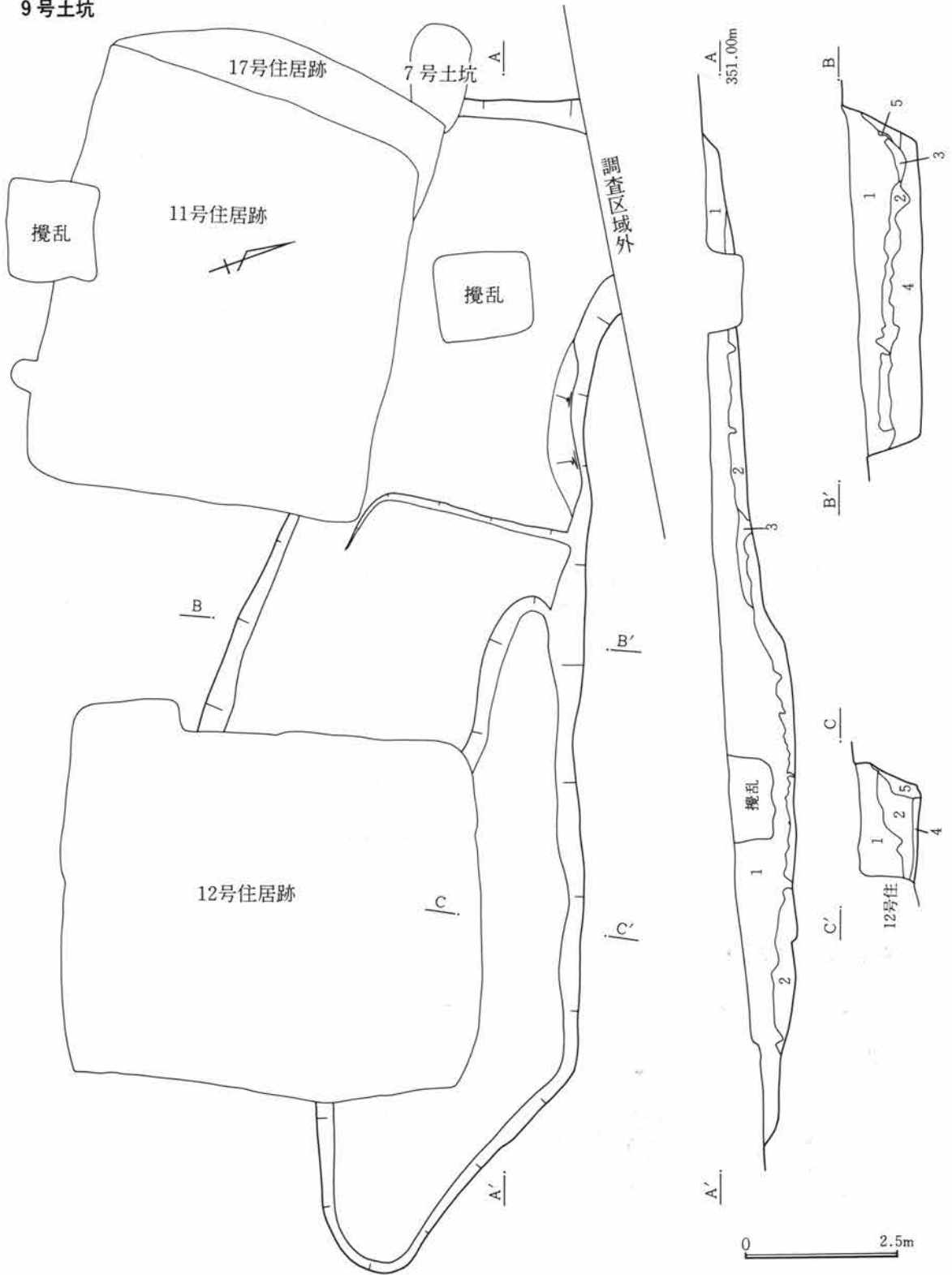


0 1m

第185図 8号・10号・11号・13号土坑



9号土坑

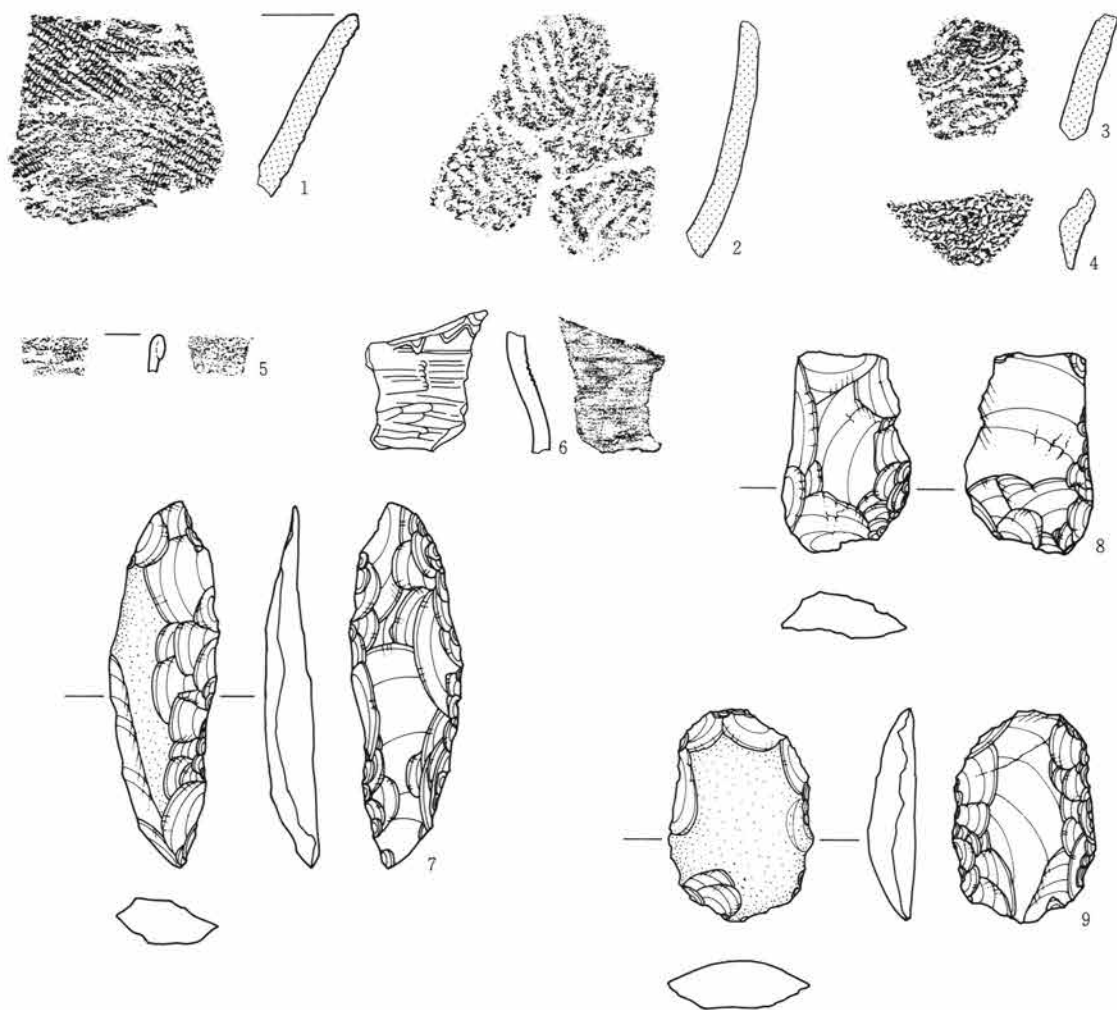


9号土坑

- 1 黒褐色土      ローム粒を極少量含み、上から下に淡い色調になる。
- 2  にぶい黄褐色土      ロームブロックを30%程度含む。

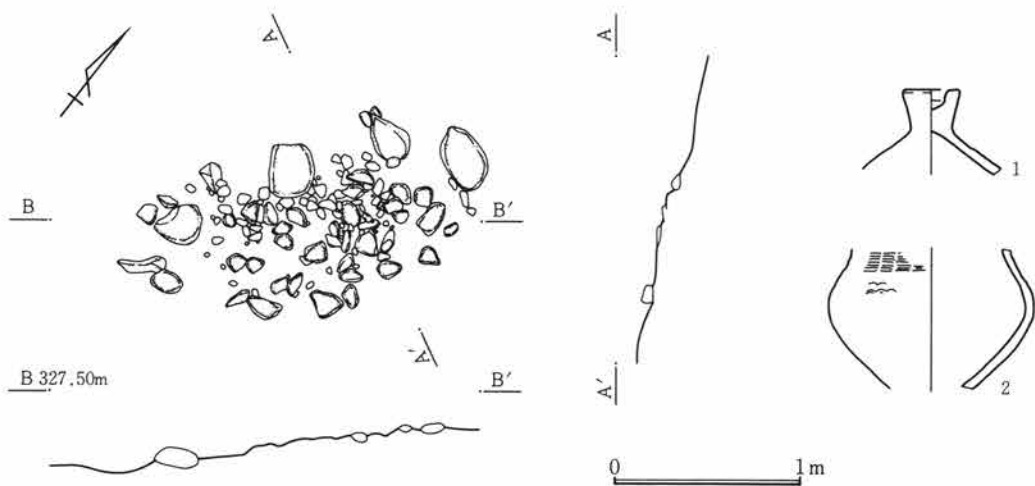
- 3  にぶい黄褐色土      2より黒い色調を呈し、ロームブロックは少ない。
- 4  黄色土              ロームブロックと黒色土を含む。
- 5  ローム崩落。

第186図 9号土坑



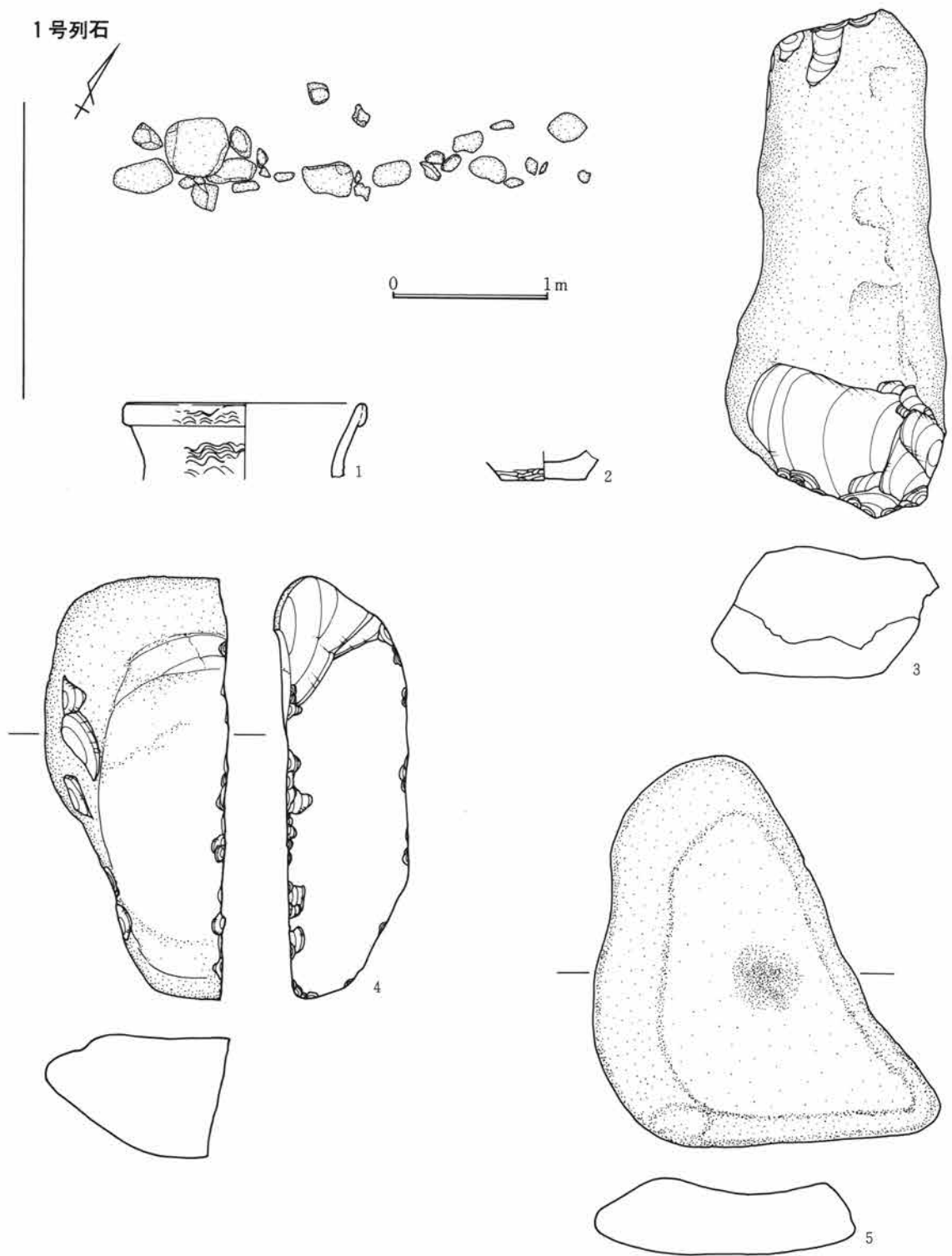
第187図 9号土坑出土遺物

五反田地区 1号集石



第188図 五反田地区1号集石

1号列石



第189图 1号列石

### 3. 陥没・地割れ

#### 1号陥没

DF-92グリッドに位置し、形態は楕円形を呈する。規模は径2.80×2.40mで確認面より深さ約2m下は礫層に達し、埋没しておらず空洞化した部分が見られる。

#### 1号地割れ

DE~DG-93~98グリッドに位置し、形態は東西に細長い溝状で断面はほぼV字状を呈す。規模は全長18.2m、最大幅4.0m、深度2.0m前後である。北半分は陥没したところへ周辺や上部より土砂が流入した様子が窺えるが、土層断面C-C'付近では陥没、土砂流入後さらに下層の礫層の空洞化した部分に流出した様子が窺える。

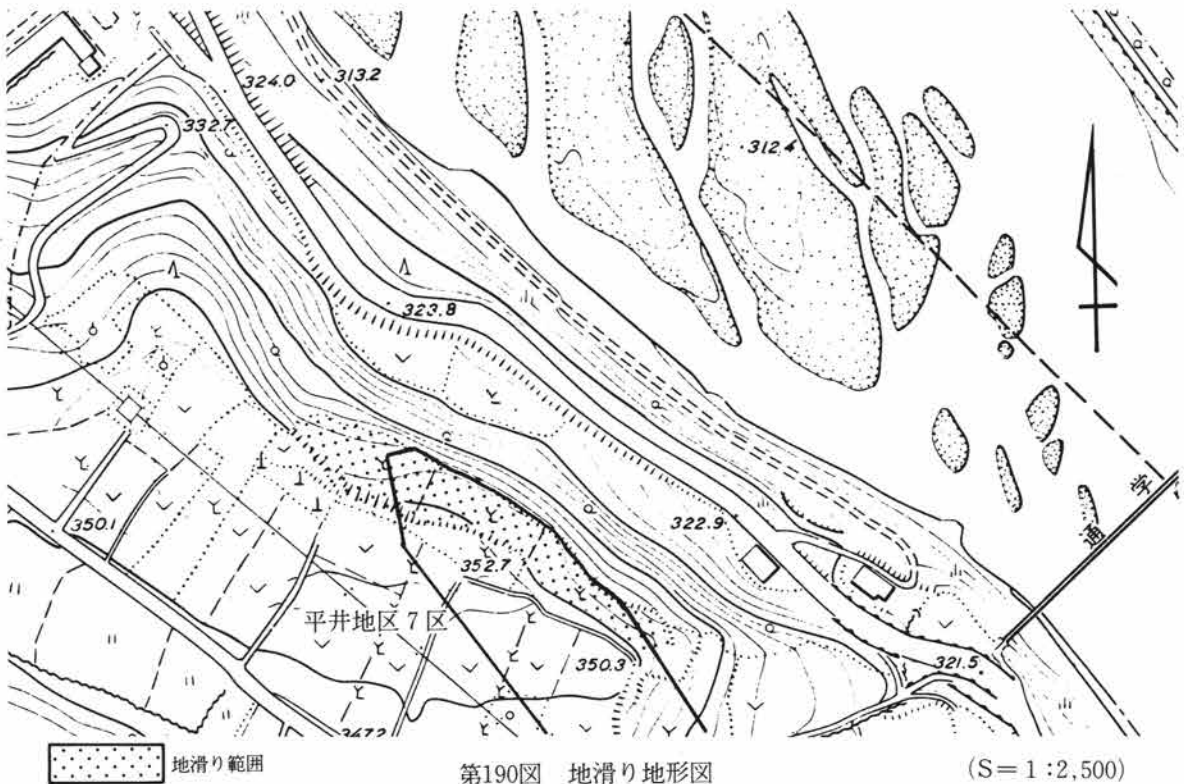
#### 2号地割れ

DC~DE-90~92グリッドに位置し、1号土坑と6号溝と重複するが当陥没・地割れのほうが古いものである。形態は不整形の土坑が2基合わさったようなもので、規模は全長8.8m、最大幅2.9m、深度は東側部分はやや浅く0.5m前後であるが、西側

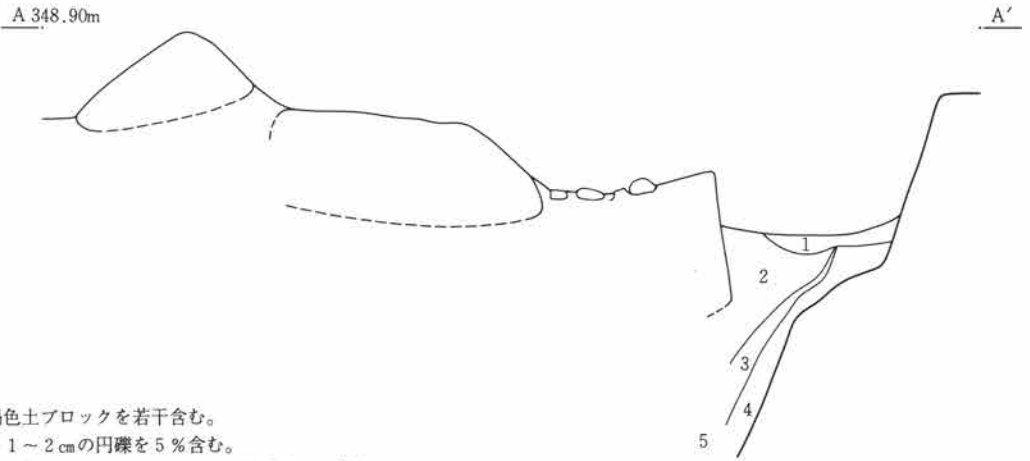
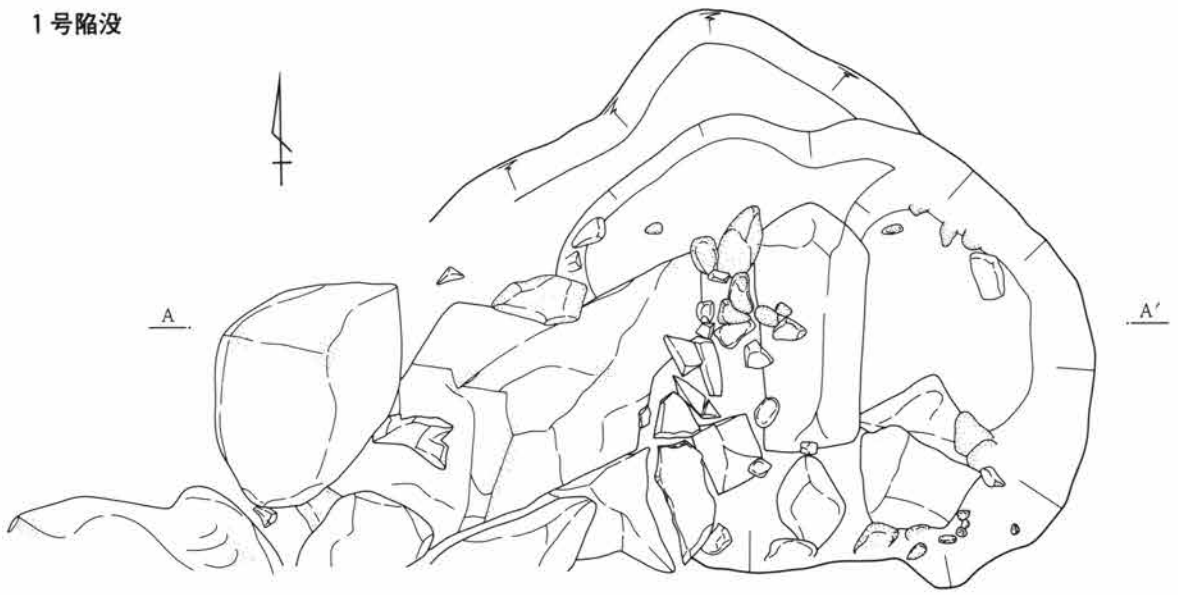
の中央付近は礫層まで達しており、礫層の空洞化した部分が見られる。

これらの陥没・地割れ跡は、台地北側のテラス部分の南側崖下にそってみられ、このテラス部分については、通商産業省工業技術院地質調査所近畿・中部地域地質センター主任調査員寒川 旭氏よりこの面は、上流部が下流部より低いことから河岸段丘ではなく、また、テラス南側崖面に礫層が露出していることから台地とテラス部分は以前は同一面で地滑りの結果によるものであるとのご教授を受けた。また、台地上の確認面下での試掘坑の土層断面の砂礫層でも小規模な地滑りの痕跡がみられた。

地滑りの起きた年代については、埋没土中には弥生土器片、石器が数多く含まれていることや1号住居跡に地滑りの影響がみられること、埋没土中に浅間B軽石(A<sub>s</sub>-B)やFP等のテフラがみられないことから古墳時代の早い時期に起こったと推定される。



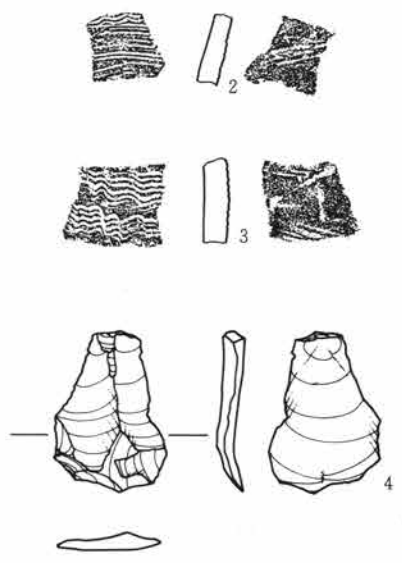
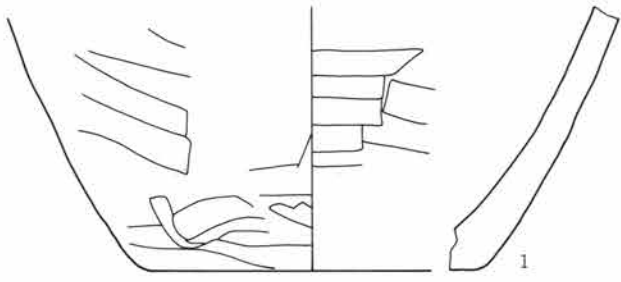
1号陥没



1号陥没

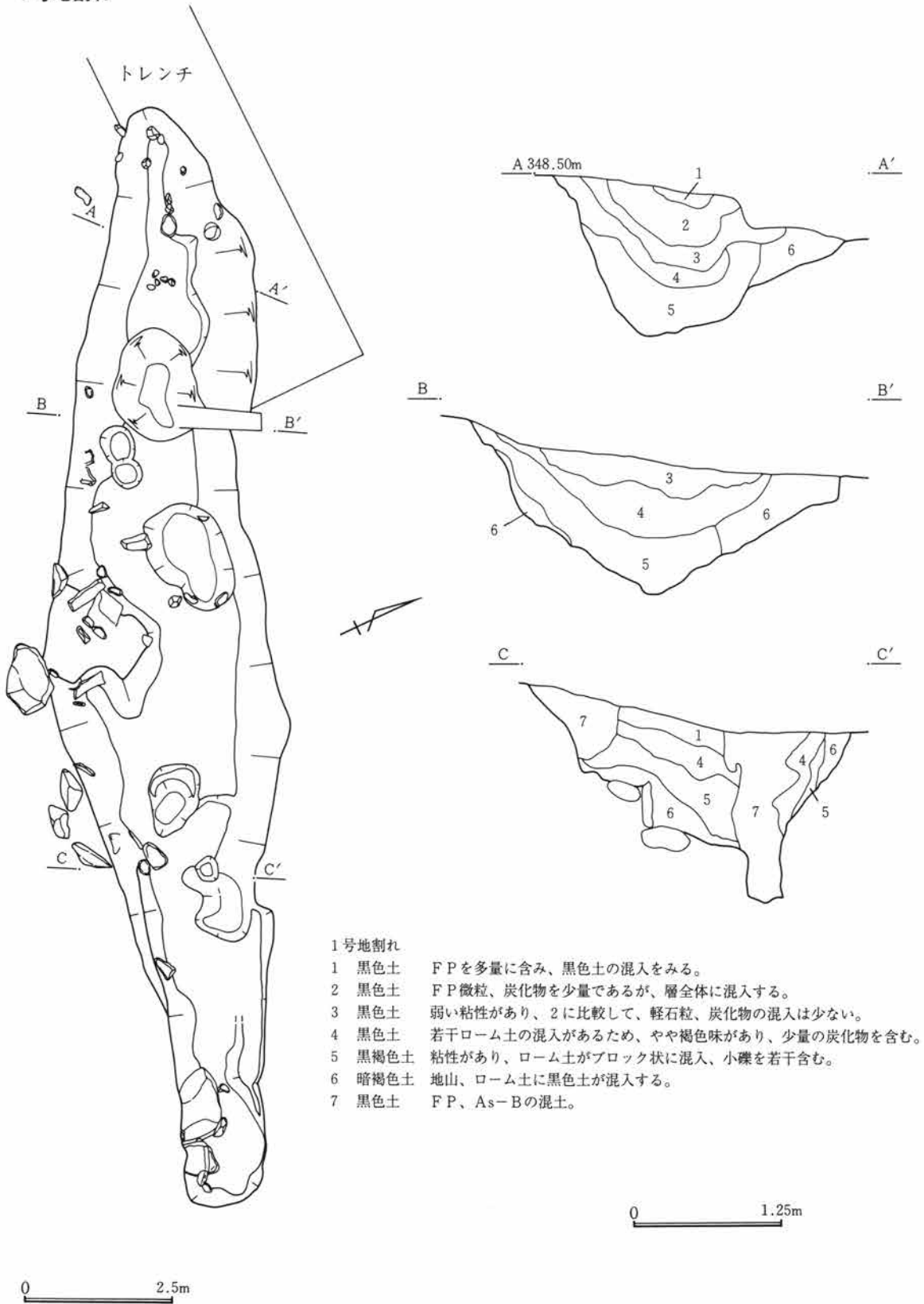
- 1 黄褐色土 褐色土ブロックを若干含む。
- 2 黒褐色土 φ 1~2 cmの円礫を5%含む。
- 3 暗褐色土 やや粘性があり、φ 2~3 cmの円礫を1%含む。
- 4 褐色土 砂質土、黒色土を若干含む。
- 5 褐色砂

0 1 m



第191図 1号陥没

1号地割れ

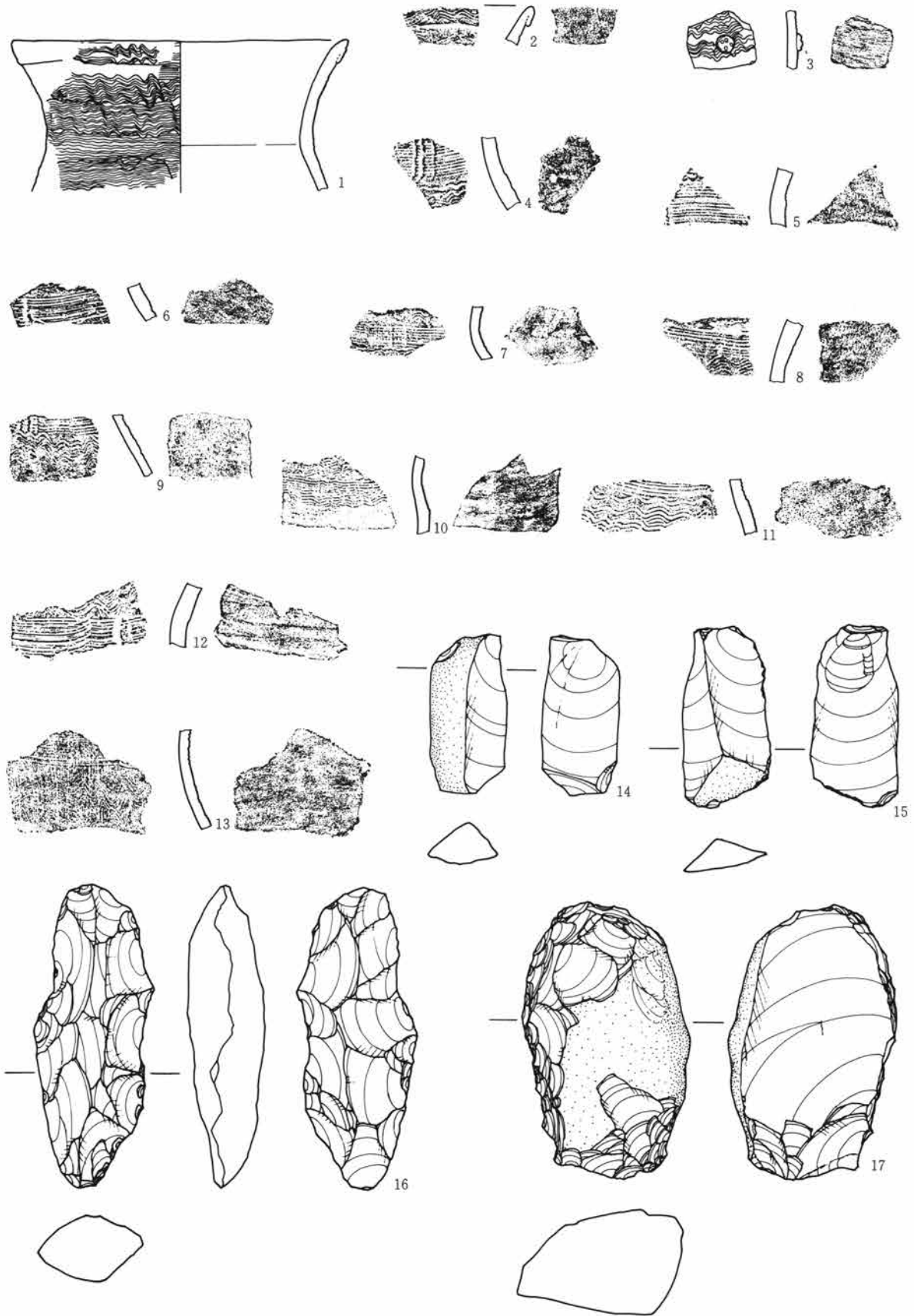


1号地割れ

- |   |      |                                    |
|---|------|------------------------------------|
| 1 | 黒色土  | FPを多量に含み、黒色土の混入をみる。                |
| 2 | 黒色土  | FP微粒、炭化物を少量であるが、層全体に混入する。          |
| 3 | 黒色土  | 弱い粘性があり、2に比較して、軽石粒、炭化物の混入は少ない。     |
| 4 | 黒色土  | 若干ローム土の混入があるため、やや褐色味があり、少量の炭化物を含む。 |
| 5 | 黒褐色土 | 粘性があり、ローム土がブロック状に混入、小礫を若干含む。       |
| 6 | 暗褐色土 | 地山、ローム土に黒色土が混入する。                  |
| 7 | 黒色土  | FP、As-Bの混土。                        |

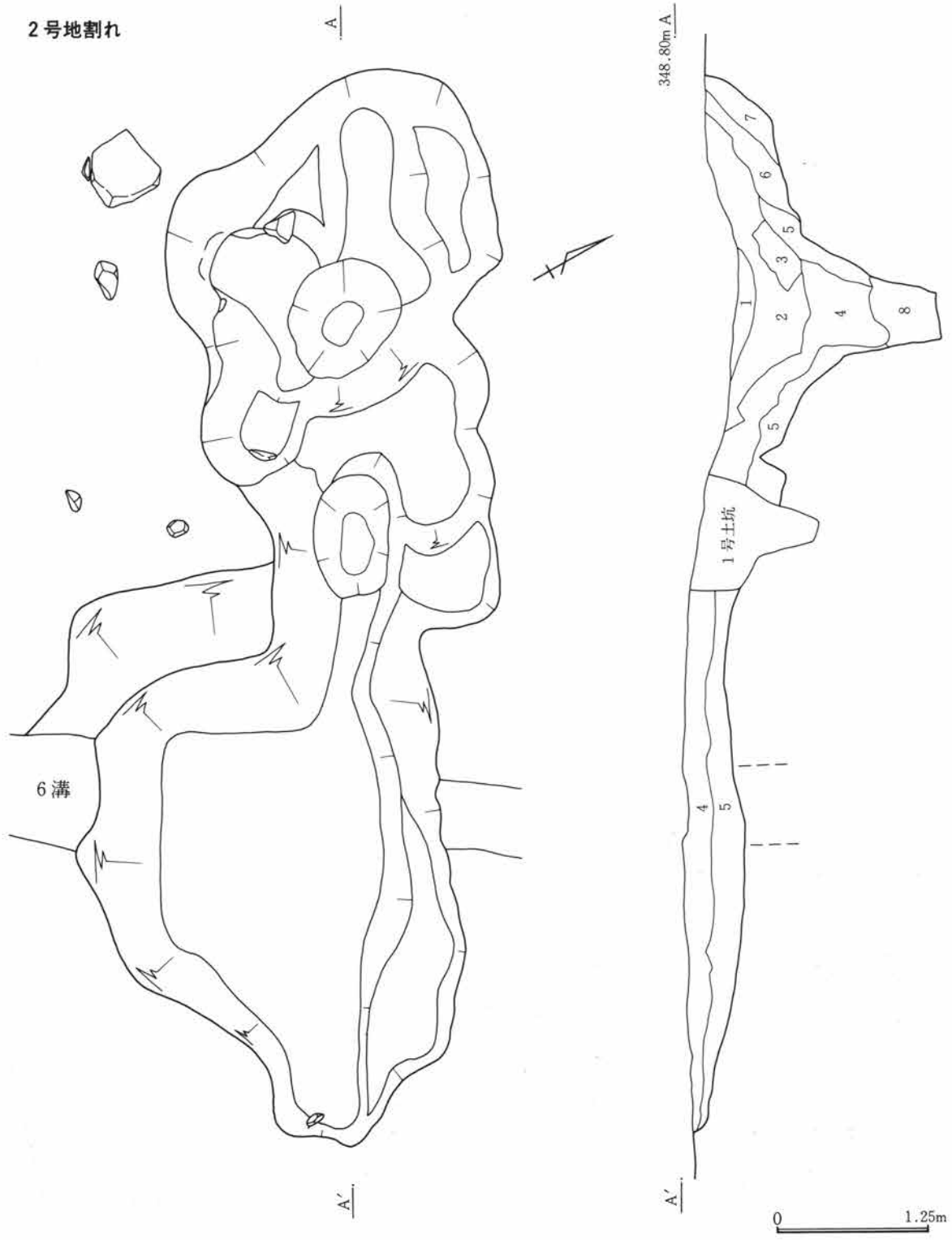
第192図 1号地割れ

3. 陥没・地割れ跡



第193図 1号地割れ出土遺物

2号地割れ



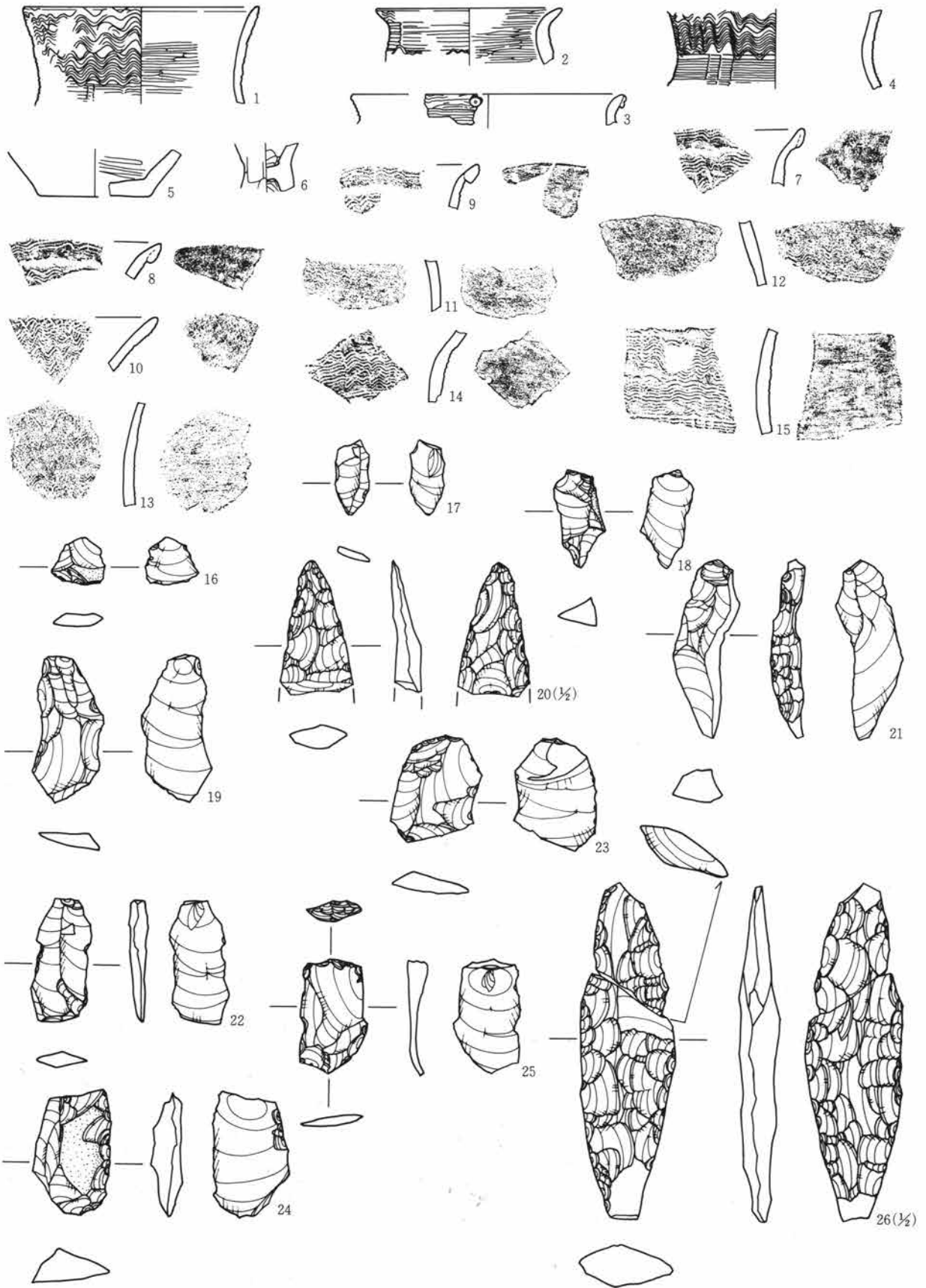
2号地割れ

- 1 FP層  $\phi 8 \sim 50\text{mm}$ .
- 2 黒褐色土 砂粒、ローム粒と炭化物を多く含む。
- 3 黒褐色土 粘土化がみられ、やや灰色味を有し、鉄分沈着がみられ、混入物は2と同様である。

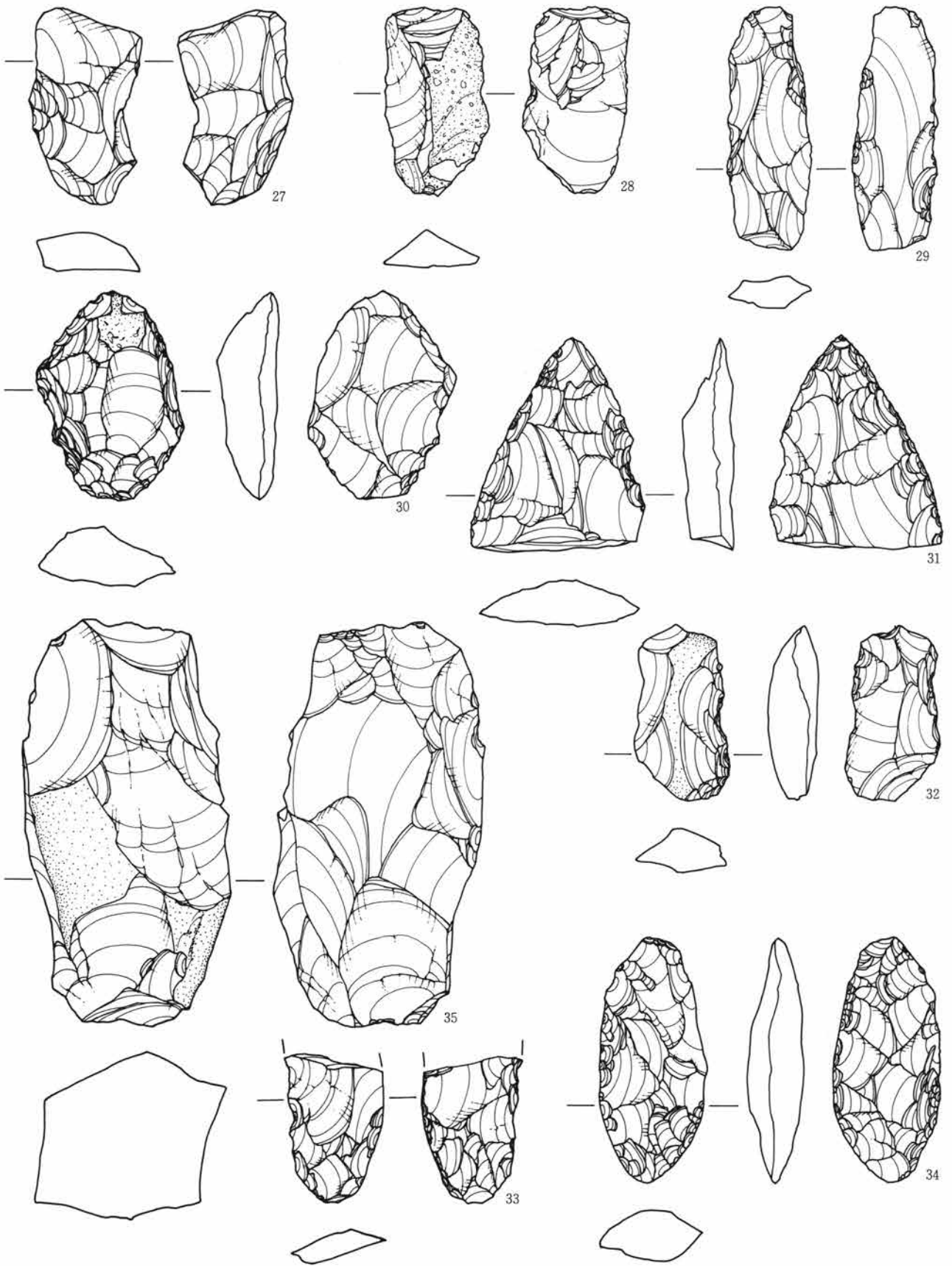
- 4 黒褐色土 2と同様であるが、炭化物の混入が少ない。
- 5 極暗褐色土 粘質土、多量のローム土と若干の砂粒が混入する。
- 6 暗褐色土 粘質土、ローム土がブロック状に多量に含まれる。
- 7 極暗褐色土 ローム土が少量含まれる。
- 8 黒褐色土 3と同様。

第194図 2号地割れ





第195図 2号地割れ出土遺物(1)



第196図 2号地割れ出土遺物(2)

## 4. 溝

溝跡は、平井地区で12条検出されたが、そのうち2条は陥没、地割れによるもので(P200~206参照)、また2号、5号、7号、9号溝は近現代の耕作跡によるものである。

## 1号溝

4区CG-73~CG-77グリッドに位置する。当溝は4区Ⅲ層(As-B)上面にて検出され、溝の両側とも確認面より上部でのびるようである。規模は調査された部分で全長17.00m、幅は最狭0.48m、最大0.88m、深度7~12cmである。

埋没土はAs-Bを多く含む黒色土で覆われている。遺物の出土は見られない。

## 10号溝

3区BS-73~BV-70グリッドに位置する。当溝は3区Ⅲ層上面にて検出され、As-B層下水田跡耕土層を切っている。また、両側とも調査区外にのび、途中1カ所途切れる部分がみられるが連続するものである。調査区内での全長は18.30m、幅0.42~0.90m、As-B水田跡耕土面からの深度は5~11cmである。

埋土はAs-Bを多量に含む黒褐色土で覆われている。遺物の出土は見られない。

## 11号溝

3区CB-71グリッドに位置する。当溝は3区Ⅲ層上面にて検出され、As-B層下水田跡耕土層を切っている。当溝は調査区内では極一部しか存在しないため詳細は不明であるが幅1m前後、深度10~14cmである。

埋土は10号溝と同様で遺物の出土は見られない。

## 12号溝

4区CF-76、CG-75・76グリッドに位置する。当溝はFP層下水田跡耕土面で確認され、FP層下

水田と同じ時期のもので水田への引水のための水路と推定され、斜面に平行するように掘られている。確認できた全長は7.20m、幅は0.50~0.70m、深度13~15cmである。

埋土はFPで覆われ、遺物の出土は見られない。

## 13号溝

2区BM-69~BN-65グリッドに位置する。当溝はFP水田跡のアゼを切っている。また、両側とも調査区外にのび、途中1カ所途切れる部分がみられるが連続するものである。調査区内の全長は16.50m、幅0.22~0.48m、深度10cm前後である。

埋土はFPの混じった黒褐色土である。遺物の出土は見られない。

## 6号溝

7区DC-91~DE-90に位置し、段丘の崖にむけて直線的にのびる。西側部分については不明である。当溝は1号地割れと重複するが、1号地割れが完全に埋没した後掘られている。規模は調査区内での全長は8.60m、幅は0.55~0.90m、深度20cm前後である。

埋土はFPが混入した黒褐色土である。遺物の出土は見られない。

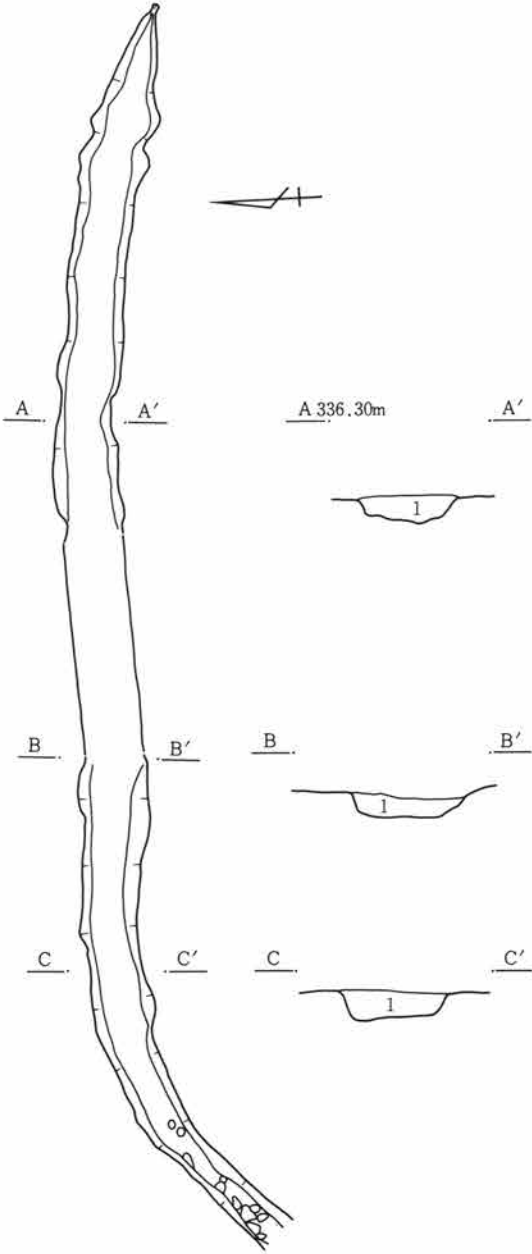
## 8号溝

7区CP-89~CP-86グリッドにかけて位置する。10号住居跡と重複するが当溝のほうが後出である。溝は直線的に掘削されており、断面は逆台形を呈す。規模は調査区内で19.20m、幅0.55~0.90m、深度80~95cmである。

埋土はFPを僅かに含む褐色土で遺物の出土は見られない。

溝

1号溝

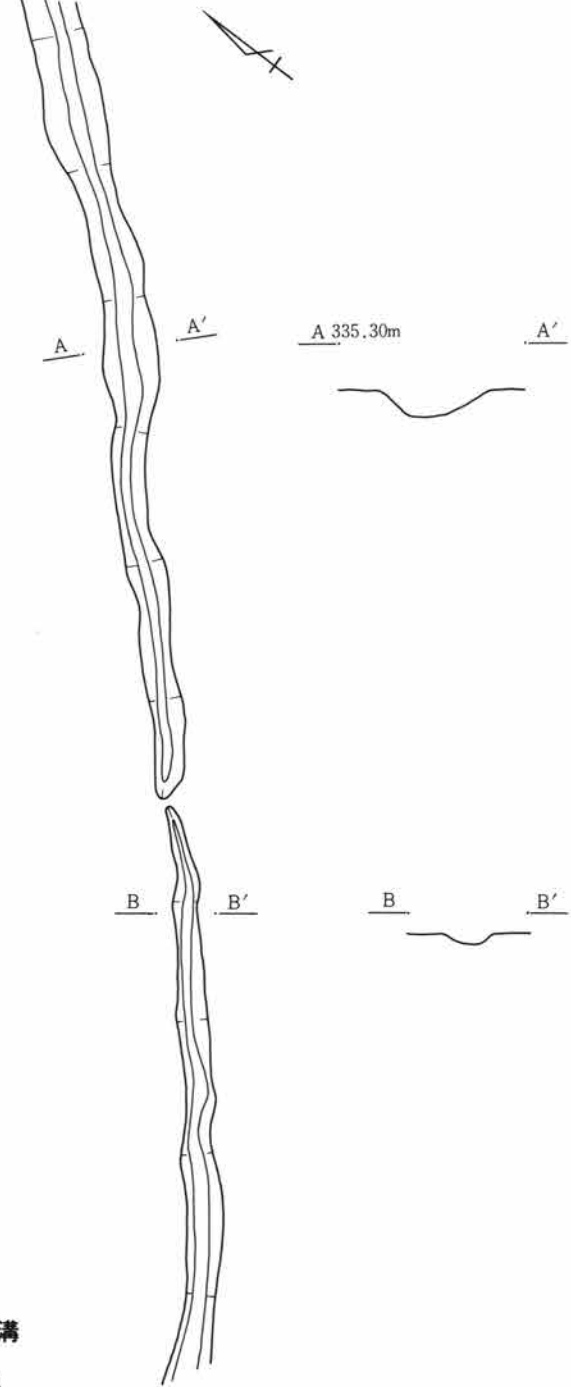


1号溝

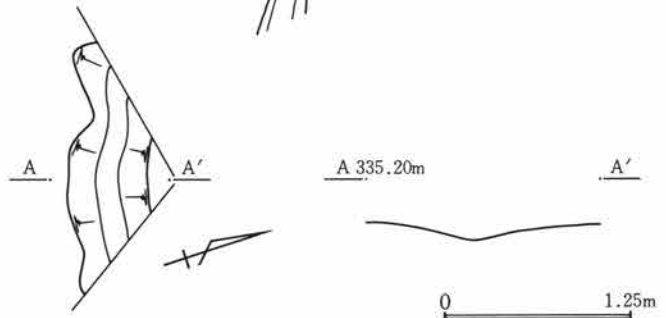
1 灰褐色砂質土 As-Bの崩落による埋没土?、FPφ2  
~5mmの粒を1%含む。

0 2.5m

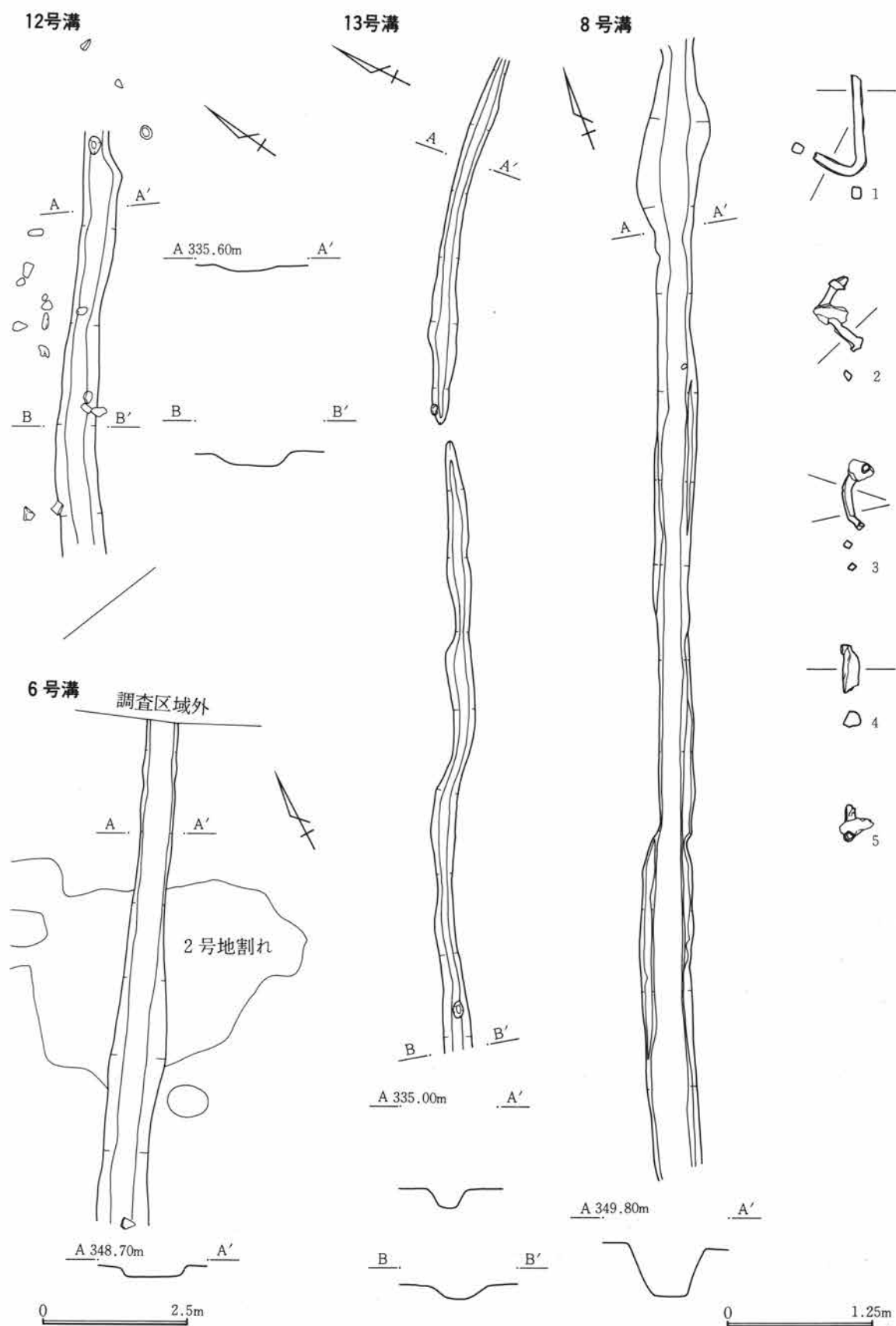
10号溝



11号溝



第197図 1号・10号・11号溝



第198図 6号・8号・12号・13号溝

## 5. 水田跡

### 1. 概要

下川田下原遺跡と下川田平井遺跡7区の間の谷地部分は当初遺跡として認知されていなかったが、後記の試掘調査により水田跡が検出された。

検出された水田跡は、五反田地区と平井地区1区～4区でテフラ層下および氾濫層下からである。

五反田地区では、As-B層、氾濫層(IVa層)、FP層によって埋没したもので、平井地区ではAs-B層とFP層によるものである。

五反田地区As-B層下水田跡は、As-B層の堆積が6～8cm程度と少なく、地点によっては後世の耕作などの影響のためあまり良好な状態ではない。確認された水田区画の枚数は、88枚で1枚当たりの面積は25m<sup>2</sup>～3m<sup>2</sup>と差がみられ、地形に合わせて造作されている。IVa層下水田跡は、五反田地区の西側台地縁辺より流れだし五反田地区と平井地区の字境にあたる現道路の北側を沿って流れる沢(調査区内の1号埋没沢)の氾濫によって埋没したものであると想定される。また、氾濫後の復旧が早かったのか水田跡が検出された範囲も五反田地区の中央部の僅かで、確認された水田区画の枚数は59枚とAs-B層下水田跡、FP層下水田跡に比べて少ない。また、1枚当たりの面積はほぼAs-B層下水田跡と同様である。FP層下水田跡は、調査区の西側で検出された埋没沢の東側全面で検出され、残存状態もFPの堆積が10～15cmとAs-Bより多いためアゼの状態も割合と良好であった。確認された水田区画の枚数は、221枚で1枚当たりの面積は49m<sup>2</sup>～0.4m<sup>2</sup>と差が激しくAs-B層下水田跡より地形に影響を受けた造作がされている。

平井地区As-B層下水田跡は、1区と3区・4区の2地点に区分される。残存状態は、五反田地区と同様である。また、2区では、As-Bが後世の耕作によって攪拌されてしまっているため確認されなかったが、3区・4区の水田跡が2区まで広がると想定される。水田区画の枚数は、1区が34枚、1

枚当たりの面積は6m<sup>2</sup>～2m<sup>2</sup>である。3区・4区が141枚、1枚当たりの面積は22m<sup>2</sup>～1m<sup>2</sup>で五反田地区と同様に地形に合わせて造作されている。FP層下水田跡もAs-B層下水田跡と同様に1区と2区～4区の2地点西側に区分される。残存状態は、五反田地区と同様に割合と良好であった。確認された水田区画の枚数は、1区が22枚、1枚当たりの面積は17m<sup>2</sup>～1m<sup>2</sup>である。2区～4区は、207枚、1枚当たりの面積は18m<sup>2</sup>～1m<sup>2</sup>で五反田地区と同様に地形に合わせて造作されている。

### 2. 試掘調査の概略と水田跡の堆積土

#### 試掘調査

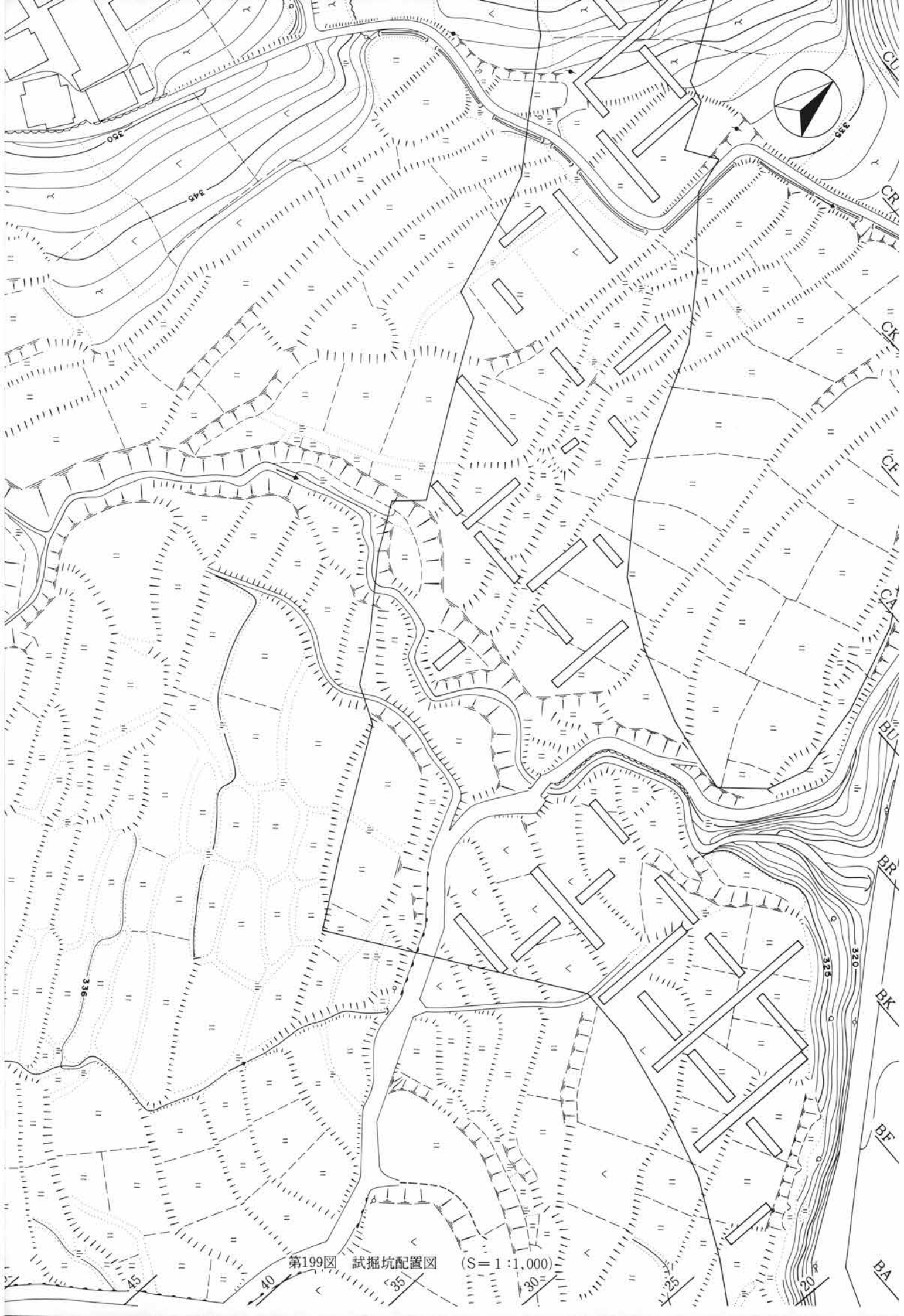
試掘調査は、調査の経過に記載されているように1988年9月～11月にかけて実施された。試掘坑は、道路建設用地内の10%を予定し、ほぼ20mおきに2m幅の試掘坑を設定して遺構の有無を確認した。

試掘調査の結果、五反田地区では前述のような水田跡と1号埋没沢が確認され、平井地区では、台地部分で集落跡、谷地部分では前述のようにほぼ全面で水田跡が確認された。

#### 堆積土

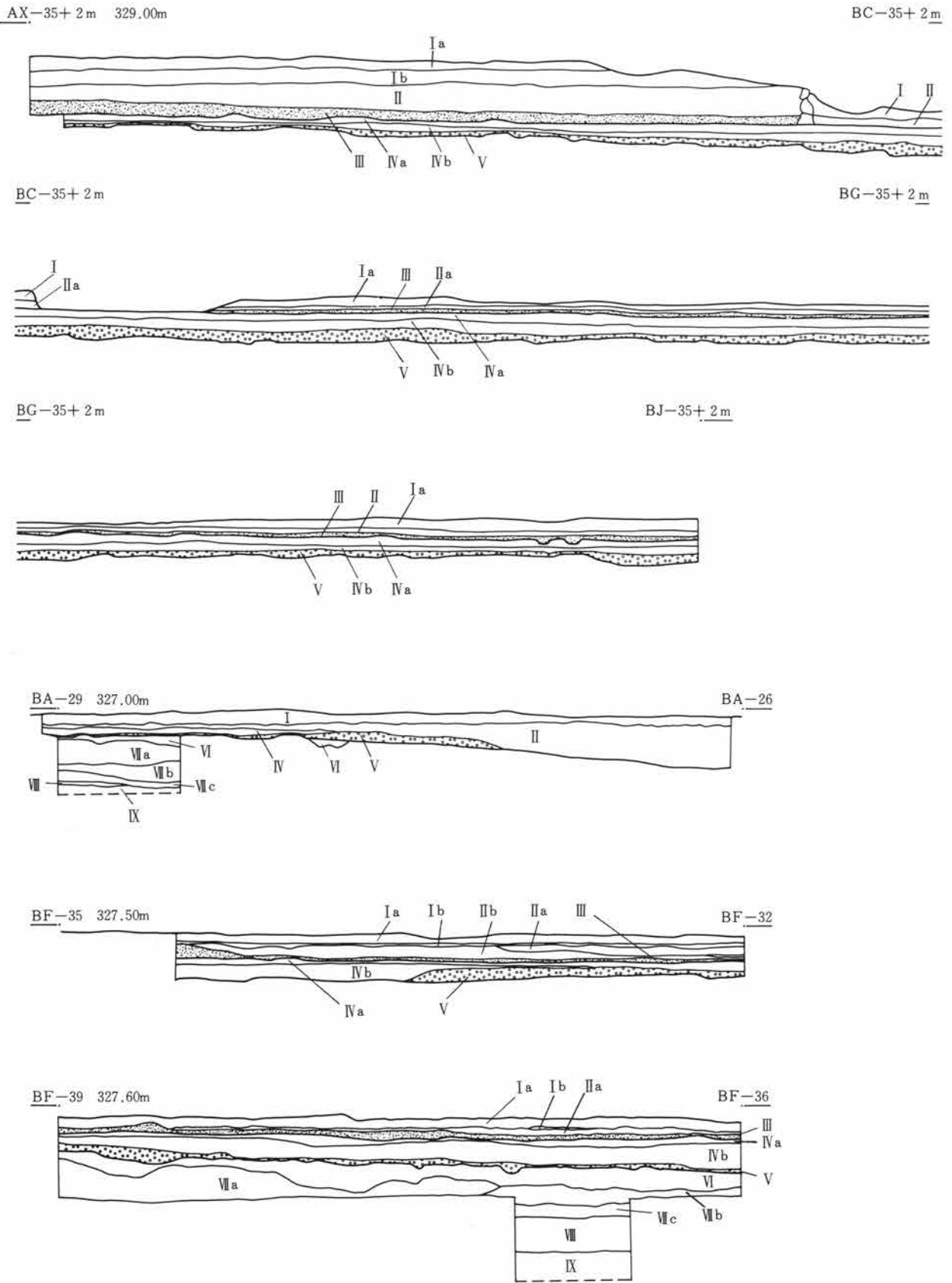
水田跡での堆積土は、五反田地区、平井地区ともに基本的には基本土層に記載されているように現地表面よりI層からVI層の堆積がみられる。Iは現水田耕作土でさらに耕作土、田床土等に分層できる。IIは灰褐色土でAs-Bの含まれている量により2層に分層が可能であるが上層と下層の間でのアゼの確認はできなかった。IIIはAs-Bの純堆積層である。IVはAs-B層下水田跡の耕作土である黒褐色土でこの層も上下で2層に分層が可能で五反田地区の中央部付近では上層のIVa層下でアゼが確認でき、IVa層は沢の氾濫によって運ばれて来た土砂であると推定され、その下層のIVb層もIVa水田跡の耕作土である。VはFPの純堆積層である。VIはFP層下水田跡の耕作土で黒色土である。

なお、平井地区2区では、IIIのAs-BとIVa層上部は鋤き込まれたのか確認されなかった。



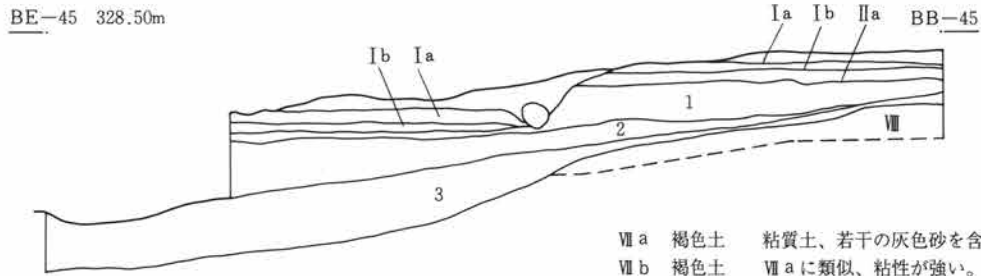
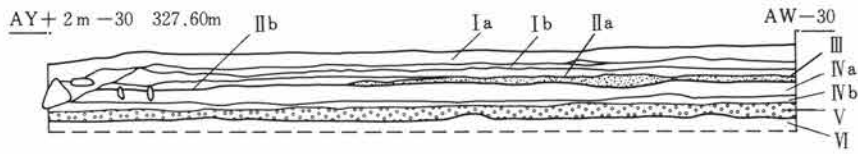
第199図 試掘坑配置図 (S=1:1,000)

第5章 下川田平井遺跡の遺構・遺物

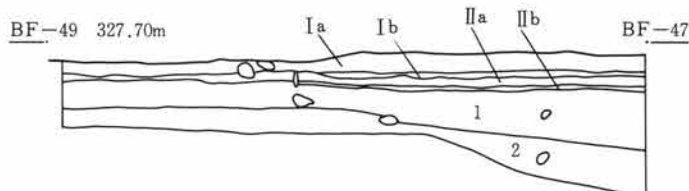
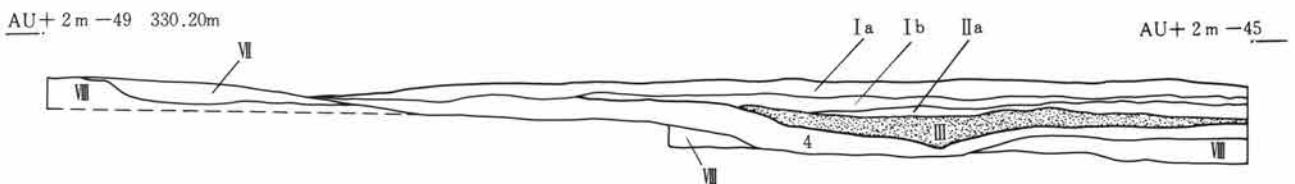
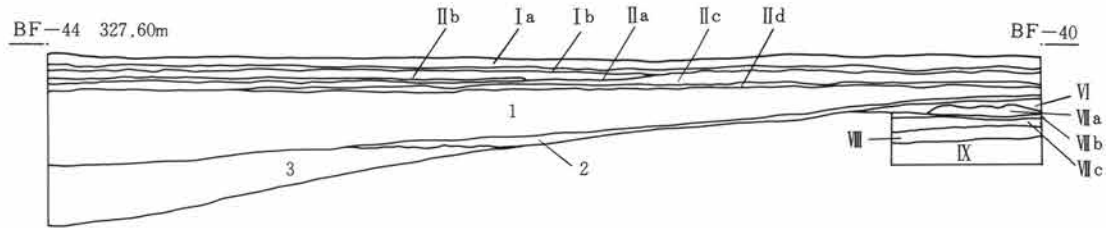


第200図 五反田地区試掘坑セクション図(1)

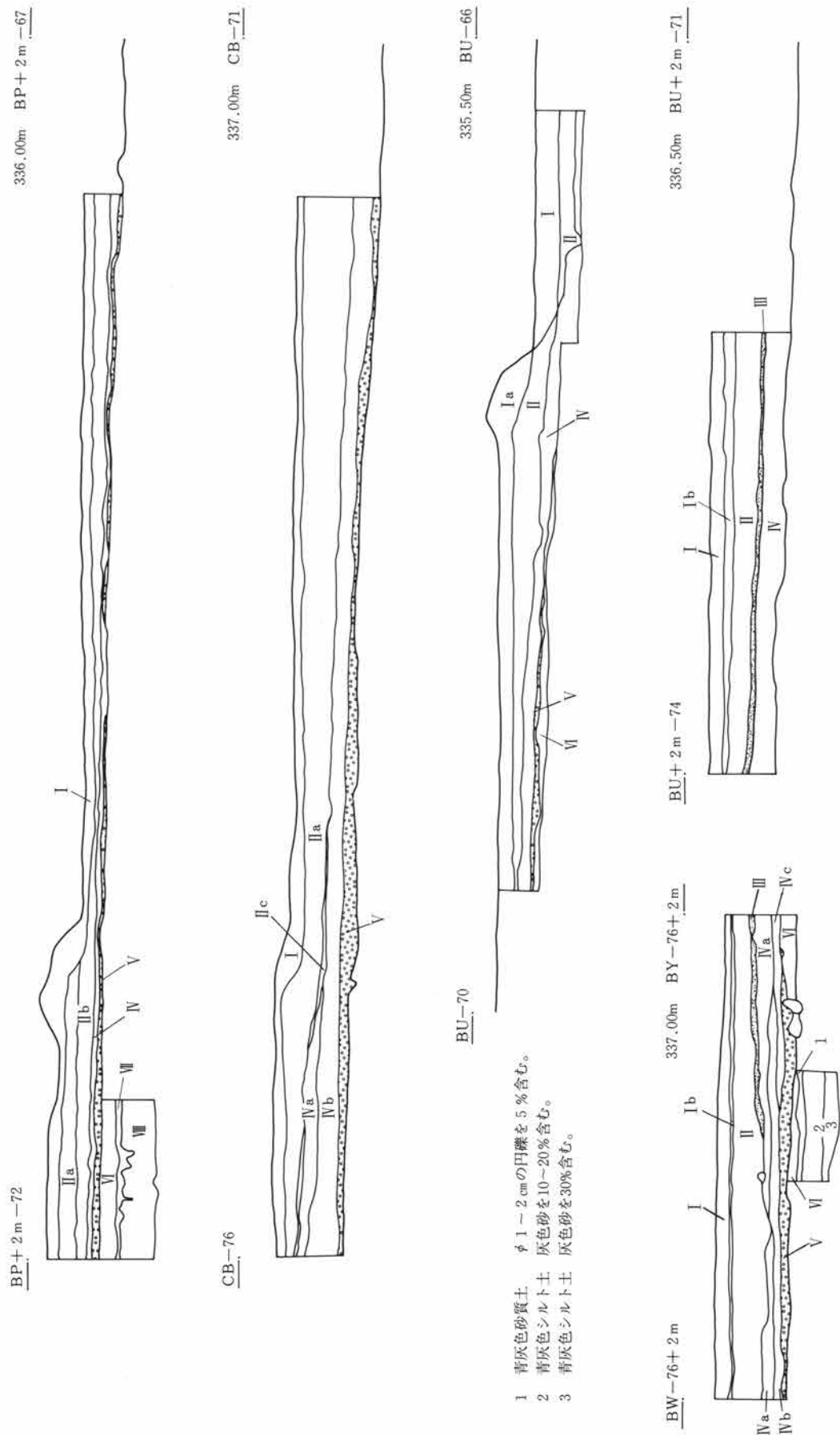




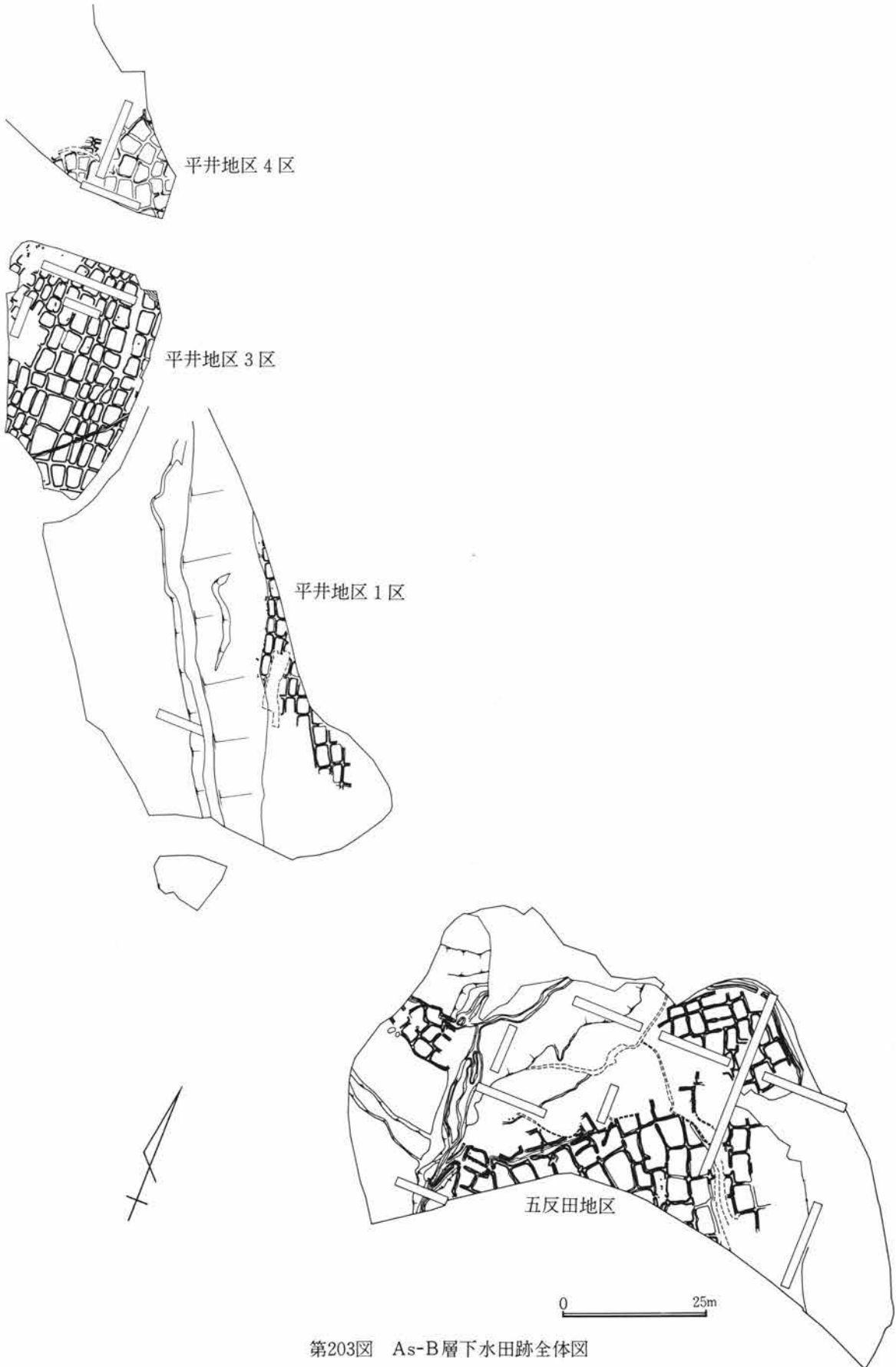
- VII a 褐色土 粘質土、若干の灰色砂を含む。
- VII b 褐色土 VII aに類似、粘性が強い。
- VII c 褐色土 VII bに類似、VII bより青色が強い。
- 1 黒褐色土 As-Bを50%とφ2~5mmのFPを5%含む。
- 2 黒褐色土 1に類似、1よりやや灰色がみでFPを10%含む。
- 3 黒褐色土 1、2に類似、2より灰色が強く、FPを20%含む。
- 4 黒褐色土 φ5~20mmのFPを30%含む。



第201図 五反田地区試掘坑セクション図(2)



第202図 平井地区試掘坑セクション図(3)



第203图 As-B層下水田跡全体図

### 3. 浅間B軽石（As-B）層下水田跡

#### （1）五反田地区

##### ①被覆層と水田の残存状態

水田跡は、直接As-Bで覆われている。As-Bは、厚いところでも15cmで平均6～8cmである。水田は、調査区西よりの1号埋没沢の東側と西側の両側で検出されたが、西側はBA～BC-47～49グリッドの僅かな範囲(以後沢西地点と称す)である。東側も1号埋没沢の西南部分とBE-34～37グリッドでは後世の耕作による鋤き込みがⅣa層まで達しているため区画等は不明であるが、As-B層下水田跡の耕作土がみられることから水田耕作が行われていたと想定される。この埋没沢東側は北側(以後沢東-北地点と称す)より南側(以後沢東-南地点と称す)の方がアゼの残存状態も良好である。

##### ②水田域の地形

五反田地区は、1号埋没沢が急傾斜からやや緩やかな傾斜に変わる地点に立地しており、As-B層下水田跡面の標高は埋没沢の東側では最高329.0m、最低326.90mで比高差2.30mで南西から北東にかけて緩い勾配で傾斜している。埋没沢の西側では最高327.99m、最低327.13mで比高差0.86mで南から北にかけて12.0%の傾斜である。沢東-南地点では最高328.99m、最低標高値326.97mで比高差2.02mで3.7%の傾斜である。沢東-北地点では最高327.17m、最低326.92mで比高差0.25mで2.4%の傾斜である。

##### ③アゼの走行と区画

水田を区画するアゼは、作業道を兼ねるような大アゼはなく、すべてクロ的な小アゼのみである。各アゼの規模は、下幅40～60・70cm、高さ1cm未満～11cmで平均2.0cmで、上層の堆積土による圧力による偏平化がみられる。

アゼの走行は、地形の傾斜に沿ってと傾斜に直交するように作られ、傾斜に直交する方向に長軸がとられ、斜面方向に短軸がとおるほぼ長形状の区画を形成している。傾斜に沿って作られているアゼは4～5区画連続するのに対して傾斜に直交するアゼ

は2～3区画しか連続しない。区画は、地点により差がみられやや緩い傾斜の沢東-南地点は、1区画が他の地点に比較して広く長軸は、4.2～7.2mで短軸は2.1～5.2mである。斜面方向の短軸は、ほぼ比高差10～15cmの内に入り、等高線の間隔の狭い327.70～327.50mの間の区画は他よりやや狭い区画である。沢東-北地点は、傾斜は南地点より緩い値を示しているが、等高線の流れがやや入り組んでおり平坦面を幅広くとれないために南地点に比べ長軸、短軸とも約2分の1で1区画も狭くなる。

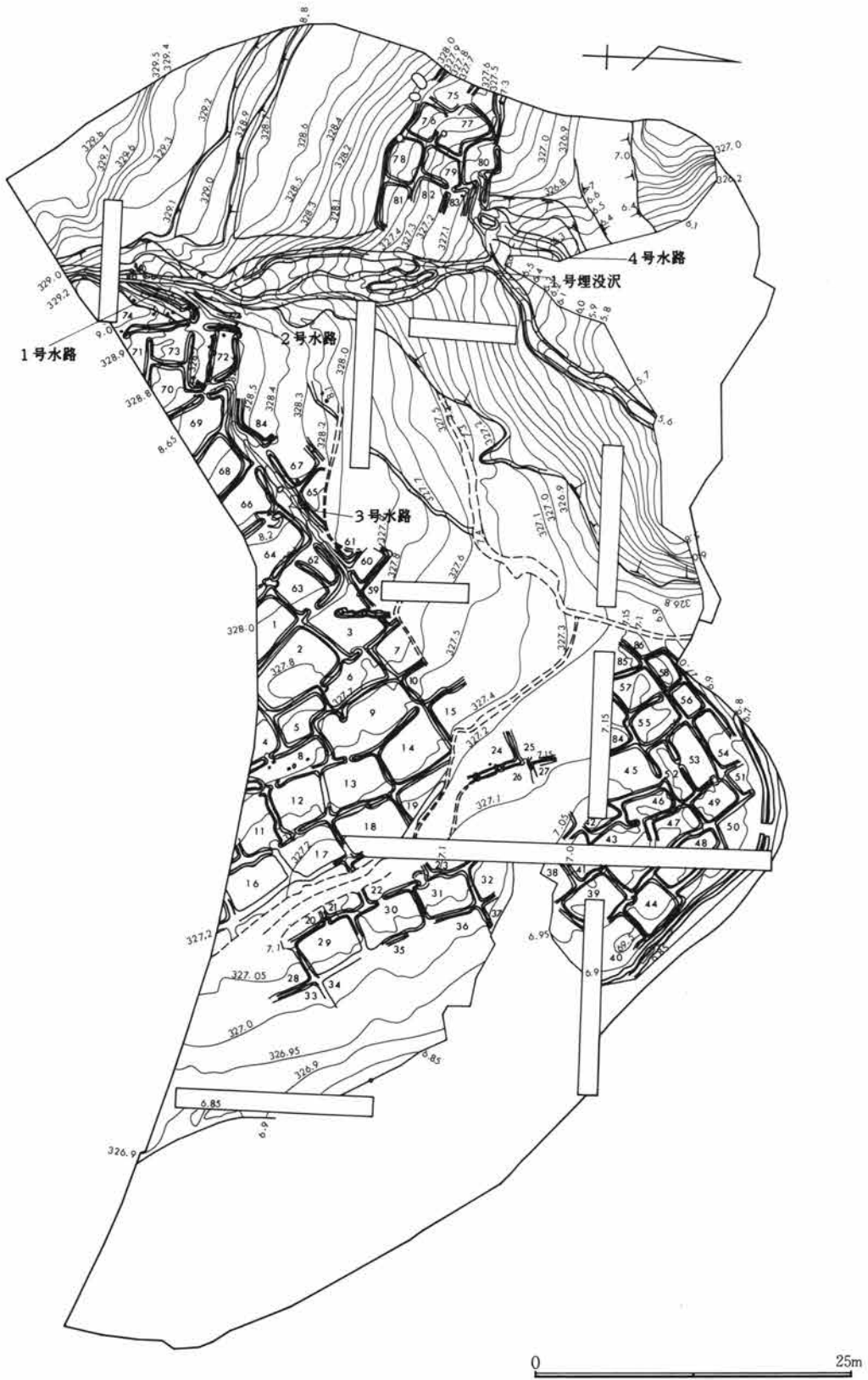
沢西地点は、傾斜が他に比べて急なため小区画であり、また、斜面に直交するアゼは連続していない。

##### ④水田の面積

各小区画水田の面積は第4表の水田跡一覧に示したとおりであるが、アゼの残存状態が不良であったり、区画が調査区外にのびたりするため面積が完全に把握できる区画は全体の約半数の47区画である。面積は、最大が009の25.086㎡、最小が083の3.034㎡まで様々で平均9.164㎡である。また、一部が欠ける区画で最小面積の083より大きい区画を含めた平均も9.014㎡でほぼ同じ値を示し、全体では、7㎡代がもっとも多いが、5㎡代から10㎡代の中に集中している。

##### ⑤取配水の方法

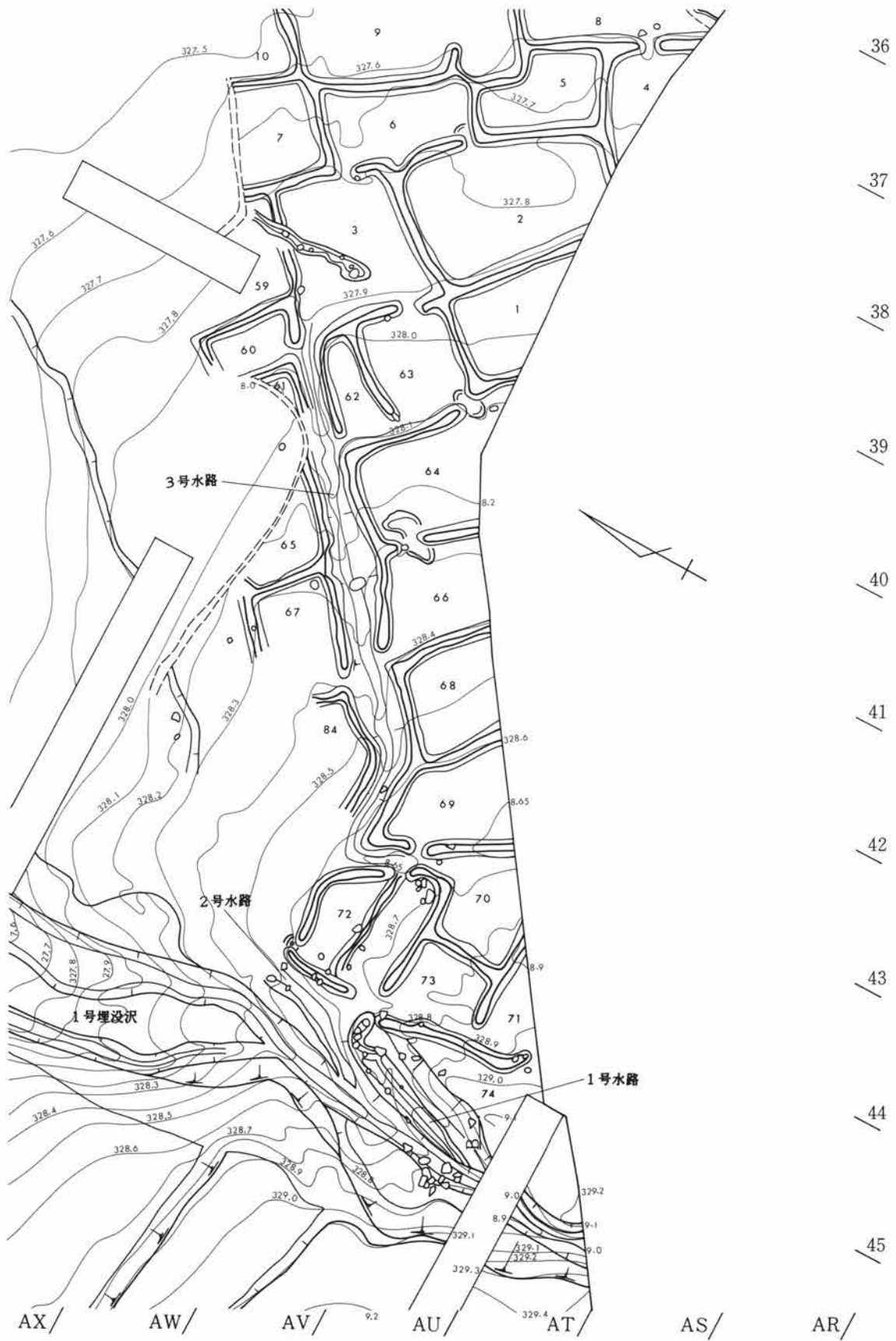
水田への取水は、1号・2号水路のように埋没沢から幅1mほどで傾斜に直交するように全長10mほどの溝で取水している。1号水路は、埋没沢から傾斜に合わせて設定され072の区画に一度取り入れて再び3号水路へと配水され、3号水路から066、067、061、062、003の区画に配水している。また、水路から各区画に取水された後さらに低い区画に配水され、それを繰り返しながら末端の区画に配水を行っている。水口については、28区画36カ所で検出されており、3号水路→066→064→063→003→006のように取配水の経路の追えるものもみられる。また、水口のなかには、018、030のように礫を置いたり、064、063、031のように水口部分を掘り窪めて調節を行っている個所もある。



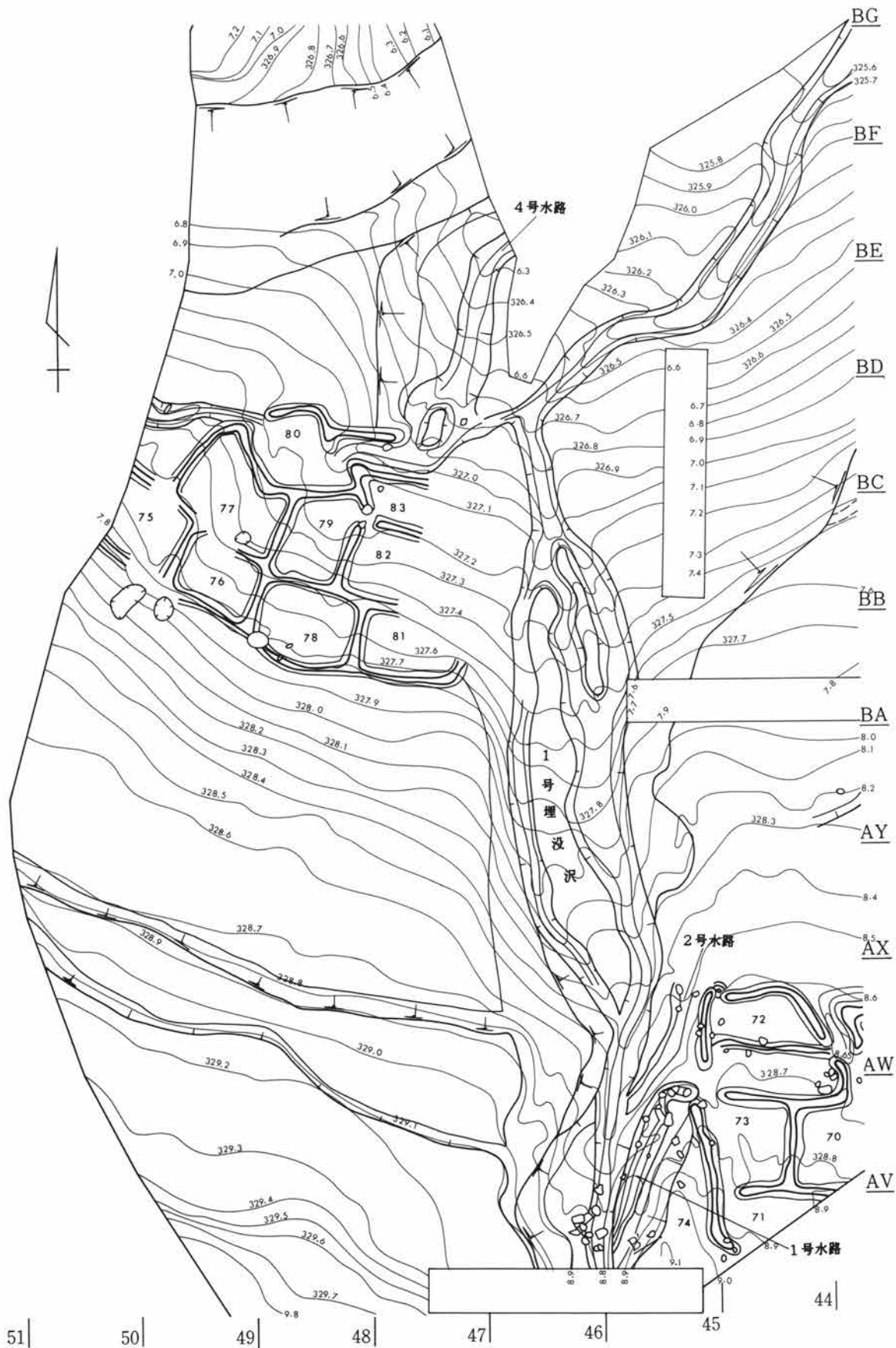
第204図 五反田地区As-B層下水田跡全体図



5. 水田跡



第206図 五反田地区As-B層下水田跡(2) (S=1:200)



第207図 五反田地区As-B層下水田跡(3) (S=1:200)



327.50m A

329.10m B

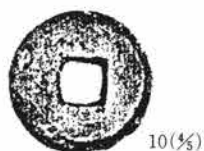
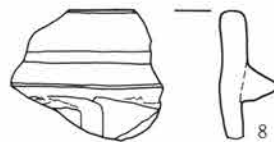
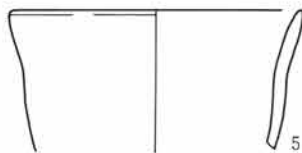
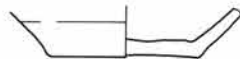
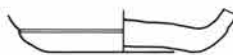
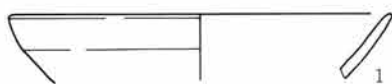
327.10m C

BF+2m-32

トレンチ

BF+2m-42

5. 水田跡

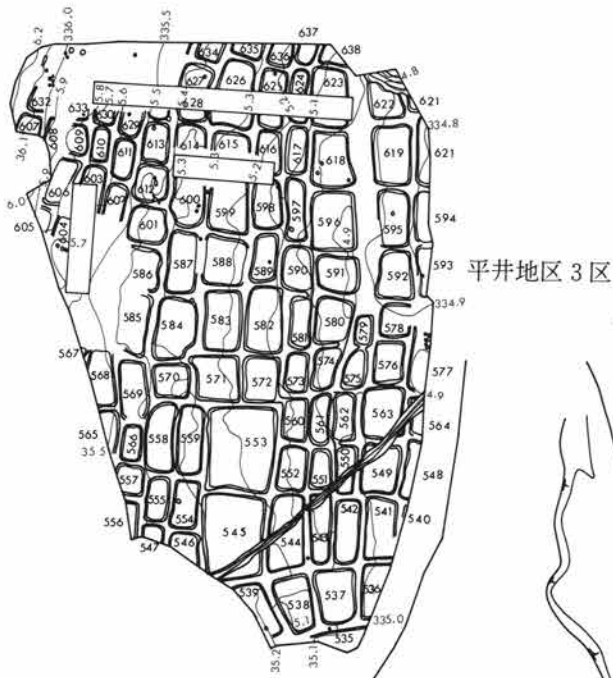
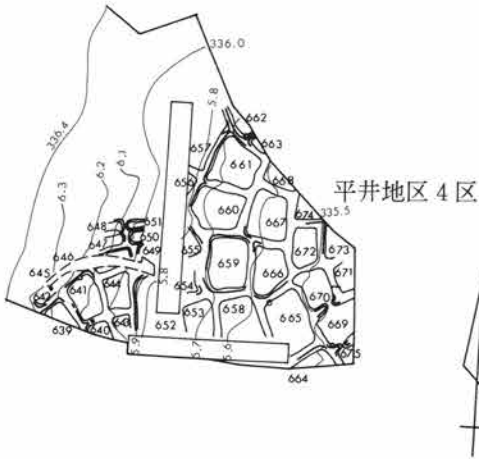


A'

B'

C'

第208図 五反田地区As-B層下水田跡エレベーション・出土遺物図



⑥耕作土

水田の耕作土は、僅かにF Pを含む粘土質の黒褐色土である。

⑦その他の遺構

007、010、015の区画やその北側で牛蹄跡が検出され、蹄の規模にも大小がみられ数頭の牛がいた可能性があるが、正確な頭数や歩行の方向については明らかではない。

⑧出土遺物

水田面、耕作土中からの出土遺物は、銭貨3枚(開元通寶、祥符元寶、永樂通寶が各1枚)、土師器杯、須恵器杯、甕、瓶、羽釜等の破片が出土している。

第209図 平井地区As-B層下水田跡全体図

## (2) 平井地区1区

水田の位置する平井地区は、現在の水田も西から東への傾斜のため水田の東側に段をもつ造りになっており、平井地区の2区・3区と1区の間に2m前後の段差をもっている。As-B層下水田跡でも比高差4.4mほどの段によって1区と3区・4区の2地点に区分される。

## ①被覆土と水田の残存状態

水田跡は、直接As-Bで覆われている。As-Bは、厚いところでも10cmで平均5～6cmで五反田地区よりやや薄い堆積である。

水田の区画は、北側では割合と良好であったが、南側ではAs-Bが後世の耕作により鋤き込まれており区画、アゼ等は確認されなかった。

## ②水田域の地形

平井地区1区は、調査面積も270㎡と少なく水田域の南西端にあたる部分の調査であった。調査区内での標高は、最高311.10m、最低330.10mで西から東へかけて5.3%の傾斜である。

## ③アゼの走行と区画

水田を区画するアゼは、作業道を兼ねるような大アゼはなく、すべてクロ的な小アゼのみである。各アゼの規模は、下幅50cm前後、高さ0～8cmで平均1.64cmで、上層の堆積土による圧力による偏平化がみられる。

アゼの走行は、地形の傾斜に沿った南北方向と傾斜に直交する東西方向に作られている。

アゼの走行は、傾斜に沿って若干の蛇行はあるものの5～6区画連続している。

水田の区画は、傾斜に直交する方向に長軸がとられ、傾斜方向に短軸がとられている。長軸は4.0～1.8m、短軸は3.6～1.4mである。小区画の配列は、斜面の勾配が同じような傾斜になっているため割合と規則的に配列されている。区画の規模も傾斜に影響を受け、傾斜の勾配が変化する標高330.60mを境に傾斜の急な上部は傾斜の緩やかな下部に比べて規模がやや狭い。

## ④水田の面積

各小区画の水田の面積は、第5表の水田一覧に示したとおりであるが、区画が調査区外にのびたりするため面積が完全に把握できる区画は13区画でしかなかった。面積は、最大が508の6.912㎡、最小が532の2.384㎡で、平均3.988㎡である。

平井地区1区は、水田域でも端部のまだ傾斜の急な地点ではあるが、五反田地区の平均9.014㎡、平井地区3区・4区の平均5.572㎡に比べてやや狭い規模である。

## ⑤取配水の方法

平井地区1区での水田への取水については不明であるが、平井地区3区・4区と同様に2号埋没沢から行くとともに平井地区2区・3区で使用した水をそのまま利用したと想定される。取配水の方法については、各区画での水口の検出に注意をはらったが五反田地区のように明確な水口の検出はできなかった。

## ⑥耕作土

水田の耕作土は、僅かにFPを含みやや粘性のある黒褐色土である。

## ⑧出土遺物

水田面より土師器椀、須恵器椀、銭貨3枚(元豐通寶、洪武通寶、宣徳通寶)が出土している。

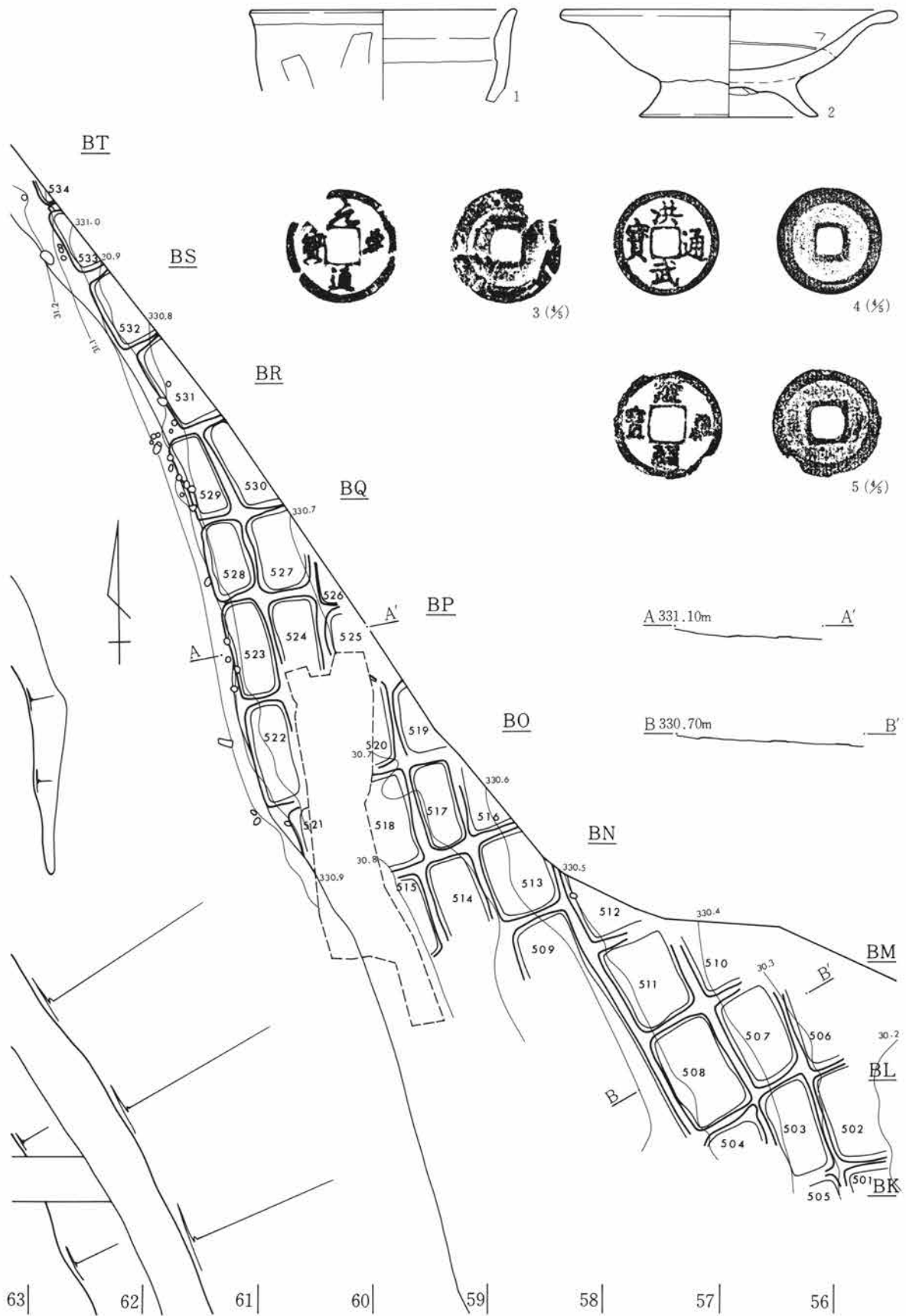
## (3) 平井地区3区・4区

## ①被覆層と水田の残存状態

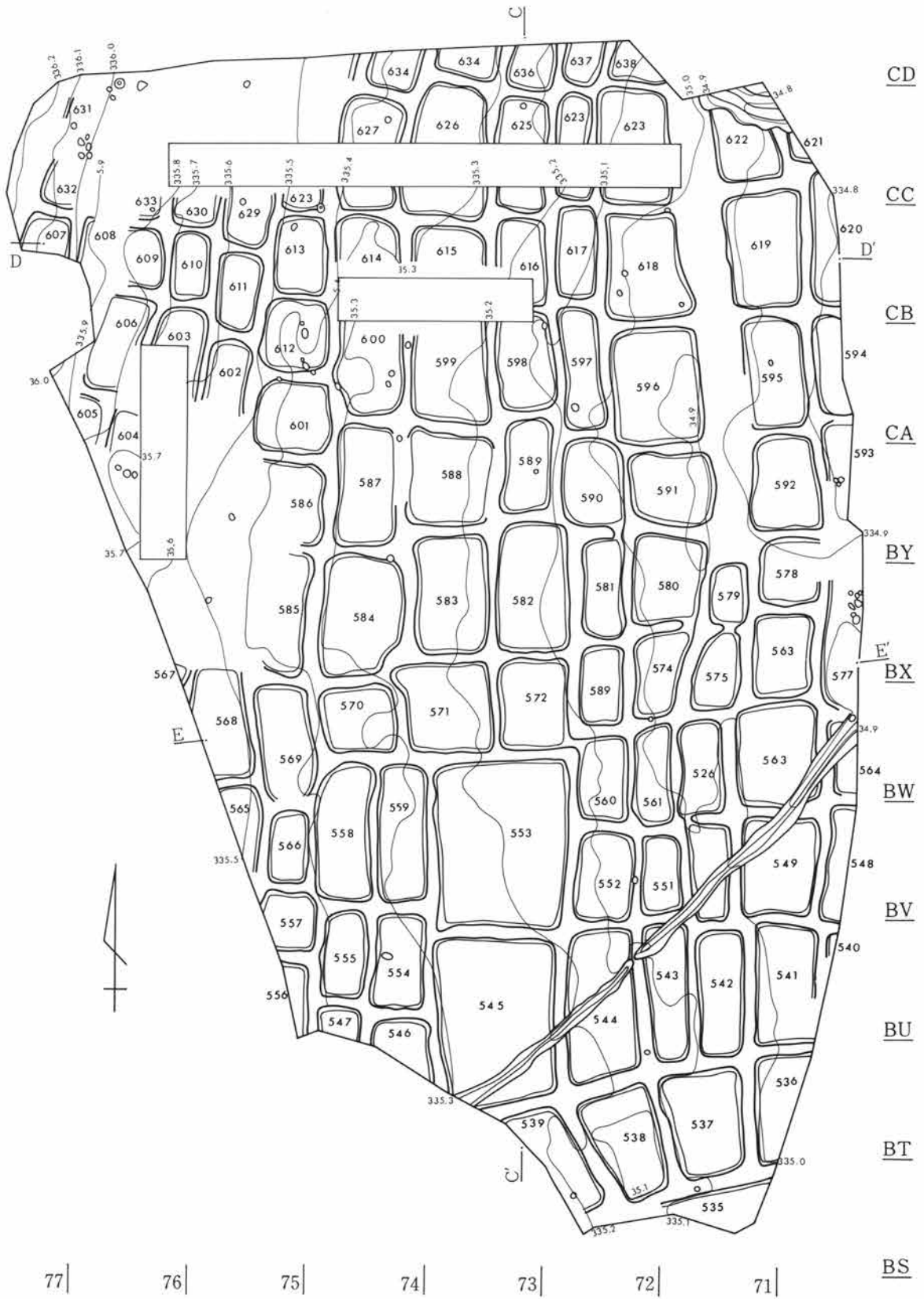
水田跡は、直接As-Bで覆われている。As-Bは、厚いところでも10cmで平均5～6cmで平井地区1区と同様である。3区・4区ともアゼの残存状態は、あまり良好ではないものの小区画はほぼ全面で検出された。また、3区の南側の2区では、As-B層は確認されなかったもののAs-B層下水田跡の耕作土であるIV層が確認されていることから2区でも3区・4区同様に水田耕作が行われていたと推定される。

## ②水田域の地形

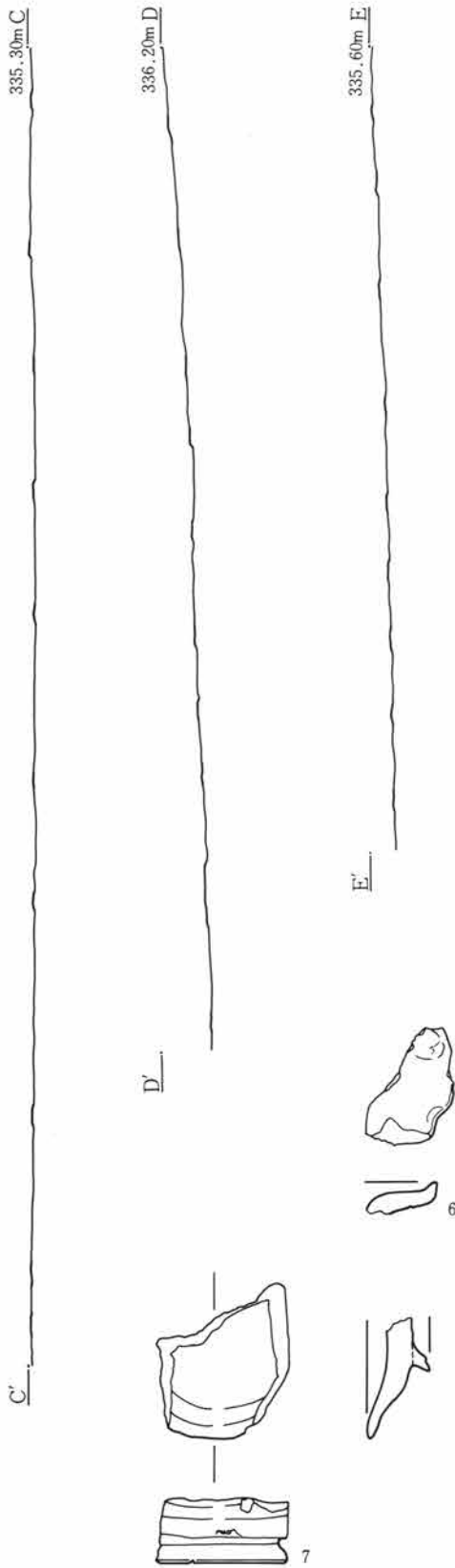
3区・4区は、水田域の東側にあたる部分の調査であった。調査区内は、西から東へかけての緩い勾



第210図 平井地区1区As-B層下水田跡・出土遺物図 (S=1:200)



第211図 平井地区3区As-B層下水田跡 (S=1:200)



第212図 平井地区3区As-B層下水田跡  
エレベーション・出土遺物図

配の傾斜で、3区の標高は最高336.20m、最低334.70m、比高差1.50mで5.9%の傾斜である。4区の標高は、最高336.30m、最低335.50m、比高差0.80mで4.0%の傾斜である。

③アゼの走行と区画

水田を区画するアゼは、五反田地区や平井1区ではクロ的な小アゼしか検出されなかったが、3区・4区ではBY~CC-71グリッドで下幅1.5~1.8mで全長約15mの作業道を兼ねる大アゼが検出されている。大アゼは、As-B層下水田跡の下層より検出されたFP水田でもほぼ同じ位置で大アゼが検出されている。大アゼは、前述の1本だけで他はクロ的な小アゼであった。小アゼの規模は、下幅40~70cm、高さ0~13cmで平均1.85cmで上層の堆積土の圧力による偏平化がみられる。

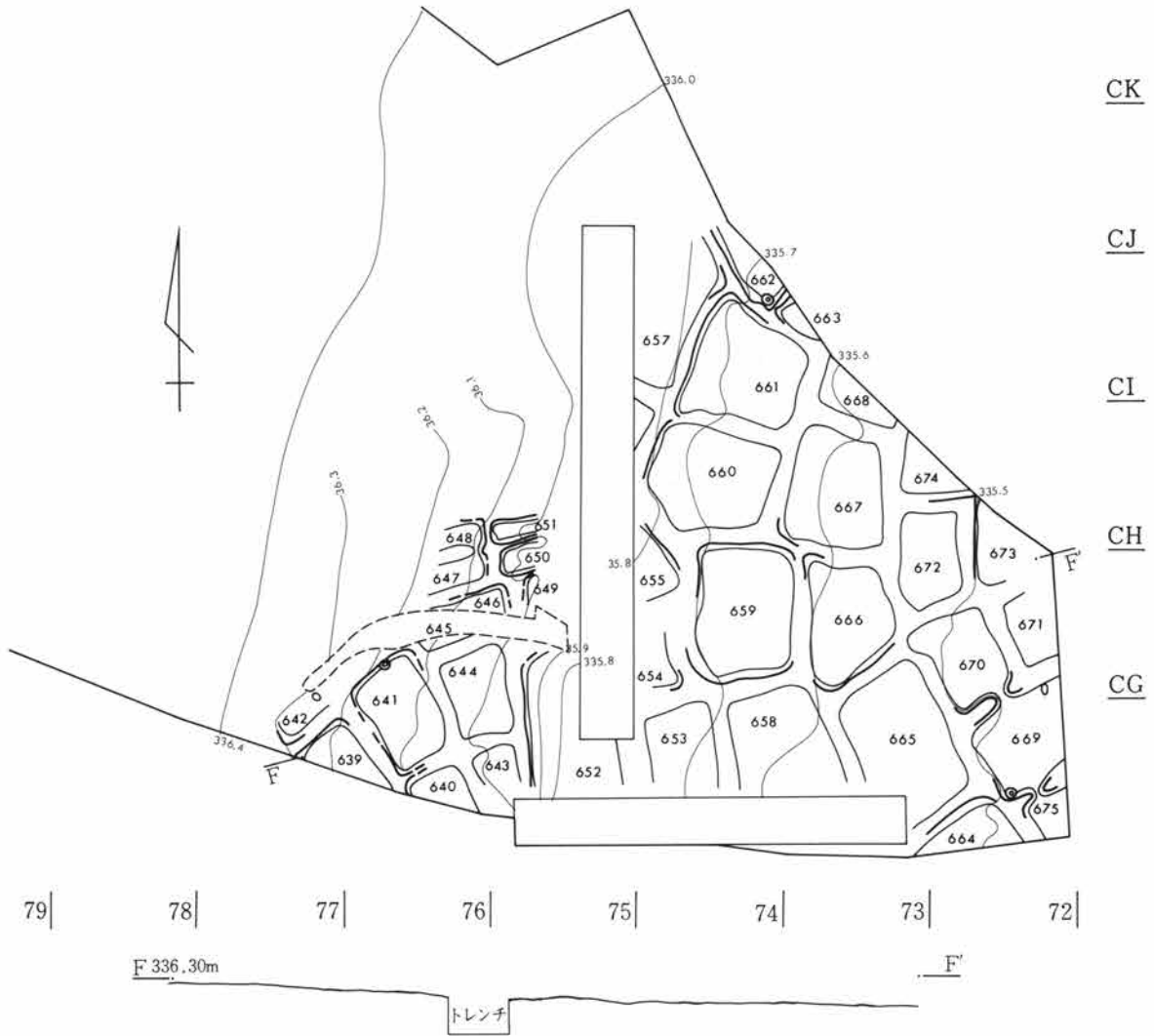
アゼの走行は、平井地区1区と同様に傾斜に沿った南北方向と直交する東西方向に作られている。

アゼの走行は、傾斜に沿って極僅かな蛇行はみられるもののほぼ直線的で、傾斜に直交するほうのアゼは長いものは7~10区画にかけて連続し、小区画の長軸方向がとられ長さは6.0~1.5mである。傾斜に沿ったほうのアゼは、長くても4~5区画の連続で終わってしまい、短いものは1区画で次の区画では位置が多少ずれて連続しないものもみられ、小区画の短軸方向がとられ長さは4.9~0.6mである。

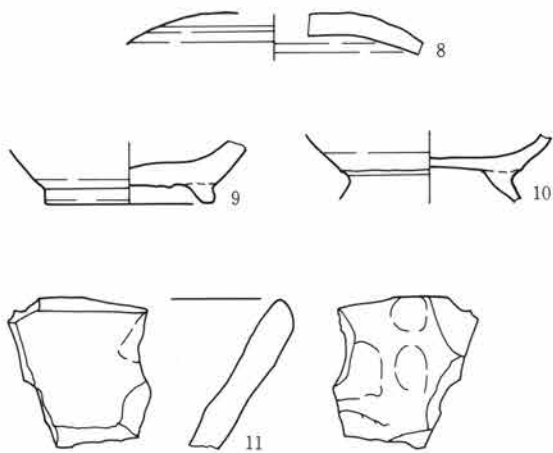
小区画の配列は、1区と同様に斜面の勾配が同じような傾斜になっているため割合と規則的に配列されている。

④水田の面積

各小区画の水田面積は、第6表の水田面積一覧に示したとおりであるが、区画が調査区外にのびたりして面積が完全に把握できた区画は検出された141区画のうち81区画であった。面積は、最大が22.165㎡、最小が1.269㎡、平均5.572㎡であり、最多面積区画が3㎡代の14区画と五反田地区に比べて平均で3.551㎡狭く、五反田地区が最多面積区画が9㎡代と差がみられ、傾斜の勾配の差があらわれている。



第213図 平井地区4区As-B層下水田跡 (S=1:200)



第214図 平井地区4区As-B層下水田跡出土遺物図

⑤取配水の方法

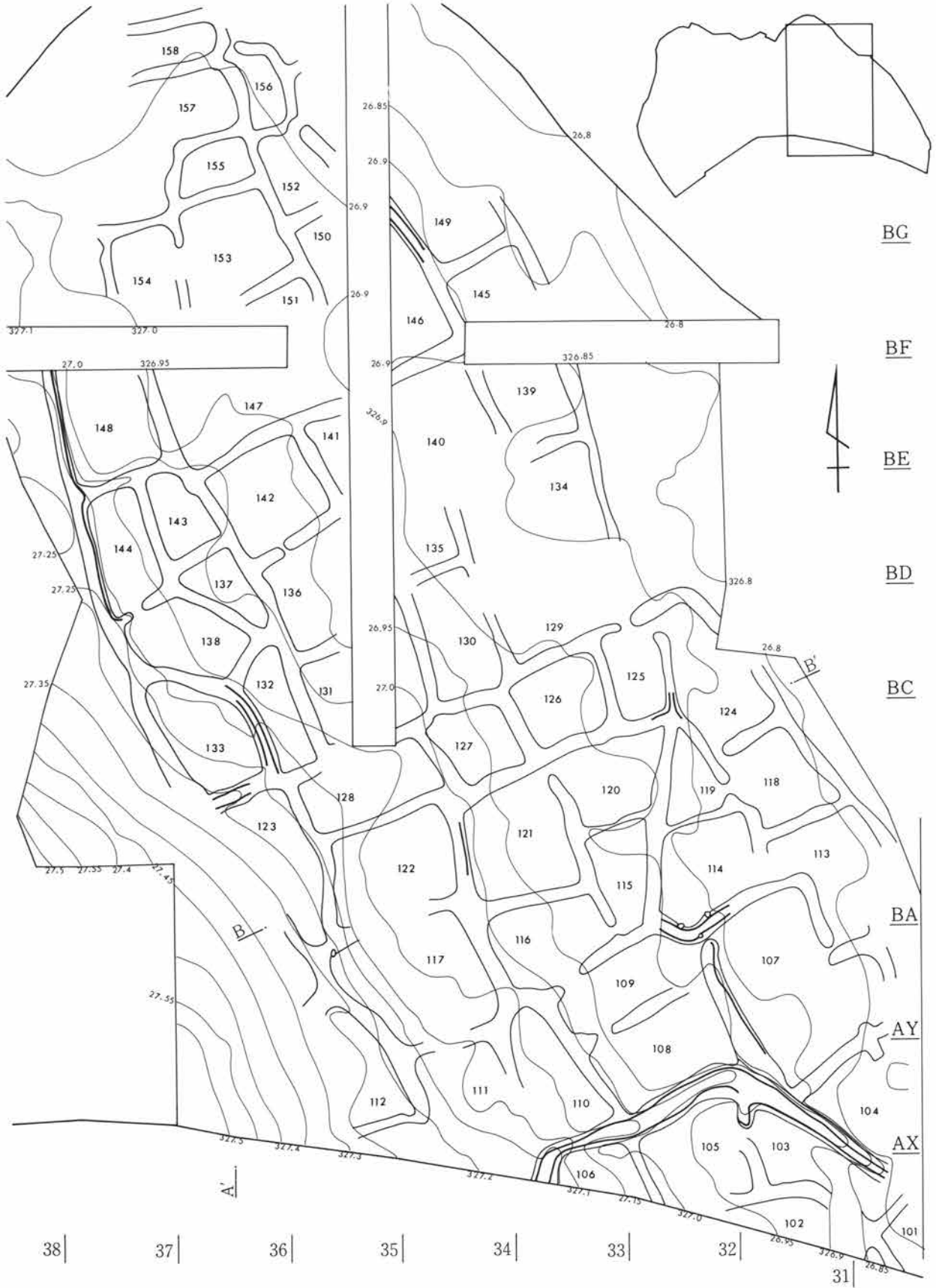
水田への導水については、不明であるが同区F P層下水田跡と同様に2号埋没沢より取水していたと想定される。2号埋没沢は、F P層下水田跡のころより4区よりの現在の道路下に移動したと思われる検出できなかった。取配水の方法については、各区画での水口の検出に注意をはらったが五反田地区のように明確な水口の検出はできなかった。

⑥耕作土

水田の耕作土は、僅かにF Pを含みやや粘性のある黒褐色土である。

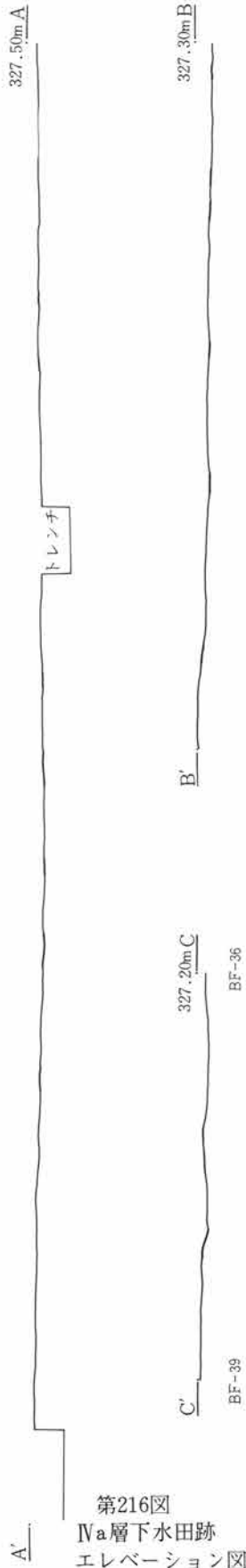
⑧出土遺物

水田面から須恵器耳皿が2点出土している。



第215図 五反田地区IVa層下水田跡 (S=1:200)





第216図  
IVa層下水田跡  
エレベーション図

#### 4. IVa層下水田跡

##### ①被覆層と水田の残存状態

水田跡は、埋没沢の氾濫土である粘土質の黒褐色土(IVa層)で覆われている。IVa層は、氾濫後早い段階に水田が復旧されたのかAs-B層下水田跡の耕作土となっている。IVa層は、15~20cmの厚さで堆積している。

残存状態は、氾濫後の復旧が早かったためか、AV~BI-26~37グリッド、面積で五反田地区の約2割にあたる900㎡ほどで51区画しか検出できず、アゼもあまり明確ではなかった。

##### ②水田域の地形

地形の状態は、As-B層下水田跡と同様に南南西から東北東にかけての緩い勾配で傾斜している。IVa層下水田跡が検出された範囲での標高は最高327.30m、最低326.80m、比高差0.50mで2.3%の傾斜である。

##### ③アゼの走行と区画

水田を区画するアゼは、作業道を兼ねるような大アゼはなく、すべてクロ的な小アゼのみである。各アゼの規模は、下幅30~60cm、高さ0~8cmで平均1.23cmを測り、上層の堆積土による圧力による偏平化がみられる。

アゼの走行は、ほぼ地形の傾斜に沿ってとそれに直交するように作られ、傾斜に直交する方向に長軸がとられ、斜面方向に短軸をとるほぼ長方形の区画を形成し、区画内の比高差を小さくしている。

アゼの走行は、概ね直線的で3~4区画を連続している。区画は、傾斜によって変化がみられる。当然、傾斜の急な所では狭く、傾斜の緩い所では広がっている。同じ標高の中でも大小の差がみられ、傾斜の変化する部分の区画は台形状の形態をしている。

##### ④水田の面積

各小区画水田の面積は、第7表の水田跡一覧に示したとおりであるが、水田跡検出面積も狭く区画数も少ないため面積が完全に把握できる区画は、約6割の31区画である。面積は、最大が107の23.264㎡、最小が103の3.076㎡まで様々で平均9.123㎡でほぼAs-B層下水田跡と同様である。全体では、9㎡代の区画がもっとも多い。

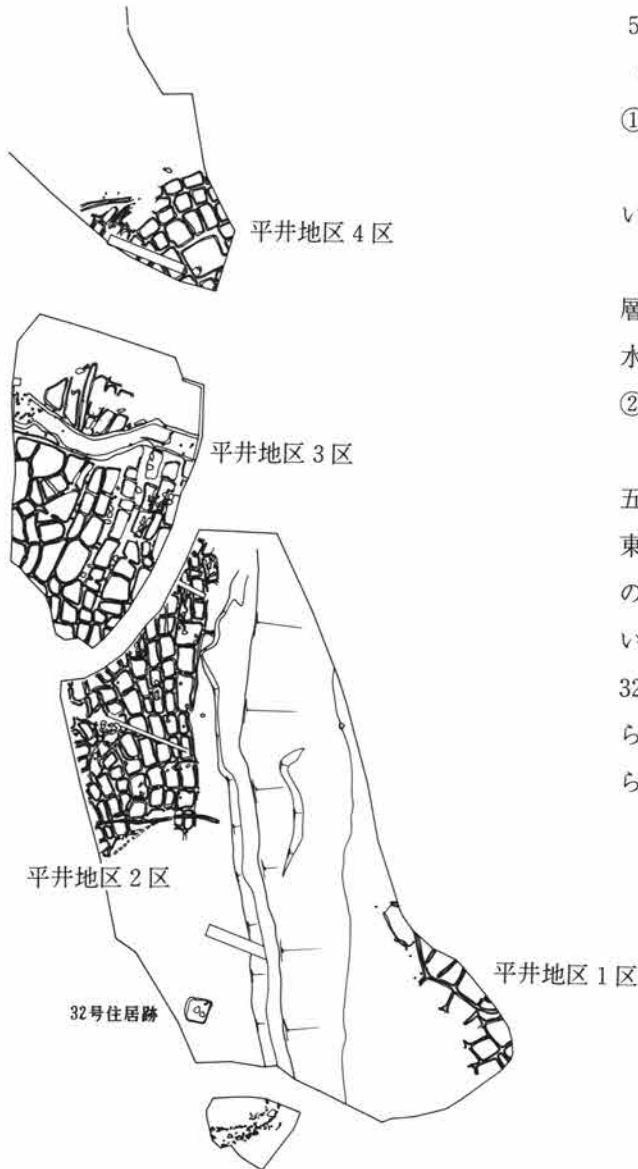
##### ⑤取配水の方法

水田への取水については、不明であるが、As-B層下水田跡と同様に埋没沢から取水したと推定される。

水口については、13の区画から14カ所検出されたが、As-B層下水田跡のように取配水の経路は明確ではない。なお、末端に位置する124では、118と125から取水している。また、125では、129と124へ配水している。

##### ⑥耕作土

水田の耕作土は、FPを含むやや粘性のある黒褐色土で、下位になるほど下層のFPを鋤き込んでいるためFPの混入量が多い。



5. 榛名山二ッ岳軽石(FP)層下水田跡

(1) 五反田地区

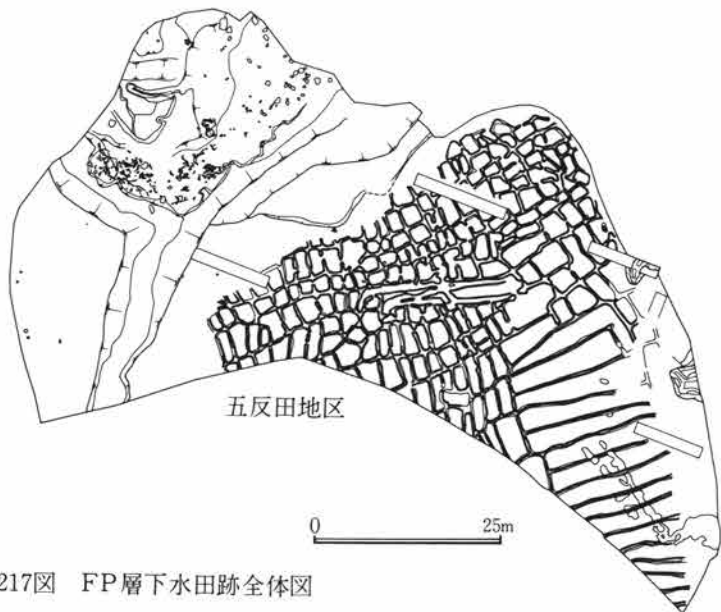
①被覆土と水田の残存状態

水田跡は、直接FPで覆われている。FPは、厚いところで20cm、平均10~15cmである。

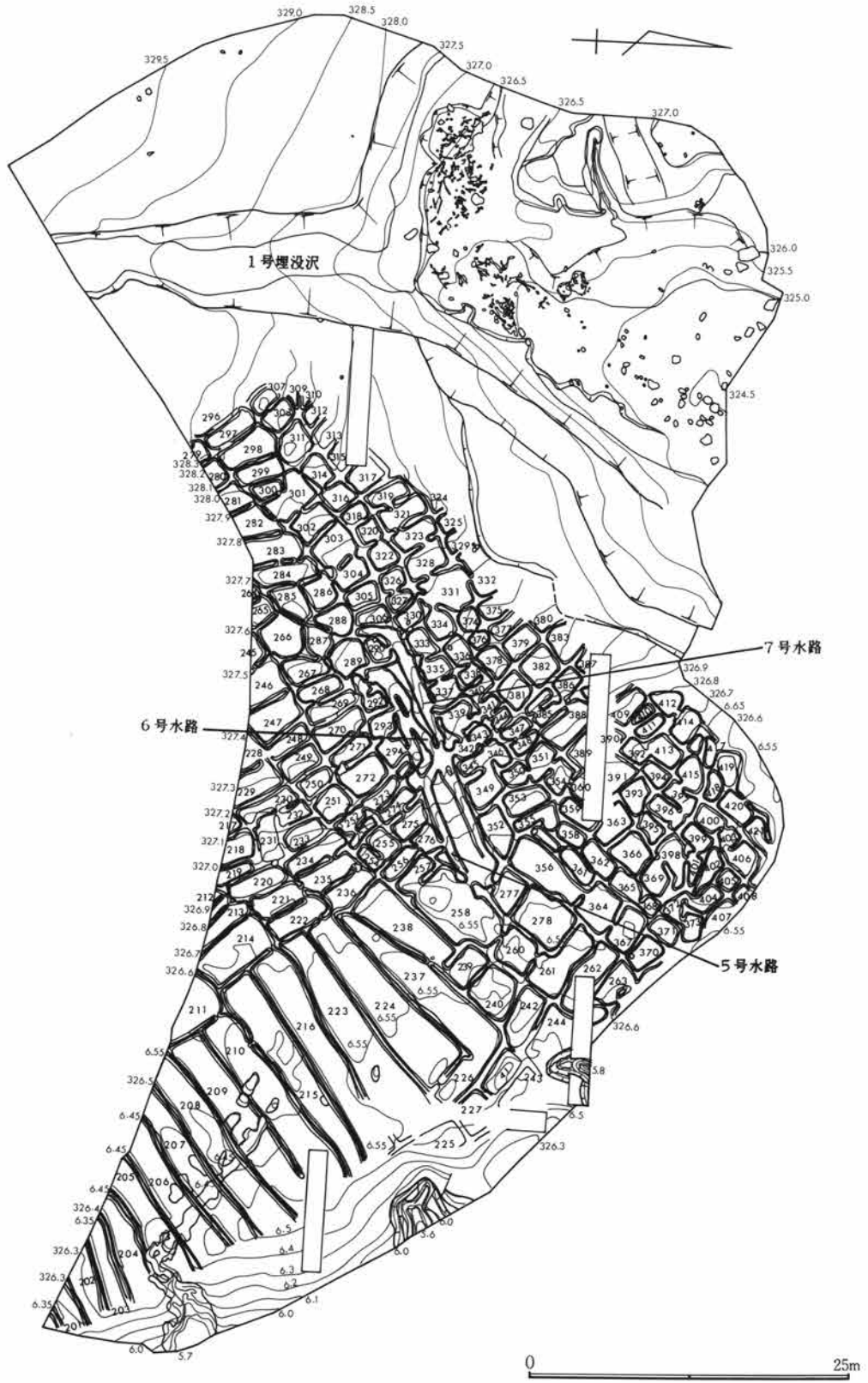
水田跡の残存状態は、As-B層下水田跡やIVa層下水田跡に比べて残存状態は割合と良好でアゼや水田区画、水口は明確であった。

②水田域の地形

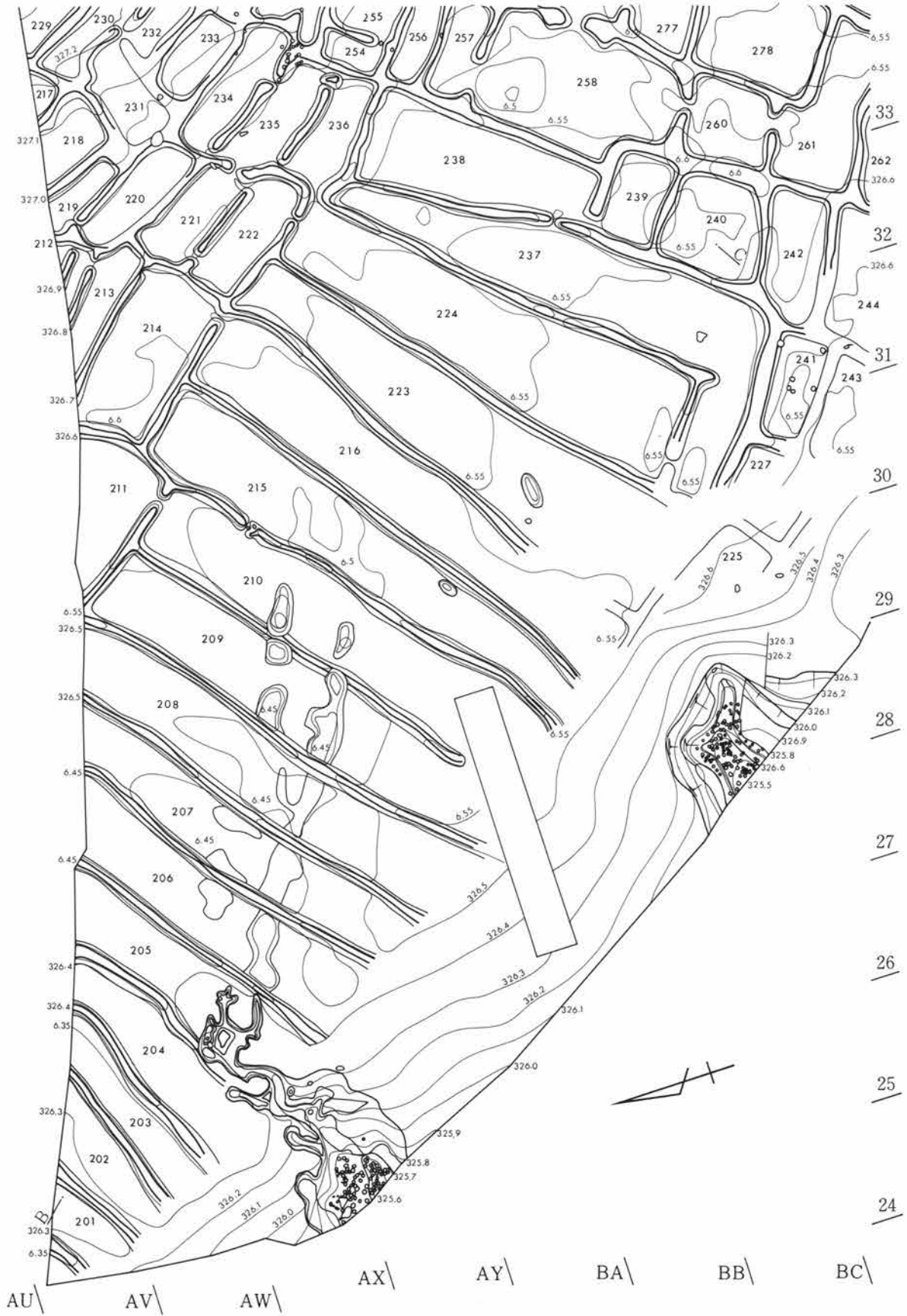
水田域の地形は、埋没沢から35ラインにかけては五反田地区As-B層下水田跡と同様で西南から北東にかけて緩い勾配で傾斜地であるが、BFラインの南、35ラインの東では北西から南東にかけて極緩い勾配の傾斜地である。水田跡面での標高は、最高328.50m、最低326.30m、比高差1.20mで、南西から北東への傾斜の勾配は3.2%から3.6%で、北西から南東への傾斜の勾配は0.7%である。



第217図 FP層下水田跡全体図

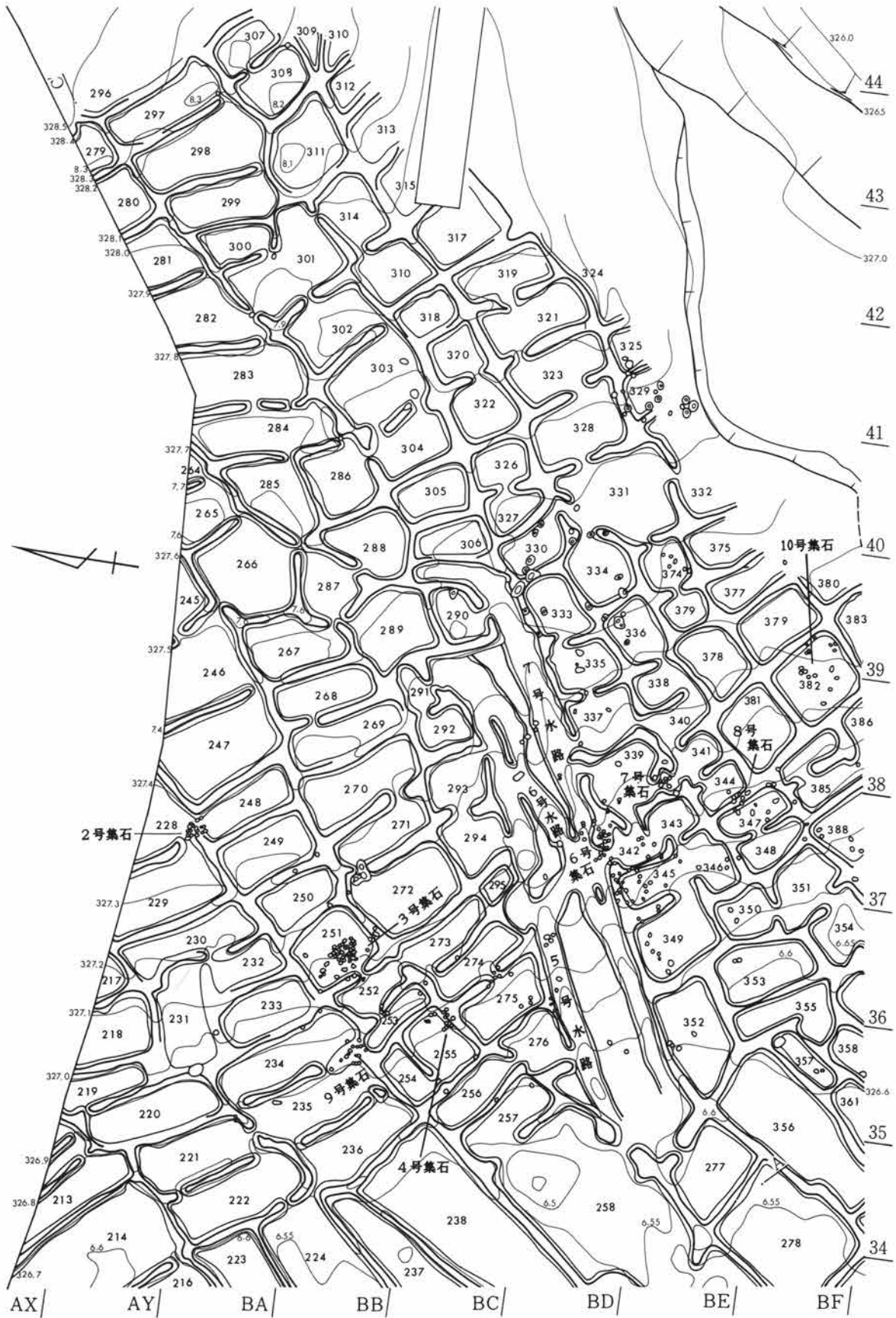


第218図 五反田地区FP層下水田跡全体図

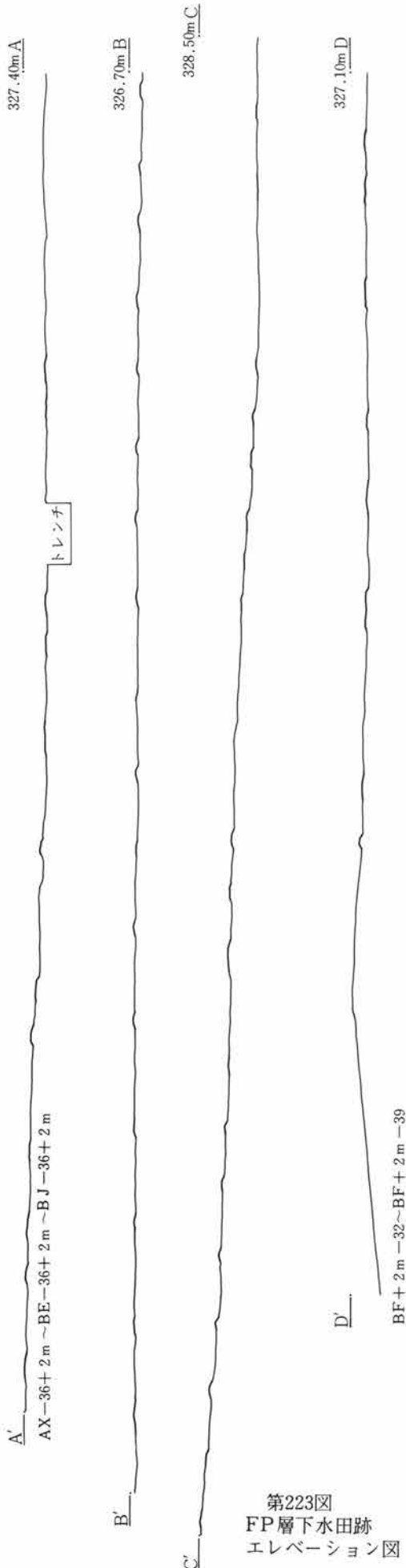


第219図 五反田地区FP層下水田跡(1) (S=1:200)

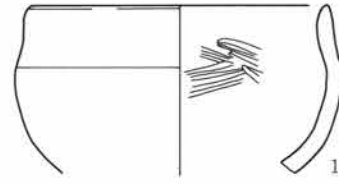




第221図 五反田地区FP層下水田跡(3) (S=1:200)



第223図  
FP層下水田跡  
エレベーション図



第222図 FP層下水田跡(2)出土遺物

③アゼの走行と区画

水田を区画するアゼは、作業道を兼ねるような大アゼはなくすべてクロ的な小アゼのみである。各アゼの規模は、下幅40~70cm、高さ1cm未満~16cmで平均2.93cmとAs-B層下水田跡やIVa層下水田跡に比べるとやや高いが、上層の堆積土の圧力により扁平化がみられる。

アゼの走行は、地形の傾斜に沿ってとそれに直交するように作られ、傾斜に直交する方向に長軸をとり、斜面方向に短軸をとる長方形の区画を形成している。傾斜に沿って作られるアゼは、多少の蛇行はみられるものの多くの区画に連続するのに対して傾斜に直交するアゼは2~4の区画でずれを生じている。

区画は、場所によって形状・規模に差がみられる。南西から北東にかけての斜面では、傾斜の勾配がややあるため規模も小規模でなかでも264、265、279~284、297~300では小規模の棚田状をしており、短軸は0.9~2.7mと短い。それに対して北西から南東にかけての斜面の区画は、全体的に大規模で特に201~210、215、216、223、224、237、238の区画は大規模で短冊状の細長い長方形を呈しており、長軸は7.7~17.6mで短軸が2.0~3.6mである。



水田調査風景

④水田の面積

各小区画の面積は、第8表の水田一覧表に示したとおりであるが、区画が調査区外にのびたりするため面積が完全に把握できる区画は、221区画中178区画で最大が224の49.293m<sup>2</sup>、最小が390の0.490m<sup>2</sup>とその差48.803m<sup>2</sup>と他の水田跡面ではみられないほどの差がある。小区画面積の平均は、5.563m<sup>2</sup>であり、40m<sup>2</sup>以上の区画は2区画、30~40m<sup>2</sup>は6区画、20~30m<sup>2</sup>、10~20m<sup>2</sup>は6区画、6~9m<sup>2</sup>は15区画、5m<sup>2</sup>代が17区画、4m<sup>2</sup>代が19区画、3m<sup>2</sup>代が37区画、2m<sup>2</sup>代が40区画、1m<sup>2</sup>代が8区画、1m<sup>2</sup>未満が5区画と大部分は2~5m<sup>2</sup>の小規模な区画である。

⑤取配水の方法

水田への取水についての遺構は、確認されなかったが、As-B層下水田跡と同様に埋没沢から取水していたと想定される。また、水田域では、5号水路、6号水路、7号水路がBA-39グリッドからBD-35グリッドにかけて3本が並列して検出されたが、6号水路は途中で7号水路と合流してしまう。また、5号水路に接する区画の水口は区画の低位に位置し、5号水路は各区画からの排水路の役割をし、最後に258の区画に配水しているのに対して7号水路は途中接する各区画に配水し最後に277、352区画に配水している。

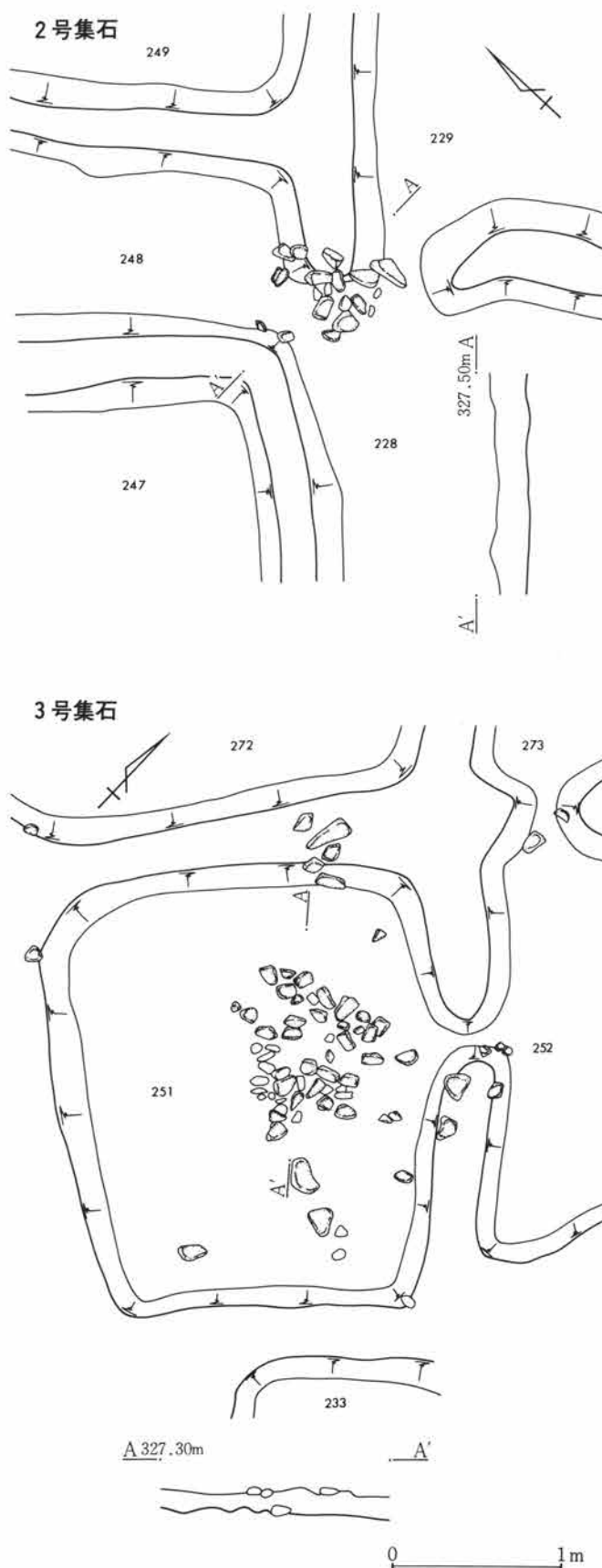
水口は、80区画97カ所検出され、300→301→303→304、281→282→283→284→285→287→289、336→338→340→341→344など取配水の経路を一部追えるものもみられる。

⑥耕作土

やや粘性のある黒褐色土で含有物はほとんどみられない。

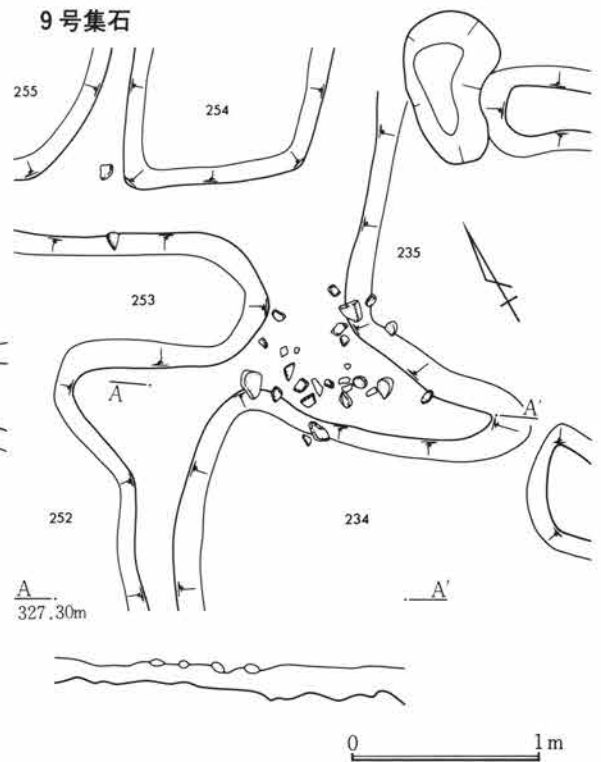
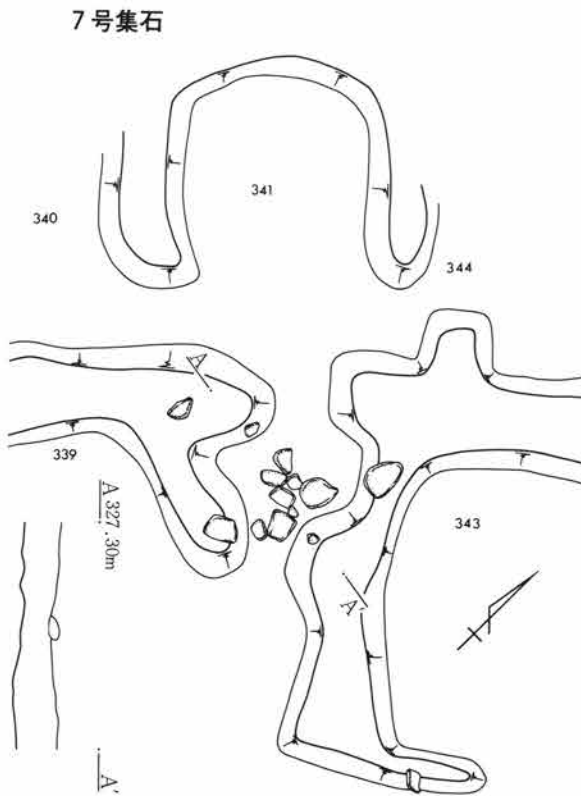
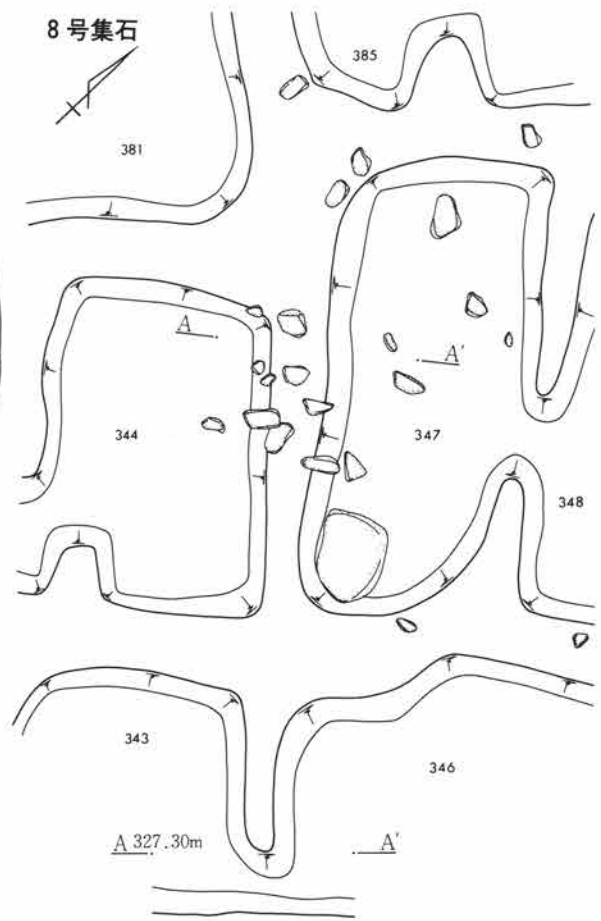
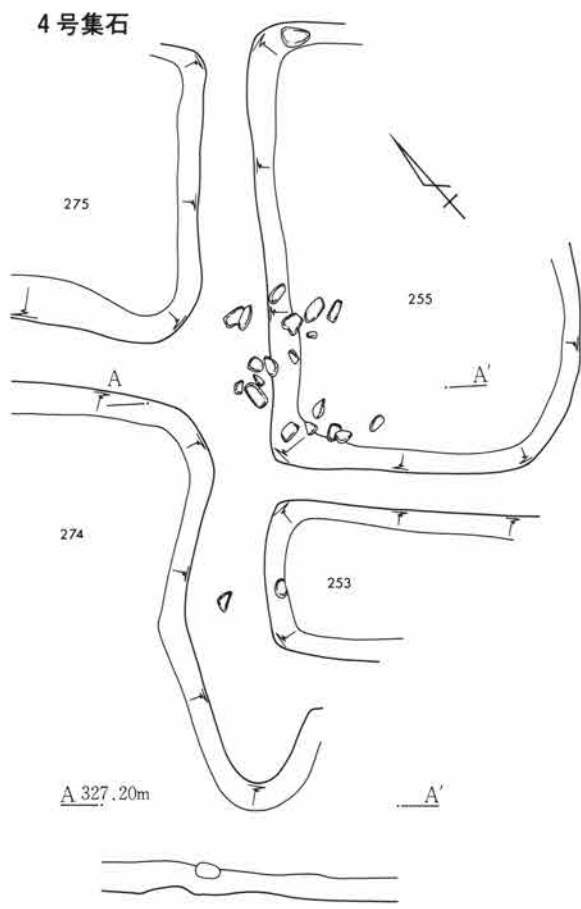
⑦その他の遺構

五反田地区FP層下水田跡では、水田区画、水路の他に9基の集石跡が検出された。検出された集石跡は、水田区画の内部に位置する

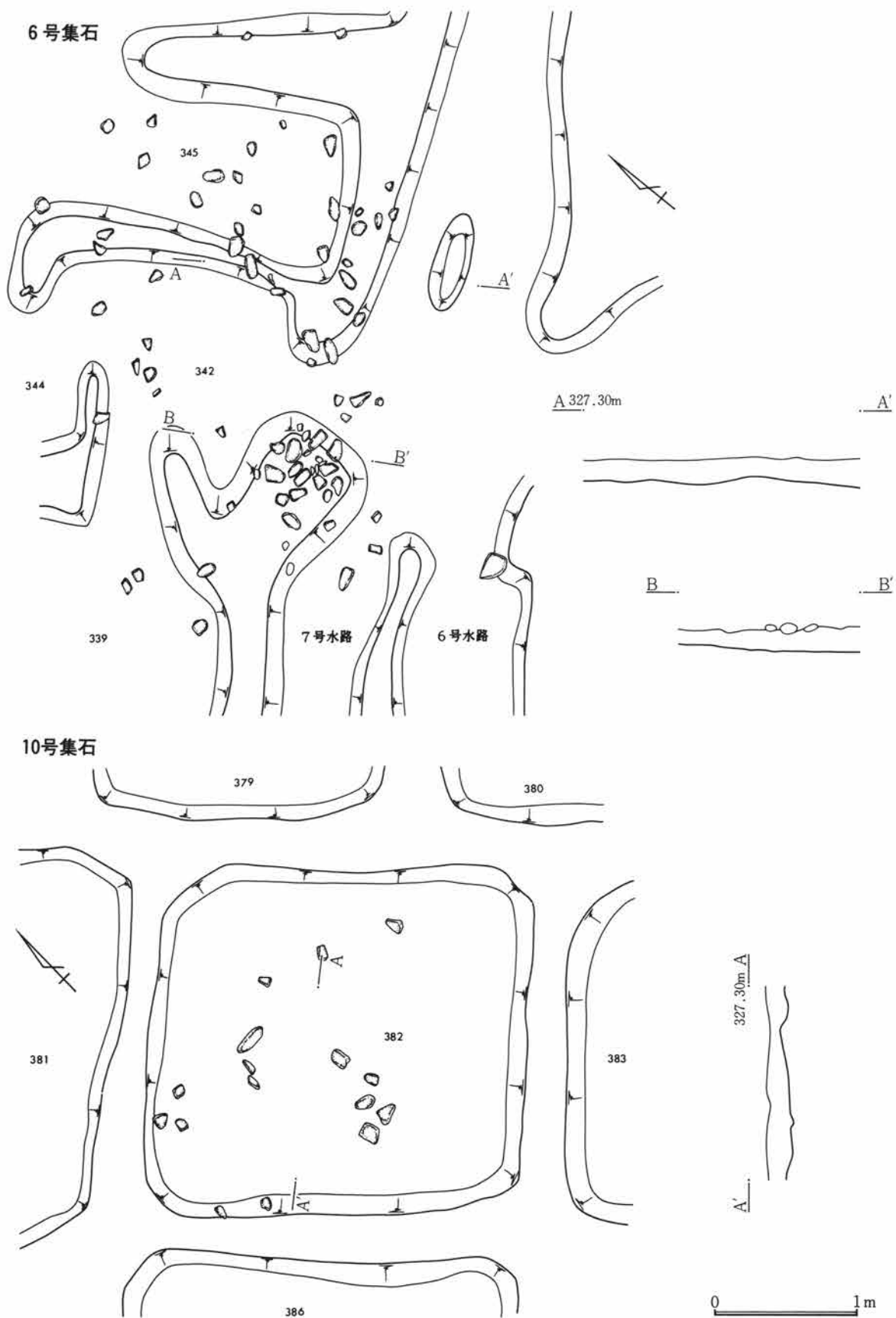


第224図 2号・3号集石





第225图 4号・7号・8号・9号集石



第226図 6号・10号集石

ものやアゼ上に位置するもの、両方にかけて位置するもの、そして礫の集中が密のもの粗のものなどいろいろな形態がみられる。

#### 2号集石

228区画から248区画、229区画への配水する水口部分のアゼ先端上に位置し、80×60cmの範囲にφ6～24cmの円礫を16個ほど集めている。

#### 3号集石

251区画の区画内部北側に位置し、110×100cmの範囲にφ8～20cmの円礫を55～65個ほど集めており、一部は西側、北側アゼの上にもみられる。

#### 4号集石

255区画北側のアゼの西端に位置し、40×70cmの範囲にφ10cm前後の円礫を20個ほど集めているが、やや粗の状態である。

#### 5号集石

7号水路から342区画への水口北側のアゼ上に位置し、90×60cmの範囲にφ10～18cmの円礫を30個ほど集めている。

#### 6号集石

345区画の西側、北側アゼおよび区画内に位置し、200×120cmの範囲にφ10～20cmの円礫を30個前後が散乱した状態である。

#### 7号集石

339区画から341区画への水口に位置し、50×40cmの範囲にφ10～18cmの円礫を8～12個ほど集めており、水口での水量の調節のための集石と想定される。

#### 8号集石

344区画と347区画の間のアゼ上に位置し、90×40cmの範囲にφ10～20cmの円礫を20個ほど集めているが、やや粗の状態である。また、347区画の北西隅では、φ50×35×15cmの扁平な円礫がおかれている。

#### 9号集石

234区画と235区画の間のアゼ北側に位置し、100×80cmの範囲にφ5～12cmの円礫を25個ほど集めている。

#### 10号集石

382区画の西側に位置しているが、全体的に散漫な状態でφ10～15cmの円礫を16個ほど集めている。

#### ⑧出土遺物

出土した遺物は、土師器の小破片がおもて図示できるものは第222図の土師器椀が1点だけである。

#### (2) 平井地区1区F P層下水田跡

##### ①被覆土と水田の残存状態

水田跡は、直接F Pで覆われている。F Pは、厚いところで15cm、平均5～10cmである。

調査された水田跡は、水田域の南部の西端に相当する部分であるが、アゼ等の残存状態は割合と良好であった。

##### ②水田域の地形

平井地区1区は、調査面積も164m<sup>2</sup>と少なく全貌については不明である。調査区内での標高は、最高330.00m、最低329.60mで西から東にかけて3.3%の傾斜である。

##### ③アゼの走行と区画

水田を区画するアゼは、作業道を兼ねるような大アゼはなくすべてクロ的な小アゼのみである。各アゼの規模は、下幅40～70cm、高さ1cm未満～13cmで平均1.6cmと五反田地区F P層下水田跡に比べてやや低く上層の堆積土の圧力による偏平化がみられる。

アゼの走行は、地形の傾斜に沿ってと傾斜に直交するように作られている。平井地区1区では、等高線が弧を描くように引かれるが、アゼも区画の中では直線であるが、いくつかの区画を通ると等高線と同様に弧を描くように作られている。

区画は、アゼが傾斜に併せて弧を描くように作られているため長方形の区画より台形状をした区画の方が多。また、調査範囲が水田域の端部にあたるやや傾斜の急な部分であるため区画の規模はやや小規模である。

##### ④水田の面積

各小区画の面積は、第9表の水田一覧表に示したとおりであるが、水田域の大部分が調査区外に位置

するため全貌を把握することはできなく、調査区内の区画も20区画が調査されたが、そのうち面積が把握できる区画は7区画しかなかった。小区画のうち最大のものが717の17.537㎡、最小が715の1.600㎡で平均6.500㎡である。

#### ⑤取配水の方法

水田への取水については、平井地区1区がこの水田域でも端部に位置するため不明であるが、平井地区2区～4区と同様に2号埋没沢から取水していたと推定される。

小区画での取配水についても水口は、714、717、717bの区画で検出されただけであるが、当然傾斜に併せて北西の区画から南東の区画に導水されたものと推定される。

#### ⑥耕作土

五反田地区F P層下水田跡耕作土と同様な黒褐色土である。

#### ⑧出土遺物

出土した遺物は、土師器の小破片がおもて図示できるのは第228図の黒色土器が1点だけであり、この土器もAs-B層下水田跡耕土層に伴うものである。

### (3) 平井地区2区～4区

#### ①被覆土と水田の残存状態

水田跡は、直接F Pで覆われている。F Pは、厚いところで20cm、平均6～15cmである。

水田跡の残存状態は、平井地区1区よりやや良好であるが、2号埋没沢の北側や水田域端部のアゼ、区画は不鮮明である。

#### ②水田域の地形

平井地区2区～4区は、水田域の東側約3分の1に相当すると想定され、水田域の地形は西から東へかけて緩い勾配の傾斜地である。水田跡面での標高は、最高335.80m(4区)、最低334.30m(2区)である。傾斜の勾配は、2区が3.5%、3区が2.6%、4区が3.9%である。

#### ③アゼの走行と区画

水田を区画するアゼは、五反田地区や平井地区1区ではクロ的な小アゼしか検出されなかったが、3区では作業道を兼ねる大アゼが検出された。

大アゼは、東西方向が2号埋没沢の南側に沿っての871区画から897区画までで幅1.0～2.8m、全長12.5mである。南北方向の大アゼは、1～2区画おきに作られており西より埋没沢南から826区画までの幅0.8～1.0m、全長11.0m東西方向の埋没沢南から828区画までの幅1.0～1.5m、全長19.0m、埋没沢南から832区画までの幅1.0～1.5m、全長23.0m、埋没沢南から879区画までの幅1.0前後で全長5.5mの4本である。

クロ的な小アゼの規模は、下幅30～70cm、高さ1cm未満～11cmで平均3.04cmで上層の堆積土の圧力による偏平化がみられる。

アゼの走行は、他の水田跡と同様に傾斜に沿った南北方向と傾斜に直交する東西方向とがみられる。傾斜に沿ったアゼは、8～10区画を連続し、ほぼ直線的であるが、なかには3区の標高335.00mラインでは弧を描く等高線にまったく合わせたような形でアゼが作られているところもみられ、小区画の長軸方向がとられ、長さは1.5～6.5mである。

また、傾斜に直交するアゼは、直線的ではあるが多くの区画を連続する部分はみられず、長くても3～4区画で短いものは1区画で次の区画ではずれてしまうものもみられる。小区画の短軸は、この方向にとられ長さは1.0～4.5mである。

#### ④水田の面積

各小区画の面積は、第10表の水田一覧表に示したとおりであるが、区画が明確でなかったり、調査区外にのびたりして面積が完全に把握できた区画は検出された207区画のうち132区画であった。面積は、最大が911の18.362㎡、最小が726の1.077㎡、平均が4.015㎡である。そのうち10㎡以上の区画は5区画、6～9㎡が14区画、5㎡代が11区画、4㎡代が20区画、3㎡代が28区画、2㎡代が26区画、1㎡代が29区画と五反田地区と同様に1㎡から4㎡代の小規模区画が大多数を占めている。



第227図 平井地区FP層下水田跡全体図

⑤取配水の方法

水田への取水については、直接取水した遺構はみられないが3区の北側で検出された2号埋没沢から取水したと想定される。2号埋没沢は、調査区内での勾配は4%と緩い流れであり、2号埋没沢と接する区画は直接水口を設けて取水したと想定される。

水口は、35区画40カ所検出されたが、2～3区画しか連続しないため五反田地区のように取配水の経路を追えるものはみられなかった。

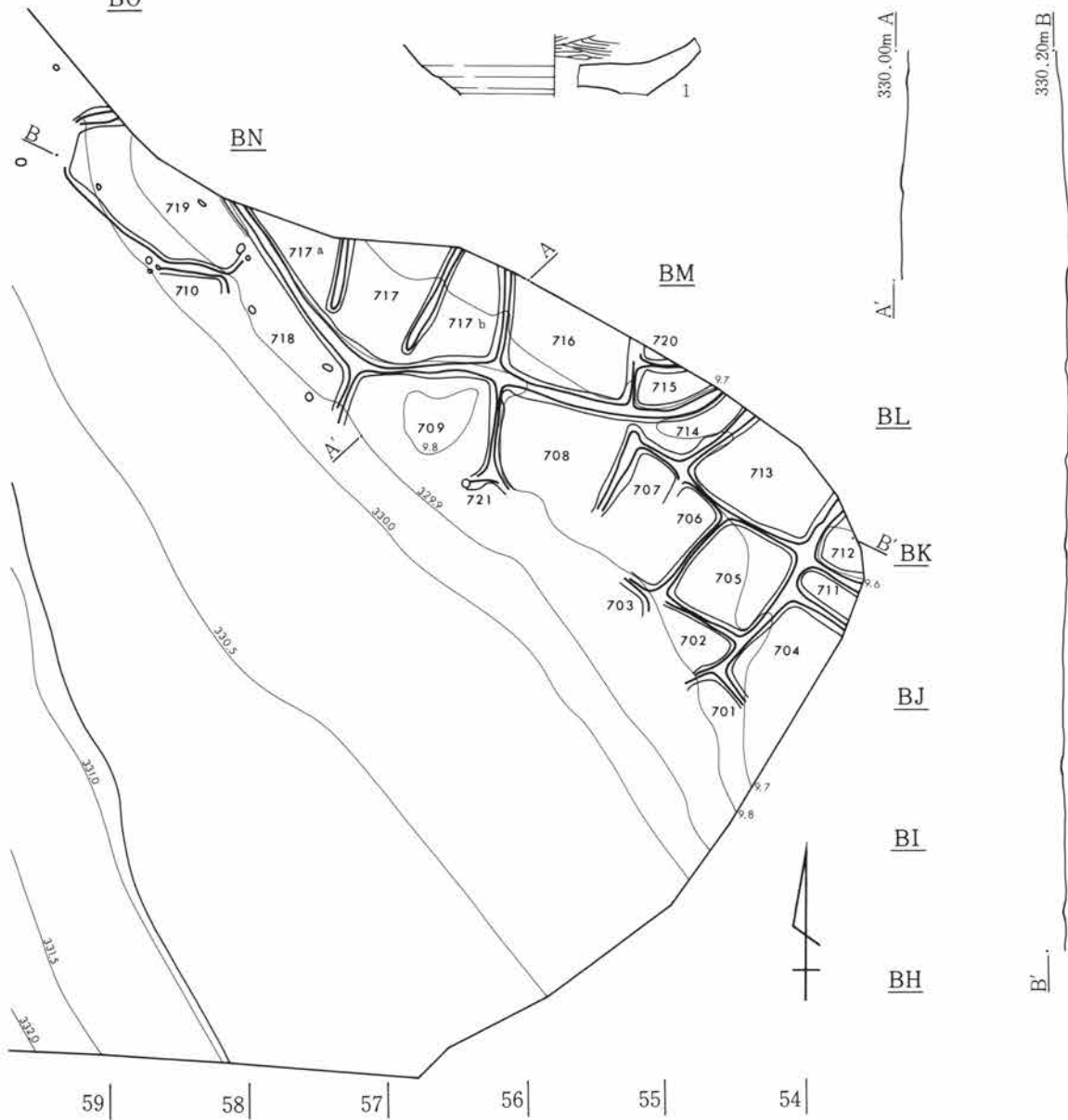
⑥耕作土

平井地区1区と同様な黒褐色土である。

⑦その他の遺構

平井地区2区～4区のFP層下水田跡では、集石跡2基と水田域の内部ではないが2区水田域の南側で竪穴住居跡1軒(32号住居跡)が検出された。

BO



第228図 平井地区1区FP層下水田跡・出土遺物 (S=1:200)

1号集石

911区画の南西角に位置し、長軸1.03m、短軸0.90m、深度0.20mの方形をした土坑の上にφ15～30cmの礫を20個ほど集めている。また、礫の下部より土師器椀、甕が出土している。

2号集石

922区画の北側1mに位置し、長軸1.10m、短軸0.55m、深度0.20mの楕円形をした土坑にφ10～30cmの礫を15個ほど集めている。集めた礫の中には、

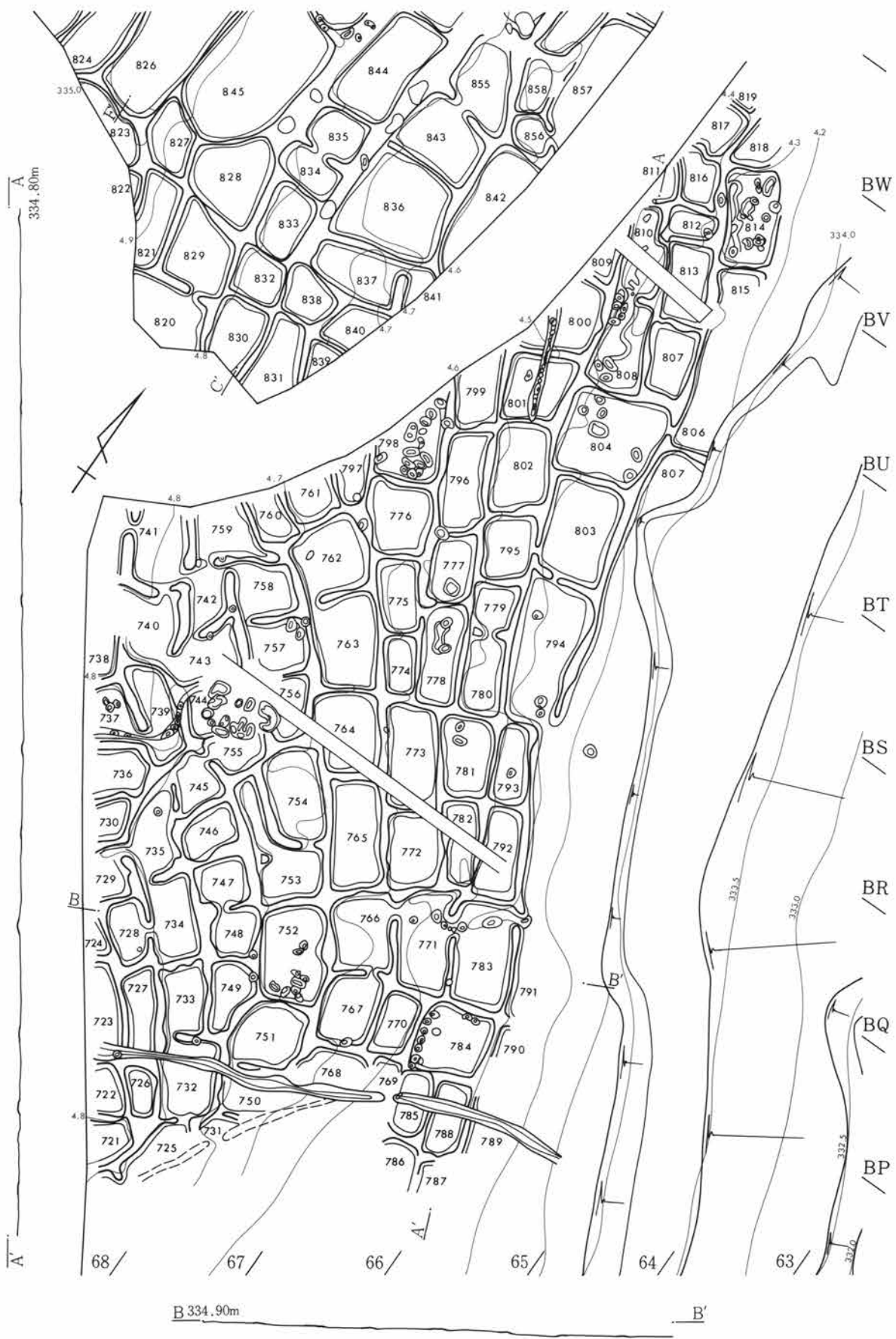
石皿が1点と土坑内部より弥生土器片が2点出土している。

32号住居跡

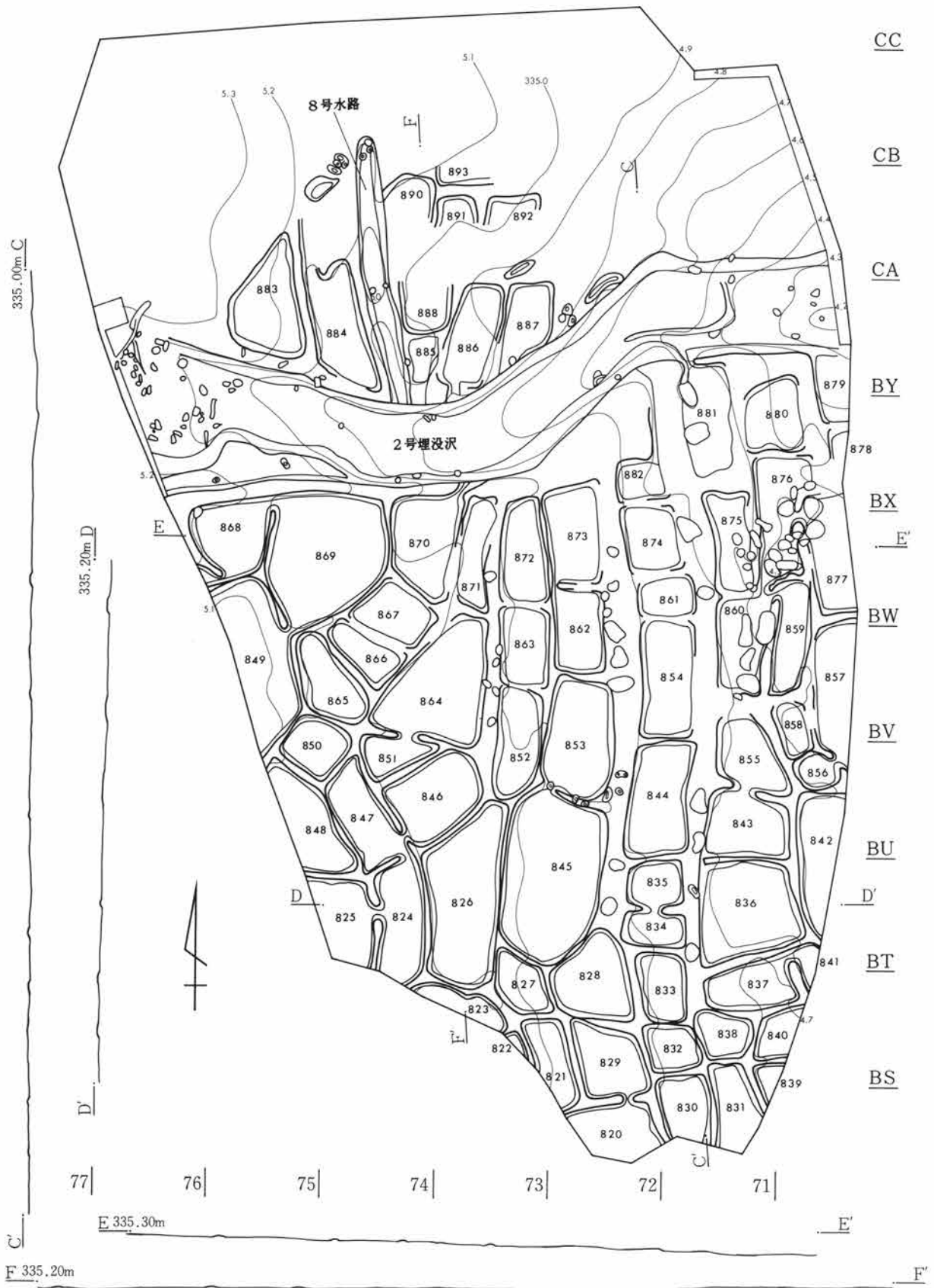
122頁参照

⑧出土遺物

水田面や水田耕土からは、弥生土器、土師器、須恵器等が出土している。第234図の6の土師器甕は、ほぼ完形で2号埋没沢の脇から出土している。



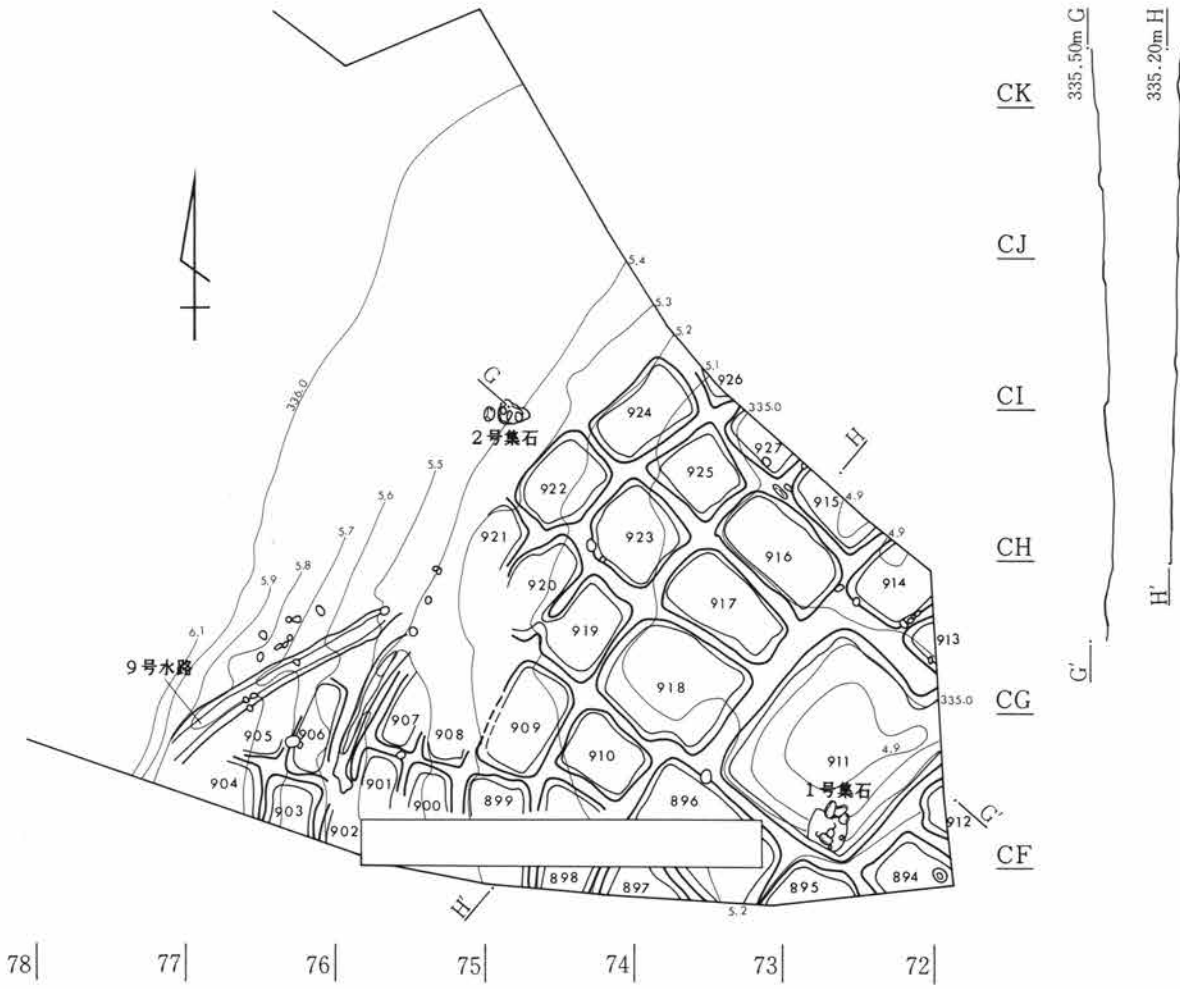
第229图 平井地区2区FP層下水田跡 (S=1:200)



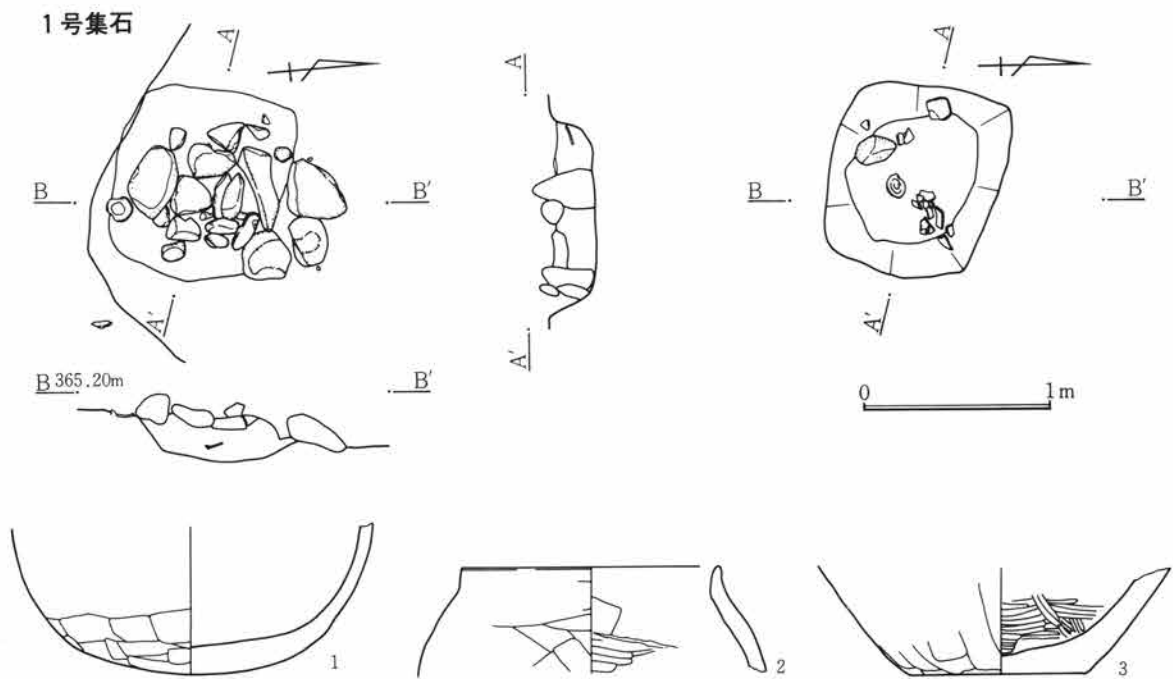
第230図 平井地区3区FP層下水田跡 (S=1:200)



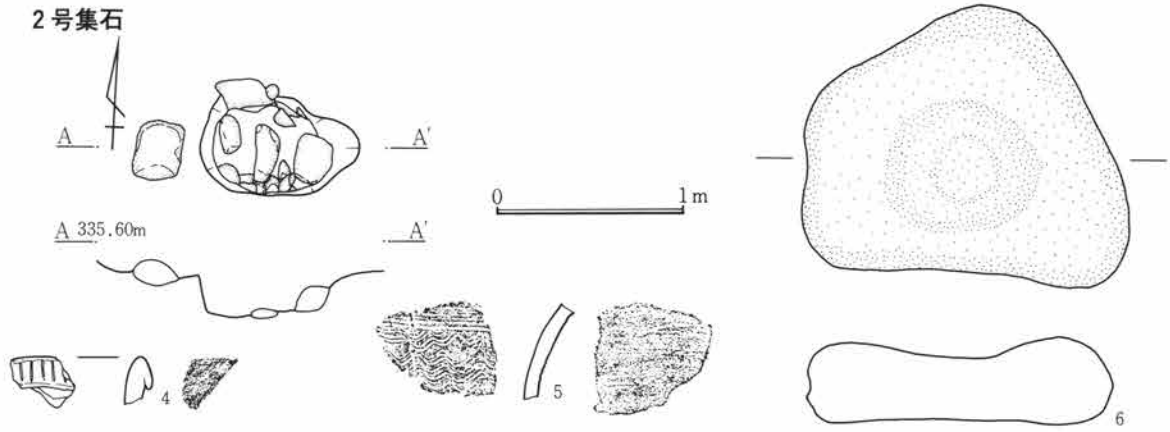
5. 水田跡



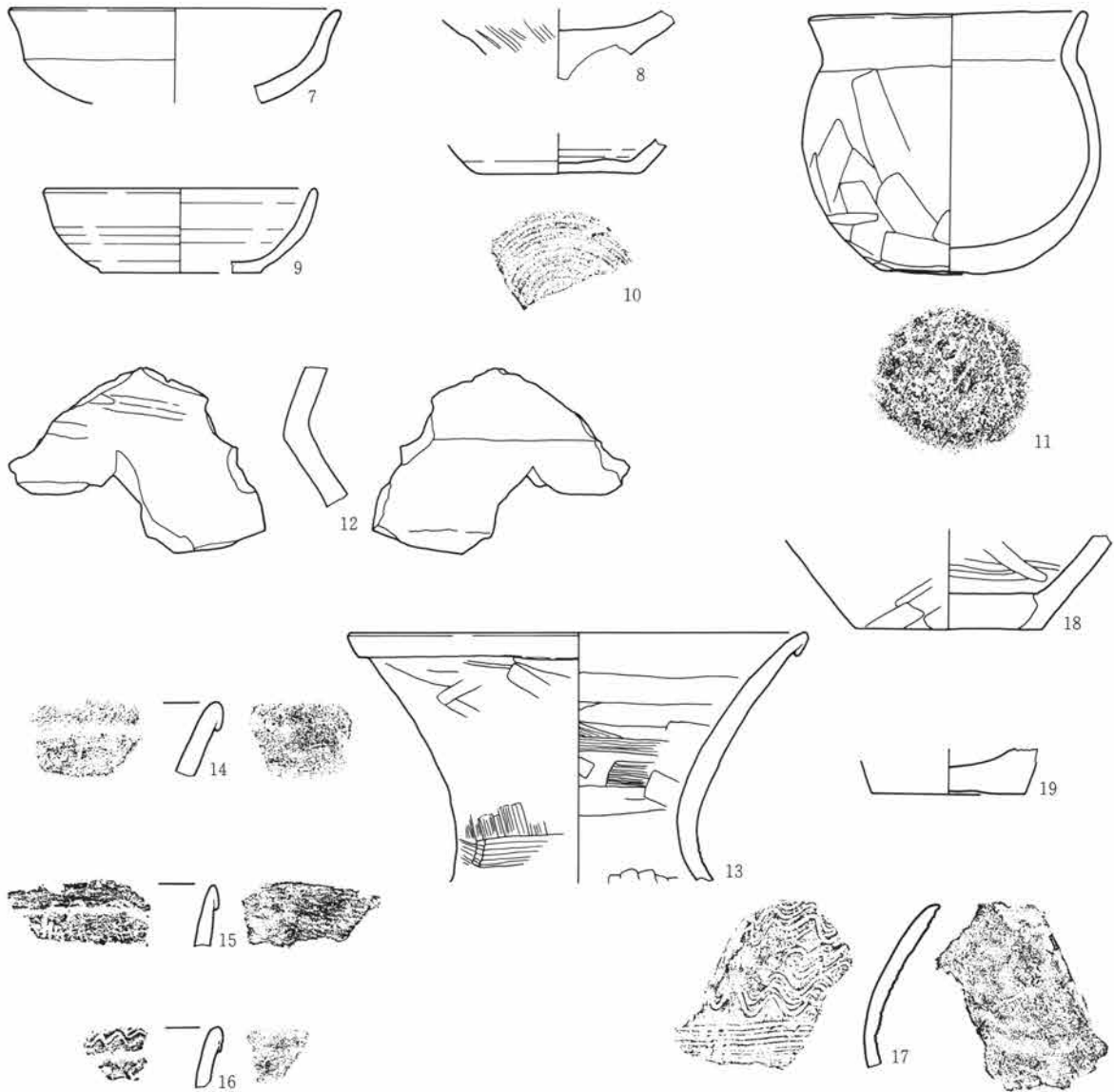
第231图 平井地区4区FP層下水田跡全体図 (S=1:200)



第232图 平井地区FP層下水田跡1号集石・出土遺物



第233図 平井地区4区FP層下水田跡2号集石・出土遺物



第234図 平井地区2～4区FP層下水田跡出土遺物

(6) 水田面積の統計的検討

この遺跡では、古墳時代と平安時代の水田跡を検出したが、これらの面積を統計処理して得た結果を以下に記す。行った統計処理は、面積を機械的に区切り、各面積別の頻度を示したヒストグラムと、面積の平均値と標準偏差を正規分布関数に代入して描いた正規分布曲線である<sup>(1)</sup>。

(1) 古墳時代の水田(Hr-F P層下)

五反田地区

この地区の水田は、一つの区画が $0.490\sim 49.293\text{m}^2$ までの幅をもつ(第235図)。全区画の90%が $8\text{m}^2$ 以下であるが、 $2\sim 4\text{m}^2$ と $34\sim 36\text{m}^2$ の二つのピークをもち、平均値は最も頻度の多い $2\sim 4\text{m}^2$ の範囲に一致していない。

したがって、正規分布曲線はバラツキが大きく平均値が小さい頂点の低い曲線を示す(第236図-a)。

$34\sim 36\text{m}^2$ にピークをもつ一群は、この地区の南東部が平坦地で、この部分のみに大きな区画が造られたためであり、 $2\sim 4\text{m}^2$ をピークとする一群とは明らかに区分される。

したがって、これらの大きな区画を分離した $20\text{m}^2$ 以下の区画の正規分布曲線は、バラツキが小さい高い頂点の曲線を示し(第236図-b)、次に述べる平井地区の古墳時代水田と近似した様相を示している。

平井地区

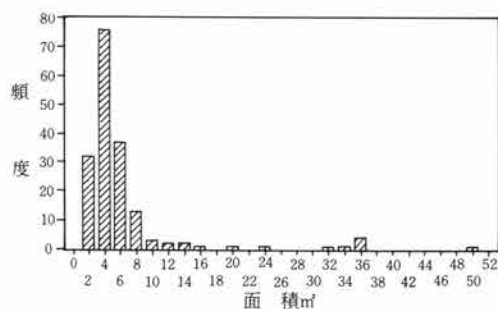
この地区の水田は、 $1.077\sim 18.362\text{m}^2$ までの幅をもつ(第237図)。最も頻度が多いのは $2\sim 4\text{m}^2$ で、平均値もほぼこの値に一致している。

一方、正規分布曲線は、バラツキ、平均値ともに小さい高い頂点の曲線を示す(第238図)。これは五反田地区の、大きな区画を除いた古墳時代水田に近似した分布を示している。

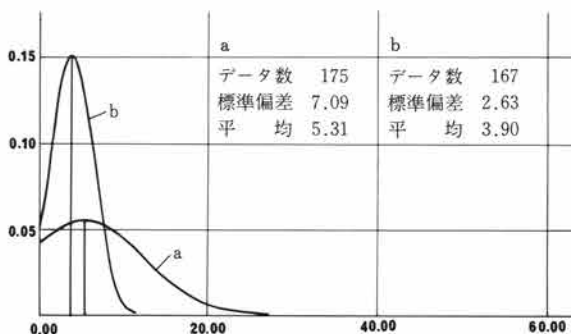
(2) 平安時代の水田(As-B層下)

五反田地区

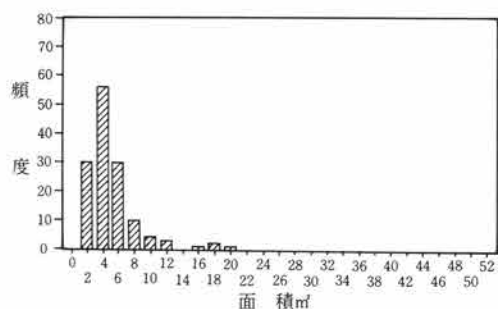
この地区の水田は、 $3.034\sim 25.086\text{m}^2$ までの幅をもつ(第239図)。分布のピークは $6\sim 8\text{m}^2$ であるが、大きな区画のものが点在するために、分布のピーク



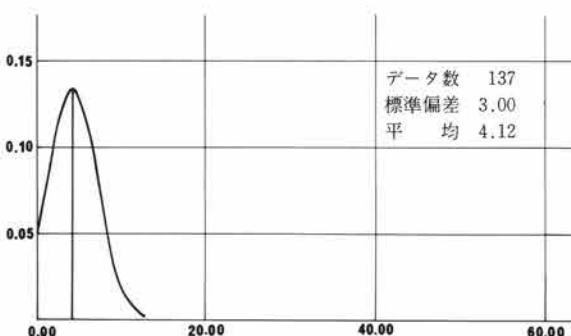
第235図 五反田地区FP層下水田



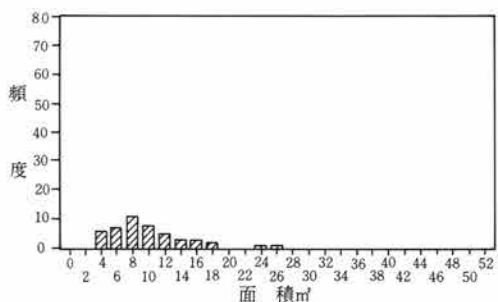
第236図 五反田地区FP層下水田



第237図 平井地区FP層下水田



第238図 平井地区FP層下水田



第239図 五反田地区As-B層下水田

と平均値とは僅かに異なる。したがって、正規分布曲線はバラツキが大きく、平均値も大きい低い頂点の曲線を示している(第240図-a)。

平井地区

この地区の水田は、1.093~22.165㎡までの幅に分布し、分布の幅は五反田地区の平安時代水田と大きく異なるものではない(第241図)。しかし、大半が10㎡以下に収まるために、平均値は五反田地区に比べてはるかに小さい。

したがって、正規分布曲線はバラツキが小さい高い頂点の曲線を示し(第240図-b)、むしろこの遺跡の古墳時代水田に近い様相を備えている。

(3) まとめ

この遺跡で検出した水田は、区画の面積の状況から大きく二つに分類できる。一つはバラツキが小さく平均値が小さい一群で、五反田地区の古墳時代水田、平井地区の古墳時代水田・平安時代水田がこれに該当する。

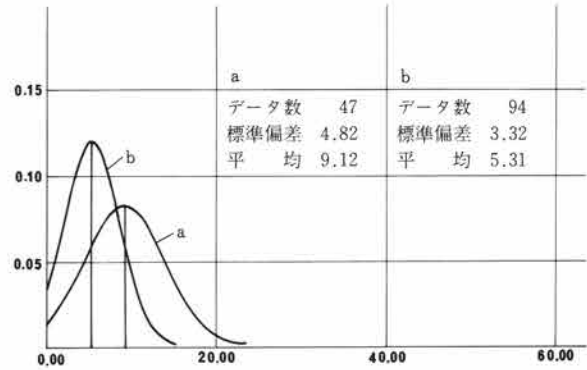
これに対して、バラツキが大きく平均値が大きい一群が存在し、これには五反田地区の平安時代水田が該当する。

つまり、平井地区では古墳時代と平安時代との間で、区画面積の差が少ないのに対して、五反田地区では平安時代に面積の大きな区画への変化が認められるのである。

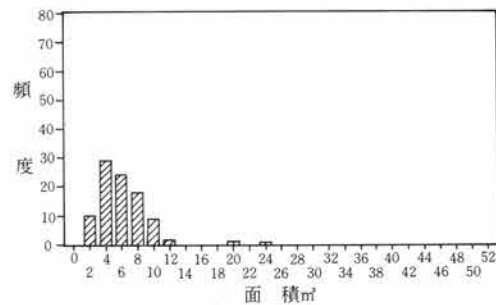
古墳時代水田は、小さな区画と高い規格性をもち、例えばHr-F P層に覆われた群馬町・同道遺跡のⅢ期水田に比較的近似した様相を備えている。

また、五反田地区ではHr-F P層とAs-B層の間に位置する、洪水層で覆われた水田を検出している。この水田は年代を示す共伴遺物がなく、年代を平安時代とする根拠は、洪水層の層位がHr-F P層よりもAs-B層に近いことのみである。

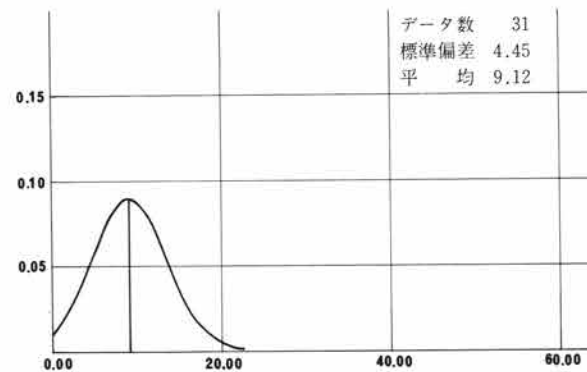
しかし、この地区の水田面積の正規分布曲線を比較すると、同地区のAs-B層下水田に極めて近似した様相を示している(第242図)。したがって、洪水層に覆われた水田が平安時代である蓋然性は高いものと考えられる。



第240図 五反田地区・平井地区As-B層下水田



第241図 平井地区As-B層下水田



第242図 五反田地区Ⅳa層下水田

〔注〕

(1) ここで提示した正規分布曲線は、星野伸一氏(群馬県企業局)が作成したコンピュータの、正規分布関数プログラムにより算出した。計算式は以下のとおりである。

正規分布関数

$$f(x) = \frac{1}{\sqrt{2\pi} \cdot \sigma} \cdot e^{-\frac{(x-\mu)^2}{2\sigma^2}}$$

$$\sigma : \text{標準偏差} = \sqrt{\frac{1}{n-1} \left\{ \sum x_i^2 - \frac{(\sum x_i)^2}{n} \right\}}$$

$$\mu : \text{平均値} = \frac{\sum x_i}{n}$$

(2) 石坂 茂 『同道遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983

第4表 五反田地区浅間B軽石 (As-B) 層下水田跡

No. 1

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口
001	AX~AY-38~39	長方形	5.6	3.4	328.06	327.92	14	8.404	
002	AX~BA-37~40	長方形	7.2	4.7	327.88	327.78	10	22.037	
003	AX~BB-39~41	正方形	5.5	5.2	327.95	327.80	15	17.504	063 S
004	AX~AY-36~38	長方形	5.0	3.5	327.77	327.62	15	4.374	
005	AX~BA-37~39	不整形	4.5	3.0	327.75	327.66	9	7.296	
006	AY~BB-37~39	長方形	5.3	3.1	327.77	327.67	10	9.376	002 S W, 003 N W
007	BA~BC-38~40	長方形	3.6	3.0	327.77	327.64	13	7.589	
008	AX~BA-36~38	長方形	6.5	2.6	327.57	327.48	9	9.354	004 W
009	AY~BC-36~39	楕円形	7.7	4.5	327.65	327.46	19	25.086	
010	BB~BD-38~39	長方形	4.4	3.0	327.55	327.46	9	9.344	
011	AX~AY-35~37	不整形	4.4	3.8	327.46	327.29	17	10.021	
012	AX~BA-35~37	長方形	4.4	3.9	327.46	327.35	11	13.082	
013	AY~BA-35~37	長方形	4.6	3.5	327.48	327.35	13	14.922	
014	AY~BC-36~38	長方形	5.4	4.6	327.48	327.35	13	17.485	009 N W
015	BB~BD-37~39	長方形	4.5	3.5	327.46	327.38	8	10.629	
016	AW~AY-33~35	長方形	5.2	3.2	327.31	327.12	19	11.904	
017	AX~BB-34~36	不整形	4.8	3.7	327.28	327.15	13	12.730	0011 N, 012 W
018	BA~BC-35~36	長方形	5.2	3.2	327.29	327.14	15	14.473	
019	BB~BC-35~37	長方形	5.8	2.6	327.32	327.26	6	6.624	
020	AX~BA-33~35	長方形	6.8	4.2	327.22	327.11	11	22.005	
021	AX~BB-33~35	長方形	4.2	3.2	327.22	327.08	14	9.804	
022	BA~BC-34~36	長方形	5.4	3.8	327.19	327.08	11	13.370	
023	BB~BD-34~36	長方形	3.2	2.1	327.12	327.04	8	2.325	
024	BC~BE-36~38	不整形	4.6	3.0	327.16	327.08	8	9.045	
025	BE~BF-37~38				327.19	327.17	2		
026	BC~BE-35~37	不整形	4.5	3.0	327.13	327.09	4	14.748	024 W, 024 S W
027	BD~BF-35~37	長方形	5.9	2.2	327.11	327.04	7	10.485	
028	AX~BA-32~34	長方形	4.3	3.3	327.08	327.03	5	10.013	
029	AY~BB-32~34	長方形	4.9	3.5	327.10	327.02	8	13.381	
030	BA~BC-33~35	長方形	5.2	3.5	327.10	327.00	10	11.856	022 W
031	BB~BD-33~35	長方形	4.4	3.3	327.09	327.02	7	10.218	022 W
032	BC~BE-34~35	長方形	3.7	3.2	327.05	326.99	6	6.981	
033	AY~BA-32~33				327.02	327.00	2		
034	AY~BB-32~33	長方形	4.4	2.7	327.02	327.00	2	8.357	
035	BA~BB-33~34				327.03	327.01	2		
036	BB~BD-33~34	長方形	4.5	2.8	327.03	326.98	5	9.680	
037	BC~BE-33~35	不整形	2.8	1.9	326.98	326.97	1	2.549	
038	BE~BF-34~35	不整形	2.5	2.4	326.99	326.95	4	3.781	
039	BE~BG-33~35	長方形	4.8	3.5	326.99	326.95	4	10.794	
040	BF~BG-32~34	長方形	4.4	3.2	326.93	326.92	1	9.403	
041	BE~BG-34~36	長方形	3.5	2.7	326.99	326.95	4	3.845	
042	BE~BG-33~35	長方形	3.2	1.8	327.03	327.01	2	3.669	
043	BF~BH-34~36	不整形	5.2	4.3	327.05	326.98	7	14.874	
044	BF~BH-33~35	長方形	3.7	3.3	327.00	326.92	8	8.848	
045	BF~BH-36~38	長方形	4.3	4.0	327.08	327.04	4	8.714	
046	BF~BH-35~37	長方形	4.2	2.2	327.05	327.03	2	5.648	043 E
047	BG~BI-35~37	長方形	4.0	2.5	327.03	326.96	7	5.765	
048	BF~BI-34~36	長方形	5.7	2.3	326.99	326.94	5	9.308	
049	BG~BH-35~37	長方形	3.5	2.6	327.00	326.96	4	5.794	053 N W
050	BH~BJ-35~37	長方形	4.5	3.0	326.99	326.95	4	9.226	
051	BH~BI-36~38	長方形	2.4	2.5	326.97	326.96	1	3.912	
052	BG~BH-36~38	長方形	2.3	1.9	327.07	327.01	6	6.144	045 E
053	BG~BI-36~38	長方形	5.3	2.2	327.01	327.00	1	8.288	052 E
054	BG~BI-36~38	長方形	4.9	2.2	327.03	326.95	8	7.301	
055	BF~BH-37~39	長方形	4.1	3.0	327.14	327.07	7	7.507	057 N W
056	BG~BI-37~39	長方形	2.8	2.0	327.10	327.05	5	3.205	

第5章 下川田平井遺跡の遺構・遺物

No. 2

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口	
057	BF~BH-38~39	長方形	5.7	3.4	327.17	327.11	6	7.045		
058	BG~BH-38~40	長方形	3.0	2.0	327.11	327.06	5	3.562		
059	BA~BC-39~41	正方形		4.1	4.1	327.88	327.75	13	13.804	
060	BA~BB-40~41	長方形	1.8	1.6	327.93	327.91	2	3.322	溝SW	
061	AY~BB-40~41	長方形			328.00	328.00	0		溝SW	
062	AY~BA-40~41	楕円形	3.4	1.9	328.08	328.00	8	3.653	063SE、溝SW	
063	AX~BA-39~41	長方形	4.2	3.5	328.09	327.96	3	9.285	064SW	
064	AX~BA-40~42	不整形		6.0	3.5	328.26	328.13	13	12.877	066SW
065	AX~BA-41~43	長方形		3.4	2.6	328.26	328.19	7	4.509	
066	AW~AY-41~43	長方形		3.6	3.5	328.37	328.27	10	10.177	溝NW
067	AX~BA-42~43	長方形		4.7	3.4	328.40	328.27	13	8.480	溝SE
068	AV~AX-42~43	正方形	3.7	3.3	328.56	328.43	13	8.682		
069	AV~AX-42~44	不整形		4.7	3.5	328.74	328.60	14		070NW
070	AV~AW-43~45	不整形	4.6	3.9	328.84	328.64	20	7.808		
071	AU~AV-44~45	不整形		3.7	3.0	328.92	328.88	4		3.829 074S
072	AV~AX-44~45	不整形	5.0	3.8	328.72	328.64	8	11.477	溝・073SW	
073	AV~AW-44~45	不整形	3.3	3.2	328.83	328.72	11	6.650	071SW	
074	AT~AV-45~46	不整形	8.6		2.8	328.99	329.00	1	14.486	
075	BB~BD-49~51	長方形		3.0	2.7	328.85	327.63	12	5.338	
076	BB~BC-48~50	長方形	3.1	2.4	327.78	327.51	27	4.528		
077	BB~BD-48~50	不整形	3.9	3.2	327.58	327.24	24	7.648		
078	BA~BC-48~49	長方形	3.7	3.0	327.76	327.53	23	6.713		
079	BB~BC-48~49	長方形	3.2	2.5	327.42	327.15	17	5.269	082NW	
080	BC~BD-48~49	不整形	3.1	2.8	327.28	327.13	15	5.733		
081	BA~BB-47~48	長方形	3.1	2.8	327.69	327.52	17	5.365		
082	BB~BC-47~49	長方形	3.2	2.7	327.47	327.16	11	6.316		
083	BB~BD-47~48	長方形	3.0	1.8	327.18	327.12	6	3.034	082SE	
084	BF~BG-37~39								溝S	
085	BF~BG-38~40									
086	BF~BH-39~40									
087	AX~AY-42~44		2.5	3.7	328.56	328.41	15	4.800		
088	BC~BD-48~50		1.7	2.5	327.62	327.55	7	5.520		

第5表 下川田平井遺跡1~4区As-B層下水田跡

No. 1

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口
501	BK~BL-55~56	長方形	1.8		1.0	330.27	330.23	4	0.960
502	BK~BM-55~57	長方形	3.6		1.8	330.29	330.22	7	5.332
503	BK~BL-56~57	長方形	3.3	2.1		330.41	330.32	9	4.222
504	BK~BL-56~58	長方形		2.6	2.4	330.47	330.44	3	1.157
505	BK~BL-56~57					330.35	330.30	5	
506	BL~BM-56~57					330.29	330.23	6	
507	BK~BM-56~57	長方形	3.5	2.5		330.41	330.33	8	5.040
508	BK~BM-56~58	長方形	4.0	3.6		330.52	330.42	10	6.912
509	BK~BN-57~59					330.65	330.53	12	
510	BL~BN-56~58					330.42	330.34	8	
511	BL~BN-57~58	長方形	3.4	2.8		330.45	330.44	1	5.712
512	BN~BL-57~59	長方形		2.8	2.4	330.48	330.36	12	2.746
513	BM~BO-58~59	長方形	3.2	2.4		330.67	330.52	15	4.952
514	BM~BN-59~60	長方形		3.1	2.1	330.76	330.70	6	3.712
515	BM~BN-59~60	長方形	3.1		1.1	330.77	330.76	1	1.973
516	BN~BO-58~60	長方形		2.9	1.6	330.64	330.63	1	1.853
517	BN~BO-59~60	長方形	3.3	1.6		330.67	330.64	3	3.205
518	BM~BO-59~60	長方形	3.1		1.7	330.76	330.69	7	4.016
519	BN~BP-59~60	長方形		2.9	1.7	330.66	330.61	5	1.936
520	BN~BP-59~60	長方形	3.1		1.7	330.68	330.66	2	1.353
521	BM~BO-60~61	長方形	2.4		0.9	330.85	330.81	4	0.506
522	BM~BP-60~62	長方形			1.9	330.84	330.77	7	3.760
523	BO~BQ-60~62	長方形	3.7		1.7	330.82	330.75	7	3.642
524	BO~BQ-60~61	長方形		2.9	1.9	330.75	330.71	4	3.141

5. 水田跡

No. 2

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口
525	BO~BQ-60~61	長方形	2.2	1.8	330.69	330.66	3	1.705	
526	BP~BQ-60~61	長方形	2.1	0.9	330.68	330.65	3	0.714	
527	BP~BQ-60~61	長方形	3.0	2.0	330.74	330.70	4	3.664	
528	BP~BQ-61~62	長方形	2.8	1.6	330.76	330.75	1	2.570	
529	BP~BR-61~62	長方形	3.2	1.4	330.84	330.75	9	2.480	
530	BP~BR-60~62	長方形	3.1	1.5	330.73	330.70	3	2.810	
531	BQ~BS-61~62	長方形	3.6	1.7	330.83	330.75	8	3.312	
532	BR~BS-61~63	長方形	2.9	1.5	330.92	330.80	12	2.384	
533	BR~BT-62~63	長方形	3.7	1.3	331.05	330.96	9	1.344	

第6表 平井地区3区・4区As-B層下水田跡

No. 1

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口
534	BS~BT-62~63	長方形	1.1	0.5	331.11	331.09	2	0.170	
535	BR~BS-71~72	不整形	3.9	1.9	335.05	335.03	2	3.392	
536	BR~BT-70~72	長方形	4.0	2.2	335.02	334.96	6	4.159	
537	BR~BT-71~72	長方形	4.1	3.3	335.08	335.04	4	7.408	
538	BR~BT-71~72	長方形	4.3	2.8	335.15	335.06	9	6.960	
539	BR~BT-72~74	長方形	4.2	2.3	335.23	335.16	7	4.874	
540	BT~BU-70~71	不整形	1.1	0.5	335.02	334.95	7	0.117	
541	BT~BU-70~72	長方形	4.3	2.3	335.02	334.95	7	7.013	
542	BS~BU-71~72	長方形	4.6	2.0	335.08	335.01	7	5.636	
543	BR~BU-71~73	長方形	5.1	2.0	335.14	335.07	7	5.173	
544	BS~BU-72~73	長方形	5.6	2.9	335.21	335.09	12	10.304	
545	BS~BU-72~74	長方形	6.0	4.5	335.28	335.19	9	19.568	
546	BS~BU-73~75	長方形	2.4	2.3	335.35	335.31	4	2.522	
547	BT~BU-74~75	長方形	1.8	1.3	335.36	335.36	0	1.152	
548	BU~BT-70~71	長方形	4.2	0.9	334.95	334.92	3	2.277	
549	BU~BV-70~72	長方形	3.6	3.1	334.99	334.93	6	7.568	
550	BU~BV-71~72	長方形	3.6	1.8	335.06	335.01	5	3.562	565W
551	BU~BV-71~73	長方形	3.0	1.8	335.07	335.04	3	2.789	
552	BU~BV-72~73	長方形	3.3	2.3	335.17	335.03	14	4.736	
553	BT~BW-72~74	長方形	5.9	4.9	335.24	335.14	10	22.165	
554	BT~BV-74~75	長方形	3.6	2.2	335.35	335.23	12	4.394	
555	BT~BV-74~75	長方形	3.3	1.9	335.38	335.35	3	3.418	
556	BI~BU-75~76	長方形	2.6	1.1	335.49	335.47	2	1.274	
557	BI~BV-74~76	正方形	2.4	2.2	335.48	335.40	8	2.688	
558	BU~BW-74~75	長方形	4.8	2.2	335.38	335.34	4	6.900	
559	BU~BW-74~75	長方形	5.1	2.0	335.31	335.25	6	6.452	
560	BU~BW-72~73	長方形	3.1	2.0	335.12	335.03	9	3.760	
561	BU~BW-71~74	長方形	3.7	1.5	335.04	335.01	3	3.340	
562	BU~BW-71~72	長方形	2.9	1.8	335.01	334.97	4	3.701	
563	BU~BW-70~72	長方形	3.7	3.1	334.97	334.92	5	7.872	
564	BV~BW-70~71	長方形	2.9	1.1	334.93	334.79	14	1.888	
565	BU~BW-75~76	長方形	3.5	1.6	335.50	335.48	2	2.484	
566	BU~BW-74~76	長方形	2.7	1.7	335.44	335.40	4	2.421	
567	BV~BX-76~77	長方形	0.7	0.5	335.55	335.53	2	0.101	
568	BV~BX-75~76	長方形	4.2	2.0	335.54	335.49	5	5.463	
569	BV~BW-74~76	長方形	4.3	2.2	335.47	335.40	7	5.605	
570	BV~BX-74~75	正方形	2.9	2.6	335.38	335.31	7	4.616	
571	BV~BX-73~75	不整形	3.4	3.2	335.27	335.15	12	7.628	
572	BV~BX-72~74	長方形	3.3	2.2	335.15	335.10	5	5.922	
573	BV~BX-72~73	長方形	3.1	1.9	335.10	335.03	7	3.136	
574	BV~BX-71~73	長方形	3.2	2.2	335.01	334.93	8	3.552	
575	BV~BX-71~72	不整形	3.0	2.1	334.98	334.94	4	2.909	
576	BV~BX-70~72	長方形	3.1	2.3	334.96	334.94	2	4.597	
577	BV~BX-70~71	長方形	4.7	1.4	334.95	334.89	6	4.933	
578	BW~BY-70~72	長方形	2.6	2.4	334.93	334.86	7	3.616	
579	BW~BX-71~72	楕円形	2.4	1.7	334.95	334.92	3	1.797	
580	BW~BY-71~73	長方形	3.4	2.9	335.01	334.89	2	5.994	

第5章 下川田平井遺跡の遺構・遺物

No. 2

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口
581	BW~BY-72~73	長方形	3.6	2.3	335.07	335.01	6	3.600	
582	BW~BY-72~74	長方形	4.8	3.3	335.15	335.08	7	9.178	
583	BW~BY-73~75	長方形	4.3	2.8	335.27	335.15	12	8.549	
584	BW~BY-74~75	不整形	4.7	3.3	335.38	335.25	13	8.965	
585	BW~BY-74~76	長方形	4.5		2.4	335.44	335.33	11	5.168
586	BX~BY-74~76	長方形		3.1	2.2	335.43	335.35	8	4.599
587	BX~BC-74~75	長方形	4.4	2.6	335.28	335.21	7	6.488	
588	BX~CA-73~75	長方形	3.5	3.3	335.24	335.18	6	7.424	
589	BX~CA-72~74	長方形	3.5	2.1	335.15	335.12	3	4.016	
590	BX~BY-72~73	長方形	3.5	2.4	335.07	334.98	9	4.832	
591	BX~BY-71~73	長方形	3.6	3.0	334.97	334.89	8	5.429	
592	BX~CA-70~72	長方形	3.5	3.3	334.88	334.81	7	5.920	
593	BX~CA-70~71	長方形	3.5		1.2	334.80	334.75	5	2.298
594	BY~CB-70~71	長方形	3.6	1.2	334.81	334.75	11	2.645	
595	BY~CA-70~72	長方形	4.0	3.0	334.90	334.81	9	6.024	
596	BY~CA-71~73	長方形	4.1	3.9	334.97	334.88	9	10.090	
597	BY~CB-72~73	長方形	4.5	2.3	335.09	334.96	13	4.218	
598	BY~CB-72~74	長方形	3.5	2.3	335.16	335.11	4	4.912	
599	BY~CB-73~75	長方形		3.7	3.2	335.28	335.18	10	7.882
600	BY~CB-74~75	長方形		3.6	2.8	335.31	335.26	5	6.234
601	BX~CA-74~76	長方形	3.0	2.7	335.47	335.34	13	4.666	
602	BY~CA-75~76	長方形	3.0	1.7	335.59	335.54	5	1.413	
603	BY~CB-75~77	長方形		3.4	2.1	335.70	335.62	8	1.301
604	BX~CA-76~77	長方形	1.8		0.9	335.77	335.71	6	2.026
605	BX~CA-76~78	長方形		2.4	1.5	335.84	335.79	5	1.392
606	BY~CB-76~77	長方形	3.6		1.8	335.88	335.79	9	4.074
607	CA~CB-77~78	長方形	1.9	1.5	336.12	336.01	11	1.589	
608	CA~CB-76~77			1.7	0.6	335.97	335.90	7	
609	CA~CB-76~77	長方形	2.3		1.4	335.78	335.72	6	2.832
610	CA~CB-75~77	長方形	2.6	1.7	335.69	335.64	5	2.064	
611	BY~CB-75~76	長方形	3.0	1.9	335.60	335.54	6	2.832	
612	BY~CB-74~76	正方形	2.8	2.7	335.48	335.39	9	4.101	
613	CA~CB-74~76	長方形	2.9	2.2	335.49	335.35	14	3.493	
614	CA~CB-74~75	長方形		2.7	2.6	335.35	335.29	6	5.168
615	CA~CB-73~75	長方形		2.7	2.7	335.30	335.25	5	5.642
616	CA~CB-73~74	長方形		3.2	2.0	335.24	335.12	13	3.930
617	CA~CB-72~73	長方形	3.4	1.8	335.16	335.08	8	3.489	
618	CA~CB-71~73	長方形	4.1	4.0	335.06	334.93	13	7.672	
619	CA~CC-70~72	長方形	4.3	3.6	334.92	334.83	9	8.592	
620	CA~CC-70~71	長方形	5.0		1.1	334.83	334.82	1	2.994
621	CB~CC-70~71	長方形		1.1	0.7	334.88	334.87	1	0.261
622	CB~CC-71~72	長方形		2.7	2.6	334.96	334.88	8	3.674
623	CB~CC-71~73	長方形	4.2	2.8	335.12	335.01	11	7.808	
624	CB~CC-72~73	長方形	3.9	1.4	335.20	335.12	8	3.029	
625	CA~CC-73~74	長方形	4.1	2.1	335.27	335.19	6	5.194	
626	CA~CC-73~75	長方形	4.7	3.3	335.33	335.27	6	9.973	
627	CA~CC-74~75	長方形	4.1	2.5	335.41	335.35	6	6.289	
628	CA~CC-74~76	長方形	1.7		1.5	335.48	335.45	3	1.242
629	CA~CC-75~76	長方形		2.5	1.9	335.60	335.53	7	3.056
630	CA~CC-75~77	長方形		2.0	1.8	335.70	335.65	5	2.320
631	CB~CC-77~78					336.12	336.08	4	
632	CA~CC-77~78	長方形		2.2	1.7	336.11	336.02	9	1.472
633	CC~CP-74~75	長方形	2.0		1.8	335.43	335.42	1	
634	CB~CD-74~75	長方形	2.5		1.4	335.41	335.38	3	1.637
635	CC~CP-73~74	長方形	1.9	1.3	335.37	335.31	6	1.514	
636	CB~CD-72~74	長方形	2.1		1.8	335.27	335.20	7	1.866
637	CC~CD-72~73	長方形	1.8	1.5	335.20	335.17	3	1.317	
638	CB~CD-71~73	長方形	2.1	1.4	335.16	335.05	11	1.269	
639	CF~CG-76~78	長方形		2.7	1.8	336.21	336.12	9	2.048
640	CF~CG-76~77	長方形		1.7	1.6	336.04	336.03	1	1.353



No. 3

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口		
641	CF~CH-76-77	長方形	3.2	2.5	336.17	336.05	12	6.645			
642	CF~CG-77-78	長方形	2.1	1.2	336.23	336.22	1	1.408			
643	CF~CG-75-77	長方形	1.5	1.6	335.99	335.93	6	1.290			
644	CF~CH-75-77	長方形	2.6	2.3	336.07	335.94	13	3.562			
645	CG~CH-76-77	長方形	2.6	1.1	336.10	335.99	11	1.093			
646	CG~CH-74-75	長方形		2.4		1.3	336.01	335.99	2	0.608	
647	CG~CH-76-77	長方形		2.1	1.1		336.12	336.06	6		
648	CG~CH-76-77	長方形		1.5	1.0		336.12	336.06	6		
649	CG~CH-75-76	不整形		0.8		0.7	335.96	335.96	0		0.279
650	CG~CH-75-76	長方形		1.4	0.9		336.01	335.97	4		0.560
651	CH~CI-75-76	長方形		1.5	0.8		336.04	335.98	6		0.480
652	CF~CH-75-76	長方形		4.0		1.7	335.93	335.73	20		8.816
653	CF~CG-74-75	長方形		2.6	2.3		335.72	335.66	6		5.653
654	CG~CH-74-75	不整形		1.7		1.0	335.74	335.72	2		0.522
655	CG~CH-74-75	長方形	2.1			1.0	335.75	335.74	1		0.719
656	CH~CT-74-75	長方形		1.1		0.7	335.85	335.82	3		0.341
657	CI~CK-74-75	長方形					335.84	335.74	10		
658	CF~CG-73-75	長方形	3.1	3.0			335.68	335.56	12	9.498	
659	CG~CH-73-75	長方形	4.3	3.4			335.69	335.60	9	8.320	
660	CH~CI-74-75	不整形	4.0	3.4			335.79	335.64	15	8.272	
661	CH~CJ-73-75	長方形	3.9	3.5			335.74	335.64	10	7.653	
662	CI~CK-73-75	長方形	2.9			1.1	335.70	335.59	11		1.530
663	CI~CJ-73-75	長方形		1.3		0.7	335.64	335.61	3		0.426
664	CE~CG-72-74	長方形		3.0		2.0	335.53	335.45	8		2.373
665	CF~CH-72-74	長方形	4.4	3.1			335.57	335.51	6	9.781	
666	CG~CH-73-74	不整形	4.1	2.9			335.59	335.54	5	5.824	
667	CH~CI-73-74	長方形	3.6	3.2			335.62	335.58	4	7.338	
668	CH~CJ-73-74	長方形	2.3	1.7			335.63	335.54	9	1.850	667W
669	CF~CG-72-73	長方形		3.4	2.6		335.50	335.40	10		5.274
670	CF~CH-72-74	長方形	3.0	2.7			335.50	335.47	3	4.520	670W
671	CG~CH-72-73	長方形	2.2			2.1	335.45	335.40	5		2.416
672	CG~CI-72-74	長方形	3.0	2.3			335.57	335.50	7	3.870	
673	CG~CI-72-73	長方形		2.6		2.4	335.50	335.47	3		2.580
674	CH~CI-72-74	長方形		2.3		2.0	335.56	335.51	5		1.930
675	CF~CG-72-73	不整形		1.6		1.5	335.56	335.51	5		1.194

第7表 下川田平井遺跡五反田地区IVa層下水田跡

No. 1

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口		
101	AW~AX-29~31	不整形		4.3		2.1	326.81	326.71	10	6.602	
102	AW~AX-31~32	長方形		3.1		3.0	326.94	326.93	1	4.634	
103	AW~AY-30~32	不整形	6.0	2.3			326.93	326.81	12	3.076	
104	AW~BA-30~32	長方形		5.3		3.7	326.78	326.77	1	10.874	
105	AW~AY-31~33	長方形	4.4			4.0	327.01	326.92	9	11.740	
106	AW~AX-32~34	長方形		3.5		2.3	327.17	326.99	18	3.386	
107	AX~BB-30~33	不整形	6.5	5.4			326.86	326.80	6	23.264	109NW
108	AX~BA-32~34	長方形	4.9	3.2			326.96	326.91	5	12.245	109NW
109	AY~BA-32~34	楕円形	4.9	2.3			327.02	326.91	11	9.189	116SW
110	AX~BA-33~34	不整形	5.3	2.8			327.07	327.03	4	9.397	
111	AW~AY-33~35	長方形		4.6	3.4		327.15	327.09	6	11.365	
112	AX~BA-34~36	長方形		5.0		3.4	327.28	327.19	9	10.400	
113	AY~BC-30~32	不整形	5.7			4.7	327.81	327.77	4	12.736	107SW
114	BA~BB-31~33	不整形	3.8	3.3			326.94	326.82	12	10.271	
115	BA~BB-32~34	不整形	4.0	3.8			326.92	326.90	2	5.926	116SW
116	AY~BB-32~34	不整形	4.7	3.4			327.03	326.92	11	9.760	
117	AY~BB-34~36	不整形	5.4	4.6			327.22	327.05	17	17.621	
118	BA~BC-30~32	長方形	4.8	3.4			326.83	326.80	3	9.221	119W
119	BB~BC-32~33	不整形	3.3	2.7			326.86	326.83	3	4.160	
120	BB~BC-32~34	不整形	4.7	3.1			326.95	326.88	7	8.944	121NW
121	BA~BC-33~35	長方形	4.7	4.2			327.00	326.90	10	14.229	

第5章 下川田平井遺跡の遺構・遺物

No. 2

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口	
122	BA~BC-34~36	長方形	5.0	4.0	327.15	327.02	13	14.021		
123	AY~BC-35~37	不整形	6.5	2.6	327.23	327.12	11	11.107		
124	BB~BD-31~33	不整形	5.6		2.8	326.86	326.80	6	10.853	118 SW、125 NW
125	BB~BD-32~34	長方形	3.5	2.4	326.90	326.87	3	5.413		
126	BB~BD-33~34	長方形	3.6	3.1	326.93	326.89	4	7.706		
127	BB~BC-34~35	正方形	3.0	3.0	327.00	326.92	8	6.101		
128	BA~BC-34~36	長方形	5.7	3.4	327.12	327.00	12	9.680		
129	BC~BE-32~34	長方形	5.8		2.7	327.91	326.88	3	11.669	125 S E
130	BC~BE-34~35	長方形	4.7	3.0	326.99	326.90	9	9.578		
131	BB~BD-34~36	長方形	4.6	4.1	327.06	326.97	9	13.249		
132	BB~BD-35~37	不整形	4.5	2.0	327.11	327.02	9	5.493		
133	BB~BD-36~38	不整形	4.7	3.1	327.19	327.08	11	9.413		
134	BD~BF-33~34	長方形		4.2	2.7	326.87	326.84	3	8.858	
135	BD~BE-34~35	長方形		2.6	2.2	326.91	326.86	5	3.594	
136	BD~BE-35~37	正方形		4.1	3.8	327.01	326.93	8	10.810	
137	BC~BE-36~37	不整形	3.7	2.5	327.02	326.99	3	3.920		
138	BC~BD-36~38	不整形	4.0	2.5	327.12	327.01	11	8.021		
139	BE~BF-33~35	長方形		3.1	2.7	326.87	326.84	3	6.250	
140	BE~BF-34~35	長方形		3.9	3.7	326.89	326.86	3	10.410	
141	BD~BF-35~36	長方形		2.8	1.5	326.93	326.93	0	1.738	
142	BD~BF-35~37	正方形	4.0	3.9	327.04	326.94	10	11.637		136 S
143	BD~BF-36~38	不整形	3.3	2.4	327.02	327.00	2	4.176		
144	BC~BE-37~38	長方形	4.4	2.8	327.11	327.03	8	7.610		138 S
145	BF~BG-33~35	長方形		3.7	3.4	326.90	326.85	5	5.280	
146	BF~BH-34~35	長方形		4.9	2.8	326.93	326.90	3	5.941	
147	BE~BF-35~38	長方形		6.0	4.2	326.98	326.90	8	12.010	
148	BE~BF-37~38	長方形		4.5	3.8	327.11	326.96	15	11.578	
149	BF~BH-34~35	長方形		3.7	3.2	326.93	326.85	8	8.586	
150	BF~BH-35~36	長方形		4.0	2.0	326.92	326.91	1	2.830	
151	BF~BG-35~37					326.93	326.91	2		
152	BG~BH-35~37	不整形		3.2	2.7	326.93	326.91	2	5.969	(NE)
153	BF~BH-36~37	不整形	4.3	3.2	326.93	326.92	1	11.421		154W
154	BF~BH-36~38	長方形		2.9	2.7	326.95	326.94	1	4.437	
155	BG~BH-36~37	長方形	3.0	1.9	326.94	326.92	2	3.736		
156	BH~BI-36~37	不整形	3.0	1.7	326.91	326.87	4	3.258		
157	BG~BI-36~38	長方形		3.8	2.7	326.92	326.90	2	7.748	
158	BH~BI-36~38	長方形		3.4	2.7	326.91	326.86	5	4.000	
159	AU~AX-28~30	不整形		4.5	3.0	326.74	326.69	5	7.056	
160										160W
161										

第8表 下川田平井遺跡五反田地区FP層下水田跡

No. 1

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口	
201	AU~AV-25~27	長方形(短冊状)		3.5	2.0	326.29	326.23	6	4.554	
202	AU~AW-26~28	長方形(短冊状)		6.0	2.4	326.33	326.27	6	7.912	
203	AU~AW-26~28	長方形(短冊状)		7.5	2.0	326.34	326.33	1	8.550	
204	AV~AX-26~29	長方形(短冊状)		9.5	2.5	326.40	326.33	7	4.821	
205	AV~AX-26~29	長方形(短冊状)		10.2	2.8	326.44	326.37	7	20.128	
206	AV~AY-27~30	長方形(短冊状)		11.7	3.2	326.44	326.39	5	24.453	
207	AV~BA-27~31	長方形(短冊状)		13.2	2.4	326.53	326.39	14	23.466	
208	AV~BA-27~31	長方形(短冊状)	15.4		3.3	326.53	326.43	10	35.114	
209	AW~BA-28~32	長方形(短冊状)	16.4		3.0	326.54	326.48	6	34.406	
210	AW~BB-28~32	長方形(短冊状)	16.1		3.3	326.53	326.48	5	35.993	211NW、215N
211	AW~AY-31~33	長方形		5.1	3.6	326.60	326.51	9	9.058	
212	AW~AY-33~35	長方形		2.1	1.8	326.95	326.84	11	0.841	NW
213	AW~AY-33~35	不整形		4.8	1.7	326.80	326.72	8	3.973	212 SW
214	AW~AY-32~34	長方形	6.3		3.2	326.63	326.60	3	15.173	
215	AX~BB-29~33	長方形(短冊状)	17.1		3.3	326.56	326.48	8	33.347	214 SW
216	AX~BC-29~34	長方形(短冊状)	17.6		3.2	326.59	326.51	8	35.744	

## 5. 水田跡

No. 2

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口
217	A X ~ A Y - 35 ~ 36	長方形	1.4	1.4	327.21	327.18	3	0.714	
218	A X ~ A Y - 34 ~ 36	長方形	3.0	2.6	327.11	327.04	7	3.770	
219	A W ~ A Y - 34 ~ 35	長方形	3.4	1.5	327.01	326.93	8	2.112	
220	A X ~ B A - 34 ~ 35	長方形	4.9	1.9	326.91	326.82	9	5.493	219 S E
221	A X ~ B B - 33 ~ 35	不整形	4.2	2.2	326.78	326.69	9	5.412	
222	A X ~ B B - 33 ~ 35	長方形	5.1	2.3	326.68	326.60	8	6.101	224 S W
223	A Y ~ B D - 29 ~ 34	長方形(短冊状)	16.4	4.2	326.58	326.52	6	42.090	
224	A Y ~ B D - 30 ~ 34	長方形(短冊状)	15.0	4.7	326.57	326.51	6	49.293	222 S、236 S W
225	B B ~ B D - 29 ~ 31	長方形	4.0	2.7	326.63	326.55	8	11.424	
226	B C ~ B E - 30 ~ 32	長方形	4.3	2.2	326.60	326.55	5	6.053	224 S E、237 W
227	B C ~ B E - 29 ~ 31	正方形	2.7	2.7	326.60	326.51	9	6.250	
228	A X ~ A Y - 36 ~ 38	不整形	2.6	2.2	327.40	327.36	4	2.613	
229	A W ~ A Y - 35 ~ 37	長方形	4.3	2.4	327.32	327.26	6	6.026	228 S W
230	A X ~ B A - 35 ~ 37	長方形	4.8	1.7	327.22	327.00	22	4.005	
231	A X ~ B A - 34 ~ 36	不整形	3.9	2.1	327.14	326.94	20	5.141	232 N W
232	A Y ~ B A - 35 ~ 37	長方形	2.9	1.3	327.19	327.12	7	2.314	230 S W
233	A Y ~ B A - 35 ~ 36	長方形	3.6	1.7	327.05	326.98	7	3.781	
234	A Y ~ B B - 34 ~ 36	長方形	5.4	1.7	326.96	326.85	11	5.632	
235	A Y ~ B B - 34 ~ 36	長方形	4.8	2.0	326.84	326.70	14	5.323	234 S W
236	B A ~ B B - 34 ~ 35	長方形	4.3	2.0	326.71	326.64	7	5.062	235 S W
237	B A ~ B E - 31 ~ 34	長方形(短冊状)	16.1	3.1	326.62	326.52	10	30.638	
238	B A ~ B D - 33 ~ 35	長方形(短冊状)	7.7	3.6	326.63	326.51	12	19.008	236 S
239	B C ~ B E - 32 ~ 34	長方形	3.5	2.4	326.55	326.54	1	5.178	238 S E
240	B C ~ B E - 32 ~ 34	不整形	3.9	3.7	326.61	326.55	6	9.354	
241	B D ~ B E - 30 ~ 33	長方形	4.0	1.9	326.62	326.53	9	5.112	
242	B D ~ B F - 31 ~ 33	不整形	4.8	2.4	326.63	326.60	3	7.720	
243	B D ~ B F - 30 ~ 32	長方形	4.0	2.5	326.58	326.55	3	5.189	
244	B E ~ B G - 31 ~ 33	長方形	3.4	2.5	326.62	326.56	6	12.016	
245	A X ~ A Y - 38 ~ 40	正方形	1.9	1.9	327.58	327.55	3	1.365	
246	A X ~ A Y - 37 ~ 39	長方形	3.5	3.1	327.50	327.48	2	6.682	245 S、267 S W
247	A X ~ A Y - 37 ~ 39	長方形	4.6	3.0	327.46	327.41	5	8.040	246 S W
248	A X ~ B A - 36 ~ 38	長方形	3.9	1.8	327.37	327.33	4	3.013	
249	A Y ~ B A - 36 ~ 38	長方形	3.5	2.1	327.31	327.29	2	4.218	
250	A Y ~ B A - 36 ~ 37	不整形	3.2	1.9	327.26	327.20	6	2.832	
251	A Y ~ B B - 36 ~ 37	長方形(集石)	2.8	2.5	327.16	327.00	16	4.336	
252	B A ~ B B - 35 ~ 36	不整形	2.9	1.5	327.02	326.93	9	1.973	251 S
253	B A ~ B B - 35 ~ 36	長方形	3.3	1.1	326.94	326.83	11	1.296	
254	B A ~ B C - 34 ~ 36	長方形	2.4	1.3	326.83	326.72	11	1.653	
255	B A ~ B D - 35 ~ 36	長方形	2.6	2.0	326.82	326.72	10	2.965	254 N E
256	B B ~ B C - 34 ~ 36	楕円形	3.5	1.4	326.68	326.64	4	2.682	
257	B B ~ B C - 35 ~ 36	長方形	3.8	1.7	326.58	326.56	2	3.466	
258	B B ~ B F - 33 ~ 35	不整形	7.5	4.7	327.57	326.52	5	23.098	257 S E
259									256 E
260	B D ~ B F - 33 ~ 34	正方形	3.2	3.2	326.61	326.52	9	6.933	
261	B E ~ B G - 32 ~ 34	不整形	6.0	3.2	326.60	326.53	7	11.333	262 S
262	B E ~ B G - 32 ~ 34	長方形	6.1	2.3	326.60	326.55	5	9.170	258 S
263	B F ~ B H - 32 ~ 34	長方形	3.6	2.2	326.62	326.55	7	5.280	(N E)
264	A X ~ A Y - 39 ~ 41	不整形(棚田)	1.0	0.9	327.67	327.67	0	0.304	
265	A X ~ A Y - 39 ~ 40	長方形(棚田)	2.4	1.9	327.72	327.61	11	2.525	264 S
266	A X ~ B A - 38 ~ 40	不整形	3.7	3.5	327.58	327.53	5	7.546	
267	A X ~ B A - 38 ~ 39	不整形	3.5	2.2	327.52	327.49	3	4.437	265 S W
268	A Y ~ B B - 37 ~ 39	長方形	3.8	1.7	327.46	327.43	3	3.472	287 W
269	A Y ~ B B - 37 ~ 39	長方形	4.6	1.8	327.42	327.35	7	3.733	270 S E
270	A Y ~ B B - 37 ~ 38	長方形	4.5	2.4	327.37	327.30	7	5.877	
271	B A ~ B B - 36 ~ 38	長方形	3.9	1.7	327.30	327.17	13	3.184	
272	B A ~ B B - 36 ~ 37	不整形	3.7	2.8	327.22	327.08	14	6.746	
273	B A ~ B C - 36 ~ 37	長方形	3.7	1.5	327.06	327.00	6	2.606	
274	B B ~ B C - 35 ~ 37	長方形	3.6	1.5	327.94	326.90	4	2.549	
275	B B ~ B D - 35 ~ 36	不整形	3.2	2.0	326.83	326.75	8	3.604	274 S E
276	B B ~ B C - 35 ~ 36	不整形	2.3	2.0	326.73	326.64	9	2.698	275 S

第5章 下川田平井遺跡の遺構・遺物

No. 3

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積		水 口	
277	BD~BE-34~35	長方形	3.2	2.7	326.60	326.55	5	4.853		水路S	
278	BD~BF-33~35	長方形	4.6	3.9	326.57	326.51	6	12.877			
279	AV~AW-42~43	不整形(棚田)	2.0	1.2	328.36	328.33	3		1.237		
280	AV~AW-41~43	長方形(棚田)	2.2	1.5	328.20	328.14	6		2.117		
281	AW~AY-41~42	長方形(棚田)		2.1	1.9	327.08	327.08	0		3.184	
282	AW~AY-41~42	長方形(棚田)	2.9	2.7	327.94	327.84	10	5.354		281NW	
283	AX~BA-40~42	長方形(棚田)		4.4	2.3	327.78	327.73	5		6.394	282NW
284	AX~BA-40~41	不整形(棚田)	5.2	1.8	327.73	327.65	8	6.185		283NW、S	
285	AX~BA-39~41	不整形	3.6	3.0	327.64	327.59	5	4.746		284NW	
286	AY~BA-39~41	長方形	3.5	2.6	327.65	327.60	5	3.962		284NW	
287	AX~BA-38~40	不整形	2.9	2.4	327.55	327.53	2	3.008		267SW、288NW	
288	AY~BB-39~40	不整形	3.3	2.9	327.55	327.52	3	3.973			
289	AX~BB-38~40	不整形	3.0	2.8	327.50	327.44	6	5.344			
290	BA~BB-38~40	長方形	2.4	1.7	327.49	327.36	13	2.085		287SE	
291	BA~BB-38~39	不整形	2.1	1.3	327.42	327.35	7	1.082		水路W	
292	BA~BB-37~39	長方形	2.1	1.8	327.33	327.32	1	1.594			
293	BA~BC-37~38	長方形	2.4	2.2	327.28	327.19	9	2.901		水路W	
294	AY~BC-37~38	長方形	2.5	2.2	327.18	327.10	8	3.568		293S、(NE水路)	
295	BB~BC-36~38	長方形	1.3	1.0	327.06	327.02	4	0.629			
296	AW~AX-42~44				328.44	328.40	4				
297	AW~AY-42~44	長方形(棚田)	3.9	1.9	328.36	328.31	5	4.400			
298	AW~AY-42~44	長方形(棚田)	4.9	1.8	328.24	328.11	13	7.613			
299	AW~AY-42~43	長方形(棚田)	4.0	1.9	328.07	328.03	4	4.018		298NW	
300	AX~AY-41~43	長方形(棚田)	2.5	1.2	327.98	327.96	2	2.202			
301	AX~BA-41~43	不整形	3.7	1.2	328.00	327.88	12	7.310			
302	AY~BA-41~42	長方形	3.2	2.7	327.84	327.78	6	4.634			
303	AY~BB-40~42	長方形	3.7	2.9	327.73	327.66	7	6.725			
304	AY~BB-40~41	長方形	3.1	2.0	327.64	327.63	1	3.472			
305	BA~BB-39~41	長方形	2.8	1.8	327.59	327.56	3	2.597			
306	BA~BB-39~40	長方形	2.9	2.7	327.49	327.48	1	1.984			
307	AX~AY-43~44	長方形	2.5	1.7	328.33	328.26	7	2.032			
308	AX~AY-43~44	長方形	2.6	2.0	328.24	328.18	6	3.093		307SE	
309	AX~AY-43~45				328.24	328.21	3				
310	AY~BA-43~45				328.23	328.21	2				
311	AX~BA-42~44	不整形	3.2	2.7	328.14	328.08	6	4.741			
312	AY~BA-43~44	長方形		2.1	1.5	328.18	328.17	1		1.808	
313	AY~BA-42~44	長方形		2.2	1.9	328.14	328.06	8		2.848	
314	AY~BA-42~43	長方形	2.8	2.2	328.02	327.94	8	3.354		301SW	
315	AY~BB-42~43	長方形		2.1	2.2	328.03	327.94	9		3.114	
316	AY~BB-41~43	長方形	2.5	2.0	327.88	327.83	5	3.296			
317	BA~BB-42~43	長方形	2.9	2.6	327.89	327.84	5	4.357			
318	AY~BB-41~42	長方形	2.2	1.6	327.81	327.75	6	1.872			
319	BA~BC-41~43	長方形	3.9	2.0	327.83	327.78	5	2.056			
320	BA~BB-41~42	正方形	2.0	1.9	327.75	327.70	5	2.096			
321	BA~BD-41~42	長方形	3.8	2.0	327.75	327.71	4	4.453		319SE	
322	BA~BD-40~42	長方形	2.4	2.3	327.65	327.64	1	3.152		320NW	
323	BB~BC-41~42	長方形	3.6	2.1	327.72	327.64	8	4.149			
324	BB~BC-41~42				327.71	327.69	2				
325	BB~BD-41~42	長方形		2.1	1.2	327.68	327.55	13		2.432	
326	BC~BD-41~42	長方形	2.3	1.8	327.59	327.55	4	2.126			
327	BA~BC-39~41	不整形	2.4	1.8	327.52	327.50	2	1.568		326W	
328	BA~BC-40~42	長方形	3.6	2.6	327.63	327.52	11	3.779		323S	
329	BC~BD-41~42	長方形	2.3	1.7	327.64	327.50	14	2.389			
330	BB~BC-39~41	長方形	2.7	1.8	327.50	327.32	18	2.389			
331	BB~BD-39~41	不整形	4.0	3.4	327.52	327.44	8	8.712		328S	
332	BC~BE-40~42	不整形		4.1	2.3	327.57	327.42	15		5.962	331S
333	BB~BC-39~40	長方形	2.7	2.0	327.47	327.24	23	2.816			
334	BB~BD-39~40	楕円形	2.7	2.4	327.48	327.32	16	3.408			
335	BA~BD-38~39	長方形	2.5	1.8	327.37	327.30	7	2.917		333SE	
336	BC~BD-38~40	長方形	2.5	2.1	327.42	327.06	36	2.885			

5. 水田跡

No. 4

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口
337	BB~BD-37-39	長方形	2.5	2.4	327.27	327.08	19	3.546	335W
338	BC~BD-38-39	長方形	2.1	1.6	327.25	327.21	4	1.653	
339	BC~BD-37-39	不整形	3.0	2.9	327.14	327.03	11	3.754	
340	BC~BD-38-39	不整形	2.6	1.4	327.20	327.12	8	1.930	水路S
341	BC~BE-37-39	楕円形	2.0	1.4	327.09	327.04	5	1.482	
342	BC~BF-37-38	不整形	2.0	1.1	327.01	326.94	7	1.552	水路S
343	BC~BE-37-38	不整形	2.6	1.7	326.99	326.94	5	1.514	
344	BD~BE-37-39	長方形	2.1	1.4	327.05	326.97	8	1.418	
345	BC~BD-36-38	長方形	2.6	1.6	326.93	326.88	5	2.190	
346	BD~BE-37-39	不整形	2.5	1.6	326.92	326.80	12	2.011	
347	BD~BE-37-38	長方形	2.9	1.6	326.95	326.91	4	1.776	
348	BD~BE-37-38	不整形	2.9	1.6	326.88	326.81	7	1.790	
349	BC~BE-36-37	長方形	3.2	2.7	326.79	326.69	10	4.920	
350	BD~BE-36-37	長方形	2.1	2.0	326.75	326.69	6	2.136	
351	BD~BF-36-38	長方形	3.2	1.8	326.79	326.69	10	3.584	
352	BC~BE-35-37	長方形	3.9	2.5	326.64	326.57	7	5.888	水路NE
353	BD~BF-36-37	不整形	3.7	2.2	326.66	326.62	4	4.826	
354	BE~BF-36-38	長方形	2.8	2.2	326.68	326.64	4	3.093	351SW
355	BD~BF-35-37	不整形	3.7	2.4	326.63	326.60	3	5.904	
356	BD~BF-34-36	長方形	6.7	2.8	326.59	326.55	4	11.946	352S
357	BE~BF-35-36	楕円形	3.0	1.1	326.61	326.59	2	1.290	
358	BE~BG-35-36	楕円形	2.7	1.6	326.62	326.58	4	2.192	
359	BE~BG-35-37	長方形	3.7	1.7	326.64	326.61	3	3.162	
360	BE~BG-36-37	長方形	3.7	2.3	326.65	326.44	11	3.898	354S
361	BE~BG-34-36	長方形	3.7	2.7	326.60	326.59	1	3.285	
362	BF~BG-34-36	長方形	3.2	1.9	326.61	326.58	3	3.674	361NE
363	BF~BG-35-37	長方形	3.5	2.3	326.64	326.58	6	4.586	
364	BF~BG-33-35	長方形	3.5	3.2	326.60	326.56	4	7.520	
365	BF~BH-34-36	長方形	2.9	1.9	326.62	326.58	4	3.109	
366	BF~BH-35-36	長方形	2.9	2.4	326.66	326.59	7	5.456	
367	BF~BG-33-35	長方形	1.7	1.6	326.60	326.54	6	5.450	
368	BG~BI-34-35	正方形	2.6	2.6	326.62	326.60	2	1.402	
369	BG~BH-34-36	長方形	3.0	2.2	326.63	326.61	2	3.530	
370	BF~BI-33-34	長方形	3.0	2.2	326.60	326.55	5	3.744	
371	BG~BH-33-35	長方形	2.3	1.9	326.62	326.58	4	2.672	
372	BG~BH-34-35	不整形	2.7	2.1	326.59	326.56	3	2.272	
373	BH~BI-33-35	長方形	2.5	1.7	326.59	326.57	2	2.304	372SE
374	BC~BD-39-40	楕円形	2.2	1.9	327.41	327.37	4	1.893	356SW
375	BC~BF-39-41	長方形	2.7	1.8	327.41	327.39	2	2.922	
376	BC~BD-39-40	楕円形(集石)	2.7	1.3	327.38	327.31	6	1.317	
377	BC~BE-39-40	長方形	3.0	1.7	327.37	327.29	8	2.368	374S
378	BC~BE-38-40	長方形	2.8	2.1	327.26	327.16	10	3.232	
379	BD~BE-38-40	長方形	3.0	2.1	327.29	327.18	11	3.605	
380	BD~BF-39-41	長方形	2.3	1.5	327.31	327.27	4	1.824	
381	BD~BF-38-39	正方形	2.7	2.6	327.14	327.04	10	4.176	
382	BD~BF-38-40	長方形	2.8	2.6	327.23	327.09	14	5.168	
383	BE~BF-38-40	長方形	3.1	2.5	327.25	327.15	10	5.306	
384	BD~BF-38-39	長方形	2.8	1.2	327.04	327.00	4	1.248	
385	BD~BF-37-39	長方形	3.3	1.2	326.93	326.89	4	1.742	384SE
386	BE~BF-38-39	長方形	2.6	2.1	327.12	327.01	11	2.720	
387	BE~BF-38-40	長方形	2.1	1.2	327.15	327.09	6	2.026	
388	BE~BF-37-39	長方形	4.6	2.6	326.92	326.77	15	6.640	386NW、345SW
389	BE~BG-37-38	長方形	2.3	1.7	326.77	326.73	4	1.728	
390	BF~BG-37-38	長方形	1.5	0.9	326.77	326.77	0	0.490	
391	BF~BG-36-38	長方形	2.8	2.4	326.73	326.65	8	3.016	
392	BF~BG-37-38	長方形	2.2	1.9	326.73	326.67	6	7.248	
393	BF~BH-36-37	不整形	2.5	2.5	326.68	326.64	4	3.376	
394	BG~BH-36-38	長方形	2.4	2.0	326.68	326.66	2	1.702	
395	BG~BH-35-37	不整形	2.0	1.8	326.65	326.64	1	2.122	
396	BG~BH-35-37	不整形	3.6	1.7	326.65	326.64	1	3.148	

第5章 下川田平井遺跡の遺構・遺物

No. 5

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口
397	B G ~ B I - 36 ~ 37	長方形	3.0	1.5	326.66	326.63	3	2.768	396 N E
398	B G ~ B H - 34 ~ 36	不整形	3.8	2.3	326.66	326.61	5	4.453	369 E
399	B G ~ B I - 35 ~ 36	長方形	2.8	1.9	326.64	326.60	4	2.682	401 N E
400	B H ~ B I - 35 ~ 37	不整形	2.8	1.8	326.65	326.63	2	2.602	
401	B G ~ B I - 34 ~ 36	不整形	2.5	1.6	326.62	326.61	1	2.384	398 S
402	B H ~ B I - 34 ~ 36	不整形	4.1	1.9	326.63	326.60	3	2.704	
403	B H ~ B I - 35 ~ 36	不整形	2.2	1.7	326.66	326.60	6	1.744	400 S W
404	B H ~ B I - 34 ~ 35	不整形	2.7	1.7	326.61	326.58	3	2.596	372 S E
405	B H ~ B J - 34 ~ 36	正方形	1.7	1.7	326.63	326.61	2	1.466	
406	B H ~ B J - 35 ~ 36	不整形	2.7	2.5	326.65	326.62	3	3.573	403 S E
407	B H ~ B J - 34 ~ 35	長方形	3.4	1.8	326.62	326.57	5	4.058	
408	B H ~ B J - 34 ~ 35	正方形		1.3	326.62	326.62	0		1.290
409	B F ~ B G - 37 ~ 39	長方形	3.6	1.6	326.83	326.77	6	3.482	
410	B F ~ B H - 37 ~ 39	不整形	2.7	0.9	326.77	326.75	2	0.832	
411	B F ~ B H - 37 ~ 39	長方形	2.7	1.3	326.76	326.74	2	1.717	
412	B G ~ B H - 38 ~ 39	不整形	2.9	2.6	326.77	326.72	5	2.794	
413	B G ~ B H - 37 ~ 38	長方形	3.0	2.2	326.70	326.66	4	3.669	392 S W
414	B G ~ B I - 37 ~ 39	不整形	3.0	2.3	326.70	326.68	2	3.493	412 S
415	B G ~ B I - 36 ~ 38	不整形	2.7	2.5	326.69	326.65	4	2.927	397 S E
416	B G ~ B I - 37 ~ 38	不整形	2.0	1.3	326.69	326.67	2	0.752	
417	B H ~ B I - 37 ~ 38	楕円形	2.5	2.3	326.66	326.62	4	1.440	416 S W
418	B H ~ B I - 36 ~ 38	不整形	2.8	1.8	326.65	326.64	1	1.653	
419	B H ~ B J - 36 ~ 38	楕円形	2.5	1.7	326.64	326.62	2	0.416	
420	B H ~ B J - 36 ~ 37	長方形	3.0	1.9	326.64	326.61	3	3.296	(N W)
421	B I ~ B J - 35 ~ 37	不整形		2.2	326.63	326.60	3	2.229	(N W)

第9表 平井地区1区F P層下水田跡

No. 1

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口
701	B I ~ B J - 54 ~ 55				329.89	329.60	29		
702	B J ~ B K - 54 ~ 55				329.89	329.71	18		
703	B K ~ B L - 55 ~ 56				329.82	329.81	1		
704	B I ~ B K - 53 ~ 55	長方形	3.2	2.5	329.71	329.59	12	5.690	
705	B K ~ B L - 54 ~ 55	長方形	3.0	2.8	329.76	329.64	12	6.179	
706	B J ~ B L - 54 ~ 56	長方形	3.2	1.6	329.78	329.68	10	3.648	
707	B K ~ B L - 54 ~ 56	長方形		2.3	329.73	329.70	3		2.277
708	B K ~ B N - 55 ~ 57	長方形	4.1	3.1	329.76	329.71	5	8.694	
709	B K ~ B M - 56 ~ 58	長方形	4.4	3.3	329.90	329.77	13	10.522	
710	B M ~ B N - 58 ~ 59				339.98	339.89	9	1.653	
711	B J ~ B K - 53 ~ 55	長方形		2.1	329.66	329.59	7		1.008
712	B K ~ B L - 53 ~ 54	長方形		1.8	329.60	329.51	9		1.237
713	B K ~ B M - 53 ~ 55	長方形	4.2	2.7	329.69	329.58	11		7.623
714	B K ~ B M - 54 ~ 55	不整形	3.0	1.9	329.71	329.65	6	2.171	708 S W
715	B M ~ B N - 54 ~ 56	長方形	2.3	1.7	329.67	329.62	5	1.600	
716	B L ~ B N - 55 ~ 56	長方形	3.8	3.4	329.70	329.65	5		8.042
717	B L ~ B N - 56 ~ 58	不整形	7.8	3.9	329.75	329.66	9	17.537	717a S W
717 a	B L ~ B N - 57 ~ 58	不 明		4.0	329.75	329.66	9		4.384
717 b	B L ~ B N - 56 ~ 57	不整形		3.6	329.75	329.66	9		6.880
718	B L ~ B N - 57 ~ 59	長方形	5.1	1.5	329.90	329.81	9		5.024
719	B M ~ B O - 57 ~ 60	不整形	6.2	2.1	330.05	329.78	27		10.594
720	B N ~ B O - 58 ~ 60	不整形			339.93	329.93	0		

第10表 平井地区2区～4区F P層下水田跡一覽表

No. 1

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口
721	BK~BL-68-69	長方形	2.0	1.8	334.79	334.77	2	1.472	
722	BL~BM-68-70	長方形	1.9	1.5	334.81	334.79	2	1.568	
723	BL~BN-69-70	長方形	3.3	1.5	334.83	334.81	2	2.634	
724	BM~BN-69-70	長方形	1.8	1.1	334.84	334.84	0	0.597	
725	BL~BM-68-69				334.77	334.73	4		
726	BL~BN-68-69	長方形	2.3	1.3	334.80	334.78	2	1.077	
727	BM~BN-68-70	長方形	3.0	1.4	334.82	334.79	3	1.941	
728	BM~BO-69-70	長方形	2.5	1.7	334.83	334.81	2	1.884	
729	BN~BO-69-71	長方形	2.1	1.8	334.82	334.80	2	1.962	735NW
730	BN~BO-70-71	長方形	2.0	2.0	334.83	334.81	2	1.381	
731	BL~BN-67-69								
732	BL~BN-68-69	長方形	3.2	2.5	334.75	334.70	5	4.021	733NW
733	BM~BO-69-70	長方形	2.5	1.7	334.78	334.74	4	2.624	
734	BN~BO-69-70	長方形	3.1	1.8	334.80	334.75	5	3.416	728W、735NW
735	BN~BP-69-71	不整形	3.0	2.1	334.79	334.70	9	2.762	
736	BN~BP-70-71	長方形	2.6	2.2	334.82	334.81	1	2.752	
737	BO~BP-69-72	長方形	2.0	2.0	334.80	334.69	11	2.450	
738	BO~BP-70-72	長方形			334.81	334.77	4		
739	BO~BP-70-71	長方形	4.0	2.0	334.81	334.78	3	2.944	
740	BP~BQ-70-71	不整形	2.6	1.9	334.79	334.74	5	3.312	741NW、738SW
741	BP~BR-71-72	長方形	3.2	2.3	334.82	334.76	6	4.101	W
742	BP~BR-70-71	楕円形	2.5	1.6	334.75	334.71	4	1.850	741NW、759N
743	BP~BQ-70-71	不整形	2.9	1.3	334.77	334.69	8	2.803	740SW、742W
744	BO~BQ-69-71				334.76	334.71	5		
745	BO~BQ-69-71	長方形	2.2	1.8	334.76	334.74	2	1.920	755NW
746	BN~BP-69-70	長方形	2.3	1.8	334.78	334.71	7	1.852	
747	BN~BP-69-70	長方形	2.1	1.7	334.79	334.73	6	1.792	
748	BN~BP-68-70	不整形	2.0	1.8	334.75	334.71	4	1.802	747NW
749	BM~BO-68-69	不整形	2.9	2.0	334.76	334.62	4	1.872	
750	BM~BN-68-69				334.70	334.65	5		
751	BM~BO-67-69	不整形	2.7	2.6	334.69	334.57	12	3.840	
752	BN~BP-67-69	長方形	3.8	2.6	334.69	334.65	4	5.706	
753	BN~BP-68-70	不整形	2.7	2.2	334.70	334.65	5	4.277	754NW
754	BN~BQ-68-70	長方形	3.6	2.4	334.71	334.68	3	4.538	
755	BO~BQ-69-71	長方形	2.3	1.5	334.73	334.69	4	2.154	
756	BP~BQ-69-70	長方形	2.7	1.4	334.73	334.70	3	1.850	
757	BP~BR-69-71	正方形	2.3	2.2	334.74	334.68	6	2.586	
758	BP~BR-70-71	長方形	2.5	2.1	334.74	334.70	4	2.853	
759	BQ~BR-70-72	長方形	3.1	2.7	334.75	334.71	4	3.066	
760	BQ~BR-70-71	長方形	2.2	1.5	334.74	334.72	2	1.514	
761	BQ~BS-70-71	長方形	2.2	1.9	334.69	334.66	3	1.845	
762	BQ~BR-69-71	正方形	2.8	2.5	334.67	334.63	4	4.528	
763	BP~BR-69-70	長方形	3.2	2.7	334.66	334.59	7	5.392	763SW
764	BP~BQ-68-70	長方形	3.2	3.1	334.65	334.60	5	4.469	
765	BO~BQ-68-69	長方形	4.2	2.1	334.65	334.60	5	5.120	
766	BN~BP-67-69	長方形	3.1	3.0	334.61	334.55	6	3.960	
767	BN~BO-67-68	長方形	3.2	2.1	334.62	334.57	5	3.413	766N
768	BM~BO-67-68	長方形	2.7	1.3	334.67	334.52	15	4.400	
769	BM~BO-66-68	長方形	2.3	1.2	334.51	334.43	8	1.461	
770	BN~BO-67-68	長方形	2.5	1.5	334.55	334.50	5	1.954	
771	BN~BO-67-68	長方形	2.7	1.6	334.53	334.45	8	5.125	766NW
772	BO~BQ-67-69	長方形	3.0	2.1	334.59	334.54	5	3.669	
773	BP~BR-68-69	長方形	3.8	2.0	334.59	334.53	6	4.714	774N
774	BQ~BR-68-70	長方形	2.2	1.3	334.61	334.57	4	1.338	
775	BQ~BS-69-70	長方形	2.7	1.8	334.61	334.57	4	2.298	
776	BR~BS-69-71	長方形	2.7	2.5	334.62	334.59	3	3.708	
777	BQ~BS-68-70	長方形	2.7	2.0	334.61	334.54	7	2.330	
778	BQ~BR-68-70	長方形	3.9	1.8	334.59	334.51	8	3.829	
779	BQ~BS-68-69	長方形	1.9	1.7	334.49	334.45	4	1.573	
780	BQ~BR-68-69	長方形	2.9	1.6	334.49	334.46	3	2.506	

第5章 下川田平井遺跡の遺構・遺物

No. 2

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口	
781	BP~BR-67~69	長方形	3.0	2.0	334.53	334.49	4	3.514	779N	
782	BP~BQ-67~68	長方形	3.2	1.6	334.51	334.49	2	2.058		
783	BO~BP-66~68	長方形	3.9	2.3	334.47	334.34	13	5.733		
784	BN~BP-66~68	正方形	2.8	2.7	334.48	334.38	10	4.441	771NW	
785	BM~BO-66~67	長方形	2.5	1.3	334.45	334.43	2	1.888		
786	BM~BN-66~67				334.45	334.42	3			
787	BM~BN-66~67				334.42	334.41	1			
788	BN~BO-66~67	長方形	3.0	1.6	334.44	334.40	4	2.240		
789	BN~BO-66~67				334.37	334.36	1			
790	BO~BP-65~67				334.38	334.36	2			
791	BO~BP-66~67				334.39	334.37	2		783NW	
792	BP~BQ-67~68	長方形	3.6	1.6	334.48	334.39	9	2.912		
793	BP~BR-67~68	長方形	3.0	1.5	334.47	334.43	4	2.154		
794	BQ~BS-67~69	長方形	5.1	2.7	334.43	334.35	8	8.501	803N	
795	BR~BS-68~70	長方形	2.7	2.3	334.50	334.44	6	3.664	802N	
796	BR~BT-69~70	長方形	3.7	2.0	334.59	334.51	8	3.652		
797	BQ~BS-70~71	長方形		2.2	1.3	334.67	334.64	3	1.465	
798	BR~BT-69~71	長方形		3.4	2.7	334.63	334.58	5	4.602	
799	BS~BU-69~70	長方形		3.1	1.8	334.57	334.52	5	2.805	
800	BT~BU-69~70	長方形		3.1	3.0	334.51	334.48	3	4.170	
801	BS~BU-69~70	長方形	2.8	2.6	334.51	334.47	4	3.653		
802	BR~BU-68~70	長方形	3.3	2.4	334.51	334.44	7	4.576		
803	BR~BT-68~69	長方形	3.2	2.7	334.43	334.36	7	6.484	795SW	
804	BS~BU-68~70	正方形	3.7	3.2	334.41	334.28	3	8.325		
805	BQ~BU-67~69				334.33	334.22	11			
806	BT~BV-67~69				334.28	334.22	6		804SW	
807	BT~BV-68~69	長方形	2.7	1.9	334.39	334.35	4	2.597		
808	BT~BV-68~70	長方形	3.7	2.2	334.41	334.36	5	3.936		
809	BU~BV-69~70	長方形		2.1	1.2	334.50	334.46	4	0.826	
810	BU~BV-69~70	不整形		3.4	1.6	334.45	334.33	12	2.832	
811	BU~BW-69~70	長方形		1.6	1.0	334.43	334.41	2	1.648	
812	BU~BW-68~70	長方形	2.0	1.3	334.43	334.40	3	1.135		
813	BU~BV-68~70	長方形	3.0	1.8	334.39	334.36	3	3.125		
814	BU~BW-68~70	長方形	3.2	2.1	334.36	334.26	10	4.926		
815	BU~BV-68~69	長方形	2.2	1.9	334.27	334.21	6	2.410		
816	BV~BW-69~70	不整形	2.2	1.6	334.41	334.39	2	1.472		
817	BV~BW-69~70	不整形		2.1	1.6	334.41	334.39	2	1.723	
818	BV~BX-68~70	楕円形		2.1	1.5	334.38	334.30	8	1.415	
819	BW~BY-69~70				334.39	334.38	1			
820	BP~BS-71~72	不整形	3.2		1.6	334.88	334.82	6	4.325	
821	BR~BT-72~74	長方形	3.5	1.7		334.94	334.84	10	2.800	
822	BS~BT-73~74	長方形		1.4	0.6	334.94	334.94	0	0.258	
823	BS~BT-73~75	不整形	4.0		1.1	334.99	334.96	3	2.069	
824	BS~BU-74~75	長方形		4.4	1.9	335.06	335.02	4	5.205	825W
825	BT~BU-74~75	長方形		3.2	2.3	335.04	335.01	3	4.643	
826	BS~BV-73~75	不整形	6.5	3.0		335.00	334.94	6	11.94	
827	BS~BU-73~74	不整形	3.0	1.9		334.94	334.86	8	2.400	
828	BS~BU-72~73	不整形	3.7	3.0		334.85	334.83	2	5.488	
829	BR~BT-72~73	不整形	3.4	2.9		334.84	334.82	2	4.378	
830	BR~BT-71~73	不整形		2.9	2.0	334.81	334.74	7	3.184	
831	BR~BT-71~72	長方形	2.8	2.0		334.76	334.70	6	3.320	
832	BS~BT-71~73	正方形	2.1	1.9		334.79	334.74	5	2.277	
833	BS~BU-71~73	長方形	2.7	2.1		334.80	334.73	7	8.662	
834	BT~BU-71~74	長方形	2.9	1.5		334.81	334.75	6	1.824	835N
835	BT~BU-71~73	長方形	2.7	1.8		334.79	334.73	6	2.341	
836	BT~BU-70~72	長方形	3.9	3.7		334.73	334.66	7	9.408	
837	BS~BU-70~72	長方形	3.8	2.0		334.74	334.68	6	3.898	
838	BS~BT-71~72	不整形	2.3	1.9		334.76	334.69	7	2.101	
839	BR~BT-71~72	長方形		1.4	1.3	334.71	334.68	3	0.586	
840	BS~BT-70~72	長方形		1.9	1.7	334.72	334.68	4	1.674	



## 5. 水田跡

No. 3

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口
841	BS~BU-70~71	長方形	1.8	1.1	334.67	334.62	5	0.640	837NW
842	BT~BV-70~71	長方形	5.2	1.9	334.61	334.56	5	4.965	
843	BU~BV-71~72	長方形	3.5	2.9	334.70	334.65	5	4.997	855N
844	BU~BV-71~73	長方形	4.3	2.3	334.77	334.72	5	6.645	
845	BT~BV-72~74	楕円形	6.5	3.7	334.94	334.85	9	16.128	853NW
846	BU~BV-73~75	長方形	4.3	2.7	334.99	334.95	4	6.469	847SW
847	BT~BV-74~75	長方形	4.0	2.0	335.03	335.01	2	4.842	
848	BT~BV-74~76	不整形	4.9	1.9	335.02	335.01	1	3.722	
849	BU~BX-75~77	長方形	6.3	2.1	335.11	335.08	3	9.493	
850	BU~BW-74~76	正方形	2.2	2.2	335.05	335.02	3	3.429	
851	BU~BV-74~75	不整形	3.2	2.0	334.98	334.95	3	1.936	
852	BU~BW-73~74	長方形	4.2	2.0	334.91	334.70	21	4.437	
853	BU~BW-72~73	長方形	4.5	2.8	334.84	334.79	5	7.798	
854	BV~BW-71~73	長方形	4.3	2.7	334.77	334.70	7	5.856	
855	BU~BW-71~72	不整形	3.5	3.1	334.74	334.63	11	4.149	
856	BU~BV-70~71	不整形	2.2	1.5	334.59	334.56	3	1.082	
857	BV~BW-70~71	長方形	5.2	1.5	334.56	334.53	3	5.466	856SW
858	BU~BW-70~72	長方形	2.2	1.2	334.62	334.57	5	1.090	
859	BV~BX-70~72	長方形	4.2	2.4	334.60	334.50	10	3.562	860NW
860	BV~BX-70~72	長方形	3.9	2.5	334.71	334.53	18	4.709	876NE
861	BW~BX-71~73	長方形	3.0	1.7	334.78	334.70	8	2.058	
862	BV~BX-72~73	長方形	3.3	2.5	334.82	334.80	2	3.978	
863	BV~BX-73~74	長方形	3.0	2.0	334.90	334.88	2	3.769	
864	BV~BW-73~75	不整形	5.3	4.3	335.00	334.94	6	10.512	851S
865	BV~BW-74~76	不整形	3.9	2.5	335.07	335.00	7	3.643	
866	BV~BW-74~75	長方形	3.0	2.7	335.02	334.99	3	2.272	
867	BV~BX-74~75	長方形	3.0	2.2	335.02	335.00	2	3.381	
868	BW~BX-75~77	不整形	3.2	3.1	335.14	335.11	3	5.088	S
869	BV~BX-74~76	不整形	5.2	4.5	335.06	335.01	5	14.241	849SW、868NW
870	BW~BY-73~75	長方形	4.2	2.2	335.01	334.95	6	6.096	
871	BW~BY-73~74	長方形	4.4	1.5	334.95	334.91	4	3.072	
872	BW~BY-73~74	長方形	4.0	2.0	334.91	334.87	4	4.266	
873	BW~BY-72~74	長方形	4.0	2.5	334.83	334.82	1	5.370	
874	BW~BX-71~73	長方形	2.7	2.7	334.77	334.70	7	3.578	
875	BW~BY-71~72	長方形	4.7	2.0	334.65	334.59	6	3.589	
876	BW~BY-70~72	不整形	5.3	2.9	334.65	334.49	16	6.054	
877	BW~BY-70~71	長方形	5.0	1.9	334.54	334.49	5	5.242	876NW
878	BX~BY-70~71	長方形	2.1	1.1	334.39	334.32	7	0.673	
879	BX~CA-70~71	長方形	2.6	1.7	334.38	334.27	11	2.528	
880	BX~CA-70~72	長方形	2.9	2.6	334.51	334.42	9	3.925	
881	BX~CA-71~72	長方形	4.5	2.7	334.62	334.50	12	5.546	
882	BX~BY-72~73	長方形	2.5	1.7	334.74	334.68	6	1.725	
883	BY~CB-75~76	不整形	4.8	3.0	335.26	335.14	12	6.226	
884	BX~CB-74~76	不整形	5.0	2.0	335.09	335.03	6	6.108	
885	BY~CA-74~75	長方形	2.2	1.8	335.01	334.98	3	1.199	
886	BY~CA-73~74	長方形	4.2	1.9	334.96	334.89	7	4.644	
887	BY~CA-73~74	長方形	3.5	2.0	334.88	334.84	4	3.264	
888	BY~CB-73~75	長方形	2.6	2.3	335.00	334.96	4	3.450	
889	BY~CA-71~72				334.40	334.40	0		
890	CA~CB-74~75	長方形	3.5	3.1	335.09	335.04	5	3.557	水路NW
891	CA~CB-73~75	長方形	2.6	1.7	335.04	335.00	4	2.394	
892	CA~CB-73~74	長方形	2.9	2.3	334.99	334.92	7	3.514	
893	CA~CC-73~75	長方形	2.7	1.8	335.07	335.04	3	2.618	
894	CE~CG-71~73	長方形	2.5	2.2	335.24	335.19	5	1.764	
895	CE~CF-72~74	長方形	2.1	1.6	335.23	335.19	4	1.317	
896	CE~CG-73~75	長方形	4.6	3.6	335.21	335.12	9	7.450	
897	CE~CG-73~75	長方形	2.0	1.5	335.23	335.21	2	1.130	
898	CE~CG-74~75	長方形	2.9	2.0	335.26	335.19	7	3.541	
899	CE~CG-74~76	長方形	3.0	2.0	335.31	335.26	5	3.418	
900	CF~CG-75~76	長方形	2.8	1.5	335.44	335.36	8	2.256	

第5章 下川田平井遺跡の遺構・遺物

No. 4

水田No.	位 置	形 状	長軸	短軸	高 位	底 位	高底差	面 積	水 口	
901	CF~CG-75~76	長方形		2.1	1.4	335.49	335.46	3	1.216	
902	CF~CG-75~77				335.60	335.58	2			
903	CF~CG-76~77	長方形	1.8		1.4	335.73	335.62	11	1.493	
904	CF~CG-76~77	長方形		2.2		1.3	335.86	335.79	7	1.866
905	CF~CG-76~77						335.86	335.73	13	
906	CF~CG-76~77	長方形	3.0		1.5	335.68	335.56	12	1.685	
907	CF~CH-75~76	長方形	2.3		1.3	335.48	335.41	7	1.344	
908	CF~CG-75~76					335.39	335.35	4		
909	CF~CH-74~75	長方形	3.3		2.7	335.29	335.18	11	3.621	
910	CF~CG-73~75	長方形	2.5		2.2	335.20	335.10	10	2.922	
911	CF~CH-72~74	長方形	5.9		5.1	335.13	334.88	25	18.362	
912	CF~CG-71~73	不整形	1.5			0.8	335.18	335.10	8	0.488
913	CF~CH-72~73	長方形		1.4		1.3	335.00	334.99	1	0.454
914	CG~CI-72~73	長方形		2.2	2.2	334.99	334.90	9	2.613	
915	CH~CI-72~73	長方形	2.7		1.2	334.97	334.92	7	1.862	
916	CG~CI-72~74	長方形	4.1		2.3	335.01	334.95	6	4.613	
917	CG~CI-72~74	長方形	4.1		2.3	335.08	334.99	9	4.446	
918	CF~CH-73~75	長方形	3.8		3.3	335.14	335.09	5	7.301	
919	CG~CH-74~75	長方形	2.9		1.9	335.19	335.12	7	2.512	
920	CG~CI-74~75	長方形	2.8		2.7	335.24	335.16	8	2.794	
921	CG~CI-74~76	長方形	3.7		1.7	335.34	335.24	10	1.845	
922	CH~CI-74~75	長方形		2.5	2.8	335.28	335.17	11	3.029	
923	CG~CI-73~75	長方形	2.8		2.5	335.22	335.08	14	3.664	
924	CH~CJ-73~75	長方形	3.2		2.7	335.22	335.07	15	3.280	
925	CH~CI-73~74	長方形	2.4		2.4	335.10	335.00	10	2.682	
926	CI~CJ-73~74	長方形		1.5		0.4	335.14	335.06	8	0.245
927	CH~CI-72~74	長方形	2.3		1.0	335.02	334.93	9	1.242	

長軸、短軸の破線の後は、区画が調査区外にのびるため調査区内での規模である。  
面積の破線の後は、区画が調査区外にのびるため調査区内での面積である。

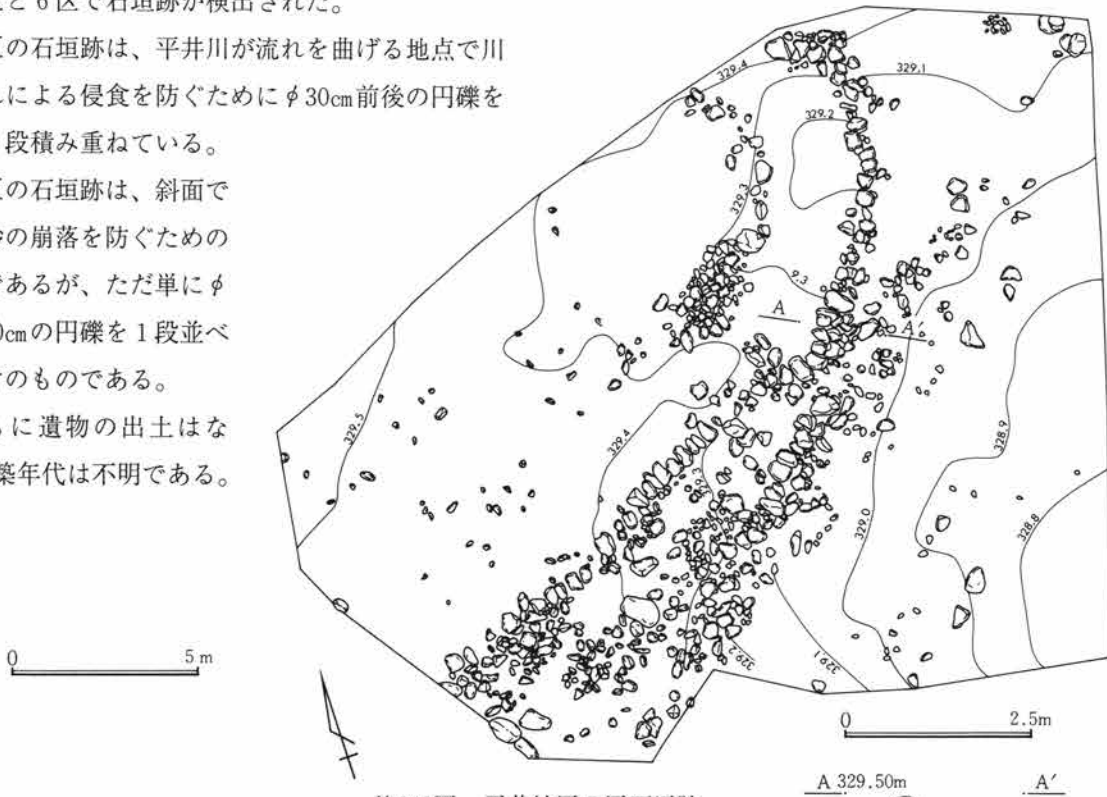
6. 石垣跡

5区と6区で石垣跡が検出された。

5区の石垣跡は、平井川が流れを曲げる地点で川の流れによる侵食を防ぐためにφ30cm前後の円礫を5～6段積み重ねている。

6区の石垣跡は、斜面での土砂の崩落を防ぐためのものであるが、ただ単にφ20～30cmの円礫を1段並べただけのものである。

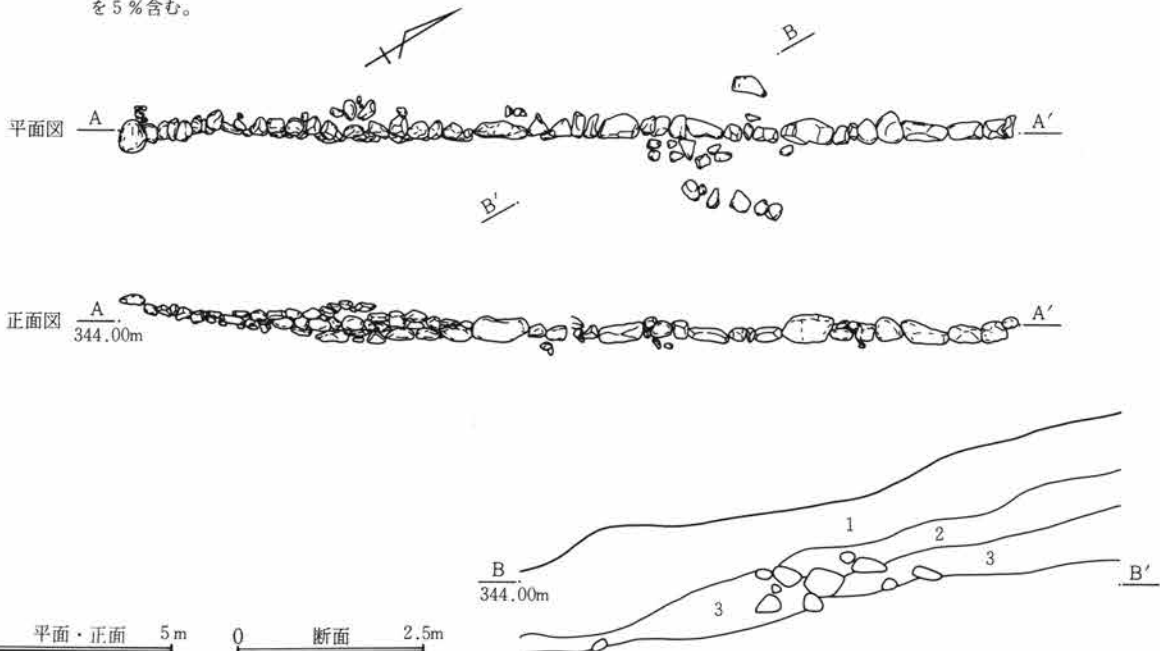
ともに遺物の出土はなく、構築年代は不明である。



第243図 平井地区5区石垣跡

6区石垣跡

- 1 暗褐色土 表土。
- 2 黒褐色土 φ2～10cmの礫を20%含む。
- 3 黒褐色土 φ2～10cmの礫を20%とφ2～5cmのF Pを5%含む。



第244図 平井地区6区石垣跡

## 7 遺構外出土遺物

### (1) 縄文土器

遺構外出土土器を一括する。この中には早期、前期および後期が含まれるが、調査では時期ごとの層位的出土を示さず、これらの型式が混在した状況で確認されている。以下、時期ごとに土器の概要を報告していく。

#### 条痕文系土器(第245図1・2)

早期後葉の条痕文系土器である。1は胴部片、2は尖底土器の底部付近であり、器内外面に条痕文を施すが1の内面については大半がすり消されているため部分的に観察されるにすぎない。胎土には繊維が含まれるが量は少なく器面にはほとんど露出しない。

前期前半の土器(第246図3～34、第247図35～73、第248図74～79)

縄文施文の胴部片が多く、その他の文様について観察できる資料が少ない。型式的には関山式土器が主体をしめるが、3、4、12、30、33、43、58は尖底土器胴下半部片とみられ、これらについては花積下層式土器として考えておきたい。

5～8、10はコンパス文、9、11は円形張り付け文をもつ口縁部片であり、6、8、11は山形状口縁を呈する。縄文は5、8、10に直前段合燃・横位、9にRL横位が施される。

以下、縄文片については原体ごとに報告しておく。なお、単一原体で縄文面を構成する例が少ない時期であり、小片で単一縄文の資料は羽状もしくは菱形状縄文の一部である可能性が高い。このような出土資料の条件を前提に種別を中心に説明していく。

1段(18、60)いずれも小片であるが18がL、60がRで横位施文とする。

2段(20、22～24、26～28、30～32、35～37、39～42、44、48、51～54、61～64、77)観察部分が少なく確定できないものも含まれるが、0段多条を用いた縄も多い。26、27、40、42、44、77には0段3

条が観察できる。さらに、24、28、31、36、37、52、61にはループも認められる。小片のためか単一種の縄文片が多いなか22、35、39、40、41にはLR・RL横位の羽状もしくは菱形状構成の縄文がみられる。直前段合燃(13、15、19、25、38、49、50、55、57、65、66、68、69、70)いずれも2段縄を3段時に合燃とするもので、異段および1段縄を用いた合燃はみられない。前々段合燃(45、71、74)いずれも3段縄で異節縄文といわれるものである。3例とも最終段がLとなる。

結束第1種(29)RL・LRを結束し羽状縄文を構成する。

附加条第2種(67)縄文が重複し不明瞭であるが0段多条RLの軸縄にR2条の附加が観察できる。

組紐(17、47、72、73、75)R2条、L2条による組紐が用いられる。

結節(34)R2条をひとえ結びとした結節が観察される。

ほかに、小片であるが沈線(56)、櫛歯によるコンパス文(78)、円形張り付け文(79)、上げ底状底部(76)も認められる。

前期後半の土器(第248図80)

集合条線の認められる胴部小片である。諸磯C式土器として考えておきたい。

後期の土器(第248図81～103)

加曾利B2式土器を一括する。小片が主体であるが、102・103のような把手も含まれる。

### (3) 石器

本遺跡の遺物の中から抽出された石器からは、その器種や形態、それに製作技術などを通じて、様々な情報が得られることから、以下にまとめて記述することとする。

まず、出土位置は大部分が住居跡や土坑の埋没土からであることから、遺構の属する時期である弥生時代後期を主体としていることが分かる。

石器組成は、打製石鏃、打製石斧、削器、勾玉、紡錘車、敲石、磨石、石皿、くぼみ石、石核、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片などからなる。

このうち、打製石斧の量の多さと、大きさや形態の違いが顕著である。特に、短冊形や撥形で小型の形状の資料が多くみられ、それは縄文時代前期によく認められる小型のいわゆる「筥状石器」と呼称される資料に類似している。だが、時期的な相違から直接的な関連は認められないと思われる。さらに、刃部部分を欠損している資料も多く認められる。

一方、「石鏃」と呼称されている大型で肉厚な撥形の打製石斧は僅かに出土しているだけであり、大型の石鏃が多量に出土している利根・沼田地区のこれまでの弥生時代の遺跡の特徴とはやや異なる点が認められる。

だがこれは、今までに発掘調査された遺跡が沼田市石墨遺跡などのように、台地上に位置することもひとつの要因なのかも知れない。つまり、遺跡形成での生産基盤が、河川に隣接する河岸段丘面とは異なるのかも知れない。

さらに、磨製石斧がまったくみられないのもひとつの特徴である。

剥片剥離技術では、縦長や横長の剥片に原石の表面（礫面）を残す資料が多く認められるとともに、石核も礫や分割礫を素材とし、周辺からの求心的剥離を施す資料が主体であり、明らかに表面に礫面が残る剥片を剥ぎ取っていると考えられる。こうした

点からも、剥片石器が弥生時代の石器群の主体を占める実態が見えてくる。

特殊な石器としての勾玉は12号・25号住居跡で出土しており、特に、12号住居からは2点の土製品とともに3点が出土している。あるいは特殊な遺構と考えられるかも知れない。

石器に利用される石材は、黒曜石など多種多様ではあるが、黒色頁岩と黒色安山岩を主体としている。これらは、在地系統の石材であり、利根・沼田地区を含む利根川流域で最も利用される石材である。

その原産地は、黒色頁岩が利根川の支流である赤谷川上流域の三国峠周辺から猿ヶ京にかけて広がる第三紀中新世の赤谷累層から産出する岩石であり、黒色安山岩が利根川上流域の武尊山東麓から北麓にかけて産出する岩石である。

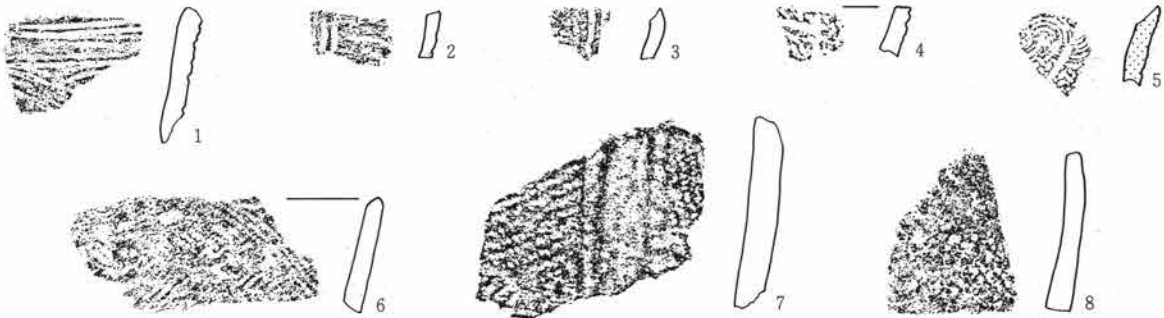
両者は利根川や赤谷川の川床、あるいは利根川と赤谷川により形成された河岸段丘を構成する礫層の中からも確認されており、沼田盆地で比較的簡単に入手することができる石材である。つまり、それぞれの河川が合流する月夜野町小川島地域から約4 km下流に所在する本遺跡でも同様なことが言える。

この他に、量は少ないものの、平安時代の住居跡から、砥石やカマドの構築材料として使用された面取りされた石が出土している。

## 参考文献

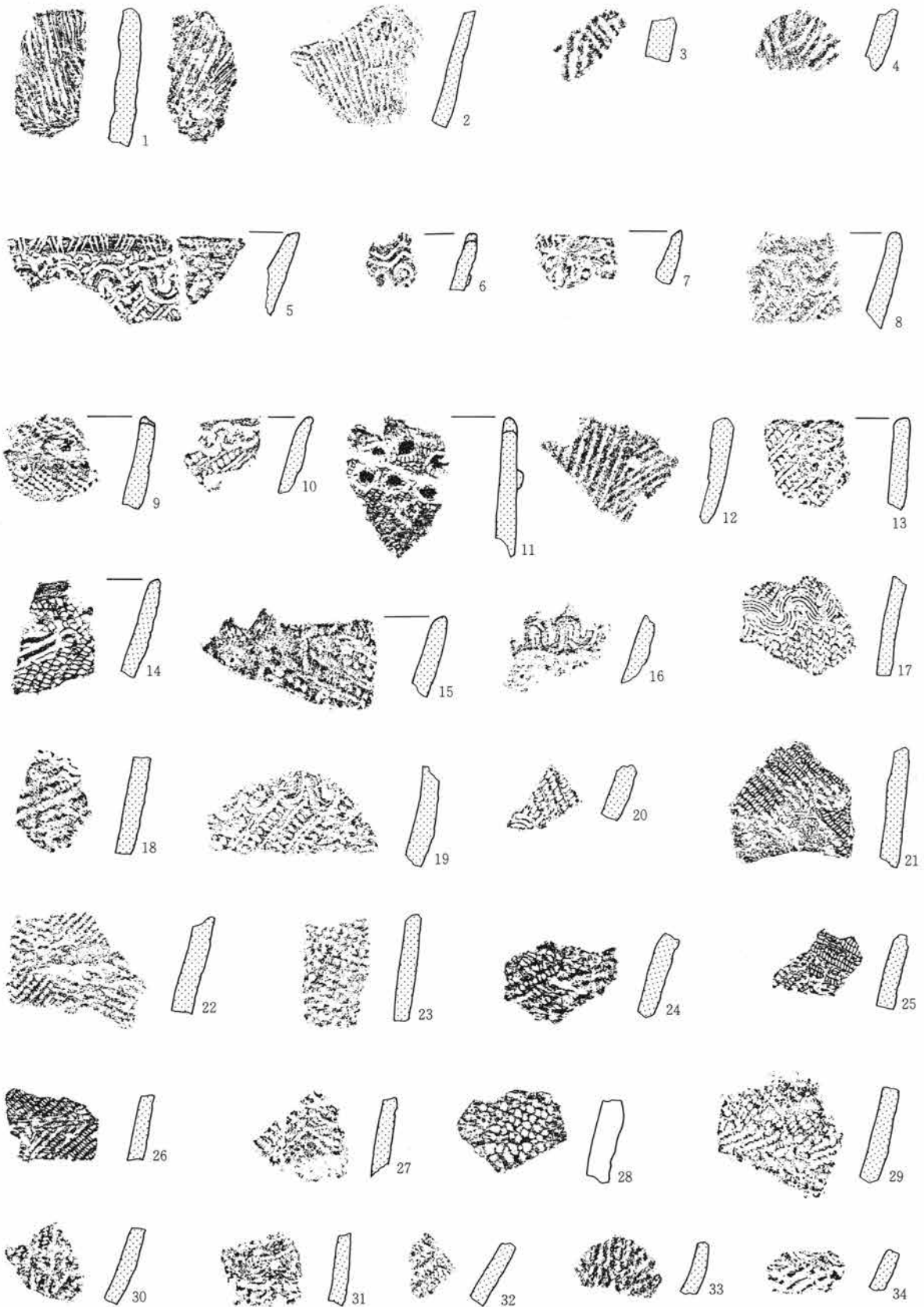
水田 稔・石北直樹「石墨遺跡」沼田市教育委員会 1985

## 五反田地区



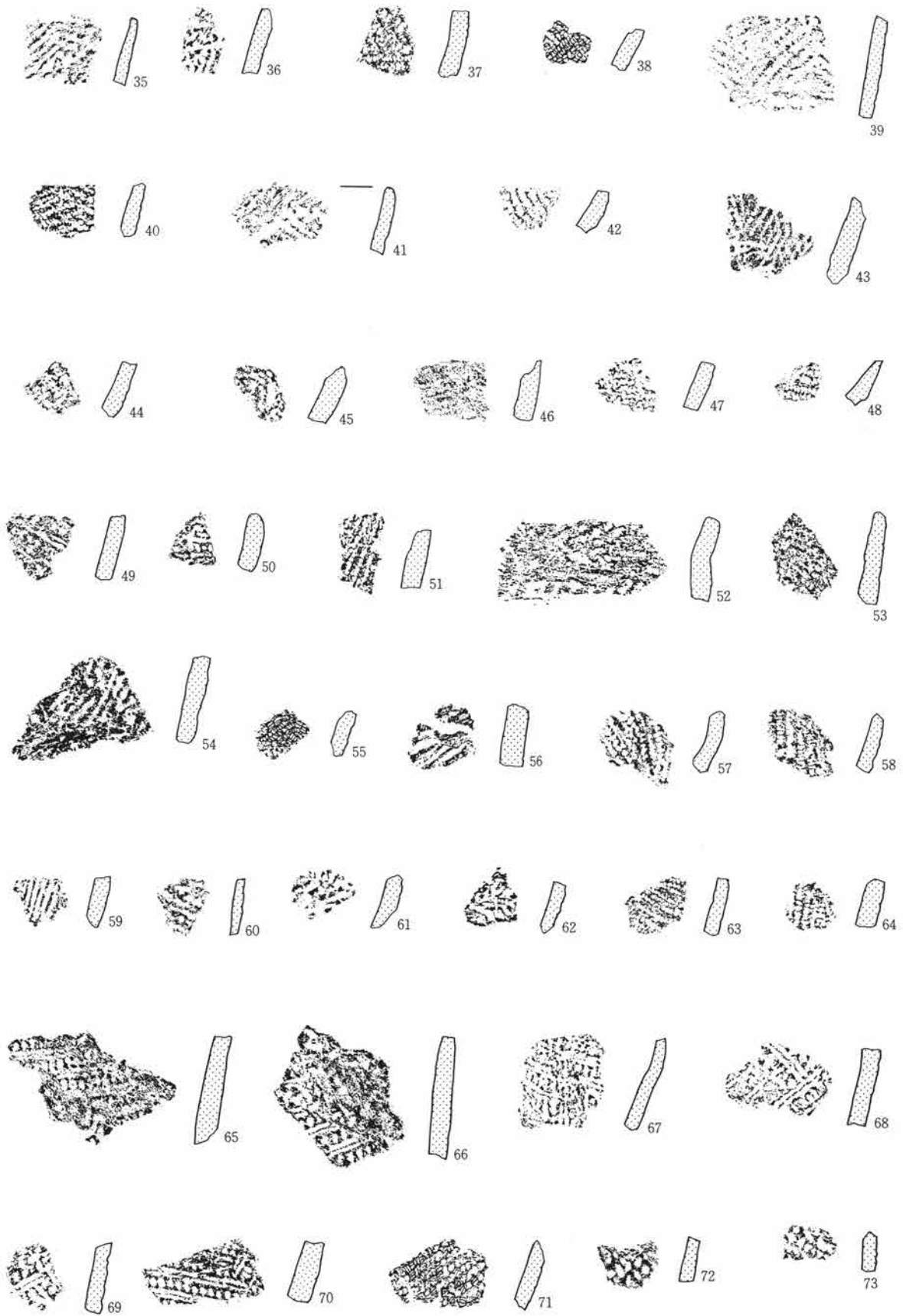
第245図 五反田地区遺構外 縄文土器

平井地区

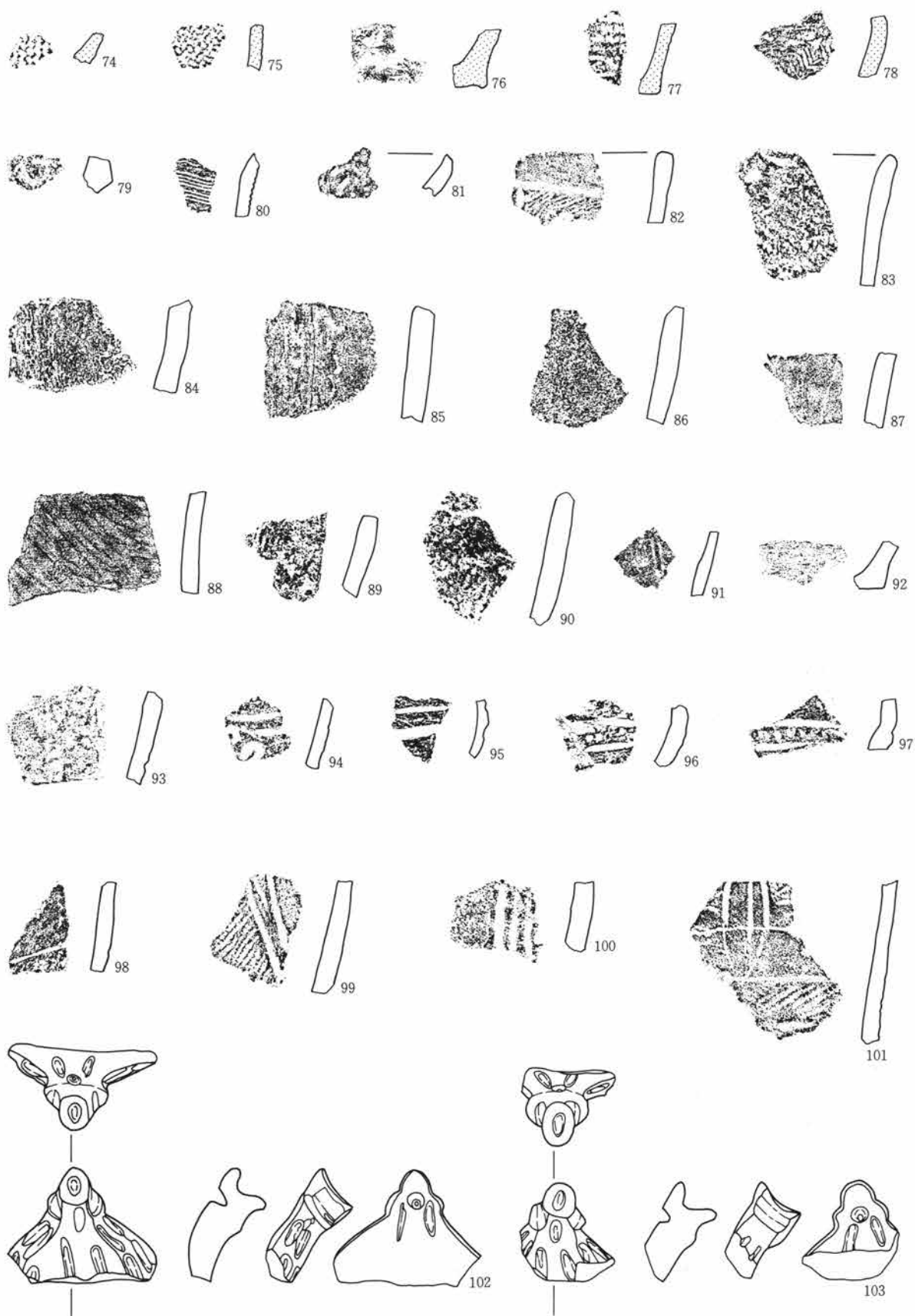


第246図 平井地区遺構外 縄文土器(1)

7. 遺構外出土の遺物



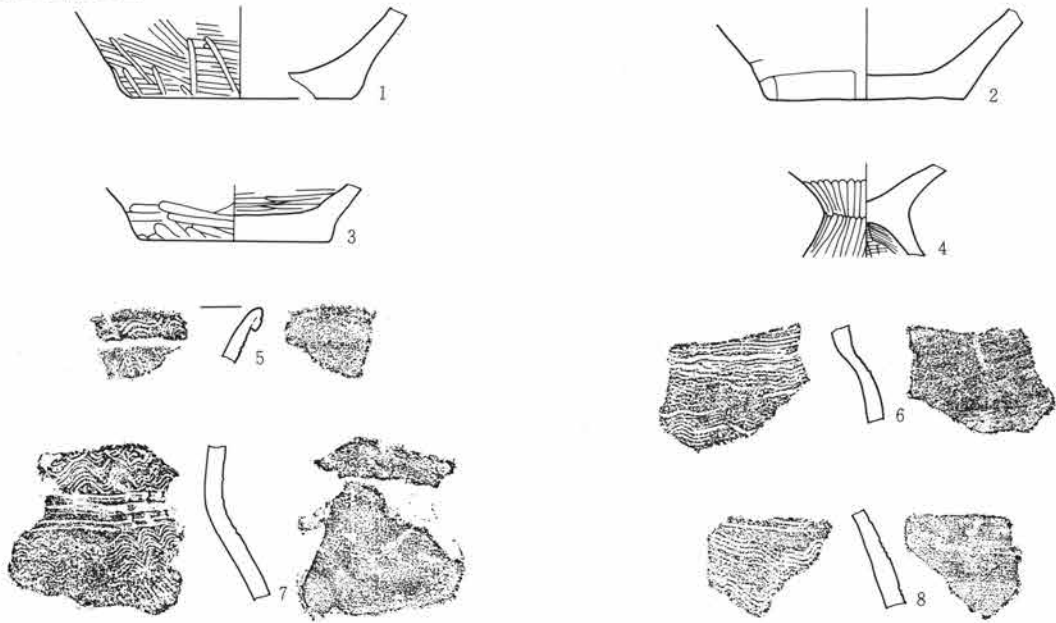
第247図 平井地区遺構外 縄文土器(2)



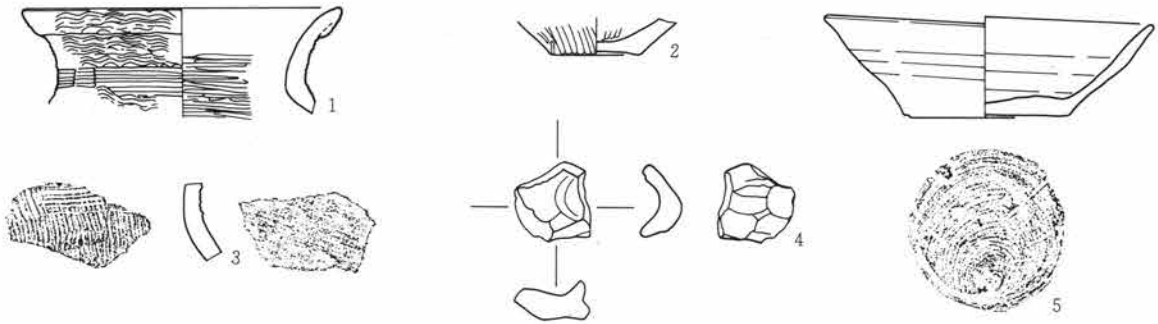
第248図 平井地区遺構外 縄文土器(3)



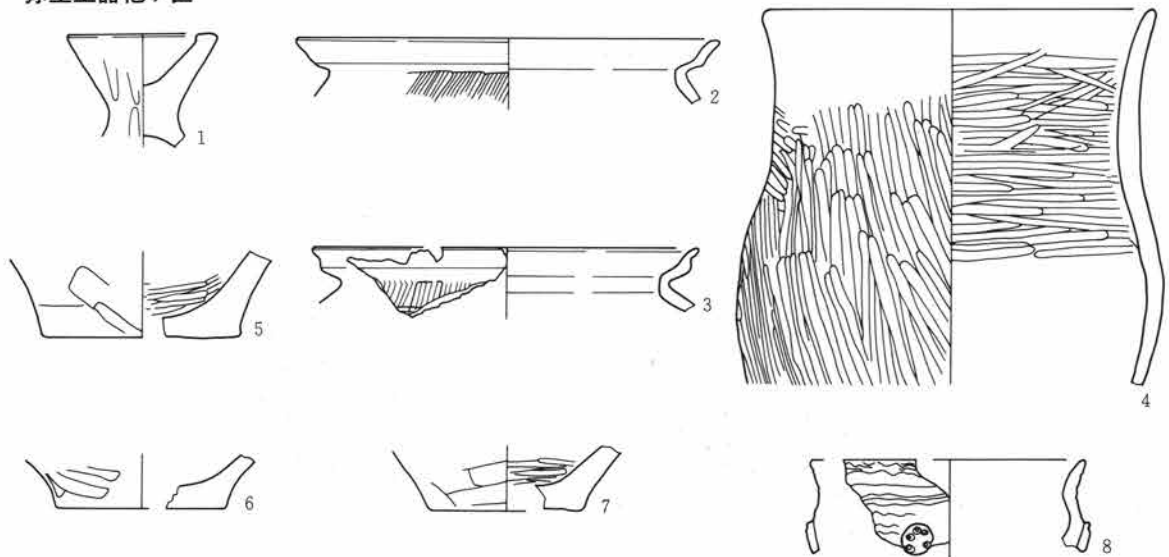
弥生土器 6区



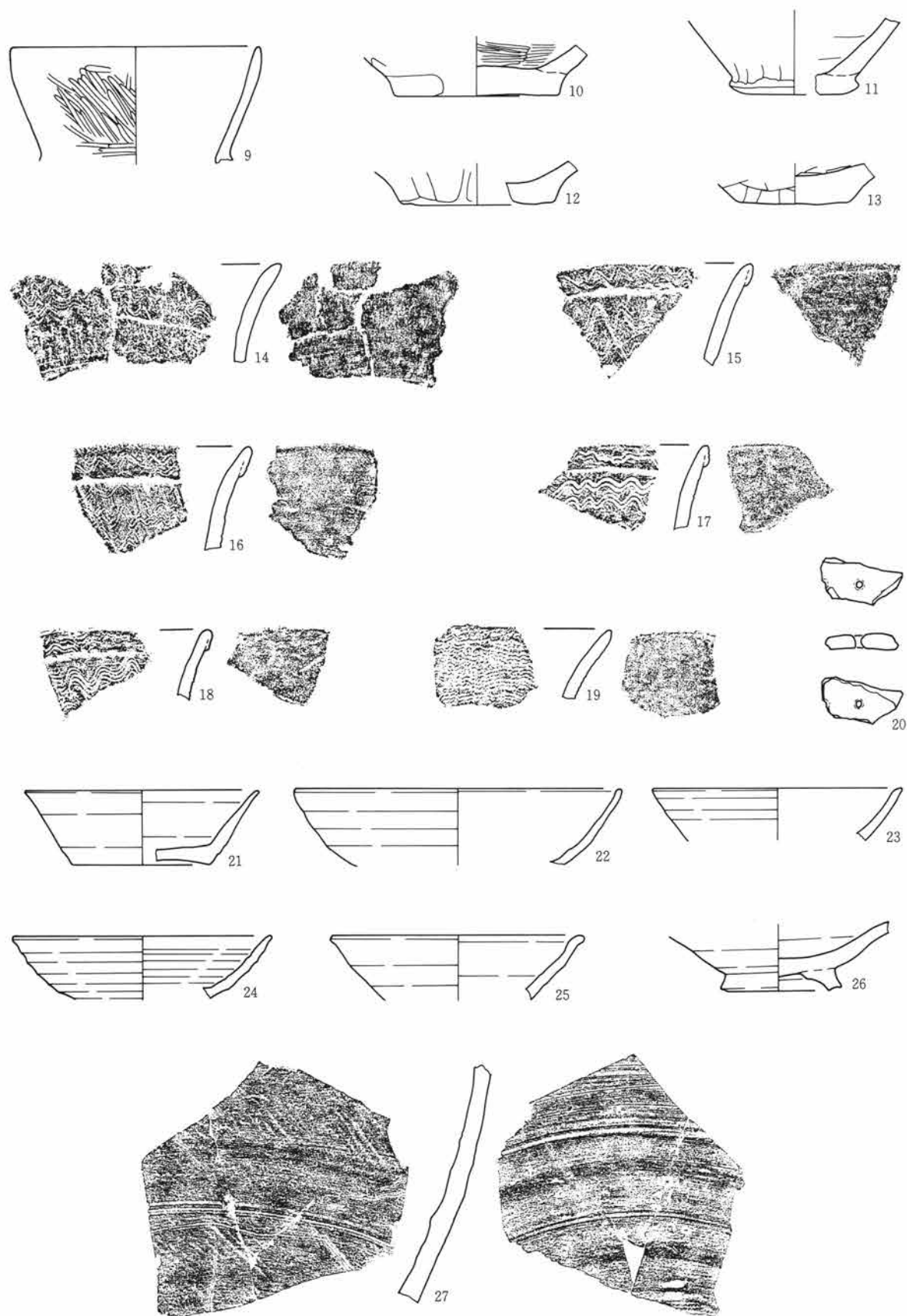
弥生土器他 7区谷地



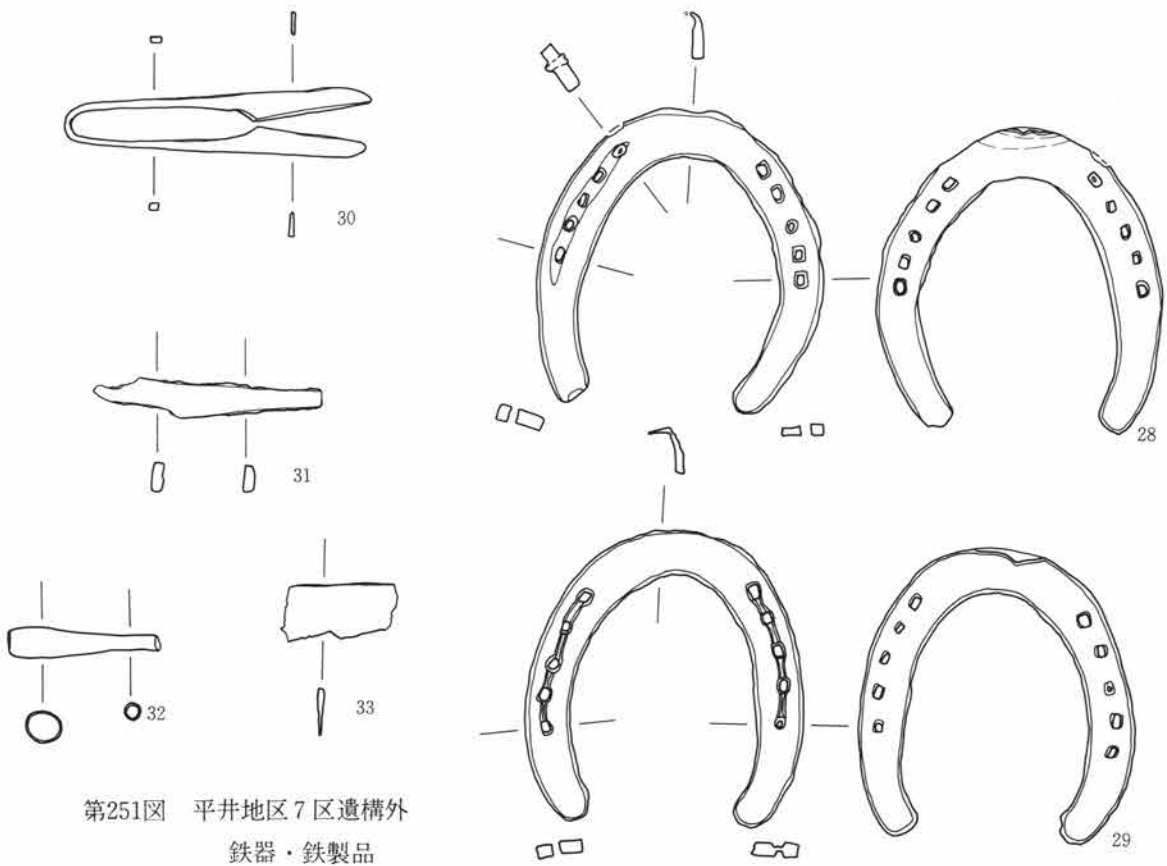
弥生土器他 7区



第249図 平井地区 6区・7区遺構外 弥生土器他(1)



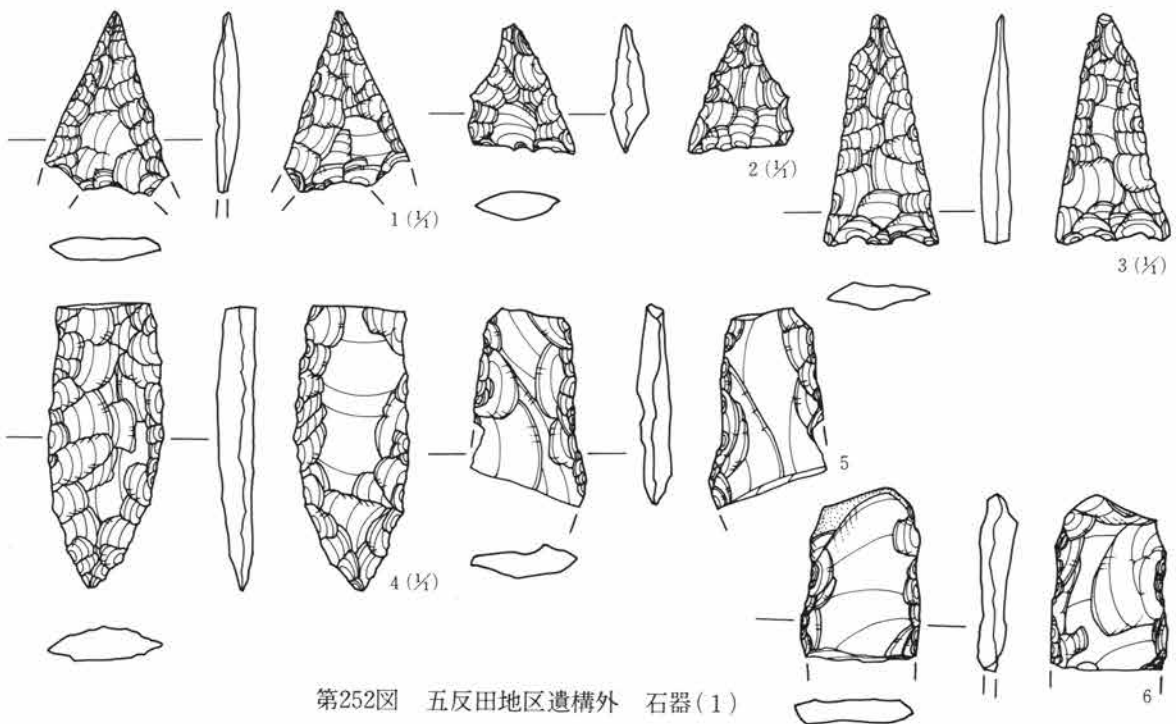
第250図 平井地区7区遺構外 弥生土器他(2)



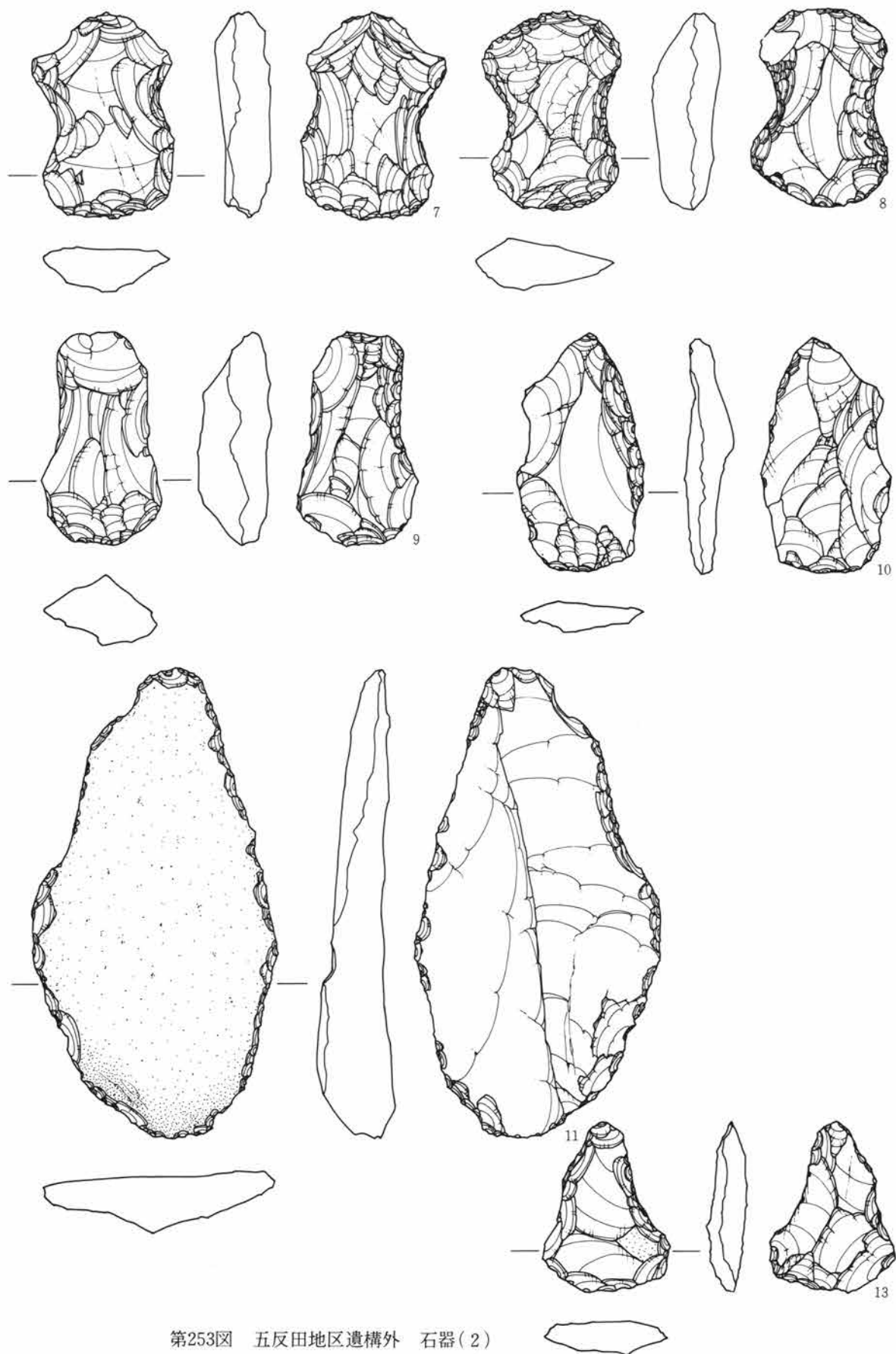
第251図 平井地区7区遺構外  
鉄器・鉄製品

石器・石製品

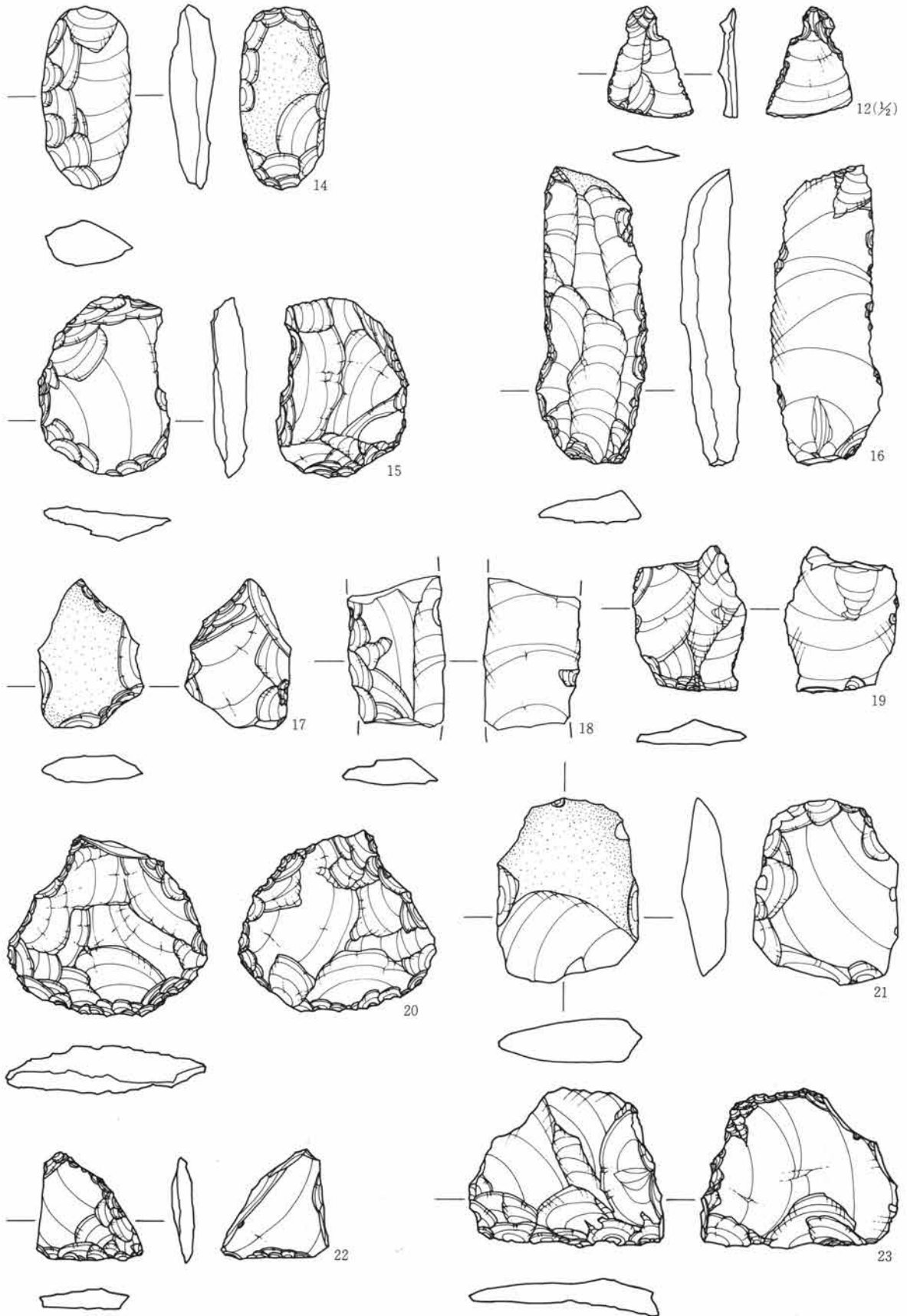
五反田地区



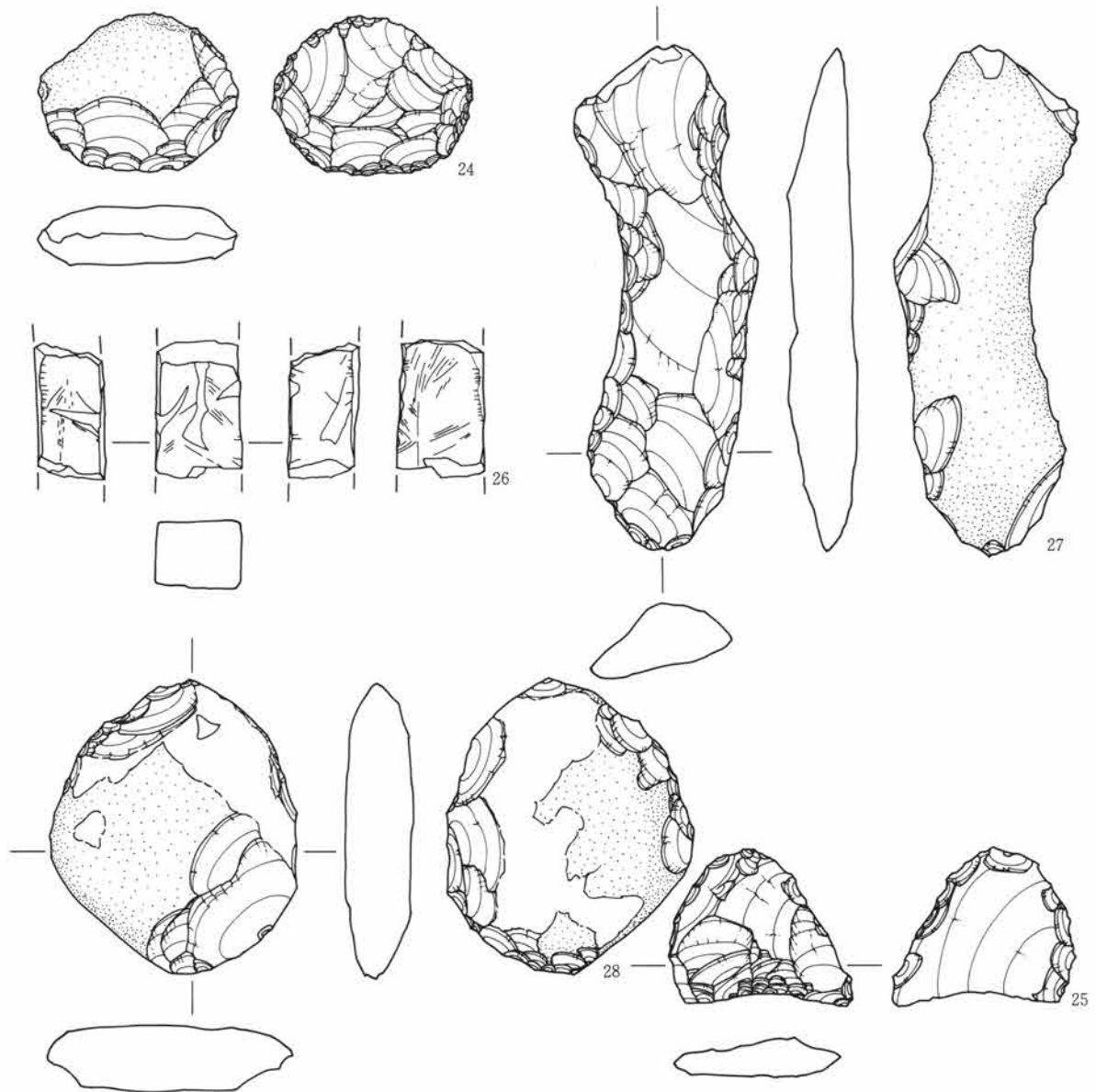
第252図 五反田地区遺構外 石器(1)



第253図 五反田地区遺構外 石器(2)

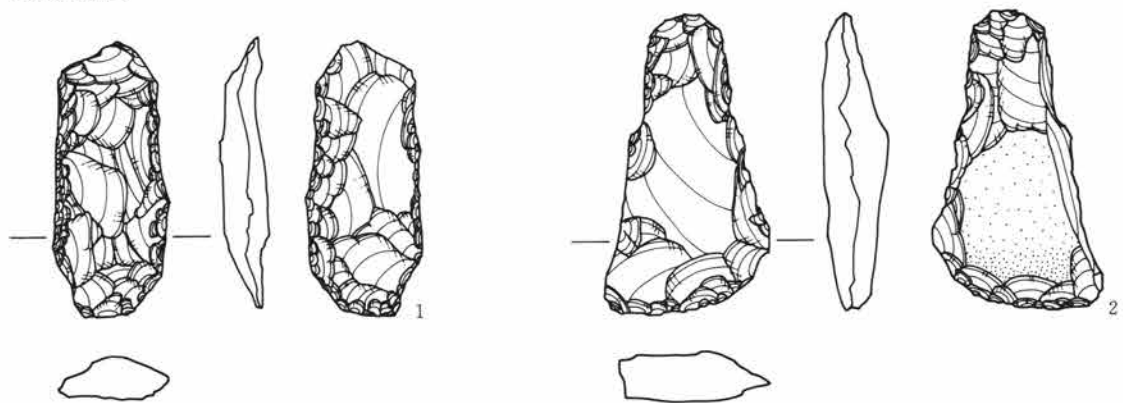


第254図 五反田地区遺構外 石器(3)

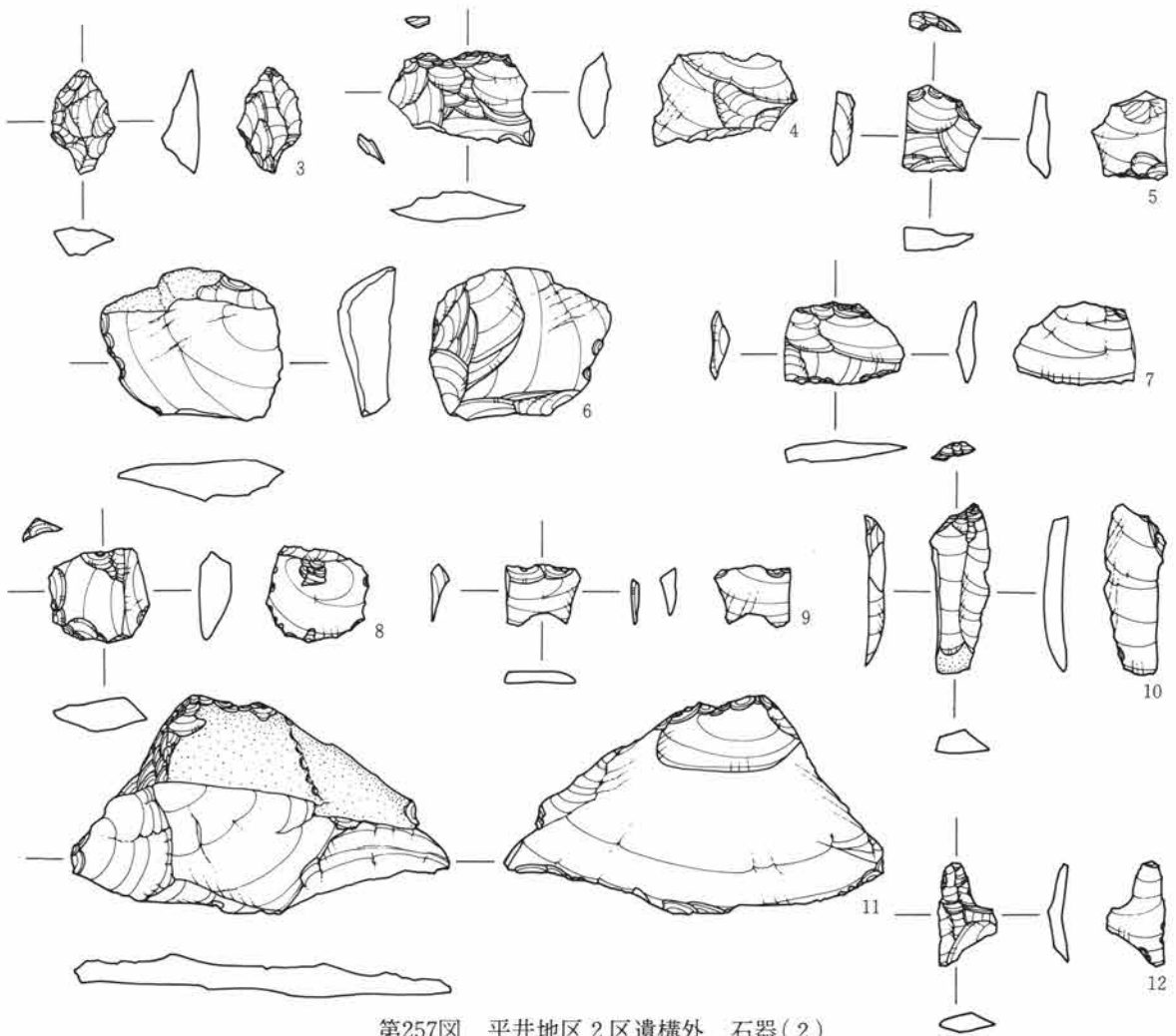


第255図 五反田地区遺構外 石器(4)

平井地区2区

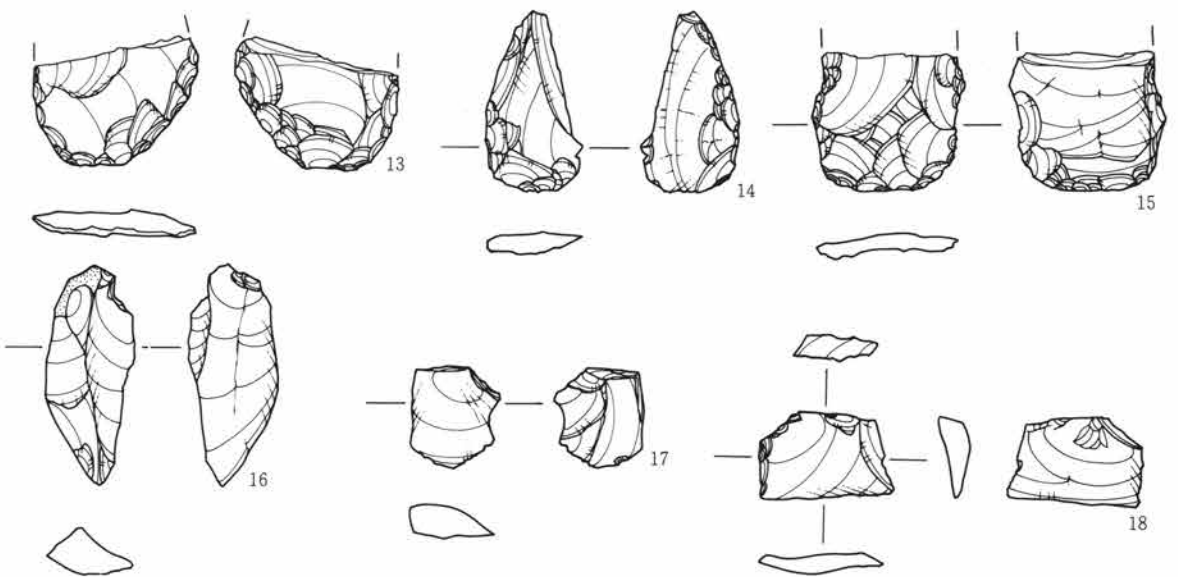


第256図 平井地区2区遺構外 石器(1)



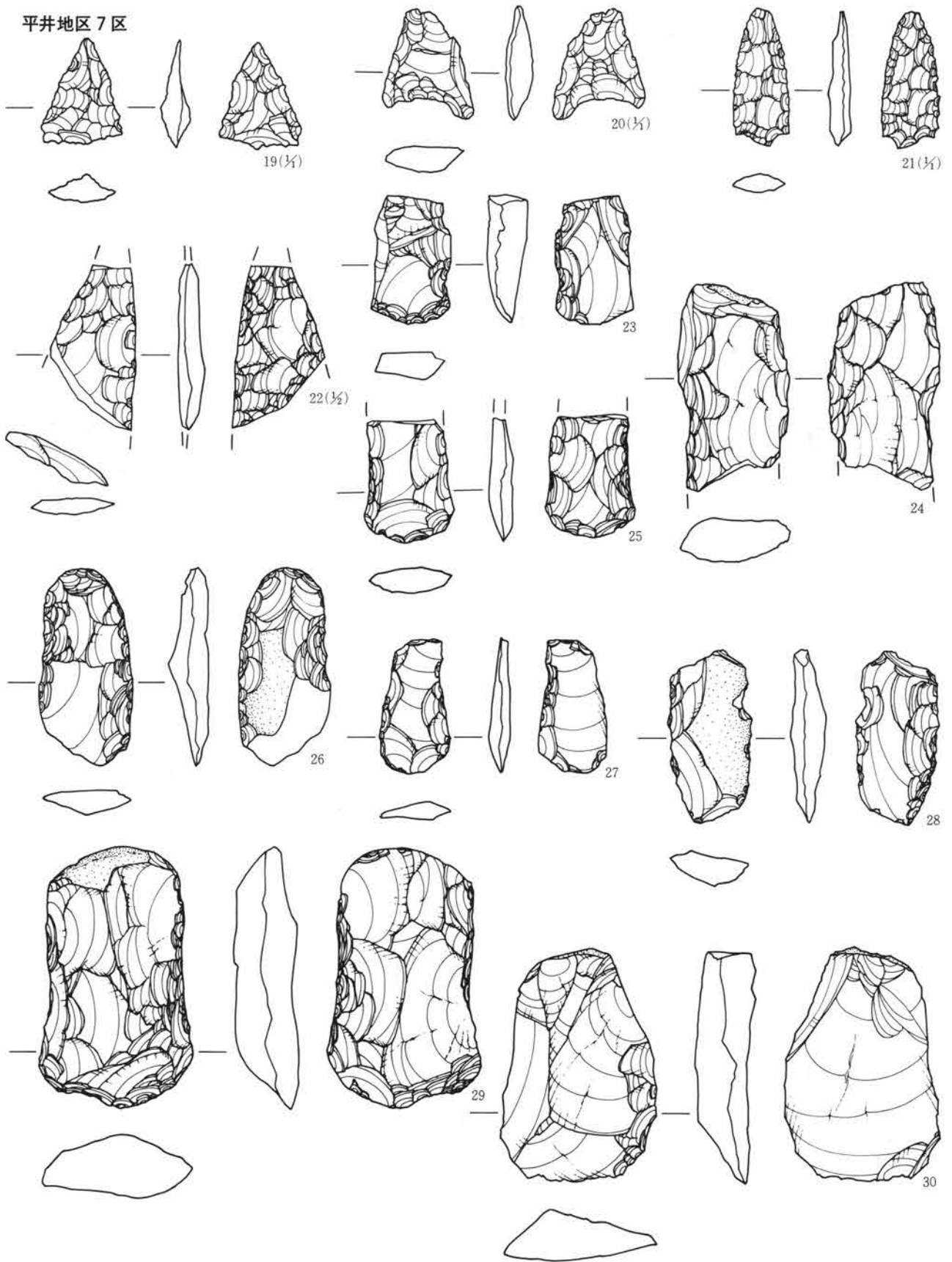
第257図 平井地区2区遺構外 石器(2)

平井地区4区



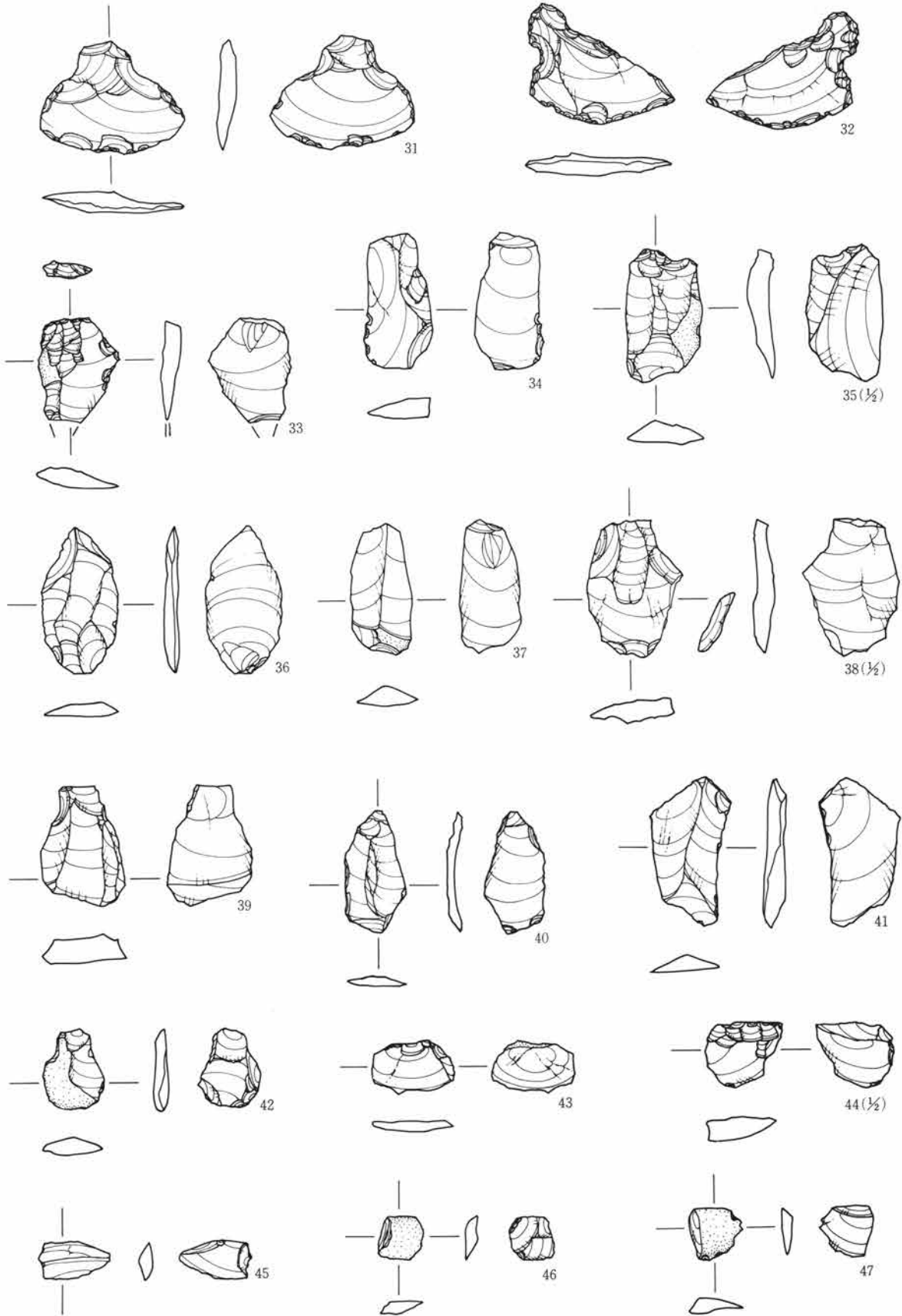
第258図 平井地区4区遺構外 石器

平井地区7区

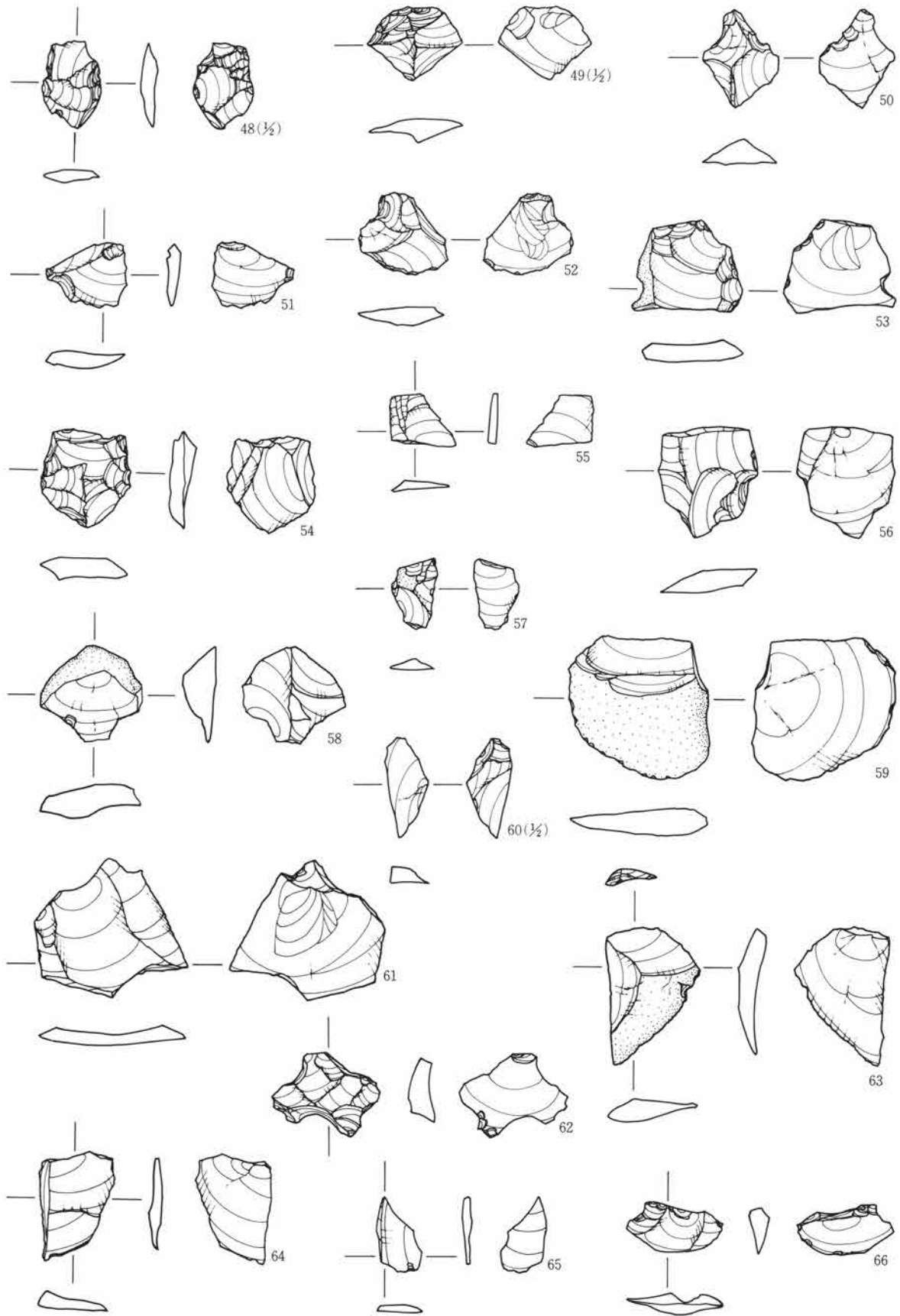


第259図 平井地区7区遺構外 石器(1)



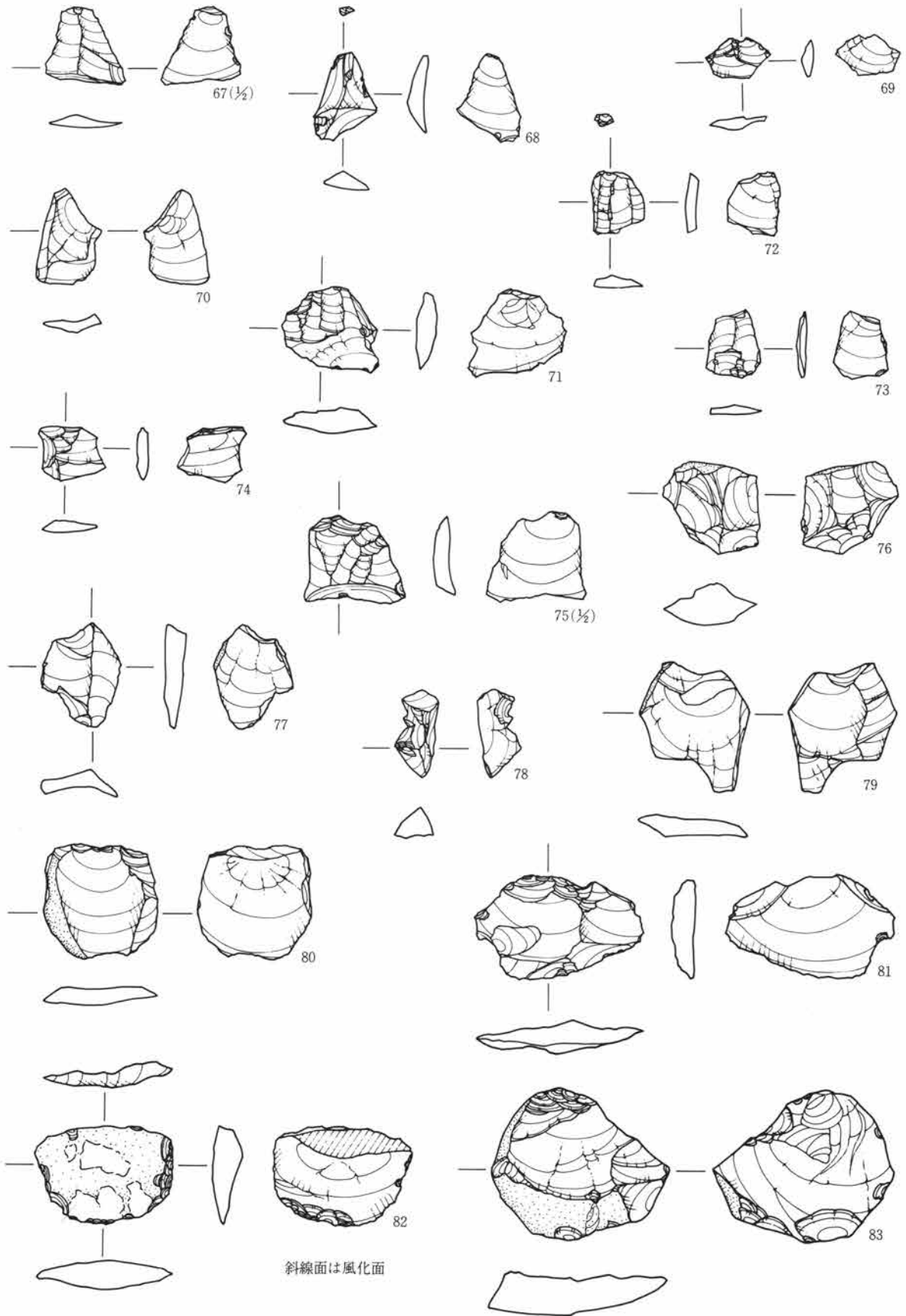


第260図 平井地区7区遺構外 石器(2)



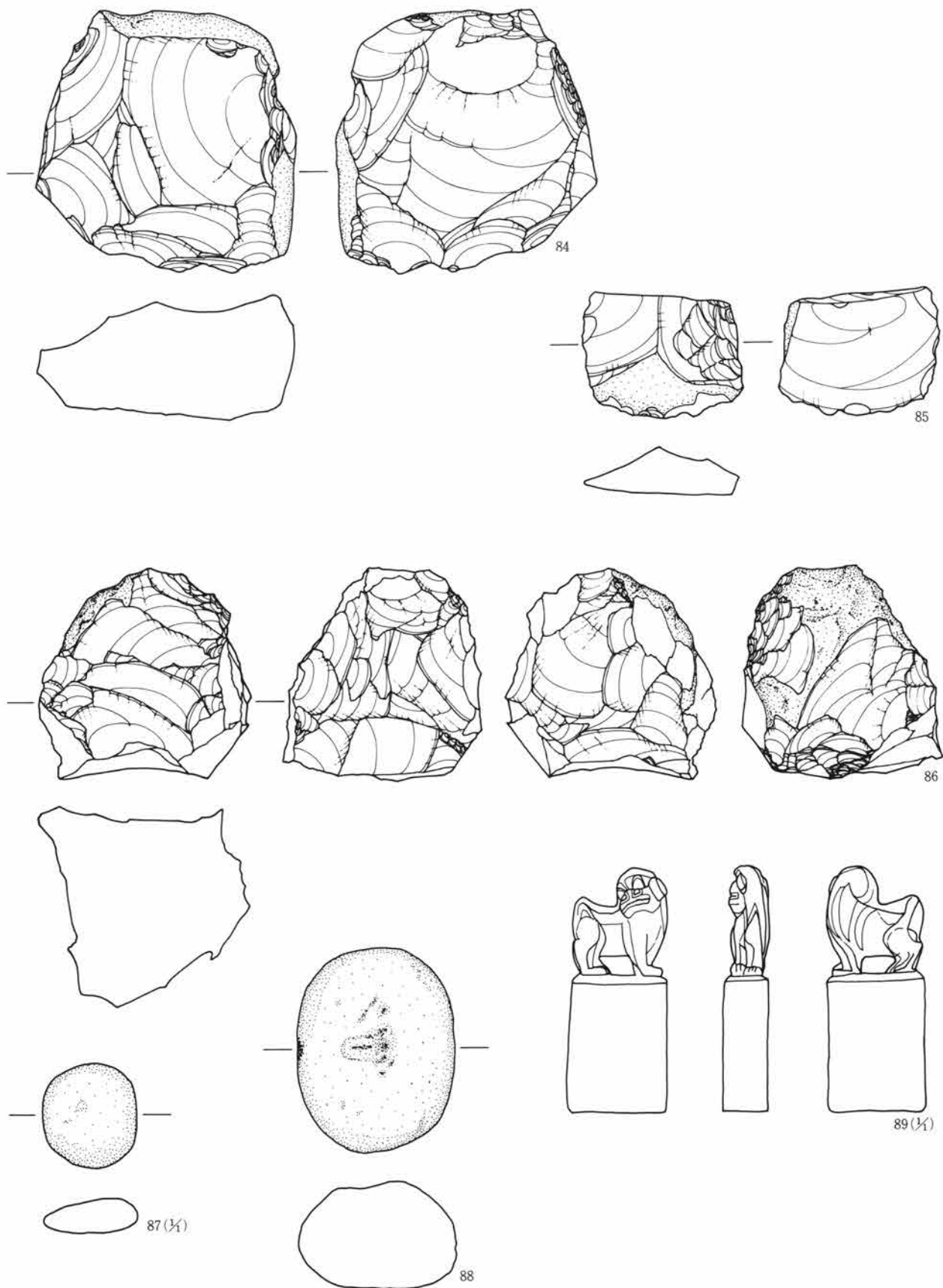
第261図 平井地区7区遺構外 石器(3)

7. 遺構外出土の遺物



斜線面は風化面

第262図 平井地区7区遺構外 石器(4)



第263図 平井地区7区遺構外 石器(5)

## 第6章 成果と問題点

### 下川田下原遺跡の城郭跡について

#### 1. はじめに

下川田五反田遺跡のうち利根川の段崖上の緩斜面、字下原地内からは未周知の城郭跡が発見・調査された。城郭跡の乗る緩斜面は北東側を利根川の段崖、南側を入沢川の谷地の斜面、北西側を字五反田と接する比高差約8mの斜面によって画されている。

城郭跡の調査状況については第4章に報告されているように、利根川の流れに対し垂直方向の約80m隔たる上幅6m程、底部幅1～2m程、深さ3m以下の2条の薬研堀（1・3号堀）。この2条の堀の中間付近にこれらと平行するスパンが94cm～147cm、187cm～286cmを測る2群の柵列。及び南側の3号堀と、これと平行に約11m隔たるコ字形の長さ約26m、堀幅1m前後の浅い堀である2号堀に囲まれた馬出と判断される遺構が発掘調査されている。

#### 2. 城館址の全体像の想定

城郭跡は発掘調査の結果、調査対象となったバイパス予定路線外にも広がることが確認されているが、未周知であったことが示すように、顕著な遺構や伝承を確認することはできなかった。従って現地形や地形測量図、昭和期のもを中心に明治期のものを参考とした地籍図を基にその範囲等について検討してみたい。

##### ① 1号堀

1号堀の北西肩は地境であり（第264図・第265図-①）、現地形においては60cm以下の段差があり、堀側（南東側）が低くなっている。段差は南西寄りでははっきりしなくなるが、段差の北西側には一続きの区画があって、その西端は南東-北西走行の道路（以下「道路2」とする）にぶつかっている。また、地境等が道路2を越えないことから、1号堀はその北肩の地境に沿って道路2まで延びていたもの

と想定される。

##### ② 2・3号堀-南東側の堀と虎口

3号堀の北西側には、これに沿う北東-南西走行の道路（以下「道路1」とする）が走り、南西で道路2と交差する。3号堀は地籍図では道路1に接する区画（第265図-②）の南東寄りに位置し、現地形でも当該部分と南西側の延長線には弱い窪地（第264図-②）が見られる。この窪地は地籍図の地境に沿って道路1の下に潜り、その付近では道路1の南東側が弱く道路側に傾斜しているため、3号堀は路線外で折をもって道路1の下に延び、その西限は1号堀と同様に道路2までと想定したい。

馬出と推定した区画（第264図-③）は、地籍図において3号堀を含む区画に並ぶ区画（第265図-③）に含まれる。この区画はその南東に並ぶ長方形の区画に比べ幅広であるほかは、特段の起伏等は見られなかった。

##### ③ 南西側の堀

北西側の堀（1号溝）の推定によって、道路2がその西端、即ち北西側の堀になるものと考えられる。道路2は城館址の乗る緩斜面の利根川寄りを区切る道路で、南東側では入沢川の斜面上を入沢川に沿って走る狭い農道（以下「道路4」とする）にぶつかり、北西では西から入る道路（以下「道路3」とする）がぶつかる。道路2を境にしてその両側の区画は連続性がなく、古くから土地を区分しうる要素を持った境界であったと推測される。現地形に於いてもこの道路を境にして60cm～1mの段差が見られる部分が多く、南東寄りとは北西寄りでは道路に対して南西側が高く、1号堀から3号堀周辺では東北側が道路面より低くなり道路に接する部分では土地が平坦あるいは道路側に弱く傾斜している。こうした状況から道路2に沿っては、これに接する段差を南西壁とする堀がほぼ城郭跡の乗る緩傾斜面を区切るよ



うに掘られていたのではないかと想定される。尚、道路3のぶつかるT字路の南東側では段差がはっきりしないが、後述の想定される北東-南西走行の堀

の存在と等高線の状況、この付近の道路2の走行ラインの歪みなどから、道路2に想定される南西側の堀はT字路付近で北東方向に折をもって延びていたのではないかと考えられる。

一般に堀がぶつかる段崖或は斜面は周囲に比べて崩落が進み、段崖や斜面の肩がえぐれることがあるが、道路2がぶつかる字五反田との境をなす斜面にはこうしたえぐれなどは確認できず、むしろ道路普請に伴う排土によると思われる迫り出しが見られる。また、道路2の北東側の最も北西側に在る畑地(第264図・第265図-④)の南東寄りには弱い窪地があり、その下位の斜面には窪みが見られることから、道路2の下に想定される堀はこの部分で北東方向に折れて斜面に落ちたものと推定される。

#### ④ 北西寄り区画の堀・段差

利根川の段崖や字五反田の境をなす斜面の縁辺部を観察したところ、道路3のT字路の北東方向(第264図・第265図-⑤)には堀の存在を示す「えぐれ」を確認した。当該位地には2本の地境が入っているが、道路2寄りに見られる30cm程の段差と周囲の等高線の状況から現時点ではT字路方向に延びる方の地境付近に堀の遺存を想定したい。

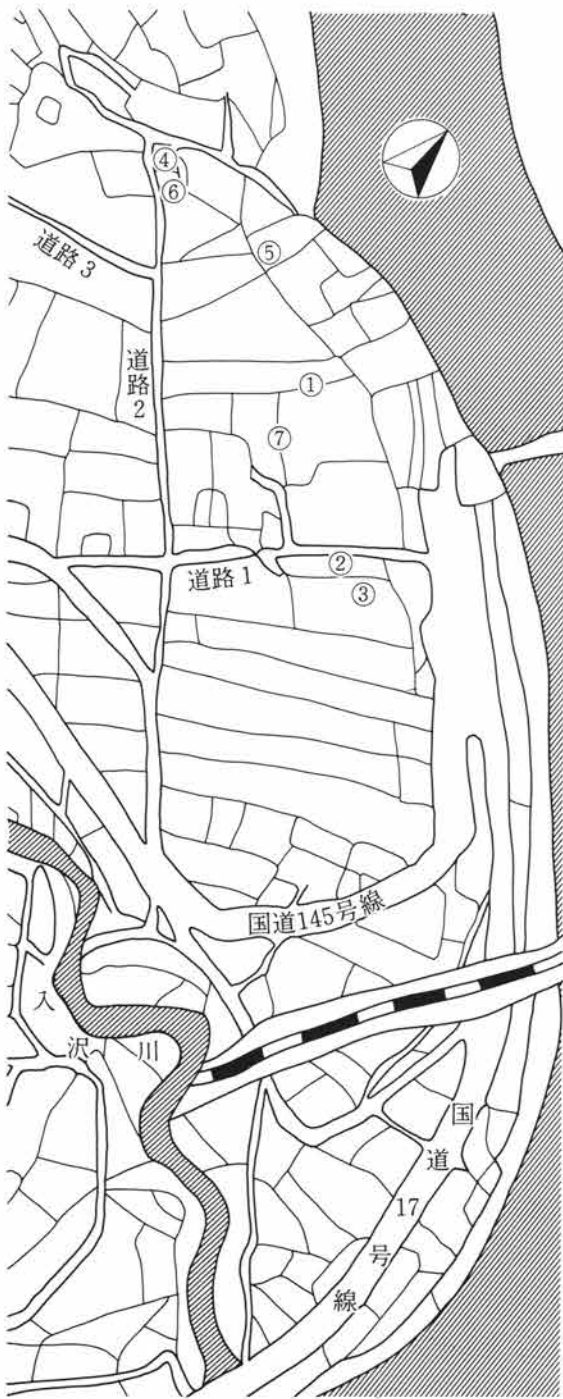
この堀の北西側の区画はほぼフラットであるが、先端ではそれぞれ70cm~1.7m、50cm以上というはっきりした段差を伴う2枚の畑地(第264図・第265図-④・⑥)がある。このうち南東側の畑(⑥)には郭や堀の存在を想定できるが、縁辺に「えぐれ」が見られないため小さい郭として把握したい。

尚、これら上述の区画の北東及び北を画する斜面には何段かの平地が作られているが、これらの平地の幾つかは道路2の西側にも延びることなどから、これらは近世以降の耕作によるもので城館址には付随しないものと判断される。

#### ⑤ 想定される郭

北西端近くの小さい区画を除くと、想定した城郭跡の中に認識される郭は、調査された1・3号溝に挟まれたもの、3号溝と道路3の延長付近に想定される堀に挟まれたもの(以下「郭1」とする)、こ

1. 下川田下原遺跡の城郭跡について



第265図 城郭跡及び遺跡周辺地籍図

の堀の北西側に見られる平坦面（以下「郭4」とする）が考えられる。

このうち1号堀と3号堀に挟まれた郭の中程には古墳の残欠と思われる盛土が残されている。地籍図を見ると古墳の東10m程隔たった位置に北東-南西走行の境界（第264図・第265図-⑦）が見られる。

この境界には20~30cmを測る小さい段差が見られ、南東寄りには民家があって擁壁が造られている。この境界と、虎口である馬出がこの郭に対して東に寄り過ぎていることを合わせて考えると、郭は境界線を境にほぼ南西と北東の二郭（以下前者を「郭2」、後者を「郭3」とする）に分けられていたものと想定され、これに従えば虎口は郭3のほぼ中央に位置することになる。境界線は堀或は柵等の存在を示唆するものと推定されるが、上述の段差等の存在から堀として考えるのが適当と思われる。

郭2について見ると、前述の古墳の残欠と思われる盛土は、この部分だけ残されていることから土塁の一部とは考えにくく、築山として使用されたものと現時点では推定している。この古墳の残欠の北西側は60cm程の段差があり、西に折をもって1号溝の推定ラインに延びている。この段差は昭和期の地籍図に認められ、郭南西側の土塁の流出や、園池、或は榊形の存在を考えることができる。

郭3はその中程を区画する柵列が調査されていることから、郭内が大きく北西・東南に2分されていたものと推定される。

郭1は全体に膨らみがあり、特段の遺構等は想定できないが、隣接する郭に比べレベルが高いことと、郭2が郭3に対して上位の郭であると考えられる。また、利根郡の段崖城の主郭は虎口のある郭に対しより段崖に近い位置に在ることから、郭3が主郭とは考えにくいといったことから、郭1を主郭として想定したい。なお、郭1の南東角付近には中世期の土坑墓が確認されている。

郭4は平坦な面であり特段の凹凸などは認められない。

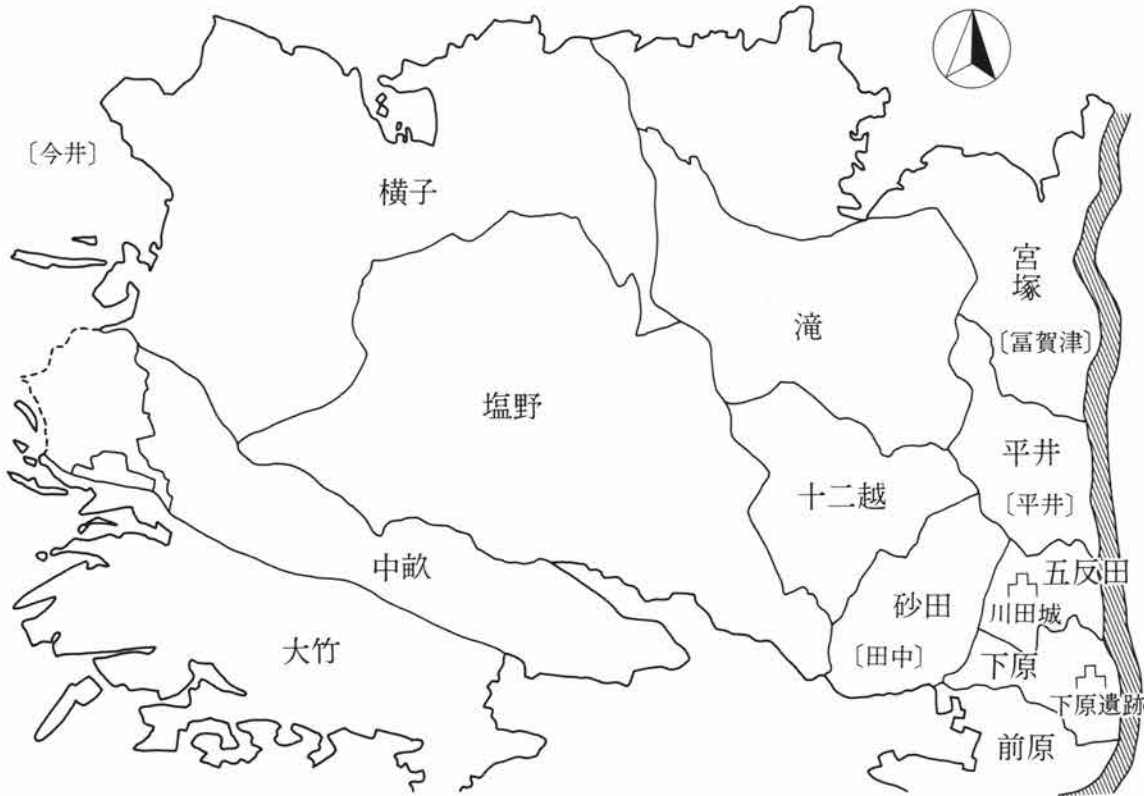
⑥ 城下

地籍図及び現在地形に於いて、虎口のある区画の南東側には道路2から利根川の段崖に至る幅狭の長方形の区画が5列見られ、その形状から城下街ではないかと推定される。その最も城郭跡寄りの区画からは地割りと若干方向が異なるが1間幅の建物跡が発見・調査されている。



第266図 城郭跡推定図 (S=1:2,000)





第267図 下川田地区小字(□)内は推定される地衆の居住域

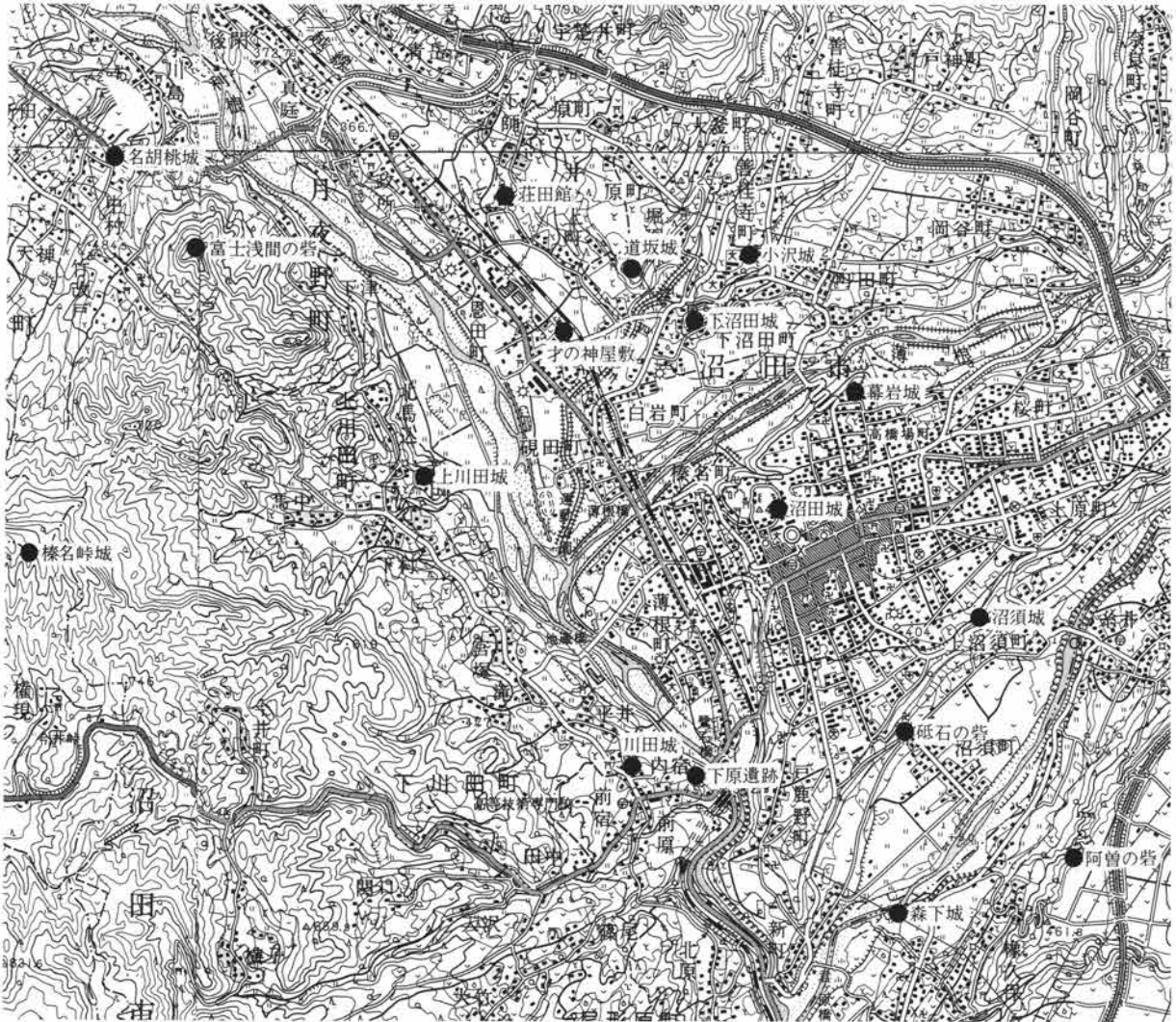
### 3. まとめ

以上のように下川田下原遺跡に発見・調査された城郭跡について、その規模やプランを検討したのであるが、その結果、下原遺跡の城郭跡は、下川田地区の中心をなす城であり隣接の字五反田に残る川田城と同程度の規模を持つ城郭跡であると推定された。更に川田城周辺では確認できなかった、城下街を示唆する区画も認められている。この城郭跡と川田城はそれぞれの主郭推定地の間の距離が僅かに350m程と近接しており、推定した城郭の姿が正しければ、こうした近接した位地に何故このような城郭が造られたのか疑問である。前述のようにこの城郭跡についてのデータは不足しているが、以下、下川田下原遺跡の城郭跡について若干の検討を試みたい。

川田城は元来沼田氏の支族川田氏の居城で下川田地域の支配の中心となる城である。沼田氏・上杉氏(景虎)・後北条氏・武田氏・織田氏・真田氏と支配

が変わったが、一時期を除けば城主或は城代が居城し、下川田地域の統治の拠点として、その象徴的存在でもあった。従って単純に考えると、下原遺跡の城郭は拠点となる城郭ではないということであり、城主を下川田地区の地衆に求めて検討したが、下原に特定できる地衆は確認できなかった。また、字下原について明治14年の群馬県の小字名調書を見ると、別称或は俗称の一つとして「寄居」が見られる。この「寄居」が下原全域を示すのか、その一部を示すのかは不明だが、これが下原遺跡の城郭跡を示しているとすれば、この城郭跡は特定の城主を持たなかったものと推定される。

川田城は加澤記には通常「川田の城」と表記されているが、天正14年(1586)の北条氏邦と真田方の彌津助右衛門との軍の記事に「川田打出の城」という表記が見られる。これは川田打出の城＝川田城と区別される川田城の存在を示唆しているものとすれば、この城が下原遺跡の城郭跡である可能性も考え



第268図 下川田下原遺跡周辺の城館分布図 (S=1:50 000)

られる。記事中にこの城を記した記事は認められなかったが、推定が正しければ加澤記が記された江戸前期頃まではその存在が意識され、その規模・機能などが川田城と同等程度以上の内容を持っていたものと思われる。

下原遺跡の城郭跡は伝承等がほとんど残っていないことを考えると、存続期間はかなり短期間であったと考えられ、川田城と距離が近過ぎること及び規模が同程度であることを勘案すると同時併存したものとは考えにくい。従って川田城を使用した時期には下原遺跡の城郭は使用されなかったと考えられ、真田氏が天正年間に築城したとされる名胡桃城が丸馬出であったの<sup>2)</sup>に対し馬出が角馬出であること、城主が特定されていないことなどを勘案すると、後北

条統治下、特に豊臣秀吉によって川田大手不動沢を真田領と北条領の境界と定められ、沼田城対岸の対真田の戦略拠点として整備の必要が生じ、境界に接する川田城からの施設の移動が必要となっていたと思われる天正17~18年(1589~1590)頃に沼田城に居られた猪股邦憲によって築城・使用されたのではないかと現時点では推定したい。

最後に本城郭跡検討に当って御教示賜った柴田龍司氏に感謝申し上げます。

註 1) 北条氏直の赤見山城守宛判物によると下川田地衆として12人が上げられ、その中に星野・田中・鈴木・平井・富賀津・今井・笛木・石上の名字が見られる。

2) 山崎 一『名胡桃城について』『城平遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団1984)

参考文献 八巻孝夫『後北条氏領国の馬出』『中世城郭研究』第4号 中世城郭研究会 1990

## 2. 下川田平井遺跡の集落跡について

### 1. 弥生時代

下川田平井遺跡では、弥生時代の竪穴住居跡が15軒検出された。竪穴住居跡より出土した土器は、弥生時代後期樽式期に比定されるものである。

樽式土器は、1939年に杉原莊介氏によって提唱されてから多くの研究者によって研究がおこなわれ、1977年井上唯雄・杉沼恵介両氏によって2時期に区分され、1982年三宅敦気・相京健史両氏によって4時期に細分され各地域ごとの検討もおこなわれた。1988年には、飯島克巳・若狭 徹の両氏によって3時期に区分と地域ごとの検討がおこなわれた。

これらの研究成果によると利根沼田地方の弥生時代後期は、前葉に相当する時期の土器は月夜野町十二原遺跡4号住居跡から出土した一群がみられるだけである。中葉の土器は、十二原遺跡遺構外出土の壺や月夜野町三後沢遺跡2号住居跡出土の高杯が相当するだけである。後葉になると出土遺跡、遺構とも大幅に増加し月夜野町三後沢遺跡、諏訪遺跡、沼田市石墨遺跡、日影平遺跡をはじめ近年の発掘調査でも多くの出土例が知られている。

このような利根沼田地方の弥生時代後期の様相を踏まえて下川田平井遺跡の弥生時代の住居跡をみると1号住居跡に「S字状」口縁の甕や無文で口縁部が短く胴部が球状を呈する甕など古式土師器の様相をもった土器が出土しているほかは7号住居跡、17号住居跡、27号～29号住居跡、31号住居跡等出土遺物がほとんど無かったりする住居跡を除くとすべて後葉の時期に属する土器群である。

これらの後期後葉に属する住居跡出土の土器群について各住居跡および住居跡間での比較検討をおこなってみると形態や文様による多少の固体差はみられるが、それが直接時期差に連なるような要素は抽出できない。

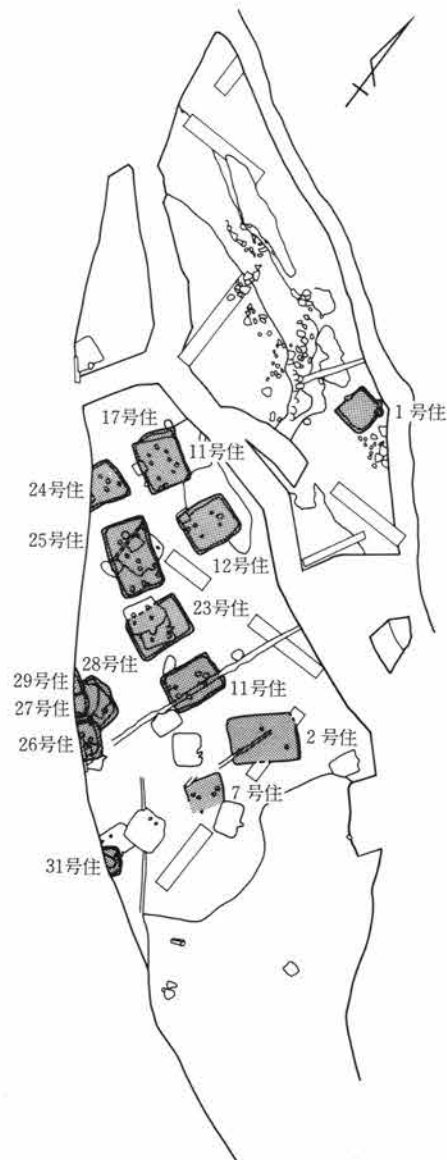
竪穴住居跡をその配置および重複関係からみるとその立地は、1号住居跡の1軒を除いて冬季の北風

や利根川の川風の寒気を避けるように南向きの斜面に位置している。

弥生時代の竪穴住居跡15軒の重複関係は、2カ所6軒でその新旧関係は次のとおりである。

17号住居跡→11号住居跡

28号住居跡→27号住居跡→29号住居跡  
 ↓  
 26号住居跡



第269図 弥生時代住居跡配置図 (S=1:1,000)

その他の竪穴住居跡は、古墳時代や平安時代の竪穴住居跡と重複関係をもつものはあるが、弥生時代のものとの重複関係はみられない。住居跡の配置をみると斜面の傾斜に若干左右されているところは有るようであるが、10号住居跡、23号住居跡、25号住居跡、24号住居跡、11号住居跡、12号住居跡では11号住居跡と25号住居跡の長軸の方向が90°ほどずれるが規則的な配置が行われたことが窺える。

近接する竪穴住居跡同志の距離をみると11号住居跡と12号住居跡の間が3.75m、11号住居跡と24号住居跡が2.5m、24号住居跡と25号住居跡が3m、25号住居跡と23号住居跡が1.5m、23号住居跡と2号住居跡が3m非常に接近して検出された。

このように接近した住居跡を住居構造からみると竪穴住居跡では掘った土で周りに周堤を築きさらに屋根を葺くと近接する住居跡同志の屋根の部分は重なってしまう可能性が考えられる。

このような重複関係や住居跡の配置などからみても同時期に存在した住居跡の数は10軒足らずであったと想定される。

周辺の踏査では、調査区の西側で多少の弥生土器の散布が認められ住居跡の存在が想定されるが遺物の散布の範囲や採集できた量からそれほどの軒数ではなかったと思われる。

## 2. 平安時代

下川田平井遺跡では、平安時代の竪穴住居跡が13軒検出された。しかし、検出された住居跡からの土器の出土量は、あまり多くなく図化できる遺物でも口縁部や底部等の部分が主体であった。このため土器の形態が分かるものが少なく形態の変化から集落跡の変遷を考えることは難しい点がある。そうした数少ない出土土器のなかでも須恵器の杯は、各住居跡より出土しており形態差が割合と明確であることからこれを主とし、県内の今までの発掘調査の成果を参考に下川田平井遺跡の集落跡の変遷について考えてみた。

住居跡から出土した須恵器杯は、次のA～Eの5形態に分類できる。

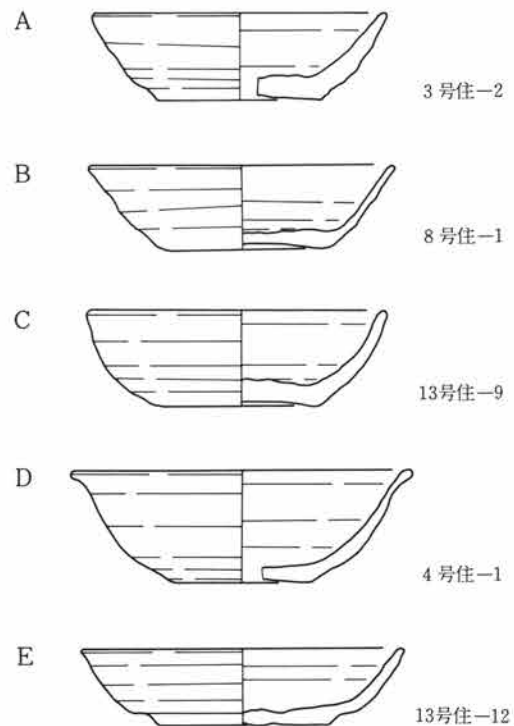
A. ロクロ成形で底部は回転糸切りにより、口縁部は直線的に開き、口唇部が外傾する。口径は11.4～12.4cmで底径/口径比57～63とやや大きい値である。

B. ロクロ成形で底部が回転糸切りにより、口縁部は直線的に開く。口径は11.0～13.8cmで12cm代が多く、底径/口径比は49～58である。

C. ロクロ成形で底部は回転糸切りにより、口縁部がBに比べて若干の丸みをもち開く。口径は11.3～13.2cmで底径/口径比は53～57である。

D. ロクロ成形で底部が回転糸切りにより、口縁部は丸みをもって開き、口唇部は外反する。口径は12.8～15.6cmであるが13cm前後と15cm代の大小がみられ、底径/口径比は小が42、大が48～51である。

E. ロクロ成形で底部が回転糸切りにより、口縁最下部が絞り込まれ、口縁部は直線的に開く。口径は10.8～12.8cmで底径/口径比は42～61である。



第270図 須恵器形態図

## 2. 下川田平井遺跡の集落跡について

各住居跡から出土した杯の形態をみると下記のようになる。

3号住居跡 A形態、4号住居跡 D形態

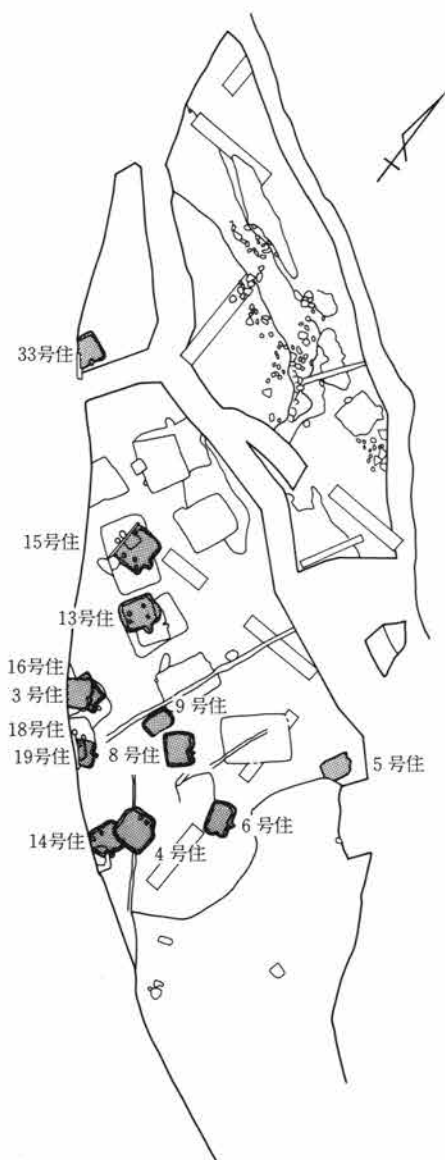
8号住居跡 B形態、13号住居跡 B・C・E形態

14号住居跡 B形態(口唇部が若干外反)

15号住居跡 A・B・C形態、16号住居跡 A形態

19号住居跡 D形態

以上のように3号住居跡、16号住居跡では、A形態、8号住居跡、13号住居跡、14号住居跡、15号住居跡ではB形態、4号住居跡、19号住居跡ではD形態が主体を占めている。



第271図 平安時代住居跡配置図 (S=1:1,000)

また、各住居跡の煮沸具をみると杯のA形態と供伴する煮沸具は、やや「コの字」状を呈しはじめた土師器甕とである。B形態の杯と供伴する煮沸具は、「コの字」状および「コの字」状の形態の崩れた土師器甕とである。D形態と供伴する煮沸具は、羽釜が主体を占めている。

このような須恵器杯の形態や供伴する煮沸具からA→B→D形態の流れが考えられ、これに重複関係を加味してみると下記のような住居跡の変遷が想定される。

- 16号住居跡
- 3号住居跡
- 8号、13号、14号、15号、33号住居跡
- 5号、6号住居跡
- 4号、19号住居跡
- ↓
- 18号住居跡

このような住居跡の変遷が想定されるが、重複関係をもたない住居跡ではある期間の併存は考えられる。以上のように下川田平井遺跡での集落は、調査区南側の未調査区に若干の住居跡が存在したとしても同時に存在した住居跡は数軒でしかなく小規模な集落であった。

### 参考文献

- 杉原莊介「上野樽遺跡調査概報」『考古学』10-10 1939
- 井上唯雄・柿沼恵介「入門講座弥生土器-関東 北関東3-」『考古学ジャーナル』143 1977
- 三宅敦気・相京健史「樽式土器の分類-榛名山東南麓を中心として-」『彌生終末期の土器 四世紀の土器』第3回三縣弥生時代シンポジウム資料 1982
- 飯島克巳・若狭 徹「樽式土器編年の再構成」『信濃』40-9 1967「十二原遺跡・大原遺跡・前中原遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
- 「城平遺跡 諏訪遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
- 「石墨遺跡」沼田市教育委員会 1985
- 「三後沢遺跡 十二原Ⅱ遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
- 「師遺跡 鎌倉遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
- 「門前橋詰・舛海戸 高野原遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
- 「月夜野古窯跡群」月夜野町教育委員会 1985
- 「藪田遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985
- 「大原Ⅱ遺跡 村主遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
- 「戸神諏訪遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990

### 3. 下川田平井遺跡の水田跡について

下川田平井遺跡では、利根・沼田地方で初めての水田跡が検出された。

水田跡は、県南部では1973年に大八木遺跡でAs-B層下で水田跡が発見されて以来、1976年には日高遺跡でAs-B、As-C層下で、そして1978年の同道遺跡でAs-B、FP、FA、As-C層下の4期の水田跡が検出された。それ以後、県南部を中心に各地から浅間山、榛名二ツ岳から噴出されたテフラ層下から水田跡が検出された。利根・沼田地方では、今までAs-B、FPのテフラ層は、沼田台地の南部や三峰山西部の利根川河岸段丘で確認されているものの今まで水田跡は検出されなかった。

下川田平井遺跡では、第5章4項の記載のように五反田地区でAs-B層下、氾濫層のIVa層下、FP層下の3期の水田跡が検出され、平井地区1区～4区でAs-B層下、FP層下の2期の水田跡が検出された。各水田跡は、水田域の部分的な調査でしかなかったが、各水田域は地形の影響を受け平井地区1区、2区～4区に見られるように水田域1面づつが棚田を構成している。

各水田域内部においても2.3～5.9%と多少の傾斜をもつため、内部の区画は全体的に小規模区画になっている。各区画の面積も各地区や各水田面によって多少の差がみられるが、As-B層下水田跡は平均3.5㎡～9.2㎡、IVa層下水田跡は9.1㎡、FP層下水田跡は4.0㎡～6.5㎡であるが、平井地区に比べて五反田地区のほうが水田域の傾斜がやや緩いためか1区画の面積がやや広い傾向がある。

水田跡への取水は、平井川は急流すぎるためか五反田地区、平井地区とも現在は用水路化している小規模な沢(調査区内の埋没沢)からで、この沢も急斜面から緩斜面に移行した所を利用している。

以上のような発掘調査の所見から水田域の推定と遺跡周辺での水田耕作がおこなわれた可能性のある箇所を想定すると第272図のような範囲・箇所がある。

五反田地区は、調査区の東側は段丘崖で西、北側

は埋没沢になっており、水田域の広がりには南側の緩斜面に想定され、沢よりの取水が現在の道路付近に想定されることから取水付近の南側にみられる現水田の段の下位で発掘調査で検出された面積と同規模の広がり(A)が想定される。

平井地区1区は、発掘調査がおこなわれたのが水田域の極狭い範囲でしかなかったが、西側は平井地区2区～4区との段によって区画され、東側は現水田も比高差1mほどの棚田になっている幅約25mの範囲(B)が想定される。

平井地区2区～4区は、南側を平井川、北側を平井7区が立地する平井4面の崖、東側を平井地区1区との段によって区画されており、水田域の範囲は西側へ広がる。その広がりには、平井の集落が存在する平井3面の崖下付近まで(C)が想定される。

以上が発掘調査で検出された水田跡の想定範囲であるが、このほか発掘調査での水田跡地域と同様な傾斜の斜面で取水可能な沢を考慮して水田域を想定すると平井地区1区の東側に現地表面では0.2%と非常に傾斜の緩い地域が長さ約110m、幅18～25mほど広がっており(D)水田域としては適している。

また、平井7区の西側、平井3面との間の谷も開析当初は、3～5mのV字谷であったようであるがその後の堆積で埋没し、1.3%ほどの緩い傾斜が幅20～30mで長さ60～70mほどみられ、この地域(E)も水田域としては適している。

このほか五反田地区の西側も約6%ほどの傾斜で水田域として可能な地形であるがF地点の試掘調査では水田跡および水田耕作土は確認されなかった。水田域の範囲は上記のような想定がなされるが、この水田域の耕作をおこなった集落については、発掘調査では平井7区で古墳時代後期の住居跡が1軒と9世紀から10世紀代の住居跡が13軒検出されただけでFPで埋没した水田跡やその後のAs-Bで埋没した水田跡に伴う集落の存在は現在の平井の集落が位置する地域に想定される。



第272図 水田跡周辺地形 (S=1:2,000)





# 第7章 鑑定・分析

## 1. 下川田下原遺跡出土人骨

群馬県立大間々高等学校教諭 宮崎 重雄

下川田下原遺跡は群馬県沼田市下川田下原にあり、径0.87×0.59mの卵形をした墓坑から一体の人骨が出土した。この人骨は、室町時代のもと考えられ、保存はきわめて不良であるが、頭蓋骨、椎骨、肩甲骨、大腿骨、脛骨などの一部が保存されており、各破片の埋存状況から、頭部を北に顔を西にして下肢を屈曲させ横臥姿勢で埋存していたと推定される。

下顎の歯で残存しているのは左第二大臼歯<sup>1)</sup>のみであり、これより近位の左下顎骨は欠損していて、その様子が不明であるが、これより遠位側の下顎骨には歯槽は存在せず、歯槽骨の収縮が起こっている。右では、下顎体の一部が遠心端から小白歯あたりのところまで残っている。歯槽は一つもなく、小白歯より遠位の歯は生前に脱落していたことを示している。おそらく下顎では歯は一本しか残ってなく、他は生前に脱落していたものと思われる。

頭蓋骨片で見ると、乳様突起の発達は良く、外後頭隆起の発達は比較的良好で、内外径も大きく18mmを計測できる。また、出土状況を示す写真から判断すると前額部は後方に傾斜し、眉弓の隆起も比較的強く、男性を思わせる。

下顎の第二大臼歯<sup>1)</sup>には、大きい近心側歯根と小さい遠心側歯根の2根があるが、近心側の歯根根尖端には、互いに3.0mmはなれた2個の根尖孔が観察され、2根の癒合根であることを示している。また、遠心側歯根根尖にも互いに1.1mmはなれた根尖孔が2個存在する。下顎の臼歯の歯根は通常、近心根・遠心根2根であるが、この歯はきわめて例外的な4根性の歯である。咬耗は顕著に進み、各咬頭には象牙質が大きく露出し、遠心辺縁隆線部のエナメル質を欠いている。舌側歯頸部から歯根部にかけて4.0

×4.1mmの径をもつC3段階の齶蝕がある。

上顎では、左が第二大臼歯、第三大白歯、右が中切歯、第一小白歯<sup>1)</sup>、第二小白歯<sup>1)</sup>、第一大臼歯、第二大臼歯の7本の歯が確認されている。右上顎中切歯は切縁と近心辺縁隆線が極度に摩耗し、象牙質が大きく露出している。近心側では象牙質の露出が歯頸部まで達している。右<sup>1)</sup>第一小白歯は咬合面全面に象牙質が大きく露出し、近心辺縁のエナメル質は咬耗で失くなっている。近心歯頸部にC3段階の齶蝕による孔が開いており、その径は3.0×1.6mmである。右上顎側切歯は浅い歯槽だけが残り、生前に脱落していたか、植立していたにしても不安定な状態であったことを示している。犬歯該当部は歯槽骨の頬舌径が極めて薄くなっていて、生前に脱落していた様相を呈している。右<sup>1)</sup>上顎第二小白歯は頬側咬頭に象牙質が露出し、咬合面の溝の発現型は上条<sup>1)</sup>の分類によるU型の型である。現代人の上顎第二小白歯におけるU型の発現率は上条<sup>1)</sup>によれば12.6%である。右上顎第一大臼歯は咬耗が著しく進み、咬合面の全面に象牙質が露出し、近心側は歯頸部まで象牙質が露出し、近心辺縁隆線は象牙質の稜になっている。このような異常咬耗のため歯冠形態の詳細を知ることができない。近心側歯頸部に径1.7×1.7mmのC2段階の小さい齶蝕がある。右上顎第二大臼歯も咬合面の全面に咬耗が及んでおり、遠心舌側咬頭に象牙質が露出している。上条<sup>1)</sup>の舌側咬合縁の型は5型で、咬合面隅角部の鈍円化はB2である。頬側から遠心側には歯頸部からさらに4.8mmのところまでの歯根に歯石が付着している。このことは歯が極めて浮いた状態にあり、臨床的歯頸部が、歯尖側に寄った歯根部にあったことを表している。左第二大臼歯は、象牙質の露出はないが、咬耗がほぼ全面に



## 2. 下川田下原遺跡出土馬骨

群馬県立大間々高等学校教諭 宮崎 重雄

下川田下原遺跡は群馬県沼田市下川田下原にあり、中世に構築された溝状遺構から近世のものと思われる馬骨が出土した。2つの馬の頭蓋骨があり、それとは別個体の上顎切歯の集合体があって、埋存していたのは少なくとも3個体である。伴出した四肢骨・体幹骨による個体数の算出でも、少なくとも3個体埋存したことを示している。これらの頭蓋骨は、ほぼ等間隔に東西方向にならんでおり、西に幼令馬、中央に壯令馬、東に幼令馬の集合体という順である。この順で、1号馬、2号馬、3号馬と呼ぶことにする。伴出した多数の四肢骨・体幹骨は、部分的に解剖学的位置を保ち、関節した状態のものもあるが、ほとんどは混然としており、それぞれの体幹骨・四肢骨がどの頭蓋骨に属しているのかは正確には読み取れない。埋葬されたのであれば、後世になんらかの事情で掘り返されて、当初の解剖学的位置を攪乱されたか、さもなければ、食用に解体され、食糧残滓としてここに捨てられた可能性が考えられるが、明確に解体痕といえるような痕跡は見い出されていない。

### 1号馬

1号馬の頭蓋骨は、鼻先を南南西方向に、後頭部を北北東に向け、左側を上に向けて横たわっていた。下記のように1号馬は歯の萌出状況から1.5～2才と推定される個体である。この年齢では、指骨を除いて、ほとんどの骨が癒合を完了してないか、癒合しつつある段階にあるはずである。頭蓋骨の北側には四肢骨、体幹骨の集合体があるが、ほとんどの骨が癒合を完了しており、全出土骨の中でも、骨端の癒合してない四肢骨は、近位・遠位骨端の離脱した右橈骨と近位骨端の離脱した左中手骨（遠位骨端は破損のため癒合状況は不明）の存在をわずかにみるのみである。この2点は1号馬のものともて間違いないと思われるが、四肢骨、体幹骨の癒合年齢の個体差を見込んで、1号馬の周辺の四肢骨の多くは、

1号馬のものであるとは確定できない。

性別：不明

馬では、性別の判断基準とされる犬歯の萌出が4～5才であるが、本個体ではまだ萌出を見ないので、性別は不明である。

年齢：1.5～2才

上顎には、左右とも、第二前乳臼歯、第三前乳臼歯、第四前乳臼歯が植立しており、第一後臼歯は萌出したばかりで、わずかに咬耗しているだけである。第一後臼歯の咬合面付近は歯冠部が朝顔型に咬合面側に広がり、特に歯冠近遠心径が大きくなっている。第二大臼歯は咬頭の一部が最高部で2mm歯槽縁から顔を出している。下顎の歯の萌出状況も上顎とほぼ同じである。このような歯の萌出状況から上記の年齢を推定した。

上顎には、左右とも第一前臼歯（狼歯）が植立している。

### 2号馬

2号馬の頭蓋骨は、鼻先を東北東に、後頭部を西南西に向け、右を上に向けて横たわっていた。右中手骨を上顎臼歯・下顎臼歯の間に挟み、見かけ上は噛んでいるような状態で出土した。中手骨の近位側、遠位側に関節していたはずの指骨や足根骨、脛骨が隣接していないので、この中手骨はなんらかの事情により単独でこの位置におさまったものと信じられる。

性別：雌

マッチ棒程の大きさの犬歯が植立していることから雌と判断した。犬歯の大きさには性差が顕著に現れ、雄の大きさが小指ほどであるのに比べると、はるかに小さく、本個体が雌であることは明らかである。

年齢：9才

この個体は上顎・下顎とも切歯が完存し、切歯の咬合面の咬耗程度が詳しく観察された。Goubax. &

Barrier<sup>1)</sup>の咬耗度に照合すると9才に相当する。

上顎には、右第一前臼歯(狼歯)が植立しており、左にも第一前臼歯(狼歯)歯槽が観察される。

### 3号馬

上顎切歯の集合体として確認された個体である。頭蓋骨は腐食してしまったにしても、切歯よりむしろ残しやすい臼歯がなぜ存在しないのか、またなぜ上顎切歯だけなのか疑問である。上顎の顎先だけが切りはなされて持ち込まれたのであろうか。

性別：不明

犬歯は検出されてない。上述のように犬歯の萌出は4~5才で、本個体ではまだ萌出年齢に達していないからであろう。このため、性別を判断する手掛かりを欠く。

年齢：上顎切歯の咬合面の咬耗度により<sup>1)</sup>3.5才と推定した。

### 体高について

日本の在来馬には木曾馬(124~142cm：平均135cm)、北海道和種(125~141cm：平均132cm)、御崎馬(125~138cm：平均132cm)などの中型馬と、トカラ馬(108~121cm：平均115cm)などの小型馬<sup>2)</sup>がある。

遺跡出土の馬骨の体高を推定するには、通常林田<sup>3)</sup>ほかの体高推定式を使う。本遺跡で体高推定の基本データである全長の測定できた部位は、右中手骨2、左脛骨3、右脛骨1、右中足骨1、1号馬の頭蓋骨である。最多の個体数を示す左脛骨を基に、体高を推定して見ると、小さい方から、120.5cm、124.7cm、133.7cmの値が得られ、前者が在来馬の小型馬に相当し、後二者が中型馬に相当している。ただし、これらの体高が、1号馬、2号馬、3号馬のどの体高を示しているのかは分からない。

参考のため他遺跡出土の馬の体高を示すと、群馬県藤岡市上栗須遺跡の江戸時代馬は、27頭分が出土しており、その平均体高は126.4cm<sup>4)</sup>で、鎌倉市材木座出土の鎌倉時代馬の平均体高は129cm<sup>5)</sup>である。

### 個体数について

脛骨には、右側が1本(No.13)含まれるが、左

側のものが3本(No.9、No.14、No.17)あり、このうちNo.13とNo.17は同一個体である可能性が強く、脛骨は少なくとも3個体に由来している。Silver<sup>6)</sup>によれば、脛骨の近位端、遠位端の癒合年齢はそれぞれ、3~3.5才、20~24か月とされている。頭蓋骨のうち最年少の1号馬は推定年齢が1.5~2才で、脛骨の骨端の癒合年齢にはまだ達していない。このことは上記の3個の左脛骨はいずれも1号馬とは別のものである可能性もある。しかし、出土した頭蓋骨(切歯の集合体)の数と左脛骨の数がともに3個体分であることは、脛骨の遠位端の癒合年齢に多少の個体変異を見込めば、出土馬骨の個体数を3と見ることにも可能である。ただし、どの脛骨も、中手骨と中足骨の割りに全長が大きく、個体数を3とした場合、この事実は下川田下原遺跡出土の馬に特有な形態を理解するしかない。ちなみに中手骨、中足骨から体高を算出すると、前出のものより小さくなり、中手骨からは114.2cm、117.0cm、右中足骨から115.5cmの体高が得られ、いずれも小型在来馬相当になってしまう。

### 比較考察

個体数産出基準となった脛骨の全長を日本の現生在来馬のそれと比較してみると、No.14は木曾馬とトカラ馬の中間にあり、No.9はほぼトカラ馬に等しく、No.13(No.17と同一個体の可能性大)はトカラ馬と野間馬の中間にある。しかし最大長の大きさの割りに、近位骨端最大幅、骨体最小幅は小さく、全体としてほっそりした脛骨であることを伺わせている。

いずれにしても、脛骨の計測値では木曾馬を凌ぐものはないが、頭蓋骨で見ると2号馬のいわゆる口の幅、第一後臼歯前外縁の下顎高はわずかながら木曾馬を上回っている。2号馬の下顎結合幅はその割りに小さい。多少吻部の細めの馬であったのであろう。また、1号馬の頭蓋最大長は木曾馬とトカラ馬の中間にあるが、眼窩最大高がどの在来馬よりも小さいのは特筆に値する。

1号馬、2号馬とも上顎に第一前臼歯(狼歯)を

認めたことは、この遺跡出土の馬の原始性を表しているものと思われる。

引用文献

- Goubax, A. and Barrier, G. (1892). *The exterior of the horse*. Lippincott., Philadelphia.
- 林田重幸(1978)、「日本在来馬の系統に関する研究」、日本中央競馬会。
- 林田重幸・山内忠平 (1957)、馬における骨長より体高の推定法、鹿児島大学農学部学術報告、6、146-156。
- 宮崎重雄 (1989)、上栗須遺跡の馬骨、「上栗須遺跡」、群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団、655-673。
- 林田重幸 (1957)、中世日本の馬について、日本畜産学会報、28、301-306。
- Silver, I.A. (1963). The aging of domestic animals, *In Brothwell & Higgs, eds, Science in archaeology*, 283-302. Thames and Hudson.
- 大塚岡一・広田桂一・松元光春・橋口 勉 (1975)、野間馬の形態、「野間馬に関する学術調査報告書」、日本馬事協会、10-15。
- Duerst, J.U. (1926). Vergleichende Untersuchungsmethoden am Skelettbei Saugern.

中手指	右	右
1. 最大長	190.4	194.2
10. 近位関節面の最大幅		29.5
11. 骨体最小幅	29.3	
20. 骨体最小径	22.6?	23.8

大腿骨	No.3
	左
1. 最大長	271.0+
16. 骨体最小幅	33.1
28. 骨体最小径	44.2

脛骨	左	右	左	左
	No. 9	No.13	No.14	No.17
1. 最大長	321.0	319.2	335.5+(4e)	313.0
3. 内側の長さ			310.8	289.1
4. 外側の長さ			313.3	
5. 中央軸の長さ		303.4	317.8	294.4
6. 近位骨端の最大幅		77.8	83.0	71.1
7. 近位関節面の最大幅				69.0
9. 骨体の最小幅	33.9		37.3	31.6
13. 骨体の最小径	24.3			22.7
14. 遠位骨端最大径			44.1	37.4
27. 骨体中央周	99.0	92.0	108.0	93.0
28. 骨体最小周	98.0	91.0	106.0	91.5

第12表 馬骨計測値一覧 (単位: mm, e: 推定値)

頭蓋骨の計測値			
頭骨	1号馬	2号馬	
2. Vertex の長さ	510.6		
13. Orbita の水平長径	55.7		
2. いわゆる口の幅		69.8	
4. 鼻骨幅 (前部)		46.6	
19. 口蓋の幅 (1)	61.0	61.3	
20. 口蓋の幅 (2)	94.0	121.0	
4. Os nasale 先端の高さ		142.0	
5. Incisula nasomaxilaris 最後点の高さ		159.0	
4. 第二前臼歯における垂直高	76.0		
5. 第四前臼歯-第一後臼歯境界部における垂直高	93.0		
10. Orbita の垂直高	47.2		
下顎骨			
	1号馬	2号馬	
2. Diastema (槽間縁) の長さ		84.1	
4. Symphysis (下顎間軟骨結合) の長さ		81.6	
6. 下顎体の長さ		27.3	
9. 下顎骨前部の長さ		103.5	
10. 下顎骨中部の長さ		164.4	
2. 下顎骨軟骨結合の最大幅		62.6	
2. 下顎骨軟骨結合の最小幅		36.2	
3. 第二前臼歯間の幅		39.3	
4. 第四前臼歯-第一後臼歯境界部間の幅		54.0?	
10. 下顎三角の最大幅	12.9		
1. 筋突起の高さ	161.0		
4. 第二前臼歯の高さ	43.3	54.1	
5. 第四前臼歯-第一後臼歯境界部間の高さ		78.0	

距骨	No.17	No.19
	左	右
1. 外側長	47.4	48.0
2. 内側長	50.5	50.2
3. 滑車最大長		31.3
6. 最大幅		52.6

中足骨	No. 2	No.19
	左	右
1. 最大長	201.0+	232.0
3. 生理的長さ		231.0
9. 近位端最大幅		41.8
10. 近位関節面最大幅		27.0
11. 骨体最小幅	22.0	
14. 遠位端最大幅		43.6
19. 近位関節面最大径		40.0
20. 骨体最小径		21.6

基節骨	No.3	No.5	No.15	No.18
1. 最大長	74.0	67.0+(3e)	66.6+	69.0+
6. 骨体最小幅	30.4	26.6	26.6	28.8
7. 骨端遠位部の最大幅	39.7	39.2	39.2	39.5
8. 遠位関節面の最大幅	37.6	53.3		36.2

中節骨	No.2	No.14
1. 最大長	40.0	40.2
4. 近位端最大幅	44.1	44.1
6. 骨体最小幅	36.0	35.8
8. 遠位関節面の最大幅	38.4	38.0

以上の頭頸骨・四肢骨の計測法は、Duerest<sup>8)</sup>によった。

第7章 鑑定・分析

1号馬白歯計測値

上顎白歯						
歯種	歯種	第二乳前白歯	第三乳前白歯	第四乳前白歯	第一後白歯	第二後白歯
歯冠長	咬合面	37.4	27.4	27.0	28.9	24.8
歯冠幅	咬合面	20.3	22.5	23.1	23.8	
原錐幅	咬合面	7.7	8.5	9.3	11.0	
歯冠高	頰側	11.1	9.4	11.2	68.0	63.7+

下顎白歯

歯種	歯種	第二乳前白歯	第三乳前白歯	第四乳前白歯	第一後白歯
歯冠長	咬合面	31.4	27.5	30.5	31.0
歯冠幅	前葉咬合面	11.0	12.5	12.4	10.5
	後葉咬合面	12.5	13.5	13.0	10.4
歯冠高	頰側	9.2			
下後錘谷長		8.0	9.3	10.1	10.3
下内錘谷長		15.4	10.2	11.9	12.9
double knot長	咬合面	15.2	15.9	15.7	14.2
下内錘幅		6.5	5.7	4.7	4.2

2号馬白歯計測値

左上顎白歯						
歯種	第二前白歯	第三前白歯	第四前白歯	第一後白歯	第二後白歯	第三後白歯
歯冠長	咬合面	34.5	26.0	25.5	23.0	21.7
歯冠幅	咬合面	22.6	25.3	24.3	23.7	23.4
原錐幅	咬合面		11.2	13.1	12.1	12.7
歯冠高	頰側					21.7

下顎白歯

歯種	第二前白歯	第三前白歯	第四前白歯	第一後白歯	第二後白歯	第三後白歯
歯冠長	咬合面	31.1	27.0	25.8	23.6	23.6
歯冠幅	前葉咬合面	11.1	14.7	14.7	13.1	11.7
	後葉咬合面	13.4	14.9	14.6	12.6	12.4
下後錘谷長		7.5	9.5	9.1	8.4	8.2
下内錘谷長		15.0	11.7	11.0	8.6	9.4
double knot長	咬合面	13.6	16.2	14.0	12.7	11.3
下内錘幅		6.1	6.0	5.3	4.5	4.3

上顎全白歯列長：157.0mm（咬合面）

下顎全白歯列長：159.5mm（咬合面） 167.6mm（歯頸面）

2号馬切歯計測値

上顎切歯						
	左			右		
	第三切歯	第二切歯	第一切歯	第一切歯	第二切歯	第三切歯
歯冠長	16.3	16.3	15.6	16.5	18.0	18.3
歯冠幅	9.5	10.9	10.7	10.4	10.1	8.7

下顎切歯

	左			右		
	第三切歯	第二切歯	第一切歯	第一切歯	第二切歯	第三切歯
歯冠長	16.4	15.1	14.1	14.4	15.5	16.1
歯冠幅	8.8	9.9	9.8	9.3	9.5	9.4

3号馬切歯計測値

上顎切歯				
	左		右	
	第二切歯	第一切歯	第一切歯	第二切歯
歯冠長	19.3	19.6	19.2	19.4
歯冠幅	10.7	9.4	9.2	10.5

頭蓋骨計測値比較表

	1号馬	2号馬	野間馬	トカラ馬	木曾馬
頭蓋最大長	510.6		468.2	471.2	537.1
いわゆる口の幅		69.8	61.4	64.5	68.1
眼窩最大高	47.2		50.7	60.4	58.2
下顎結合部幅		81.6	80.1	79.6	86.5
筋突起垂直高			185.2	201.5	240.2
第一後白歯 前外縁の下顎高	161.0	78.0	70.7	68.7	77.3

全白歯列長比較表

	2号馬	野間馬	トカラ馬	木曾馬
上顎全白歯列長	157.0	153.7	157.5	173.2
下顎前白歯列長	167.0	165.3	163.0	179.9

肩甲骨比較表

	No.19 標本左	野間馬	トカラ馬	木曾馬
肩甲骨最小長	57.9	47.4	54.8	60.7

中手指比較表

	下川田右	下川田左	野間馬	トカラ馬	木曾馬
最大長	190.4	194.2	183.2	200.1	223.6

大腿骨比較表

	No.3 標本左	野間馬	トカラ馬	木曾馬
骨体最小幅	33.1	28.6	34.3	44.3

脛骨比較表

	No.9標本左	No.13標本右	No.14標本左	No.17標本左	野間馬	トカラ馬	木曾馬
最大長	321.0	319.2	339.5e	313.0	290.2	321.3	348.9
近位骨端最大幅		77.8	83.0	71.1	78.7	85.4	94.2
骨体最小幅	33.9		37.3	31.6	30.8	36.3	39.3

以上の比較表の日本在来馬の計測値は大塚<sup>7)</sup>から引用した。

### 3. 下川田平井遺跡出土材の樹種同定

藤根 久(パレオ・ラボ)

#### 1. はじめに

下川田平井遺跡、沼田市下川田町平井に所在する。ここでは、出土した生材の樹種を検討する。

#### 2. 方法と記載

試料は群馬県埋蔵文化財調査事業団において、プレパラートの作成が行われた。これら標本は、光学顕微鏡下で40~400倍の倍率で観察した。樹種の同定は、現生標本との比較により行う。以下に、標本の記載及び同定の根拠をのべる。表1にその結果を示す。参考として、材組織の記載中の主な用語については、図1および図2にその概略を示す。なお、同定に使用したプレパラートは、群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管してある。

イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K.Koch イヌガヤ科 P L151-1 a~1 c、試料番号2.

垂直および水平樹脂道を欠く針葉樹材である。早材部から晩材部への移行は緩やかである。仮道管の大きさとその配列は乱雑で、晩材部はわずかである(横断面)。仮道管内壁にはらせん肥厚がほぼ水平に走る。放射組織は、柔細胞からなり単列で1~8細胞高である(接線断面)。また、その分野壁孔はトウヒ型で1分野に1~2個存在する(放射断面)。

以上の形質から、イヌガヤ科のイヌガヤの材と同定される。イヌガヤは、樹高10m、幹径30cmに達する常緑針葉樹で、東北地方以南の暖温帯におもに分布する。

コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 P L153-9 a~9 c.

年輪のはじめに大型の管孔が1列に並び、そこから径を減じた小管孔がやや火炎状に配列する環孔材である(横断面)。放射組織は単列同性のものと集合放射組織からなる(接線断面)。大管孔の内腔には、チロースがあり著しい。また、木部柔組織は短接線状に配列する。道管のせん孔は単一である(放射断面)。

以上の形質からブナ科のコナラ属コナラ節の材と同定される。コナラ節の樹木には(*Q. serrata*)やミズナラ(*Q. mongolica* var. *grosseserrata*)、カシワ(*Q. dentata*)、ナラガシワ(*Q. aliena*)などがあるが、現在のところこれらを識別するには至っていない。いずれの樹木も樹高20m、幹径1mを超える落葉広葉樹で、温帯から暖帯にかけて広く分布する。

ムクノキ *Aphananthe aspera* ニレ科 P L151-3 a~3 c.

小型の管孔が単独または放射方向に2~3個複合して散在する散孔材である。木部柔細胞は帯状である(横断面)。放射組織は、異性1~5細胞幅、2~30細胞高である(接線断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。

以上の形質から、ニレ科のムクノキの材と同定される。ムクノキは暖帯から亜熱帯にかけて分布する落葉広葉樹である。

ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 P L152-4 a~4 c.

第13表 下川田平井遺跡出土材の樹種

試料No.	樹種
1	ケヤキ(ニレ科)
2	ク
3	ク
4	ク
5	カツラ属(フサザクラ科)
6	ク
7	カエデ属(カエデ科)
8	カツラ属(フサザクラ科)
9	ヤマグワ(クワ科)
10	モクレン属(モクレン科)
11	ケヤキ(ニレ科)
12	コナラ属コナラ節(ブナ科)
13	ムラサキシキブ属(クマツヅラ科)
14	ムクノキ(ニレ科)
15	イヌガヤ(イヌガヤ科)

## 第7章 鑑定・分析

年輪のはじめに大型の管孔が単独ないし2列に並ぶ、夏材部では小管孔が2~11程度集合して接線方向ないしはやや斜めに配列する環孔材である(横断面)。放射組織は、異性で1~7細胞幅、3~31細胞高から構成され、大型の結晶が見られる(接線断面)。道管のせん孔は単一で、小管孔の内壁にはらせん肥厚が明瞭に認められる(放射断面)。

以上の形質から、ニレ科のケヤキと同定される。ケヤキは樹高35m、幹径2mに達する落葉広葉樹で、温帯から暖帯にかけて分布する。

ヤマグワ *Morus bombycis* Koidz. クワ科 P L 152-5 a~5 c.

年輪のはじめに大型の管孔が数列並び、そこから径を減じた小管孔が夏材部で接線方向に数個複合して分布する環孔材である。木部柔組織は周囲状である(横断面)。放射組織は異性で、1~6細胞幅、3~27細胞高である(接線断面)。

道管のせん孔は単一で、小管孔の内壁にはらせん肥厚が見られる(放射断面)。

以上の形質から、クワ科のヤマグワの材と同定される。ヤマグワは、樹高12m、幹径60cmの落葉広葉樹で、温帯から亜熱帯にかけて広く分布する。

モクレン属 *Magnolia* モクレン科 P L 152-6 a~6 c.

小型の管孔が単独または放射方向に2~4個複合して散在する散孔材である(横断面)。放射組織は、異性で1~3細胞幅、5~18細胞高であり、両端部では軸方向にやや長く延びている(接線断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。

以上の形質から、モクレン科のモクレン属の材と同定される。モクレン属の樹木には、ホウノキ(*M. obovata*)やコブシ(*M. kobus*)などがあり、温帯から暖帯にかけて広く分布する。

カツラ属 *Cercidiphyllum* カツラ科 P L 153-7 a~7 c.

丸い小型の管孔が単独または放射方向もしくはやや斜めに2個複合して散在する散孔材である(横断面)。

放射組織は、異性で1~2細胞幅、5~26細胞高で、単列部と多列部が交互状を呈している。

道管のせん孔は、28本前後の横棒からなる階段状である(放射断面)。

以上の形質から、カツラ科のカツラ属の材と同定される。カツラ属の樹木には、温帯に分布するカツラ(*C. japonicum*)と亜高山帯に分布するヒロハカツラ(*C. magnificum*)とがある。

ムラサキシキブ属 *Callicarpa* クマツヅラ科 P L 153-8 a~8 c.

やや大型の丸く厚壁の管孔が単独もしくは2~5個複合して散在する散孔材である(横断面)。放射組織は異性で1~3細胞幅、3~33細胞高以上である(接線断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。

以上の形質から、クマツヅラ科のムラサキシキブ属の材と同定される。ムラサキシキブ属の樹木にはムラサキシキブ(*Callicarpa japonica*)やヤブムラサキ(*C. mollis*)などがあり、いずれも樹高3m程度の落葉広葉樹で、本州、四国、九州に分布する。

カエデ属 *Acer* カエデ科 P L 153-9 a~9 c.

小型の管孔が単独または放射方向に2~3個複合して散在する散孔材である。木部柔細胞は帯状の特徴的な模様を呈する(横断面)。放射組織は、ほぼ同性で1~6細胞幅、2~42細胞高である(接線断面)。道管のせん孔は単一である(放射組織)。

以上の形質から、カエデ科のカエデ属の材と同定される。カエデ属の樹木には、ハナノキ(*A. pycnanthum*)やイタヤカエデ(*A. miyabei*)など多くの種がある。



## 4. 下川田平井遺跡出土炭化材樹種同定

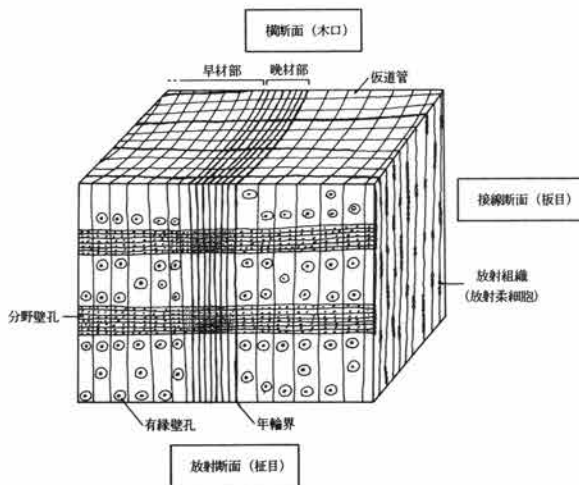
藤根 久 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

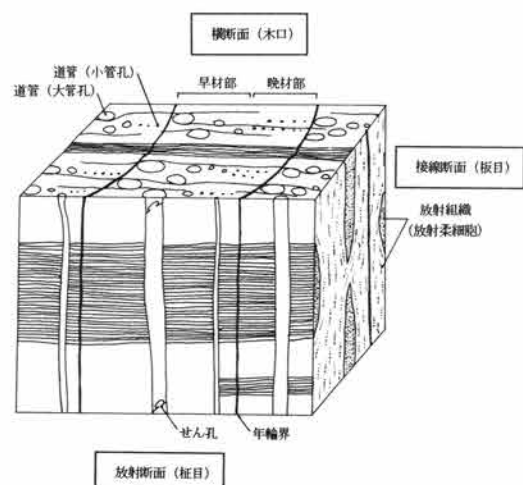
下川田平井遺跡は、沼田市下川田町平井に所在し、利根川の右岸に発達する段丘上に位置する。当遺跡からは、弥生時代や平安時代の住居跡などが検出されている。これらの中には、焼失時の炭化材が比較的良好な状態で検出されている住居跡がある。これら炭化材の多くは当時の住居の建築部材である可能性が考えられることから、ここでは、これら炭化材の樹種について検討する。

### 2. 方法と記載

各住居跡から取り上げられた炭化材は、始めに実体顕微鏡下で主に横断面(木口)を中心に組織的特徴に基づいて分類する。この段階において、同定可能なものについてはその代表的試料について、また電子顕微鏡を用いて観察しないと同定出来ない炭化材はすべての試料について、それぞれカミソリ刃などを用いて横断面(木口と同義)、接線断面(板目と同義)、放射断面(柁目と同義)の3断面を作成する。これら試料は直径1cmの真鍮製試料台に固定、金蒸着を施した後、走査電子顕微鏡(日本電子(株)製JSM T-100型)で観察・同定した。なお、樹種の同定は、現生標本との比較により行う。以下に、標本の記載及び同定の根拠を述べる。表1にその結果を示す。参考として材組織の記載中の主な用語については、図1および図2にその概略を示す。



第274図 針葉樹の材組織とその名称(スギ模式)



第275図 広葉樹の材組織とその名称(クヌギ模式)

モミ属 *Abies* マツ科 PL154-1a-1c.

垂直および水平樹脂道を欠き、放射仮道管を欠く針葉樹材で、早材部から晩材部への移行は比較的緩やかである。また、早材部仮道管は大きく薄壁で、晩材部仮道管は厚壁で偏平でかつ狭い(横断面)。放射組織は、柔細胞からなり単列で2~29細胞高である(接線断面)。また、その分野壁孔はトウヒ型で1分野に1~2個存在する。また、放射組織の壁は厚く、じゅず状末端壁を有する(放射断面)。

以上の形質から、マツ科のモミ属の材と同定される。モミ属の樹木には、亜高山帯に分布するシラビソ(*A. veichii*)やオオシラビソ(*A. mariesii*)、暖帯から温帯に分布するモミ(*A. firma*)などがある。いずれも樹高30m、幹径1mに達する常緑針葉樹である。

第7章 鑑定・分析

オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. クルミ科 P L 154-2 a~2 c.

中型の管孔が単独または放射方向に2~3個複合した散在する散孔材である。木部柔組織は、1細胞幅からなる短接線状である(横断面)。放射組織は、異性で1~4細胞幅、4~45細胞高である(接線断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。また道管の内部にはチロースが見られ著しい。

以上の形質から、クルミ科のオニグルミの材と同定される。オニグルミは、全国の温帯から暖帯の谷合や谷に接する緩斜面などに生育する。

カバノキ属 *Betula* カバノキ科

P L 154-3 a~3 c.

やや丸い中型の道管が単独あるいは放射方向に2~4個複合してほぼ均一に散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は12本の横棒からなる階段状のものと単一からなる(放射断面)。放射組織はほぼ同性で1~3細胞幅、3~24細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、カバノキ科のカバノキ属の材と同定される。カバノキ属の樹木には、樹高25m、幹径1mに達するウダイカンバ(*Betula maximowicziana*)や温帯上部に広く分布するダケカンバ(*B.ermanii*)、山地帯の二次林に多いシラカンバ(*B.pltyplla* var.*japoica*)など10種類ほどがあるが、種を識別するには至っていない。

クリ *Castanea crenata* Sieb.et Zucc. ブナ科

P L 155-4 a~4 c.

年輪のはじめに大型の管孔が1~4列並び、そこから徐々に径を減じた小管孔が火炎状に配列する環孔材である。大管孔の内腔にチロースの見られるものもある。また、軸柔組織は短接線状に配列する(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は柔細胞で単列同性であり、ときに2細胞幅で、4~12細胞高である(接線断面)。

以上の形質からブナ科のクリ属クリの材と同定される。クリは全国の暖帯から温帯にかけて分布する落葉広葉樹で、樹高20m、幹径1mに達する。

ケヤキ *Zelkova serrata*(Thunb.)Makino ニレ科 P L 155-5 a~5 c.

年輪のはじめに大型の管孔が単独ないし2列に並び、夏材部では小管孔が2~11程度集合して接線方向ないしはやや斜めに配列する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、小管孔の内壁にはらせん肥厚が

第14表 下川田平井遺跡出土炭化材の樹種

(樹種名の不等号は量比を表す)

試料No.	出土遺構	出土位置	樹種	備考
1	1号住居跡	No.28,31	クリ	弥生
2	〃	No.32	クリ	〃
3	〃	No.3	クリ	〃
4	〃	No.33	クリ	〃
5	〃	No.34	クリ>モミ属	〃
6	〃	No.35	クリ	〃
7	〃	No.36	クリ	〃
8	〃	No.37	クリ	〃
9	〃	No.38	クリ	〃
10	2号住居跡	No.2	クリ=ケヤキ	〃
11	8号住居跡	貯蔵穴	サクラ属	平安
12	10号住居跡		クリ>サクラ属	弥生
13	〃		ケヤキ>カバノキ属	〃
14	11号住居跡		ケヤキ	〃
15	12号住居跡		クリ>ケヤキ	〃
16	〃		クリ	〃
17	〃		クリ>カバノキ属	〃
18	〃	覆土	クリ>カバノキ属	〃
19	15号住居跡		ケヤキ	平安
20	22号住居跡		クスギ節>カバノキ属	弥生
21	〃	No.35	クリ、泥質炭化物	〃
22	〃		散孔材	〃
23	25号住居跡	No.145	クリ>ケヤキ>モミ属	〃
24	〃	No.146	ケヤキ>クリ	〃
25	〃	No.147	クリ>ケヤキ>モミ属	弥生
26	〃	No.148	ケヤキ	〃
27	〃	No.149	クリ	〃
28	〃	No.150	ケヤキ	〃
29	〃	No.151	ケヤキ	〃
30	〃	No.152	ケヤキ	〃
31	〃	No.153	ケヤキ>クリ	〃
32	〃	No.154	ケヤキ>クリ	〃
33	〃	No.155	ケヤキ>クリ	〃
34	〃	No.156	クリ	〃
35	〃	No.158	クリ	〃
36	〃	No.159	ケヤキ	〃
37	〃	No.160	クリ>ケヤキ	〃
38	〃	No.161	ケヤキ	〃
39	〃		ケヤキ	〃
40	〃		ケヤキ	〃
41	32号住居跡	覆土	ケヤキ>クリ>オニグルミ	〃
42	2号集石		ケヤキ	古墳

#### 4. 下川田平井遺跡出土炭化材樹種同定

明瞭に認められる(放射断面)。放射組織は、異性で1～7細胞幅、3～31細胞高から構成され、大型の結晶が見られる(接線断面)。

以上の形質から、ニレ科のケヤキと同定される。ケヤキは樹高35m、幹径2mに達する落葉広葉樹で、温帯から暖帯にかけて分布する。

クヌギ節 *Quercus sect. Aegilops* ブナ科 P L 155-6 a~6 c.

年輪のはじめに大管孔が1～2列並び、そこからやや急に径を減じたやや厚壁の丸い小管孔が放射方向に配列する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、時としてチロースが見られる(放射断面)。放射組織は単例同性のものと集合放射組織のものがある(接線断面)。

以上の形質から、いずれの試料もブナ科のコナラ属クヌギ節の材と同定される。クヌギ節の樹木には関東地方に普通に見られるクヌギ(*Q. acutissima*)と、東海・北陸以西に主として分布するアベマキ(*Q. variabilis*)があるが、識別するには至っていない。

サクラ属 *Prunus* バラ科 P L ナシ

年輪のはじめにやや小型の管孔が並び、数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管は外側に向かって減少する傾向がみられる(横断面)。道管のせん孔は単一で、その内壁にはらせん肥厚がある。道管の内部にはガム状物質が詰まっている(放射断面)。放射組織は同性にちかい異性で、1～3細胞幅、1～30細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、バラ科のサクラ属の材と同定される。日本に分布するサクラ属の樹木には樹高25mに達するヤマザクラ(*Prunus jamasakura*)など数種類あり、暖帯から亜熱帯かけて分布する。木材は堅硬でやや緻密、耐朽性・保存性は高く、加工容易で建築材や家具材、器具、彫刻材など広く用いられる。

散孔材 P L 156-7 a~7 c.

小型の管孔が放射方向に2～5個複合し、これらが接線方向に連続する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、異性で1～3細胞幅、2～27細胞高である。

### 3. 考察

炭化材の樹種を検討した住居跡は、大半が弥生時代のものである。これら住居跡からはクリとケヤキの炭化材が大半を占めている。また1号住居跡ではほとんどクリのみが検出されている。当時の遺跡周辺の植生の概略については、花粉化石の検討が最も有効と考えられるが、場所あるいは地形的に異なるが、例えば高崎市の日高遺跡(群馬県教育委員会ほか、1982)や新保遺跡Ⅱ(群馬県教育委員会ほか、1988)では、クリおよびケヤキいずれも数%の出現である。ケヤキは、山中に群生することがあり、またクリについても果実を食する目的の栽培などによる群生もあることから、必ずしも当時遺跡周辺に少ないとは断言出来ない。しかし、この時代の周辺で最も普遍的に多く検出されるコナラ亜属(コナラ節やクヌギ節)の樹種からなる炭化材が22号住居跡だけで、多くの樹種がクリとケヤキに限定されることから、樹種選択の可能性は否定出来ない。今後、当地域、当時代の正確な植生復元が望まれる。

#### 引用文献

- 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1982)：日高遺跡—関越自動車道(新潟線)地域文化財発掘調査報告書第5集—  
群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1988)：新保遺跡Ⅱ。弥生・古墳時代集落編。—関越自動車道(新潟線)地域文化財発掘調査報告書第18集—

## 5. 下川田平井遺跡より出土した種実類

吉川 純子(パレオ・ラボ)

試料は、現地で取り上げられた11点で、そのうち炭化している種実が2点含まれる。以下に各試料の同定結果を示す。なお、出土層位及び地点に関してはここでは省略する。

- |                          |  |
|--------------------------|--|
| 1. 五反田地区BB-46G・47G 1号埋没沢 | オニグルミ、核(完形1、半分2)                           |
| 2. 五反田地区BB-46G 1号埋没沢FP混土 | トチノキ、果実(破片4)                               |
| 3. 五反田地区1号埋没沢            | トチノキ、果実(破片7)                               |
| 4. 五反田地区1号埋没沢            | トチノキ、種子(完形3)                               |
| 5. 五反田地区1号埋没沢            | トチノキ、種子(完形1)幼果(完形2)<br>ハクウンボク、内果皮(完形1、破片2) |
| 6. 五反田地区1号埋没沢FP混土        | オニグルミ、核(完形2)<br>トチノキ、種子(完形1、破片1)幼果(完形1)    |
| 7. 4号住居跡                 | モモ、核(完形1)                                  |
| 8. 11号住居跡                | モモ、炭化核(破片1)                                |
| 9. 14号住居跡カマド             | モモ、炭化核(破片1)                                |
| 10. 五反田地区As-B層下水田跡       | モモ、核(完形2、半分6、破片5)                          |
| 11. 平井遺跡試堀BY-76G FP下耕土   | オニグルミ、核(半分1)                               |

また、モモ核の完形は3点であつた。以下に長さ、幅、厚さの測定値(mm)を示す。

試料7. 21.3×16.3×12.2 試料10. 25.4×19.1×14.0 試料10. 22.0×16.6×13.6

下川田平井遺跡より出土した種実類は、オニグルミ(*Juglans ailanthifolia* Carr.)、トチノキ(*Aesculus turbina* Blume.) ハクウンボク(*Styrax obassica* Sieb. et Zucc.) モモ(*Prunus persica* Batsch) 4種である。以下に、出土した分類群について、若干の記載を行う。

オニグルミの核は、食痕を有するものではなく、半分の核は縫合線できれいに割れている。オニグルミは沢や川沿いに生育する落葉高木で、そのまま食用とする。

トチノキは、果実に3本の溝が走り、ここで割れ易く、出土したものは全てその部分で割れて破片となっている。幼果としたものは、長さが14mm以下であり、写真のように成熟果がそのまま小さい状態の果実と、やせて厚みがなく3稜が目だつものがある。種子は上下に押しつぶした球形で、ほぼ半分を境に光沢のある黒色の部分と、濃褐色のざらついた部分とに分かれる。下部にせりだした隆起がある。トチノキは沢筋などに生育する落葉高木で、種子はあく抜きをし食用とする。

ハクウンボクも同様に、水域の側などの林の中に生育する落葉樹である。長さ14mmで、エゴノキより大きく、やや光沢がある。上下方向にそれぞれ3本の溝と稜がある。

モモは食用とするため栽培される植物である。核は凸レンズ形で、縫合線がはっきりしており、上下方向にやや長めの深い彫紋が走る。いわゆる古代モモは長さ18mm程度とされており、ここで出土した核はそれよりもやや大きいが、ノモモの30mm前後よりは小さい。

### 参考文献

太田三喜 (1986) 古代遺跡出土の桃核について、考古学と自然科学、No.19:p.85-99

## 6. 下川田平井遺跡のプラント・オパール分析

鈴木 茂(パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

下川田平井遺跡は、沼田市下川田町平井に所在する利根川右岸の段丘面上に位置する遺跡である。この遺跡では、砂質シルトやシルト質粘土が厚く堆積し、時代を特定する浅間B火山灰(As-B) および榛名二ツ岳軽石(FP)が挟在している。なお、この遺跡付近は、最近まで水田として利用されている所である。

ここでは、これら堆積物を対象に、過去水田が行われていたかどうかを検討するために、イネのプラント・オパール分析を行う。

### 2. 試料と各層の特徴

試料を採取した地点は、五反田地区および平井地区3区の2地点である。土層は五反田地区が6層、平井地区3区が7層に区分され、両地点の層相は、近接していることもあって良い対応を示している。両地点のⅢ層はAs-Bで、V層はFPである。

試料は、容量50ccの採土管を用いて、各層ごとにおよそ10cm間隔で採取した。分析した試料は、五反田地区が10点、平井地区3区が16点であり、合計26点である。

両地点の各層の特徴を下位層より順に簡単に記述する。

#### 五反田地区

Ⅵa層：暗灰色を呈するシルト質粘土で部分的に赤褐色を呈す。層厚は42cm以上である。

V層：灰白色を呈する粒径20~30mm程度の軽石からなる層で、FPであり、層厚は14cmである。

Ⅳb層：暗青灰色を呈する軽石混じりのシルトである。軽石は白色を呈し、平均粒径は10mm前後である。

Ⅳa層：暗黒灰色を呈するシルトであり、粒径5~10mmのFPが混じる。下部10cmはやや粘土化している。

Ⅲ層：褐色を呈する粒径1~2mmのスコリヤであり、オレンジ色の軽石が混じる。このテフラはAs-Bテフラであり、層厚は約5cmである。

Ⅱa層：褐灰色を呈する軽石混じりのシルトであり、粒径1~4mmの白色軽石が混じる。また、所々粒径20mm程度の白色軽石が点在する。層厚は約8cmである。

Ⅰb層：黄褐色を呈する軽石混じりのシルトであり、粒径1~4mmの白色軽石が主体で、所々に径20mm前後の白色軽石が混じる。層厚は約12cmである。

Ⅰa層：暗褐灰色を呈する軽石混じりの砂質シルトで、現水田の耕作土である。粒径5~10mmの白色軽石や植物根が混じる。層厚は約17cmである。

#### 平井地区3区

Ⅶ層：青緑色を呈するシルト混じりの砂で、一部暗灰色を呈する。層厚は20cm以上である。

Ⅵ'層：黒灰色を呈する分解質の泥炭質シルトであり、粒径10mm程度の偏平な亜円礫を含む。下部約14cmは青緑色を呈する。層厚は約26cmである。砂礫層は暗灰色を呈し、粒径5~60mmの礫を主体とする。所々、巨礫(径約45cm)を混入する。層厚は約13cmである。

Ⅵ層：上部の黒灰色を呈する砂質シルトと下部の暗黒灰色を呈するシルトよりなり、上部の砂質シルト層中には粒径10mm程度の礫が混入する。また、下部のシルト層中には材や礫が含まれ、最下部はやや砂質となる。層厚は上・下部で約12cmである。

## 第7章 鑑定・分析

- V層 : 全体的に灰白色を呈し、上部は粒径1~2mmの細粒の軽石、下部は粒径10~40mmの粗粒の軽石よりなり、上・下部層で約23cmの層厚を有する。この層はF P (榛名二ツ岳軽石)である。
- IV②層 : 暗黒灰色を呈する軽石混じりの砂質シルトで、粒径1~30mm程度の白色軽石や粒径20mm程度の亜円~亜角礫を含む。層厚は約14cmである。
- IV①層 : 暗黒灰色を呈し、軽石混じりのシルトである。粒径5~20mm前後の白色軽石や長径200mm程度の亜角礫が混じる。層厚は約14cmである。
- III層 : 灰褐色~赤褐色を呈するスコリヤ・軽石層であり、粒径1~2mmが主体である。この層はAs-Bテフラである。層厚は約10cmである。
- II層 : 暗灰褐色を呈する軽石混じりの砂質シルトよりなり、軽石の粒径は5~20mmで、白色を呈する。褐色帯がレンズ状にはいる。層厚は約35cmである。
- I層 : 上部と下部に区分され、下部は黄褐色を呈する軽石混じりの砂質シルトにより構成され、上・下部ともに粒径10~20mmの白色軽石が混じる。また、下部には粒径5~20mm程度の角礫が混じる。上部層は現水田耕作土である。層厚は下部層が約6cm、上部層が約20cmである。

### 4. 分析法

プラント・オパール抽出と定量は、「プラント・オパール定量分析法(藤原, 1976)」をもとに、次の手順で行った。

(1) 試料土の絶乾(105°C・24時間)、仮比重測定。(2) 試料土約1g秤量, ガラスビーズ添加(直径約40 $\mu$ m, 約0.02g)。(3) 電気炉灰化法による脱有機物処理。(4) 超音波による分散(150w・26KHz・15分間)。(5) 沈底法による微粒子(20 $\mu$ m以下)を除去, 乾燥。(6) 封入剤(オイキット)中に分散, プレパラート作成。(7) 検鏡・計数 同定は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパール(以下、プラント・オパールと略す)をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が300以上なるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比重をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。また、この値に試料の仮比重と各植物の換算系数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重, 単位: 10<sup>-5</sup>g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。

換算系数は、イネは赤米, ヨシ属はヨシ, タケ亜科はゴキダケの値を用いた。その値は、それぞれ2.94(種実重は1.03), 6.31, 0.48である(杉山・藤原, 1987)。

### 5. 分析結果

プラント・オパール分析の結果を表1, 表2および図3, 図4に示す。なお、稲作跡の探査が主目的であるため、同定および定量は、イネ, ヨシ属, タケ亜科, ウシクサ族(ススキやチガヤなどが含まれる), キビ族(ヒエなどが含まれる)の主要な5分類群に限定した。

### 6. 考察

#### (1) 稲作の可能性について

水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、イネのプラント・オパールが試料1gあたり約5,000個以上と比較的多量に検出された場合に、その場所で稲作が行われていた可能性が高いと判断している。

現表土では、五反田地区, 平井地区3区の両地点できわめて多量のプラント・オパールが検出され、水田が営まれていたことを示している。また、F P直上層では両地点とも、As-B直上層では五反田地区でそれぞれ稲作の可能性が高いと判断される。したがって、F P直上層では遺跡周辺の比較的広い範囲で、As

6. 下川田平井遺跡水田跡プラント・オパール分析

ーB直上層では平井地区3区周辺の比較的限られた範囲でそれぞれ稲作が行われていたものと推定される。

また、FP直下層においても、両地点で稲作の可能性があると判断される。これは、プラント・オパール密度は4,000個/g未満と比較的低いものの、上位層のFP層が比較的厚く、上位層から混入したとは考えられないことから、同層で稲作が行われていたものと考えられる。したがって、同基準ではこれらの周辺の比較的広い範囲で稲作が行われたものと推定される。この他、As-B直下層やAs-B混層でも稲作の可能性があると判断される。

以上のことから、同遺跡では少なくともFP直下層の時期には稲作が開始されていたものと推定される。その後、稲作はFP層の堆積によって一時中断されるが、すぐに再開され、おおむね継続して行われて現在に至ったものと推定される(図1)。

(2) 稲の生産量について

As-B層からFP層の間およびFP層から下層について、そこで生産された稲穂の総量を推定した。その結果、前者では面積10aあたり平均15.9t、後者では平均5.10tと計算される(表2)。

第15表 イネの推定生産量

五反田地区						
試料	イネ	ヨシ属	タケ 亜科	ウシク サ族	キビ族	
1	15,900	0	11,200	900	0	0
2	900	0	2,800	0	0	0
3	900	0	6,900	0	0	0
4						
5	2,800	4,700	14,100	0	0	0
6	4,600	900	6,500	0	0	0
7	8,100	2,700	9,000	0	0	0
8						
9	3,800	900	34,900	900	0	0
10	1,700	800	44,600	800	0	0
平井地区						
試料	イネ	ヨシ属	タケ 亜科	ウシク サ族	キビ族	
1	10,500	900	16,300	900	0	0
2	3,900	1,900	8,900	1,900	0	0
3	900	900	10,900	0	0	0
4	3,900	3,900	17,500	0	0	0
5	6,400	900	15,600	0	900	0
6	2,700	2,700	9,900	0	0	0
7	2,700	900	12,900	900	0	0
8	1,900	5,800	21,500	3,900	0	0
9	8,700	4,800	20,400	1,900	900	0
10						
11	900	1,900	9,600	2,800	0	0
12	1,900	3,900	15,800	1,900	0	0
13	0	900	3,800	0	0	0
14	0	16,600	10,700	1,900	0	0
15	0	20,600	11,700	900	0	0
16	0	5,700	4,800	0	0	0

第16表 試料1gあたりのプラント・オパール個数

五反田地区								
試料	深さ cm	層厚 cm	P.O.数 個/cc	仮比重	P.O.数 個/cc	稲わら重 t/10a,cm	稲穂量 t/10a,cm	稲穂総量 t/10a
1	0	17	15,900	1.02	16,100	3.08	1.66	28.19
2	17	12	900	0.98	800	0.15	0.08	0.99
3	29	8	900	1.00	800	0.15	0.08	0.66
4	37	5						
5	42	12	2,800	0.75	2,000	0.38	0.21	2.47
6	54	12	4,600	0.80	3,600	0.69	0.37	4.45
7	66	10	8,100	0.95	7,600	1.45	0.78	7.83
8	76	14						
9	90	20	3,800	0.66	2,500	0.48	0.26	5.15
10	110	20	1,700	1.13	1,900	0.36	0.20	3.91
平井地区								
試料	深さ cm	層厚 cm	P.O.数 個/cc	仮比重	P.O.数 個/cc	稲わら重 t/10a,cm	稲穂量 t/10a,cm	稲穂総量 t/10a
1	0	20	10,500	0.88	9,200	1.76	0.95	18.95
2	20	6	3,900	1.12	4,300	0.82	0.44	2.66
3	26	12	900	1.21	1,000	0.19	0.10	1.24
4	38	12	3,900	1.07	4,100	0.78	0.42	5.07
5	50	11	6,400	1.24	7,900	1.51	0.81	8.95
6	61	10	2,700	1.02	2,700	0.52	0.28	2.78
7	71	7	2,700	0.85	2,300	0.44	0.24	1.66
8	78	7	1,900	0.90	1,700	0.32	0.18	1.23
9	85	14	8,700	0.91	7,900	1.51	0.81	11.39
10	199	22						
11	121	6	900	0.91	800	0.15	0.08	0.49
12	127	6	1,900	0.58	1,000	0.19	0.10	0.62
13	133	13	0	1.61	0	0.00	0.00	0.00
14	146	13	0	1.16	0	0.00	0.00	0.00
15	159	13	0	1.26	0	0.00	0.00	0.00
16	172	-	0	1.16	0	0.00	0.00	-

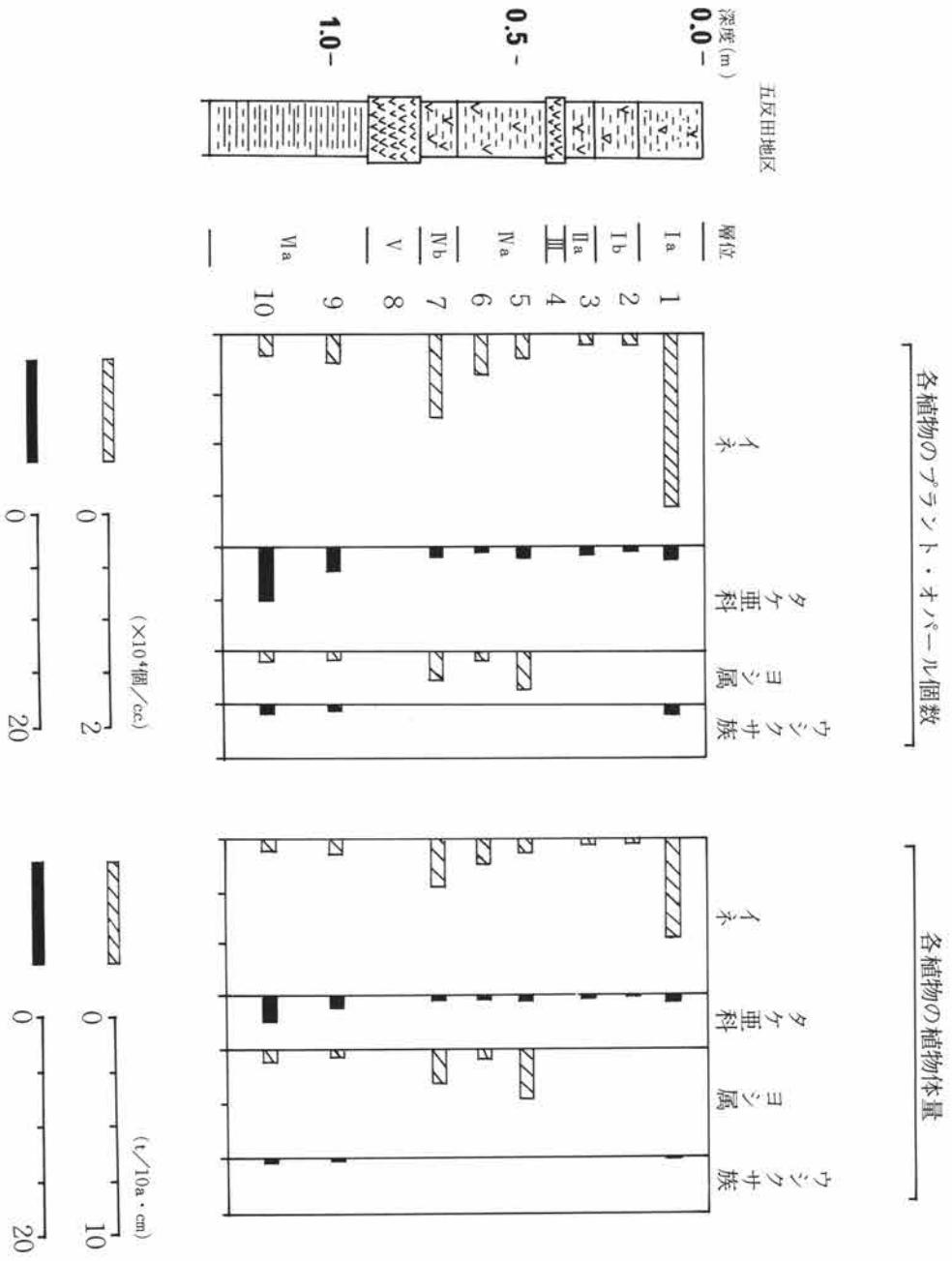
引用文献

杉山真二・藤原宏志. 1987. 川口市赤山陣屋跡遺跡におけるプラント・オパール分析. 赤山—古環境編一. 川口市遺跡調査会報告, 第10集, 281-298

藤原宏志. 1976. プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—. 考古学と自然科学, 9: 15-29

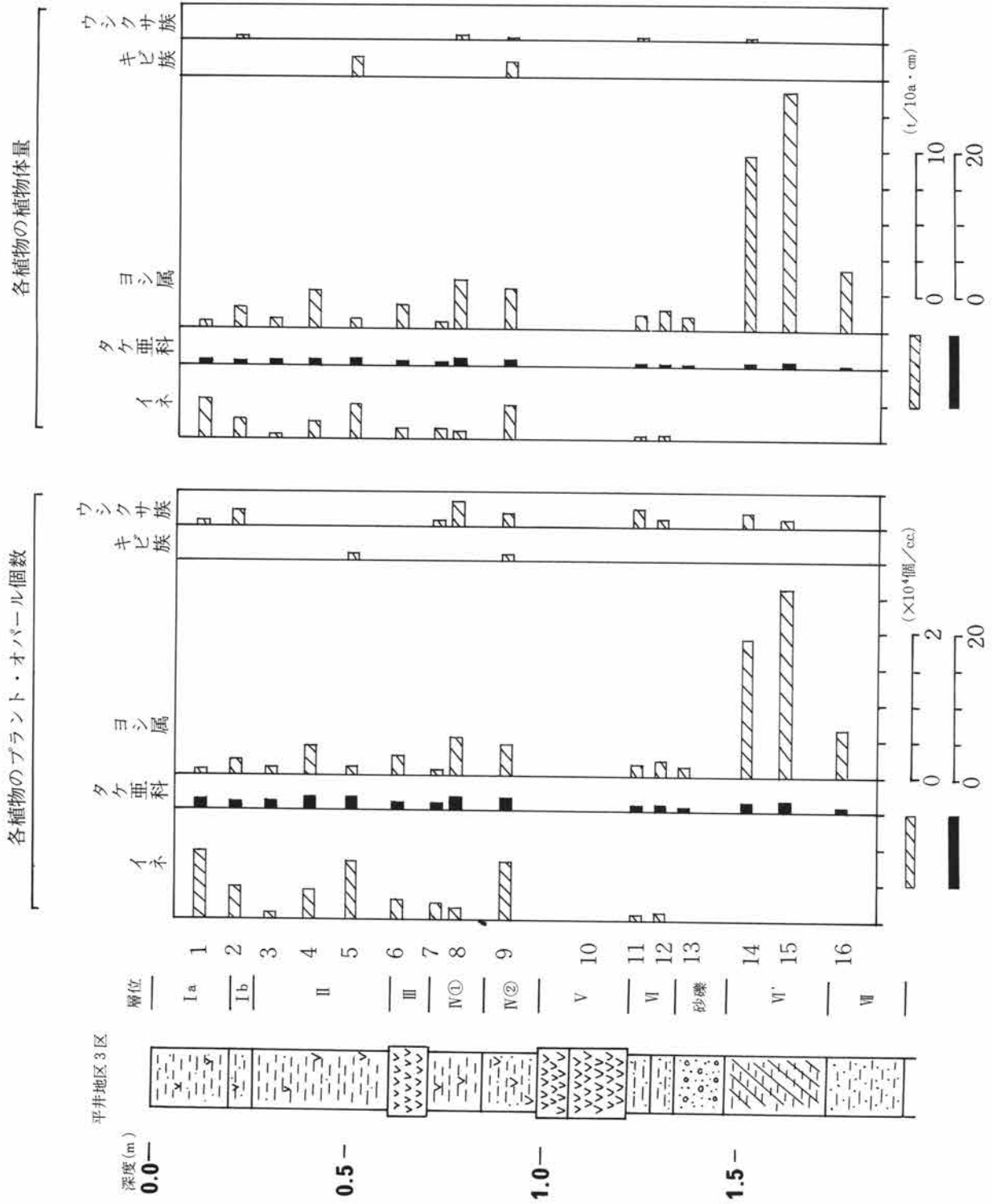
藤原宏志. 1979. プラント・オパール分析法の基礎的研究(3)—福岡, 板付遺跡(夜臼式)水田および群馬・日高遺跡(弥生時代)水田におけるイネ(O. sativa L.)生産総量の推定—. 考古学と自然科学, 12: 29-41

藤原宏志・杉山真二. 1984. プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田の探査—. 考古学と自然科学, 17: 73-85



第276図 五反田地区のおもなイネ科植物のプラント・オパール分布図





第277図 平井地区3区のおもなイネ科植物のプラント・オパール分布図

## 報 告 書 抄 録

フリガナ	シモカワダシモハライセキ・シモカワダヒライイセキ
書名	下川田下原遺跡・下川田平井遺跡
副書名	一般国道17号(沼田バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調報告書
巻次	第1集
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第147集
編著者名	神谷佳明
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	群馬県勢多郡北橋村下箱田784-2
発行年	西暦1993年3月26日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
シモカワダシモハラ 下川田下原	スマタ シシモカワダマチ 沼田市下川田町 アザシモハラ 字下原	102067		36° 37' 41"	139° 2' 25"	19880701 19890331	5,840m <sup>2</sup>	道路建設
シモカワダヒライ 下川田平井	スマタ シシモカワダマチ 沼田市下川田町 アザヒライ ゴタンダ 字平井・五反田	102067		36° 37' 45"	139° 2' 25"	19890401 19891212	19,510m <sup>2</sup>	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下川田下原	住居	縄文時代	土坑 71基 遺物包含層	縄文時代前期～後期土器、石器  銭貨(渡来銭)	中世の遺構は 城郭に伴う
		中世	掘立柱建物跡 1棟		
			柵列 2列		
			堀 3条		
墓坑 1基					
下川田平井	住居 生産	縄文時代	土坑・陥し穴 5基	縄文時代土器、石器	F Pで埋没  As-Bで埋没
		弥生時代	竪穴住居跡 14軒	弥生時代土器、石器	
		古墳時代	竪穴住居跡 2軒	土師器、須恵器	
		平安時代	水田跡 3カ所	土師器、須恵器等	
			竪穴住居跡 13軒		
水田跡 3カ所					

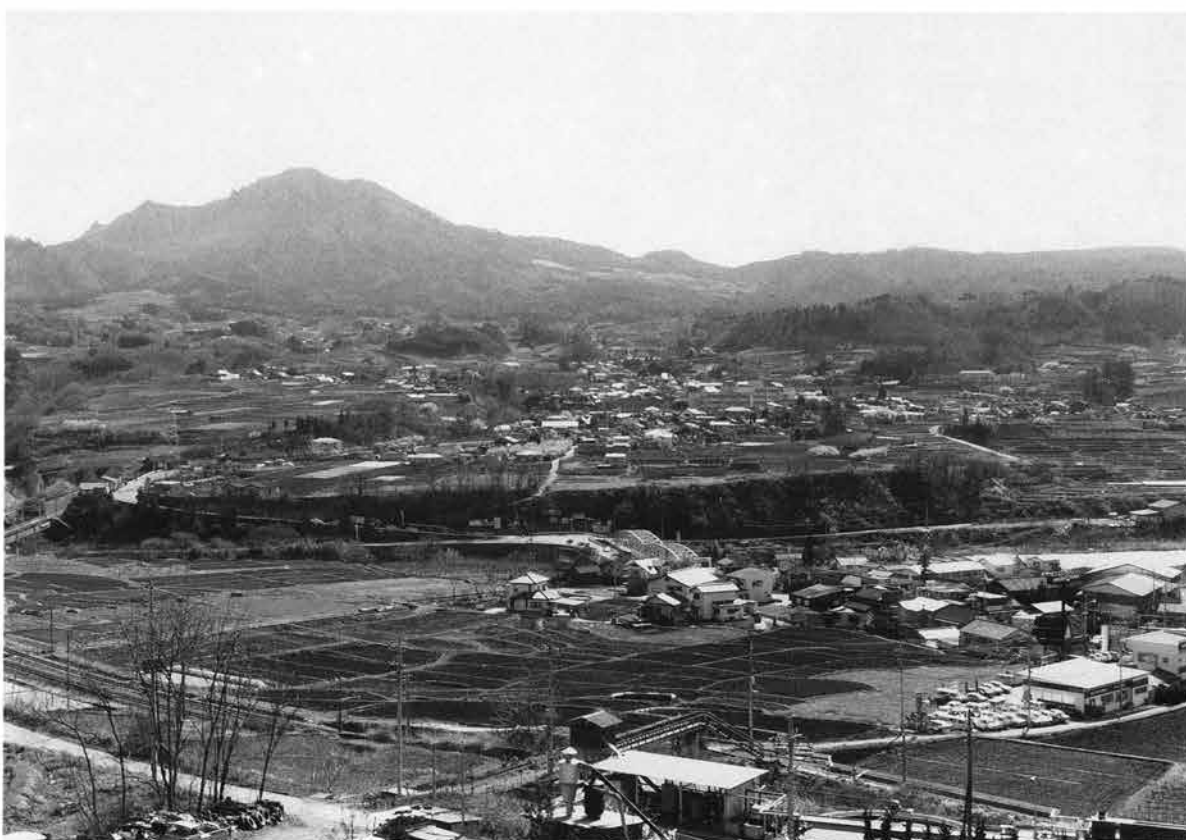
# 下川田下原遺跡

写真図版





遺跡遠景（南より）



遺跡遠景（東より）



A 区 全 景 ( 垂 直 )



A 区 全 景 ( 斜 め )



B 区 全 景 ( 垂 直 )



B 区 全 景 ( 斜 め )



1 号 堀 立 柱 建 物 跡



1 号 ・ 2 号 柵 列





1 号 柵 列



2 号 柵 列



1 号 堀



1 号 堀 西 側 土 層 断 面



1 号 堀 中 央 土 層 断 面



1 号 堀 調 査 風 景



1 号 堀 東 端 部



3 号 堀



3 号 堀 土 層 断 面



2 号 堀



3 号 堀  
馬 骨 出 土 状 態



3 号 堀  
馬 骨 出 土 状 態



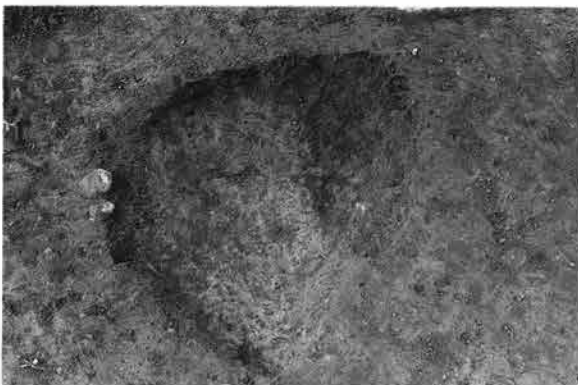
墓 坑 ( 39 号 土 坑 )



1 号 土 坑



2 号 土 坑



3 号 土 坑



4 号 土 坑



5 号 土 坑



6 号 土 坑



7 号 土 坑



8 号 土 坑



9 号 土 坑



10 号 土 坑



11 号 土 坑



12 号 土 坑



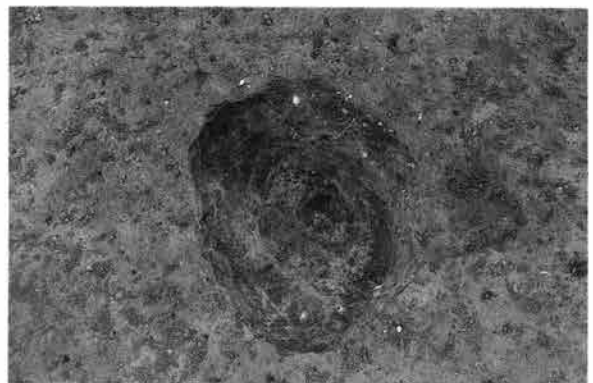
13 号 土 坑



14 号 土 坑



15 号 土 坑



17 号 土 坑



18 号 土 坑



23 号 土 坑



24 号 土 坑



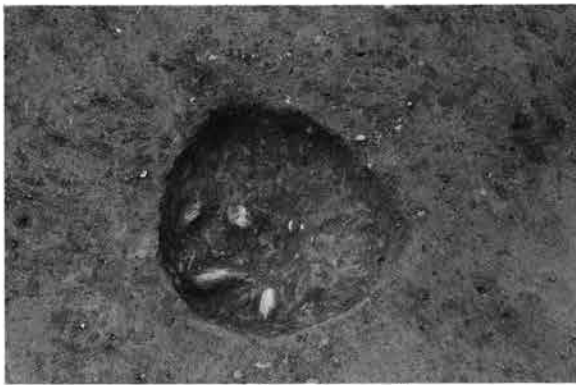
25 号 土 坑



26 号 土 坑



27 号 土 坑



28 号 土 坑



29 号 土 坑



30 号 · 31 号 土 坑



36 号 土 坑



37 号 土 坑



38 号 土 坑





32 号 土 坑



41 号 土 坑



42 号 土 坑



43 号 土 坑



44 号 土 坑



69 号 土 坑 確 認 状 態



69 号 土 坑



45 号 土 坑



46 号 土 坑



47 号 土 坑



48 号 土 坑



49 号 土 坑



50 号 土 坑



51 号 土 坑



52 号 土 坑



53 号 土 坑



54 号 土 坑



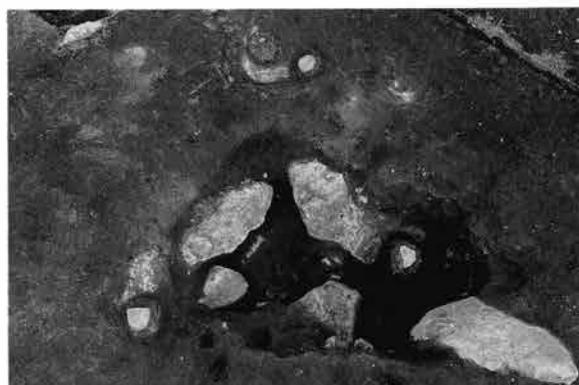
55 号 土 坑



56 号 土 坑



57 号 土 坑



65 号 土 坑



66 号 土 坑



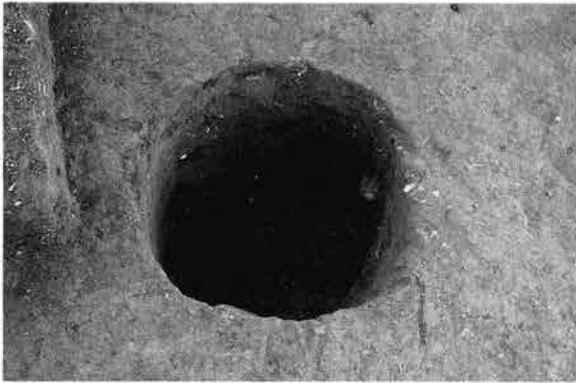
68 号 土 坑



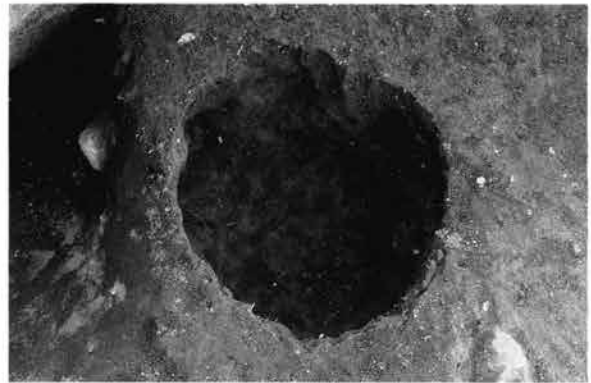
70号・71号・72号土坑



70号・71号・72号土坑土層断面



73号土坑



74号土坑



75号土坑



75号土坑



76号土坑



79号土坑



包含層 遺物出土状態



包含層 遺物出土状態



包含層 遺物出土状態



包含層 遺物出土状態



包含層 遺物出土状態



包含層 遺物出土状態



包含層 遺物出土状態



包含層 遺物出土状態

3号堀



1

墓坑(39号土坑)



1



2



3



4



5



6



7

28号土坑



1



2



1



4



3



5



6



7



11



13



12



8



14



15



16

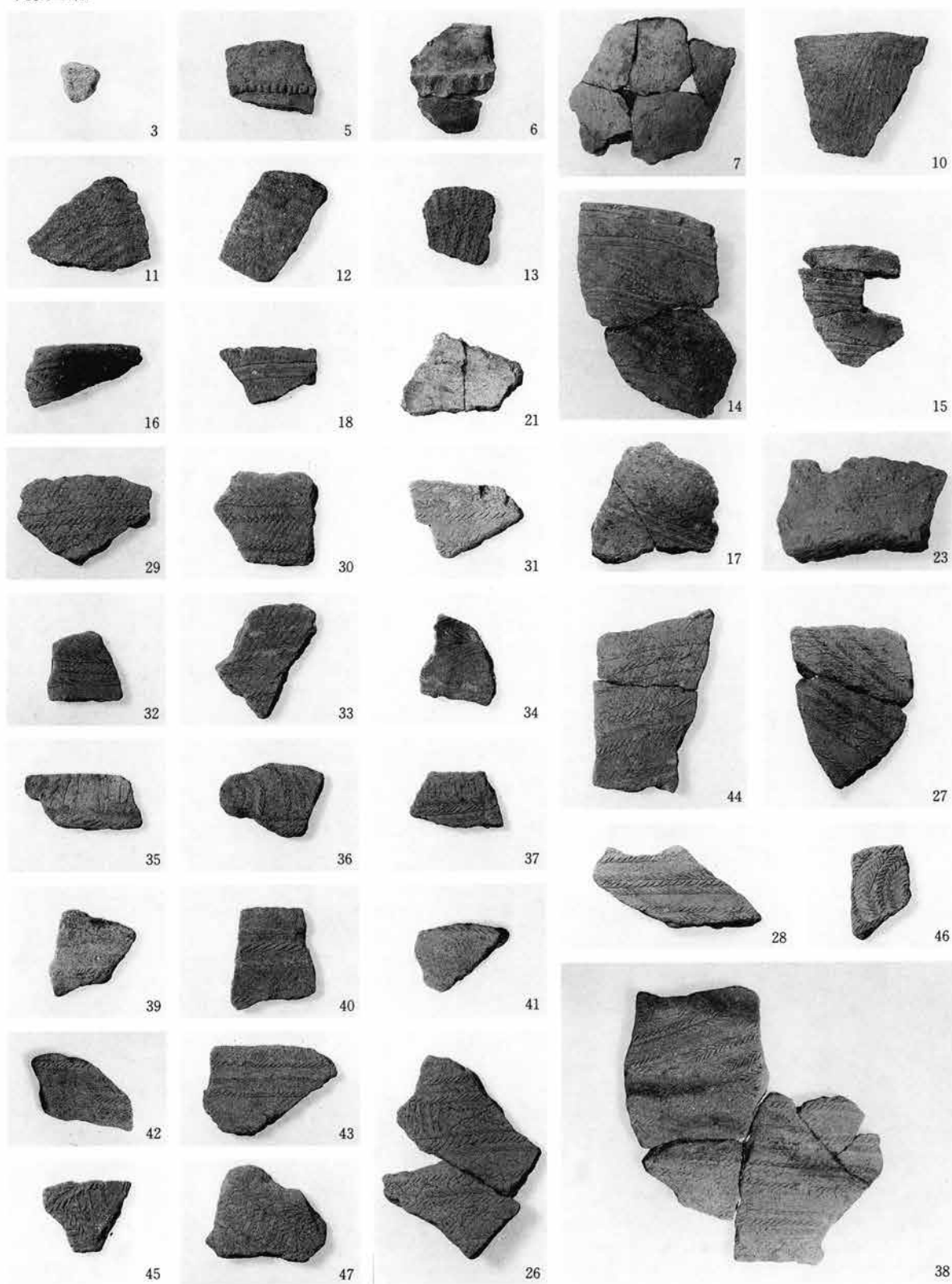
69号土坑



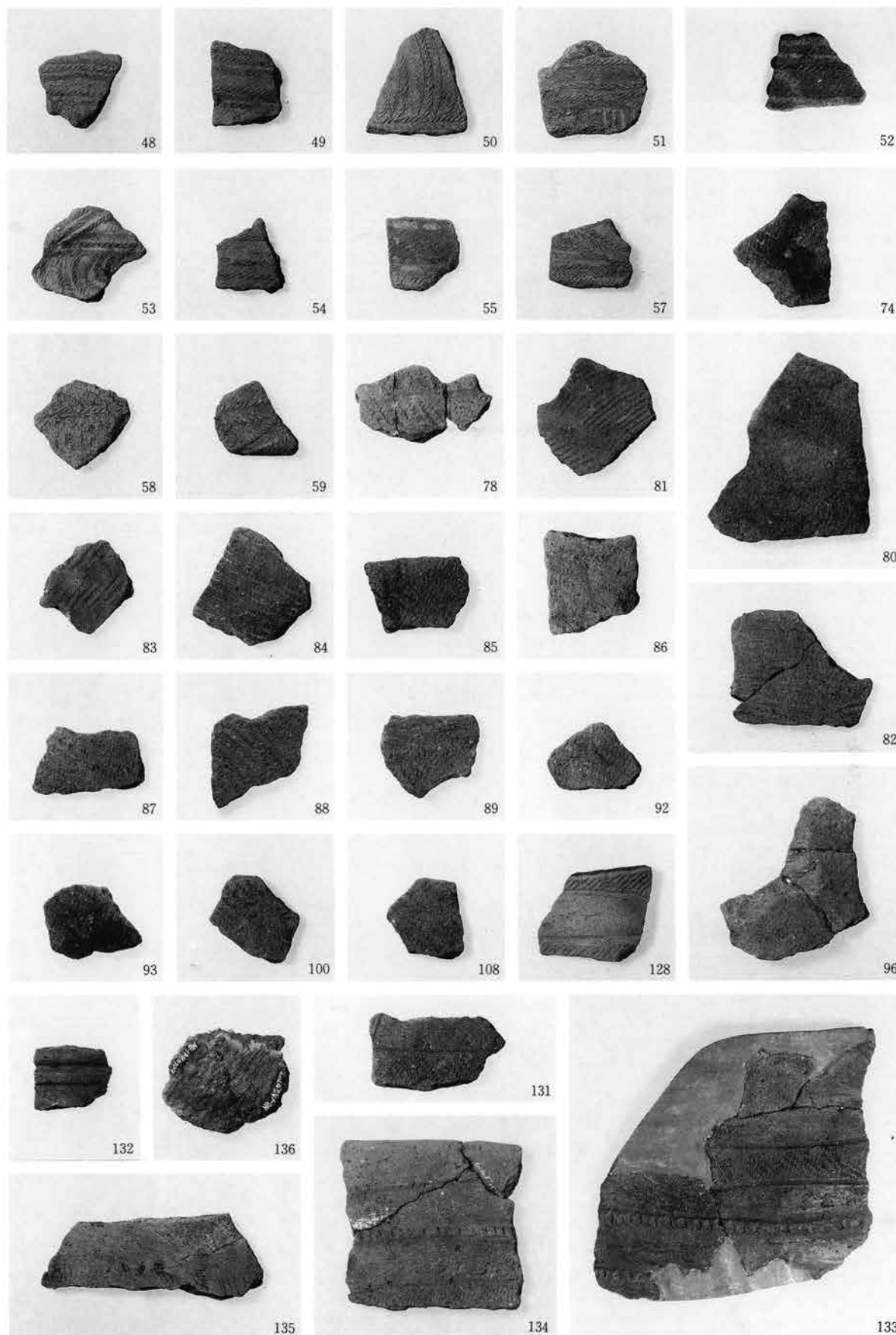
1

遺構外出土遺物

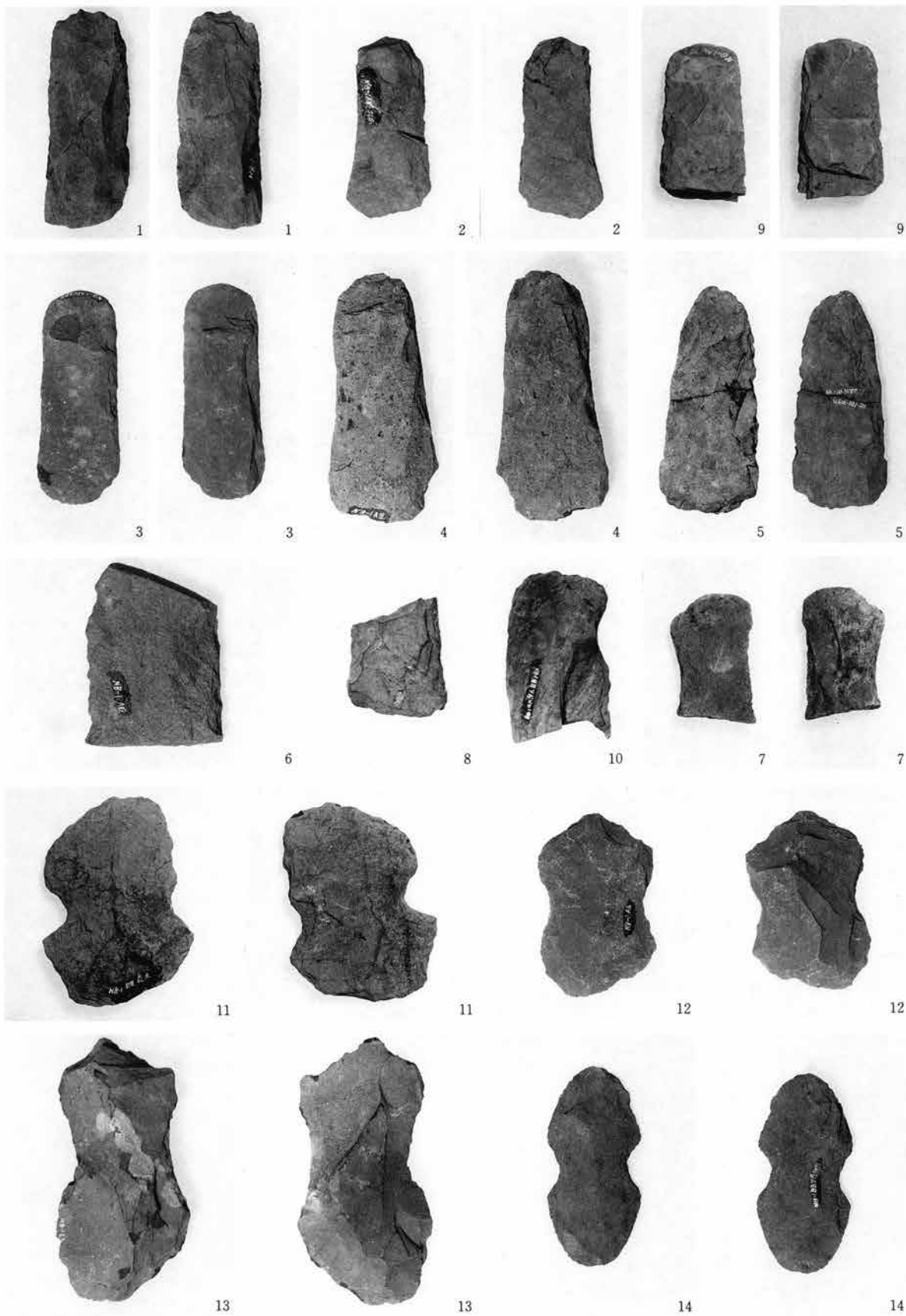
縄文土器

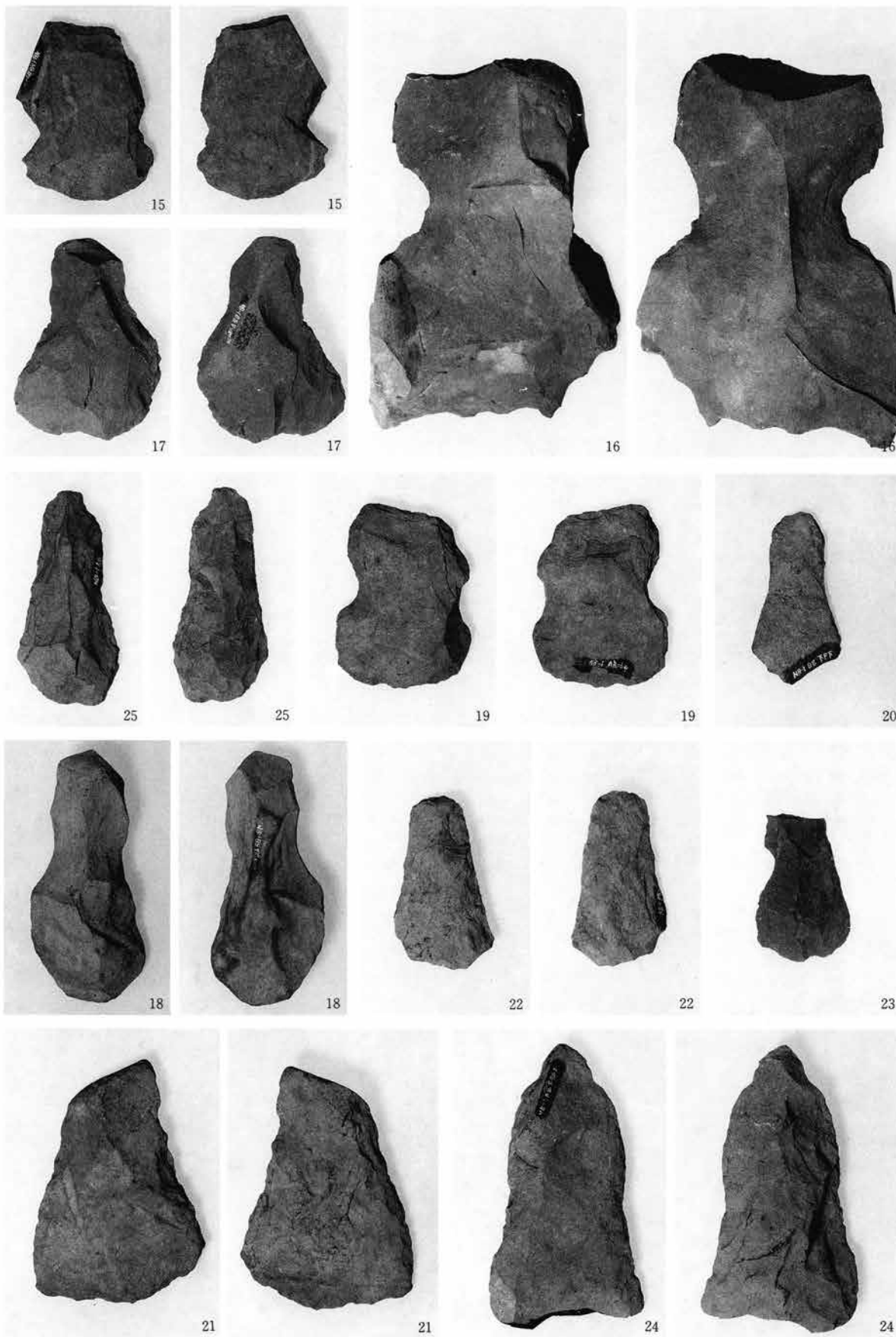






PL 22  
石器









41



42



42



43



43



44



44



46



46



47



47



45



45



49



50



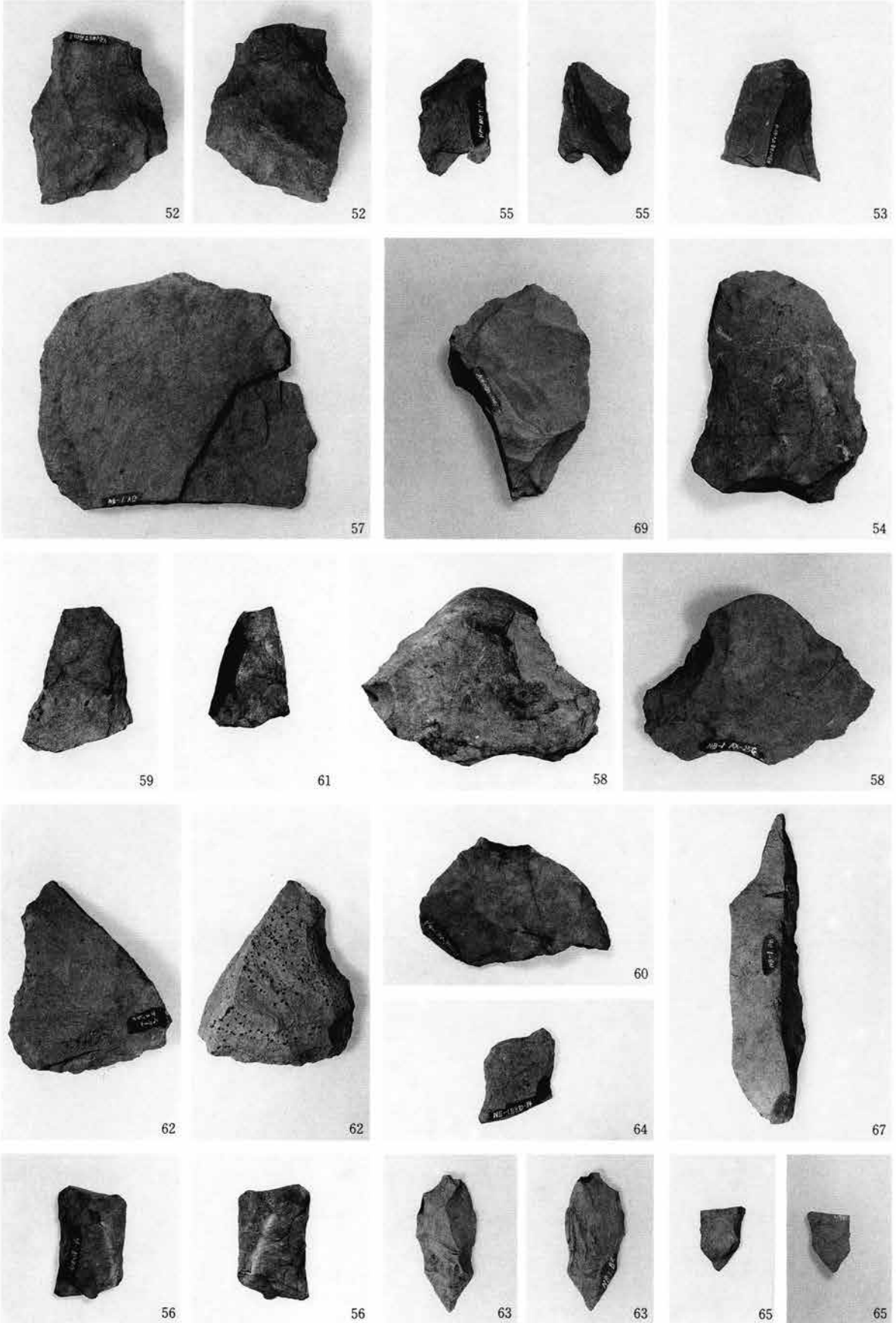
48



48



51





66



66



73



73



70



70



68



71



72



74



74



76



76



75



75



80



82



78



78



77



79



79



81



# 下川田平井遺跡

写真図版

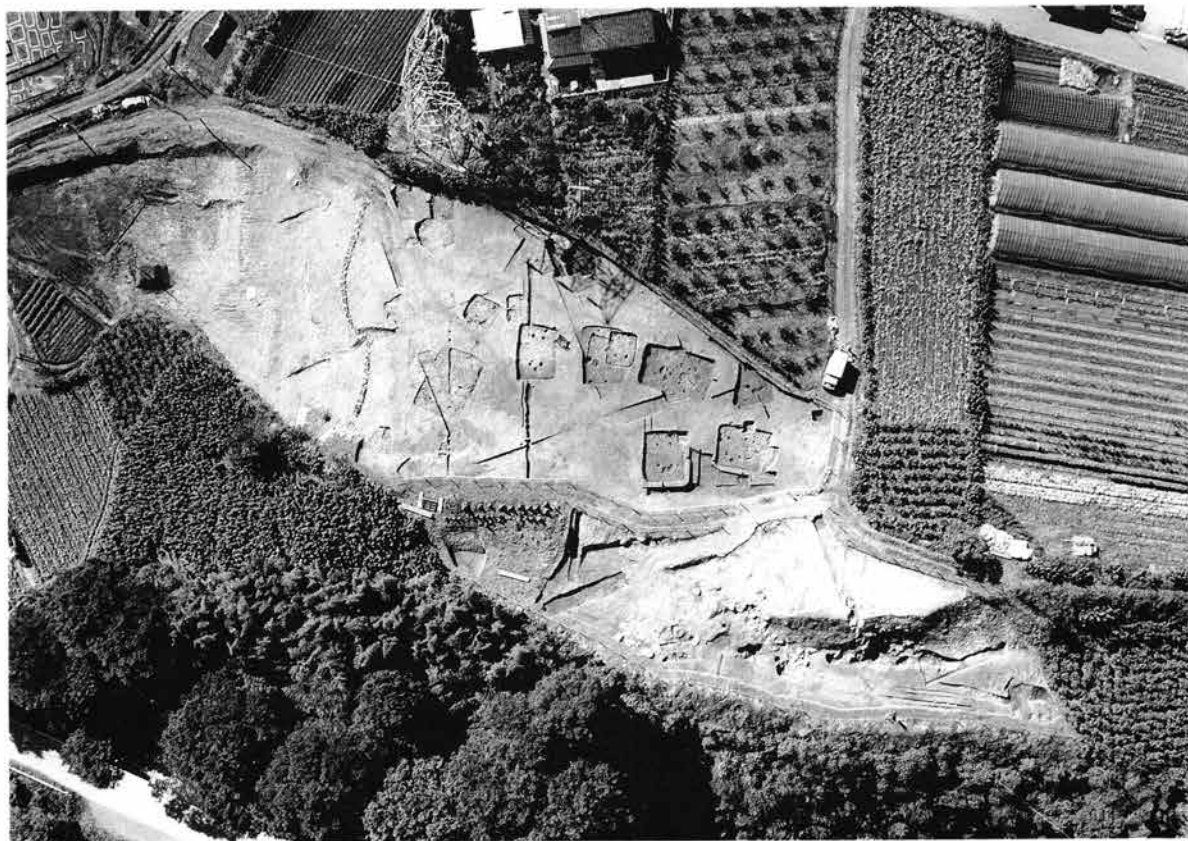




平井遺跡遠景



7区遺構確認状況



7 区 全 景 ( 垂 直 )



7 区 全 景 ( 斜 め )



1 号住居跡 全景



1 号住居跡 床面状態



1 号住居跡 遺物出土状態



2号住居跡 全景



2号住居跡 掘り方



7号住居跡 全景



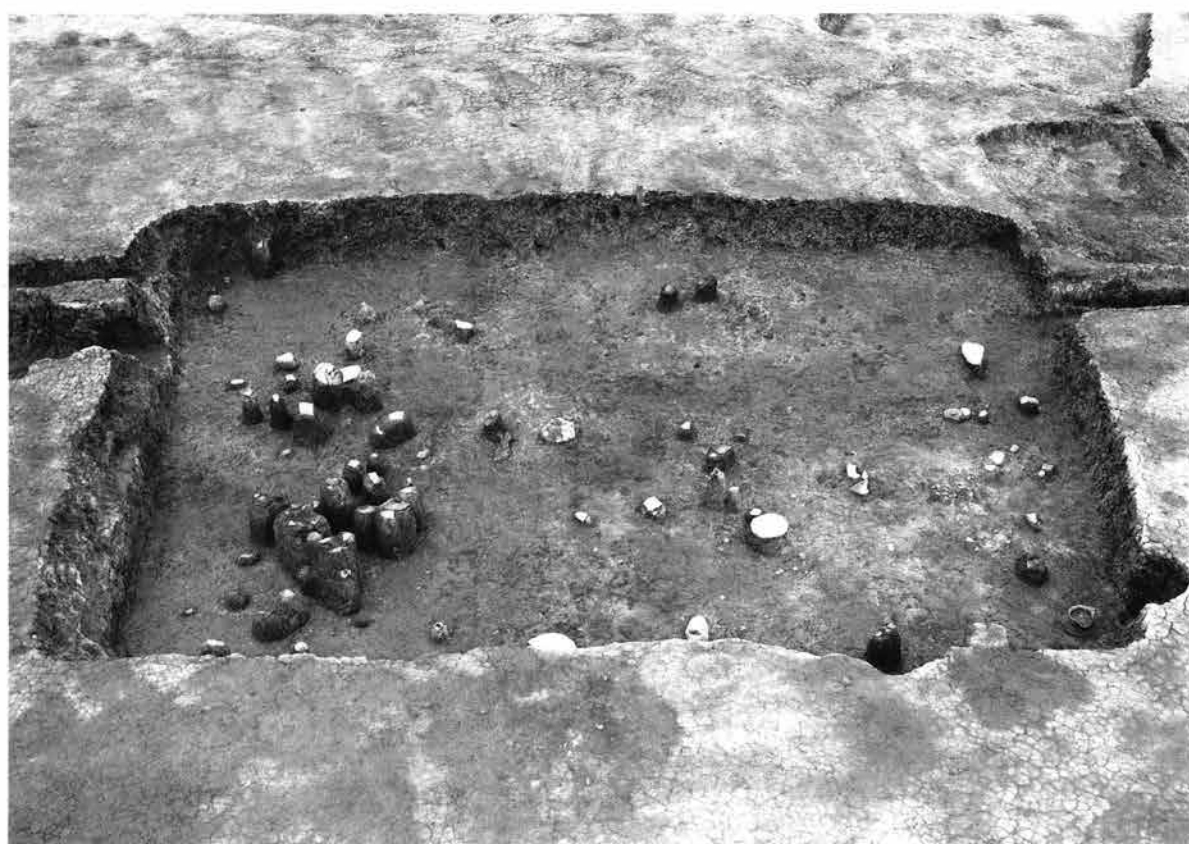
7号住居跡 掘り方



7号住居跡 炉



10号住居跡 全景



10号住居跡 遺物出土状態 全景





10号住居跡 掘り方



10号住居跡 貯蔵穴



10号住居跡 炉



10号住居跡 柱穴



10号住居跡 柱穴



11号・17号住居跡 全景



11号住居跡 遺物出土状態 全景



11号・17号住居跡 掘り方



11号住居跡 炉



11号住居跡 炉



12号住居跡 全景



12号住居跡 遺物出土状態 全景



12号住居跡 掘り方



12号住居跡 遺物出土状態部分



12号住居跡 遺物出土状態部分



12号住居跡 遺物出土状態部分



12号住居跡 炉



23号住居跡 全景



23号住居跡 掘り方



24号住居跡 全景



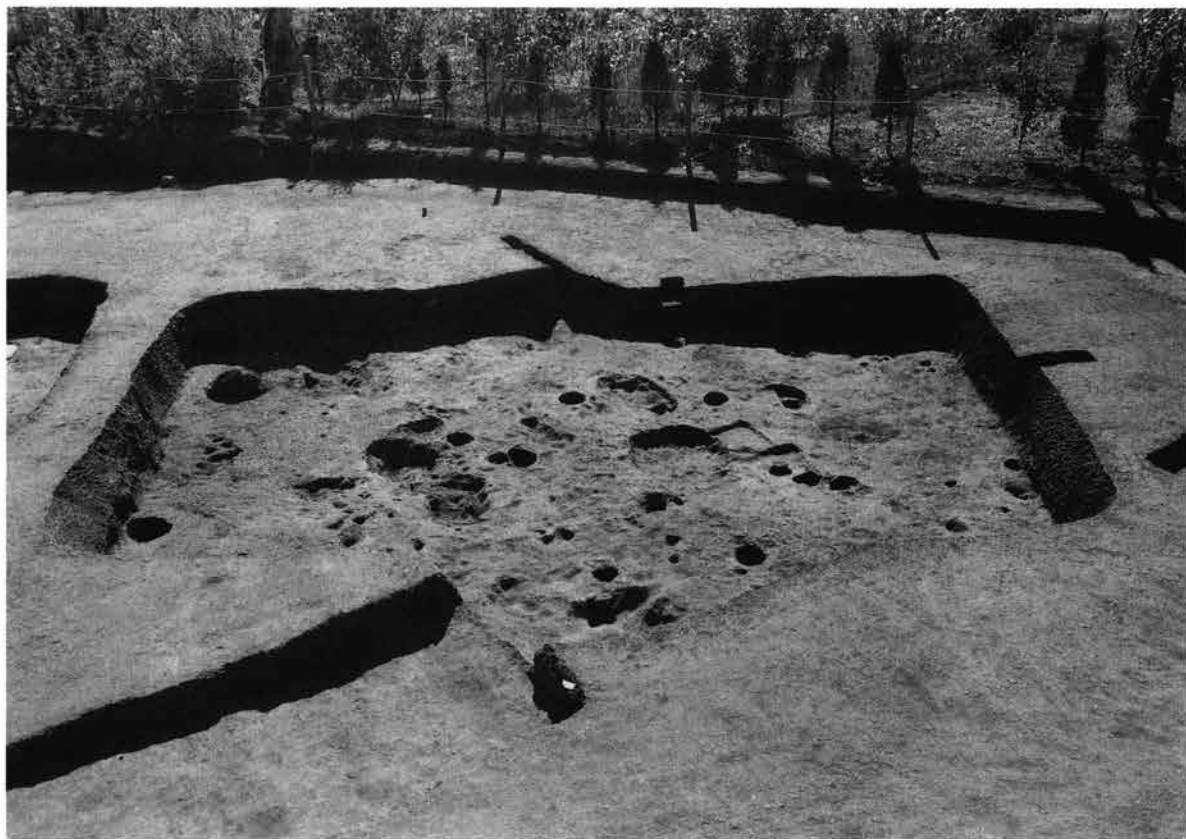
24号住居跡 遺物出土状態 全景



24号住居跡 炉



24号住居跡 掘り方



25 号 住 居 跡 全 景



25 号 住 居 跡 遺 物 出 土 状 態 全 景





25号住居跡 掘り方



25号住居跡 遺物出土状態部分



25号住居跡 遺物出土状態部分



25号住居跡 遺物出土状態部分



25号住居跡 炉



26号住居跡 全景



26号住居跡 遺物出土状態 全景



26号住居跡 炉



26号住居跡 掘り方



27号住居跡 全景



28号住居跡 全景



29 号住居跡 全景



29 号住居跡 遺物出土状態 全景



29 号住居跡 掘り方



31 号 住 居 跡 全 景



31 号 住 居 跡 掘 り 方



22号住居跡 全景



22号住居跡 遺物出土状態 全景



22号住居跡 掘り方



22号住居跡 竈 (1)



22号住居跡 竈 (2)



22号住居跡 竈掘り方



32号住居跡 全景



32号住居跡 遺物出土状態 全景





32号住居跡 掘り方



32号住居跡 遺物出土状態



32号住居跡 遺物出土状態



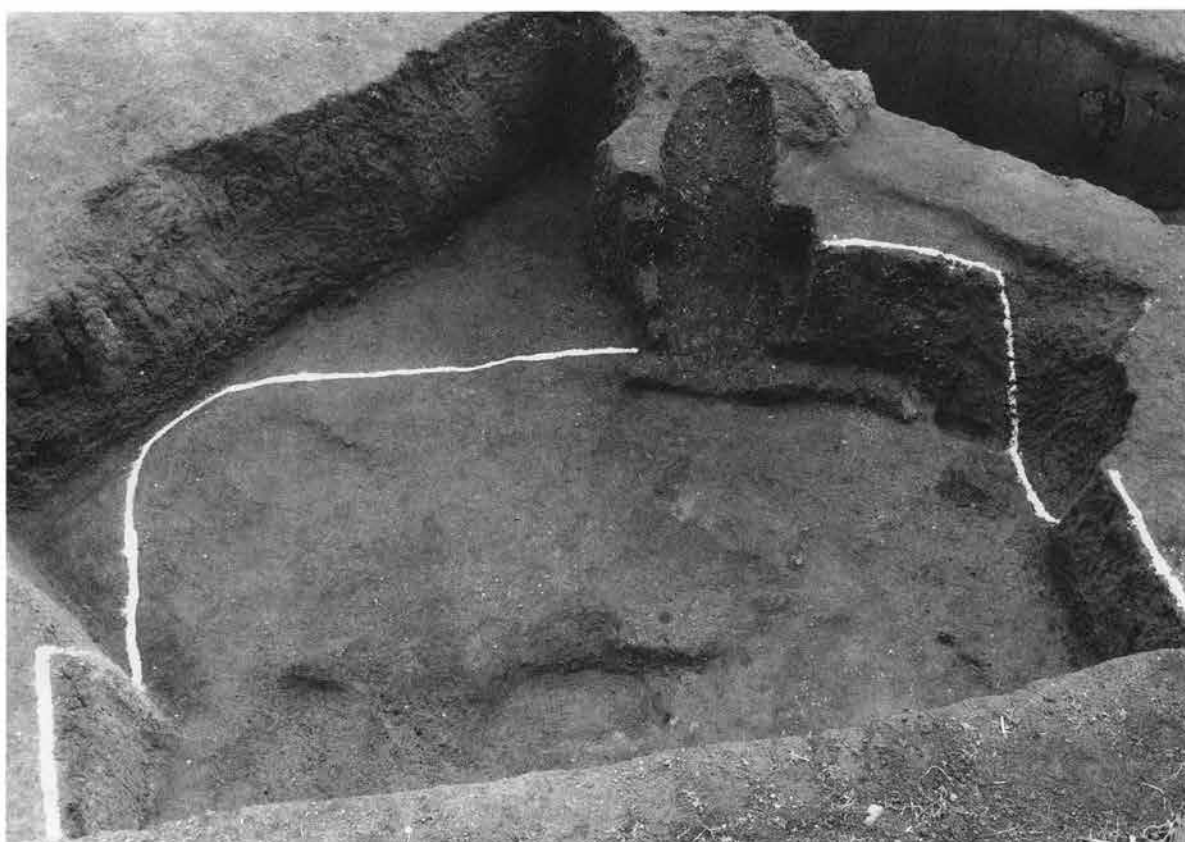
32号住居跡 土層断面



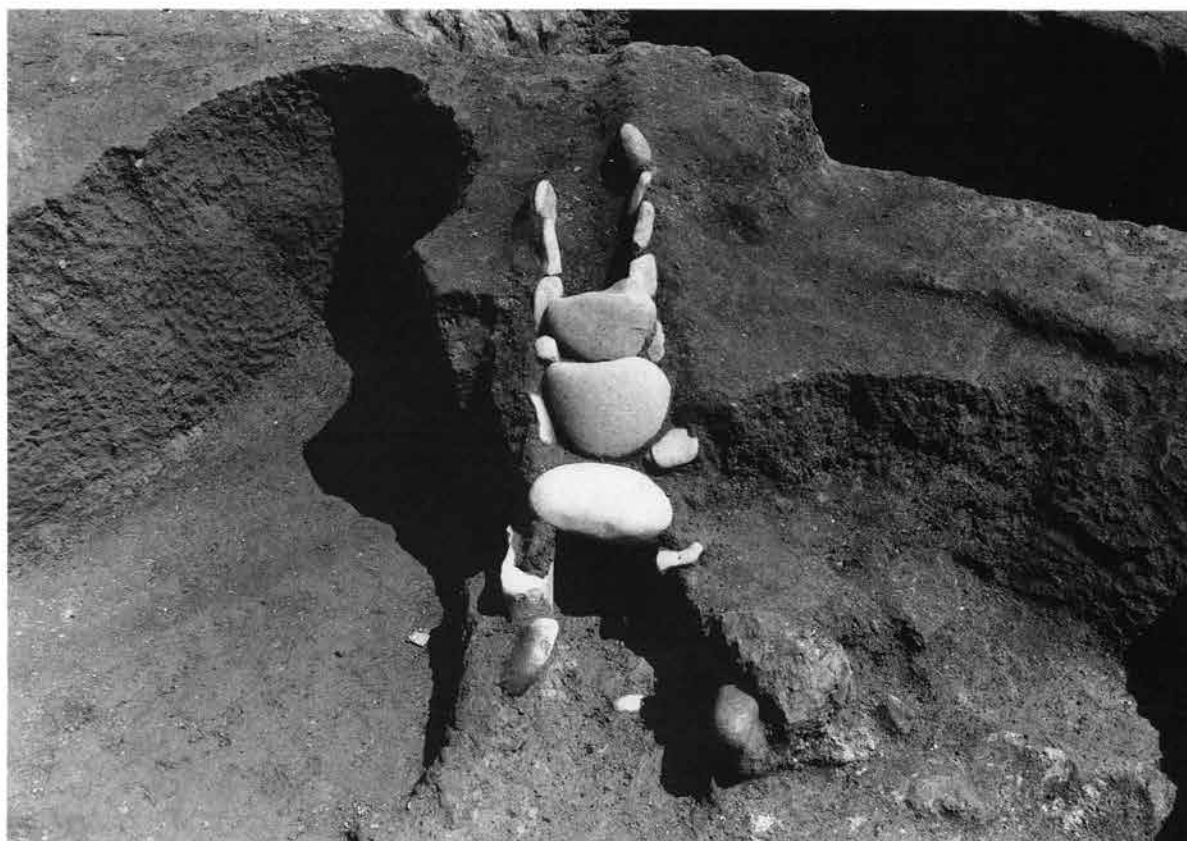
32号住居跡 炉



3 号住居跡 全 景



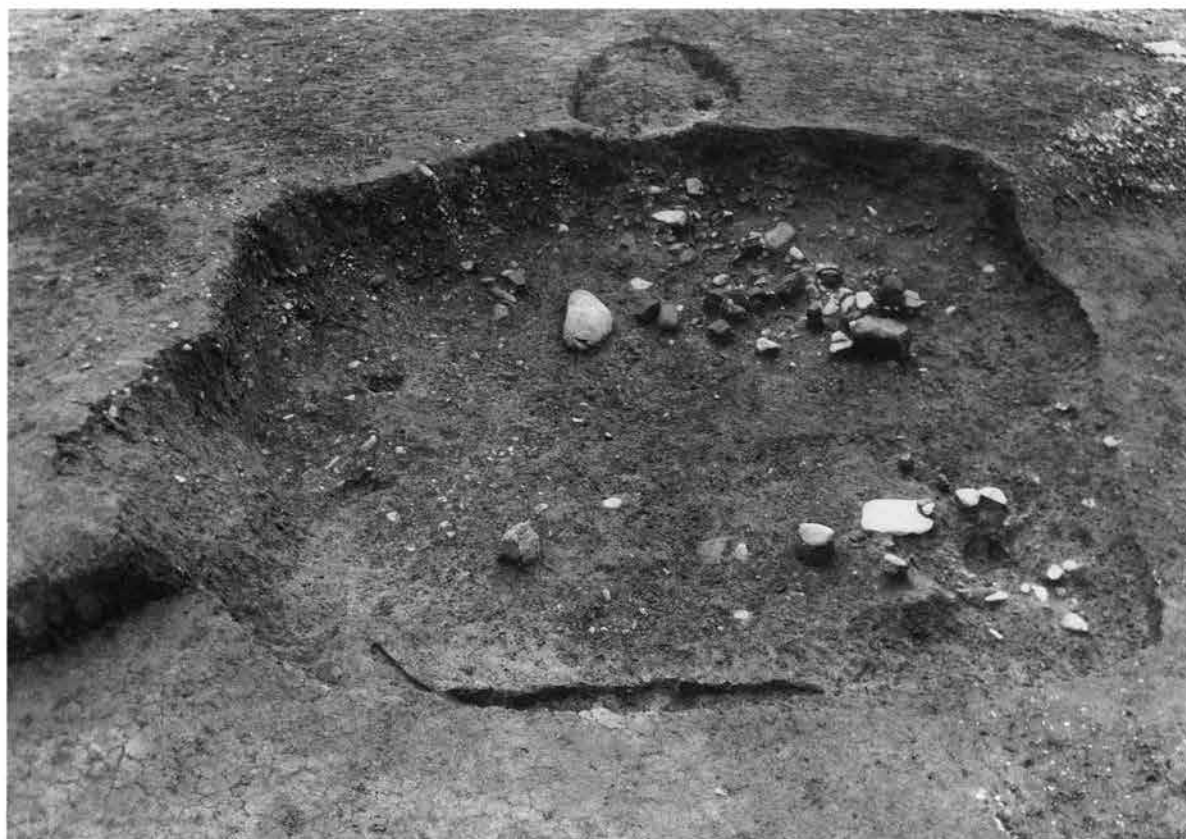
3 号住居跡 竈



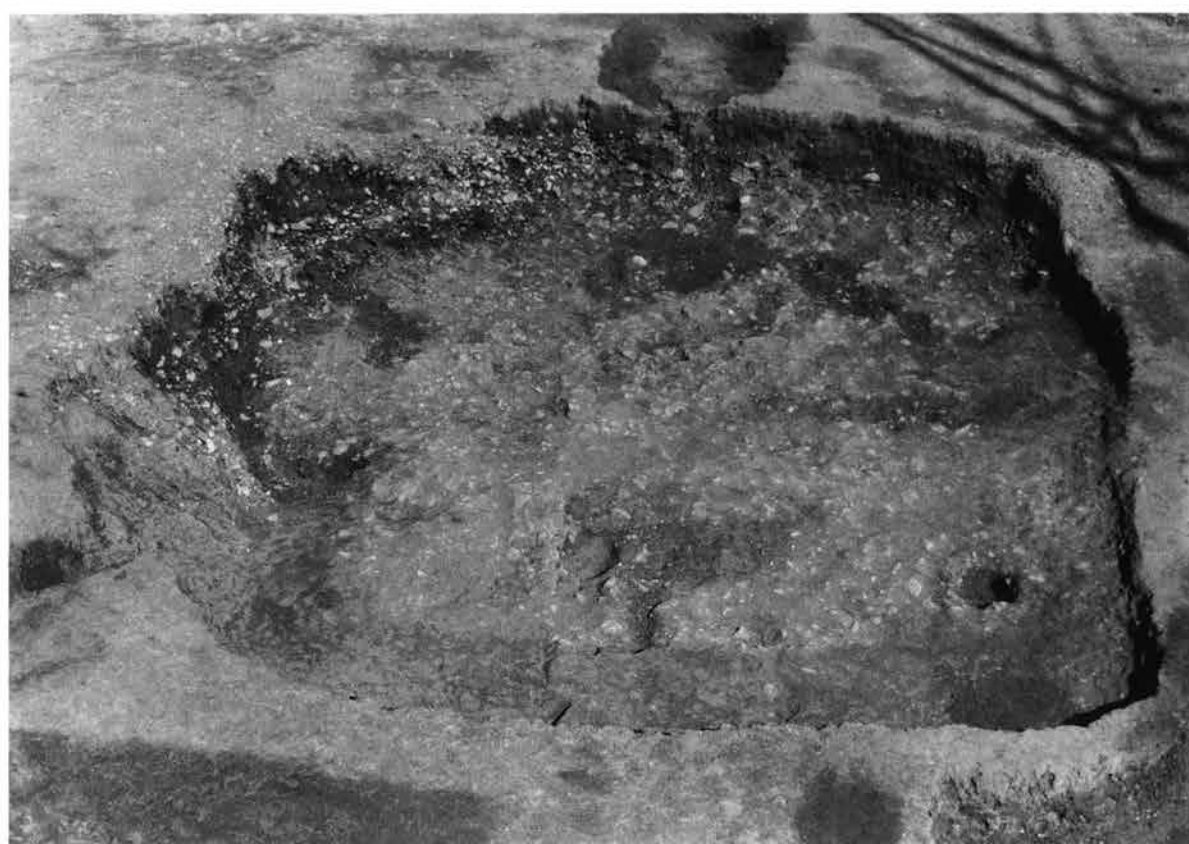
3号住居跡 竈掘り方



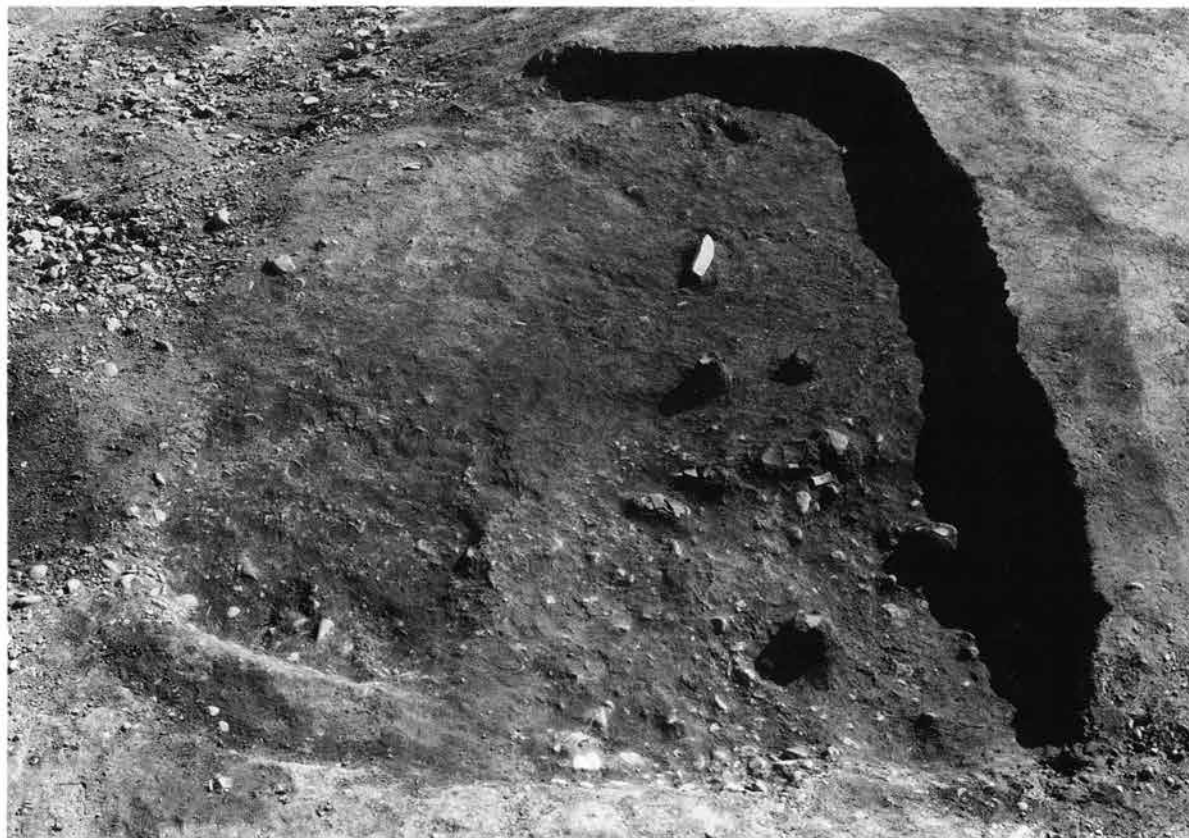
3号住居跡 掘り方



4号住居跡 遺物出土状態 全景



4号住居跡 掘り方



5 号住居跡 全 景



5 号住居跡 掘り方



6 号住居跡 全景



6 号住居跡 遺物出土状態 全景



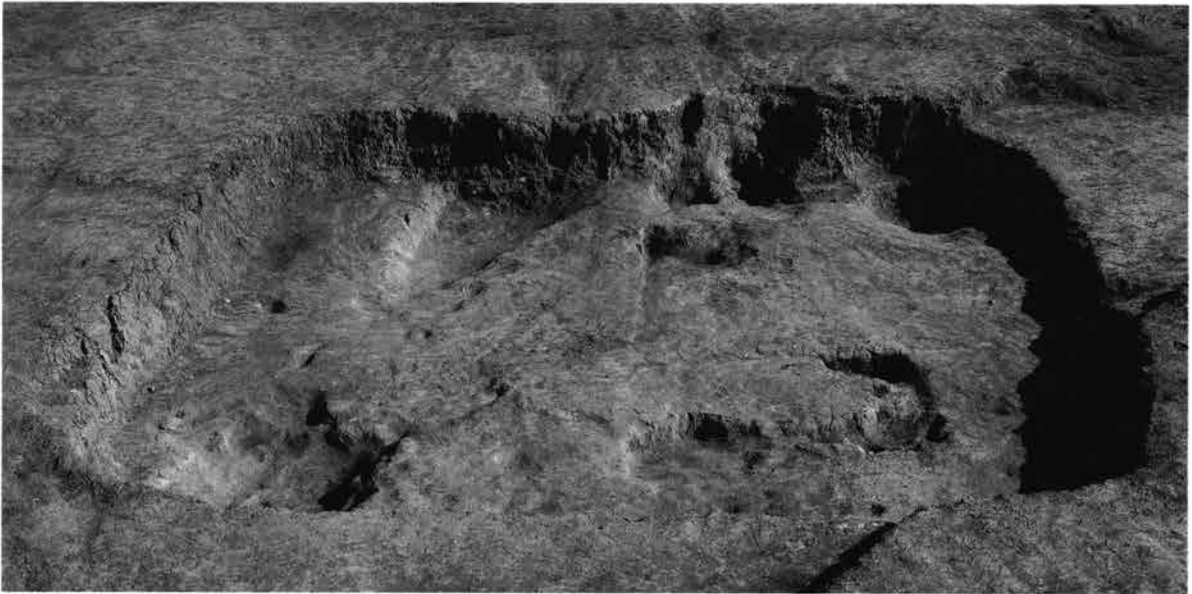
6 号住居跡 竈



6 号住居跡 掘り方



8号住居跡 全景



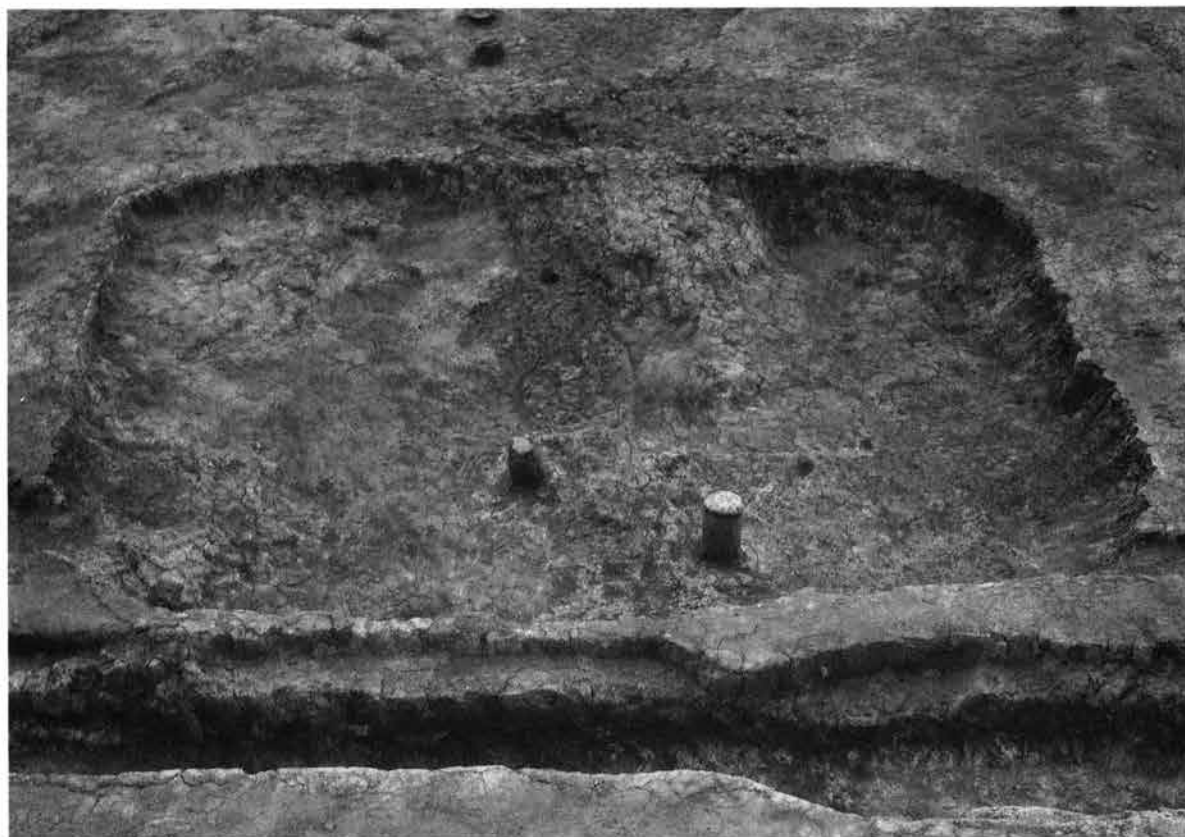
8号住居跡 掘り方



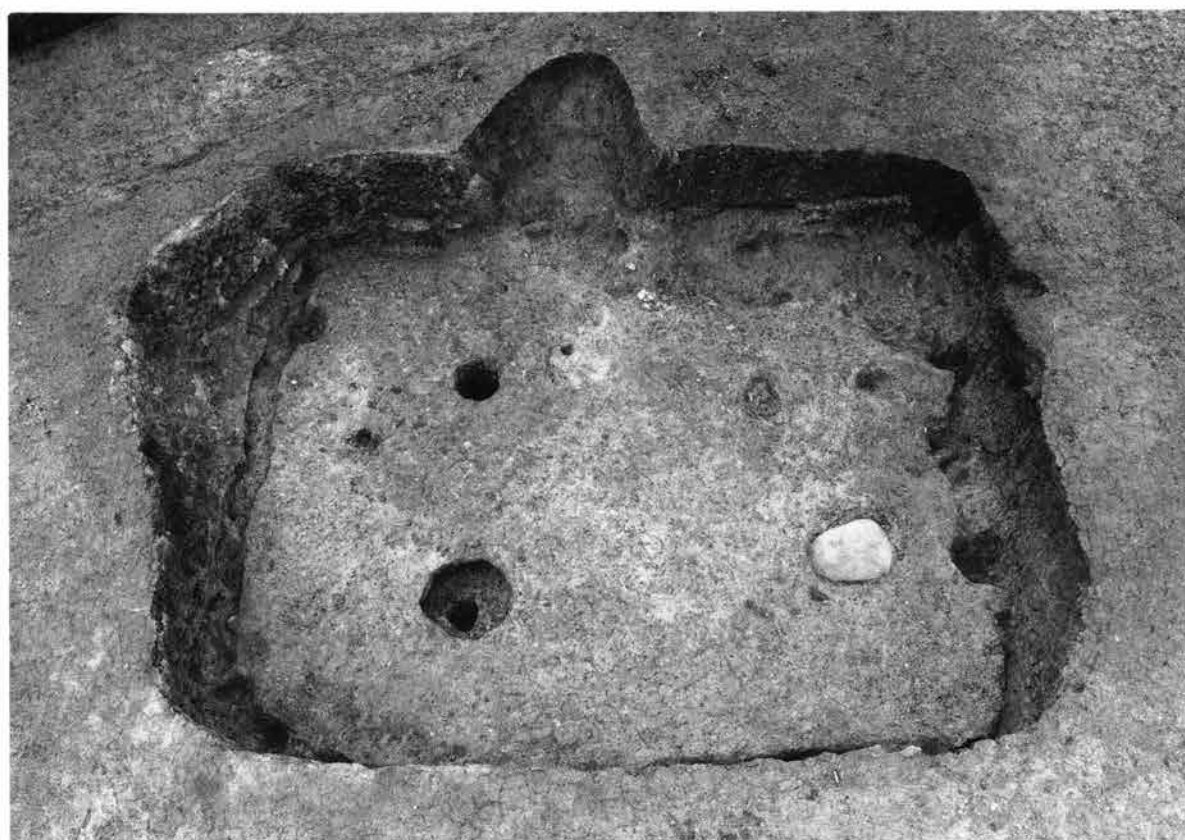
8号住居跡 竈



8号住居跡 竈掘り方



9 号 住 居 跡 全 景



13 号 住 居 跡 全 景





13 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 態



13 号 住 居 跡  
竈



13 号 住 居 跡  
掘 り 方



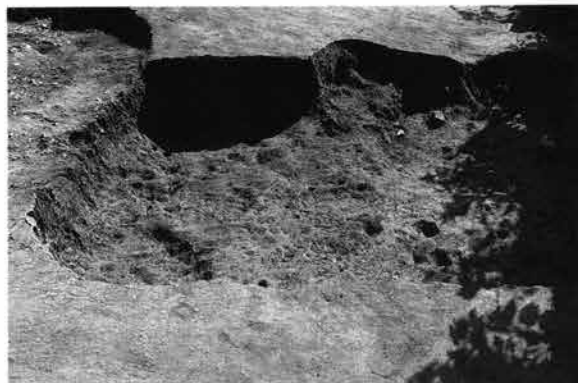
14号住居跡 全景



14号住居跡 遺物出土状態全景



14号住居跡 竈



14号住居跡 掘り方



14号住居跡 竈掘り方



15号住居跡 全景



15号住居跡 遺物出土状態全景



15号住居跡 竈



15号住居跡 掘り方



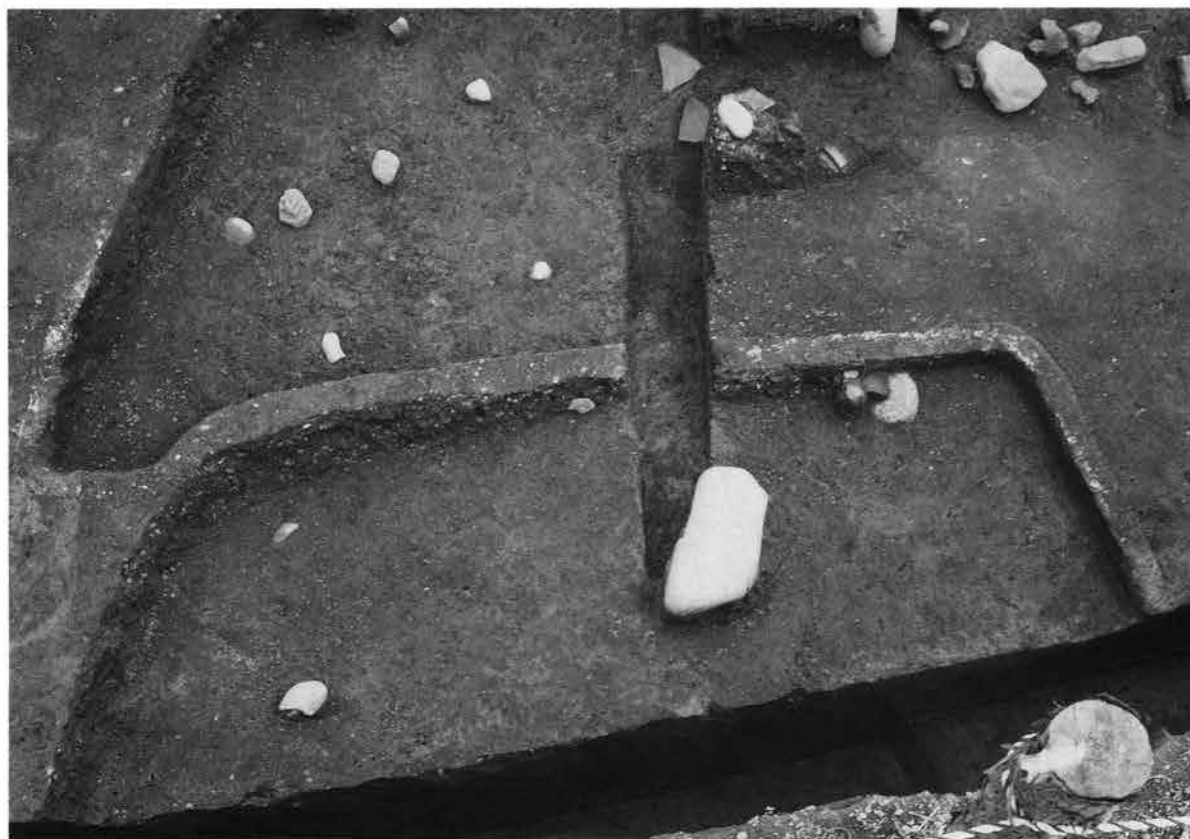
15号住居跡 竈掘り方



16号住居跡 全景



16号住居跡 掘り方



18号住居跡 全景



18号住居跡 掘り方



19 号住居跡 全 景



19 号住居跡 遺物出土状態全景



19 号住居跡 竈



19 号住居跡 掘り方



19 号住居跡 竈掘り方



33 号住居跡 全 景



33 号住居跡 確 認 状 況



33 号住居跡 竈



33 号住居跡 全 景 ( 東より )



33 号住居跡 竈 掘 り 方



1 号 土 坑



2 号 土 坑



4 号 土 坑



5 号 土 坑



6 号 土 坑



6 号 土 坑 土 層 断 面



7 号 土 坑 ( 南 よ り )



7 号 土 坑 ( 西 よ り )





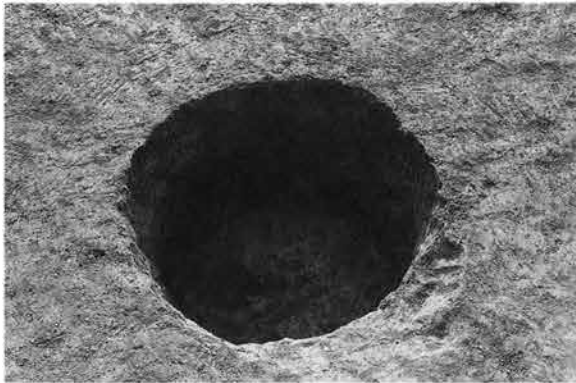
9 号 土 坑



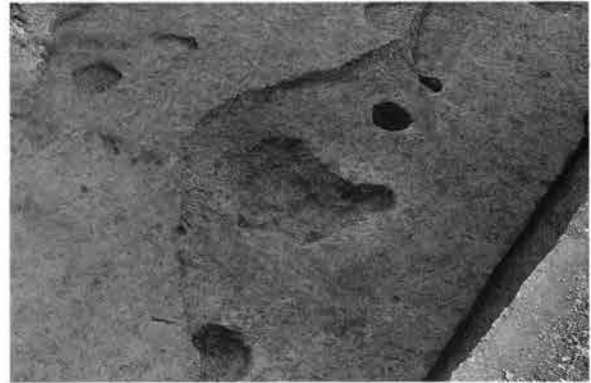
8 号 土 坑



10 号 土 坑



11 号 土 坑



13 号 土 坑



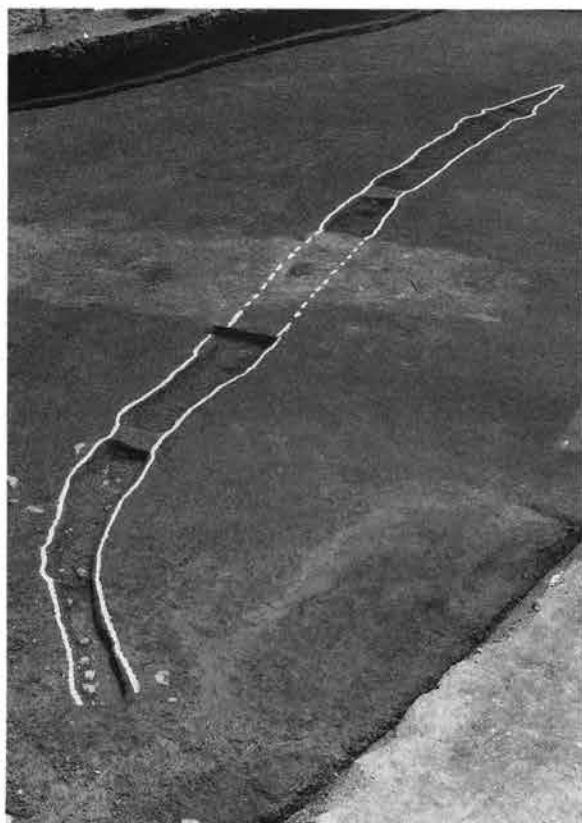
1 号 陥 没



1 号 地 割 れ



2 号 地 割 れ



1 号 溝



10 号 溝



11 号 溝



12 号 溝



五反田地区 ・ 平井地区 水田部分 調査前 遠景



試堀調査全景



AY~BG-40トレンチ アゼ検出状態



BF-36~37トレンチ 土層断面



BD~BH-50トレンチ 土層断面



五反田地区 As-B層下水田跡 全景 (垂直)



五反田地区 As-B層下水田跡 全景 (西より)



五反田地区 As-B層下水田跡 近景



五反田地区 As-B層下水田跡 近景



001 区画



002 区画



003 区画



004 区画



005 区画



006 区画



006 区画 水口



007 区画



008 区画



009 区画



010 区画



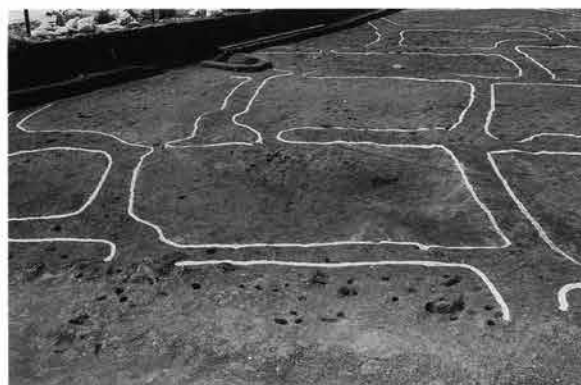
011 区画



012 区画



013 区画



017 区画



018 区画





020 区画



022 区画



026 区画



030 区画



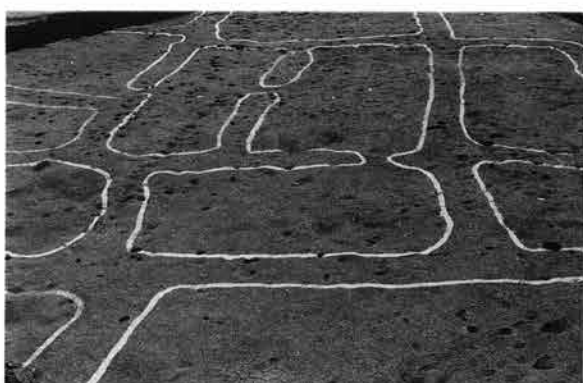
031 区画



044 区画



046 区画



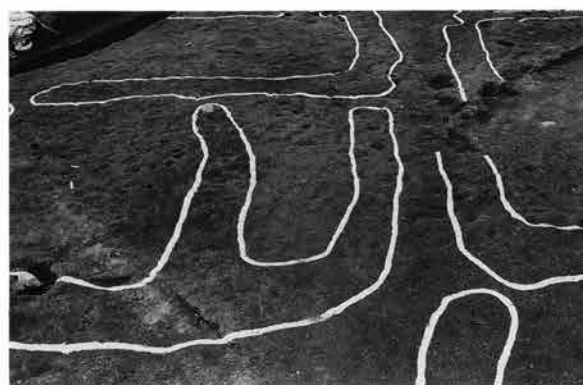
050 区画



053 区画



056 区画



062 区画



063 区画



072 区画



073 区画



079 区画



080 区画



3 号 水 路



1 号・2 号 水 路



1 号 埋 没 沢



1 号 埋 没 沢



牛 蹄 跡



牛 蹄 跡



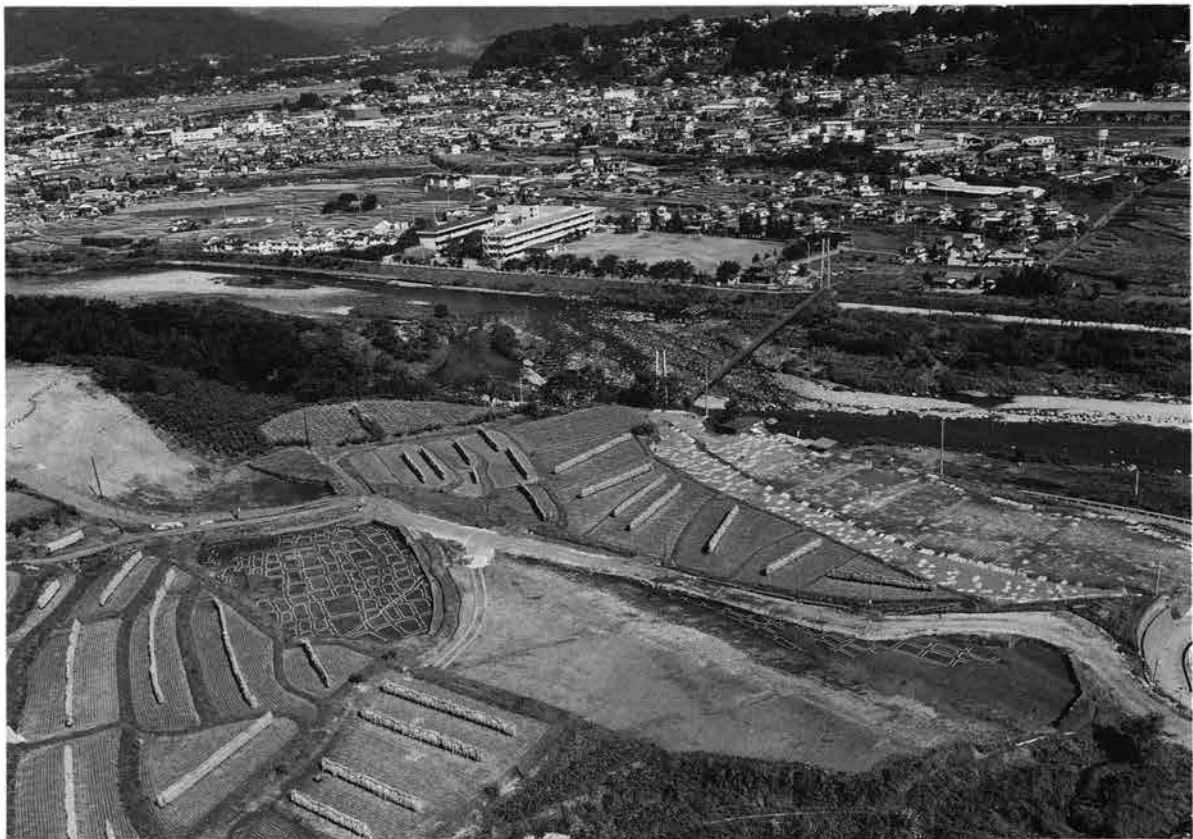
牛 蹄 跡



牛 蹄 跡



平井地区 As-B層下水田跡 全景 (垂直)



平井地区 As-B層下水田跡 全景 (斜め)



平井地区 1 区 As-B層下水田跡 近景



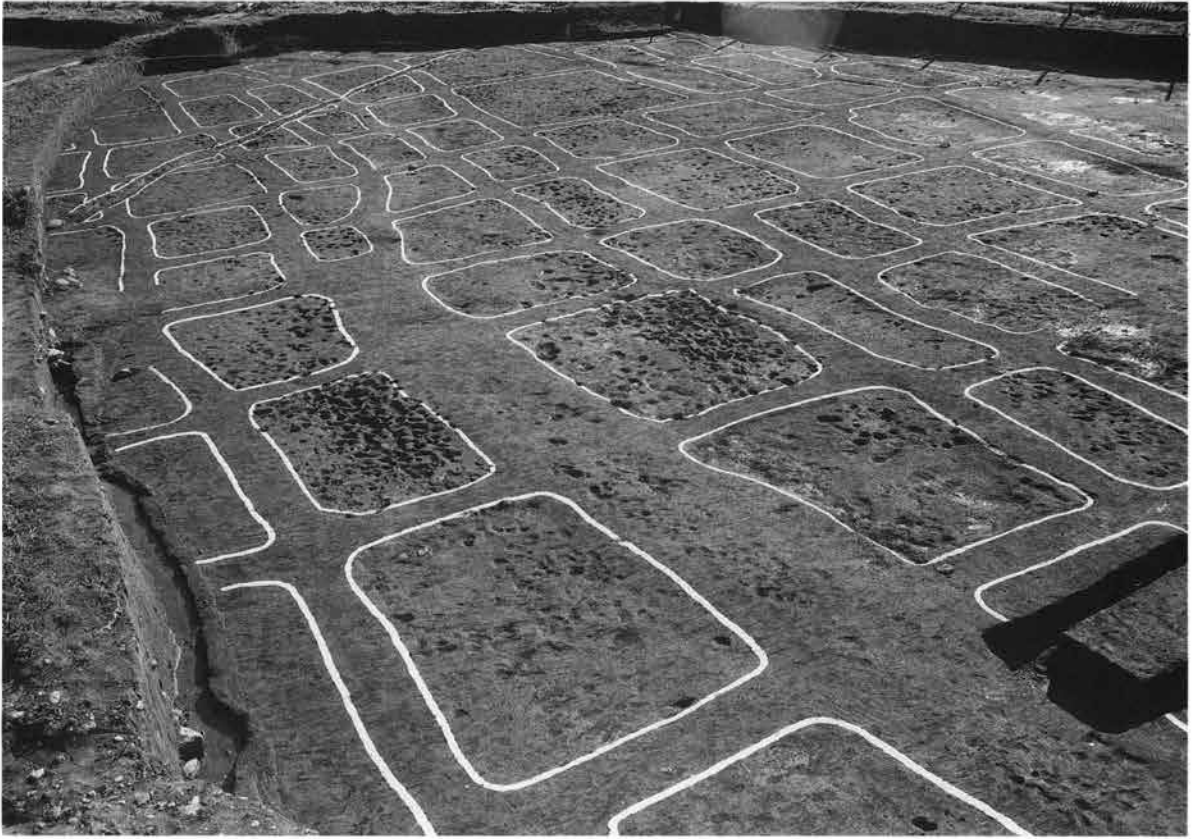
平井地区 1 区 As-B層下水田跡 近景



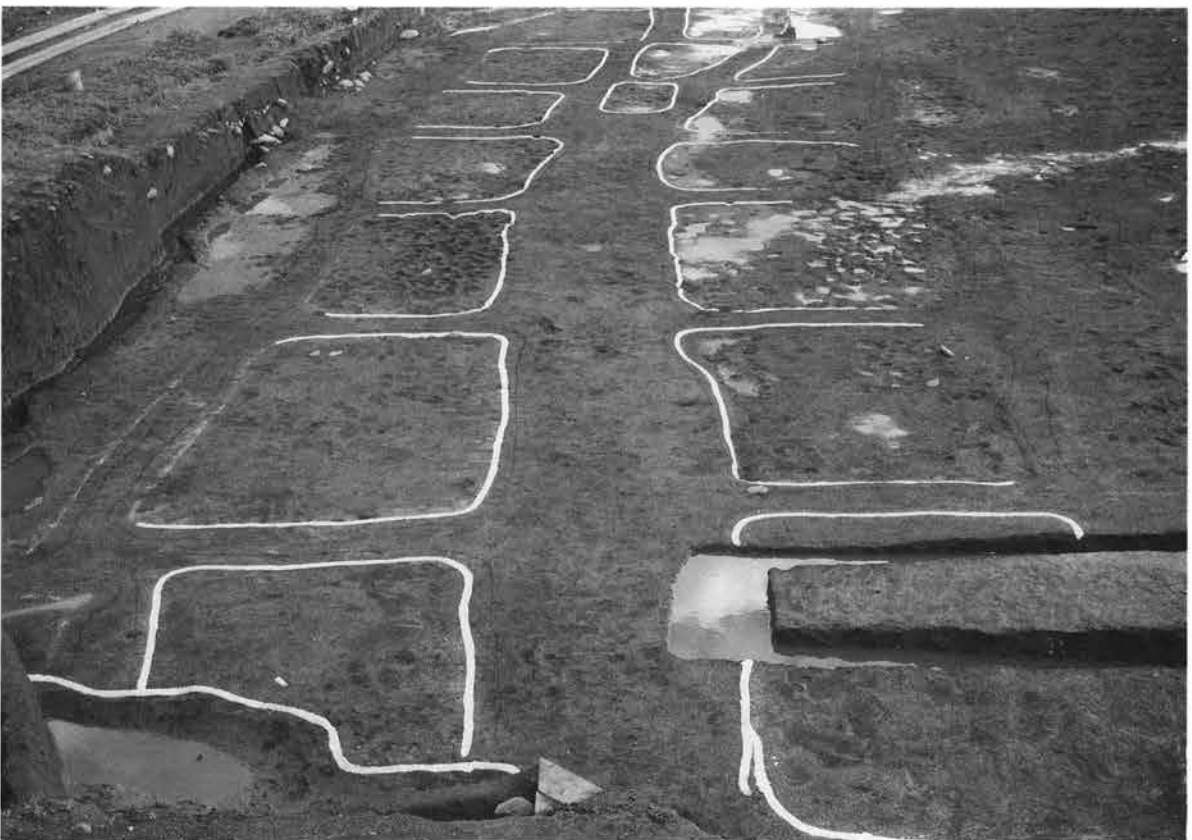
平井地区 3 区 As-B層下水田跡 全景



平井地区 3 区 As-B層下水田跡 全景



平井地区 3 区 As-B層下水田跡 近景



平井地区 As-B層下水田跡 大アゼ



平井地区 4 区 As-B層下水田跡 全景



平井地区 4 区 As-B層下水田跡 近景



平井地区 4 区 As-B層下水田跡 近景



平井地区 4 区 As-B層下水田跡 近景



平井地区 4 区 As-B層下水田跡 水口





五反田地区 IVa層下水田跡 全景 (東より)



五反田地区 IVa層下水田跡 全景 (西より)



103 区画



105 区画



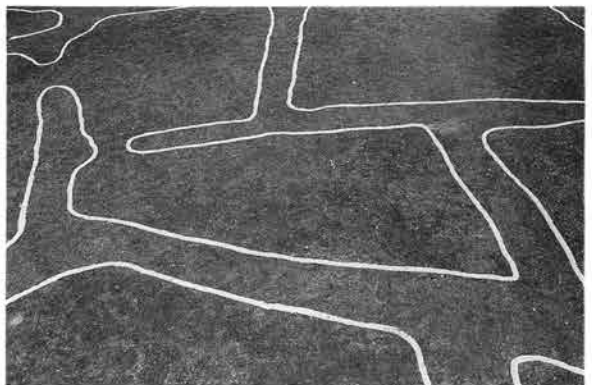
107 区画



108 区画



114 区画



115 区画



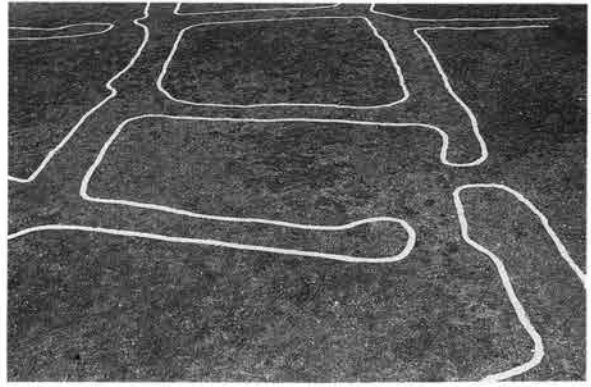
116 区画



120 区画



124 区画



125 区画



130 区画



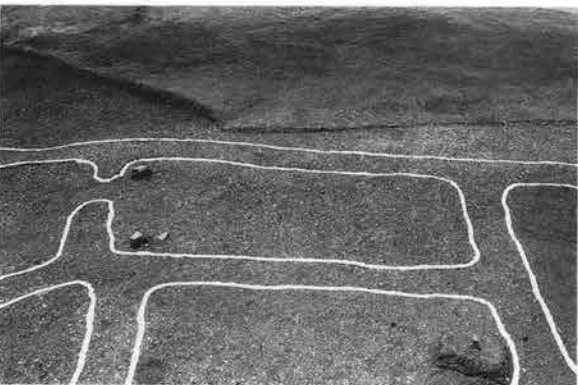
132 区画



136 区画



142 区画



144 区画



155 区画



五反田地区 FP層下水田跡 全景 (垂直)



五反田地区 FP層下水田跡 全景 (斜め)



五反田地区 FP層下水田跡 全景



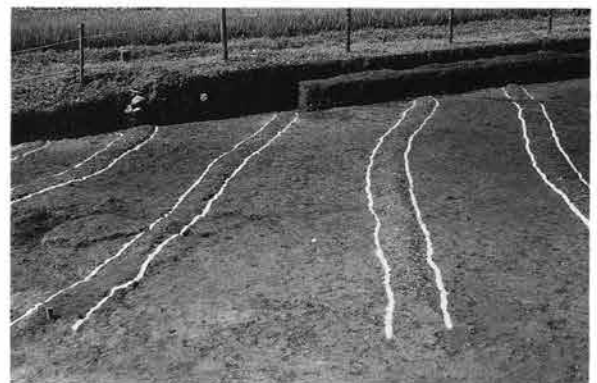
土層断面 A-A'



203 区画



205 区画



206 区画



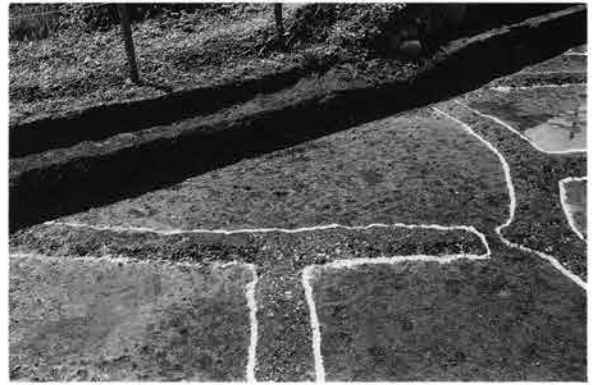
208 区画



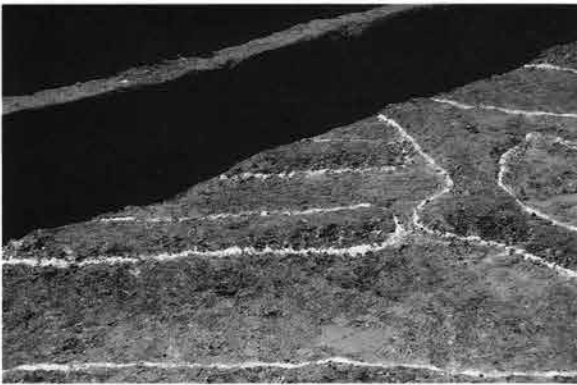
210 区画



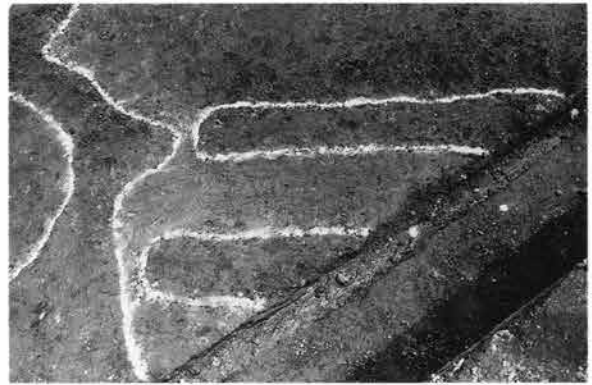
210 区画 水口



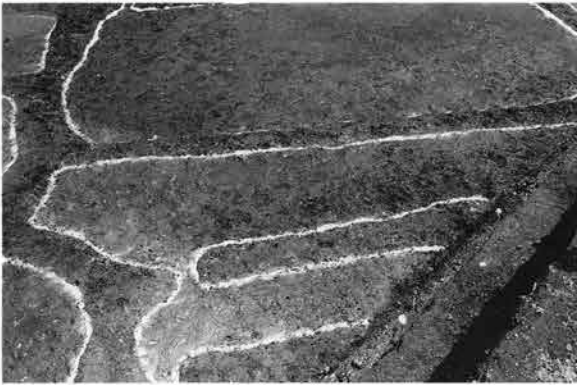
211 区画



212 区画



212 区画 水口



213 区画



214 区画



215 区画



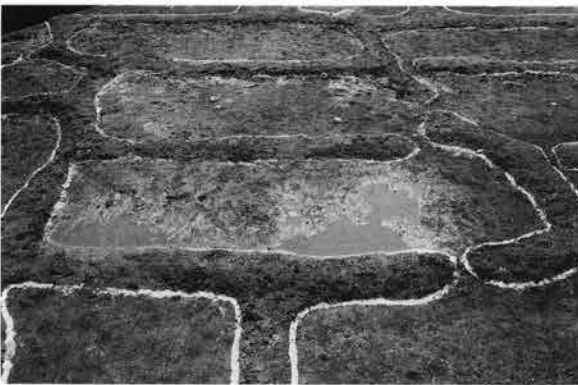
216 区画



220 区画



221 区画



222 区画



223 区画



224 区画



224 区画 水口



228 区画



237 区画



238 区画



247 区画



249 区画



251 区画

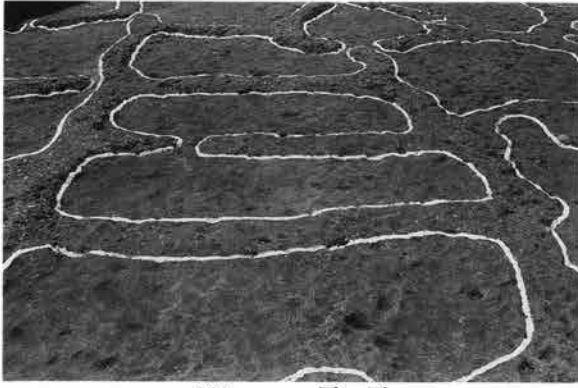


256 区画



267 区画





269 区画



270 区画



298 区画



302 区画



316 区画



339 区画



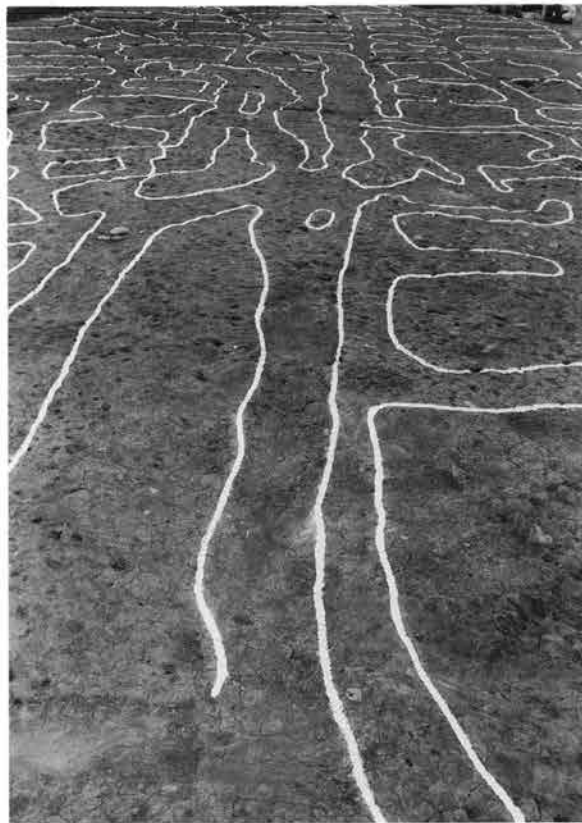
382 区画



396 区画



5 号・6 号 水路



6 号 水路



1 号 埋没 沢



2 号 集 石



3 号 集 石



4 号 集 石



5 号・6 号 集 石



7 号 集 石



8 号 集 石



9 号 集 石



10 号 集 石



平井地区 FP層下水田跡 全景 (垂直)



平井地区 FP層下水田跡 全景 (斜め)



平井地区 1 区 FP層下水田跡 全景



平井地区 1 区 FP層下水田跡 近景



平井地区 2 区 FP層下水田跡 近景



平井地区 2 区 FP層下水田跡 近景



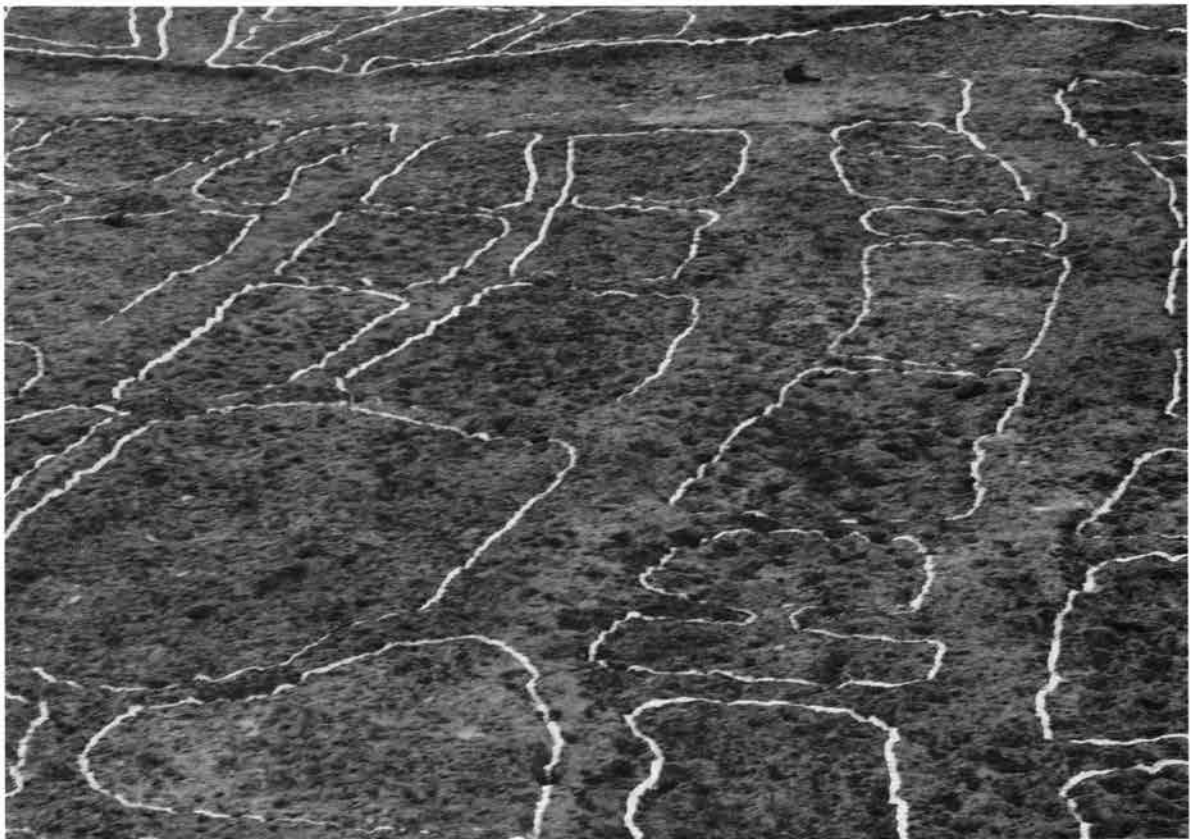
平井地区 3 区 FP層下水田跡 検出時状態



平井地区 3 区 FP層下水田跡 近景



平井地区 3 区 FP層下水田跡 近景



平井地区 3 区 FP層下水田跡 大アゼ





平井地区 3 区 FP層下水田跡 2号沢埋没状況



平井地区 3 区 FP層下水田跡 2号沢埋没 土層断面 (西より)



平井地区 3 区 FP層下水田跡 2号沢埋没 土層断面 ( 北東より )



平井地区 3 区 FP層下水田跡 2号沢埋没 土層断面 ( 東より )



平井地区 4 区 FP層下水田跡 近景



平井地区 4 区 FP層下水田跡 近景



平井地区 5区石垣遺構 ( 東より )

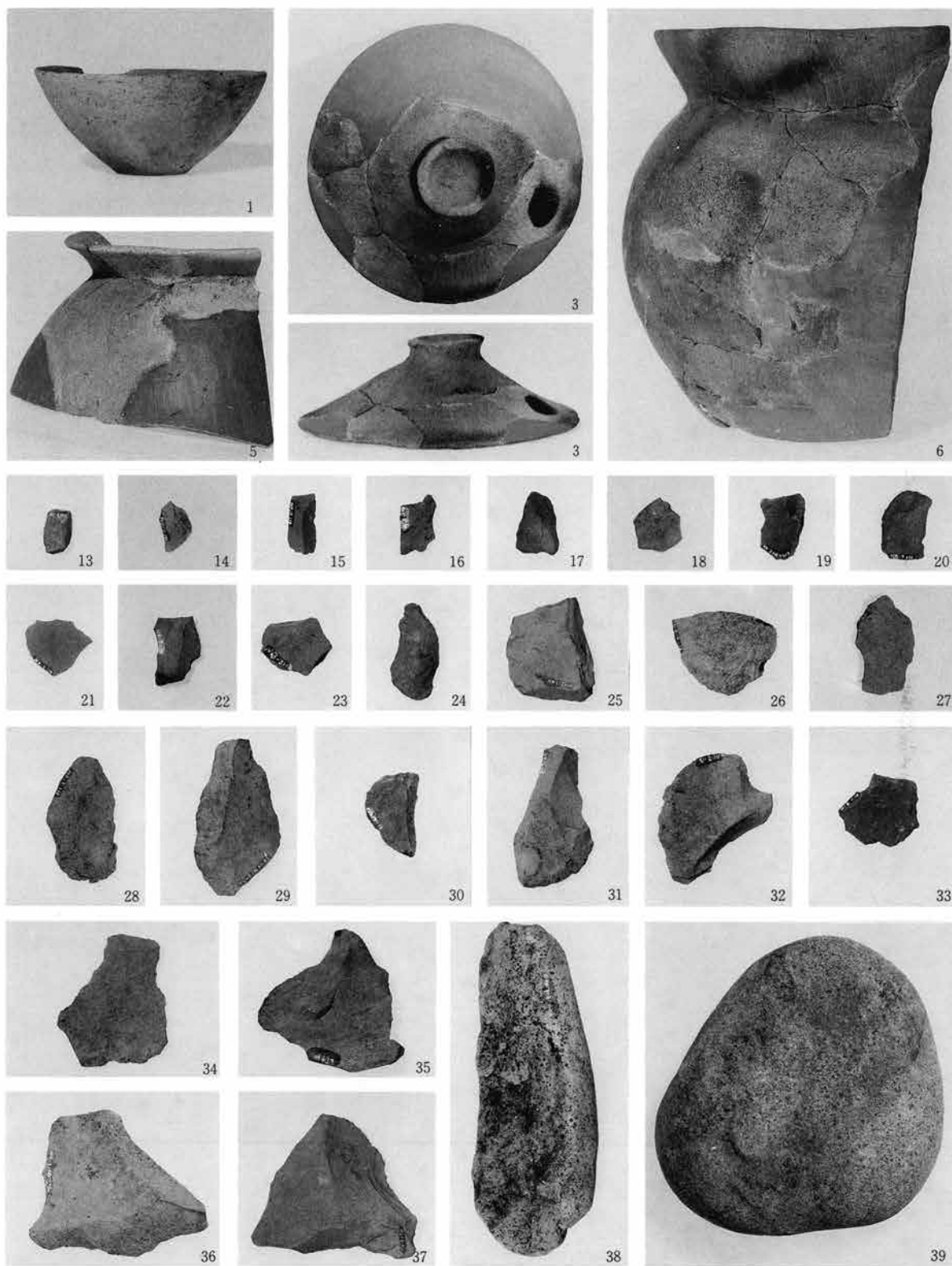


平井地区 5区石垣遺構 ( 北より )

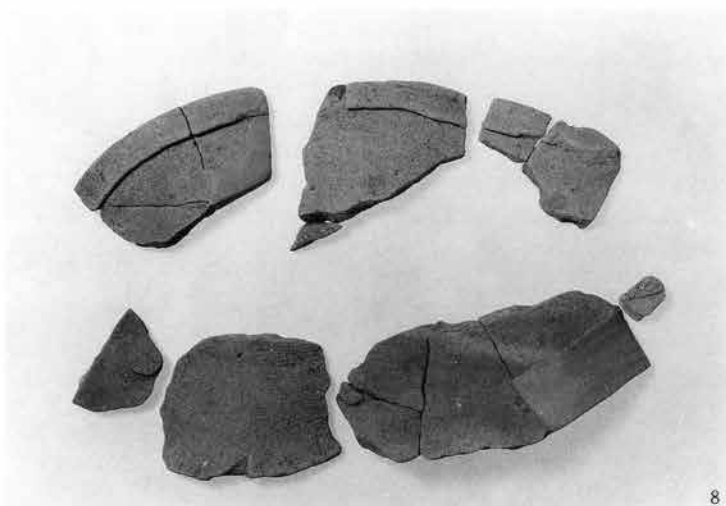
1 竖穴住居跡

(1) 弥生時代住居跡

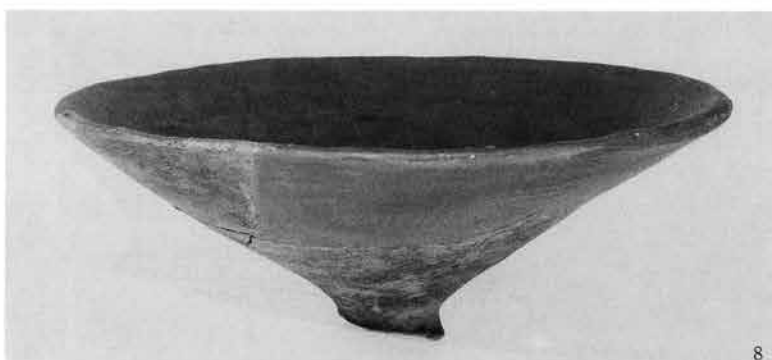
1号住居跡



2号住居跡



10号 住居跡





37



38



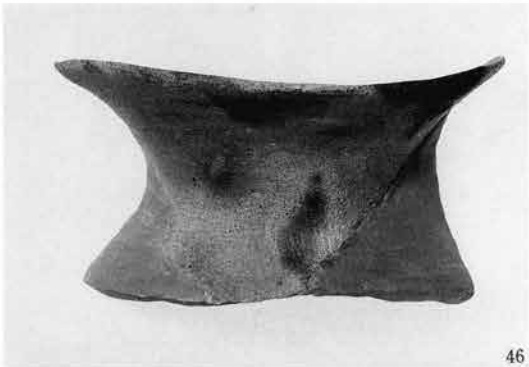
41



44



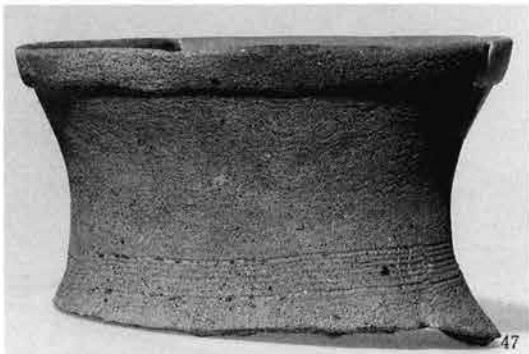
45



46



49



47



50



52



55



59



59



43



57

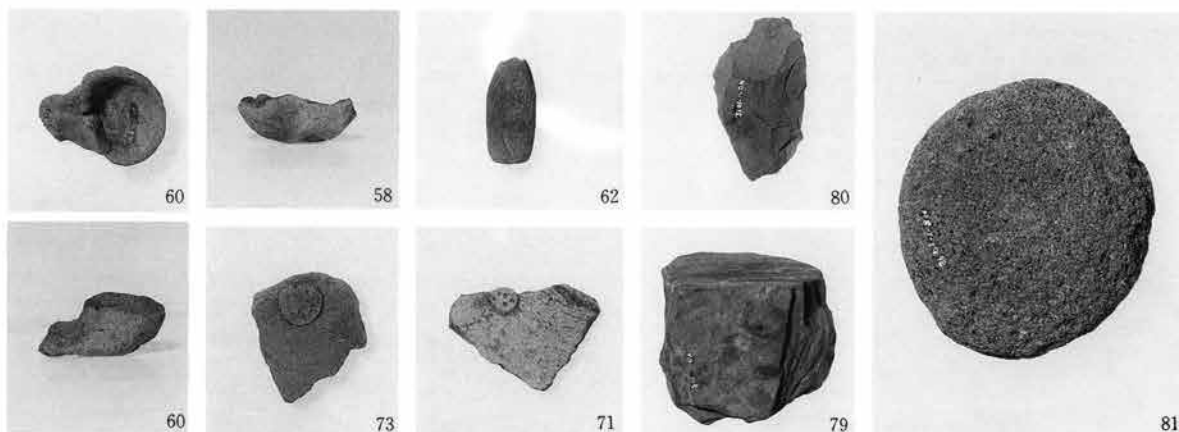


61

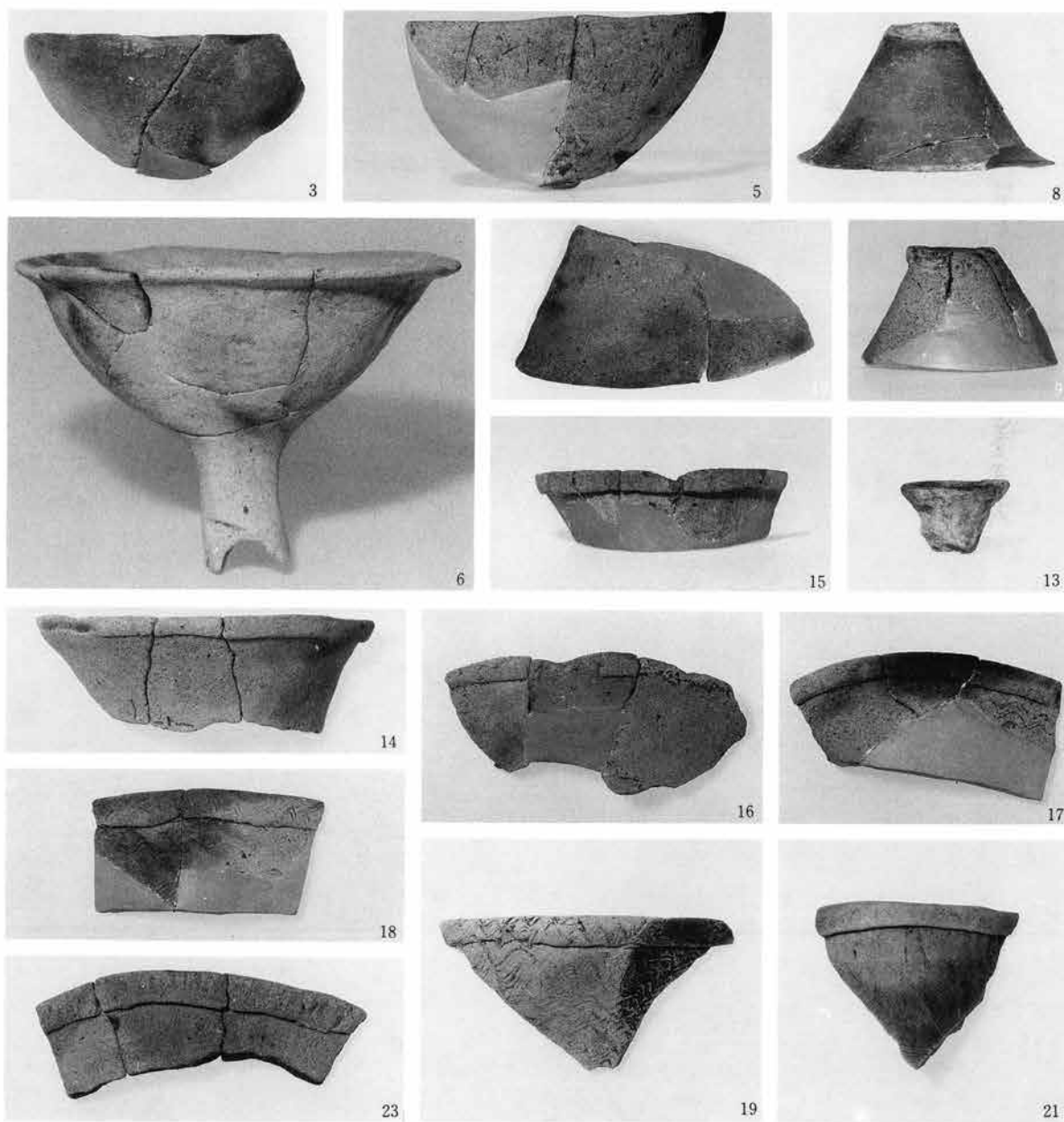


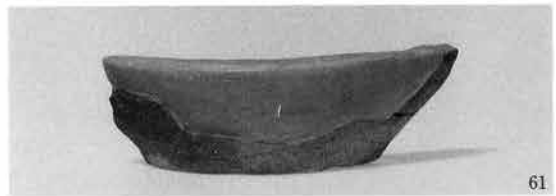
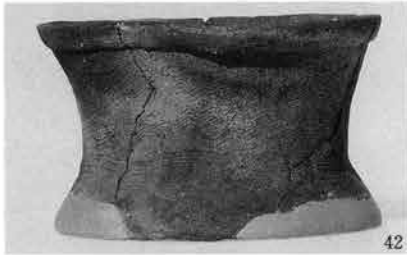
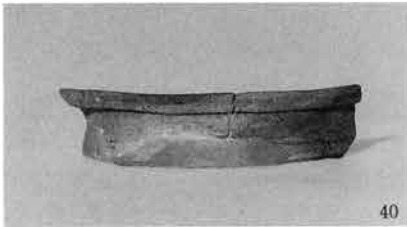
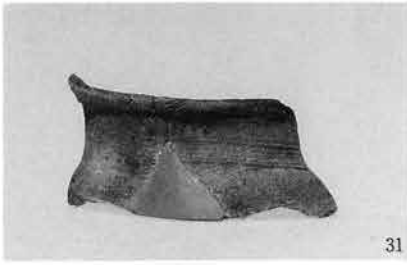
61

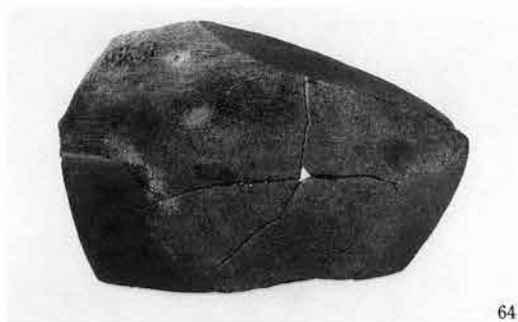




11号住居跡







64



68



66



71



82



82



69



79



83



85



83



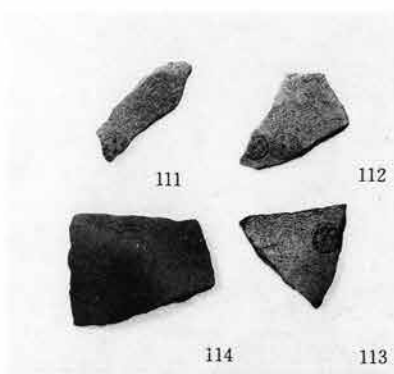
86



84



132



111

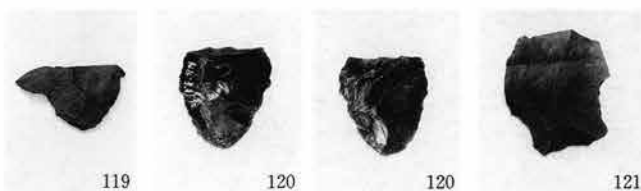
112

114

113



84

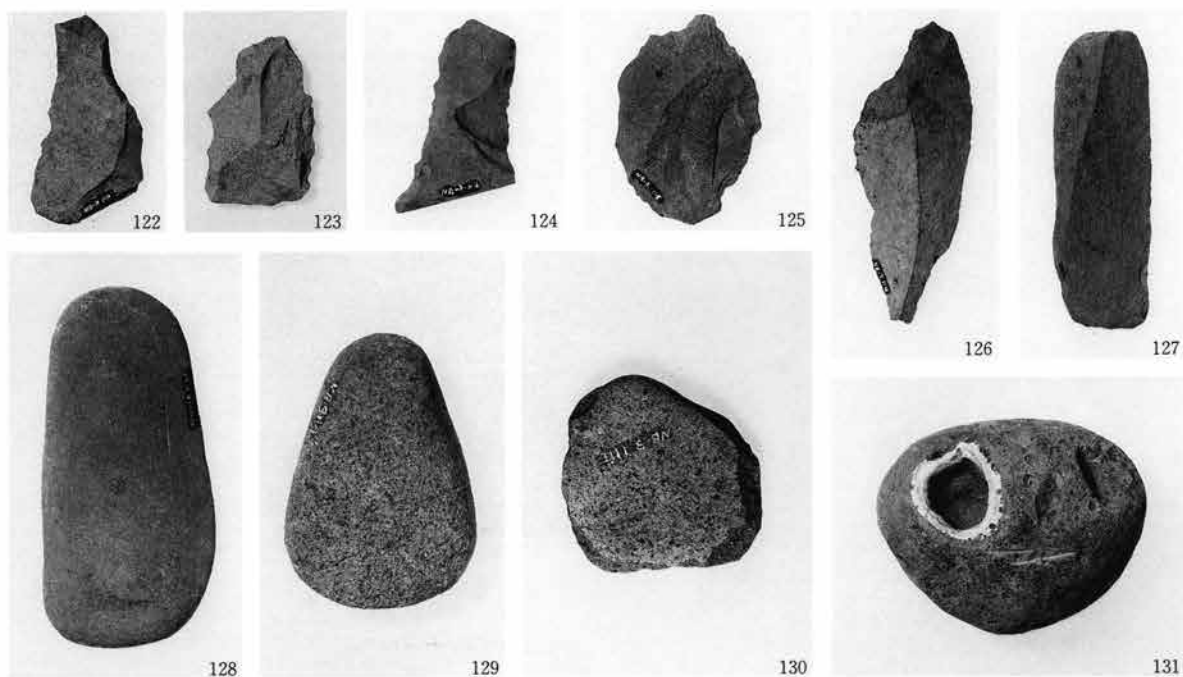


119

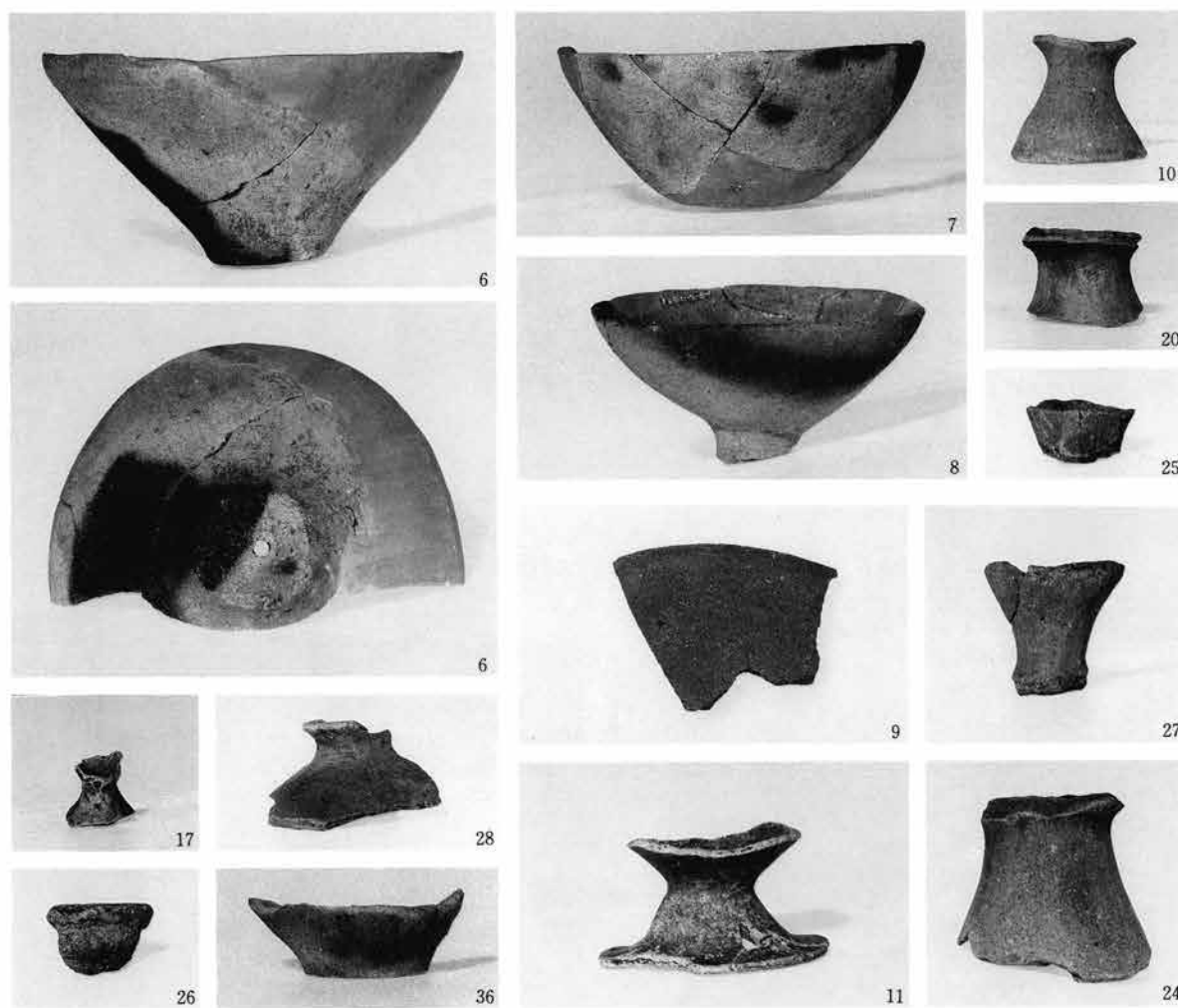
120

120

121



12号 住居跡







51



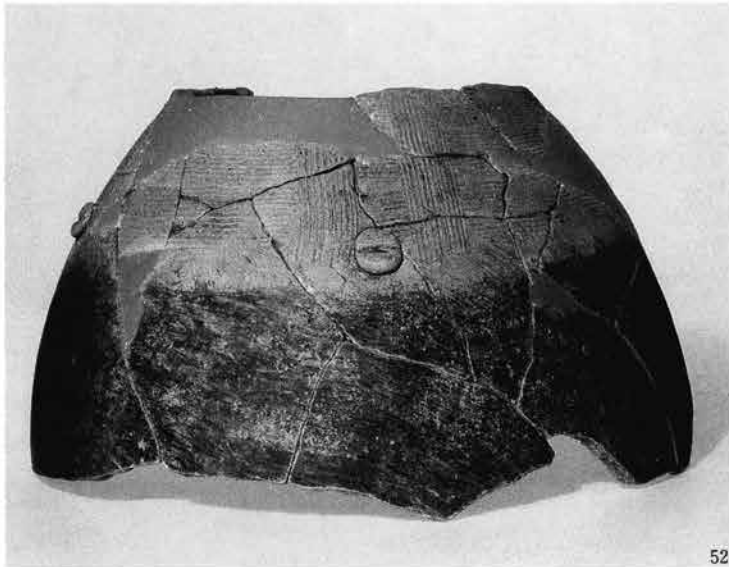
58



53



59



52



67



76



67



76



76



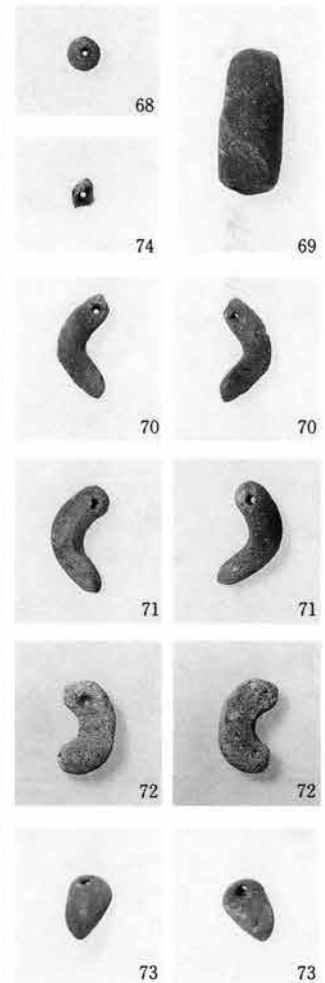
69



61



63

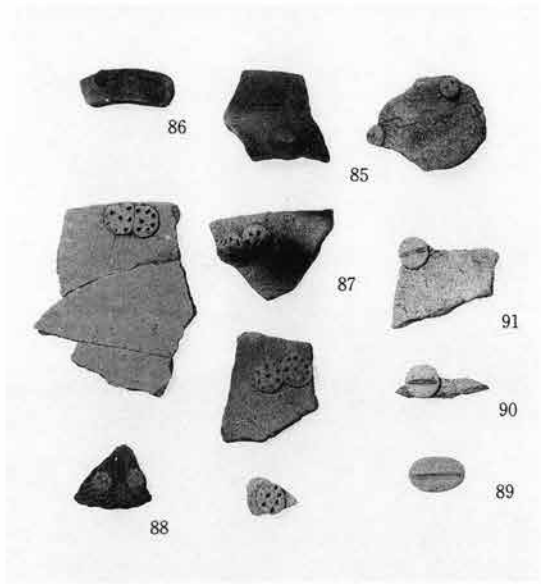




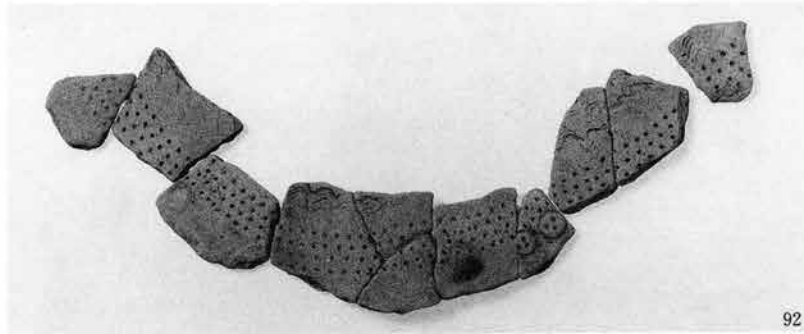
62



65



75



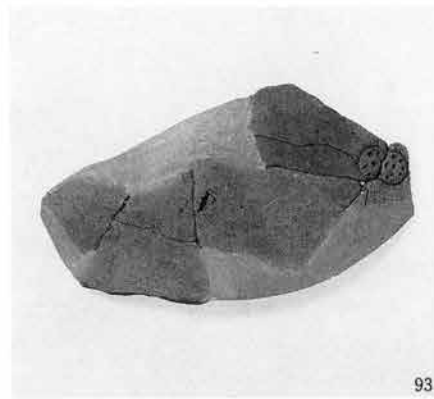
92



75



75

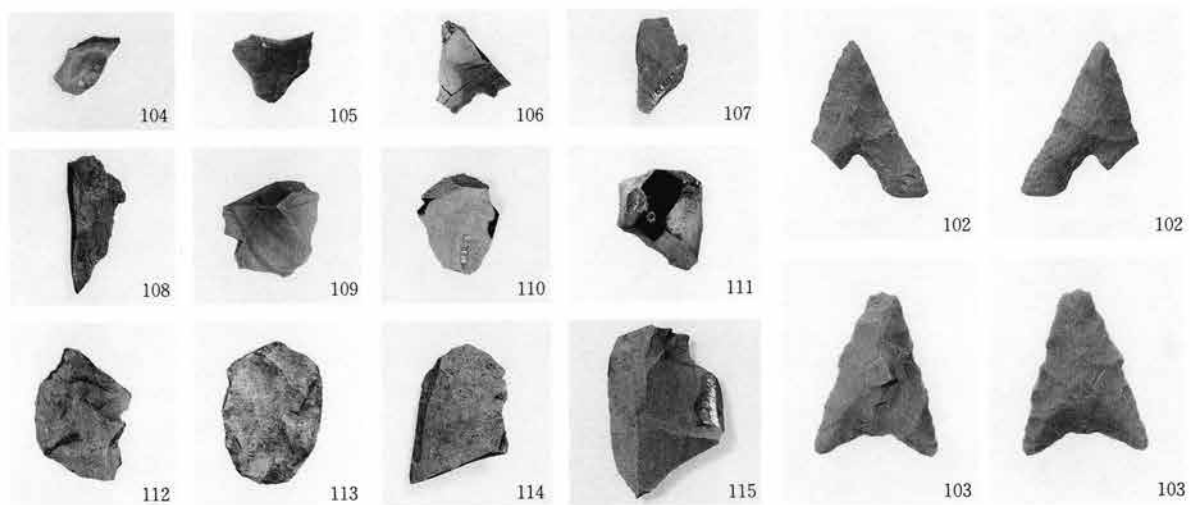


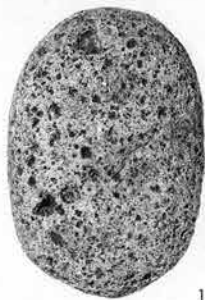
93



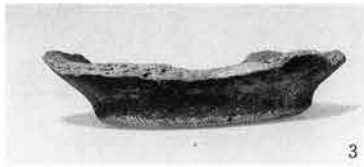


64





17号 住居跡



3



4



6

23号 住居跡



1



7



10



17



9



12



8



4



5



13



11



20



22



25



28



29



35

24号 住居跡



6



36



36



37



8



9



10



11



12



13



14



16



18



20



23



19



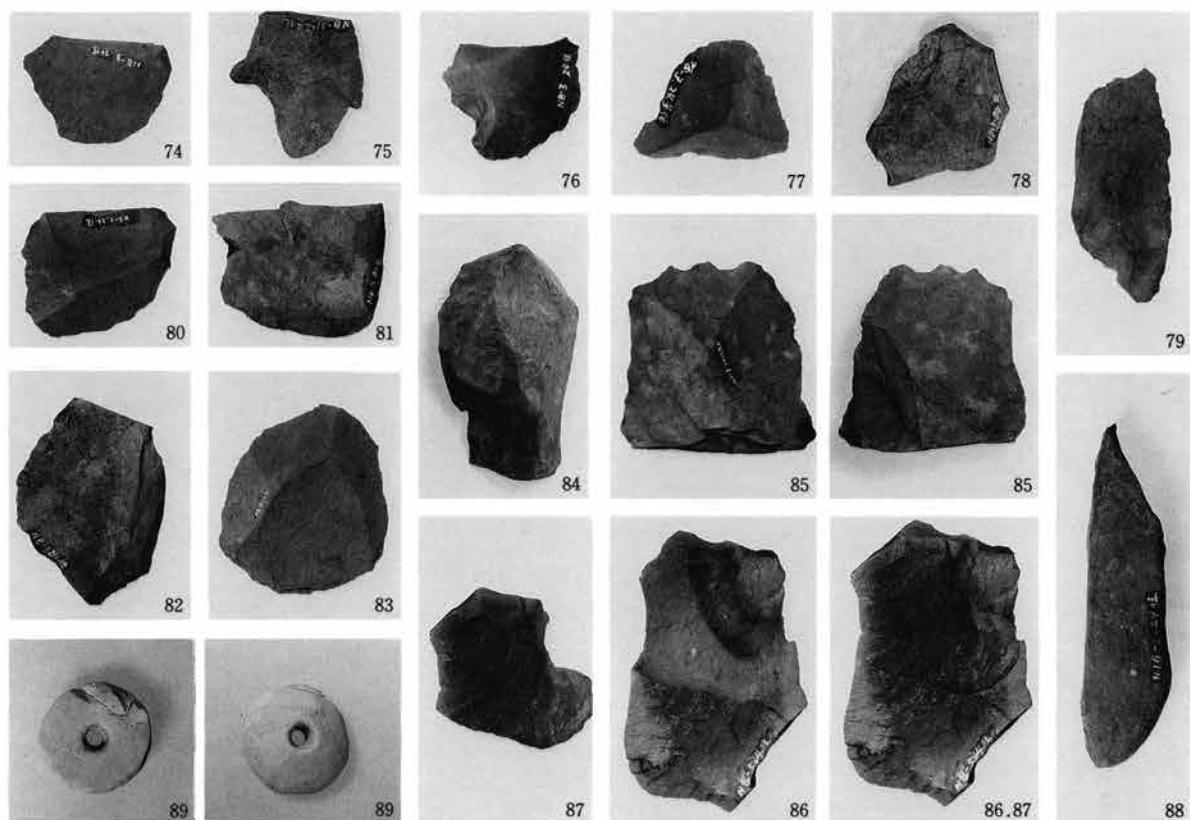
22



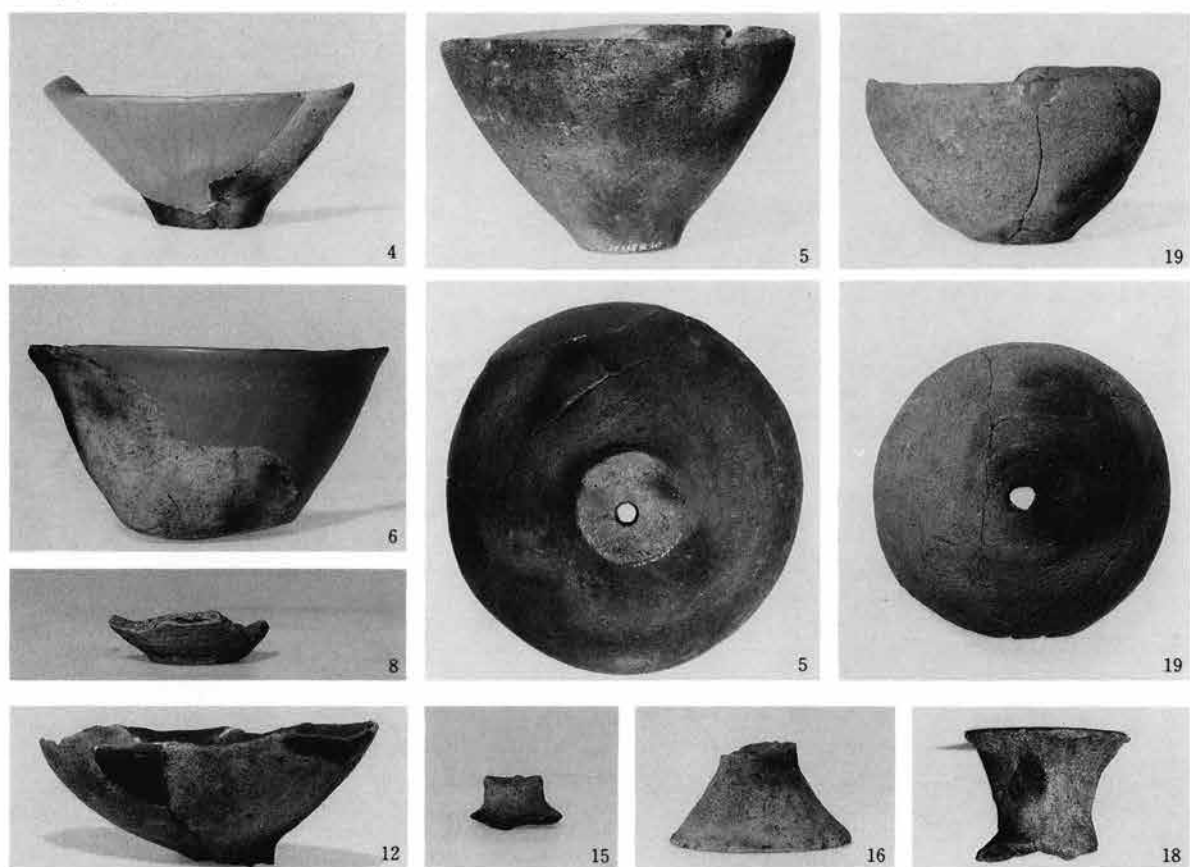
24





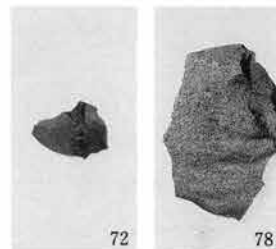
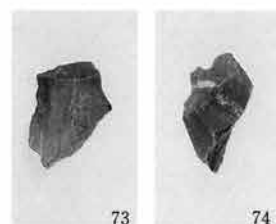
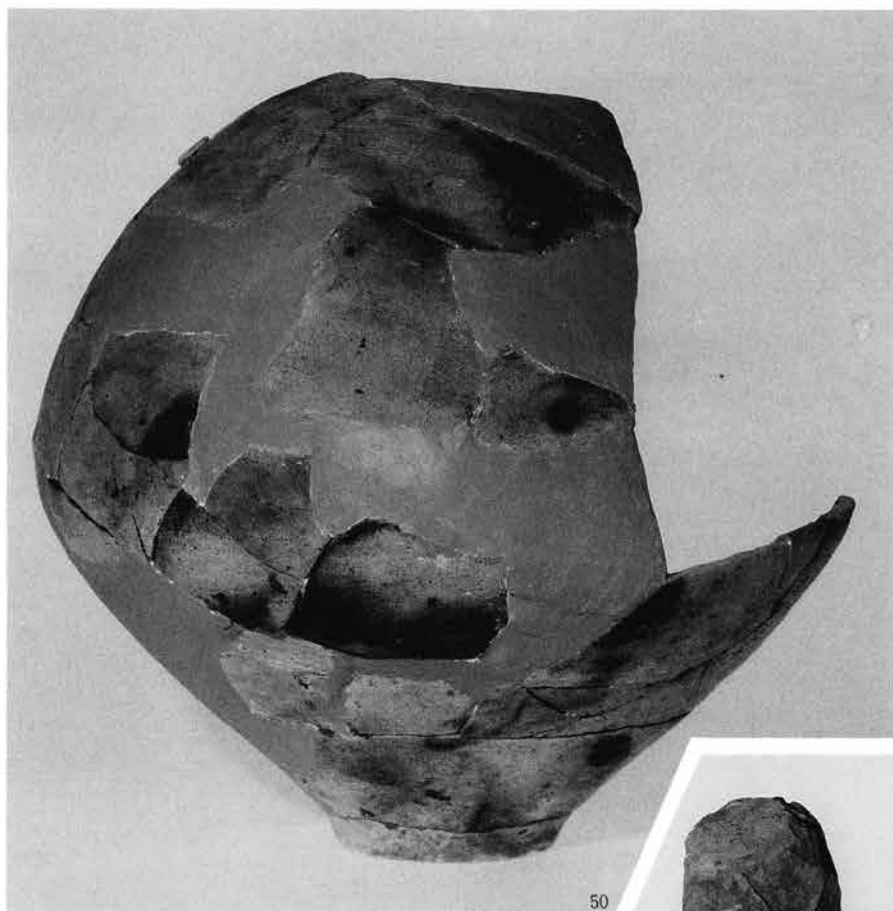


25号 住居跡











51



79



80



76



81



82



83



84



85



86



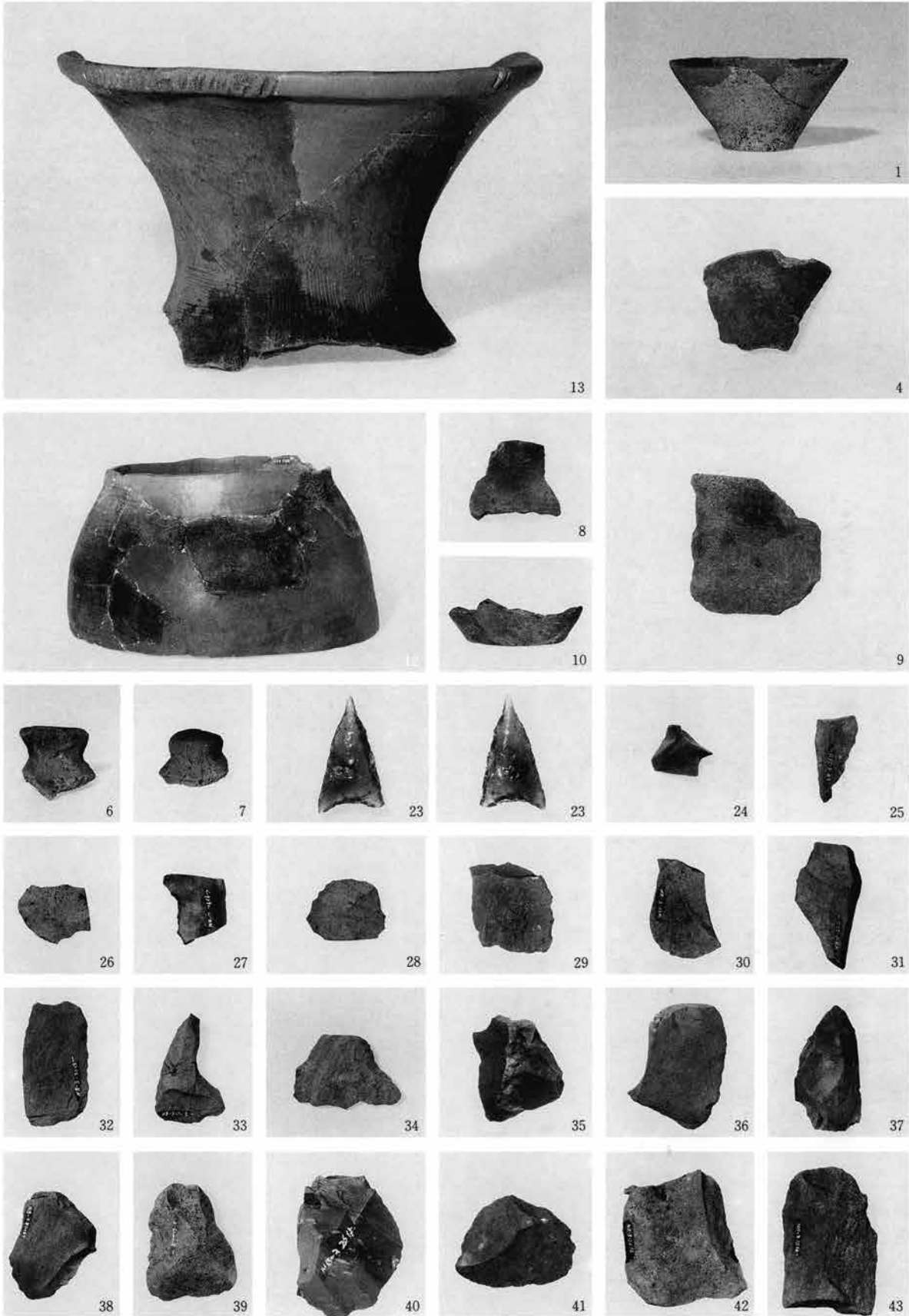
51

88

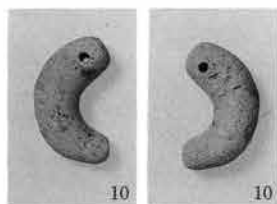


88

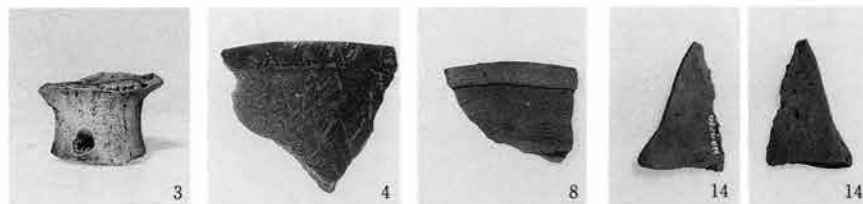
26号住居跡



27号 住居跡



28号 住居跡



29号 住居跡

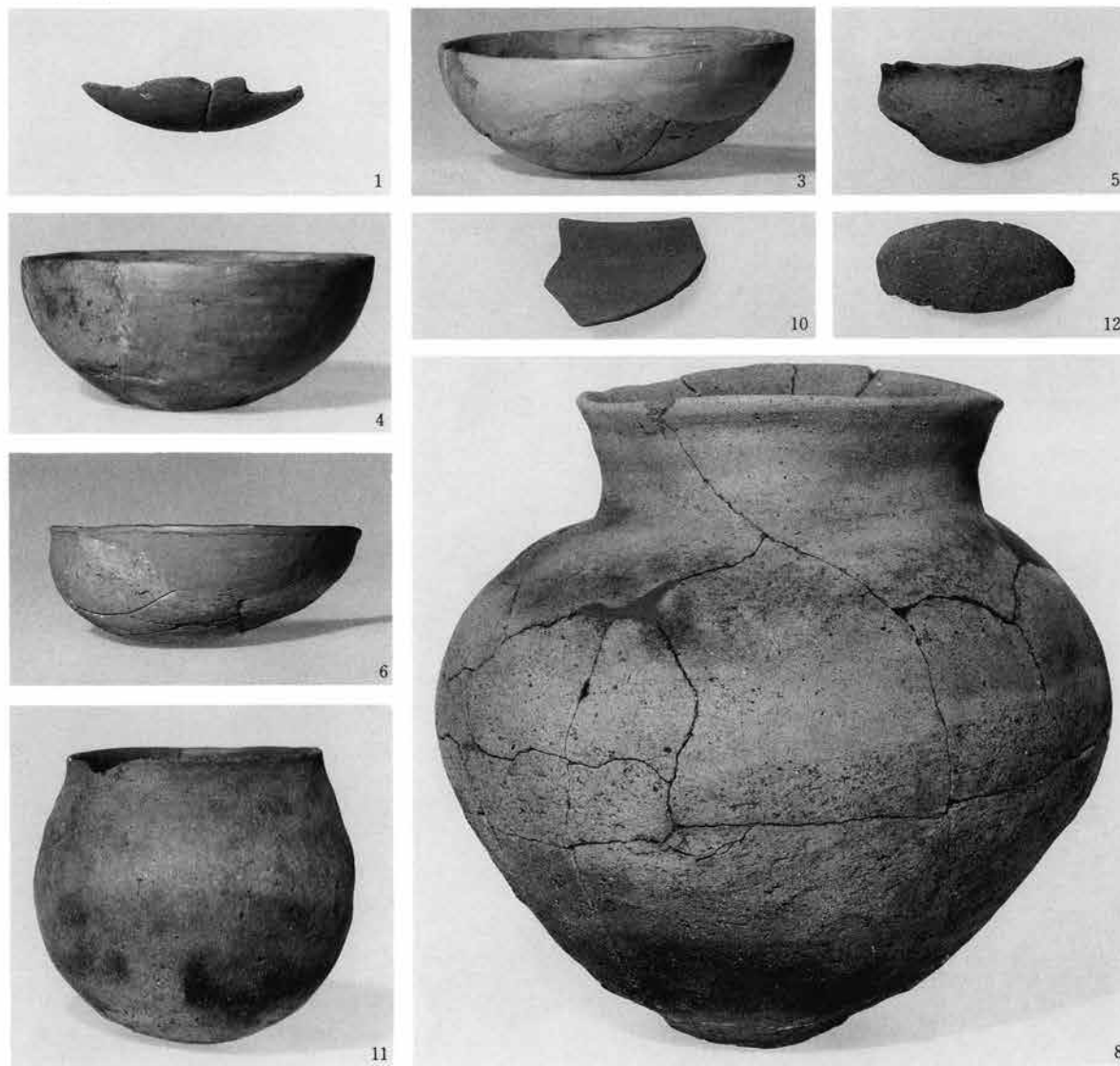


31号 住居跡



(2) 古墳時代住居跡

22号 住居跡





32号 住居跡





3



4

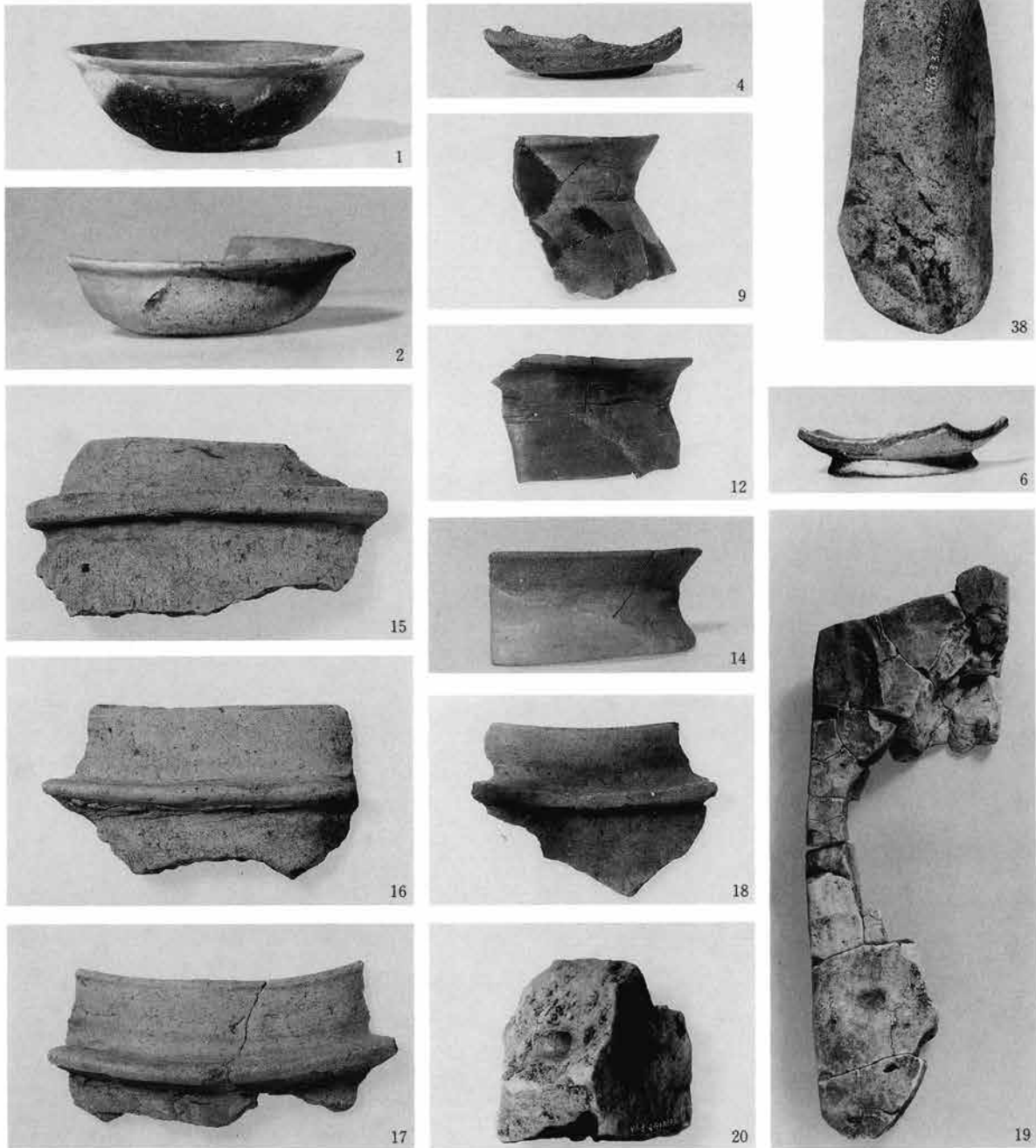


(3) 奈良・平安時代住居跡  
3号住居跡

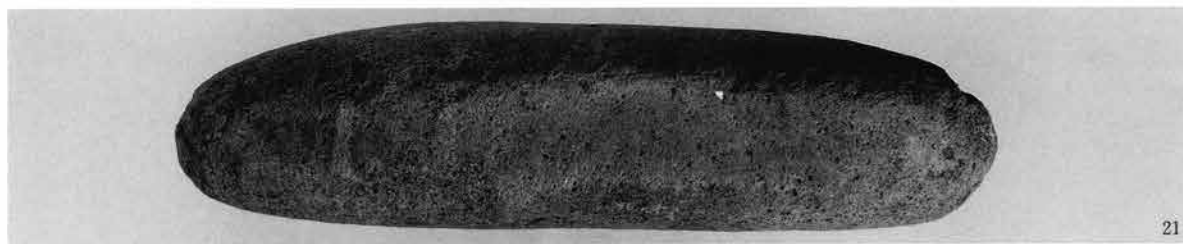




4号住居跡







21

5号住居跡



2

6号住居跡



4



7



8



10



13



11



14



14

8号住居跡



1



8



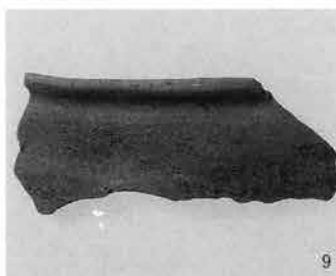
4



6



10



9



12



14



15



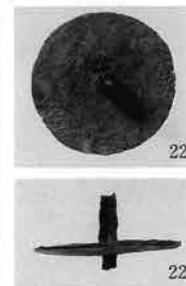
16



16



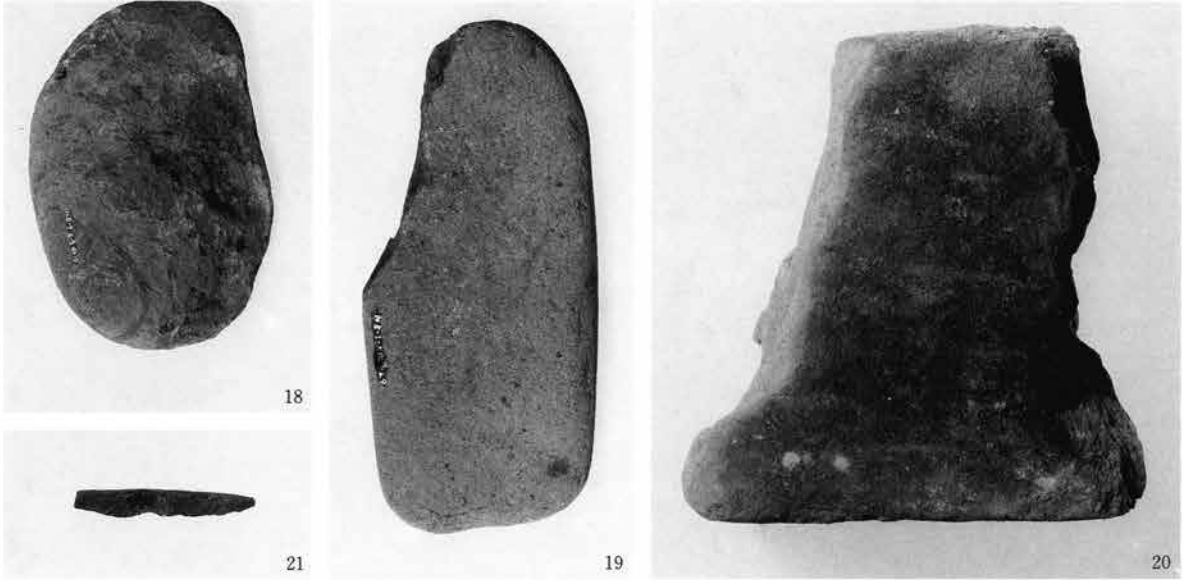
17



22



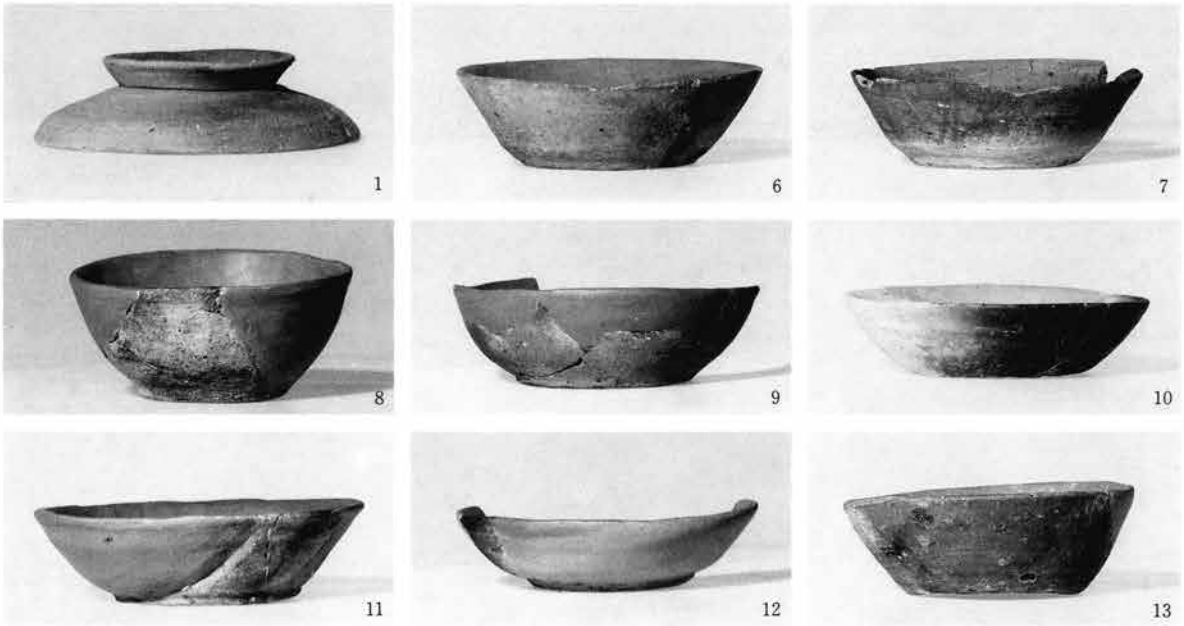
22

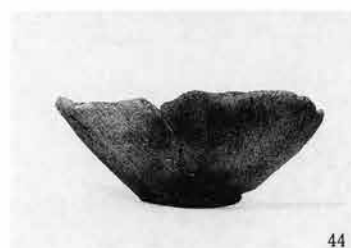


9号住居跡

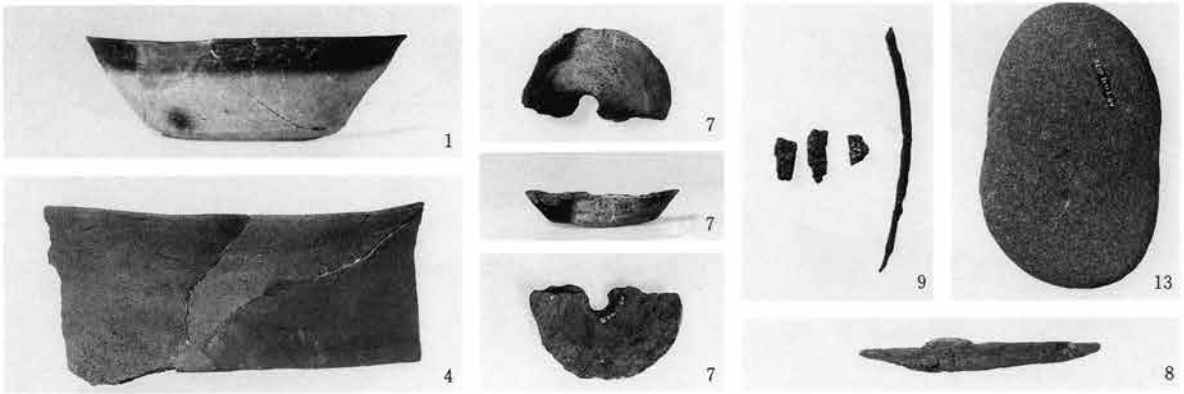


13号住居跡



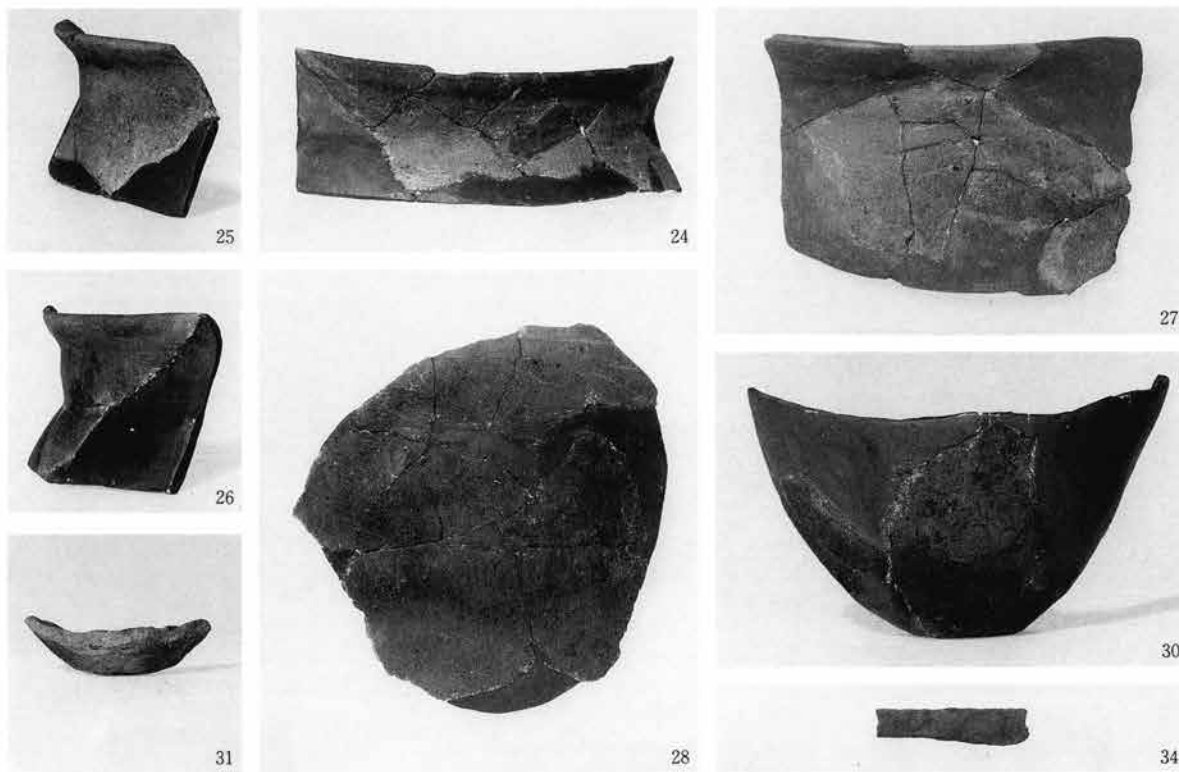


14号 住居跡

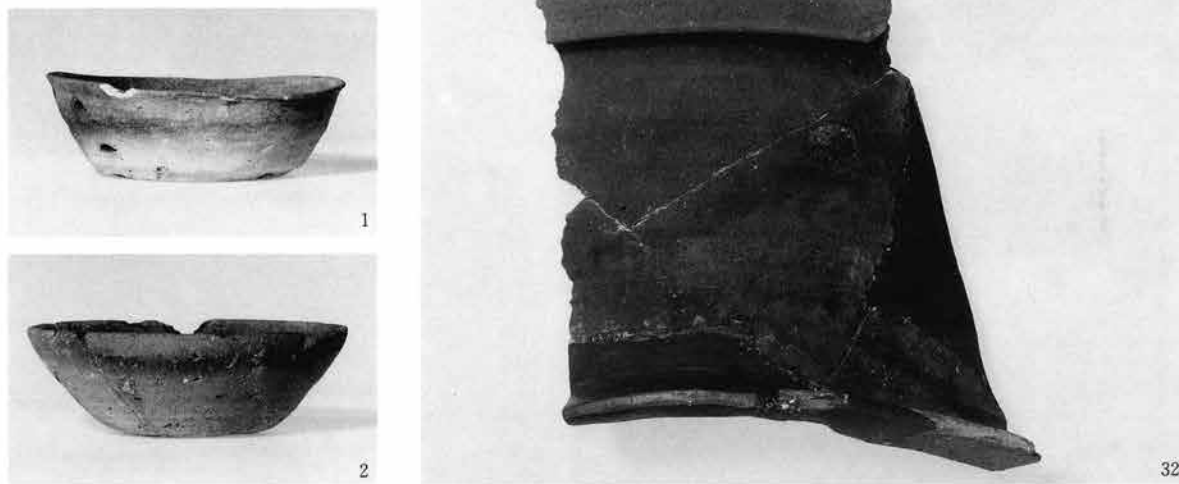


15号 住居跡





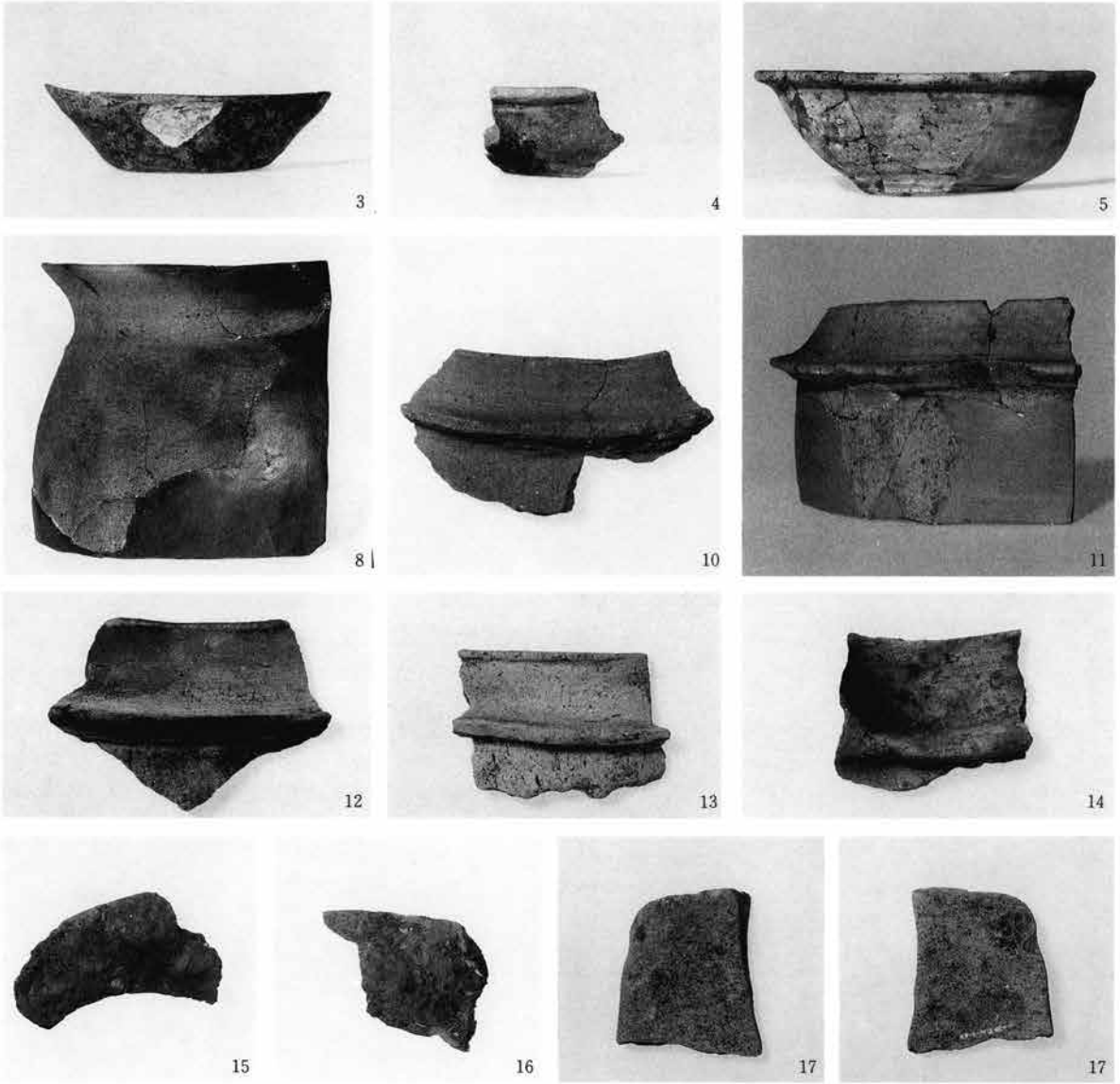
16号 住居跡



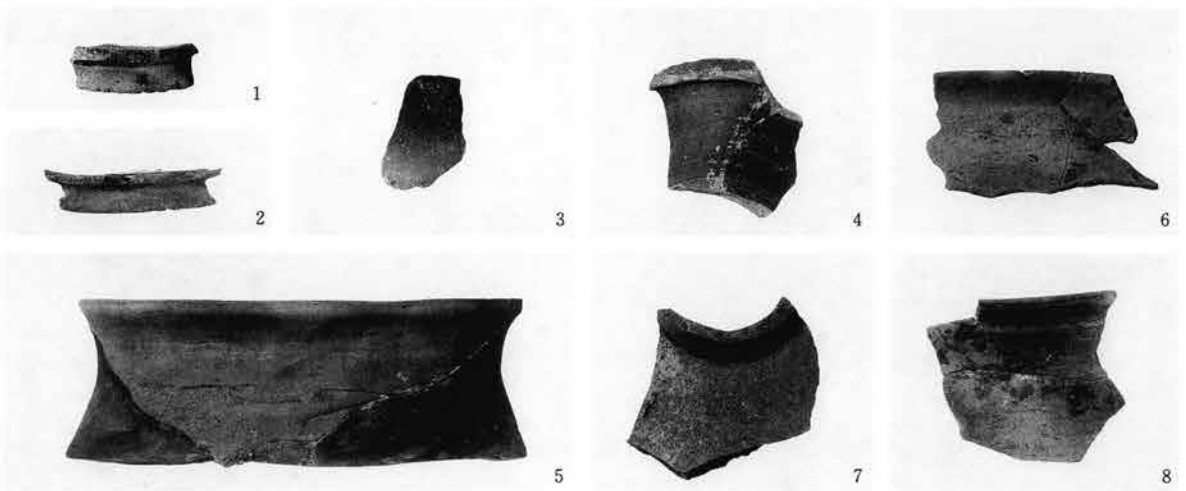
18 住居跡



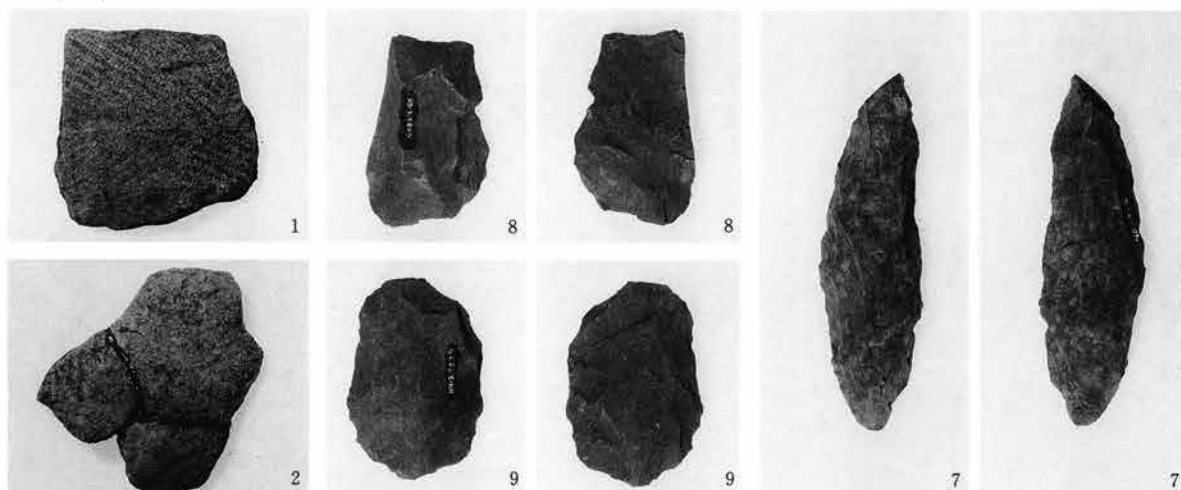
19号住居跡



33号住居跡

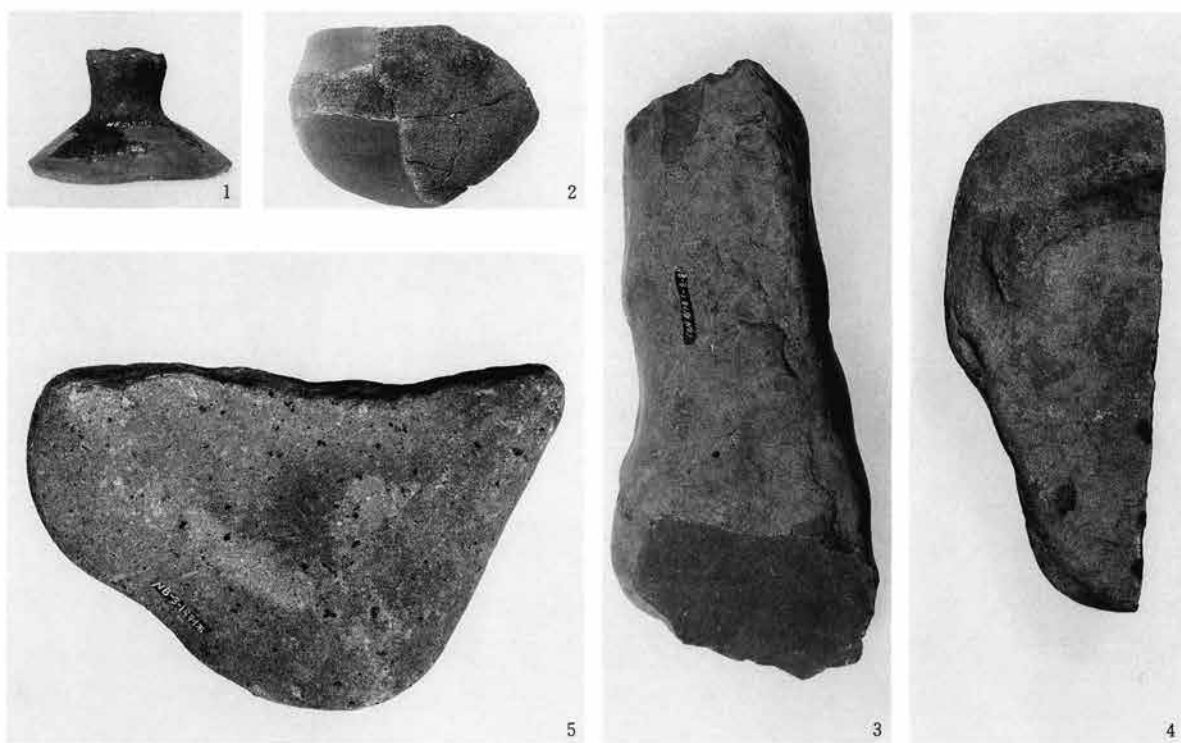


9号土坑



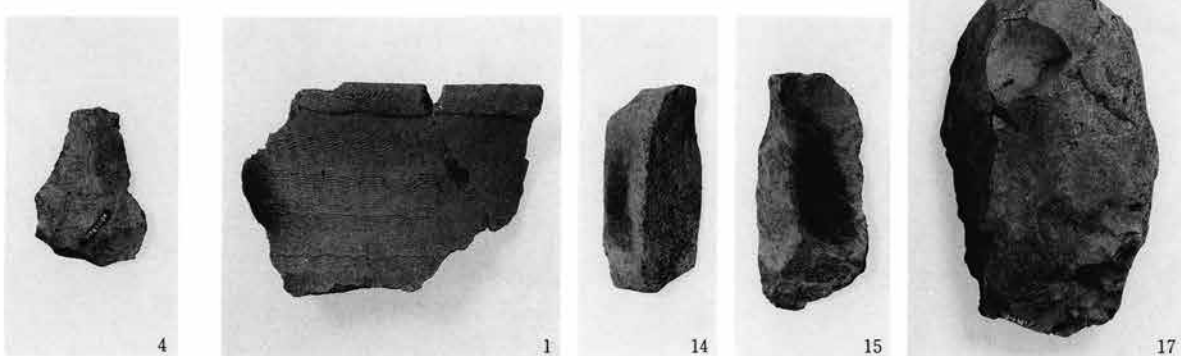
五反田地区、1号集石

1号列石

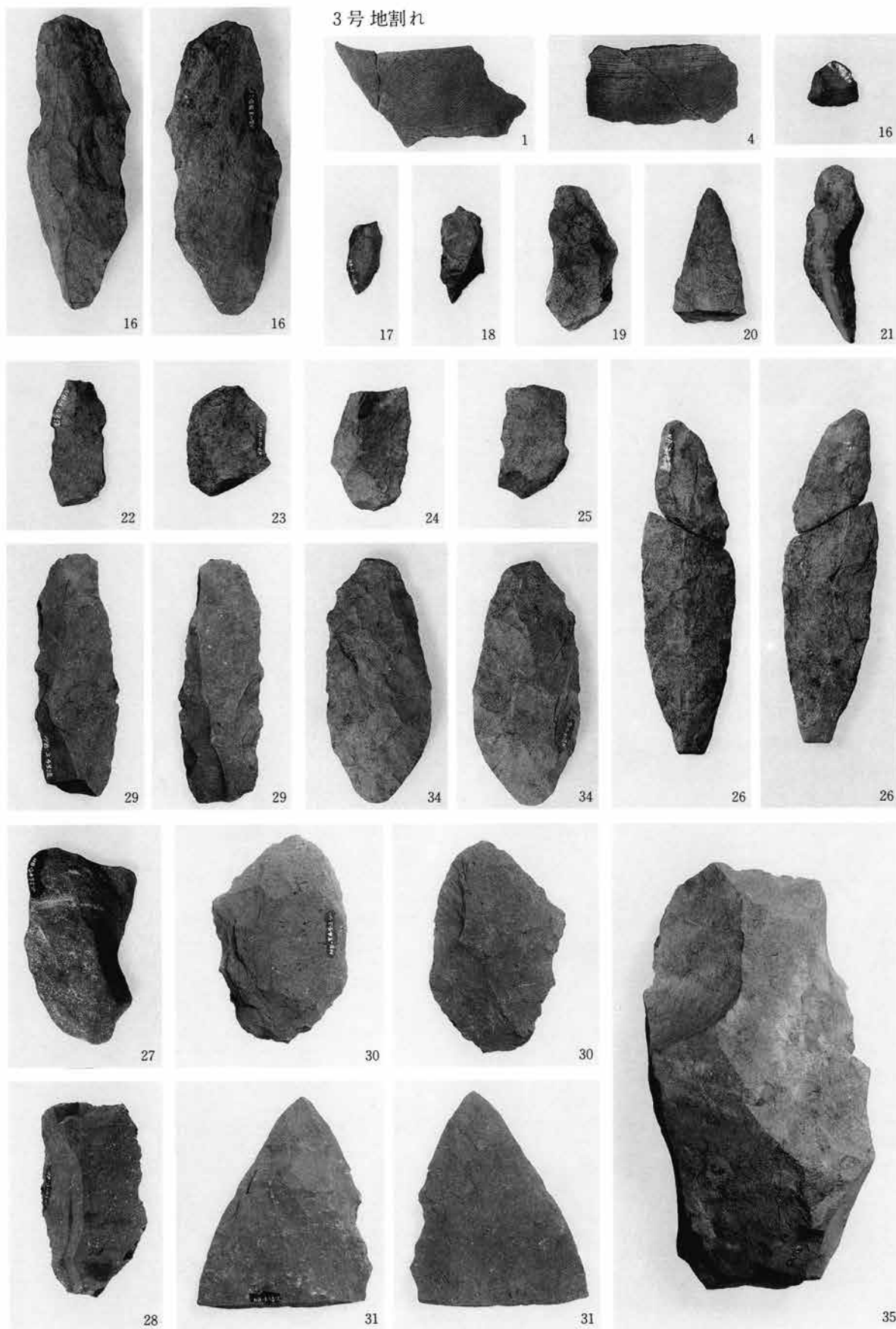


1号陥没

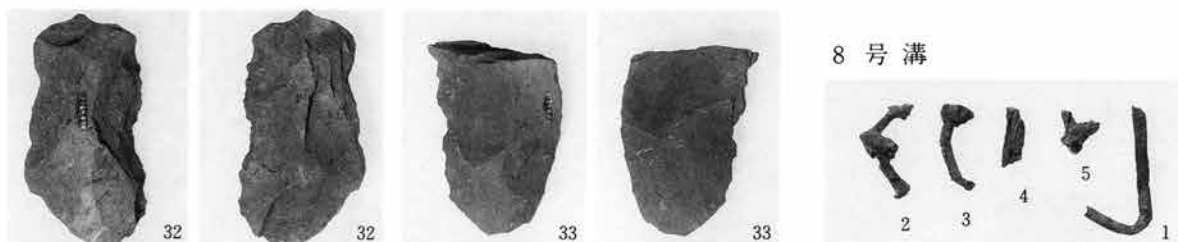
1号地割れ



3号地割れ

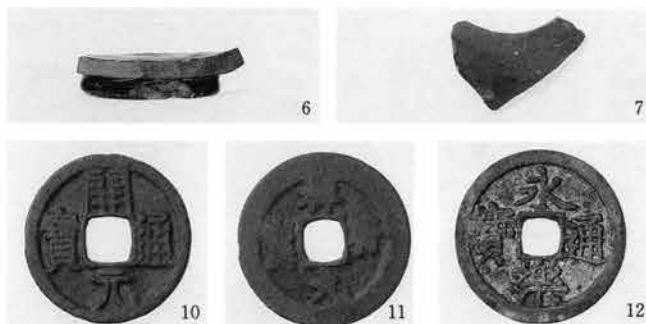






5 水田跡

As-B層下水田跡 五反田地区



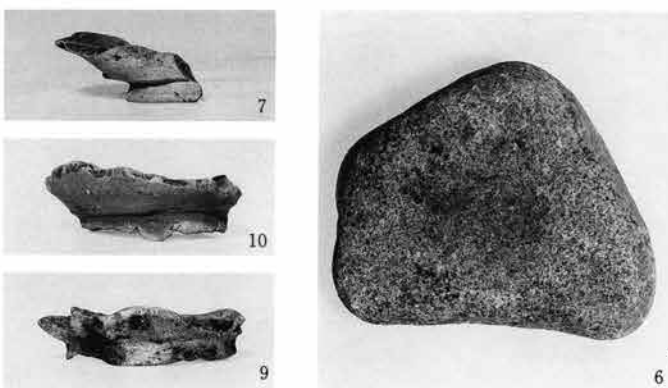
FP層下水田跡 平井地区 3・4区



As-B層下水田跡 平井地区 1区

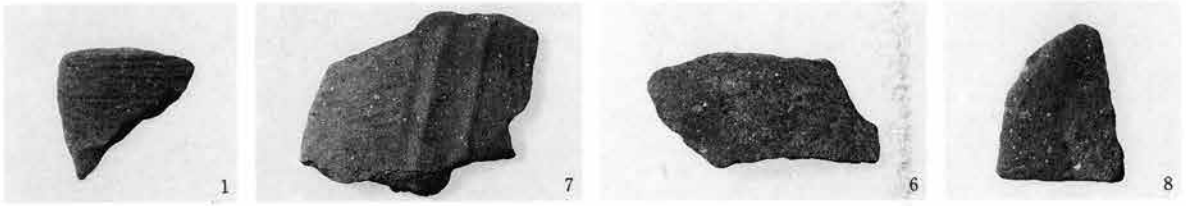


As-B層下水田跡  
平井地区 3・4区

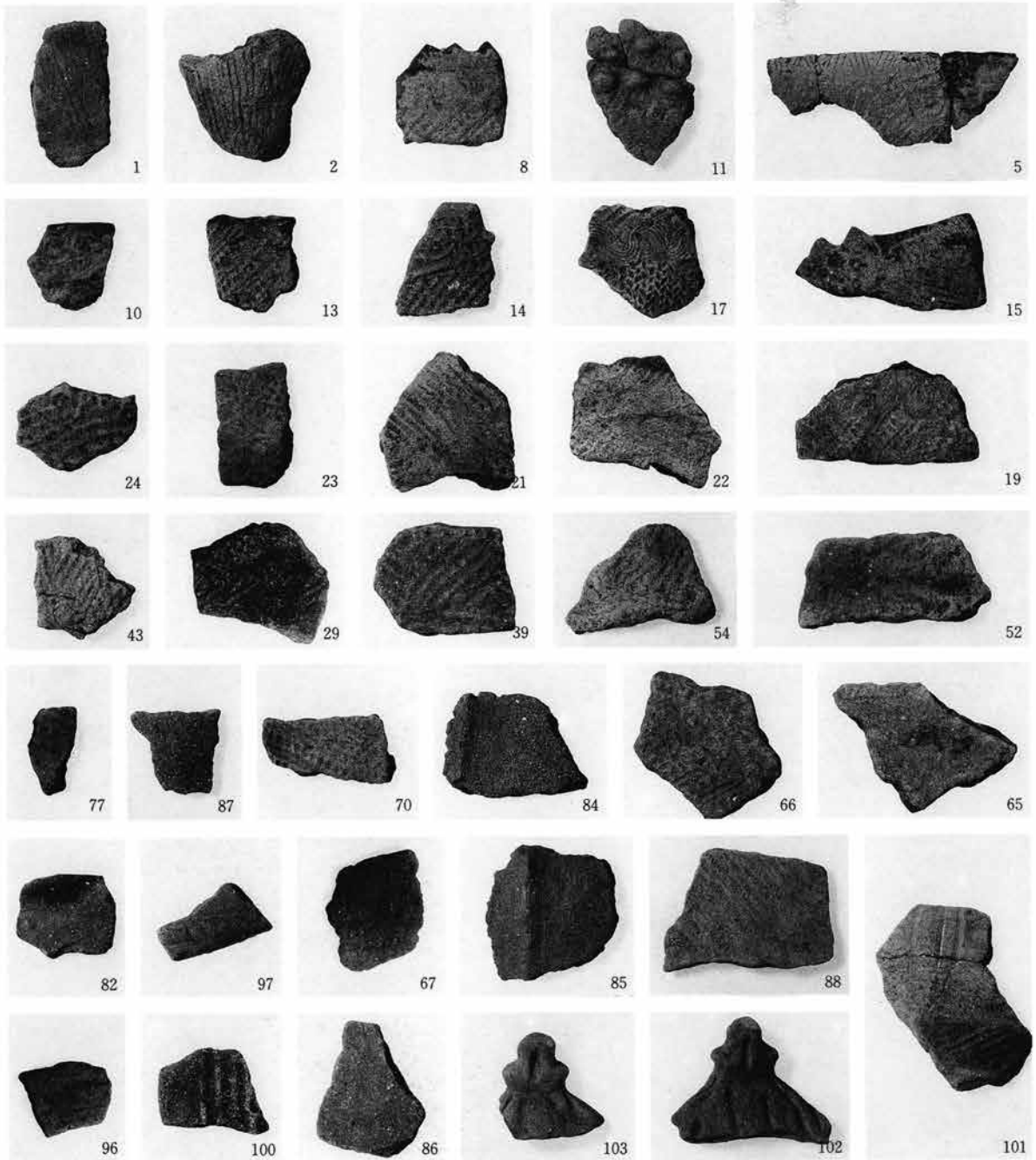


7 遺構外出土遺物

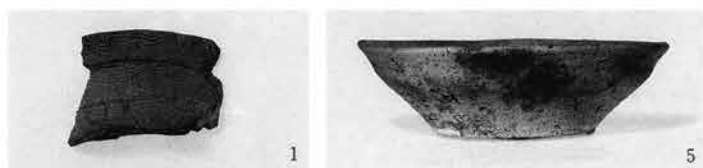
五反田地区 縄文土器



平井地区 縄文土器



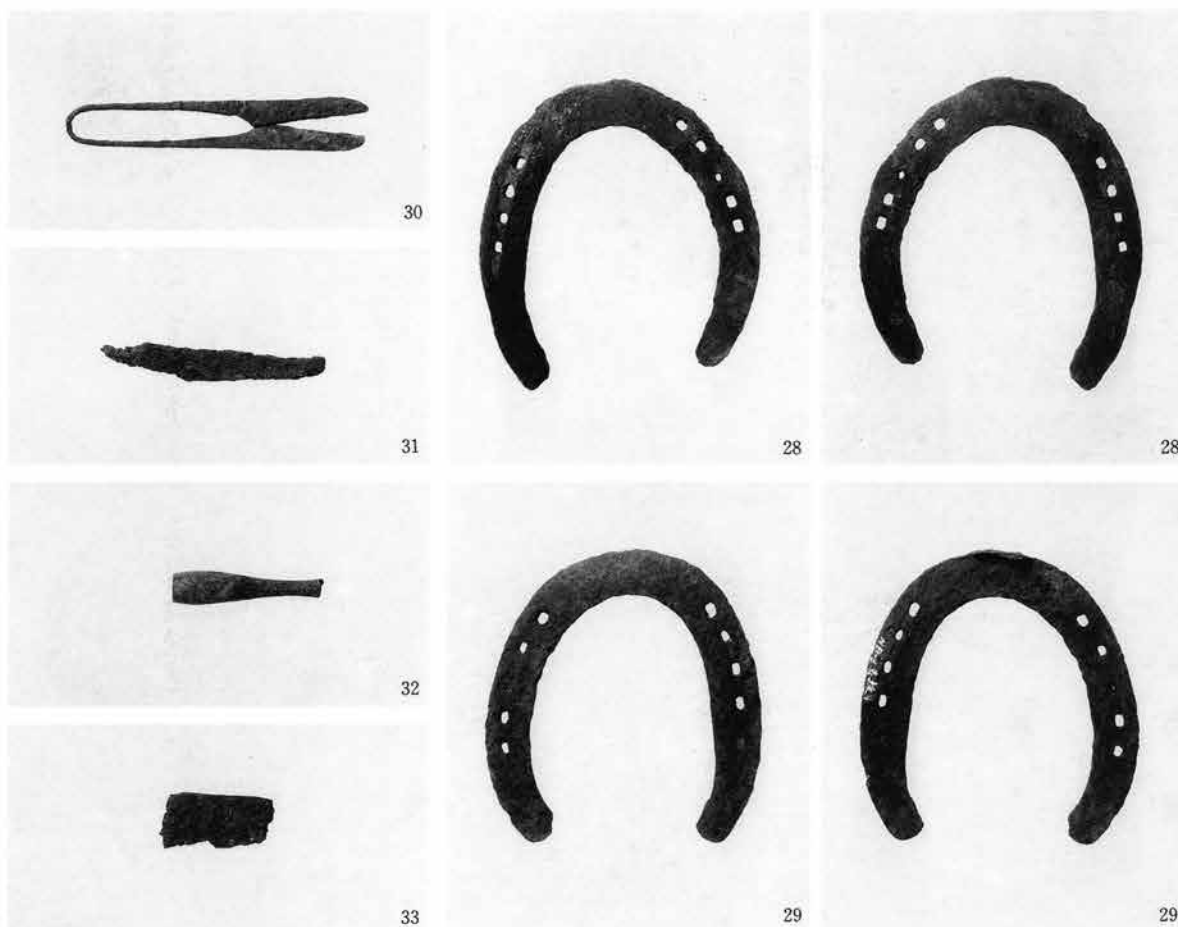
平井地区 1号谷地



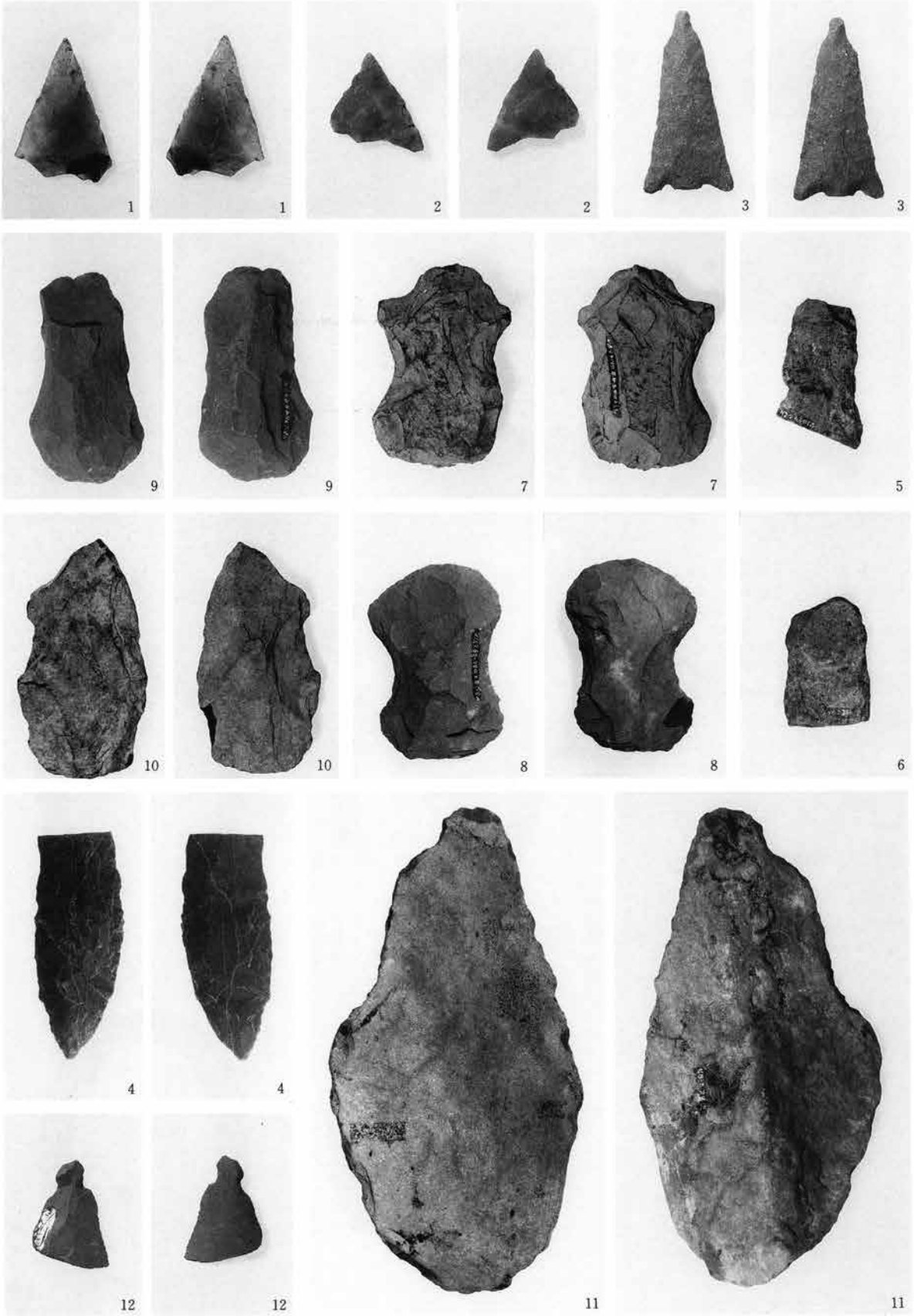
平井地区 7区 遺構外

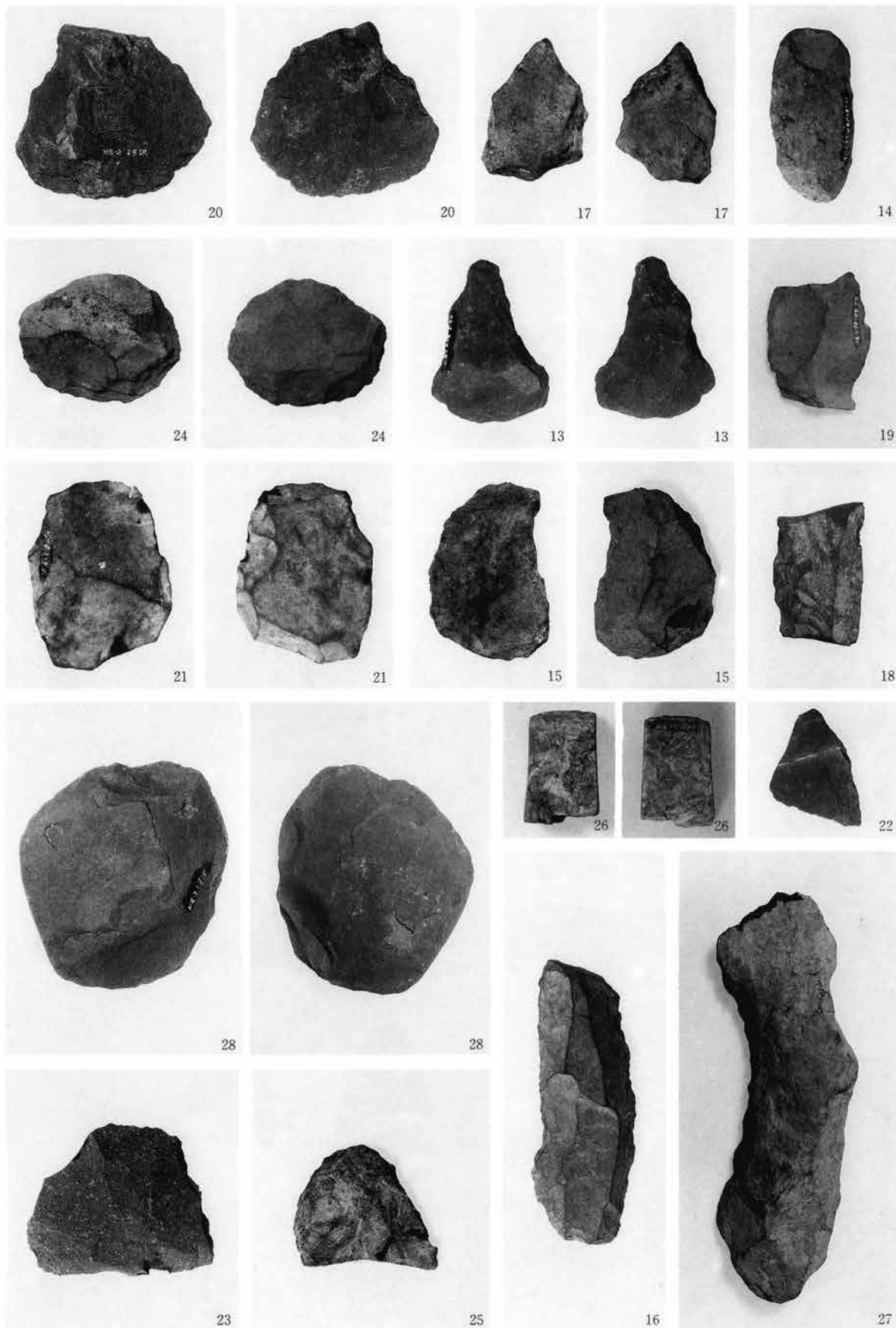


平井地区 7区 遺構外、鉄器

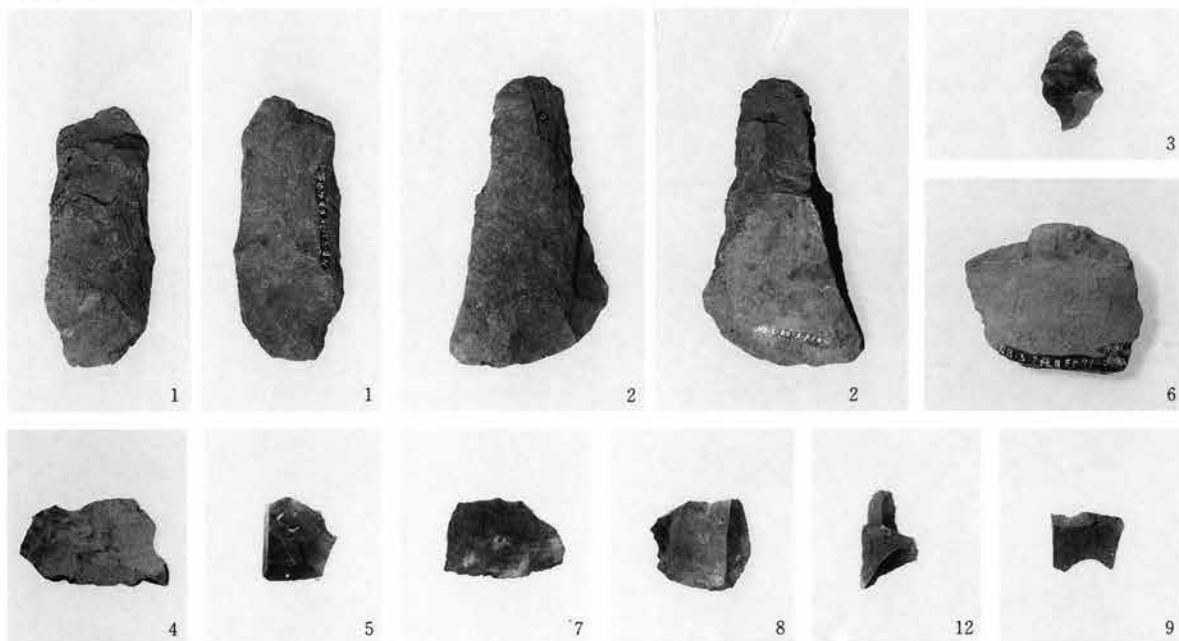


五反田地区 遺構外、石器

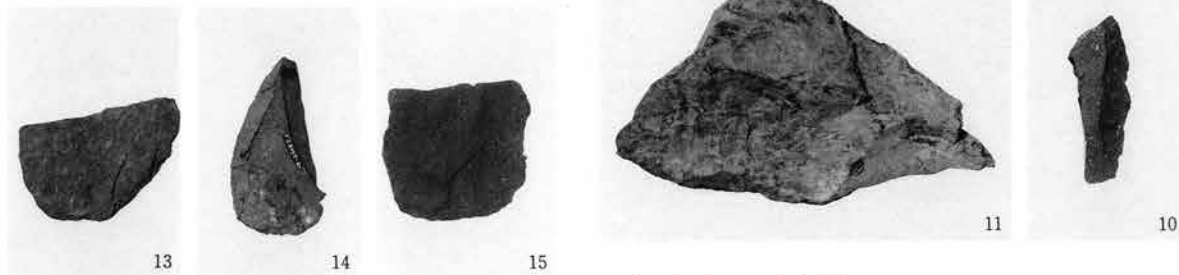




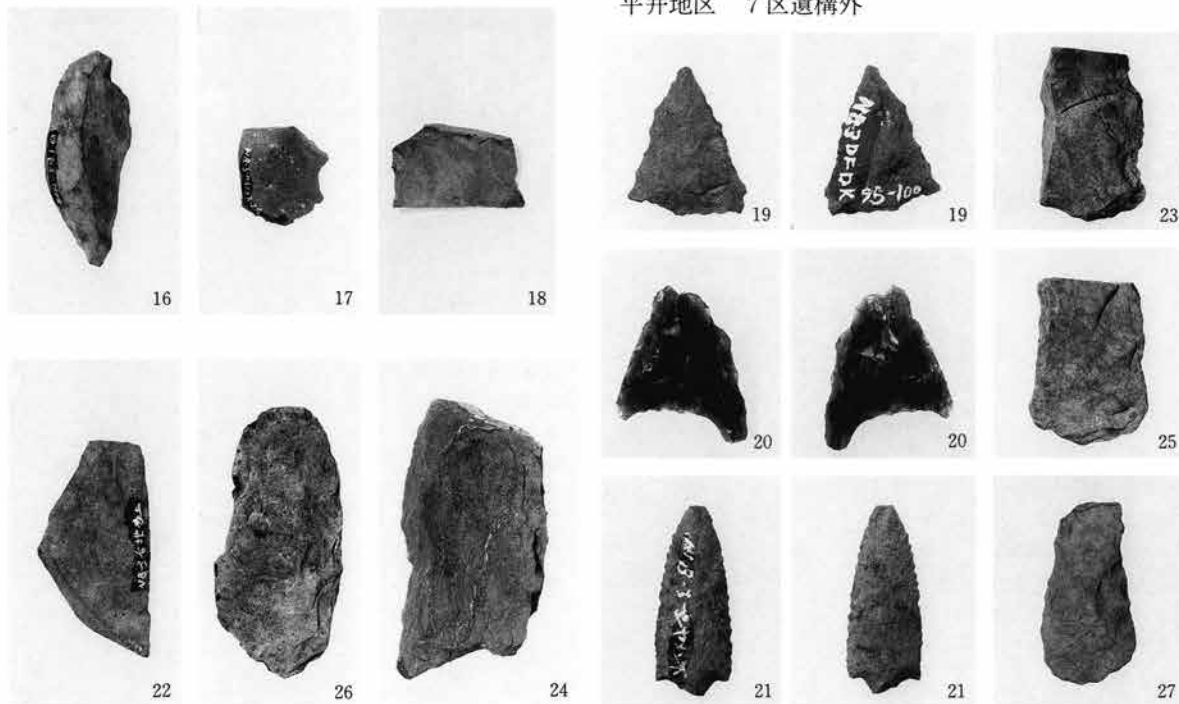
平井地区 2区遺構外

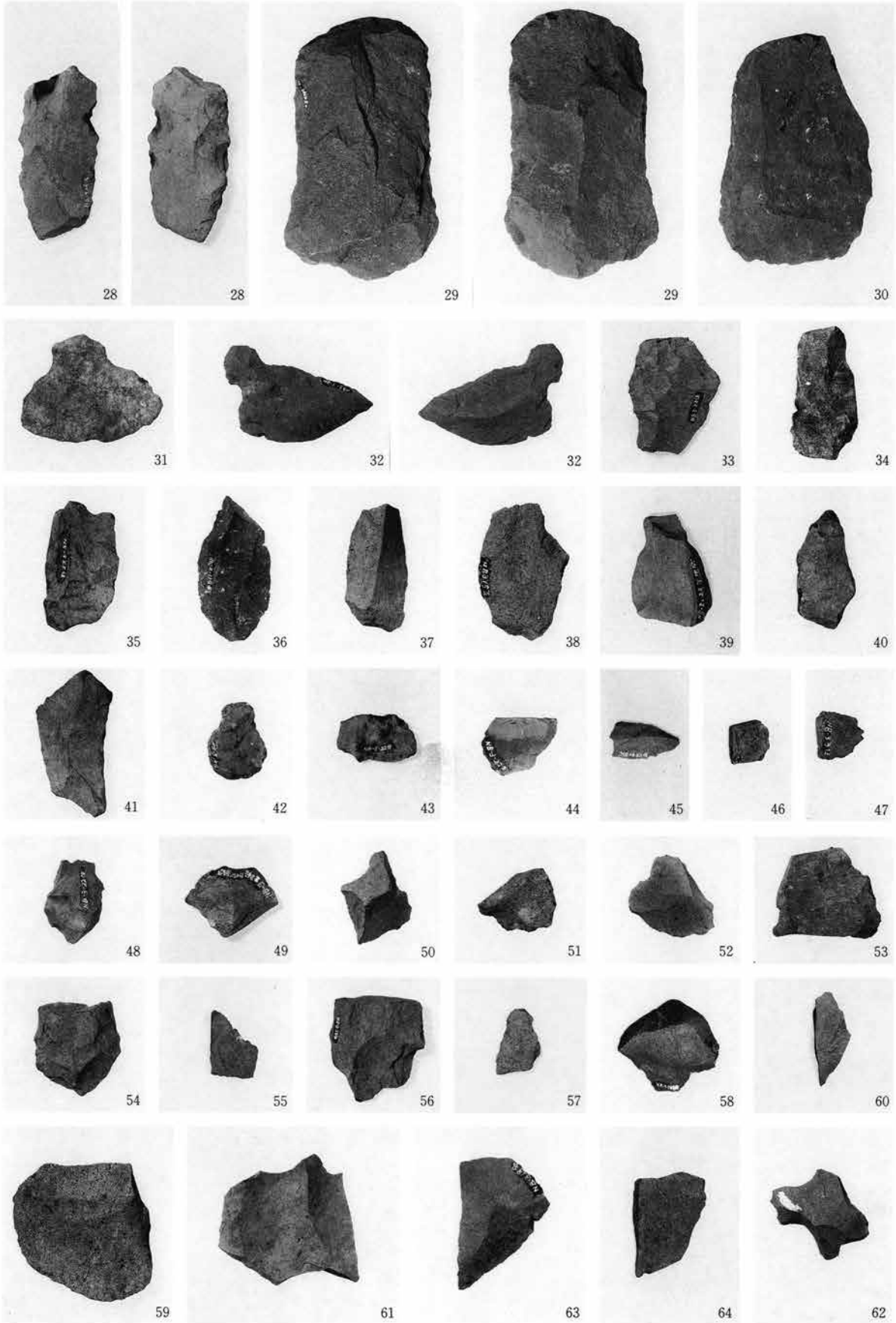


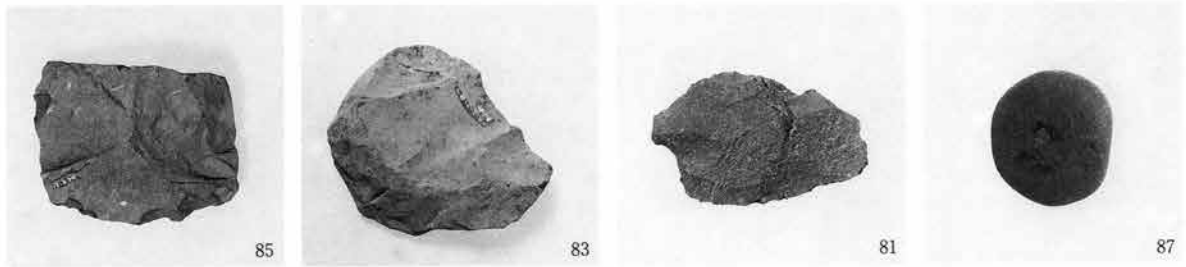
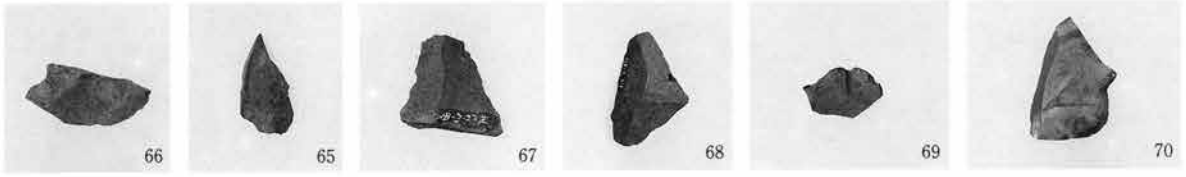
平井地区 4区遺構外



平井地区 7区遺構外









3号堀 1号馬骨



頭蓋骨左側面



頭蓋骨右側面

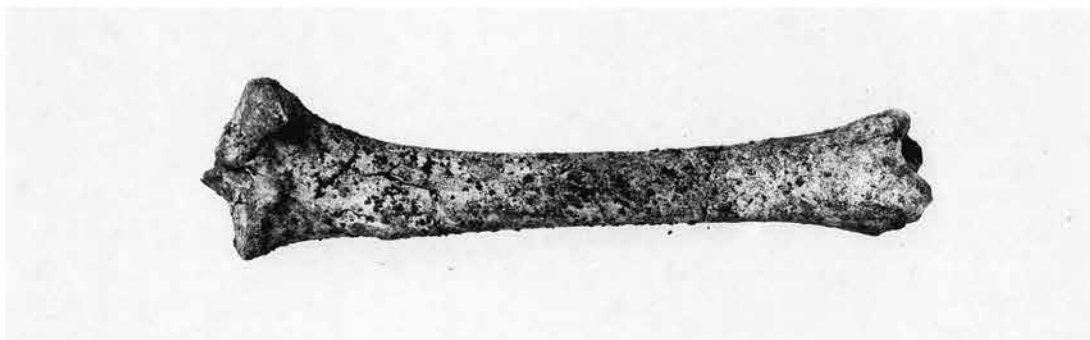
大腿骨



左脛骨



右脛骨



中足骨



中節骨



3号堀 2号馬骨



頭蓋骨左側面

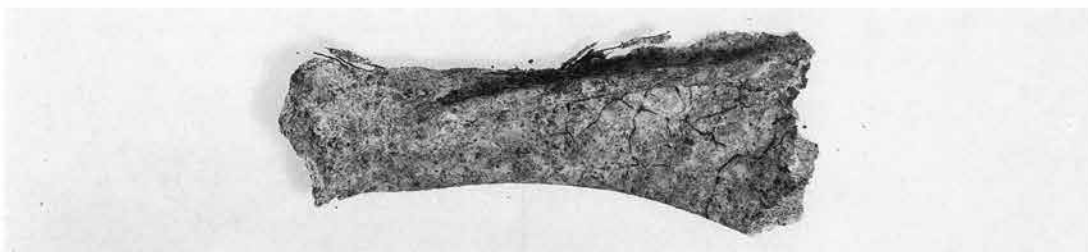


頭蓋骨右側面

頸  
椎



肩  
甲  
骨  
右  
肩  
甲  
骨



寬  
骨



左  
脛  
骨

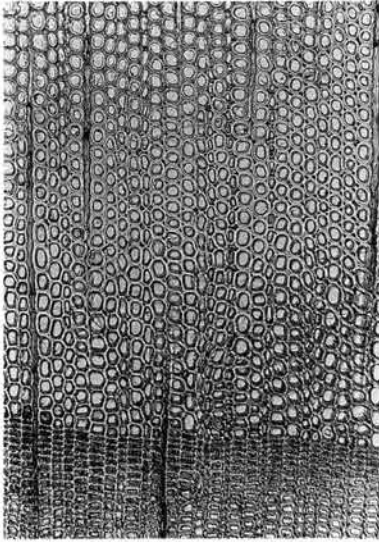


左  
脛  
骨

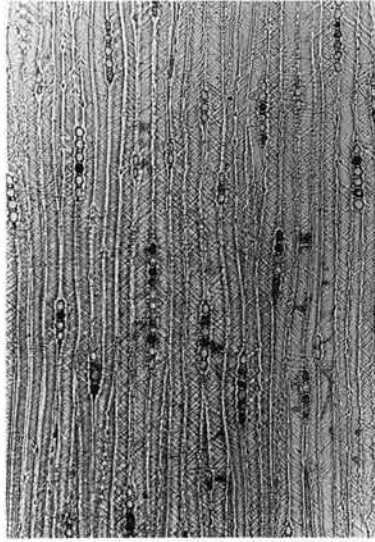


中  
足  
骨

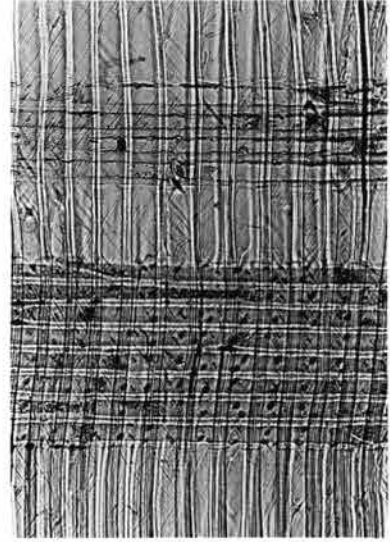




1a. イヌガヤ(横断面) bar:0.2mm



1b. 同(接線断面) bar:0.1mm



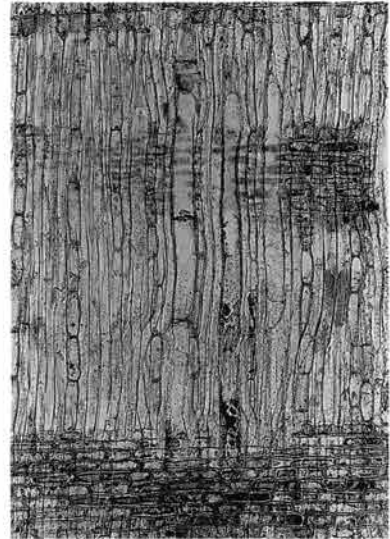
1c. 同(放射断面) bar:0.2mm



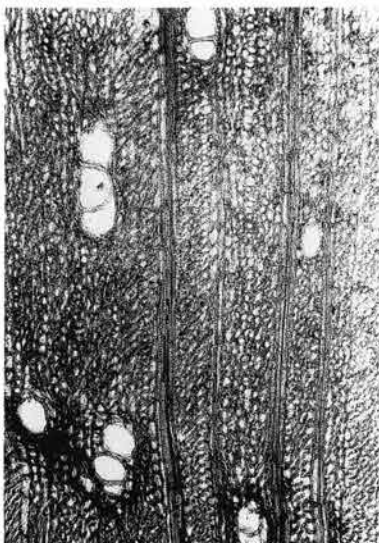
2a. コナラ節(横断面) bar:0.2mm



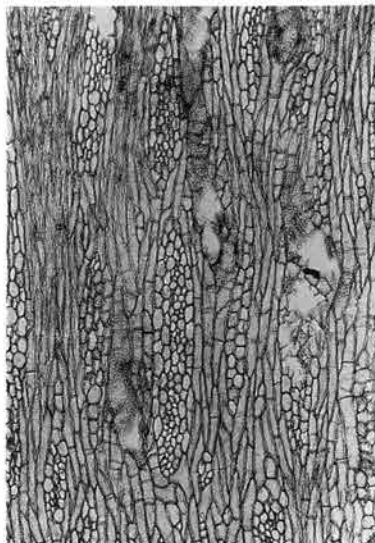
2b. 同(接線断面) bar:0.2mm



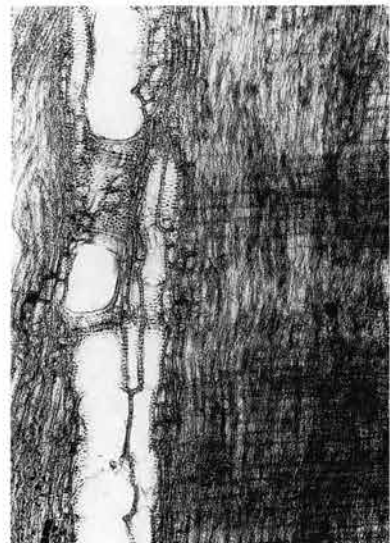
2c. 同(放射断面) bar:0.2mm



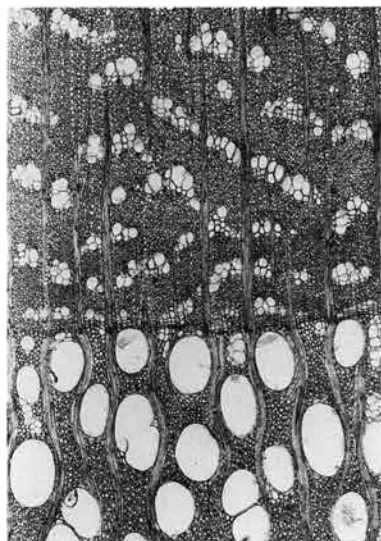
3a. ムクノキ(横断面) bar:0.2mm



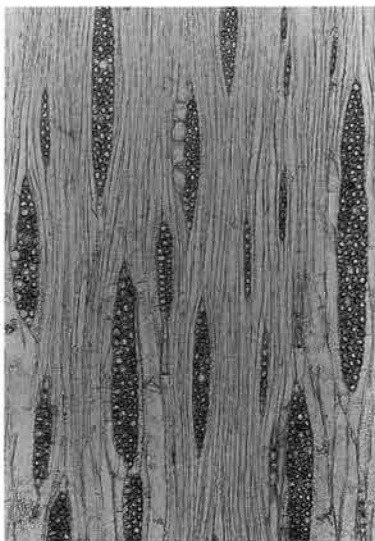
3b. 同(接線断面) bar:0.2mm



3c. 同(放射断面) bar:0.2mm



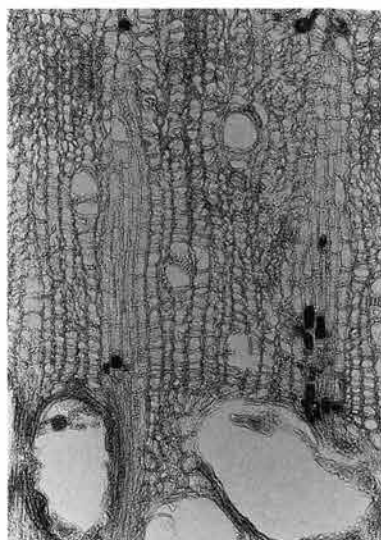
4a. ケヤキ (横断面) bar:0.5mm



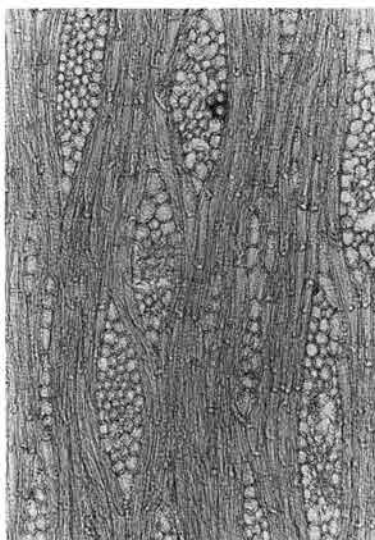
4b. 同(接線断面) bar:0.2mm



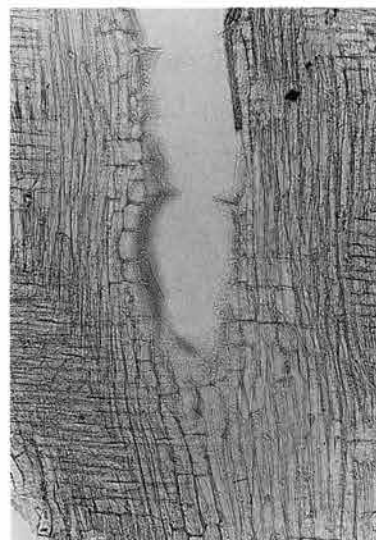
4c. 同(放射断面) bar:0.2mm



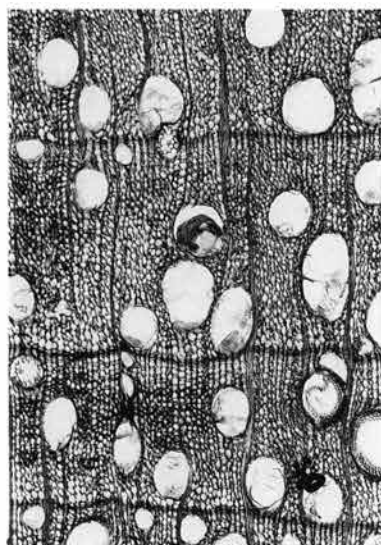
5a. ヤマグワ (横断面) bar:0.2mm



5b. 同(接線断面) bar:0.2mm



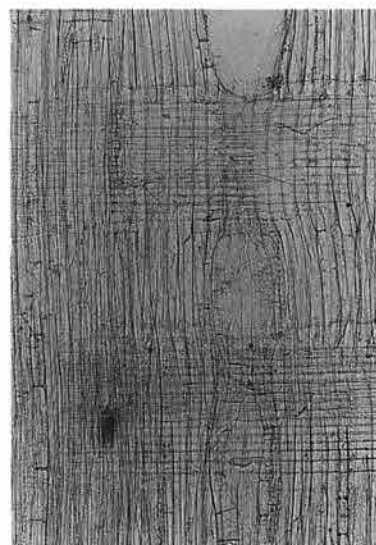
5c. 同(放射断面) bar:0.2mm



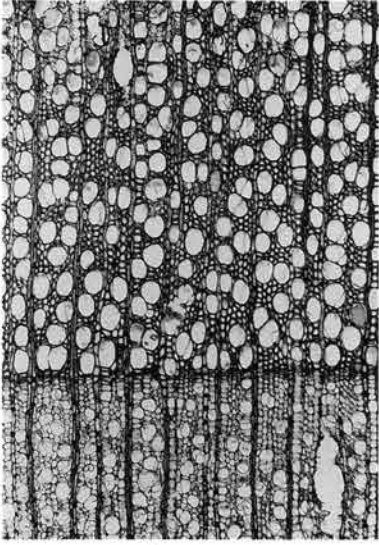
6a. モクレン属 (横断面) bar:2mm



6b. 同(接線断面) bar:0.2mm



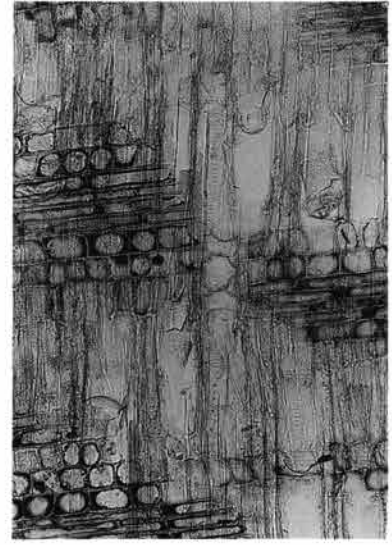
6c. 同(放射断面) bar:0.2mm



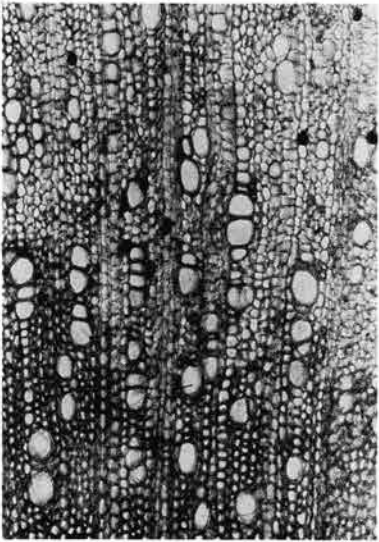
7a. カツラ属 (横断面) bar:0.5mm



7b. 同 (接線断面) bar:0.2mm



7c. 同 (放射断面) bar:0.2mm



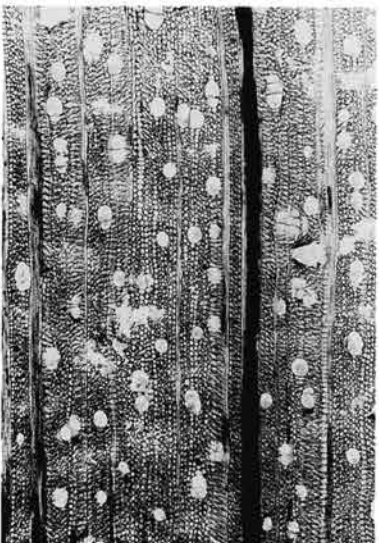
8a. ムラサキシキブ属 (横断面) bar:0.2mm



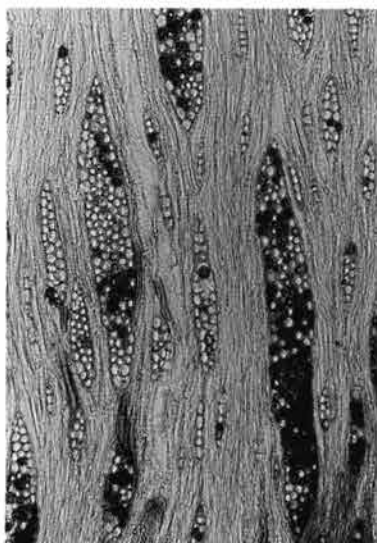
8b. 同 (接線断面) bar:0.2mm



8c. 同 (放射断面) bar:0.2mm



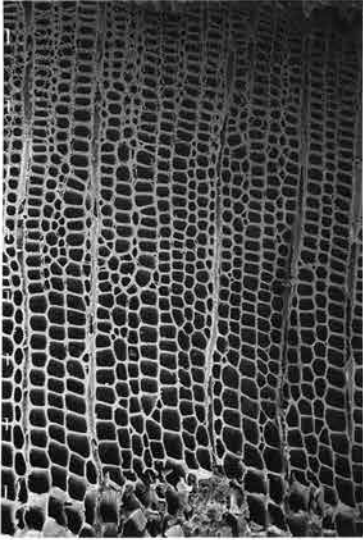
9a. カエデ属 (横断面) bar:0.2mm



9b. 同 (接線断面) bar:0.2mm



9c. 同 (放射断面) bar:0.5mm



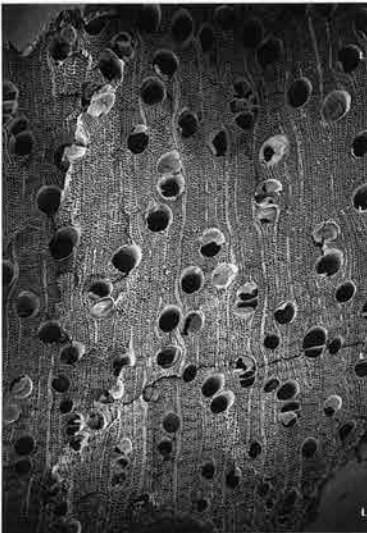
1a.モミ属(横断面)bar:0.1mm



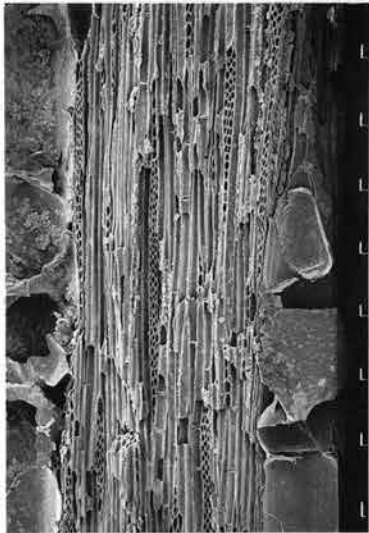
1b.同(接線断面)bar:0.1mm



1c.同(放射断面)bar:0.05mm



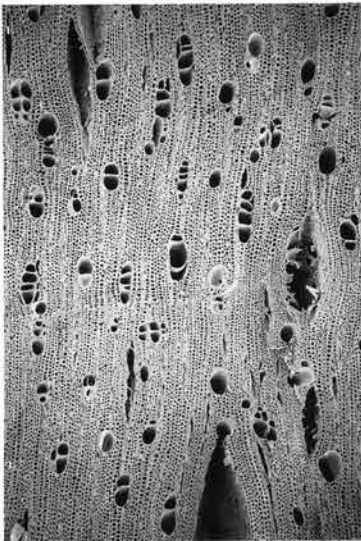
2a.オニグルミ(横断面)bar:1mm



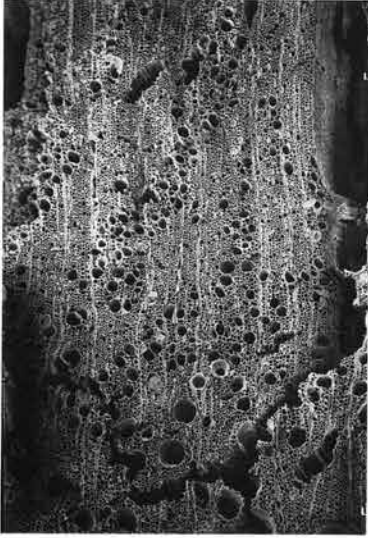
2b.同(接線断面)bar:0.1mm



2c.同(放射断面)bar:0.5mm







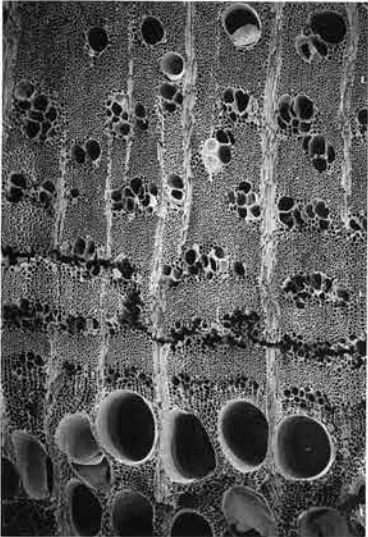
4a. クリ(横断面) bar:0.5mm



4b. 同(接線断面) bar:0.5mm



4c. 同(放射断面) bar:0.1mm



5a. ケヤキ(横断面) bar:0.5mm



5b. 同(接線断面) bar:0.1mm



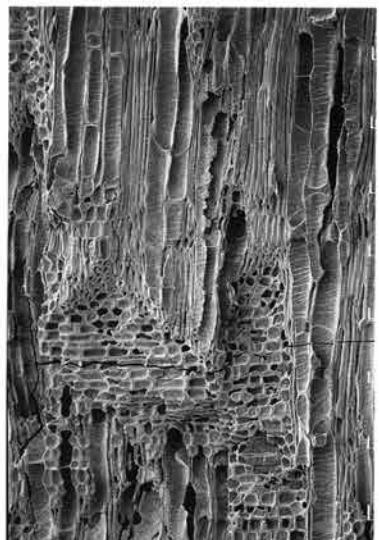
5c. 同(放射断面) bar:0.5mm



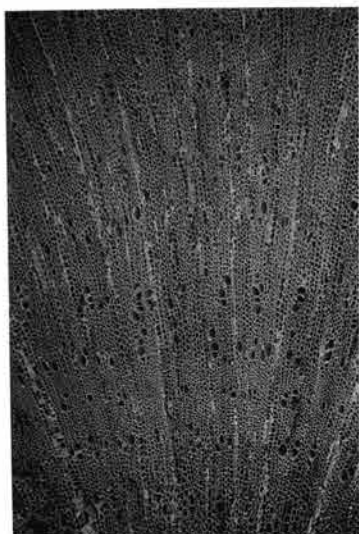
6a. サクラ(横断面) bar:1mm



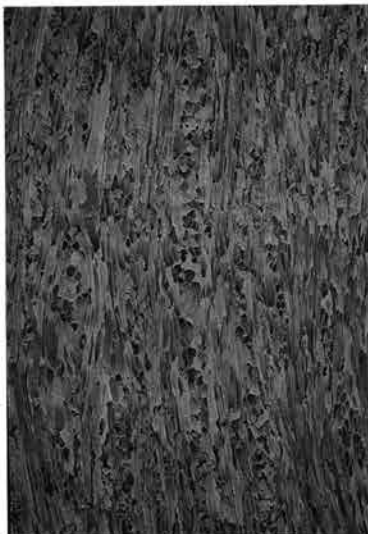
6b. 同(接線断面) bar:0.2mm



6c. 同(放射断面) bar:0.1mm



7a. 散孔材(横断面) bar:0.5mm

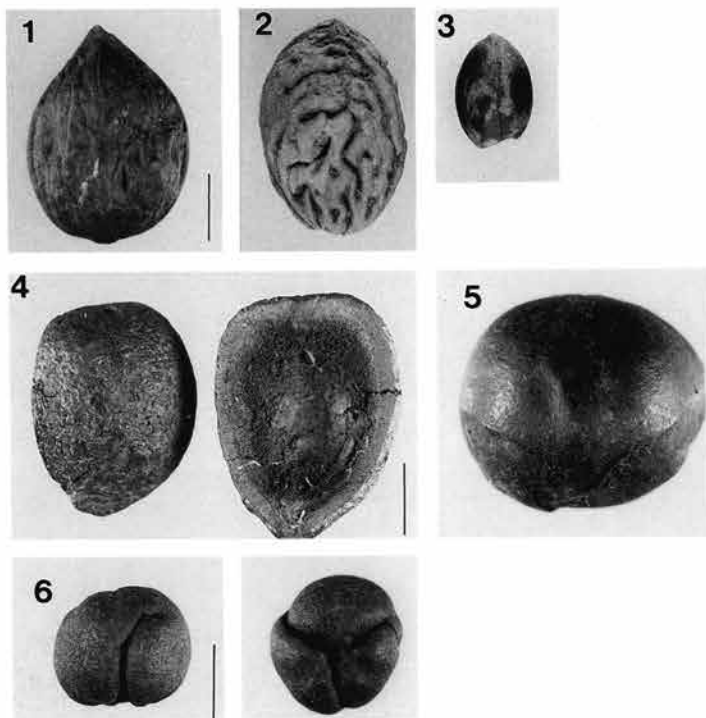


7b. 同(接線断面) bar:0.2mm

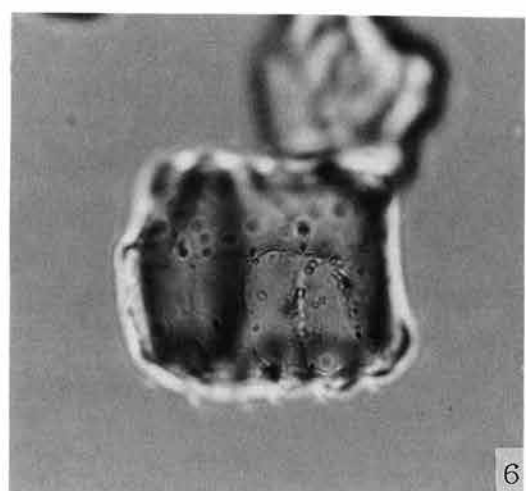
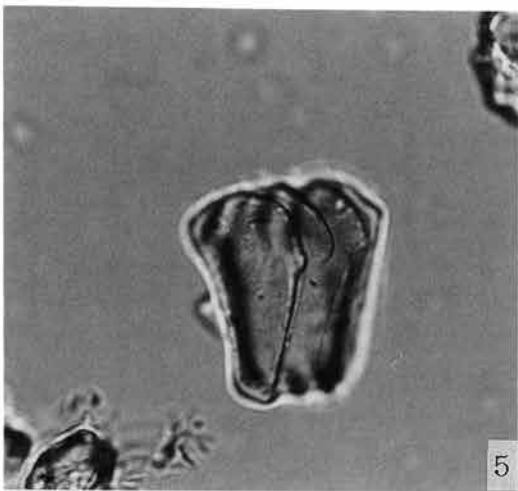
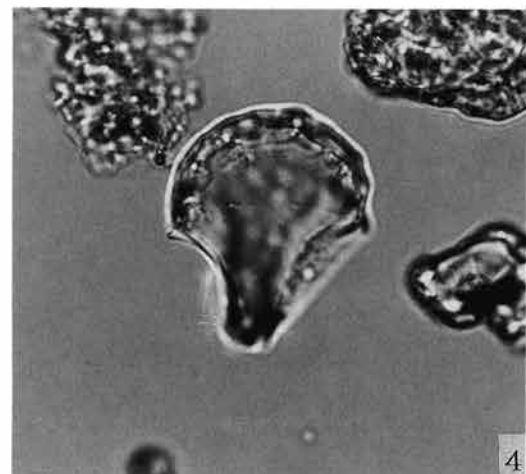
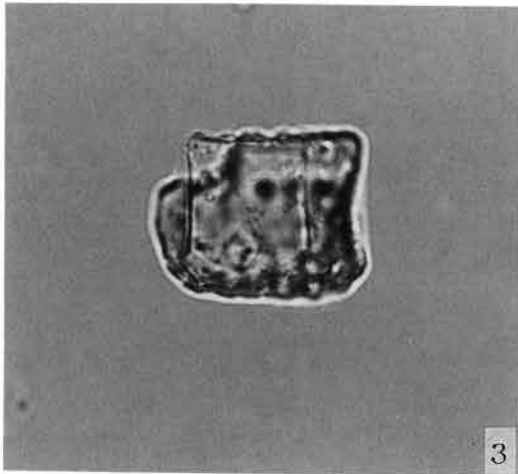
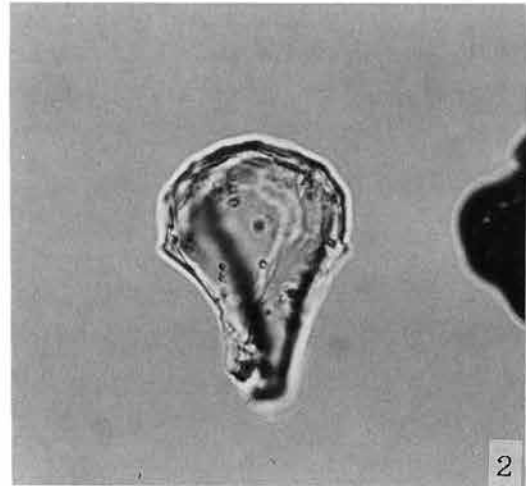


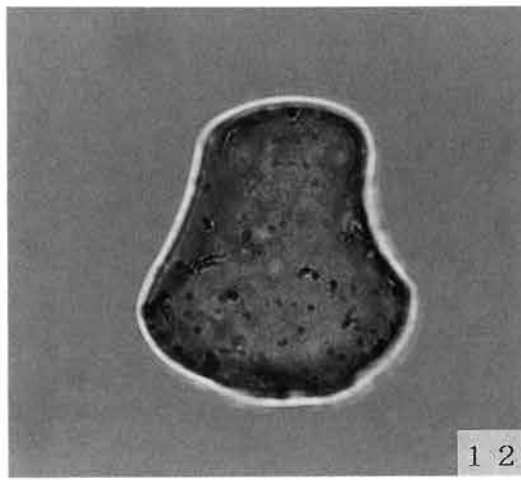
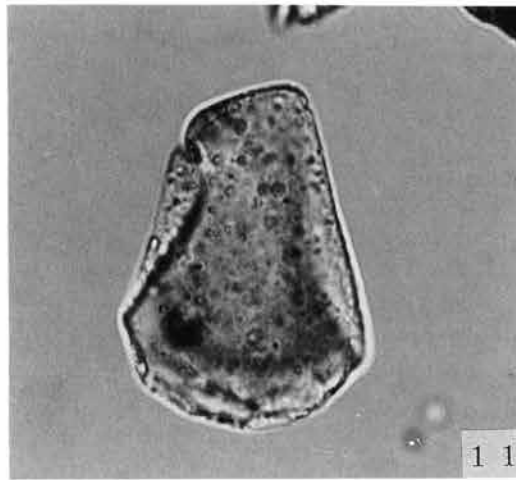
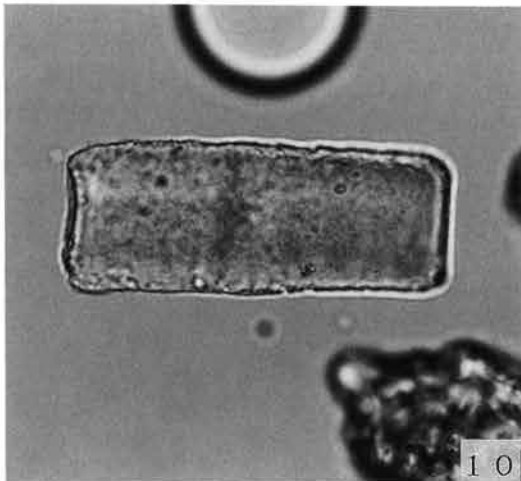
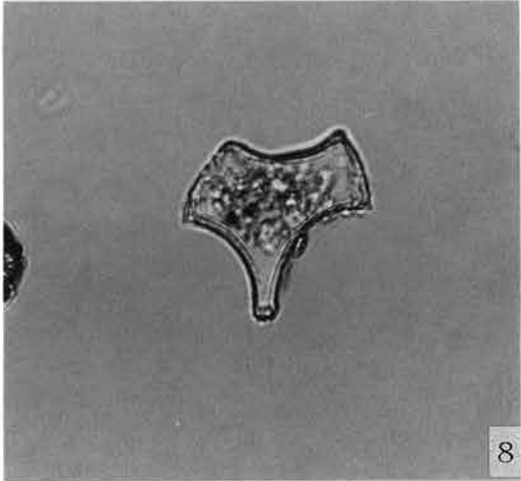
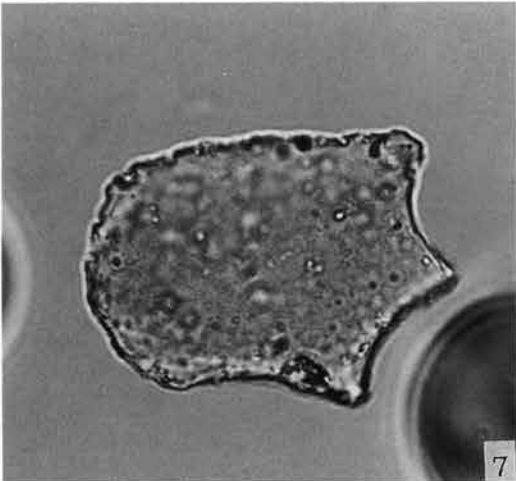
7c. 同(放射断面) bar:0.5mm

写真図版 下川田平井遺跡出土の種実類 スケールは1 cm



1. オニグルミ、核、半分 2. モモ、核、完形 3. ハクウンボク、内果皮、完形 4. トチノキ、果実、3分の1の破片、外側と内側 5. トチノキ、種子、完形 6. トチノキ、幼果、側面と下から見たところ





(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第147集

**下川田下原遺跡**  
**下川田平井遺跡**

一般国道17号(沼田バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1993年3月16日 印刷

1993年3月26日 発行

編集／財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会

群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／株式会社 前橋印刷所